

村前東A遺跡

一般国道52号改築工事及び中部横断自動車道建設にともなう

— 埋蔵文化財発掘調査報告書 —

1999. 3

山梨県教育委員会
建設省甲府工事事務所
日本道路公団東京建設局

村前東A遺跡

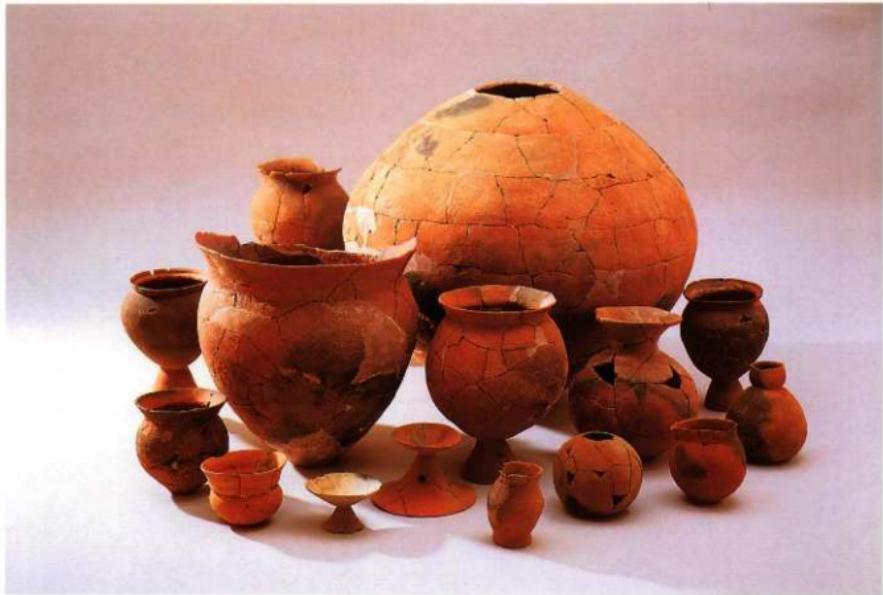
一般国道52号改築工事及び中部横断自動車道建設にともなう

— 埋蔵文化財発掘調査報告書 —

1999. 3

山梨県教育委員会
建設省甲府工事事務所
日本道路公団東京建設局





古墳時代出土遺物

序

村前東A遺跡は、山梨県中巨摩郡柳形町と若草町との境界に広がる遺跡で、甲府盆地西部の御動使川扇状地の扇端部に位置しております。

本遺跡は、一般国道52号（甲西バイパス）及び中部横断自動車道建設工事に伴い、平成2年度から平成8年度までに5次にわたる調査を実施しました。その結果弥生・古墳・平安・中世以降の文化層4面が明らかにされております。

このうち、古墳時代では前期に比定される遺構・遺物が検出されました。その質・量とともに他の時代のそれを圧倒し、本遺跡の主体となるものであります。142軒を数える住居址は、本遺跡が甲府盆地西部地域における該期の拠点集落であることを示し、多量に出土した甕・壺・高杯・器台など当時の人々が使用した日常品は、山梨県の古墳出現期の生活様式を追求するうえで、今後欠くことのできない資料となりましょう。平安時代では64軒の住居址が検出され、古墳時代に次ぐ規模の集落が確認されました。出土遺物も充実しており、該期の地域性がより明らかとなる資料であります。また、弥生時代の水田状遺構や、中世以降とされる畝状遺構など、生産に関わる遺構も検出され、各時代で変化する本遺跡の土地利用の状況は、当時の社会的背景や環境を考える上で重要な資料を提供したことになります。

この報告書が、多くの方々の研究及び地域学習の一助になれば幸甚です。末筆ながら、種々のご指導、ご協力を賜った関係各位、並びに直接調査に参加いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

1999年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所長 大塚 初重

例 言

1. 本報告書は、山梨県中巨摩郡檍形町十五所から同郡若草町十日市場にかけて所在する村前東A遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、一般国道52号（甲西バイパス）および中部横断自動車道建設に伴う事前調査であり、山梨県教育委員会が建設省・日本道路公団より委託を受け、山梨県埋蔵文化財センターが調査を実施したものである。
3. 本書の編集は三田村美彦が行った。執筆は第6章を山梨県教育委員会学術文化財課中山誠二が、第1～5章を三田村が行った。よって、4・5章で報告する遺構・遺物は1993年（平成5年度）以降の調査で検出されたものである。第7章自然科学分析は1～7節を株式会社パレオ・ラボに、8節を帝京大学山梨文化財研究所に委託した。
4. 発掘調査における航空写真測量は（株）シン・技術コンサルに委託した。遺物写真の一部は日本写真家協会会員、塙原明生氏に撮影依頼した。
5. 本報告書にかかる記録図面、写真、出土遺物等は山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
6. 発掘調査や整理作業にあたっては以下の諸氏、諸機関の御教示・御協力を賜った。記して謝意を表する。（順不同・所属・敬称略）
赤塚次郎、河西 学、橋原功一、斎藤英敏、坂口 一、清水 博（故人）、須田貞崇、外山秀一、高橋 学、高橋一夫、田中大輔、水野正好、檍形町教育委員会、若草町教育委員会
7. 概報等、既刊の刊行物と記述の相違がある場合、本書をもって最終とする。

凡 例

1. 遺構・遺物図面の縮尺は次のとおりである。
[遺構] 住居址1/80、焼土址・住居址内の炉・竈・土坑1/40、その他の遺構および、全体図は適宜挿図中に示した。
[遺物] 弥生・古墳・平安時代土器完形および復元実測1/4、弥生・古墳・平安時代土器断面実測、石器・中世以降の陶器・磁器1/3、金属製品1/2。
2. 遺構挿図中に用いたスクリーントーンは■が焼土、■が炭化物、■が炭化材を示す。また、遺物のドットは●が土器、■は石器、▲は金属製品を示し、番号は遺物挿図の番号と対応している。遺物図版の番号も遺物挿図の番号と対応している。
3. 遺構挿図中のピット内やその周辺に記載されたマイナスの数字は、ピットの確認面あるいは床面からの深度（単位はcm）を示す。
4. 遺構断面図中のレベルポイント部分にある数字は標高を示す（単位はm）。
5. 土層註記では農林水産省農林水産技術会議事務局監修（財）日本色彩研究所色票監修『新版 標準土色帳（1990）』に準拠した。
6. 遺物挿図中、古墳時代土師器の内外面のドットのスクリーントーンは赤彩を示す。平安時代の土器は断面が黒く塗りつぶしてあるものは須恵器、ドットのスクリーントーンは灰釉陶器を示す。器体部内面のドットのスクリーントーンは黒色処理範囲を示し、他のスクリーントーンは煤等の付着を示す。

目 次

序

凡例

例言

第1章 調査の経緯と概要	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の概要	1
第2章 地理的環境	5
第1節 遺跡の立地	5
第2節 周辺の遺跡	6
第3節 遺跡の層序	8
第3章 遺跡の概要	10
第4章 各時代の遺構	13
第1節 弥生時代	13
第2節 古墳時代	14
第3節 平安時代	47
第4節 中世以降	63
第5章 出土遺物とその観察	177
第1節 弥生時代	177
第2節 古墳時代	177
第3節 平安時代	207
第4節 中世以降	219
第6章 1990年度調査報告	303
第1節 調査の概要	303
第2節 古墳時代	303
第3節 平安時代	306
第4節 近世以降	307
第7章 自然科学分析	325
第1節 村前東A遺跡I・II区のプラントオバール	325
第2節 村前東A遺跡III・IV区のプラントオバール	336
第3節 村前東A遺跡I・II区出土の炭化種実	340
第4節 村前東A遺跡II区の植物遺体分析	344
第5節 村前東A遺跡II b・III区より出土した炭化種実	347
第6節 村前東A遺跡におけるテフラの検出	348
第7節 硅藻分析	353
第8節 村前東A遺跡出土土師器の胎土分析	358

第1章 調査の経緯と概要

第1節 調査に至る経緯

本遺跡の立地する甲府盆地西端の釜無川右岸地域では、建設省が行う国道52号のバイパスと日本道路公团が行う中部横断自動車道の建設が計画された。このことから、山梨県教育委員会と建設省甲府工事事務所との間で、計画地内の埋蔵文化財について協議を行った。その結果、平成元年度(1989)から第1期工事区間である南巨摩郡増穂町大門～中巨摩郡白根町在家塚の約8kmに及ぶ工事区域内の遺跡確認調査が山梨県埋蔵文化財センターにより実施され、本遺跡を含む、10箇所の遺跡が確認された。

本遺跡は平成2年(1990)の試掘調査で遺跡の範囲がほぼ確定し、古墳・平安時代を中心とする集落跡の存在が予測され、同年から平成8年(1996)までに計5次に渡る本調査が実施された。報告書作成に伴う本格的な整理作業は平成9・10年度に行った。

第2節 発掘調査の概要

(1) 発掘調査の経過

第1次調査は、道路計画地内の畠地灌漑用パイプ移設工事に先立ち行われ、古墳・平安時代の文化層が確認され、各期の遺構・遺物が検出された。調査期間は平成2年(1990)11月19日～平成3年(1991)2月15日である。

第2次調査は、未買収地を除く道路建設予定地内を東西に走る町道10号線を境に、南側をI区(第11図)北側をII区(第18図)として行われた。その結果、古墳・平安・中世以降の文化層、計3面が確認され、各期の遺構・遺物が検出された。調査期間は平成5年(1993)4月12日～12月27日である。

第3次調査は、道路建設予定地内の未買収地であったI b区(第11図)・II b区(第18図)および、町道10号線南側の中部横断自動車道インターチェンジ(以下ICと呼称する。)建設予定地のうち、北半をIII区、南半をIV区として行われた。その結果、弥生・古墳・平安・中世以降の計4面にわたる文化層が確認され、各期の遺構・遺物が検出された。今次の調査ではI b・II b区および、IC建設予定地における、中世以降の調査は完了したが、弥生・古墳・平安時代では未調査箇所が残り、翌年度以降継続調査となる。よって、各時代で調査の進捗状況が異なり、調査区もその境界が変化している(弥生・古墳時代第22図、平安時代第88図、中世以降第107図)。調査期間は平成6年(1994)4月13日～12月26日である。

第4次調査は、町道10号線南側の中部横断自動車道IC建設予定地のうち、第3次調査で未了となった箇所をIVa区として行った。文化層は3次調査と同様4面にわたり、今次の調査では平安時代の調査が完了した。しかし、弥生・古墳時代では未調査箇所が残り、翌年度継続調査となる。よって第3次調査同様、各時代で調査区の境界が異なる(弥生・古墳時代第33図、平安時代第88図)。調査期間は平成7年(1995)4月10日～12月26日である。

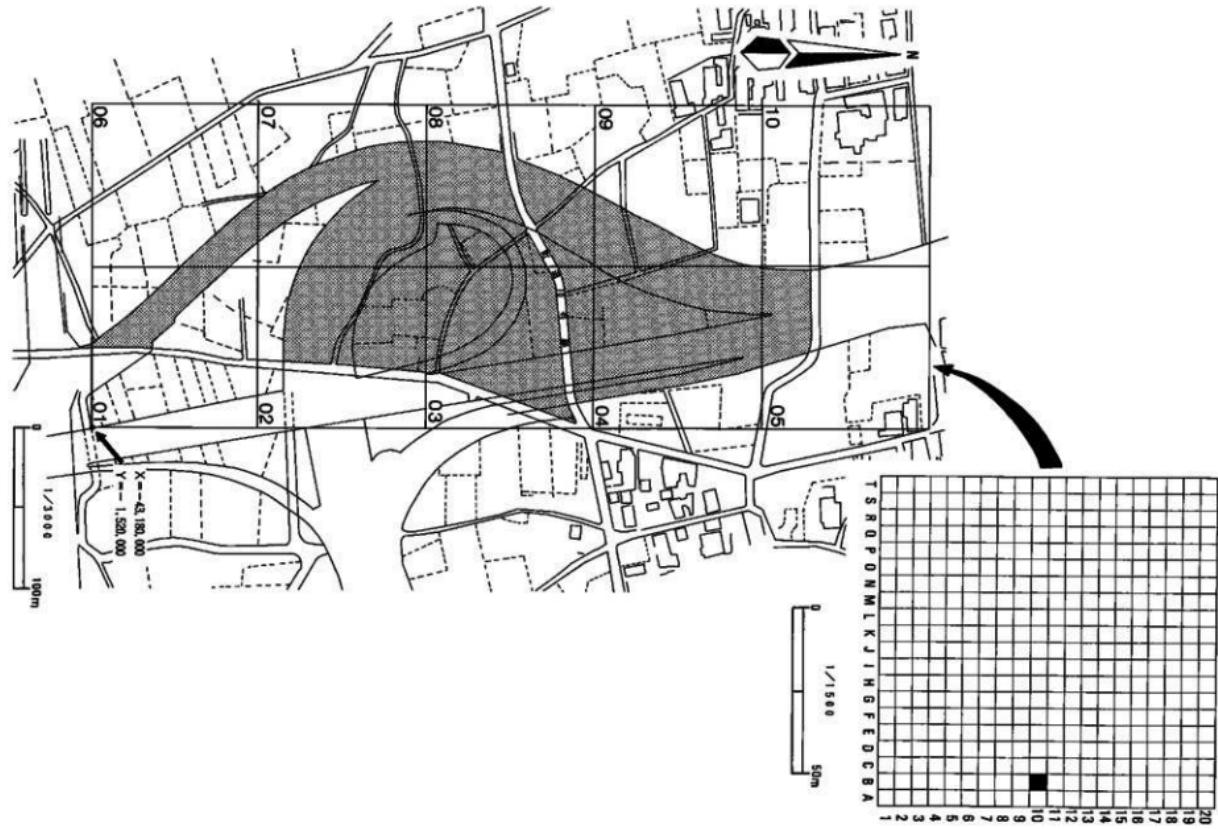
第5次調査は、町道10号線南側の中部横断自動車道IC建設予定地のうち、第4次調査で未了となった箇所をIVa区として、町道10号線北側の中部横断自動車道IC建設予定地を、V区(第72図)として行なった。V区においても弥生・古墳・平安・中世以降の計4面の文化層が確認され各期の遺構・遺物が検出されたが、調査は順調に進み、今次の調査で予定範囲の発掘は全て終了した。調査期間は平成8年(1996)4月15日～12月26日である。

(2) 調査区の設定(第1図)

調査区は調査地域(スクリーントーン部)の範囲を考慮し、南北500m、東西200mの範囲を一辺100mの方眼に区切り、01区から10区の大グリッドを設定した。さらに、大グリッド内部を東西、南北に20分割し、一辺5

第1図 避防調査範囲及びグリッド配置図

— 2 —



mの小グリッドとした。小グリッド名は東西方向にローマ字のA～T、南北方向に数字の1～20の番号を与え表すこととした。グリッドの名称は、01の大グリッド南東コーナーを起点とし、頭2桁を大グリッド名、下3桁が小グリッド名を表すものとする。小グリッドは、東から西へ向かってA→T、南から北に向かって1→20とする。したがって、05B-10（■部）は大グリッド05区の南東起点から西へ2番目、北へ10番目の小グリッドを示す。

なお、大グリッドの起点は、国土座標系のX=-43,180,000・Y=-1,520,000に位置している。また、北位はグリッドの南北ラインが真北を表し、磁北からは6度東方向にずれる。

(3) 調査組織

平成2年度調査

調査主体 山梨県教育委員会
調査機関 山梨県埋蔵文化財センター
調査担当者 中山誠二（山梨県埋蔵文化財センター・文化財主事）
丸山哲也（山梨県埋蔵文化財センター・文化財主事）

平成5年度調査

調査主体 山梨県教育委員会
調査機関 山梨県埋蔵文化財センター
調査担当者 I区 中山誠二（山梨県埋蔵文化財センター・主任・文化財主事）
小林公治（山梨県埋蔵文化財センター・文化財主事）

II区 三田村美彦（山梨県埋蔵文化財センター・文化財主事）
佐野和規（山梨県埋蔵文化財センター・文化財主事）

平成6年度調査

調査主体 山梨県教育委員会
調査機関 山梨県埋蔵文化財センター
調査担当者 I b・III区 中山誠二（山梨県埋蔵文化財センター・主任・文化財主事）
小林公治（山梨県埋蔵文化財センター・文化財主事）

II b・IV区 三田村美彦（山梨県埋蔵文化財センター・文化財主事）
佐野和規（山梨県埋蔵文化財センター・文化財主事）

平成7年度調査

調査主体 山梨県教育委員会
調査機関 山梨県埋蔵文化財センター
調査担当者 IV a区 佐野和規（山梨県埋蔵文化財センター・主任・文化財主事）
三田村美彦（山梨県埋蔵文化財センター・文化財主事）

平成8年度調査

調査主体 山梨県教育委員会
調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

調査担当者 IV a 区 三田村美彦（山梨県埋蔵文化財センター・主任・文化財主事）
雨宮信仁（山梨県埋蔵文化財センター・非常勤嘱託）

V 区 清水裕司（山梨県埋蔵文化財センター・主任・文化財主事）
石神孝子（山梨県埋蔵文化財センター・文化財主事）

調査員 阿部煦

発掘作業員

秋山悦子、秋山昭二、秋山長平、秋山みずあ、秋山よし子、芦沢留一、芦沢ひろ江、芦沢八千子、芦沢よし子、雨宮朝子、有泉武士、飯室菊美、石井闇造、石川茂子、石川房男、井上九二雄、井上ことじ、井上静、井上時雄、井上文一、井上正子、一瀬一浩、上田重喜、内田修一、鰐池定一、大木和雄、大木和美、大木つね子、大久保洋一、大森朝市、大森ユキエ、大森玲子、小沢一枝、小田切千麻、小野嘉雄、小野篠子、垣内律子、河西武子、河住照雄、河住ふさ子、神田久美子、小池和豊、河野トク、河野義一、小林将子、駒井健一郎、近藤舞、齊藤いつ子、齊藤千夏子、佐久間篤子、桜林豊、佐塚金作、佐塚トヨ、佐藤眞佐美、鮫田進、鮫田博重、沢登タツエ、沢登きぬ子、志鎌紀子、清水友美子、白川綾、杉田彰夫、杉田茂一郎、鈴木みづ子、瀬戸明香、仙洞田しづえ、立川なつじ、田中新吾、千野ふみよ、千野良男、土井みさほ、戸沢江美子、内藤孝子、内藤春江、中川美千子、中村満佐子、名取消子、新津多恵、野中つね子、浜辺きみ子、原田佳代、原田佳子、樋口京子、樋口しげ子、樋口久子、平出恭代、深沢照明、深沢朋次郎、深沢初枝、深沢はる、深沢三千雄、深沢貢、古郡フミ子、保坂静夫、保坂よし、保坂よ志美、堀内婦志江、松井俊夫、村松義仁、望月厚子、望月いよ子、望月里子、望月忠、望月利雄、望月とめ子、望月裕子、八木勝枝、安原敏夫、山本文子、依田幸浩、依田成美、若菜永子、若林初美、渡辺洋子、渡部さつみ

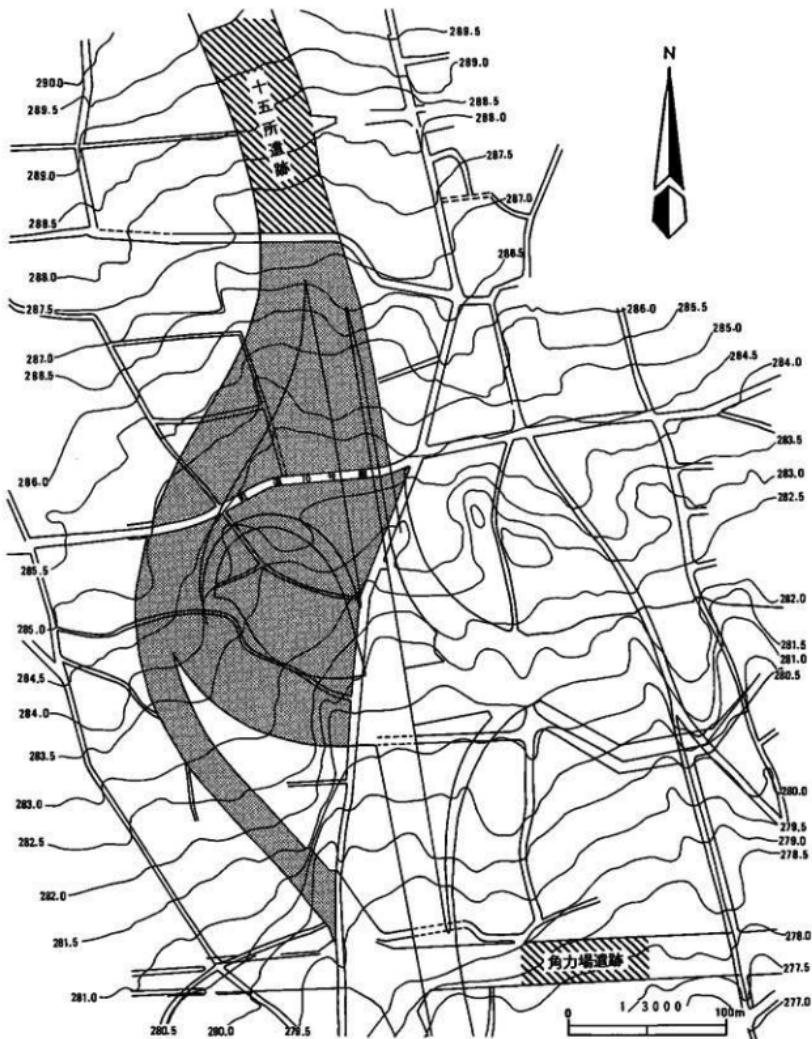
整理作業員

芦沢八千子、飯室菊美、出月多枝美、出月多津子、伊藤順子、一瀬一浩、鰐池定一、宇野和子、江川理恵、遠藤正美、小沢一枝、長田千鶴、長田なよ子、小田切千麻、坂井美代子、佐野真雪、垣内律子、神田久美子、小林としみ、小林将子、佐久間篤子、桜林豊、佐藤眞佐美、志鎌紀子、清水友美子、鈴木みづ子、内藤孝子、田中真理、田中正江、土井みさほ、中川美千子、中込久子、中込二三子、新津多恵、浜辺きみ子、原田佳子、樋口久子、平出恭代、平川涼子、古屋茂子、正木なつ子、村松義仁、望月厚子、望月裕子、古郡フミ子、依田成美、依田幸浩、若菜永子、若林初美、渡部さつみ、渡辺洋子、渡辺徳子

第2章 地理的環境

第1節 遺跡の立地（第2・3図）

村前東A遺跡は山梨県中巨摩郡御形町十五所から、若草町十日市場にかけて広がりをもつ遺跡で（第3図1）、甲府盆地西部、釜無川右岸の御勅使川扇状地扇端部に立地する。遺跡の背後には中巨摩郡芦安村唐松峠を源と



第2図 調査区の位置と周辺の微地形

する御勤使川によって形成された、全国でも屈指の扇状地が広がる。現在の遺跡周辺は、巨摩山地の高尾山を源とする滝沢川の氾濫で形成された砂礫層が表土（第4図1層）として堆積する乏水地域となり、果樹栽培が盛んである。遺跡の南約1km弱の扇状地最端付近には水量の豊富な湧水帯が存在し、以南は滝沢川の2次的な扇状地が展開する。現在この扇状地の微高地には集落が形成され、他は水田から果樹栽培への転作が進んでいる。遺跡の西側は、一之瀬台地を経て樹形山を前衛とする南アルプスが連なり、東側は御勤使川扇状地扇端部から、広大な水田地帯となる釜無川の沖積低地を望む（第2図）。調査区（スクリーントーン部）の標高は北端で287m、南端で280mを測り、扇状地形に沿って北から南へ下る緩やかな傾斜地となるが、微視的には微高地と小谷が複雑に入組んだ地形となっている（第3図）。

第2節 周辺の遺跡（第3図）

本遺跡の立地する釜無川右岸の甲府盆地西部地域は、近年詳細な分布調査が行われると同時に、国道改良及び中部横断自動車道など開発に伴う一連の調査で、数多くの遺跡が発見されている。これらの遺跡はその時代が新しくなるにつれ、盆地低部への開発、居住傾向が強くなることが指摘されている（保坂1990）。

旧石器時代の遺跡は一之瀬台地など台地上に占地する傾向がみられ、六科丘遺跡（11）や長田口遺跡（12）からは該期のナイフ形石器が出土している。

縄文時代になると、台地上のはか、山間の河川に面した平坦地や扇状地などその分布域が大きく拡大する。現状では曾根遺跡（10）・上の山遺跡（14）・長田口遺跡（12）・星喰場遺跡（27）・大明神遺跡（31）など台地上に分布する遺跡が主体的であるが、縄文時代中期の土器・土偶が重要文化財に指定された、該期の集落遺跡である鈎物師屋遺跡（18）は台地下の扇状地に立地する。また、縄文時代後期を中心とする遺物が採集されている清水坂遺跡（32）や、図示範囲には入らないが、晩期終末の浮線文系土器が出土した中巨摩郡八田村大塚遺跡や同村石橋北屋敷遺跡は御勤使川扇状地の扇尖部から扇端部にかけて立地する遺跡で、今後、扇状地上の該期遺跡例が増加する可能性は極めて高い。

弥生時代では、六科丘遺跡（11）・長田口遺跡（12）・大明神遺跡（31）など後期後半以降に比定される台地上の集落遺跡や、本遺跡の北側に隣接し、中期の遺物集中箇所や、後期の住居址と方形周溝墓が検出された十五所遺跡（7・8）など、御勤使川扇状地扇尖部から扇端部にかけて立地する遺跡がみられる。縄文時代と異なるのは、扇状地端部の湧水帯により解析された標高250m前後の微高地や、微高地に接する沖積地にも遺跡の分布がみられることがある。微高地上には後期の住居址が検出された住吉遺跡（24）のように、集落遺跡が分布し、沖積地には後期の水田址が検出された大師東丹保遺跡（22）や中期の水田址が検出された向河原遺跡（19）のような該期の生産遺跡が確認されている。他にも同様な立地で弥生時代の遺物が出土した遺跡として、溝呂木道上遺跡（4）・中川田遺跡（21）・油田遺跡（20）があり、該期における扇状地端部から沖積低地への進出は、稻作の開始と連動した遺跡の動態を顕著に表している。このうち、溝呂木道上第5遺跡では僅かな破片資料ではあるが、浮線文系土器と条痕を施した土器が出土しており、該期のより古い段階で本地域でも水稻耕作が行われた可能性を示唆するものである。

古墳時代では扇状地扇尖部から扇端部にかけて、S字形状口縁台付甕を出土する住居址が検出された、十五所遺跡や本遺跡・角力場遺跡（3）がみられ、扇端部の湧水帯付近では後期の住居址が検出された新居道下遺跡が立地する。中期の住居址が検出された村内遺跡（25）は、より低位の2次的な扇状地の微高地に立地する。また、大師東丹保遺跡では古墳が調査されている。本地域の古墳は六科丘古墳（13）・物見塚古墳（15）・鈎物師屋古墳（17）・上村古墳（27）・法華塚古墳（30）など台地上や、おつき穴古墳（2）のように御勤使川扇状地扇端部に造営されるものが知られていたが、より低位の2次的な扇状地で、微高地を利用して古墳が造営される例はこれが初見となり、注目される。

本地域の奈良時代の遺跡は確認されたものが少なく、その様相は未だ不明瞭な点が多い。そのような現状で、御勤使川扇状地扇端部の湧水帯付近に立地する新居道下遺跡（5）は、該期の住居址24軒を検出した集落遺跡

第3図 圖2の續



として貴重である。

平安時代では扇状地扇央部から扇端部にかけて、十五所遺跡や本遺跡・角力場遺跡・鎧物師屋遺跡・メ木遺跡（16）が、扇端部の湧水帯付近では新居道下遺跡が立地する。いずれも、該期住居址を検出した集落遺跡となる。また、該期の水田址が二本柳遺跡（6）・中川田遺跡など2次的扇状地や冲積地に見られる。

中世以降では本遺跡や七ツ打C遺跡（9）・新居道下遺跡などが扇状地扇央部から扇状地先端部に立地する遺跡として捉えられ、近世の溝や粘土探掘坑が検出されている。これに対し、扇状地端部の湧水帯により解析された2次的扇状地微高地上や、微高地に接する冲積地の遺跡では、戦国時代の井戸や、中世寺院福寿院跡・水田址が調査された二本柳遺跡・鎌倉時代から近世の水田址が検出された向河原遺跡や中川田遺跡・鎌倉時代の建物址や水辺の祭祀跡・水田址・水路・護岸施設とともに多量の木製品を出土した大師東丹保遺跡・近世の寺を中心とした集落である宮沢中村遺跡（23）など、多岐にわたる遺構・遺物が検出され、今まで不明瞭であった該期の様相を知る上で、多くの知見を与えてくれた。

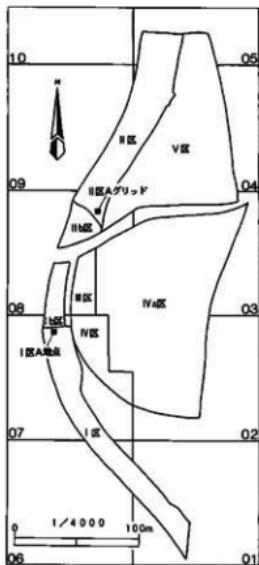
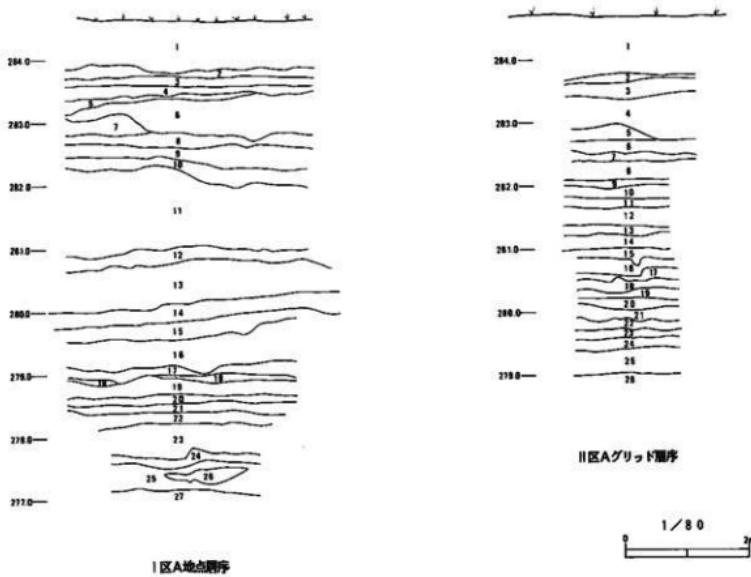
参考文献

- 甲西町教育委員会 1981 「住吉遺跡」
鶴形町教育委員会 1985 「六科丘」
保坂康夫 1990 「原始・古代の遺跡」「若草町史」若草町
山梨県埋蔵文化財センター調査報告第60集 1991 「七ツ打C遺跡発掘調査報告書」
山梨県埋蔵文化財センター調査報告第72集 1992 「二本柳遺跡」
山梨県埋蔵文化財センター調査報告第77集 1993 「中川田遺跡」
山梨県埋蔵文化財センター調査報告第102集 1995 「大師東丹保遺跡」
山梨県埋蔵文化財センター調査報告第87集 1994 「油田遺跡」
山梨県埋蔵文化財センター調査報告第88集 1994 「向河原遺跡」
山梨県埋蔵文化財センター調査報告第101集 1995 「宮沢中村保遺跡」
山梨県埋蔵文化財センター調査報告第104、113集1995、1996 「十五所遺跡」
山梨県埋蔵文化財センター調査報告第131集1997 「大師東丹保遺跡Ⅰ区」
山梨県埋蔵文化財センター調査報告第137集1997 「大塚遺跡」
甲西町教育委員会 1997 「村内遺跡」
山梨県埋蔵文化財センター調査報告第147集 1998 「新居道下遺跡」
山梨県埋蔵文化財センター 1998 「年報14」
山梨県 1998 「資料編1 原始・古代1」「山梨県史」
若草町教育委員会 1998 「角力場遺跡」
若草町教育委員会 1998 「溝呂木道上第5遺跡」

第3節 遺跡の層序（第4図）

本遺跡は、御動使川扇状地扇端部に位置することから、その層序も河川氾濫の影響を受け、複雜且つ不安定である。ここではⅠ区北端のA地点とⅡ区南端のAグリッドの層序を比較しながら概観したい。

現地表下に堆積する砂礫層（1層）は前述した淹沢川の氾濫によって形成されたもので、本遺跡で普遍的に認められる唯一の層となる。以下の堆積状況は両者で大きく異なり、Ⅰ区A地点では基本的に砂礫層と砂層が交互に堆積する状況を示し、度重なる洪水により形成された水性堆積の特徴を示す。その間に比較的安定した時期の地表面が数面確認された。このうち、人為遺物を伴う文化層は5層と10層の2層で、5層が平安時代・10層が古墳時代に対応する。Ⅱ区AグリッドはⅠ区A地点と比べ砂礫層が少なく、河川氾濫の影響の程度が異なることを示している。2層から7層まではシルト質となり比較的安定し、土壤化の進んだ4層が平安時代、6層が古墳時代の文化層となる。また、3層上面が中世以降の遺構確認面となる。8層以下は基本的に砂層と粘土層が交互に堆積し、水性堆積の特徴を示すが、土壤化の進んだ層が数面見られ、このうち21層からは分析の結果、天城カワゴ平軽石（K g）を起源とする火山ガラスが検出された。また、V区では現地表下約3mで弥生時代中期以前に比定される土器の包含層が確認されている（第9図）。



I 区A地図順序	II 区Aグリッド 順序
1層 地表面地盤 0.9m/L	1層 オリーブ褐色地盤 0.5m/L
2層 地表面地盤 0.5m/L	2層 緑褐色地盤 0.4m/L
3層 黄褐色地盤 0.5m/L	3層 緑褐色地盤 0.3m/L 本地上部から中間部の過渡段階となる。
4層 オリーブ褐色地盤 0.5m/L	4層 黄褐色地盤 0.2m/L 平野帶地盤の性質。
5層 黄褐色地盤 0.5m/L 平野帶地盤 0.3m/L	5層 オリーブ褐色地盤 0.1m/L
6層 オリーブ褐色地盤 0.5m/L	6層 黄褐色地盤 0.05m/L 古河沖積地盤の性質。
7層 ニューカラード地盤 0.5m/L	7層 黄褐色地盤 0.05m/L
8層 オリーブ褐色地盤 0.5m/L	8層 オリーブ褐色地盤 0.5m/L
9層 黄褐色地盤 0.5m/L	9層 黄褐色地盤 0.05m/L
10層 黄褐色地盤 0.5m/L 古河沖積地盤の性質。	10層 オリーブ褐色地盤 0.5m/L
11層 黄褐色地盤 0.5m/L	11層 オリーブ褐色地盤 0.5m/L
12層 ニューカラード地盤 0.5m/L	12層 オリーブ褐色地盤 0.5m/L
13層 ニューカラード地盤 0.5m/L	13層 オリーブ褐色地盤 0.5m/L
14層 黄褐色地盤 0.5m/L	14層 暗色地盤 0.05m/L
15層 暗色地盤 0.05m/L	15層 黄褐色地盤 0.05m/L
16層 暗色地盤 0.05m/L	16層 墓オリーブ褐色地盤 0.5m/L
17層 黄褐色地盤 0.05m/L	17層 黄褐色地盤 0.05m/L
18層 黄褐色地盤 0.5m/L	18層 オリーブ褐色地盤 0.5m/L
19層 暗色地盤 0.5m/L	19層 オリーブ褐色地盤 0.5m/L
20層 黄褐色地盤 0.5m/L	20層 オリーブ褐色地盤 0.5m/L
21層 黄褐色地盤 0.5m/L	21層 墓オリーブ褐色地盤 0.5m/L Kを起因とするカルガマスを含む。
22層 黄褐色地盤 0.05m/L	22層 黄褐色地盤 0.05m/L
23層 黄褐色地盤 0.05m/L	23層 黄褐色地盤 0.05m/L
24層 黄褐色地盤 0.05m/L	24層 黄褐色地盤 0.05m/L
25層 黄褐色地盤 0.05m/L	25層 黄褐色地盤 0.05m/L
26層 黄褐色地盤 0.05m/L	26層 黄褐色地盤 0.05m/L

第4図 村前東A遺跡土層図

第3章 遺跡の概要

本遺跡は前述したように、御動使川扇状地先端部に立地することから、洪水流による水性堆積が発達し、弥生・古墳・平安・中世以降の各文化層が層位的に確認されている。ここでは平成5年度以降に行われた調査で検出された、各時代の遺物・遺構について概観してみたい。

縄文時代以前（第4図）

今回の調査で縄文時代以前の人为遺物を伴う文化層は確認されていない。ただ、Ⅱ区Aグリッドの地表下約4.5m、比較的土壤化の進んだ21層から、天城カワゴ平軽石（K g）を起源とする火山ガラスが検出されている。これは、7章6節でも詳述されているとおり、約2,800～2,900年前に伊豆半島天城山から噴出したテフラと考えられ、東海・中部・近畿地方の縄文後・晩期の堆積物中に見られると指摘される。また、先述したとおり本遺跡の立地する御動使川扇状地の扇央部から扇端部にかけては、縄文時代後・晩期の遺跡が確認されていることから、本遺跡周辺でも地中深くに該期の遺跡が存在する可能性は高い。

弥生時代（第5図）

今回の調査で確認された人为的な遺物で最も古いものは、中期に比定される土器片で、V区の該期包含層から出土した（第9図）。総点数17点と量的に貧弱で、包含層自体洪水流による水性堆積層に切られ、残存状況が良くないことから、該期における本遺跡の状況は不明瞭である。ただ、甲西町油田遺跡や本遺跡北側に隣接する鶴形町十五所遺跡では、良好な資料が纏まって出土しており、今後本遺跡周辺で該期の遺跡が新たに確認される可能性は高い。今後はこれら資料との比較を行い、その詳細な位置づけを検討する必要があろう。

遺構が確認されるのは後期からと思われる。該期の遺構のうち、水田状遺構・溝状遺構・溝址は町道10号線南側の中部横断自動車道IC建設予定地内で、広範囲に検出された。いずれも遺物が出土しておらず、詳細な時期は不明であるが、後述する古墳時代前期の面より僅かに間層を介した下面から検出され、古墳時代前期の遺構に切られている点や、V区で検出された中期の遺物包含層が、古墳時代前期の面より約2m下層から検出された点から、およそ該期に比定したものである。水田状遺構は当初、畦畔が四方を区画するように検出されたことから、該期の小区画水田と考えていたが、稲のプラントオパールが検出されていない点が問題となつた。その原因として、疑似畦畔や非常に短い耕作期間等が第7章2節で指摘されているが、ここでは客観的証拠となるプラントオパールが検出されていないことを重視し断定は避け、水田状遺構と呼称することとした。今後の類例の増加を待ち改めて検討する必要があろう。ただ、湿地や浅い水域に生育するヨシ属のプラントオパールが検出されている点を考慮すると、当時本遺跡周辺では比較的水を得やすい状況にあり、水稻耕作や畑作等の生産活動に適した環境であったと考えられ、水田状遺構の規模や形態から推測するとやはり、溝状遺構や溝址も含め該期の生産に関わる遺構として有機的に機能していたと考えられよう。住居址は調査区北端で1軒検出された。小判形を呈す住居形態や、出土した土器からおよそ後期～末葉に比定され、本遺跡の北側に隣接する十五所遺跡の該期集落に帰属するものと考えられる。

古墳時代（第10図）

本遺跡の主体となる時期で、住居址141軒、掘建柱建物址9棟、溝4条のほか、焼土址・土坑等が検出された。これらの遺構や包含層からは、在地系土器とともに東海東部・東海西部・畿内・北陸にその系譜の求められる、壺・甕・高杯・器台・手焙形土器など各種多量の土器や、蓋などの土製品、砥石・敲石などの石器、鉄鎌などの鉄製品が出土した。出土した土器はその殆どが古墳時代前期に比定されることから、該期の集落では県内でも屈指の遺跡となることが判明した。このうち、該期土器編年の中核となるS字状口縁台付甕（以下、S字甕）

は、その古段階から新段階まで、各類のものが住居址を中心とする遺構から出土していることから、本遺跡が釜無川右岸甲府盆地西部地域で、ほぼ古墳時代前期を通じて営まれた拠点的集落として考えられ、発掘調査中から注目された。本県でもS字壇を基軸とした該期編年が整備されつつあり（中山1986・小林1993、1994）、それに基づいた本遺跡集落変遷の概要が概報で提示されている（石神1997）。今後は、遺構から出土した一括資料を中心に、S字壇以外の器種も含めた該期土器群の検討を行い、より詳細な集落の動態やその性格を把握することが課題となろう。7章8節で詳述されているとおり、古~新段階に比定される大部分のS字壇試料が甲府盆地内で生産され、IVa区94号住居址から出土した古段階のS字壇（第161図10）のみ、渡尾平野出土のS字壇同様、伊勢平野南部付近に産地が求められる可能性が指摘された胎土分析の結果は、前述した課題を考える上で重要なデータとなろう。

住居址は重複し隅丸方形となるものが多く、その規模は最大で11.6×9.1mを測るIVa区18号住（第34図）から、最小で2.4×2.0mを測るV区155号住（第73図）まで多様だが、規模による住居址のグルーピングが可能と思われる。柱穴は4本主柱穴が主体となるが、6本主柱穴や検出されないものがある。炉址は住居址中央より若干奥壁側で検出されるものが多く、縁辺の一部に土手を持つものや、礫を配するもの認められた。IVa区92号住では破碎した礫が炉址の上面を覆うように検出され（第52図）、炉の廃棄に係わる興味深い事例となろう。また、住居址壁際に土坑が検出されるものや、ベッド状遺構を持つものがみられる。土坑は、炉址に近接する奥壁と対峙し住居址出入口が想定される壁際に検出されるものが多く、縁辺に土手を巡らすものがある。土坑内あるいはその周辺からは、小型の土器が出土する事例があり注目される。ベッド状遺構はその可能性があるものを含め、3軒の住居址（IVa区25・135・139号住）で確認された。

住居址の分布は、III・IV区およびIVa区西側に集中し、掘建柱建物址もその範囲内に構築される。I区、II・V区の調査区北側、IVa区西端では住居址の分布が希薄となることから、集落の中心はほぼ調査したと言えよう。住居址が検出されていないI区南側では、該期の遺物が多量に出土した6号溝や焼土址など、集落を構成していた集団に係わる祭祀的要素の強い遺構が検出されている（第11図）。また、弥生時代後期の住居址や方形周溝墓を検出した十五所遺跡（米田1997）、古墳時代前期でも新しい段階のS字壇を出土した住居址が検出された角力場第2遺跡（田中1998）など本遺跡に隣接し（第2図）、時期的に近接あるいは重複する遺跡間での検討は、弥生時代と古墳時代の画期という大きな問題を孕んでいるだけに興味深い。

7章1・2節のプラントオパール分析によると、該期の遺跡周辺ではヨシ属が生育する水域、ネザサ節・ウシクサ族が生育する草地、クマザサ族が下草として生育する森林などの存在が指摘されている。同様の分析結果は、弥生時代水田状遺構や平安時代包含層などからも得られており、各時代において本遺跡が農耕などの生産活動や集落を営むにあたり、良好な環境下にあったことが推測される。本時代の拠点集落や前述した弥生時代の水田状遺構、後述する平安時代集落の検出は、上記したプラントオパール分析結果と一致し、乏水地域となり灌漑施設を用いて果樹栽培を行う現在の環境とは異なる、往時の遺跡景観が垣間見える。

平安時代（第74図）

住居址61軒、掘建柱建物址5棟、溝3条のほか、鉢状遺構や配石遺構等古墳時代に次いで多くの遺構が検出された。遺物は、土師器壺・皿・鉢・蓋・須恵器壺・壺・壺・蓋、灰釉陶器碗・壺等の土器・陶器や、小刀・鎌・紡錘車・苧引金・鉄鎌などの鉄製品が住居址を中心に出土している。

住居址出土の土師器を中心に、該期の編年（甲斐編年・坂本1983、宮ノ前編年・橋原1992）を参考に概観すると、集落の変遷はI区5・6・7・12住、IIb区16住、V区159住等が甲斐Ⅸ期、宮ノ前Ⅵ期に、I区3・11住、III区1・3・6・7・12住、IVa区7・23・30・55・59住等が甲斐Ⅹ・X期、宮ノ前Ⅶ期に、I区9住、II区3・7住、IVa区22・49住等が甲斐Ⅺ・X～XI期、宮ノ前Ⅷ～Ⅸ期に、II区2・4・5・9住、IVa区40住、V区148・149・152・162住等が甲斐XI期、宮ノ前Ⅹ期に、II区10・15住、III区9・10住、IVa区37住等が甲斐XI～XII期、宮ノ前Ⅺ～Ⅻ期に、I区4住、III区11住、IVa区31・32・38・43・52住、V区150・154住等が

甲斐畠期、宮ノ前区期に対応するものと考えられる。よって、本遺跡の平安時代集落は甲斐畠年で、およそ9世紀後半から10世紀末、宮ノ前編年で、およそ9世紀中葉から10世紀中葉にかけて営まれた集落と考えられる。

住居址は方形を呈すものが主体となり、重複するものは少ない。規模は、最大で5.0×4.6mを測るIVa区59号住（第99図）、最小で2.4×2.0mを測るV区59号住（第105図）となるが、一辺3~4m前後のものが主体となり、ほぼ東西方向に軸を合わせて検出されている点は、後述する竈の位置も含め規格性が看取される。その分布も、数軒の住居址が近接して構築されるブロック状の纏まりが調査区内に散在して検出される傾向があり、本遺跡の古墳時代前期集落に見られる集中的な住居の検出状況とは対象的である。竈は北・東壁に構築されるが、東竈が圧倒的である。残存する袖等の構築材には粘質土や石を用いるが、粘質土のみ検出されるものが多い。柱穴は床面から確認されたものは皆無だが、竈を中心とする住居址縁辺に検出されるものが、II区6・9・10号住等に認められた。また、豊溝が部分的に巡るものや竈の際に土坑を持つものがある。掘建柱建物址等住居址以外の遺構については時期決定の参考となる遺物の出土が殆どみられず、詳細な時期は不明である。ただ、集落の時期が9~10世紀間のおよそ1世紀という期間に営まれた集落であることから、これらの遺構もその範疇で捉えられるのではないだろうか。本遺跡南側に隣接する角力場第2遺跡でも平安時代の住居址10軒が検出され、出土した土師器等の検討から、本遺跡とほぼ同時期に営まれた集落であることが判明し、平安時代前期の汎山梨的な集落の増加傾向とその社会的背景から、集落の性格を検討する必要性を指摘している（田中1998）。

中世以降（第107図）

土坑28基、畝状遺構3基、溝1条の他、洪水跡や自然流路等自然の営為によって形成されたものが多数確認された。これらの遺構は平安時代遺構確認面より上層で確認されているが、時期決定の参考となる遺物の出土が殆どみられず、詳細な時期は不明である。よって、中世以降という大枠でその時期を捉えておきたい。

III区で集中的に検出された土坑のうち、覆土に砂礫等がレンズ状に堆積し、土坑掘削後人為的に埋め戻したと考えられるものは、本区古墳時代遺構確認面となる暗褐色の粘質土層まで掘り込んでいるものが多い。形状は円・橢円を呈すものが多いが、土坑が連なり溝状を呈すものもある。これらの特徴を備えたものは、本遺跡の所在する若草町の地場産業である、瓦製造のための粘土採掘坑と考えられる。若草町の瓦製造は18世紀以降に開始されたと考えられ（小島1990）、上記した土坑もそれ以降に属する可能性が高い。本遺跡の南約1kmに所在する新居遺下遺跡でも粘土採掘坑が調査され、坑底からは粘土採掘に用いられたとされる鋤簾が出土している。鋤簾は、大正から昭和初期にかけて使用されたと考えられ、粘土採掘坑は近代に比定されている（米田1998）。採掘坑の形状は本遺跡で確認された土坑と異なり、長方形を呈する。これが単なる採掘方法の違いなのか、時期差を伴うものか今後の課題となろう。

参考文献

- 板本美夫ほか 1983 「甲斐地域」『神奈川考古』14 神奈川考古同人会
中山誠二 1986 「甲府盆地における古墳出現期の土器様相」『山梨考古学論集』I 山梨県考古学協会
小島 勇 1990 「加賀美の瓦」『若草町史』若草町
柳原功一 1992 「宮ノ前遺跡における奈良・平安時代の土器・陶器」「宮ノ前遺跡」茲崎市遺跡調査会
小林健二 1993 「山梨県域の土器様相」「東日本における古墳出現過程の再検討」日本考古学協会新潟大会
小林健二 1994 「甲斐における庄内式併行期の土器編年」「庄内式土器研究」Ⅶ庄内式土器研究会
石神孝子 1997 「出土土器概観」「村前東A遺跡概報4」山梨県埋蔵文化財センター調査報告第134集
米田明訓 1997 「発見された遺構と遺物」「十五所遺跡」山梨県埋蔵文化財センター調査報告第128集
田中大輔 1998 「古墳時代前期の様相と問題点」「角力場第2遺跡」若草町教育委員会
田中大輔 1998 「平安時代の様相と問題点」「角力場第2遺跡」若草町教育委員会
米田明訓 1998 「粘土採掘坑と出土遺物」「新居遺下遺跡」山梨県埋蔵文化財センター調査報告第147集

第4章 各時代の遺構

第1節 弥生時代

II区

第1号住居址（S1001・第6図）

（位置）05S,T-2,3グリッド。（重複）なし。（形状）小判形を呈す。（規模）7.1m×5.4m。（覆土）1層黒褐色土層10YR3/2。2層暗褐色土層10YR4/3。（炉）住居址中央よりやや北寄りで、床を若干掘り込んだ地床炉が検出された。1層に赤褐色土層5YR3/4。多量の焼土を混入。（床）炉を中心として硬化した面が確認された。（盤溝）検出されていない。（柱穴）6本の柱穴が確認されているが、その深度から4本柱主柱穴となろう。（その他の施設）住居址南壁際で土坑が検出された。西側にテラスを持ち、覆土中位から壺の胴下半が出土した。1層暗褐色土層10YR3/4。2層暗褐色土層10YR3/3。（遺物出土状況）本址では住居址中央から、炭化物・炭化材・焼土が放射状に検出されており、火災に遭った可能性が大きい。遺物は炉や土坑の周辺から台付壺・壺などが出土している。また、住居址内の土壤を探取し、植物遺体分析を行った結果炭化種実を検出している。なお、本址は後述する古墳時代の住居址群から離れ、調査区の北端で検出されたものである。しかし、町道を挟んだ北側には、弥生時代後期の集落と方形周溝墓が検出された十五所遺跡が隣接していることから、本址は十五所遺跡の該期集落に帰属されるものと考えられる。

III・IV・IVa区

該期の遺構で、III・IV・IVa区で検出されているものは、同一の遺構であったり互いに有機的な関係が想定されるため、ここで一括して記すこととしたい。

水田状遺構（第7・8図）

（位置）02S,T-20・03S,T-1,2・07F,G,H-18~20・08A-3~5,B-4~6,C-4~6,D-3,E-3~5,F-1,3~5,G-1~5,H-1~4,I-1~4グリッド。（検出状況）08G,H-1,2グリッドで古墳時代前期の遺構確認中に畦畔状の遺構が確認されたため、全区で古墳時代前期遺構の精査終了後、その広がりを確認する作業を行った。結果、古墳時代前期遺構確認面より5~10cm下層から上記の範囲で検出された。畦畔は古墳時代の遺構に切られていたり、地山との色調が近似し確認困難な箇所があり、その明確な範囲は判然としない。（形状等）畦畔は黒褐色及び暗褐色土を用い、断面形は台形もしくは蒲鉾形を呈し、幅20~60cm、高さ10~20cmを測る。畦畔は一部途切れのある箇所がある。区画の平面形態は、正方形・長方形が主体となり、北から南に向かう自然地形の緩やかな傾斜に沿って配置されている。畦畔は四方を区画する残存状況良好なもので、小型のものは一辺3mの正方形、大形のものは長辺12.5m短辺3mを測る長方形を呈す。（出土遺物）なし。（時期）本址では前述したように、時期決定を行う土器資料が得られずその時期が限定できないが、古墳時代前期の遺構に切られている点、遺構確認面が古墳時代前期の面と近接している点、V区で古墳時代前期遺構確認面より約2m下層で、弥生時代中期の土器が出土している点を考慮すると、およそ弥生時代後期に構築された遺構と考えられよう。

溝状遺構（第7・8図）

（位置）08B~E-6~12グリッド。（検出状況）古墳時代前期遺構の精査終了後、水田址の確認を行っていたところ上記の範囲で検出された。確認段階では検出状況やその規模が類似していることから水田の畦畔と思われたが、サブトレントを設定し断面を観察したところ明瞭な掘り込みが認められたため、溝状遺構としたものである。（規模および形状等）幅30~80cm、深さ20~40cm、断面はU字状を呈す。覆土には褐色土層（10YR4/4）

が堆積していた。(出土遺物)なし。(時期)本址も時期決定できる遺物が出土していないが、検出状況が水田状遺構と酷似しているため、ほぼ同時期の遺構として捉えておきたい。

第4号溝 (S D 0 0 4・第7・8図)

(位置) 03T-4~8・07A7~20・08A-1~4.9~13,B-12,13グリッド。(検出状況) 調査区のほぼ中央を、南北方向に縱断するように検出され、北端で二又に分岐する。(規模および形状等) 幅1.5~4m、深さ40~60cm、断面はV字状を呈す。覆土には1層暗褐色土層(10YR3/4)、2層褐灰色砂礫層(10YR4/1)が堆積していた。(出土遺物)なし。(時期)本址も時期決定出来る遺物が出土していないが、IVa区古墳時代前期の18号住居址との新旧関係で本址が切られていることが確認された点から上記した水田状遺構や溝状遺構とほぼ同時期の遺構として捉えておきたい。

V区包含層 (第9図)

本区では、弥生時代中期に比定される土器が出土している。該期の土器は、本区の北側に隣接する十五所遺跡で出土していることから、本遺跡でも上層の調査が完了した箇所からトレンチを設定し、確認作業を実施した。その結果、V区04-N-11、N・M-13グリッドを中心、地表下約3m基本層序17・19層(第9図)から該期の土器を検出した。遺構は確認できず、遺物包含層とした。出土した土器は計17点で、器形の何えるものではなく、すべて破片であった。いずれも、器面の磨滅が著しい。このうち、文様の識別できる7点を図示した(第115図1~7)。

第2節 古墳時代

I区

第1号竪穴状遺構 (S I 0 1 4・第13図)

(位置) 01Q,R-11,12グリッド。(重複)なし。(形状) 平面は不整円形、断面はすり鉢状を呈す。プラン確認の段階では住居址として調査を行ったが、壁や床面が不明瞭で柱穴や炉も検出されないことから、竪穴状遺構とした。しかし、洪水など水の影響で形成された凹地地形が埋没したものもある。(規模) 東西6.5m×南北7.0m。(覆土) 1層黄褐色砂層2.5Y5/3。2層黒褐色土層10YR2/2。3層にぶい黄褐色土層10YR4/3。(出土遺物)壺・高坏・器台・S字甕などが、散在して出土した。

第2号竪穴状遺構 (S I 0 1 5・第13図)

(位置) 01R,S-13,14グリッド。(重複)なし。(形状) 第1号竪穴状遺構と同様、平面は不整円形、断面はすり鉢状を呈す。プラン確認の段階では住居址として調査を行ったが、壁や床面が不明瞭で柱穴や炉も検出されないことから、竪穴状遺構とした。しかし、洪水など水の影響で形成された凹地地形が埋没したものもある。(規模) 東西6.0m×南北7.5m。(覆土) 1層黄褐色砂層2.5Y5/4。2層黒褐色土層2.5Y3/1。(出土遺物)壺・北陸系壺・S字甕などが、散在して出土した。

第1号焼土址 (S F 0 0 1・第12図)

(位置) 06E-20グリッド。(重複)西側で、性格不明ピットと重複しているが新旧関係は判然としない。(形状) 楕円形。(規模) 94cm×65cm。深さ10cm。(覆土) 1層褐色土層7.5YR4/4。(出土遺物)なし。

第2号焼土址 (S F 0 0 2・第12図)

(位置) 06E-20グリッド。(重複)なし。(形状) 楕円形。(規模) 50cm×40cm。深さ10cm。(覆土) 1層暗

赤褐色土層5YR3/3。(出土遺物)なし。

第3号焼土址 (S F 0 0 3・第12図)

(位置) 06E-20グリッド。(重複)なし。(形状)不整円形。(規模)70cm×50cm。深さ6cm。(覆土)1層極暗赤褐色土層2.5YR2/2。(出土遺物)なし。

第4号焼土址 (S F 0 0 4・第12図)

(位置) 06D-20グリッド。(重複)なし。(形状)不整円形。(規模)60cm×50cm。深さ5cm。(覆土)1層褐色土層7.5YR4/4。(出土遺物)なし。

第5号焼土址 (S F 0 0 5・第12図)

(位置) 06D-20グリッド。(重複)なし。(形状)不整円形。(規模)50cm×40cm。深さ8cm。(覆土)1層暗褐色土層7.5YR3/4。(出土遺物)人工遺物はなし。焼土を採取し植物遺体分析を行った結果、炭化種実を検出している。

第6号焼土址 (S F 0 0 6・第12図)

(位置) 06C-20グリッド。(重複)なし。(形状)不整円形。(規模)40cm×40cm。深さ5cm。(覆土)1層暗褐色土層7.5YR3/4。(出土遺物)なし。

第7号焼土址 (S F 0 0 7・第13図)

(位置) 06D-16,17グリッド。(重複)なし。(形状)不整円形。(規模)110cm×60cm。深さ8cm。(覆土)1層明赤褐色土層5YR5/8。(出土遺物)なし。

第8号焼土址 (S F 0 0 8・第13図)

(位置) 06C-18,17グリッド。(重複)なし。(形状)不整円形。(規模)80cm×70cm。深さ7cm。(覆土)1層赤褐色土層5YR4/6。(出土遺物)なし。

第9号焼土址 (S F 0 0 9・第13図)

(位置) 06D-16グリッド。(重複)北側で、性格不明ピットと重複しているが新旧関係は判然としない。(形状)円形。(規模)40cm×40cm。深さ5cm。(覆土)1層赤褐色土層5YR4/6。(出土遺物)なし。

第10号焼土址 (S F 0 1 0・第13図)

(位置) 06E-20グリッド。(重複)なし。(形状)楕円形。(規模)60cm×40cm。深さ5cm。(覆土)1層暗赤褐色土層2.5YR3/3。(出土遺物)なし。

第11号焼土址 (S F 0 1 1・第12図)

(位置) 06C-20グリッド。(重複)なし。(形状)不整円形。(規模)40cm×38cm。深さ5cm。(覆土)1層暗赤褐色土層2.5YR3/3。(出土遺物)なし。

性格不明ピット群(第12・13図)

(位置) 調査区の南半分、01O~T-1~9・06A~F-12~20・07F-1グリッドで検出された。(重複)一部、焼土址と重複するものがあるが、新旧関係は判然としない。(規模および形状)検出されたピット群は直径20cm

~1m程の円形・楕円形・不整形を呈す物が多く、深さは10~30cm程の浅いものが多い。ピットの配置は、散在的な在り方を示し、特に掘立柱建物址や柵列となるようなものはない。(覆土) 黒褐色砂が堆積するものが僅かに認められたが、大半のピットは黒褐色土が堆積していた。柱痕が確認されたものはない。(出土遺物) なし。

第6号溝址 (S D 0 0 6・第14・15・16図)

(位置) 01Q~T-8~18・06A,B-12~18グリッドで検出された。(重複) なし。(溝の形成過程) 本址は、セクションの観察などから上記した範囲で、弥生時代後期以前に形成された凹地地形によって基底面が形成され、それ以降の洪水時に河道化し、砂礫を中心とした水性堆積物によって河道がある程度埋没した段階に、人為的な再掘削または再利用がなされたものと考えられる。よって、この旧河道部分を第6号溝とし、人為的な溝と判断した。(規模および形状) 本址は調査区南側の上記した範囲で、ほぼ南北方向に検出された。幅約12m、長さ約60m、最深度約1mを測る。本址内にはさらに2条の溝が検出されている。西側の溝は幅1~1.2m、深さ約30cm、断面バケツ状を呈し、一部クランク状に検出された。東側の溝は幅3~7.5m、深さ約1m、断面たらい状を呈す。(覆土) 各層注記は第14図を参照。19層上面を分層する太線が、弥生時代後期以前に形成された凹地地形に相当する。16層は河道が埋没する過程で堆積した、砂礫を中心とする水性堆積物で、16層上面を分層する太線が人為的な掘り込みを示す。(その他の施設) ピットが溝址南側を中心に12基ほど検出されている。掘り込みは5~30cmと浅く散在的な在り方を示し、本址に関わる遺構かどうか判然としない。(遺物出土状況) (第15図) 本址からは、古墳時代前期に比定される多量の土器が出土している。出土遺物平面分布を見ると、その多くが本址内で検出された東側の溝を中心として出土する傾向が看取される。このうち、01T-14グリッドでは壺・大型壺・壺・高壺・器台など該期の土器が集中的に出土した(第16図)。なお、図上の上面下面の表記は、層位的な時期差を示すものではない。本グリッドの遺物垂直分布を見ると、東側溝の中位3層内から集中的に出土していることから、これらの土器は短時間のうちに廃棄された可能性が高い。このような土器集中箇所は、本址北側で検出された焼土址と関連した祭祀施設の一部とも推定される。

I b 区

第16号住居址 (S I 0 1 6・第17図)

(位置) 08M,N-7,8グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸方形。(規模) 5.0m×4.8m。(覆土) 1層黒褐色砂層2.5Y3/2。(炉) 検出されていない。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 調査区内では3本の柱穴が検出されているが、4本柱主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 南西コーナー付近で頸部を欠く壺が、東壁側を中心に炭化材が出土した。

第1号土坑 (S K 0 0 1・第17図)

(位置) 08L-6グリッド。(重複) なし。(規模および形状) 東側は、調査区外となり不明。調査された部分は不整円形を呈し、北側にテラスを持つものの、断面形はほぼすり鉢形を呈す。南北4.2m、深さ1.1m。(覆土) 1層黒褐色土層2.5Y3/2。古墳時代前期の遺物包含層。2層黄褐色砂層2.5Y5/4。3層暗灰黄色砂層2.5Y5/2。4層オリーブ黄色砂層5Y6/4。5層灰オリーブ色砂層5Y5/2。6層黄褐色土層2.5Y5/3。7層暗灰黄土層2.5Y4/2。8層黄褐色土層2.5Y5/3。9層黄灰色土層2.5Y4/1。10層暗灰黄砂層2.5Y4/2。11層黒褐色砂礫層2.5Y3/1。12層黒褐色砂層2.5Y3/2。(出土遺物) 土坑北側の覆土上層から、小型丸底壺・台付壺・高壺などが集中して出土した。

第9号溝址 (S D 0 0 9・第17図)

(位置) 08K-7~9グリッド。(重複) なし。(規模および形状) 調査区の北東隅で南北方向に検出されたが、

両端は調査区外となり、その規模は不明である。ただ、II b 区 4 号溝およびIV 区 5 号溝がほぼ方向を同じくし古墳時代前期の遺構確認面から検出されていることから、これらは同一の溝の可能性がある。断面はすり鉢形を呈し、幅1.5~3m、深さ70cmを測る。(覆土) 1層黒褐色土層2.5Y3/2。古墳時代前期の遺物包含層。2層灰オリーブ色疊層5Y5/2。3層オリーブ褐色土層2.5Y4/4。4層黒褐色砂層2.5Y3/2。5層暗オリーブ褐色疊層2.5Y3/3。(出土遺物) S字壺・高壺・器台・壺・手焙形土器・北陸系と思われる壺などが出土した。

II 区

第11号住居址 (S I 0 1 1・第19図)

(位置) 08H,I-20グリッド。(重複) なし。(形状) 不明。遺構確認の段階で炉址が検出され、周辺を精査したが壁は検出できなかった。(規模) 不明。(炉) 床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/3。多量の焼土を混入。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 本址に伴うと思われる柱穴は、3本確認されている。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 住居址東側で台付壺・鉢などが出土地。また炉址内の土壤を分析した結果、炭化種実が検出された。

第12号住居址 (S I 0 1 2・第19図)

(位置) 08I-18,19グリッド。(重複) なし。(形状) 不明。遺構確認の段階で壁溝と炉址が検出され、周辺を精査したが壁は検出できなかった。(規模) 不明。(炉) 掘乱で一部破壊されている。掘り込みなどは確認されず、焼土の分布が認められただけの貧弱なものである。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 東壁から南壁にかけて検出された。幅10~20cm、深さ10cmを測る。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 壺の底部破片が出土したのみ。

第13号住居址 (S I 0 1 3・第19図)

(位置) 08F,G-17グリッド。(重複) なし。(形状) 住居址南側の大部分を掘乱で欠失しているため不明。(規模) 不明。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 北壁中央から1.5m内側で検出された。床を若干掘り込み、粘土質の土を貼るいわゆる火皿をもつもので、南側縁辺には土手を有す。1層にぶい赤褐色土層5YR4/3。熱を受け、粘土質が赤化した層。2層暗褐色土層10YR3/4。(床) 炉を中心として堅固な面が認められた。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 北壁際で2本検出された。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 北西コーナーで検出された柱穴内から、壺の底部破片が出土したのみ。また炉址内の土壤を分析した結果、炭化種実が検出された。

II b 区

第17号住居址 (S I 0 1 7・第20図)

(位置) 08H,I-15グリッド。(重複) 20号住居址と重複していた可能性がある。(形状) 北東コーナーを掘乱で欠失しているが、隅丸方形となろう。(規模) 4.4m×4.0m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。炭化物を多量に混入。(炉) 住居址中央よりやや北東寄りで検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層赤褐色土層5YR4/3。焼土を多量に混入。(床) 炉を中心として堅固な面が認められた。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 3本の柱穴が確認されているが、掘乱で欠失した箇所にも柱穴が存在したものと思われ、4本柱主柱穴になろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 本址は、焼土や炭化材が放射状に検出されていることから、火災に遭った可能性がある。S字壺・高壺・壺などの古式土器や砥石などが散在して出土し、炉址内の土壤を分析した結果、炭化種実が検出された。

第18号住居址（S I 0 1 8・第20図）

(位置) 08F,G-14グリッド。(重複) なし。(形状) 不明。遺構確認面と住居址覆土の色調が酷似しているため、プラン確認が難航した。また、西側は擾乱で消失しており南壁の一部を検出したにすぎない。(規模) 不明。(覆土) 1層にぶい黄褐色土層10YR4/3。炭化物を混入。(炉) 床を若干掘り込んだ地床炉。1層にぶい赤褐色土層5YR4/3。焼土を多量に混入。(床) 全体的に軟弱。堅固な面が認められた。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 部分的に炭化材が検出されたほか、鉢・台付壺・壺・手焙形土器などが散在して出土。

第19号住居址（S I 0 1 9・第20図）

(位置) 08J-17グリッド。(重複) 東側を平安時代の15号住居址に切られている。(形状) 不明。遺構確認面と住居址覆土の色調が酷似しているため、プラン確認が難航した。結局、硬化した床の一部と炉址を検出するのみ。(規模) 不明。(炉) 床を若干掘り込んだ地床炉。1層にぶい赤褐色土層5YR4/3。焼土を多量に混入。(床) 炉址の周辺で硬化した面を検出した。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 古式土師器と思われる土器の細片が僅かに出土したが、図示し得るものはない。

第20号住居址（S I 0 2 0・第21図）

(位置) 08I-15グリッド。(重複) 17号住居址と重複していた可能性がある。(形状) 不明。遺構確認面と住居址覆土の色調が近似しているため、プラン確認が難航した。結局、炉址とその東側の土師器一括資料のみ検出した。(規模) 不明。(炉) 床を10cm掘り込んだ地床炉。1層にぶい赤褐色土層5YR4/3。焼土を多量に混入。(床) 炉址を中心に精査したが硬化した面は検出されない。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(遺物出土) 上記したように、炉址の東側で小型壺・台付壺・高壺などの古式土師器がまとまって出土した。また、炉址内の土壤を分析した結果、炭化種実が検出された。

第21号住居址（S I 0 2 1・第21図）

(位置) 08G,H-13グリッド。(重複) なし。(形状) 住居址南側が調査区外となり、形状は不明。(規模) 北壁は一辺4.0m。(覆土) I層灰黄褐色砂礫層10YR4/2。平安時代以降の河川の氾濫で堆積した砂礫が、本層形成の主体となる。本層下面が中世以降の遺構確認面となる。II層黒褐色土層2.5Y3/2平安時代遺物包含層。本層下面が該期遺構確認面となる。III層暗褐色土層10YR3/4。古墳時代前期遺物包含層。本層下面が該期遺構確認面となる。1層暗褐色土層10YR3/4。住居址覆土。炭化物を多量に混入。(炉) 住居址北西コーナー寄りで検出された。床を若干掘り込んだ地床炉。1層にぶい赤褐色土層5YR4/3。焼土を多量に混入。(床) 床を中心に堅固な面が認められた。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 炉址西側で1本検出されたが、その深度や位置から主柱穴と判断するのは難しい。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 本址は、焼土や炭化材が放射状に検出されていることから、火災に遭った可能性がある。また、S字壺・小型の高壺が出土している。

第4号土坑（SK 0 0 4・第21図）

(位置) 08J-14グリッド。(重複) なし。(規模および形状) 長軸80cm、短軸70センチを測る円形を呈す。深さは10cmを測り、断面はたらい状を呈す。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(出土遺物) 土坑底部付近から台付壺・S字壺が出土。

第4号溝址（SD 0 0 4・第21図）

(位置) 08K,L-11~14グリッド。(重複) なし。(規模および形状) 調査区の西側隅で南北方向に検出された

が、両端は調査区外となり、その規模は不明である。ただ、I b 区 9号溝およびIV区 5号溝がほぼ方向を同じくし古墳時代前期の遺構確認面から検出されていることから、これらは同一の溝の可能性がある。調査区北側ではすり鉢形の断面を呈すが、南側ではテラスを有す。(覆土) 1層暗オリーブ褐色砂層2.5Y3/3。2層オリーブ褐色砂層2.5Y4/3。(出土遺物) 磨耗した土師器片が僅かに出土したにすぎない。

III区

第13号住居址 (S I 0 1 3・第23図)

(位置) 08I-4グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸方形。(規模) 4.0m×3.8m。(覆土) 1層オリーブ褐色土層2.5Y4/3。(炉) 住居址中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉だが、南側に土手を有す。1層暗オリーブ褐色砂層2.5Y3/3。焼土を多量に混入。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 土器の破片が散在して出土。

第14号住居址 (S I 0 1 4・第23図)

(位置) 08G,H-5,6グリッド。(重複) 本址東側で22号住居址と重複している。両者の覆土は酷似しており、土層の観察ではその新旧関係を判断できない。(形状) 隅丸長方形。(規模) 6.1m×5.1m。(覆土) 1層黄褐色土層2.5Y5/4。2層オリーブ褐色土層2.5Y4/3。3層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 住居址長軸中心線上に、奥壁から1mほど内側で検出された。床を若干掘り込み、粘土を水平に貼った地床炉に類似するタイプである。1層褐色土層7.5YR4/6。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本の主柱穴のほか、南西コーナーには小ピットが検出された。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 床面直上から、壺・高坏・S字壺がつぶれた状態で出土した。ほかに、台付壺・器台・蓋などが散在的に出土している。また、炉址内の土壤を分析した結果、炭化種実が検出された。

第15号住居址 (S I 0 1 5・第23図)

(位置) 08G,H-3,4グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸長方形。(規模) 4.7m×5.6m。(覆土) 1層暗オリーブ褐色土層2.5Y3/3。(炉) 住居址長軸中心線上に、奥壁から2mほど内側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。また、炉址の西側で焼土の堆積が認められたが、掘り込みは殆ど認められない。1層赤褐色土層5YR4/3。焼土を多量に混入。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 本址の柱穴は、掘り方を精査した段階で確認されたものである。北東コーナーで検出されたものは、他に比べ大型で掘り方が浅く主柱穴となるか判断に苦しむ。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 台付壺・高坏・鉢などが散在的に出土している。また、炉址内の土壤を分析した結果、炭化種実が検出された。

第16号住居址 (S I 0 1 6・第24図)

(位置) 08I,J-6,7グリッド。(重複) 3号掘立柱建物址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、新旧関係は不明である。(形状) 住居址西側が調査区外となり、不明。(規模) 南北4.6m。(覆土) 1層褐色土層10YR4/4。2層暗褐色土層10YR4/3。(炉) 調査区内では検出されていない。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 土師器細片が散在的に出土している。図示しえるのは、壺底部破片と北陸系と思われる壺のみ。

第17号住居址 (S I 0 1 7・第24図)

(位置) 08H,I-7,8グリッド。(重複) 2号掘立柱建物址と一部重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、新旧関係は不明である。(形状) やや歪であるが隅丸長方形となろう。(規模) 4.9m×4.2m。(覆土) 1層灰黃褐色土層10YR4/2。2層オリーブ褐色土層2.5Y4/4。(炉) 住居址中央よりやや北側で検出された。床を

若干掘り込んだ地床炉だが、南側に土手を有す。1層赤褐色土層2.5YR4/8。焼土層。2層暗褐色土層10YR3/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 土器細片が僅かに出土しているが、図示しれるものはない。炉址の周辺で、焼土や炭化物が検出されている。また、炉址内の土壤を分析した結果、炭化種実が検出された。

第18号住居址（S I 0 1 8・第24図）

(位置) 08F,G-6,7グリッド。(重複) 住居址東側で、近世以降に構築された土坑と重複している。(形状) 隅丸長方形か?。(規模) 南北6.1m。(覆土) 1層にぶい黄褐色土層10YR4/3。2層暗褐色土層10YR3/4。3層オリーブ褐色土層2.5Y4/4。(炉) 住居址中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層赤褐色土層2.5YR4/8。焼土層。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 住居址南西コーナーで、土坑を検出した。土坑内には3基のピットが確認されている。このうちテラスを持つピットの上面からは、ほぼ完形の台付甕が、西側のピット上面では器台の脚部が出土している。1層褐色土層10YR4/4。2層暗褐色土層10YR3/4。3層にぶい黄褐色土層10YR4/3。4層オリーブ褐色土層2.5Y4/4。(出土遺物) 住居址全面からS字甕・台付甕等が出土しているが、土坑周辺で、台付甕・高坏・鉢などがまとめて出土している。また、焼土や炭化材が壁際を中心に検出された。また、炉址・土坑内の土壤を分析した結果、炭化種実が検出された。

第19号住居址（S I 0 1 9・第25図）

(位置) 08G,H-I-9,10グリッド。(重複) 住居址東側で、23・25号住居址と重複しているが覆土が酷似しているため、新旧関係は不明である。(形状) 本址および23・25号住居址は、その覆土はもちろん、遺構確認面と住居址覆土も酷似しており、プラン確認が難航した。その結果、本址では北側が調査区外ということもあり西壁の一部を検出したにすぎず、形状および規模は不明である。(規模) 不明。(覆土) 1層にぶい黄褐色土層10YR4/3。(炉) 床を若干掘り込んだ地床炉だが、南側に土手を有す。1層赤褐色土層2.5YR4/8。焼土層。2層暗褐色土層10YR3/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 住居址南東で1本確認されている。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 壺・高坏・台付甕等が散在して出土している。また、炉址内の土壤を分析した結果、炭化種実が検出された。

第22号住居址（S I 0 2 2・第25図）

(位置) 08G,H-5,6グリッド。(重複) 14・18・28号住居址と重複している。このうち、14号住居址は覆土が酷似しており新旧関係は不明。28号住居址は本址を切って構築されていることがセクションより確認された。(形状) 隅丸長方形。(規模) 6.9m×6.2m。(覆土) 1層暗灰黄色土層2.5Y4/2。28号住居址覆土。2層にぶい黄褐色土層10YR4/3。3層暗褐色土層10YR3/4。4層オリーブ褐色土層2.5Y4/4。(炉) 住居址中央より若干北側で検出された。明確な掘り込みなどは確認されず、焼土(赤褐色土層2.5YR4/8)が散布するだけで、貧弱な印象を受ける。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 住居址南側に集中する傾向がある。台付甕・S字甕・鉢・小型丸底鉢・壺・手焙形土器等が出土した。手焙形土器はほぼ完形で、住居址南壁際の中央、出入口に相当する箇所で口縁部が床に接するように出土した。

第23号住居址（S I 0 2 3・第26図）

(位置) 08F,G,H-8,9グリッド。(重複) 19・25号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、新旧関係は不明である。(形状) 本址および19・25号住居址は、その覆土はもちろん、遺構確認面と住居址覆土も酷似しており、プラン確認が難航した。その結果、本址で西壁と南壁の一部を検出するのみで、プランは不

明である。(規模) 不明。(覆土) 1層灰黄褐色土層10YR4/2。(炉) 3基の炉が確認されている。いずれも床を若干掘り込んだ地床炉で、覆土には焼土、赤褐色土層2.5YR4/8が堆積していた。ただ、これら3基の炉すべてが本住居址に帰属するものとは断定できない。上記したように本住居址の検出された周辺は、遺構確認面と住居址覆土が酷似しており、プラン確認が非常に難航し、それ自体不明瞭と言わざるをえない。炉址の検出された位置も変則的で、検討の余地が残されている。複数の住居址が確認できずに、重複して存在した可能性も充分考えられる。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 住居址全面からS字甕・台付甕・壺・鉢・高坏等が出土している。

第25号住居址 (S 1 0 2 5・第26図)

(位置) 08G-9,10グリッド。(重複) 住居址東側で、19・23号住居址と重複しているが覆土が酷似しているため、新旧関係は不明である。(形状) 本址および19・23号住居址は、その覆土はもちろん、遺構確認面と住居址覆土も酷似しており、プラン確認が難航した。その結果、本址では北壁から東壁の一部が確認されたのみで、形状および規模は不明である。(規模) 不明。(覆土) 1層にぶい黄褐色土層10YR4/3。(炉) 床を若干掘り込んだ地床炉だが、南側に土手を有す。1層赤褐色土層2.5YR4/8。焼土層。2層暗褐色土層10YR3/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 壺・鉢・台付甕・S字甕等が散在して出土している。

第28号住居址 (S 1 0 2 8・第26図)

(位置) 08G-5,6グリッド。(重複) 住居址西側で、22号住居址と重複している。22号住居址東西セクションで、本址が22号住居址を切って構築されていることが確認された。(形状) 本址は、遺構確認の段階で炭化材等が検出されたことからその存在が注意され、22号住居址東西セクションで、硬化した床面を確認することで確定的となった。しかし、覆土と遺構確認面の土色が酷似しているため、プラン確認は難航した。その結果、南北両壁の一部が検出されただけで、全体の形状は不明である。(規模) 南北3.9m(覆土) 1層暗灰黄色土層2.5Y4/2。(炉) 住居址西側の変則的な場所に位置している。明確な掘り込みは確認されず、焼土(赤褐色土層2.5YR4/8)が散布するだけで、貧弱な印象を受ける。(床) 住居址中央から西側にかけて、硬化した床が検出された。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 炭化材が住居址中央でまとまって出土した。火災に遭った住居址か。また、壺・台付甕・高坏等が散在して出土している。

第2号掘立柱建物址 (S B 0 0 2・第25図)

(位置) 08I-8グリッド。(重複) 17号住居址と東側柱穴が重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、新旧関係は不明である。(規模) 東西1間(3.0m)×南北1間(3.1m)。(柱間寸法) 東西方向2.5~2.6m。南北方向2.6~2.7m。(柱穴の状況) 確認された柱穴は径40~60cmの円形を呈し、深さは20~30cmを測る。覆土は基本的に3層に分層される。1層オリーブ褐色土層2.5Y4/3。2層黒褐色土層10YR3/2。柱痕と思われる。3層暗灰黄色土層2.5Y4/2。(出土遺物) 柱穴からの遺物は皆無であるが、掘り込みが古墳時代前期住居址と同一面であることから該期の遺構と判断した。

第3号掘立柱建物址 (S B 0 0 3・第25図)

(位置) 08I-6,7グリッド。(重複) 16号住居址と西側柱列が重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、新旧関係は不明である。(規模) 東西1間(3.0m)×南北2間(3.8m)?。柱列が東西方向で若干ずれている。(柱間寸法) 東西方向2.3~2.5m。南北方向1.2~2.2m。(柱穴の状況) 確認された柱穴は径40~70cmの不整円形を呈し、深さは25~60cmを測る。覆土は基本的に3層に分層される。1層オリーブ褐色土層2.5Y4/3。2

層黄灰色土層2.5Y4/1。3層黒褐色土層2.5Y3/1。(出土遺物)柱穴からの遺物は皆無であるが、掘り込みが古墳時代前期住居址と同一面であることから該期の造構と判断した。

IV区

第2号住居址（S1002・第27図）

(位置) 07C,D-9グリッド。(重複)なし。(形状)隅丸方形。(規模)2.5m×2.3m。(覆土)1層にぶい黄褐色土層10YR4/3。(炉)住居址中央よりやや西側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床)全体的に軟弱。(壁溝)検出されていない。(柱穴)検出されていない。(その他の施設)検出されていない。(出土遺物)小型壺・甕等が出土している。

第3号住居址（S1003・第27図）

(位置) 07E-10,11グリッド。(重複)なし。(形状)西側が調査区外となり、形状は不明。(規模)南北5.8m。(覆土)1層にぶい黄褐色土層10YR4/3。2層暗褐色土層10YR3/3。(炉)住居址中央よりやや東側で検出され、周辺には炭化物が散布していた。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床)全体的に軟弱。(壁溝)検出されていない。(柱穴)住居址北東隅で1本検出された。深さ10cmを測る浅いものである。(その他の施設)検出されていない。(出土遺物)高坏や甕の破片が出土したのみ。

第4号住居址（S1004・第27図）

(位置) 07F,G-11,12グリッド。(重複)本址東側で5号住居址と重複している。両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状)西側は調査区外、東側は5号住居址と重複しているため、形状は不明。方形プランとなるか。(規模)不明。(覆土)1層にぶい黄褐色土層10YR4/3。(炉)住居址中央より南側の変則的な位置で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床)全体的に軟弱。(壁溝)検出されていない。(柱穴)検出されていない。(その他の施設)検出されていない。(出土遺物)高坏の脚部が出土したのみで、ほかに図示しえるものはない。

第5号住居址（S1005・第28図）

(位置) 07E,F-12,13グリッド。(重複)本址西側で4号住居址と、東側で6号住居址と重複しているが両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状)隅丸長方形。(規模)6.8m×5.7m。(覆土)1層にぶい黄褐色土層10YR4/3。2層暗褐色土層10YR3/4。(炉)住居址中央よりやや北側の住居址主軸上で検出され、炉の主軸と住居址の主軸が直交している。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床)住居址中央周辺で硬化した面が確認された。(壁溝)検出されていない。(柱穴)6本の柱穴が検出された。いずれも掘り方を調査中に確認したものである。中央で検出された柱穴の東西軸がずれているが、深度は他と大差なく6本主柱穴の可能性がある。(その他の施設)検出されていない。(出土遺物)壺・高坏・台付甕などが出土した。台付甕は、南西コーナーで検出された柱穴内から、その胴下半部が正位に出土した。

第6号住居址（S1006・第28図）

(位置) 07E-12,13グリッド。(重複)本址西側で5号住居址と重複している。両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状)不明。(規模)不明。(覆土)1層にぶい黄褐色土層10YR4/3。(炉)検出されていない。(床)全体的に軟弱。(壁溝)検出されていない。(柱穴)北東コーナーで1本検出された。(その他の施設)検出されていない。(出土遺物)高坏の脚部・台付甕の破片が出土したのみ。

第7号住居址（S 1007・第28図）

（位置）07G-12,13グリッド。（重複）なし。（形状）南西コーナー周辺が調査区外となるが、方形プランとなる。 （規模）4.0m×3.9m。（覆土）1層にぶい黄褐色土層10YR4/3。2層にぶい赤褐色土層5YR4/4。焼土層。（炉）住居址のほぼ中央で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。（床）全体的に軟弱である。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）片口を有する壺形土器・器台・鉢・台付壺などが出土した。

第8号住居址（S 1008・第29図）

（位置）07G,H-15,16グリッド。（重複）3号掘立柱建物址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。（形状）方形。南壁の中央はプラン確認の際欠失してしまった。（規模）5.8m×5.6m。（覆土）1層褐色土層10YR4/4。2層暗褐色土層10YR3/4。3層にぶい黄褐色土層10YR4/3。（炉）住居址の中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。（床）全体的に軟弱である。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）壺・壺等が僅かに出土した。また、本址では炭化材・炭化物・焼土が放射状に検出されており、火災に遭った可能性がある。

第9号住居址（S 1009・第29図）

（位置）07G,H-18～20グリッド。（重複）10号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。（形状）隅丸長方形。（規模）9.0m×7.5m。（覆土）1層褐色土層10YR4/4。（炉）住居址の中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉で南側縁辺には土手を有す。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。（床）全体的に軟弱である。（壁溝）検出されていない。（柱穴）いずれも床面精査の段階では確認できず、掘り方を調査中に検出したものである。4本主柱穴となろう。（その他の施設）南壁東側で、西側にテラスを持つピットが検出された。（出土遺物）台付壺・壺・鉢などが散在して出土。

第10号住居址（S 1010・第30図）

（位置）07F,G-20グリッド。（重複）9号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。（形状）隅丸方形。（規模）3.5m×3.2m。（覆土）1層褐色土層10YR4/4。2層にぶい黄褐色土層10YR4/3。（炉）住居址の中央よりやや北西側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。（床）全体的に軟弱である。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）南壁際で径30cm程の礫が2点、接して出土した。出入口に伴う施設に關係するものか。（出土遺物）S字壺・台付壺・壺・ひさご壺・鉢のほか、小型の礫が散在して出土した。

第11号住居址（S 1011・第30図）

（位置）07E,F-20・08E,F-1グリッド。（重複）12号住居址、IV a 区50・51号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。（形状）隅丸方形となろう。南東コーナー付近は12号住居址、IV a 区51号住居址と重複する箇所のため、壁および壁溝の検出は上記の理由から不可能であった。（規模）5.7m×5.5m。（覆土）1層褐色土層10YR4/4。2層にぶい黄褐色土層10YR4/3。（炉）住居址の中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉で南側縁辺には土手を有す。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。（床）全体的に軟弱である。（壁溝）南壁西側から東壁にかけて検出された。幅10～30cm、深さ10cmを測る。（柱穴）本来は4本柱主柱穴であったと考えられるが、北側の2本のみ検出した。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）台付壺・小型壺・高杯が散在して出土したほか、炭化材や焼土が検出された。

第12号住居址（S 1012・第30図）

（位置）07D,E-19,20グリッド。（重複）11号住居址、IV a 区29号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。（形状）方形。（規模）5.9m×5.8m。（覆土）1層褐色土層10YR4/4。2層にぶい黄褐色土層10YR4/3。（炉）住居址のほぼ中央で検出された。掘り込みは確認されず、焼土と炭化物が散布するのみ。（床）全体的に軟弱である。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）台付壺・S字甕・壺・高坏・器台・鉄製品が散在して出土したほか、炭化材や焼土が検出された。

第13号住居址（S 1013・第31図）

（位置）07E,F-18,19グリッド。（重複）なし。（形状）方形。（規模）4.6m×4.6m。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/4。2層褐色土層10YR4/4。3層にぶい黄褐色土層10YR4/3。（炉）住居址のほぼ中央で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。（床）全体的に軟弱である。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）S字甕・高坏・ヒサゴ壺などが散在して出土した。このうち、S字甕は一般的なもののはかに、口縁部が発達し大型となるものが出土している。

第14号住居址（S 1014・第31図）

（位置）07D,E-17,18グリッド。（重複）なし。（形状）方形プランか。本址はプラン確認の段階で炉址が露呈し、住居址東側では掘り込みが確認できない。僅かに残存する覆土（焼土粒や炭化物粒を混入。）の広がりからプランを推定した。（規模）南北4.9m。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/4。（炉）住居址のほぼ中央で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。（床）全体的に軟弱である。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）高坏・蓋・鉄製品などが散在して出土した。

第15号住居址（S 1015・第31図）

（位置）07D,E-15グリッド。（重複）16号住居址と重複しているが、両者とも遺構確認面からの掘り込みが10cm程度と極めて浅く、覆土の残存状況が悪く色調も酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。（形状）西壁が16号住居址と重複し判断としないが、方形プランとなろう。（規模）南北4.7m。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/4。（炉）住居址中央よりやや西よりで検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。（床）全体的に軟弱である。（壁溝）検出されていない。（柱穴）炉址の西側で1本検出された。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）壺・台付壺・手捏ね土器などが散在して出土した。

第16号住居址（S 1016・第31図）

（位置）07E,F-15グリッド。（重複）15号住居址と重複しているが、両者とも遺構確認面からの掘り込みが10cm程度と極めて浅く、覆土の残存状況が悪く色調も酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。（形状）東壁から北壁の一部が15号住居址と重複し判断としないが、方形プランとなろう。（規模）5.1m×5.0m。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/4。（炉）住居址のほぼ中央で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。（床）全体的に軟弱である。（壁溝）検出されていない。（柱穴）掘り方を調査中に4本の柱穴を検出した。4本柱主柱穴となろう。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）壺・高坏の破片が僅かに出土した。

第17号住居址（S 1017・第32図）

(位置) 07E,F-13,14グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸方形。(規模) 3.1m×2.8m。(覆土) 1層オリーブ褐色土層2,5Y3/4。2層暗褐色土層10YR4/3。(炉) 住居址中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 壺・壺の破片が散在して出土。

第2号掘立柱建物址 (S B 0 0 2・第32図)

(位置) 07E-16,17グリッド。(重複) なし。(規模) 東西1間(3.3m)×南北2間(3.8m)。ただ、南側の梁では小型の柱穴が主柱間で確認されており、出入口の施設に伴う可能性がある。これを含めると南側の梁も2間となる。(柱間寸法) 東西方向2.7m。南北方向1.3~1.5m。(柱穴の状況) 確認された柱穴は径60~80cmの楕円形を呈し、深さは30cm前後を測る。南側の梁で確認された小型の柱穴は径30cm、深さ30cmを測る。いずれの柱穴も柱痕は確認できない。覆土は基本的に1層である。1層オリーブ褐色土層2,5Y4/3。(出土遺物) 柱穴からの遺物は皆無であるが、遺構確認面が古墳時代前期住居址と同一面であることから該期の遺構と判断した。

第3号掘立柱建物址 (S B 0 0 3・第32図)

(位置) 07F,G-14,15グリッド。(重複) 8号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(規模) 東西2間(5.9m)×南北2間(3.9m)。ただ、桁行は、中央の柱穴列が他に比べ規模が小さく3間となり変則的で、総柱というよりは補助的な柱穴と思われる。(柱間寸法) 東西方向1.5~2.5m。南北方向1.3~1.8m。(柱穴の状況) 確認された柱穴は径20~80cmの不整円形を呈し、深さは10~50cm前後を測る。いずれの柱穴も柱痕は確認できない。覆土は基本的に1層である。1層オリーブ褐色土層2,5Y4/3。(出土遺物) 柱穴からの遺物は皆無であるが、遺構確認面が古墳時代前期住居址と同一面であることから該期の遺構と判断した。

第5号溝址 (S D 0 0 5・第32図)

(位置) 07I,J-15~20・08I,J-1,3グリッド。(重複) なし。(規模および形状) III区からIV区の調査区西端で、ほぼ南北方向に検出されたが、両端は調査区外となり、その規模は不明である。ただ、I b区9号溝およびII b区4号溝が、方向を同じくして古墳時代前期遺構確認面から検出されていることから、これらは同一の溝の可能性がある。幅1~2m、深さ1.0~1.5mを測る。断面は西側がやや急峻となるが、逆台形となる。(覆土) 1層灰オリーブ色砂礫層5Y4/2。2層オリーブ褐色砂層2,5Y4/4。3層灰オリーブ色砂礫層5Y4/2。4層黒褐色砂層2,5Y3/2。5層オリーブ黒色砂層5Y3/2。(出土遺物) 覆土中から壺・小型壺・台付壺・高壺などが散在して出土した。

IV a区

第18号住居址 (S I 0 1 8・第34・35図)

(位置) 07A,B,C-12,13,14グリッド。(重複) 19・41・42号住居址、4号溝と重複している。住居址は両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明である。4号溝は土層観察から本址が、溝を切って構築されていることが確認された。(形状) 隅丸長方形。(規模) 11.6×9.1m。本遺跡古墳時代で確認された、最大規模の竪穴住居址となる。(覆土) 火災に遭った可能性があるため、どの覆土からも焼土・炭化物粒が混入している。1層極暗褐色土層7,5YR2/3。2層暗褐色土層7,5YR3/3。3層黒褐色土層7,5YR3/2。4層暗褐色土層10YR3/3。(炉) 住居址中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉であるが、南側縁辺に土手を有す。1層10R5/8赤色土層。(床) 住居址縁辺を除き、ほぼ全体に硬化した面が確認された。(壁溝) 全周している。幅30~50cm、深さ20cm前後を測る。(柱穴) 柱穴は4本確認され、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 住居址南東コーナーで、土坑を検出した。南側には粘質土を用いて土手が構築されているが、二次的加

熱により赤化している。掘り方は、北西にテラスを持ち、南側の壁はオーバーハングしている。1層にぶい黄褐色土層10YR4/3。2層にぶい黄褐色土層10YR4/3。焼土・炭化物粒を多量に混入。3層暗褐色土層10YR3/3。4層10R5/8赤色土層。(遺物出土状況) 本址は、炉周辺を中心に炭化材が放射状に検出され、焼土の堆積も見られることから、火災に遭った可能性がある。土器は、壺・台付壺・S字壺・高坏・器台・鉢・手捏ね土器などが数多く出土した。このうち、壺や台付壺は大小様々なサイズのものが、S字壺は一般的なものと、口縁部が発達し大型となるものの二者が確認されている。これらの土器は炉址周辺と土坑周辺に集中する傾向がある。炉の北側では口縁部を欠く大型の壺(胸部最大径65cm、残存高57cm、底径17cm)が床に密着するように横れて出土した。土坑内およびその周辺と住居址縁辺では、小型壺・手捏ね土器などの小品が出土する傾向が看取される。また、本址では鉄鎌6点がいずれも住居址北西から出土した。このうち、北西コーナー付近で出土した2点は床面直上から、残りの4点は覆土中からの出土である。本遺跡の古墳時代前期に比定される約140軒の堅穴住居址から出土した鉄製品の総計は11点で、その半数以上が本址から出土していることとなり、注目される。

上記したとおり、本址はその規模から、該期のいわゆる大型住居址として捉えられ、出土した遺物や、その出土状況も考慮すると本遺跡古墳時代前期集落でも特筆すべき住居址である。

第19号住居址 (S 1019・第36図)

(位置) 07C,D-12,13グリッド。(重複) 18・41号住居址と重複しているが、本址が掘り方しか残存しないため、土層観察による新旧関係は不明である。(形状) 本址は造構確認の段階で掘り方しか残存しておらず、住居址縁辺を巡る溝状の掘り込みを検出した。その形状から推察すると方形プランとなるか。(規模) 南北8.1m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。掘り方覆土。(炉) 検出されていない。(床) 検出されていない。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 本址から出土した遺物は皆無である。

第24号住居址 (S 1024・第36図)

(位置) 07B,C,D-17,18グリッド。(重複) 25号住居址と重複しているが、覆土が酷似しているため土層観察による新旧関係は不明である。(形状) 隅丸長方形。(規模) 7.2m×6.0m。(覆土) 1層暗褐色土層7.5YR3/3。(炉) 住居址中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉で、南側縁辺に土手を持つ。1層赤褐色土層2.5YR4/8。焼土層。(床) 炉を中心硬化した面が確認された。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本の柱穴が確認され、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 南壁の南東コーナー寄りで、土坑を検出した。土坑西側には土手が築かれている。1層にぶい黄褐色土層10YR4/3。2層暗褐色土層10YR3/3。3層暗褐色土層10YR3/4。(出土遺物) 西壁際で、炭化物や炭化材が検出されている。土器は小型のものが多く、土坑周辺で集中的に出土している。土坑の上面では小型高坏が、土坑内覆土下層からは、手捏ね土器・小型壺が出土している。この他、小型台付壺が、東壁際から出土している。

第25号住居址 (S 1025・第37図)

(位置) 07A,B,C-16,17グリッド。(重複) 24号住居址と重複しているが、覆土が酷似しているため土層観察による新旧関係は不明である。(形状) 隅丸長方形。(規模) 6.4m×5.6m。(覆土) 1層褐色土層7.5YR4/3。(炉) 住居址中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉で、南側縁辺に土手を持つ。1層赤褐色土層2.5YR4/8。焼土層。(床) 住居址縁辺を除き、ほぼ全体に硬化した面が確認された。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本の柱穴が確認され、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 住居址西側に、床が10cmほど高くなる面が検出されており、ベッド状造構となろう。また、住居址南壁のやや東寄りで土坑を検出した。土坑はテラスを持ち二段壠のような掘り方となる。1層にぶい黄褐色土層10YR4/3。2層暗褐色土層10YR3/4。3層にぶい黄褐色土層10YR4/3。(出土遺物) 壺・高坏・台付壺・鉢等が散在して出土している。

第27号住居址（S I 0 2 7・第37図）

（位置）07A-17,18グリッド。（重複）33号住居址と重複しているが、覆土が酷似しているため土層観察による新旧関係は不明である。（形状）南壁が33号住居址と重複しているため判然としないが、隅丸方形となろう。（規模）東西4.2m。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/3。（炉）住居址中央より南側という、変則的な位置で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉で北側縁辺に土手を有す。1層赤褐色土層2,5YR4/8。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）4本の柱穴が確認され、いずれも主柱穴となろう。（その他の施設）南西コーナーで、土坑が検出されている。（出土遺物）台付壺・壺・高坏などが散在して出土。

第28号住居址（S I 0 2 8・第38図）

（位置）07C-19,20グリッド。（重複）29号住居址と重複しているが、本址の覆土が残存しておらず土層観察による新旧関係は不明である。（形状）隅丸方形。（規模）3.3m×3.0m。（覆土）遺構確認の段階で炉が露出するような状況で、覆土は残存していない。（炉）住居址中央よりやや、北西寄りで検出された。床を若干掘り込んだ地床炉で、南側に土手を有す。1層赤褐色土層2,5YR4/8。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）土師器細片が僅かに出土。図示し得るものはない。

第29号住居址（S I 0 2 9・第38図）

（位置）07C,D-20グリッド。（重複）IV区12号住居址、IV a 区28号住居址と重複しているが覆土が酷似していることから土層観察による新旧関係は不明である。（形状）隅丸長方形。（規模）4.6m×3.9m。（覆土）1層褐色土層10YR4/4。2層暗褐色土層10YR3/3。（炉）住居址中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉だが、南側に土手を有す。1層赤褐色土層2,5YR4/8。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）5本の柱穴が確認された。このうち、各コーナーから検出された4本が主柱穴となろう。（その他の施設）南東コーナー付近で、楕円を呈す土坑が検出された。（出土遺物）鉢・台付壺・高坏等が炉周辺から出土している。

第33号住居址（S I 0 3 3・第38図）

（位置）07A,02T-17グリッド。（重複）27・98号住居址と重複しているが、覆土が酷似していることから、土層観察による新旧関係は不明である。（形状）本址は覆土と遺構確認面の色調が酷似しているため、プラン確認が難航した。結局不整形を呈す形状となったが、本来は該期に一般的な方形プランであったと思われる。（規模）東西3.8m（覆土）1層暗褐色土層10YR3/4。（炉）住居址北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層赤褐色土層2,5YR4/8。（床）全体的に軟弱である。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）東壁際で、小型の台付壺が出土した。

第34号住居址（S I 0 3 4・第38図）

（位置）07B-19,20グリッド。（重複）35号住居址と重複しているが、本址が35号住居址を切って構築されていることが土層観察から判明している。（形状）隅丸方形。（規模）4.2m×4.0m。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/4。（炉）住居址中央よりやや西側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉だが、東側に土手を持つ。1層赤褐色土層2,5YR4/8。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）壺・台付壺などが散在的に出土している。

第35号住居址（S I 0 3 5・第39図）

（位置）07B,C-20グリッド。（重複）34・36・90号住居址と重複している。34号住居址は本址を切って構築

されていることが土層観察から判明している。36・90号住居址は覆土が酷似していることから、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 隅丸方形。(規模) 4.7m×4.5m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。34号住居址覆土。2層褐色土層10YR4/4。(炉) 住居址中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉だが、南側に土手を持つ。1層赤褐色土層2,5YR4/8。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出された。いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 壺の破片が散在的に出土するのみ。

第36号住居址（S 1036・第39図）

(位置) 07B,C-20,08B,C-1グリッド。(重複) 35・90号住居址と重複しているが、覆土が酷似していることから、土層観察による新旧関係は不明である。(形状) 隅丸方形。(規模) 3.9m×3.6m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR4/4。2層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 住居址中央よりやや東側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層赤褐色土層2,5YR4/8。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 5本検出されている。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 壺・S字壺の破片が散在的に出土している。

第41号住居址（S 1041・第39図）

(位置) 07C,D-12,13グリッド。(重複) 18・19号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 隅丸方形。(規模) 5.8m×5.9m。(覆土) 1層暗褐色土層7,5YR3/3。2層褐色土層7,5YR4/3。3層にぶい黄褐色土層10YR4/3。(炉) 住居址中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 5本の柱穴が確認された。このうち、各コーナーから検出された4本が主柱穴となろう。南壁際のほぼ中央で検出された柱穴は、出入口に伴う施設に関わるものか。(その他の施設) 南壁東側で、土坑が検出された。(出土遺物) 壺・S字壺・台付壺等が散在して出土している。

第42号住居址（S 1042・第40図）

(位置) 07B-14グリッド。(重複) 近世以降に構築された土坑と、18号住居址と重複している。住居址は両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 南側が18号住居址と重複しているため、不明。(規模) 東西4.1m。(覆土) 1層暗褐色土層7,5YR3/3。(炉) 床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(出土遺物) 図示しえるものはない。

第46号住居址（S 1046・第40図）

(位置) 08B,C-2,3グリッド。(重複) 47号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 隅丸方形。(規模) 6.5m×6.2m。(覆土) 1層暗褐色土層7,5YR3/3。2層褐色土層7,5YR4/3。(炉) 住居址中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉で、南側縁辺に土手を持つ。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 7本の柱穴が確認された。このうち、南壁際のほぼ中央で検出された柱穴は、出入口に伴う施設に関わるものと考えられる。残る6本が主柱穴となろう。(その他の施設) 南西コーナーで、土坑が検出された。(出土遺物) 住居址東側で、台付壺・壺・高壙・手捏ね土器などがまとめて出土した。また、北東コーナーで検出された柱穴内からも、壺の大型破片が出土した。

第47号住居址（S 1047・第40図）

(位置) 08B-1,2グリッド。(重複) 46号住居址と重複している。住居址は両者の覆土が酷似しているため、

土層観察による新旧関係は不明。(形状) 隅丸方形。(規模) 4.5m×4.4m。(覆土) 1層暗褐色土層7,5YR3/3。(炉) 住居址中央よりやや北東側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 土器の細片が出土したのみで図示しえるものはない。

第50号住居址 (S I 0 5 0・第41図)

(位置) 08E,F-1グリッド。(重複) IV区11号住・IV a区53号住と重複している。住居址は両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 住居址東側が11・53号住居址と重複し判然としないが、隅丸方形となるか。(規模) 東西4.6m。(覆土) 1層暗褐色土層7,5YR3/3。(炉) 住居址のほぼ中央で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉で、南側縁辺に土手を持つ。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 2本検出されている。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 壺・高坏・台付壺の破片が散在的に出土した。

第51号住居址 (S I 0 5 1・第41図)

(位置) 07D-20,08D,E-1グリッド。(重複) IV区11号住・IV a区53号住と重複している。住居址は両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 11・53号住居址と重複し判然としないが、隅丸長方形となるか。(規模) 東西4.8m。(覆土) 1層暗褐色土層7,5YR3/3。(炉) 住居址の中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉で、東側縁辺に碟を3点配す。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出されている。このうち、各コーナーで検出された3基が主柱穴となるか。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 炭化材や炭化物が炉の周辺で検出されたほか、鉄錆・壺・高坏・S字壺の破片が散在的に出土した。

第53号住居址 (S I 0 5 3・第41図)

(位置) 08D,E,F-1,2,3グリッド。(重複) 50・51・54・56・58号住居址と重複している。このうち、54号住居址は、本址に切られていることが土層観察から判明している。他は覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 隅丸方形。(規模) 8.5m×7.9m。(覆土) 1層暗褐色土層7,5YR3/3。(炉) 住居址の中央よりやや東側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉で、東側縁辺に土手をもつ。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出されており、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 壺・高坏・S字壺・ヒサゴ壺の破片が散在的に出土した。

第54号住居址 (S I 0 5 4・第42図)

(位置) 08C,D-1,2グリッド。(重複) 58・53号住居址と重複している。本址は53号住居址に切られていることが、土層観察から判明している。(形状) 隅丸長方形。(規模) 6.7m×5.0m。(覆土) 1層暗褐色土層7,5YR3/3。焼土および炭化物粒を混入。2層褐色土層10YR4/4。焼土および炭化物粒を多量に混入。(炉) 住居址の中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉で、南側縁辺に土手をもつ。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出されており、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 南壁東側で、土坑を検出した。1層暗褐色土層7,5YR3/3。(出土遺物) 本址は炭化材・炭化物・焼土粒などが放射状に検出していることから、火災に遭った可能性がある。壺・高坏などが出土した。

第56号住居址 (S I 0 5 6・第42図)

(位置) 08F,G-2,3グリッド。(重複) 53号住居址と重複しているが覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 隅丸方形となるか。(規模) 南北6.0m。(覆土) 1層暗褐色土層7,5YR3/3。(炉) 住居址中央よりやや南側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出されており、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) S字甕・壺・高坏のほか、砥石・鉄製品などが出土している。

第57号住居址（S 1 0 5 7・第43図）

(位置) 08A,B-3,4グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸方形。(規模) 3.5m×3.5m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/3。(炉) 住居址のほぼ中央で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出されており、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) S字甕・壺・高坏の破片が散在して出土している。

第58号住居址（S 1 0 5 8・第43図）

(位置) 08C,D-3,4グリッド。(重複) 53・54・88・89号住居址と重複しているが覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 隅丸方形。(規模) 8.2m×8.0m。(覆土) 1層黒褐色土層7,5YR3/2。2層暗褐色土層10YR3/3。3層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 住居址の中央より西側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 東壁の中央付近を除き、全周する。(柱穴) 6本検出されている。炉の位置を考慮すれば、南壁際で検出された2本を除く4本が主柱穴となるのが一般的であるが、すべての柱穴がその規模・深度ともに近似しており、検討の余地がある。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 住居址西側を中心に個体となるS字甕・壺・高坏・器台が集中して出土する傾向が看取される。また、北壁際からは、手捏ね土器・鉢が出土している。

第61号住居址（S 1 0 6 1・第44図）

(位置) 08D,E-6,7グリッド。(重複) 62・63号住居址と重複しているが覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 南壁が62号住居址と重複し、不明瞭であるが隅丸方形となるか。(規模) 東西5.4m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/3。(炉) 住居址中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉で、南側に土手を持つ。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 5本検出されている。このうち、住居址各コーナーから検出された4基が主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 土器の細片が散在的に出土。図示しえるのは壺の底部破片のみ。

第62号住居址（S 1 0 6 2・第44図）

(位置) 08D,E-5,6グリッド。(重複) 61・63号住居址と重複しているが覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 隅丸方形。(規模) 5.6m×5.4m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/3。(炉) 住居址中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 5本検出されており、住居址各コーナーから検出された4本が主柱穴となろう。南壁際のほぼ中央から検出されたものは、出入口に伴う施設に關係するものか。(その他の施設) 南壁際で、土坑を検出した。1層暗褐色土層10YR3/4。2層暗褐色土層10YR3/3。(出土遺物) 台付甕・S字甕・高坏の破片が散在して出土した。

第63号住居址（S 1 0 6 3・第45図）

(位置) 08C,D-6グリッド。(重複) 61・62号住居址と重複しているが覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 方形となるか。(規模) 東西5.1m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/3。(炉) 検出

されていない。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 2本検出されている。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 土器の細片が散在的に出土。図示しえるものはない。

第66号住居址（S 1066・第45図）

(位置) 08B,C-7グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸長方形。(規模) 3.2m×2.7m。(覆土) 1層暗褐色土層7,YR3/3。(炉) 住居址中央より若干北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5,YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出されており、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 炭化物や炭化材を検出したほか、S字壺・器台などが散在して出土。

第67号住居址（S 1067・第45図）

(位置) 08C,D-7~9グリッド。(重複) 68号住居址と重複しているが覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。また、東壁の一部が近世以降に構築された土坑に切られている。(形状) 小判形となるか。(規模) 7.4m×5.6m。(覆土) 1層暗褐色土層10,YR3/3。(炉) 住居址中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉で、南側に土手を持つ。1層にぶい赤褐色土層5,YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 3本検出されており、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 南壁際で、土坑を検出した。1層暗褐色土層7,YR3/3。2層暗褐色土層10,YR3/3。(出土遺物) 土坑内から、台付壺・高坏が出土した。

第68号住居址（S 1068・第46図）

(位置) 08D-8,9グリッド。(重複) 67号住居址と重複しているが覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 隅丸長方形。(規模) 5.0m×3.8m。(覆土) 1層暗褐色土層10,YR3/3。(炉) 住居址中央より東側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5,YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出されており、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 住居址北西コーナーで、土坑を検出した。(出土遺物) 住居址のほぼ全面からS字壺・台付壺・壺・ヒサゴ壺・小型壺・鉢・手焙形土器・手捏ね土器・高坏・器台などの古式土器や、砥石などの石器および多量の礫が出土した。これらは覆土中位から上位で出土したものが多い。また、黄白色の粘土が土坑の上面と、住居址南東コーナー付近で検出された。

第69号住居址（S 1069・第46図）

(位置) 08A,B-7,8グリッド。(重複) 近世以降に構築された土坑に切られているほか、75号住居址と重複しているが覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 住居址覆土と地山の色調が酷似している箇所があり、掘り方が不明瞭な箇所があるが、隅丸方形となろう。(規模) 6.9m×6.7m。(覆土) 1層暗褐色土層10,YR3/3。(炉) 住居址中央より北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉で、南側に土手を持つ。1層にぶい赤褐色土層5,YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 3本検出されており、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 住居址南東コーナーで、土坑を検出した。土坑東側には弧状に土手が巡る。1層暗褐色土層10,YR4/3。2層暗褐色土層10,YR3/3。(出土遺物) S字壺・壺・北陸系壺・高坏などが散在的に出土。

第70号住居址（S 1070・第47図）

(位置) 08B,C-11,12グリッド。(重複) なし。(形状) 小判型を呈す。(規模) 3.5m×3.1m。(覆土) 1層暗褐色土層10,YR3/4。(炉) 住居址中央より北西で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤

褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出されており、いずれも主柱穴となる。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 土器の細片が出土。図示しえるものはない。

第71号住居址（S 1 0 7 1・第47図）

(位置) 08B,C-13グリッド。(重複) なし。(形状) 本址はその大部分が調査区外となり、形状は不明。(規模) 不明。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/3。2層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 検出されていない。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 1本検出されている。南東コーナーの主柱穴となるか。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) S字壺・壺が出土。

第72号住居址（S 1 0 7 2・第47図）

(位置) 08D,E-12グリッド。(重複) 搾乱に切られているほか、73号住居址と重複しているが覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 本址の約半分が調査区外となるため判然としないが、隅丸長方形となるか。(規模) 東西6.9m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/3。2層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 住居址東側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉で、南側に梢円を呈す疊2点を配す。1層赤褐色土層2,5YR4/8。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出されている。深度を考慮すると、東西に並ぶ3本の柱穴が主柱穴となるか。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) S字壺・壺・ヒサゴ壺・高坏などが出土。S字壺は、柱穴底面から出土したものがある。

第73号住居址（S 1 0 7 3・第47図）

(位置) 08E-12グリッド。(重複) 72号住居址と重複しているが覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 本址はその大部分が調査区外となり、形状は不明。(規模) 不明。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 検出されていない。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 出土遺物なし。

第75号住居址（S 1 0 7 5・第48図）

(位置) 08A,B-9,10グリッド。(重複) 69・78号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。また、近世以降に構築された土坑および、溝状遺構に切られている。(形状) 隅丸長方形。(規模) 8.0m×6.4m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/3。(炉) 住居址のほぼ中央で検出されたが、近世以降に構築された土坑に切られ、北側縁辺の土手が残存するのみ。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本の柱穴が確認され、いずれも主柱穴となる。(その他の施設) 東壁際のほぼ中央で土坑を検出した。土坑西から北側にかけては土手が巡る。1層暗褐色土層10YR3/3。2層暗褐色土層10YR3/4。(出土遺物) S字壺・壺・小型壺・北陸系壺・器台・高坏・蓋などが出土している。このうち、蓋とS字壺が土坑内から出土している。

第77号住居址（S 1 0 7 7・第48図）

(位置) 02T,08A-8,9グリッド。(重複) 75・129号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 75・129号住居址と重複しているため判然としないが、隅丸方形となるか。(規模) 東西5.2m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/3。(炉) 検出されていない。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 2本の柱穴が確認され、いずれも主柱穴となる。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) いずれも破片であるが、S字壺・壺・北陸系壺・鉢などが散在して、出土している。

第78号住居址（S 1 0 7 8・第49図）

(位置) 08A,B-10,11グリッド。(重複) 近世以降に構築された土坑に切られている。また、75号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 住居址西側は、前述した遺構が重複し、なおかつ本址自体の掘り方も非常に浅く不明瞭となり判然としないが、隅丸長方形となるか。(規模) 南北6.1m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/3。(炉) 住居址中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本の柱穴が確認され、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 土器の細片が出土したのみ。図示しえるものはない。

第81号住居址 (S 1081・第49図)

(位置) 08F-8グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸方形。(規模) 2.5m×2.6m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/3。(炉) 住居址の東側で検出されたが、掘り込みを持たず焼土が散布する程度で、炉としては非常に貧弱な印象を受ける。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 1本の柱穴が確認された。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 土器の細片が出土したのみ。図示しえるものはない。

第82号住居址 (S 1082・第49図)

(位置) 08F-9,10グリッド。(重複) III区23号・IVa区84号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 住居址西側はIII区23号と重複し、なおかつ本址自体の掘り方も非常に浅く不明瞭であるが、隅丸長方形となるか。(規模) 南北6.4m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/3。(炉) 住居址中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉で、南側縁辺に土手を持つ。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 3本の柱穴が確認された。このうち北東コーナー壁際で確認されたものはその深度や位置から主柱穴とはなり難い。残りの2本と確認されていないが、住居址西側に対応する柱穴が2本存在したと思われ、4本主柱穴であった可能性が高い。(その他の施設) 南壁際で、土坑を検出した。1層暗褐色土層10YR4/3。2層暗褐色土層10YR3/3。(出土遺物) 図示できるのは高壙1点で、他は土器の細片が散在して出土した。

第83号住居址 (S 1083・第50図)

(位置) 08E,F-10,11グリッド。(重複) 84・85・87号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 隅丸長方形。(規模) 5.9m×5.2m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/3。(炉) 検出されてない。住居址を東西に縱断する土管埋設による攪乱で、消滅したと思われる。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本の柱穴が確認された。いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) S字壺・壺・器台・高壙などが散在的に出土。

第84号住居址 (S 1084・第50図)

(位置) 08F,G-10,11グリッド。(重複) 82・83・85号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 本址はその北半分が83・85号住居址と重複し、形状は不明。(規模) 東西4.7m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/3。(炉) 住居址東側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉で、南側縁辺に土手を持つ。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 南東コーナーで1本確認されたのみ。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 壺・小型丸底鉢などの破片が散在的に出土。

第85号住居址 (S 1085・第50図)

(位置) 08F-11グリッド。(重複) 83・84号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土

層観察による新旧関係は不明。(形状) 本址はその北半分が調査区外、東側が83号住居址と重複しており、形状は不明。(規模) 不明。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/3。(炉) 住居址北側で検出され、一部調査区外となる。掘込みは殆ど確認されず、火床が、床より若干浮いた状態で検出された。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。また、南側の焼土は覆土中から検出した。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 土器の細片が出土したのみ。図示しえるものはない。

第86号住居址（S1086・第51図）

(位置) 08D-4,5グリッド。(重複) 58・88・89号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 本址は東側が89号住居址と、南側が58号住居址と重複し形状は不明瞭。(規模) 不明。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/3。(炉) 床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 北西コーナーで、1本確認された。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) S字甕・壺・高坏・器台・蓋などの破片が散在的に出土。

第87号住居址（S1087・第51図）

(位置) 08D,E-10,11グリッド。(重複) 83号住居址と重複しているが、本址の覆土が殆ど残存しておらず、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 本址西側が83号住居址と重複、北側は搅乱で消滅しており、形状は不明。(規模) 不明。(覆土) 残存していない。(炉) 床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 南東コーナーで、1本確認された。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 出土遺物なし。

第88号住居址（S1088・第51図）

(位置) 08D-4,5グリッド。(重複) 86号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 本址東側が86号住居址と重複しており、形状は不明。(規模) 不明。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/3。(炉) 検出されていない。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 1本検出されている。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 出土遺物なし。

第89号住居址（S1089・第51図）

(位置) 08C,D-4,5グリッド。(重複) 58・86号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 本址は西側が86号住居址、南側を58号住居址と重複しており、形状は不明。(規模) 不明。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/3。(炉) 床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 2本検出されている。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 土器の細片が出土したのみ。図示しえるものはない。

第90号住居址（S1090・第51図）

(位置) 08B-1グリッド。(重複) 35・36号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 本址は西側で35・36号住居址と重複しており、形状は不明。(規模) 不明。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 検出されていない。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 2本検出されている。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 土器の細片が出土したのみ。図示しえるものはない。

第91号住居址（S1091・第52図）

(位置) 02O,P-8~10グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸方形。(規模) 7.6m×7.1m。(覆土) 本址は、

多数確認されている当該期住居址のなかでも覆土の残存状況が良好で、覆土上層でみられる砂層の堆積や、多量の礫を混入する中層以下の覆土の状況は、水の影響を強く受けた本址の埋没過程を想起させるものである。1層オリーブ褐色砂層2.5Y4/4。2層黒褐色土層10YR2/2。50mm前後の礫を多量混入。3層暗褐色土層10YR3/3。10mm前後の礫を多量混入。4層暗褐色土層10YR3/4。5~10mm前後の礫を多量混入。5層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 住居址のはば中央で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本の柱穴が確認された。いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) S字壺・壺・北陸系壺・器台・高壺などが出土。

第92号住居址 (S I 0 9 2・第52図)

(位置) 02P-16・17グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸長方形。(規模) 5.4m×5.0m。(覆土) 1層褐色土層10YR4/4。(炉) 住居址中央より北側で検出された。床を10cm程度掘り込んだ地床炉であるが、破碎した礫が、炉の上面を覆うように出土した。炉内には暗褐色土(10YR3/3)が堆積しており、縁辺に微量の焼土と炭化物が散布していた。本遺跡で掘り込みを持つ当該期炉の多くが、焼土の堆積や赤化した火床面を持つことから、このような検出状況は異質な観を呈す。これは、炉を廃棄する際、炉内の焼土や赤化した火床面を搔きだし、暗褐色土で埋め戻した後、破碎した礫を上面に置くという、一連の行為を想起させ、興味深い事例となろう。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 床面の入り込み等検査を行ったが、検出できなかった。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) S字壺・器台・高壺などが出土したほか、炭化材が放射状に検出された。ただ焼土の検出は皆無に近く、単純に火災住居とは認定し難い。前述した炉の検出状況を考慮すると、本址は住居廃絶時に何らかの儀礼的行為を行った可能性が指摘できよう。

第93号住居址 (S I 0 9 3・第53図)

(位置) 02N,O-17,18グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸長方形。(規模) 6.0m×5.1m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 住居址中央より西側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本の柱穴が確認された。いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 台付壺・北陸系と思われる壺の破片が出土した。

第94号住居址 (S I 0 9 4・第53図)

(位置) 02O-15,16グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸方形。(規模) 5.0m×4.6m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 検出されていない。ただ、住居址中央よりやや東側で数点の礫とともに炭化物が散布する箇所が確認された。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 壺・S字壺・高壺などが出土した。

第95号住居址 (S I 0 9 5・第54図)

(位置) 02R,S,T-18,19グリッド。(重複) 97・100・119号住居址と重複しているが、覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) やや歪な形状を呈すが隅丸方形となろう。(規模) 東西5.6m×5.6m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 住居址中央よりやや北東側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出されており、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 壺・S字壺のほか、小刀状鉄製品が出土した。

第96号住居址 (S I 0 9 6・第54図)

(位置) 02S,T-12~14グリッド。(重複) 101号住居址と重複しているが、覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 上記した造構と重複して判然としないが、隅丸長方形となるか。(規模) 7.2m×6.4m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 住居址中央よりやや北東側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉であるが南北両端に土手を持つ。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出されており、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 台付壺の破片が出土したのみ。

第97号住居址 (S 1 0 9 7・第55図)

(位置) 02R,S-18グリッド。(重複) 95号住居址と重複しているが、覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 上記した住居址と重複し、判然としない。(規模) 東西3.8m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 住居址中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出されており、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 壺・高坏の破片が出土したのみ。

第98号住居址 (S 1 0 9 8・第55図)

(位置) 02T,07A-16,17グリッド。(重複) 33・104号住居址と重複しているが、覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 隅丸長方形。(規模) 6.4m×5.6m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 住居址中央よりやや南側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層赤褐色土層2,5YR4/8。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出されており、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 台付壺・壺などの破片のほか、砥石が出土している。

第99号住居址 (S 1 0 9 9・第55図)

(位置) 02N,O,P-7,8グリッド。(重複) なし。(形状) 地山と住居址覆土が酷似し、プラン確認が難航したため歪な形状を呈している。(規模) 6.4m×5.4m。(覆土) 1層黒褐色土層10YR2/2。50mm前後の礫を多量混入。(炉) 住居址中央よりやや東側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層赤褐色土層2,5YR4/8。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出されており、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) S字壺・台付壺・壺などが、住居址の中央付近からまとめて出土している。

第100号住居址 (S 1 1 0 0・第56図)

(位置) 02T-19,20グリッド。(重複) 95・119号住居址と重複している。このうち、95号住居址は覆土の色調が酷似しており、土層観察による新旧関係は不明。119号住居址は本址床面下から検出されており、明らかに本址が新しい。(形状) 隅丸方形。(規模) 5.2m×4.4m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 住居址中央よりやや西側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層赤褐色土層2,5YR4/8。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 8本検出されている。いずれの柱穴も、各コーナー付近で検出され、深度が20~30cmと一定していることから、主柱穴の認定が困難である。本址で拡張などの行為が行われた可能性も指摘できよう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 壺の破片が散在して出土した。

第101号住居址 (S 1 1 0 1・第56図)

(位置) 02S,T-12グリッド。(重複) 96号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 住居址北半で、96号住居址と重複しているため、判然としない。(規模) 東西5.2m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 検出されていない。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出され

ていない。(柱穴) 2本の柱穴が確認され、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 壺・高坏の破片が散在的に出土している。

第102号住居址（S 1102・第56図）

(位置) 02R-16,17グリッド。(重複) なし。(形状) やや歪だが隅丸方形となろう。(規模) 4.3m×4.2m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 床面を念入りに精査したが、検出されなかつた。(床) 全体的に軟弱。(盤溝) 検出されていない。(柱穴) 4本の柱穴が確認され、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 壺・小型壺・S字甕・台付甕が散在して出土。

第104号住居址（S 1104・第56図）

(位置) 02T-15,16グリッド。(重複) 98号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 住居址北側で98号住居址が重複し、西側は本址自体の掘り方が非常に浅く不明瞭となり判然としない。(規模) 不明。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 床を若干掘り込んだ地床炉が検出された。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(盤溝) 検出されていない。(柱穴) 南東コーナーで1本確認されたのみ。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 北壁際で高坏が出土したのみ。

第105号住居址（S 1105・第57図）

(位置) 02O,P-18,19グリッド。(重複) 116・120号住居址と重複している。いずれの住居址も、その覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。ただ、炭化材の検出状況を考慮すると116号住居址より本址が新しい可能性がある。(形状) 住居址東側で116号住居址と重複し判然としないが、炭化材の検出状況を考慮すると隅丸方形となろう。(規模) 南北5.2m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 住居址中央より北東で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(盤溝) 検出されていない。(柱穴) 4本の柱穴が確認され、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) S字甕・台付甕・高坏・鉢などが出土。このうち、北西コーナーで横位に出土した有稜高坏(第164図5)の坏部には、鉢(同図6)が入れ子状になって出土した。また、壁際を中心に炭化材が検出されたが、火災を想起させる焼土や被熱による赤化した面などは確認されていない。

第106号住居址（S 1106・第57図）

(位置) 02O-19,20グリッド。(重複) 107・116・120号住居址と重複している。いずれの住居址も、その覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 本址の掘り込みが浅い点や、住居址西側で120号住居址と重複していることから判然としない。(規模) 不明。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 検出されていない。(床) 全体的に軟弱。(盤溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 床面で炭化物が検出されたほか、壺・S字甕など個体となるものが出土している。

第107号住居址（S 1107・第58図）

(位置) 02O-20,030-1グリッド。(重複) 108号住居址と重複している。両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 住居址北側で108号住居址と重複しており判然としないが、隅丸長方形となるか。(規模) 5.7m×5.0m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 住居址中央よりやや西側で検出した。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(盤溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出され、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物)

壺・S字壺・高坏の破片が散在して出土。

第108号住居址（S I 1 0 8・第58図）

（位置）03N,0-1,2グリッド。（重複）107号住居址と重複している。両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。（形状）隅丸方形。（規模）4.5m×4.3m。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/4。（炉）検出されていない。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）4本検出され、いずれも主柱穴となろう。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）土器細片が出土。図示しえるものはない。

第109号住居址（S I 1 0 9・第58図）

（位置）02R-20,03R-1グリッド。（重複）110・117号住居址と重複している。本址の炉が、117号住居址覆土中に構築されていることから、本址が新しいと思われる。110号住との新旧関係は不明。（形状）住居址の大部分が117号住居址内に構築されているため判然としないが、床面の残存状況を考慮すると、隅丸長方形となるか。（規模）不明。（覆土）残存していない。（炉）床を若干掘り込んだ地床炉で、東側に礫を配す。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）高坏・器台が出土。

第110号住居址（S I 1 1 0・第58図）

（位置）03Q,R-1,2グリッド。（重複）109・117号住居址と重複しているが両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。（形状）南側で117号住居址と重複しているため、不明。（規模）東西4.7m。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/4。（炉）住居址北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉で、南側縁辺に土手を持つ。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）4本検出され、いずれも主柱穴となろう。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）土器細片が出土。図示しえるものはない。

第111号住居址（S I 1 1 1・第59図）

（位置）03T-1,2グリッド。（重複）なし。（形状）歪な形状を呈すが、隅丸方形となるか。（規模）4.7m×4.6m。（覆土）残存していない。（炉）住居址中央より北西で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）1本検出されている。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）土器細片が出土。図示しえるものはない。

第112号住居址（S I 1 1 2・第59図）

（位置）03T-2,3グリッド。（重複）113号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。（形状）隅丸方形。（規模）4.1m×4.0m。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/4。（炉）住居址中央よりやや北東で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）土器細片と砥石が出土。土器は図示できるものはない。

第113号住居址（S I 1 1 3・第59図）

（位置）03S,T-2,3グリッド。（重複）112号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。（形状）隅丸長方形。（規模）5.1m×4.2m。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/4。（炉）住居址中央よりやや北で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）4本検出され、いずれも主柱穴となろう。（その他の施設）

施設) 住居址南東コーナーで、土坑を検出した。(出土遺物) 北壁際で、炭化材を検出。土器は細片が出土。図示しえるものはない。

第114号住居址 (S 1 1 1 4 ・ 第59図)

(位置) 03Q,R-2,3グリッド。(重複) 115号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 圓丸長方形。(規模) 東西6.1m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 検出されていない。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出され、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) S字壺・壺・高壺の破片が散在的に出土。

第115号住居址 (S 1 1 1 5 ・ 第60図)

(位置) 03R-3,4グリッド。(重複) 114号住居址と重複しているが、両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) やや歪だが圓丸方形となろう。(規模) 3.8m×4.1m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 住居址中央より北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出され、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 炉の周辺で炭化材や炭化物が検出されたほか、砥石・台付壺が出土した。

第116号住居址 (S 1 1 1 6 ・ 第57図)

(位置) 02O-18,19グリッド。(重複) 105・106・120号住居址と重複している。いずれの住居址も、その覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。ただ、炭化材の検出状況を考慮すると105号住居址が本址より新しい可能性がある。(形状) 住居址西側が105号住居址と重複し判然としない。(規模) 不明。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 検出されていない。105号住居址を構築する際に消滅したか。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本の柱穴が確認され、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 台付壺台部の破片が出土したのみ。

第117号住居址 (S 1 1 1 7 ・ 第60図)

(位置) 02Q,R-20・03Q,R-1グリッド。(重複) 109・110号住居址と重複している。110号住居址は覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。109号住居址は本址を切って構築されていることが確認されている。(形状) 圓丸方形。(規模) 6.1m×5.6m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 住居址北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出され、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 南壁際で土坑を検出した。土坑北側には土手が巡る。1層オリーブ褐色土層2,5YR4/4。2層褐色土層10YR4/4。(出土遺物) 土器細片が散在して出土。図示しえるのは、S字壺の口縁部破片のみ。

第119号住居址 (S 1 1 1 9 ・ 第61図)

(位置) 02T-19,20グリッド。(重複) 95・100号住居址と重複している。95号住居址は覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。100号住居址は本址を切って構築されていることが確認されている。(形状) 圓丸長方形。(規模) 4.6m×4.0m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 住居址北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) ほぼ全面に硬化した面が確認された。(壁溝) 南東コーナー部分を除き、検出された。(柱穴) 4本検出され、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 南壁際で土坑を検出した。土坑北側には土手が巡る。1層暗褐色土層10YR3/3。2層暗褐色土層10YR3/4。3層暗褐色土層10YR3/3。(出土遺物) 小型高壺や台付壺の台部が出土。このうち、台付壺の台部は土坑の底部

から出土した。

第120号住居址（S I 1 2 0・第57図）

（位置）02P-19,20グリッド。（重複）105・106・116号住居址と重複している。いずれの住居址も、その覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。ただ、炭化材の検出状況を考慮すると105号住居址が本址より新しい可能性がある。（形状）南壁が105・116号住居址と重複し判然としないが、隅丸長方形となろう。（規模）東西4.7m。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/4。（炉）北壁寄りで検出された。掘込みは殆ど無く、僅かに焼土が堆積するのみ。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）4本検出され、いずれも主柱穴となろう。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）壺・台付壺などが散在して出土。

第122号住居址（S I 1 2 2・第61図）

（位置）03R,S-4~6グリッド。（重複）近世以前に発生したと考えられる洪水跡が、住居址中央を縦断している。（形状）隅丸長方形となるか。（規模）8.2m×7.5m。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/3。（炉）検出されていない。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）2本検出されている。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）S字壺・高坏・鉢などが出土。このうち、高坏・鉢は柱穴内から出土している。

第123号住居址（S I 1 2 3・第62図）

（位置）03P-3グリッド。（重複）近世以前に発生したと考えられる洪水跡で、住居址の北半分以上が消滅している。（形状）不明。（規模）不明。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/3。（炉）検出されていない。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）土器細片が出土。図示しえるものはない。

第124号住居址（S I 1 2 4・第62図）

（位置）03S,T-6,7グリッド。（重複）125・126号住居址及び、4号溝と重複している。このうち、125・126号住居址はいずれの覆土も酷似しており、土層観察による新旧関係は不明。4号溝と本址の土層観察による新旧関係は判然としないが、本址とほぼ同時期のIV a区18号住居址で4号溝が切られていることが確認されており、本址でも同様の重複関係が想定される。（形状）隅丸方形。（規模）6.2m×5.9m。（覆土）1層にぶい黄褐色土層10YR4/3。10mm前後の礫を多量混入。（炉）検出されていない。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）4本の柱穴が確認された。いずれも主柱穴となろう。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）S字壺・台付壺・壺・北陸系壺・器台・高坏などが出土。

第125号住居址（S I 1 2 5・第62図）

（位置）03R,S-6,7グリッド。（重複）124・126号住居址と重複している。いずれの覆土も酷似しており、土層観察による新旧関係は不明。（形状）不明。（規模）東西4.0m。（覆土）1層にぶい黄褐色土層10YR4/3。10mm前後の礫を多量混入。（炉）床を若干掘り込んだ地床炉で、南側に土手を持つ。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）4本の柱穴が確認された。いずれも主柱穴となろう。（その他の施設）南壁際で、土坑を検出。土坑北側には土手が巡る。1層暗褐色土層10YR3/3。（出土遺物）土器片が僅かに出土したが、図示しえるものはない。

第126号住居址（S I 1 2 6・第63図）

（位置）03R,S-7,8グリッド。（重複）124・125・135号住居址と重複している。いずれの覆土も酷似してお

り、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 隅丸方形。(規模) 5.9m×5.8m。(覆土) 1層にぶい黄褐色土層10YR4/3。10mm前後の礫を多量混入。(炉) 検出されていない。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本の柱穴が確認された。いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 南壁際で、土坑を検出。テラスを持つ掘り方となる。1層暗褐色土層10YR3/4。2層にぶい黄褐色土層10YR4/3。(出土遺物) 台付壺・壺・高坏などが、住居址中央周辺から出土。

第127号住居址（S 1 1 2 7 ・ 第63図）

(位置) 03Q,R-7,8グリッド。(重複) なし。(形状) やや歪な形状だが、隅丸長方形となるか。(規模) 6.5m×5.9m。(覆土) 1層にぶい黄褐色土層10YR4/3。(炉) 住居址中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉であるが、南側縁辺に土手を持つ。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本の柱穴が確認された。いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 台付壺・壺などが、散在して出土。

第128号住居址（S 1 1 2 8 ・ 第64図）

(位置) 03P,Q-8,9グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸方形。(規模) 4.9m×4.6m。(覆土) 1層にぶい黄褐色土層10YR4/3。(炉) 住居址のほぼ中央で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本の柱穴が確認された。いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 住居址南東コーナーで断面がたらい状を呈す土坑を検出した。1層暗褐色土層10YR3/4。(出土遺物) 台付壺・壺の破片が散在して出土。

第129号住居址（S 1 1 2 9 ・ 第64図）

(位置) 03S,T-8,9グリッド。(重複) 4号溝と重複している。4号溝と本址の土層観察による新旧関係は判然としないが、本址とほぼ同時期のIV a区18号住居址で4号溝が切られていることが確認されており、本址でも同様の重複関係が想定される。(形状) 隅丸方形。(規模) 5.1m×5.0m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 住居址の中央よりやや北東で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 2本の柱穴が確認された。本来は4本主柱穴の可能性があるが、対応する柱穴の想定箇所を4号溝が縦断しており、検出できなかった。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) S字壺・高坏などが散在して出土。

第130号住居址（S 1 1 3 0 ・ 第64図）

(位置) 03S,T-10,11グリッド。(重複) 4号溝と重複している。4号溝と本址の土層観察による新旧関係は判然としないが、本址とほぼ同時期のIV a区18号住居址で4号溝が切られていることが確認されており、本址でも同様の重複関係が想定される。(形状) 本址西側で4号溝と重複し、プランが判然としない。(規模) 南北5.1m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 3本の柱穴が確認された。本来は4本主柱穴の可能性があるが、対応する柱穴の想定箇所を4号溝が縦断し、検出できなかった。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 壺・S字壺の破片が出土。

第131号住居址（S 1 1 3 1 ・ 第65図）

(位置) 03S,T-12,13グリッド。(重複) 4号溝と重複している。4号溝と本址の土層観察による新旧関係は判然としないが、本址とほぼ同時期のIV a区18号住居址で4号溝が切られていることが確認されており、本址でも同様の重複関係が想定される。(形状) 本址西側で4号溝と重複し、プランが判然としない。(規模) 南北

5.4m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 床を10cm程度掘り込んだ地床炉で、南側縁辺に縦長の窓を配す。また、東側縁辺には小窓2点が出土した。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本の柱穴が確認され、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) S字窓・台付窓・器台などの破片が散在して出土。

第132号住居址 (S I 1 3 2・第65図)

(位置) 03P,Q-9,10グリッド。(重複) なし。(形状) 小判型を呈す。(規模) 4.4m×4.0m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 検出されていない。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出され、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 住居址東壁際で、土坑を検出した。土坑上面で小型の壺が横位に出土した。1層黒褐色土層10YR3/2。(出土遺物) 前述した小型の壺のほかは、図示し得るものはない。

第133号住居址 (S I 1 3 3・第65図)

(位置) 03L,M-7,8グリッド。(重複) 136・137号住居址と重複している。いずれの覆土もその色調が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 隅丸長方形。(規模) 5.1m×4.5m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 住居址中央より東側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉で、南側縁辺に土手を持つ。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出され、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 壺の破片が散在して出土。

第134号住居址 (S I 1 3 4・第66図)

(位置) 03S-9グリッド。(重複) 135号住居址と重複している。両者の覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 本址北側は平安時代の52号住居址に切られ、南側は前述した135号住居址と重複しており、判然としない。(規模) 不明。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 本址に伴うと考えられる柱穴は4本検出されている。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) S字窓の破片が散在して出土。

第135号住居址 (S I 1 3 5・第66図)

(位置) 03Q,R,S-8,9グリッド。(重複) 126・134号住居址と重複している。いずれの覆土も酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 本址は地山と覆土の色調が酷似し、プラン確認が難航した。その結果不定形な形状となったが、柱穴の配置などを考慮すると本来は方形プランであったと思われる。(規模) 南北5.6m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 床を若干掘り込んだ地床炉で、南側縁辺には土手を持ち、さらにその南側に2個の窓を配す。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 5本検出されている。このうち、各コーナー附近から検出された4本が主柱穴となろう。(その他の施設) 南壁際で、テラス状に床面が高くなる箇所が検出された。ベッド状遺構か。また、南東コーナーで土坑を検出した。1層暗褐色土層10YR3/3。2層褐色土層10YR4/4。3層オリーブ褐色土層2,5YR4/4。(出土遺物) 壺・蓋などが散在して出土した。

第136号住居址 (S I 1 3 6・第67図)

(位置) 03M,N-8,9グリッド。(重複) 133号住居址及び、平安時代の43号住居址と重複している。133号住居址は覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 住居址東側が前述した遺構と重複しているため判然としないが、柱穴の配置などを考慮すると、方形プランであったと思われる。(規模) 南北5.1m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。

(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出されており、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 南壁際で、土坑を検出した。1層暗褐色土層10YR3/3。2層褐色土層10YR4/4。3層オリーブ褐色土層2,5Y4/4。(出土遺物) 土坑内から鉢が出土したほかは、図示しえるものはない。

第137号住居址（S 1 1 3 7・第67図）

(位置) 03L-7,8グリッド。(重複) 133号住居址と重複している。両者の覆土もその色調が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 本址西側で133号住居址と重複し、判然としない。(規模) 南北4.0m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 検出されていない。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 土器の細片が出土。図示しえるものはない。

第138号住居址（S 1 1 3 8・第67図）

(位置) 03N,0-10,11グリッド。(重複) 139号住居址と重複しているが覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 隅丸方形。(規模) 5.0m×4.9m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 検出されていない。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出されており、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 南壁際で土坑を検出した。1層暗褐色土層10YR3/3。2層褐色土層10YR4/4。(出土遺物) S字壺・台付壺・高壺などが散在して出土。

第139号住居址（S 1 1 3 9・第68図）

(位置) 03O,P-11,12グリッド。(重複) 138号住居址と重複しているが覆土が酷似しているため、土層観察による新旧関係は不明。(形状) 隅丸方形。(規模) 6.8m×6.5m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 住居址中央よりやや北側で検出された。床を10cm程度掘り込んだ地床炉で、南側縁辺に土手を持つ。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) ほぼ全面に硬化した面が確認された。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出されており、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 住居址西側で床が約5cmほど高くなる面を検出した。ベッド状造構になると思われる。また、南壁際で土坑を検出した。土坑底面東側はオーバーハングし、土坑北側には土手が巡る。1層暗褐色土層10YR3/3。2層黒褐色土層10YR3/2。3層褐色土層10YR4/4。(出土遺物) 壺・高壺・小型壺・甕・手焙形土器などが出土した。このうち手焙形土器は、北西コーナーで検出された柱穴の底面から約10cmの所で出土した。また土坑の底面からは、小型の壺が出土している。

第140号住居址（S 1 1 4 0・第68図）

(位置) 03M,N-14,15グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸長方形。(規模) 5.0m×4.2m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 住居址中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 4本検出されており、いずれも主柱穴となろう。(その他の施設) 南壁際で土坑を検出した。1層暗褐色土層10YR3/3。2層黒褐色土層10YR2/3。3層褐色土層10YR4/4。(出土遺物) 土器の細片が出土。図示しえるものはない。

第141号住居址（S 1 1 4 1・第68図）

(位置) 03M-10グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸方形。(規模) 3.2m×3.1m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(炉) 検出されていない。ただ、住居址のほぼ中央で炭化物と炭化材が検出されている。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 6本検出されている。(その他の施設) 南壁際で、土坑を検出した。1層暗褐色土層10YR3/3。2層褐色土層10YR4/4。(出土遺物) 土器の細片が出土。図示しえるものはない。

第142号住居址（S I 1 4 2・第69図）

（位置）03L,M-10,11グリッド。（重複）なし。（形状）本址は地山と覆土の色調が酷似し、プラン確認が難航した。その結果不定形な形状となつたが、本来は方形プランであったと思われる。（規模）5.5m×5.2m。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/4。（炉）住居址中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）4本検出されており、いずれも主柱穴となろう。（その他の施設）南壁際で土坑を検出した。1層暗褐色土層10YR3/3。2層黒褐色土層10YR2/3。3層褐色土層10YR4/4。（出土遺物）土器の細片が出土。図示しえるものは台付壺の脚部のみ。

第143号住居址（S I 1 4 3・第69図）

（位置）03L,M-11,12グリッド。（重複）なし。（形状）本址は遺構確認の段階で炉が露呈し、壁が殆ど残存せずプラン確認が難航した。その結果不定形な形状となつたが、本来は方形プランであったと思われる。（規模）5.4m×5.0m。（覆土）残存していない。（炉）住居址中央よりやや西側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）5本検出されており、東壁際で検出されたものを除く4本が、主柱穴となろう。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）壺・高坏が出土。壺は住居址南東コーナー付近で潰れた状態で出土した。

第144号住居址（S I 1 4 4・第69図）

（位置）03L,M-13,14グリッド。（重複）なし。（形状）隅丸長方形。（規模）4.5m×3.9m。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/3。（炉）住居址中央よりやや北側で検出された。掘り込みはなく僅かに焼土（にぶい赤褐色土層5YR4/4）が散布するだけの貧弱なものである。（床）全体的に軟弱。（壁溝）北壁・西壁の一部および、東壁から南壁にかけて壁溝が確認された。（柱穴）4本検出されており、いずれも主柱穴となろう。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）土器の細片が出土。図示しえるものはない。

第145号住居址（S I 1 4 5・第70図）

（位置）03J,K-10,11グリッド。（重複）なし。（形状）隅丸方形。（規模）3.8m×4.1m（覆土）1層暗褐色土層10YR3/3。（炉）検出されていない。（床）全体的に軟弱。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）土器の細片が出土。図示しえるものはない。

第146号住居址（S I 1 4 6・第70図）

（位置）03J,K-12,13グリッド。（重複）なし。（形状）隅丸方形。（規模）4.2m×4.1m。（覆土）1層褐色土層10YR4/4。（炉）住居址中央より北東側で検出された。掘り込みなどは確認されず、焼土（にぶい赤褐色土層5YR4/4）が散布する程度の貧弱なものである。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）5本検出されており、東壁際で検出されたものを除く4本が、主柱穴となろう。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）壺・小型壺・広口壺・S字壺・高坏・器台など個体となるものが東・北壁際でまとまって出土した。

第147号住居址（S I 1 4 7・第70図）

（位置）03L-16グリッド。（重複）なし。（形状）北半分が調査区外となるため、不明。（規模）東西4.1m。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/3。（炉）2箇所で掘り込みを持たない焼土（にぶい赤褐色土層5YR4/4）の散布が認められたが本址は火災に遭った可能性があり、それが炉なのか火災によって生じた焼土なのか判然としない。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）2本検出されており、いずれも主柱穴となろう。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）壺・台付壺の胴部上半から口縁部まで残存するものが東壁際

で正位に近接して出土した。また本址は、炭化材が放射状に出土しており、前述したように焼土も検出されていることから、火災に遭った可能性がある。

第4号掘立柱建物址（S B 0 0 4・第70図）

（位置）07D-18グリッド。（重複）なし。（規模）東西1間（2.4m）×南北1間（3.8m）。ただ、西側が調査区外となるため東西方向の規模は判然としない。（柱間寸法）東西方向1.7m～1.9m。南北方向3.2m～3.3m。（柱穴の状況）確認された柱穴は径50～80cmの円形を呈し、深さは30～50cm前後を測る。覆土はいずれも1層オリーブ褐色土層2,5Y4/4、2層オリーブ褐色土層2,5Y4/3が堆積していた。柱痕は確認されていない。（出土遺物）柱穴からの遺物は皆無であるが、確認面が古墳時代前期の住居址と同一であることから該期の遺構と判断した。

第7号掘立柱建物址（S B 0 0 7・第70図）

（位置）08E-4グリッド。（重複）なし。（規模）東西1間（3.0m）×南北1間（3.8m）。（柱間寸法）東西方向1.8m～2.2m。南北方向2.9m～3.0m。（柱穴の状況）確認された柱穴は径80～90cmの円形を呈し、深さ40cm前後を測る柱穴3本と、150×90cmの梢円形を呈し、深さ40cmを測る柱穴1本が検出された。覆土はいずれも1層暗褐色土層10YR3/4、2層暗褐色土層10YR3/3が堆積していた。柱痕は確認されていない。（出土遺物）柱穴からの遺物は皆無であるが、確認面が古墳時代前期の住居址と同一であることから該期の遺構と判断した。

第8号掘立柱建物址（S B 0 0 8・第71図）

（位置）02P,Q-17,18グリッド。（重複）なし。（規模）東西1間（3.0m）×南北1間（3.7m）。（柱間寸法）東西方向2.5m～2.6m。南北方向3.3m～3.4m。（柱穴の状況）確認された柱穴はいずれも径30～40cmの円形を呈し、深さ20cm前後を測る。覆土はいずれも暗褐色土層10YR3/4が堆積していた。柱痕は確認されていない。（出土遺物）柱穴からの遺物は皆無であるが、確認面が古墳時代前期の住居址と同一であることから該期の遺構と判断した。

第9号掘立柱建物址（S B 0 0 9・第71図）

（位置）03P,Q-12グリッド。（重複）なし。（規模）東西1間（3.2m）×南北1間（3.8m）。（柱間寸法）東西方向2.5m～2.6m。南北方向3.3m～3.4m。（柱穴の状況）確認された柱穴はいずれも径60～70cmの円形を呈し、深さ30cm前後を測る。覆土はいずれも1層暗褐色土層10YR3/3、2層暗褐色土層10YR3/4が堆積していた。柱痕は確認されていない。（出土遺物）柱穴からの遺物は皆無であるが、確認面が古墳時代前期の住居址と同一であることから該期の遺構と判断した。

第10号掘立柱建物址（S B 0 1 0・第71図）

（位置）03J-14,15グリッド。（重複）なし。（規模）東西2間（3.7m）×南北1間（3.1m）。（柱間寸法）東西方向1.7m～1.9m。南北方向2.6m～2.8m。（柱穴の状況）確認された柱穴は径30～40cmの円形を呈し、深さは30cm前後を測る。覆土はいずれも褐色土層10YR4/4が堆積していた。柱痕は確認されていない。（出土遺物）柱穴からの遺物は皆無であるが、確認面が古墳時代前期の住居址と同一であることから該期の遺構と判断した。

焼土址および土器集中出土箇所（第71図）

（位置）08C-5グリッド。（重複）なし。（規模および遺物出土状況）08C-5グリッド西側、東西約3m南北約4mの範囲内で、約20個体におよぶ古式土師器と、焼土が検出された。古式土師器と焼土は、極端なレベル差も認められず、標高281.9～282mの間で面的に検出された。焼土（にぶい赤褐色土層5YR4/4）は東西50cm、南北40cmの範囲で2～3cmの堆積を持ちながら検出された。掘り込みは確認できない。古式土師器は壺・ヒサ

壺・S字甕・台付甕・北陸系甕・高坏・器台などが出土している。なお、本址周辺の遺構確認面は前述したレベルより20~30cm下層となり、本址が検出された面は古墳時代前期のいわゆる包含層に相当する。よって、本址が掘込みを持つ遺構と仮定しても、上記したレベルでのプラン確認は殆ど不可能な状況である。いずれにしても、限られた範囲内からほぼレベルを同じくして出土した古式土師器と焼土には、有機的な関係が推定される。それは、遺構確認面まで掘込みの達しない住居址内から出土した一括資料と炉、または当時の地表面に一括廃棄された土器と焼土というような関係である。

V区

第153号住居址（S I 1 5 3・第73図）

（位置）04I,J-1,2グリッド。（重複）なし。（形状）隅丸方形。（規模）4.0m×3.8m。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/3。（炉）住居址中央よりやや北側で、検出された。掘り込みは認められず、焼土（にぶい赤褐色土層5YR4/4）が散布する程度の貧弱なものである。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）4本の柱穴が確認された。いずれも主柱穴となろう。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）高坏・壺・などが、散在して出土。

第155号住居址（S I 1 5 5・第73図）

（位置）03I-19グリッド。（重複）なし。（形状）隅丸方形。（規模）2.8m×2.8m。（覆土）1層黒褐色土層10YR3/2。（炉）住居址の中央より西側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。（床）ほぼ全面に硬化した面が検出された。（壁溝）検出されていない。（柱穴）4本の柱穴が確認された。いずれも主柱穴となろう。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）西壁際で、ほぼ完形となる壺2点、台付甕3点が出土。また、壁際を中心に炭化材が放射状に検出されている。

第156号住居址（S I 1 5 6・第73図）

（位置）04J,K-3,4グリッド。（重複）なし。（形状）隅丸方形。（規模）5.0m×4.5m。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/4。（炉）住居址の中央よりやや北側で検出された。床を若干掘り込んだ地床炉で、南側縁辺に2点の礫を配す。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）5本の柱穴が確認され、南壁際で検出されたものを除く4基が主柱穴となろう。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）台付甕が散在して出土。

第160号住居址（S I 1 6 0・第73図）

（位置）04K,L-4,5グリッド。（重複）なし。（形状）隅丸長方形。（規模）2.4m×2.0m。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/3、2層黒褐色土層10YR3/2、3層褐色土層10YR4/4。（炉）検出されていない。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）壺・台付甕が散在して出土。

第161号住居址（S I 1 6 1・第73図）

（位置）03T-19グリッド。（重複）なし。（形状）隅丸方形。（規模）4.3m×4.2m。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/3。（炉）住居址中央よりやや北東寄りで検出された。床を若干掘り込んだ地床炉である。1層にぶい赤褐色土層5YR4/4。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）4本検出されており、いずれも主柱穴となろう。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）高坏脚部が散在して出土。

第3節 平安時代

I区

第3号住居址（S1003・第76図）

（位置）06A,B-18グリッド。（重複）なし。（形状）隅丸方形になると思われる。（規模）大部分が調査区外のため不明。（覆土）1層黒褐色土層2,5Y3/1。砂礫を多量に混入。2層オリーブ褐色砂層2,5Y4/3。（竈）調査区内では検出されていない。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）覆土中から土師器壺・皿などが散在して出土している。

第4号住居址（S1004・第77図）

（位置）06B-15グリッド。（重複）なし。（形状）本来、該期に一般的な方形プランであったと思われるが、地山が砂質で崩れやすい事や、水の影響を強く受けた埋没環境などから、歪な形状になったと思われる。（規模）4.56m×4.30m。（覆土）1層黒色土層10YR1.7/1。砂礫を多量に混入する。2層黒褐色土層10YR2/2。砂礫を多量に混入する。3層にぶい黄褐色砂層10YR4/3。カーボン・焼土粒を混入。4層黒褐色砂層10YR2/3。5層黒褐色砂層10YR3/2。小礫を含む。（竈）東竈。南東コーナー寄り。残存する袖部は、シルト質の黒褐色土・黄褐色の粘質土などによって構築されている。1層暗褐色土層10YR3/3。黄褐色の粘質土を多く含む。2層暗褐色土層10YR3/3。焼土を多量に含む。3層褐色土層7,5YR4/3。焼土を僅かに混入。（床）。全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（遺物出土状況）竈周辺及び、2層以上に集中して遺物が出土している。また、覆土2層上面からは、小円礫を数十点集めた、集石遺構（第77図）が検出されている。（出土遺物）土師器皿・壺・甕、須恵器壺・甕、灰釉甕、鉄器（孝引金）が出土。また、竈に堆積した土壤を分析した結果、炭化種実が検出された。

第5号住居址（S1005・第76図）

（位置）01T,S-15,16グリッド。（重複）なし。（形状）北東コーナー部分は調査区外で不明だが、隅丸形となる。（規模）3.74m×3.6m。（覆土）1層オリーブ褐色砂層2,5Y4/3。2層暗灰黄色砂層2,5Y4/2。3層黄褐色砂層2,5Y5/3。4層黄灰色砂層2,5Y4/1。（竈）東竈。南東コーナー寄り。残存する袖部は、黄褐色の粘質土で構築されている。1層にぶい黄褐色土層10YR4/3。袖部が崩落したのか。2層褐色土層7,5YR4/3。焼土・炭化物を多量に混入する。3層暗赤褐色土層5YR3/2。焼土・炭化物を僅かに混入。（床）。全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）竈の南、南東コーナーで、長軸87cm×短軸36cm深さ28cmを測る、隅丸長方形を呈す、土坑が検出された。（遺物出土状況）竈及び、竈南側で検出された土坑周辺を中心に出土している。（出土遺物）土師器壺・皿・甕、須恵器壺。また、竈に堆積した土壤を分析した結果、炭化種実が検出された。

第6号住居址（S1006・第78図）

（位置）01S-13グリッド。（重複）なし。（形状）隅丸方形。（規模）3.16m×2.75m。（覆土）1層暗灰黄色砂層2,5Y4/2。2層暗オリーブ褐色砂層2,5Y3/3。3層黒褐色砂層2,5Y3/2。4層黒褐色砂層2,5Y3/2。5層オリーブ褐色砂層2,5Y4/3。6層黒褐色砂層2,5Y3/2。（竈）東竈。残存する袖部は粘性の強い黄褐色土で構築されている。1層暗褐色砂層10YR3/3。2層灰黄褐色砂層10YR4/2。焼土・炭化物を含む。3層黒褐色土層10YR2/3。焼土を含む。4層黄褐色砂層2,5Y5/3。竈燃焼部内土。多量の焼土を混入する。5層にぶい黄褐色土層10YR4/3。炭化物焼土粒を含む。6層黒褐色砂層10YR3/2焼土多量の炭化物を混入。煙道と思われる。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）覆土中から土師器壺（墨書き土器1点含む）などが散在して出土している。また竈に堆積した土壤を分析した結果、炭化種実が検出された。

第7号住居址（S1007・第78図）

(位置) 01T-12グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸方形。東・西・北壁でテラス状の掘り方が確認されたが、人為的なものか埋没過程で、崩れやすい砂質の地山が自然崩落したものか判然としない。(規模) 4.00m×3.80m。(覆土) 1層暗灰黄色砂層2,5Y4/2。2層黒褐色砂層2,5Y3/1。炭化物・焼土粒を混入。3層オリーブ褐色砂層2,5Y4/3。4層黒褐色土層2,5Y3/1。5層暗灰黄色砂層2,5Y4/2。6層黒褐色砂層2,5Y3/1。7層オリーブ褐色砂層2,5Y4/3。(竪) 東竪。残存する袖部は粘性の強い黄褐色土で構築されている。1層暗褐色砂層10YR3/3。2層オリーブ褐色砂層2,5Y4/3。3層にぶい黄褐色土層10YR4/3。焼土を多量に混入する。(床) 全体的に軟弱である。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(遺物出土状況) 竪及びその周辺よりまとまって出土している。(出土遺物) 土師器壺・坏、須恵器坏。また竪に堆積した土壤を分析した結果、炭化種実が検出されている。

第8号住居址（S1008・第78図）

(位置) 06D,E-20グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸方形。(規模) 3.67m×3.22m。(覆土) 1層暗赤褐色土層5YR3/2。(竪) 東竪。残存状況悪く、焼土範囲と袖の一部と思われる黄褐色土が確認されたに過ぎない。1層暗褐色土層7,5YR3/4。焼土を多く含む。(床) 全体的に軟弱である。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 竪周辺から土師器壺・坏・皿の破片が出土している。

第9号住居址（S1009・第79図）

(位置) 06E-19グリッド。(重複) なし。(形状) 西側の半分程度を、洪水流により破壊されているが、隅丸方形になると思われる。(規模) 南北3.45m。(覆土) 1層暗灰黄色砂層2,5Y4/2。2層オリーブ褐色砂層2,5Y4/3。3層黒褐色砂層2,5Y3/2。4層暗灰黄色砂層2,5Y4/2。5層黒褐色砂層2,5Y3/2。6層黒褐色砂層2,5Y3/2。(竪) 北壁と東壁から検出されている。北竪では東側の袖の一部と、支脚に用いられたと思われる蹕が検出された。1層黒褐色砂層10YR3/2。2層暗褐色土層10YR3/4。焼土を多量に混入。3層黒褐色砂層10YR3/2。4層暗褐色土層10YR3/3。東竪では、竪の構築材として用いられたであろう横長の蹕2点が出土したが、袖は明確に検出されなかった。1層黒褐色砂層10YR3/2。2層暗灰黄色砂層2,5Y4/2。焼土を混入。(床) 全体的に軟弱である。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 土師器坏・皿・壺が竪周辺を中心に出土している。

第10号住居址（S1010・第79図）

(位置) 06C-17グリッド。(重複) なし。(形状) 竪の構築される北東コーナーが崩落して不明瞭だが、隅丸方形であったと思われる。(規模) 2.6m×2.4m。(覆土) 1層にぶい黄褐色砂層10YR4/3。2層黒褐色土層10YR3/2。(竪) 北東コーナーに構築され、残存する袖は、黄褐色を呈す粘質土を用いている。1層暗褐色土層10YR2/3。2層にぶい黄褐色土層10YR4/3。袖の崩れたものか。3層暗褐色土層10YR3/4。焼土を多量に混入。(床) 全体的に軟弱で、凹凸がある。(柱穴) 検出されていない。(壁溝) 検出されていない。(出土遺物) 土師器の小破片が覆土中から1点出土。図示しえるものはない。また竪に堆積した土壤を分析した結果、炭化種実が検出されている。

第11号住居址（S1011・第79図）

(位置) 01P-11,12グリッド。(重複) なし。(形状) 住居址の大半が調査区外のため、判然としないが隅丸方形となろう。(規模) 不明。(覆土) 1層黒褐色砂層10YR3/2。2層暗褐色土層10YR3/4。焼土粒を混入。(竪) 調査区内からは検出されていない。(床) 全体的に軟弱である。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されて

いない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 土師器坏・皿・壺が覆土中から出土している。

第12号住居址 (S I 0 1 2・第80図)

(位置) 01Q,P-11,12グリッド。(重複) 2件の住居址がほぼ軸を合わせて重複している。プランが大きく竈が残存するものを12-A、小型で、竈を持たないものを12-Bとした。新旧関係は住居址断面図により、12-Aの床が12-Bの掘り方に貼られていることから、12-Aが新しいと考えられる。(形状) いずれも隅丸方形を呈す。(規模) 12-A 3.9m×3.5m。12-B 3.1m×3.0m。(覆土) 1層黒褐色砂層10YR3/2。2層褐色砂層10YR4/4。3層にぶい黄褐色砂層10YR5/4。炭化物・焼土粒を混入。3層下面が12-A住居址の床面となる。4層暗褐色土層10YR3/3。5層オリーブ褐色砂層2,5Y4/3。5層が12-B住居址の覆土である。(竈) 12-A住居址で検出された。東竈。残存する袖は、黄褐色を呈す粘質土を用いている。1層にぶい黄褐色砂層10YR4/3。2層暗褐色土層10YR3/4。焼土粒多量に混入。3層黒褐色砂層10YR3/2。4層にぶい黄褐色砂層10YR4/3。5層暗褐色砂層10YR3/3。(床) 12-Aでは住居址中央で一部硬化した面が確認された。12-Bは全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 12-A竈周辺で、土師器坏・皿・蓋・壺、須恵器坏などが出土。また竈に堆積した土壤を分析した結果、炭化種実が検出されている。

第13号住居址 (S I 0 1 3・第80図)

(位置) 01Q-10グリッド。(重複) なし。(形状) 住居址の半分を調査時に欠失してしまったため不明。(規模) 不明。(覆土) 1層黒褐色砂層10YR3/2。2層褐色砂層10YR4/4。3層黒褐色砂層10YR3/2。(竈) 不明。(床) 全体的に軟弱である。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 覆土中から土師器片が散在して出土している。

1号配石造構 (第77図)

(位置) 06B-15グリッド。(重複) 本造構は、4号住居址竈北側の覆土2層上面から検出されていることから、住居址が埋没する過程で形成されたものと思われる。(規模) 長軸90cm、短軸58cmを測る範囲に、5~15cm大の円碟が配されている。(出土遺物) 配石内からの遺物の出土は見られないが、ほぼ同レベルで土師器などの遺物が多く出土している。また、配石上層で検出した炭化物を分析した結果、炭化種実が検出されている。

1号歛状造構 (S X 0 0 7・第80図)

(位置) 07J,K-6グリッド。(重複) なし。(形状・規模) 本造構は歛状造構と命名したものの、プラント・オバール分析から、これを墓と認定できる積極的なデータは得られていない。形状は東西にのびる長さ3.2~1.9m、幅約50~20cm、確認面からの深さ8~20cmの細長い溝が7条確認された。歛部にあたると思われる溝と溝の間隔は10~20cmを測る。確認された範囲は南北3.4m、東西3.3mに及ぶ。(覆土) 1層黒褐色砂層2,5Y3/2。2層黄褐色砂層2,5Y5/3。3層暗灰黄砂層2,5Y4/2。(出土遺物) 土師器片が散在して出土しているが、詳細な時期を決定するものはない。

1号溝址 (S D 0 0 1・第81図)

(位置) 07N-15~20,M-9~16,O-20グリッド。(重複) なし。(形状・規模) 確認されている長さ62.8m、幅1.5~2.8m、深さ79~90cmを測り2号溝と平行して南北に延びる溝である。断面はU字形を呈す箇所と、底面が流水で抉られ、二段堀の様な形状を呈す箇所がある。(覆土) 覆土には砂礫が充満しており、洪水などの原因によって急激に埋没したものと思われる。(出土遺物) 土師器片がごく少量出土したのみで、詳細な時期を決定するものではないが、本址の確認層位が住居址より若干上位であることから、やや新しい可能性がある。

2号溝址（S D 0 0 2・第81図）

(位置) 070-17,18,N-12~16グリッド。(重複)なし。(形状・規模)確認されている長さ37m、幅1.5~3m、深さ60~20cmを測る。断面は皿形を呈すが、底面が流水で抉られ、二段堀の様な形状を呈す箇所がある。(覆土) 覆土には砂礫が充満しており、洪水などの原因によって急激に埋没したものと思われる。(出土遺物) 土師器片がごく少量出土したのみで、詳細な時期を決定するものではないが、1号溝同様本址の確認層位が住居址より若干上位であることから、やや新しい可能性がある。

II区

第2号住居址（S I 0 0 2・第83図）

(位置) 05Q-1,2グリッド。(重複)なし。(形状)方形。(規模)3.12m×2.9m。(覆土)1層黒褐色土層2,5Y3/1。2層暗褐色土層10YR3/3。(竈)東竈。残存する袖部は黄褐色の粘質土で構築されている。1層褐色土層2,5Y5/2。焼土を僅かに混入。2層黄褐色土層2,5Y5/3。多量の焼土を混入する。3層暗灰黄色土層2,5Y4/2。(床)全体的に軟弱。(壁溝)北東コーナーから北壁にかけて検出。幅20~30cm。(柱穴)検出されていない。(その他の施設)検出されていない。(出土遺物)竈周辺から土師器壺・坏・皿などが集中して出土している。また、竈内に堆積した土壤を分析した結果、炭化種実が検出された。

第3号住居址（S I 0 0 3・第83図）

(位置) 04O-15,16グリッド。(重複)なし。(形状)東壁は、平安時代以降の洪水で形成されたと考えられる砂礫層により欠失しているが、該期に一般的な方形プランと思われる。(規模)南北3.7m(覆土)1層黒色土層10YR1.7/1。砂礫を多量に混入する。2層暗褐色土層10YR3/3。砂礫を混入する。3層暗灰黄色砂礫層2,5Y4/2。平安時代以降の洪水で形成された層。(竈)不明。東壁に構築された可能性がある。(床)全体的に軟弱。(壁溝)北西コーナー付近で一部検出。幅約10cm。(柱穴)北東壁際で1本検出された。(その他の施設)南東コーナーで、長軸1.1m短軸0.69m深さ約10cmを測る梢円を呈す土坑を検出。(出土遺物)住居址全体に渡って、土師器壺・坏などが散在的に出土。

第4号住居址（S I 0 0 4・第83図）

(位置) 04O,P-14,15グリッド。(重複)なし。(形状)隅丸方形。(規模)2.9m×2.8m。(覆土)1層黒褐色土層2,5Y3/1。2層暗褐色土層10YR3/3。本層は住居址内土坑の覆土である。(竈)東竈。南東コーナー寄り。残存する袖部は、黄褐色の粘質土で構築されている。1層黄褐色土層2,5Y5/4。焼土粒を混入。(床)全体的に軟弱。(壁溝)北壁から西壁中央にかけて検出された。幅10~20cm。(柱穴)検出されていない。(その他の施設)南東・南西コーナーで梢円を呈す土坑が検出された。南東コーナー長軸68cm×短軸41cm深さ19cm、南西コーナー長軸81cm×短軸53cm深さ19cmを測る。(出土遺物)竈及び南東コーナーで検出された土坑周辺で、土師器皿が出土したほかは皆無に近い。また、竈内に堆積した土壤を分析した結果、炭化種実が検出された。

第5号住居址（S I 0 0 5・第84図）

(位置) 09D,E-8グリッド。(重複)なし。(形状)住居址西側は調査区外、東側は平安時代以降の洪水で形成されたと考えられる砂礫層により欠失している。(規模)南北3.51m。(覆土)1層黒褐色土層2,5Y3/2。2層暗褐色土層10YR3/3。3層暗褐色土層10YR3/4。(竈)不明。住居址東側の床面から焼土が検出されており、東竈の可能性がある。(床)焼土周辺は堅固。(壁溝)検出されていない。(柱穴)検出されていない。(その他の施設)南壁際に、38×30cmの長方形を呈す礫が床面上から出土しており、出入口の施設に関わるものか。(出土遺物)住居址全体から土師器壺・坏・皿などが散在して出土している。

第6号住居址（S 1 0 0 6・第84図）

（位置）09C-6グリッド。（重複）なし。（形状）方形。（規模）3.54m×3.00m（覆土）1層黒褐色砂層2,5Y3/1。2層黒褐色土層2,5Y3/1。3層オリーブ褐色土層2,5Y4/3。（竈）東竈。南東コーナーにより構築される。竈南側には直径40cm、深さ58cmを測るピットが確認されている。1層黒褐色砂層2,5Y3/1。2層暗褐色土層10YR3/3。焼土を多量に混入する。3層黄褐色土層2,5Y5/3。焼土粒を混入。（床）全体的に軟弱である。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）竈及周辺から土師器壺・甕、須恵器甕の破片が出土している。

第7号住居址（S 1 0 0 7・第84図）

（位置）09F-3グリッド。（重複）なし。（形状）方形。（規模）3.3m×2.7m。（覆土）1層黒褐色砂層2,5Y3/1。2層黒褐色土層2,5Y3/1。3層暗褐色土層10YR3/4。（竈）東竈。残存する袖は、黄褐色の粘質土で構築されている。1層暗褐色土層7,5YR3/4。2層赤褐色土層5YR4/6。焼土を多量に混入。3層暗褐色土層10YR3/3。（床）全体的に軟弱である。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）竈周辺から土師器甕・壺・皿の破片が出土している。また、竈内に堆積した土壤を分析した結果、炭化種実が検出された。

第8号住居址（S 1 0 0 8・第85図）

（位置）09G,F-2グリッド。（重複）なし。（形状）隅丸方形。（規模）3.00×2.9m。（覆土）1層黒褐色砂層2,5Y3/2。2層黒褐色土層2,5Y3/1。3層暗褐色土層10YR3/3。（竈）東竈。残存する袖は、黄褐色の粘質土で構築されている。1層黒褐色砂層10YR3/2。2層暗褐色土層10YR3/4。3層赤褐色土層5YR4/6。焼土を多量に混入。（床）全体的に軟弱である。（壁溝）東壁北半から西壁北半にかけて検出。幅10cm～20cm。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）住居址中央よりやや北側で、径約70cm、深さ約20cmを測る土坑が検出された。（出土遺物）土師器壺・甕が竈周辺を中心に出土している。

第9号住居址（S 1 0 0 9・第85図）

（位置）08J,I-18,19グリッド。（重複）なし。（形状）北西コーナーから西側床面の一部が攪乱のため欠失しているが、方形を呈すと思われる。（規模）3.75m×3.3m。（覆土）1層黒褐色砂層2,5Y3/2。2層暗褐色土層10YR3/3。3層にぶい黄褐色土層10YR5/4。（竈）北東コーナーに構築され、残存する袖は、黄褐色を呈す粘質土を用いている。また、竈西側には径35cm、深さ40cmを測るピットが検出された。1層暗褐色土層10YR3/2。2層赤褐色土層5YR4/6。焼土を多量に混入。3層暗褐色土層10YR3/4。煙道と思われる。4層にぶい黄褐色土層10YR5/4。（床）竈周辺及び、住居址中心部で、堅固な面が認められる。（柱穴）検出されていない。（壁溝）検出されていない。（出土遺物）土師器壺・甕・甕が住居址全体から散在的に出土している。また、竈内に堆積した土壤を分析した結果、炭化種実が検出された。

第10号住居址（S 1 0 1 0・第85図）

（位置）08H,G-17,18グリッド。（重複）なし。（形状）住居址南側を攪乱で欠失しているが、方形となろう。（規模）東西2.9m。（覆土）1層黒褐色砂層10YR3/2。2層暗褐色土層10YR3/4。3層にぶい黄褐色土層10YR5/4。（竈）東竈。残存する袖は、黄褐色を呈す粘質土を用いている。北側の袖に近接して出土した礫は、構築材として用いられたものか。また支脚石が火床面南寄りから検出されている。1層にぶい黄褐色土層10YR5/4。2層暗褐色土層10YR3/4。3層赤褐色土層5YR4/6。焼土を多量に混入。（床）竈周辺で堅固な面が確認された。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）住居址中央よりやや東側で、径約30cm深さ約10cmを測る土坑を検出した。（出土遺物）土師器壺・鉢・甕・羽釜、須恵器が竈周辺を中心

に出土している。また、竈内に堆積した土壌を分析した結果、炭化種実が検出された。

第1号溝状遺構（第86図）

（位置）08H,G,F-18~20グリッド。（形状・規模）南北方向に1条、これを挟むように西側に4条、東側に3条平行して検出された。長さ9.7~1.9m、幅30~40cm、深さ15~30cmを測る。（覆土）1層黒褐色砂層2,5Y3/2。2層暗褐色土層10YR3/4。（出土遺物）土師器片が散在して出土しているが、詳細な時期を決定するものはない。ただ、遺構確認面が近接する9・10号住居址と同レベルである事から、平安時代に比定される遺構であろう。

性格不明ピット群（第86図）

（位置）08I-E-17~20グリッド。（形状・規模等）上記した範囲に集中して検出されもので、建物址や柵列等のように、規則的な配列をなさないものを性格不明ピットとした。径は20cm~1m、深さ20cm~50cmを測る。覆土にはいずれも、暗褐色土が堆積しており、柱痕などは検出されていない。ただ、10号住居址東側ではほぼ住居址と軸を同じくし確認された、南北方向に並ぶ7基の柱穴列は柵列の可能性があろう。現長約7.8m、ピットの間隔は1m~1.3mを測る。これらのピットからは、土師器片が出土しているものもあるが、詳細な時期を決定するには至らない。ただ、溝状遺構同様、遺構確認面が9・10号住居址と同レベルである事から、平安時代に比定されよう。あるいは、溝状遺構も含め、近接する9・10号住居址と有機的な関係にある遺構かもしれない。

II b 区

第15号住居址（S I 0 1 5・第87図）

（位置）08I-17,18グリッド。（重複）近世以降に比定される、18号溝状遺構が住居址の中央を東西に横断している。（形状）上記した溝状遺構と、北側の攪乱により形状は不明。（規模）東西4.5m。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/3。2層黒褐色砂層10YR3/2。3層暗褐色土層10YR3/4。4層2,5Y4/4オリーブ褐色土層。貼床。（竈）溝状遺構と、攪乱により不明。ただ、東・北壁際付近の床面で焼土が検出されており、両壁に竈が構築された可能性がある。（床）残存する床ほぼ全面に貼床が施され、堅固である。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）土師器壺・皿・甕・須恵器壺などが、散在して出土している。また、竈内に堆積した土壌を分析した結果、炭化種実が検出された。

第16号住居址（S I 0 1 6・第87図）

（位置）08J-16グリッド。（重複）なし。（形状）住居址西側が調査区外となり、判然としないが隅丸方形となろう。（規模）南北2.5m。（覆土）1層黒褐色土層10YR2/3。2層暗褐色土層7,5YR3/3。3層暗褐色土層7,5YR3/4。4層黒褐色土層10YR2/3。土坑内覆土。（竈）北竈。西側は、調査区外で不明。残存する袖は、黄褐色を呈す粘質土を用いている。1層暗褐色土層7,5YR3/3。2層褐色土層10YR4/4。焼土を多量に混入。3層暗褐色土層7,5YR3/3。（床）竈周辺に堅固な面が認められる。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）竈東側で、74cm×50cm、深さ15cmを測る土坑を検出した。（出土遺物）竈周辺から、土師器壺・甕が集中して出土した。また、土坑・竈内に堆積した土壌を分析した結果、炭化種実が検出された。

III 区

第1号住居址（S I 0 0 1・第89図）

（位置）07C,D-20・08C,D-1グリッド。（重複）なし。（形状）隅丸方形。歪な形状を呈しているのは、水の影響を受けた埋没環境からと思われる。（規模）4.42m×4.0m。（覆土）1層鈍い黄褐色砂層10YR4/3。

2層黒褐色砂層2,5Y3/2。(電) 東竈。掘り方のみ残存。1層褐色土層7,5YR4/3。多量の焼土を混入する。2層 黃褐色土層2,5Y5/3。(床) 全体的に軟弱。(盤溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) なし。(出土遺物) 竈周辺から土師器壺・壺・皿などが集中して出土している。また、竈内に堆積した土壤を分析した結果、炭化種実が検出された。

第2号住居址（S I 0 0 2・第89図）

(位置) 07B,C-19,20グリッド。(重複) なし。(形状) 北壁の一部を、平安時代以降の洪水で形成されたと考えられる砂礫層により欠失、また、東壁から南東コーナーにかけて攪乱で欠失しているが、隅丸方形となろう。(規模) 3.9m×3.8m(覆土) 1層黒褐色砂層10YR3/1。砂礫を多量に混入する。2層褐色土層10YR4/4。(竈) 不明。(床) 全体的に軟弱。(盤溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 覆土中から土師器の小片が僅かに出土したにすぎず、図示し得るものは皆無である。

第3号住居址（S I 0 0 3・第89図）

(位置) 08E-10,11グリッド。(重複) 中世以降の溝状造構と土坑が、本址を東西に横断している。また、本址東側では主軸を合わせて4号住居址が重複している。新旧関係は4号住居址東西セクションの観察から、3号住居址が新しいことが判明している。(形状) 隅丸方形。(規模) 3.8m×3.5m。(覆土) 1層黒褐色土層2,5Y3/2。2層暗灰黄色土層2,5Y4/2。3層黒褐色土層2,5Y3/1。4層灰黃褐色土層10YR4/2。5層暗灰黄色土層2,5Y4/2。(竈) 西竈。本遺跡で確認された平安時代の住居址で、唯一の西竈である。掘り方と支脚石が検出された。1層にぶい赤褐色土層2,5YR4/4。焼土を多量に混入。(床) 竈周辺に堅固な面が認められる。(盤溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 西壁北側で、ベッド状の施設が検出された。床面からの高さ5cm、幅30~40cmを測る。(出土遺物) 住居址全体から土師器壺・皿・蓋などが散在して出土している。

第4号住居址（S I 0 0 4・第90図）

(位置) 08E-10,11グリッド。(重複) 住居址の西側大部分を3号住居址と中世以降の溝状造構に切られている。(形状) 方形プランと思われる。(規模) 南北3.3m。(覆土) 1層黒褐色土層2,5Y3/2。2層暗オーリーブ褐色土層2,5Y3/3。3層オーリーブ褐色土層2,5Y4/3。4層黒褐色土層2,5Y3/1。3号住居址覆土3層に比定される。(竈) 東竈。支脚石と袖が残存する。袖は、オーリーブ褐色の粘質土で構築されている。1層褐色土層7,5YR4/3。2層褐色土層10YR4/4。焼土を多量に混入。3層暗褐色土層7,5YR3/3。(床) 焼土周辺は堅固。(盤溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 竈内から土師器壺が出土したほか図示し得るものは皆無である。また、竈内に堆積した土壤を分析した結果、炭化種実が検出された。

第5号住居址（S I 0 0 5・第90図）

(位置) 08B,C-8グリッド。(重複) 東西壁際を、近世以降に構築された土坑に切られている。(形状) 方形プランと思われる。(規模) 南北3.1m(覆土) 1層黒褐色砂層10YR3/2。2層黒褐色土層10YR2/2。(竈) 東竈。残存する袖は暗褐色土で構築されている。1層暗褐色砂層10YR3/4。2層褐色土層10YR4/4。焼土を多量に混入する。3層黒褐色土層10YR2/3。(床) 竈周辺から住居址中央付近にかけて、堅固な面が確認された。(盤溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 住居址全体から土師器壺・皿・蓋などが散在して出土している。また、竈内に堆積した土壤を分析した結果、炭化種実が検出された。

第6号住居址（S1006・第90図）

（位置）08A-7グリッド。（重複）近世に比定される溝状造構が、東壁から北壁にかけて横断している。（形状）方形。（規模）4.8m×4.6m。（覆土）1層にぶい黄褐色土層10YR4/3。（電）不明。東壁際で溝状造構に切られながらも焼土が残存しており、東竈の可能性がある。（床）住居址中央を中心に堅固な面が確認された。（壁溝）西壁で部分的に確認された。幅20cm、深さ10cmを測る。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）住居址全体から土師器壺・皿などが散在して出土している。また、竈内に堆積した土壤を分析した結果、炭化種実が検出された。

第7号住居址（S1007・第91図）

（位置）03T-6,7グリッド。（重複）近世に比定される溝状造構が、住居址西側を横断している。（形状）隅丸方形。（規模）3.9×4.1m。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/3。2層黒褐色土層10YR3/1。（竈）本址では東・北壁で検出されている。東竈で検出された袖は、細砂を混入する褐色の粘質土で構築されている。1層褐色土層10YR4/4。2層暗褐色土層7.5YR3/4。焼土を多量に混入。3層褐色土層7.5YR4/3。北竈では袖などは残存せず、掘り方のみ検出した。1層褐色土層10YR4/4。2層にぶい黄褐色土層10YR4/3。焼土を多量に混入。3層暗褐色土層10YR3/4。（床）東・北竈周辺から、住居址中央にかけて堅固な面が確認された。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）土師器壺・甕が同竈周辺を中心に出土している。

第8号住居址（S1008・第91図）

（位置）03T-8-08A-8グリッド。（重複）なし。（形状）方形。（規模）4.0m×3.8m。（覆土）1層暗褐色土層7.5YR3/4。2層暗褐色土層10YR3/3。（竈）東竈。残存する袖は、褐色を呈す粘質土を用いている。1層褐色土層10YR4/4。竈構築に用いられた粘質土。2層暗褐色土層7.5YR3/3。焼土を多量に混入。3層褐色土層10YR4/4。（床）竈周辺及び、住居址中心部で、堅固な面が認められる。（柱穴）検出されていない。（壁溝）北壁で検出された。幅20~30cm、深さ15cmを測る。（出土遺物）土師器壺・甕が住居址全体から散在的に出土している。また、竈内に堆積した土壤を分析した結果、炭化種実が検出されている。

第9号住居址（S1009・第92図）

（位置）03S,T-8,9グリッド。（重複）なし。（形状）隅丸方形。（規模）2.8m×2.4m。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/4。（竈）東竈。残存する袖は、褐色を呈す粘質土を用いている。1層暗褐色土層7.5YR3/3。焼土を多量に混入。2層黒褐色土層10YR2/3。3層褐色土層10YR4/4。（床）竈周辺から住居址中央にかけて、堅固な面が確認された。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）土師器壺・皿・甕、須恵器が竈周辺を中心に出土している。竈内に堆積した土壤を分析した結果、炭化種実が検出されている。

第10号住居址（S1010・第92図）

（位置）03S,T-9,10グリッド。（重複）11号住居址が本址東側で、ほぼ軸を合わせて重複している。新旧関係は土層観察から、10号住居址が11号住居址を切って構築されていることが確認されている。（形状）隅丸方形。（規模）2.9m×2.5m。（覆土）1層灰黄褐色土層10YR4/2。2層黒褐色土層10YR3/1。3層黄褐色土層2.5Y5/3。（竈）東竈。残存する袖は、褐色を呈す粘質土を用いている。南側袖部の先端には、構築材として用いられた躰が検出された。1層オリーブ褐色土層2.5Y4/6。2層オリーブ褐色土層2.5Y4/4。焼土を多量に混入する。3層オリーブ褐色土層2.5Y4/3。（床）竈周辺から住居址中央にかけて、堅固な面が確認された。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）土師器壺・皿・甕が住居

址全体から散在的に出土している。また、竈内に堆積した土壤を分析した結果、炭化種実が検出されている。

第11号住居址（S 1 0 1 1・第92図）

（位置）03S-9,10グリッド。（重複）10号住居址が本址西側で、ほぼ軸を合わせて重複している。新旧関係は土層観察から、10号住居址が11号住居址を切って構築されていることが確認されている。（形状）隅丸方形。（規模）3.5m×3.2m。（覆土）1層黒褐色土層10YR3/2、2層黒褐色土層10YR2/2、3層にぶい黄褐色土層10YR4/3。（竈）東竈。残存する袖は、黄褐色を呈す粘質土を用いている。1層褐色土層10YR4/4、2層黒褐色土層10YR3/2、3層褐色土層10YR4/4。焼土を多量に混入。（床）竈周辺から住居址中央にかけて、堅固な面が確認された。（壁溝）ほぼ全周する。幅約30cm、深さ約10cm。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）2基の土坑が検出された。南東コーナー付近、竈に近接して検出されたものは長軸約1m、短軸80cm、深さ約20cmを測る。覆土には黒褐色土10YR3/2が堆積している（5層）。南西コーナーで検出されたものは、長軸70cm、短軸60cm、深さ20cmを測る。覆土には黒褐色土10YR3/2（4層）が堆積している。（出土遺物）土師器壺・皿・壺、須恵器等が、竈及び近接して検出された土坑周辺から集中して出土している。また、土坑・竈内に堆積した土壤を分析した結果、炭化種実が検出されている。

第12号住居址（S 1 0 1 2・第93図）

（位置）08B,C-13,14グリッド。（重複）南東コーナー付近を、近世の溝が横断している。（形状）住居址の大部分が調査区外となり、形状は不明。（規模）不明。（覆土）1層褐色土層10YR3/4。（竈）東竈。残存する袖は、褐色を呈す粘質土を用いている。1層暗褐色土層7,5YR3/4、2層褐色土層7,5YR4/3。焼土を多量に混入。3層暗褐色土層7,5YR3/4。（床）竈周辺に堅固な面が認められる。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）土師器壺・壺が竈周辺を中心出土している。また、竈内に堆積した土壤を分析した結果、炭化種実が検出されている。

第1号掘立柱建物址（S B 0 0 1・第93図）

（位置）03T-2,08A-2グリッド。（重複）なし。（規模）東西2間（4.1m）×南北3間（3.85m）？。（柱間寸法）東西方向1.7~1.8m。南北方向1.1m。（柱穴の状況）確認された柱穴は径30~50cmの円形を呈し、深さは20~30cmを測る。覆土にはいずれも暗褐色土7,5YR3/4が堆積していた。柱痕は検出されていない。（出土遺物）出土遺物なし。本址から時期を決定する遺物は出土していないが、掘り込み面が平安時代住居址と同一であることから、該期の遺構と判断した。

第1号豎穴状造構（第93図）

（位置）08F-8グリッド。（重複）なし。（規模および形状）南北2.8m、東西3.0mを測る豎穴状の遺構で、床面から径1.6mを測る円形と、長軸1.6mを測る不整形の土坑が検出された。また、北東コーナー付近には径10~20cmの小ピットがまとまって確認された。（覆土）1層黒褐色土層10YR3/1、2層暗褐色土層10YR3/3。（出土遺物）土師器壺などが散在して出土。

第1号溝状造構（第94図）

（位置）03T~Q-2,3・08A-2,3,B-3グリッド。（重複）なし。（規模および形状）本址は、近接して確認された4条からなる溝状の遺構で、確認されている長さ5~22m、幅60~120cm、深さ10~30cmを測る。2条はほぼ東西方向に平行しており、他の2条は南側の溝から南東に枝分かれするように検出された。後述するように覆土には砂礫が堆積し、一部途切れたり幅が急に拡幅する点などを考慮すると、ある程度の流水があったことが推測される。また、本遺跡が、御勅使川氾濫など水の影響を強く受けた立地条件を考慮すると、本址は人為

的な遺構ではなく、洪水など突発的出水で形成された自然流路の可能性も考えられる。(覆土) 1層黒褐色砂疊層10YR3/1。2層黒褐色砂層10YR2/3。(出土遺物) なし。本址から時期を決定する遺物は出土していないが、確認面が平安時代住居址と同一であることから、該期に比定されよう。

IV区

第1号住居址（S1001・第94図）

(位置) 02R,S-13グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸方形。南西コーナーがやや突出しているのは、水の影響を強く受けた埋没環境から、壁が崩落したためと思われる。(規模) 3.5m×3.0m。(覆土) 1層にぶい黄褐色砂層10YR4/3。2層黒褐色砂層2,5YR3/2。(竈) 東竈。残存する袖は、黄褐色の粘質土を混入する黒褐色土で構築されている。1層黒褐色土層7,5YR4/3。多量の焼土を混入する。2層黒褐色土層7,5YR3/2。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) なし。(出土遺物) 竈周辺から土師器の細片が出土したが、図示しえるものはない。

第1号掘立柱建物址（S2001・第94図）

(位置) 02P-12,13グリッド。(重複) なし。(規模) 不明。平安時代以降の洪水等で堆積したと考えられる砂疊層により、他の柱穴は消失した可能性がある。(柱間寸法) 東西方向1.6m?。南北方向不明。(柱穴の状況) 確認された柱穴は径50~70cmの円形を呈し、深さは20~30cmを測る。覆土にはいずれも黒褐色砂疊層10YR2/3が堆積していた。柱痕は検出されていない。(出土遺物) 出土遺物なし。本址から時期を決定する遺物は出土していないが、掘り込み面が平安時代住居址と同一であることから、該期の遺構と判断した。

IVa区

第20号住居址（S1020・第95図）

(位置) 03I-15,16グリッド。(重複) なし。(形状) 住居址北側は調査区外。西壁が不明瞭で掘りすぎてしまったが、セクションでは掘り込みが確認されており、隅丸方形になろう。(規模) 東西4.7m。(覆土) 1層黒褐色土層10YR3/2。2層暗褐色土層10YR3/3。(竈) 東竈。残存する北袖には構築材として用いられた礫が残存していた。南袖は、黄褐色の粘質土を混入する黒褐色土で構築されている。1層暗褐色土層7,5YR3/4。2層暗褐色土層7,5YR3/3。3層極暗褐色土層7,5YR2/3。焼土を多量に混入。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) なし。(出土遺物) 竈周辺から南壁にかけて、土師器壺・皿・甕、鉄鐵等が集中して出土している。また、南壁際からは焼土や礫が検出されている。焼土内からは土師器壺の破片がまとめて出土した。この他、土師器蓋・須恵器蓋・甕等が住居址全面から散在的に出土している。

第21号住居址（S1021・第95図）

(位置) 03J-12,13グリッド。(重複) 本区を環状に巡る6号溝を切って構築されている。(形状) 隅丸方形。(規模) 3.2m×3.1m。(覆土) 1層黒褐色土層10YR3/2。(竈) 東竈。残存する袖は黄褐色の粘質土を混入する黒褐色土で構築されている。1層暗褐色土層7,5YR3/4。2層暗褐色土層7,5YR3/3。3層極暗褐色土層7,5YR2/3。焼土を多量に混入。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 本址北半に検出された。覆土は住居址に堆積した1層と同じ。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) なし。(出土遺物) 竈周辺で、土師器壺・皿・甕、須恵器壺等が出土している。

第22号住居址（S1022・第95図）

(位置) 03K-13,14グリッド。(重複) 本区を環状に巡る6号溝を切って構築されている。(形状) 隅丸方形。

(規模) 4.25m×3.7m。(覆土) 1層黒褐色土層10YR3/2。2層暗褐色土層10YR3/4。(竈) 本址では北壁と東壁に竈が検出された。北竈は袖が殆ど残存していない。1層暗褐色土層10YR3/3。2層黒褐色土層10YR3/2。極めて粘性が強く、袖の構築材に用いられる土と近似している。3層暗褐色土層7,5YR3/3。焼土を多量に混入。東竈は両袖とも残存し、周辺には構築材として用いられたと思われる礫が散在して出土した。1層暗褐色土層7,5YR3/3。2層褐色土層10YR4/6。焼土を多量に混入。3層暗褐色土層10YR3/3。上記した検出状況や覆土の観察から、北竈はその役目を終えたあと、袖の構築材として用いられた黒色の粘質土等で埋め戻され、東竈は住居廃絶時に、人為的に破壊された事を想起させる。本居住址で、竈の作り替えが行われた可能性を指摘できよう。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 南東、南西コーナーで土坑が検出された。覆土にはいずれも暗褐色土7,5YR3/2が堆積していた。(出土遺物) 住居址全面から土師器壺・皿・甕が散在的に出土した。また、鉄製紡錘車・棒状鉄製品・鉄滓が出土している。なお、鉄滓は北竈から出土していることから、非常に簡易ではあるが、北東両竈の覆土をサンプリングし、磁石で砂鉄などの検出状況を比較したが、両者に顕著な差は認められていない。

第23号住居址（S I 0 2 3・第96図）

(位置) 03I-7グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸方形。(規模) 3.8m×3.4m。(覆土) 1層黒褐色土層10YR2/2。2層暗褐色土層10YR3/3。(竈) 東竈。残存する袖は黄褐色の粘質土を混入する黒褐色土で構築されている。また、袖の両端には構築材として用いられた礫が検出された。1層暗褐色土層7,5YR3/4。2層褐色土層7,5YR4/4。焼土を多量に混入。3層暗褐色土層10YR3/3。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 竈周辺で、土師器壺・甕が出土している。

第30号住居址（S I 0 3 0・第96図）

(位置) 03I,J-8,9グリッド。(重複) 本区を環状に巡る6号溝を切って構築されている。(形状) 隅丸方形。(規模) 3.0m×2.6m。(覆土) 1層黒褐色土層10YR2/2。2層黒褐色土層10YR2/3。(竈) 東竈。袖などは残存せず、掘り方が検出された。1層黒褐色土層10YR2/3。2層暗褐色土層10YR3/3。3層褐色土層7,5YR4/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 住居址全面から、土師器壺・皿が散在して出土。また、本址では竈周辺から住居址北側にかけて、床面から15~30cm大の礫8点が出土している。セクションの観察から、本址は洪水などで瞬時に埋没したとは考えられない。また、本址の掘り込みが上記した大型の礫を包含する層に達していないことから、これらの礫が自然流入したとは考え難く、住居廃絶時に廃棄された可能性がある。本址の竈が掘り方しか検出されていない状況を考慮すると、あるいは竈の構築材として用いられたものが、住居廃絶時の竈の人為的な破壊に伴い、廃棄されたとも考えられよう。

第31号住居址（S I 0 3 1・第96図）

(位置) 03J-7グリッド。(重複) 本区を環状に巡る6号溝を切って構築されている。(形状) 隅丸方形。(規模) 3.1m×2.6m。(覆土) 1層黒色土層7,5YR2/1。(竈) 東竈。袖などは残存せず、掘り方が検出された。1層暗褐色土層10YR3/3。2層暗褐色土層10YR3/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 住居址全面から、土師器壺・皿・鉢・甕等が散在して出土。

第32号住居址（S I 0 3 2・第97図）

(位置) 03N-8,9グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸方形。(規模) 3.6m×3.1m。(覆土) 1層黒色土層

7,5YR2/1。2層暗褐色土層10YR3/3。3層にぶい黄褐色土層10YR4/3。4層褐色土層10YR4/4。(竈) 竈は、住居址南東コーナーに構築されている。残存する袖は黄褐色の粘質土を混入する黒褐色土で構築されている。1層暗褐色土層10YR3/3。2層暗褐色土層7,5YR3/4。焼土を多量に混入。3層暗褐色土層10YR3/4。(床) 竈周辺から住居址中央にかけて、硬化した面が検出された。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 竈から土師器壺の口縁部破片が出土したほか、住居址全面から土師器壺・甌・壺、灰釉陶器椀等が散在して出土。

第37号住居址（S 1 0 3 7・第97図）

(位置) 030,N-7,8グリッド。(重複) 本区を環状に巡る6号溝を切って構築されている。(形状) 隅丸方形。(規模) 3.3m×2.7m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/3。2層黒褐色土層10YR2/3。3層暗褐色土層10YR3/3。(竈) 北竈。残存する袖は黄褐色の粘質土を混入する黒褐色土で構築されている。1層暗褐色土層10YR3/3。2層暗褐色土層7,5YR3/4。3層暗褐色土層10YR3/4。焼土を多量に混入。(床) 竈周辺から住居址中央にかけて、硬化した面が検出された。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 住居址のほぼ中央の床面から鉄製の鎌が出土したほか、住居址全面から土師器壺・甌・壺、灰釉陶器椀・壺、礎、鐵鎌等が散在して出土。

第38号住居址（S 1 0 3 8・第97図）

(位置) 03J,K-3,4グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸方形。(規模) 4.0m×3.5m。(覆土) 1層黒褐色土層10YR2/2。砂礫を多量に混入。2層暗褐色土層10YR3/4。住居址内土坑覆土。砂礫を多量に混入。(竈) 東竈。残存する袖は黄褐色の粘質土を混入する黒褐色土で構築されている。1層暗褐色土層10YR3/3。2層にぶい黄褐色土層10YR4/3。焼土を多量に混入。3層暗褐色土層10YR3/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 住居址北東コーナー付近と、中央よりやや西よりで土坑が検出された。(出土遺物) 竈周辺で土師器壺・鉢、礎が出土したほか、住居址全面から土師器壺、灰釉陶器壺等が散在して出土。

第40号住居址（S 1 0 4 0・第98図）

(位置) 03K,L-6グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸方形。本址は脆弱な砂礫層の地山に構築されていることから、埋没過程において壁が崩落した可能性があり、丸みを帯びたプランになったと思われる。(規模) 3.1m×3.0m。(覆土) 1層黒褐色土層10YR2/2。砂礫を多量に混入。2層暗褐色土層10YR3/3。砂礫を多量に混入。(竈) 東竈。残存する袖は黄褐色の粘質土を混入する黒褐色土で構築されている。1層黒褐色土層10YR2/3。焼土を多量に混入。2層暗褐色土層10YR3/4。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 住居址全面から土師器壺・甌・壺・鉢等が散在して出土。

第43号住居址（S 1 0 4 3・第98図）

(位置) 03L,M-8グリッド。(重複) 現代の土管理設による溝が、住居址南東部を横断している。(形状) 隅丸方形。(規模) 3.7m×3.3m。(覆土) 1層黒褐色土層10YR2/3。2層暗褐色土層10YR3/3。(竈) 東竈。残存する袖は黄褐色の粘質土を混入する黒褐色土で構築されている。また、竈奥壁から偏平な礎が検出された。1層黒褐色土層10YR3/2。2層暗褐色土層10YR3/4。焼土を多量に混入。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 北壁で幅20cm前後、深さ10cmを測る壁溝が検出された。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 竈から土師器壺の口縁部破片が出土したほか、住居址全面から土師器壺・甌等が散在して出土。

第48号住居址（S I 0 4 8・第98図）

（位置）03M-12グリッド。（重複）なし。（形状）隅丸方形。（規模）3.2m×2.7m。（覆土）1層黒褐色土層10YR2/3。（竈）東竈？。袖等の構築物は検出されていない。ただ、東壁東南コーナー付近で焼土と礫が検出されていることから、その周辺に竈が構築されていた可能性がある。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）南壁際で、梢円を呈す土坑が2基検出された。覆土は住居址1層と同じ。（出土遺物）住居址全面から土師器壺・甕等が散在して出土。

第49号住居址（S I 0 4 9・第98図）

（位置）02L-16,17グリッド。（重複）なし。（形状）本址は、平安時代以降洪水などによって堆積した砂礫層により、東側半分を欠失しているため、形状は不明。（規模）南北3.3m。（覆土）1層にぶい黄褐色砂礫層10YR5/3。（竈）不明。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）住居址全面から土師器壺・皿・甕・鉄錐等が散在して出土。

第52号住居址（S I 0 5 2・第99図）

（位置）03Q-10グリッド。（重複）なし。（形状）隅丸方形。（規模）3.4m×3.1m。（覆土）1層黒褐色土層10YR2/3。2層黒褐色土層10YR3/2。3層暗褐色土層10YR3/3。（竈）東竈。残存する袖は黄褐色の粘質土を混入する暗褐色土で構築されている。1層暗褐色土層7,5YR3/4。2層暗褐色土層7,5YR3/3。3層黒褐色土層10YR3/2。焼土を多量に混入。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）竈及びその周辺から、土師器壺・甕・礫等が出土している。礫の出土状況は本区30・37号住居址に類似するものである。

第55号住居址（S I 0 5 5・第99図）

（位置）02L,M-14グリッド。（重複）なし。（形状）隅丸方形。（規模）3.8m×3.4m。（覆土）1層黒褐色土層10YR2/3。砂礫を多量に混入する。（竈）東竈。北側の袖のみ残存。袖は黄褐色の粘質土を混入する暗褐色土と、礫を用いて構築されている。また竈のほぼ中央部に、支脚に用いられたと思われる礫が検出された。この他、周辺から出土した礫は、竈の構築材として用いられたものと思われる。1層暗褐色土層10YR3/3。2層黒褐色土層10YR2/3。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）土師器壺・甕が住居址全面から散在して出土。

第59号住居址（S I 0 5 9・第99図）

（位置）02L,M-19,20グリッド。（重複）なし。（形状）隅丸方形。（規模）5.0m×4.6m。（覆土）1層暗褐色土層10YR3/3。砂礫を多量に混入する。（竈）東竈。袖などは残存せず、掘り方が検出された。周辺には、竈の構築材として用いられたと思われる礫が出土している。1層暗褐色土層10YR3/4。2層暗褐色土層10YR3/3。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）検出されていない。（出土遺物）土師器壺・甕が住居址全面から散在して出土。

第5号掘立柱建物址（S B 0 0 5・第100図）

（位置）03K-5,6グリッド。（重複）なし。（規模）東西2間（3.8m）×南北3間（4.4m）。（柱間寸法）東西方向1.4~1.6m。南北方向1.2m。（柱穴の状況）確認された柱穴は径60~80cmの円形を呈し、深さは40~60cmを測る。覆土は基本的に2層に分層される。1層黒褐色土層10YR2/3。2層オリーブ褐色土層2,5Y4/3。両層とも砂礫を混入する。また、柱痕を検出した柱穴が4本確認された。柱痕は暗褐色土層10YR3/4。（出土遺物）柱穴から時期を決定する遺物は出土していないが、掘り込みが平安時代住居址と同一面であることから、該期の遺

構と判断した。

第6号掘立柱建物址（S B 0 0 6・第100図）

（位置）03K-7グリッド。（重複）なし。（規模）東西1間（4.0m）×南北2間（4.4m）。（柱間寸法）東西方3.4m。南北方向1.7~1.9m?。（柱穴の状況）確認された柱穴は径70~80cmの円形を呈し、深さは40~50cmを測る。東側柱列中央の柱穴に対応する、西側の柱穴は確認できない。また、柱痕は検出されていない。覆土は基本的に2層に分層される。1層黒褐色土層10YR2/3。2層暗褐色土層7,5YR3/3。両層とも砂礫を混入する。（出土遺物）柱穴から時期を決定する遺物は出土していないが、掘り込みが平安時代住居址と同一面であることから、該期の遺構と判断した。

第6号溝址（S D 0 0 6・第101図）

（位置）03I-8~13,J-7~8,13,K-7,13,14,L,M-7,14,N-7,13,14,O-7,8,12,13,P-8,9,11,Q-9,10グリッド。（重複）第21・22・30・31・37・52号住居址と重複している。いずれの住居址も、本址を切って構築されている。（規模および形状）IV a区03大グリッドで環状に検出された溝で、南北約33m、東西約39mの範囲を巡る。2箇所で溝が途切れるが、その箇所は掘り方が浅く、重機による遺構確認面検出の際に消失してしまったものと考えられる。断面はたらい形を呈し、確認面からの深さは約10~40cmを測る。（覆土）1層黒褐色土層10YR2/3。2層暗褐色土層7,5YR3/3。（出土遺物）土師器の破片が僅かに出土しているが、本址の時期を決定できるものはない。掘り込みが平安時代住居址と同一面であることから、該期の遺構と判断した。

V区

第148号住居址（S I 1 4 8・第103図）

（位置）04M-8グリッド。（重複）なし。（形状）隅丸方形。（規模）3.4m×3.3m。（覆土）1層黒褐色土層10YR2/2。2層暗褐色土層10YR3/3。（竈）東竈。残存する袖は、黄褐色の粘質土で構築されている。袖の先端には、補強材として用いられた礫が残存していた。1層暗褐色土層10YR3/4。2層暗褐色土層10YR3/4。多量の焼土を混入。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）竈南側に、長軸70×短軸50cm、深さ10cmの楕円形を呈す土坑が検出された。覆土は住居址2層と同じ。（出土遺物）竈及び竈南側の土坑周辺から、土師器壺・壺、須恵器壺などが集中して、北壁際では鉄製小刀が出土している。

第149号住居址（S I 1 4 9・第103図）

（位置）04M,N-6グリッド。（重複）住居址のほぼ中央を、平安時代以降の洪水などで形成された自然流路が横断している。（形状）隅丸方形。（規模）2.9m×2.8m。（覆土）1層黒褐色土層10YR3/2。礫を多量に混入。2層暗褐色土層10YR3/3。住居址内土坑覆土。（竈）不明。北東コーナー付近で焼土が検出されており、その周辺に竈が構築された可能性がある。（床）全体的に軟弱。（壁溝）検出されていない。（柱穴）検出されていない。（その他の施設）南壁際には、径40cm深さ20cmの円形を呈す土坑が検出された。（出土遺物）住居址全面より散在して、土師器壺・壺などが出土。

第150号住居址（S I 1 5 0・第103図）

（位置）04I-6グリッド。（重複）なし。（形状）隅丸方形。（規模）3.3m×3.0m。（覆土）1層黒褐色土層10YR2/3。（竈）東竈。残存する袖は、黄褐色の粘質土で構築されている。南袖の先端には、補強材として用いられた礫が残存していた。また、竈内から土師器壺の底部が外面を上して出土、その下から支脚に用いられたと思われる柱状の礫が、横位に検出された。1層暗褐色土層10YR3/4。2層暗褐色土層10YR3/4。多量の焼土

を混入。3層褐色土層10YR4/4。(床) 窟周辺から住居址中央部にかけて、堅固な面が認められる。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 窟南側に、長軸135×短軸50cm、深さ10cmの梢円形を呈す土坑が検された。覆土は暗褐色土層10YR3/3。(出土遺物) 窟及び窓南側の土坑(以下土坑と呼ぶ)。周辺から、土師器壺・壺・皿などが集中して出土している。土坑からは、上面からほぼ完形の土師器壺が横位に割れた状態で出土し、下面からはほぼ完形の土師器壺3点、土師器皿1点が出土している。壁上の棚状施設から転落したものか。また、窓内から出土した土師器壺底部破片は、土坑やその周辺から出土した壺胴部破片と接合しており、前述した出土状況を考慮すると、住居廃絶時の窓廢棄に関わる人為的な行為が想起される。

第151号住居址（S 1 1 5 1・第104図）

(位置) 04R,Q-5,6グリッド。(重複) 住居址の東側を、平安時代以降の洪水などで形成された自然流路が横断している。(形状) 隅丸方形。(規模) 3.7m×3.5m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。2層にぶい黄褐色土層10YR4/3。(窓) 東窓。残存する袖は、黄褐色の粘質土で構築されている。1層暗褐色土層10YR3/4。2層暗赤褐色土層5YR3/4。焼土粒を多量に混入。(床) 住居址中央を中心に堅固な面が認められる。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 住居址全面より散在して、土師器壺・壺などが出土。また、窓北側の壁際で、鉄製紡錘車が出土している。

第152号住居址（S 1 1 5 2・第104図）

(位置) 04O,N-1グリッド。(重複) 住居址のほぼ中央を、平安時代以降の洪水などで形成された自然流路が横断している。(形状) 隅丸方形。(規模) 4.3m×4.0m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/4。(窓) 東窓。両袖とも殆ど残存していない。辛うじて残存した箇所は黄褐色の粘質土で構築されている。窓奥壁には、支脚に用いられたと思われる被熱を受けた柱状の礫が横位に検出され、150号住居址窓と類似する状況を呈す。1層暗褐色土層10YR3/4。2層褐色土層10YR4/4。多量の焼土を混入。(床) 窟周辺から住居址中央部にかけて、堅固な面が認められる。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 南壁南東コーナー寄り壁際で径約40cm、深さ約30cmを測る円形の土坑が検出された。土坑西側の下端は一部オーバーハングしている。覆土は黒褐色土層10YR2/2。(出土遺物) 窓南側の土坑(以下土坑と呼ぶ)及び、住居址南西コーナー周辺に遺物が集中して出土している。土坑からは、ほぼ完形の土師器壺が3点出土、南西コーナーでは、土師器壺・壺のほか、鉄製の鎌・小刀?が出土した。

第154号住居址（S 1 1 5 4・第104図）

(位置) 03M,L-20グリッド。(重複) 住居址東壁の窓付近を、平安時代以降の洪水などで形成された自然流路が横断している。(形状) 隅丸方形。(規模) 3.0m×3.0m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/3。2層暗褐色土層10YR3/4。3層黒褐色土層10YR2/3。4層暗褐色土層10YR3/3。住居址内土坑覆土。(窓) 東窓。前述したとおり、自然流路によって窓上部は消失している。残存する袖部は黄褐色の粘質土で構築されている。1層褐色土層10YR4/4。多量の焼土を混入。(床) 窟周辺から住居址中央部にかけて、堅固な面が認められる。(壁溝) 北壁及び、西壁から南壁にかけて幅10~20cm、深さ10cmの溝が検出された。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 南西コーナーで径約60cm、深さ約30cmを測る円形の土坑が検出された。(出土遺物) 住居址全面から土師器壺・壺・羽釜、須恵器長頸壺、棒状の鉄製品等が散在的に出土している。

第157号住居址（S 1 1 5 7・第105図）

(位置) 04Q-9グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸方形。(規模) 2.4m×2.0m。(覆土) 1層黒褐色土層10YR3/2。2層暗褐色土層10YR3/4。3層赤褐色土層5YR4/3。多量の焼土を混入。4層黒褐色土層10YR3/2。(窓) 東窓となるか。南東コーナー付近で、対になって検出された礫が袖の補強材として残存したものと思われ

る。ただ、周辺から焼土や構築材として用いられる粘質土、土師器などの遺物は検出されていない。1層暗褐色土層10YR3/4。2層黒褐色土層10YR3/2。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 北東コーナーで検出された焼土周辺で、土師器壺が集中して出土している。

第158号住居址 (S I 1 5 8・第105図)

(位置) 04Q-3グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸方形。(規模) 3.1m×2.9m。(覆土) 1層黒褐色土層10YR3/2。2層暗褐色土層10YR3/4。(竈) 東竈。残存する袖部は黄褐色の粘質土で構築されている。1層暗褐色土層10YR3/4。2層赤褐色土層5YR4/3。多量の焼土を混入。3層暗褐色土層10YR3/3。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 北東コーナーに、幅10~20cm、深さ10cmの溝が検出された。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 住居址全面から土師器壺・皿・壺・蓋および、器種不明の鉄製品等が散在的に出土している。

第159号住居址 (S I 1 5 9・第105図)

(位置) 08A-18,19・03T-18,19グリッド。(重複) なし。(形状) 隅丸方形。(規模) 3.7m×3.0m。(覆土) 1層黒褐色土層10YR3/2。2層暗褐色土層10YR3/3。3層暗褐色土層10YR3/4。(竈) 東竈。残存する袖部は黄褐色の粘質土で構築されている。1層暗褐色土層10YR3/3。2層赤褐色土層10YR4/4。多量の焼土を混入。3層黒褐色土層10YR3/2。(床) 全体的に軟弱。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 検出されていない。(出土遺物) 住居址全面から土師器壺・皿・壺などが出土しているが、壁際で遺物が集中して出土する箇所がある。南壁際中央では、ほぼ完形の土師器壺4点、皿1点が床面上から出土、北壁際中央では未加工の石英4点と須恵器の高台付底部破片が近接して出土している。須恵器の底部破片は、割れ口が研磨され面取り加工を施した痕跡があり、高台から底部外面には一部黒色化した箇所が認められることから、現に転用した可能性がある。西壁でも、未加工の石英1点とほぼ完形の土師器壺1点が近接して出土しており、これら本住居址における遺物の出土状況は注目されよう。

第162号住居址 (S I 1 6 2・第106図)

(位置) 03L-20グリッド。(重複) 住居址東壁の竈付近から西壁へかけて、平安時代以降の洪水などで形成された自然流路が横断している。(形状) 隅丸方形。(規模) 3.5m×3.4m。(覆土) 1層暗褐色土層10YR3/3。砂礫を多量に混入。本住居址を横断する自然流路覆土。2層暗褐色土層10YR3/4。3層黒褐色土層10YR2/3。(竈) 東竈。前述したとおり、自然流路によって袖などは欠失しており、掘り方のみ検出された。1層暗褐色土層10YR4/3。2層褐色土層10YR4/4。焼土を混入。(床) 竈周辺から住居址中央部にかけて、堅固な面が認められる。(壁溝) 検出されていない。(柱穴) 検出されていない。(その他の施設) 南西コーナーで長軸約65cm、短軸約30cm、深さ約30cmを測る梢円形の土坑が検出された。覆土は黒褐色土層10YR2/3。(出土遺物) 竈から土師器壺、須恵器壺が、住居址坑内からほぼ完形の土師器壺と碟が出土した。

第11号掘立柱建物址 (S B 0 1 1・第106図)

(位置) 04K,L-9,10グリッド。(重複) 平安時代以降、洪水などで形成された自然流路が、本址を南北に横断している。(規模) 東西2間(4.5m)×南北2間(4.0m)。(柱間寸法) 東西方向2.0~2.1m。南北方向1.8~2.0m。(柱穴の状況) 確認された柱穴は径30~50cmの円形を呈し、深さは10~20cmを測る。覆土には、黒褐色土層10YR2/3が堆積していた。柱痕は、いずれの柱穴からも確認できない。(出土遺物) 柱穴から時期を決定する遺物は出土していないが、掘り込みが平安時代住居址と同一面であることから、該期の遺構と判断した。

第4節 中世以降

該期の遺構は溝・土坑・畝状遺構などが検出されている。また、自然流路など自然の営為によって形成されたものが多数確認された。このうち、Ⅱ区・Ⅴ区で検出され、概報で溝として報告したものが多くが自然流路の可能性が高いため、全体図（第107図）に掲載するにとどめた。

II b 区

第18号溝（S D 0 1 8・第108図）

（位置）08G,H-14,15,I-15~17グリッド。（重複）なし。（検出状況）II b 区北端で、ほぼ東西方向に検出された。（規模及び形状）西側は調査区外となり全体の規模は不明だが、幅1.5~2.5m、深さ0.5~1.8mを測る。溝のほぼ中央で段状に落ち、東端には土坑状の掘り込みが2ヶ所確認された。（その他の施設）溝のほぼ中央で、2基のピットを検出した。（出土遺物）磁器碗・おろし皿が出土。

III区

第1号土坑（S K 0 0 1・第110図）

（位置）08A-11,12グリッド。（形状）不整円形。（規模）長軸3.5m・短軸2.7m・深さ1.5m。（覆土）1層灰色砂疊色土層5Y4/1。2層暗黄褐色層10YR4/2。（出土遺物）なし。

第2号土坑（S K 0 0 2・第110図）

（位置）03T-13,14,08A-13,14グリッド。（形状）不整円形。（規模）長軸3.0m・短軸2.0m・深さ0.5m。（覆土）1層オリーブ褐色砂疊層2,5Y4/3。（出土遺物）なし。

第3号土坑（S K 0 0 3・第110図）

（位置）08B-10グリッド。（形状）不整円形。（規模）長軸4.2m・短軸3.5m・深さ2.0m。（覆土）1層オリーブ褐色中疊層2,5Y4/4。2層暗灰黄色砂疊層2,5Y4/2。3層オリーブ褐色砂疊層2,5Y4/4。4層暗灰黄色小疊層2,5Y4/2。5層暗灰色砂疊層2,5Y5/2。（出土遺物）なし。

第4号土坑（S K 0 0 4・第110図）

（位置）08B-11,12グリッド。（形状）不整円形。（規模）長軸5.5m・短軸4.5m・深さ2.5m。（覆土）1層オリーブ褐色中疊層2,5Y4/3。2層暗オリーブ褐色砂疊層2,5Y3/3。3層暗灰黄色大疊層2,5Y4/2。4層暗灰黄色砂疊層2,5Y4/2。5層暗灰黄色大疊層2,5Y4/2。（出土遺物）磁器染付瓶の破片が出土。

第5号土坑（S K 0 0 5・第110図）

（位置）08B-8,9グリッド。（形状）楕円形。（規模）長軸4.0m・短軸3.0m・深さ2.0m。（覆土）1層オリーブ褐色中疊層2,5Y4/3。2層暗灰黄褐色砂疊層2,5Y4/2。3層暗オリーブ褐色砂層2,5Y3/3。4層黄灰色砂疊層2,5Y4/1。5層黒褐色砂疊層2,5Y3/2。6層黒褐色砂疊層2,5Y3/1。（出土遺物）なし。

第6号土坑（S K 0 0 6・第110図）

（位置）03T-13,14グリッド。（形状）不整円形。（規模）長軸3.1m・短軸2.0m・深さ1.5m。（出土遺物）なし。

第7号土坑（S K 0 0 7・第110図）

（位置）03T-13グリッド。（形状）不整円形。（規模）長軸2.7m・短軸1.5m・深さ0.5m。（出土遺物）なし。

第8号土坑（SK008・第110図）

（位置）03T-12,13グリッド。（重複）9号土坑と重複。（形状）不整円形。（規模）長軸4.5m・短軸2.5m・深さ0.5m。（覆土）1層暗灰黄色砂疊層2,5Y4/2。（出土遺物）なし。

第9号土坑（SK009・第110図）

（位置）03T-12,13グリッド。（重複）8号土坑と重複。（形状）円形。（規模）直径2.0m・深さ0.5m。（覆土）1層暗灰黄色砂疊層2,5Y4/2。（出土遺物）なし。

第10号土坑（SK010・第110図）

（位置）03T-12,13・08A-12グリッド。（形状）楕円形。（規模）長軸3.1m・短軸1.5m・深さ0.3m。（覆土）1層暗灰黄色砂疊層2,5Y4/2。（出土遺物）なし。

第11号土坑（SK011・第110図）

（位置）03T-12・08A-12グリッド。（形状）不整円形。（規模）長軸3.0m・短軸1.5m・深さ0.3m。（覆土）1層褐色砂疊層10YR4/4。（出土遺物）なし。

第12号土坑（SK012・第111図）

（位置）08A,B-8グリッド。（重複）13号土坑と重複。（形状）不整円形。（規模）長軸不明。短軸1.8m・深さ0.3m。（覆土）1層褐色砂疊層10YR4/4。（出土遺物）なし。

第13号土坑（SK013・第111図）

（位置）08A,B-8グリッド。（重複）12号土坑と重複。（形状）直径2.5mを測る円形。（出土遺物）なし。

第14号土坑（SK014・第111図）

（位置）08B-7グリッド。（形状）隅丸長方形（規模）長軸2.0m・短軸1.5m・深さ0.4m。（覆土）1層オリーブ褐色砂疊層2,5Y4/3。（出土遺物）なし。

第15号土坑（SK015・第111図）

（位置）08C-7グリッド。（形状）隅丸長方形（規模）長軸3.0m・短軸1.0m・深さ0.6m。（覆土）1層暗黄灰色砂疊層2,5Y4/2。（出土遺物）なし。

第16号土坑（SK016・第111図）

（位置）08A-6グリッド。（形状）楕円形（規模）長軸2.0m・短軸1.0m・深さ1.0m。（覆土）1層灰色砂疊層7,5Y4/1。（出土遺物）なし。

第17号土坑（SK017・第111図）

（位置）08C,D-8,9グリッド。（重複）10号溝と重複。（形状）楕円形（規模）長軸2.0m・短軸1.0m・深さ1.0m。（覆土）1層灰色砂疊層7,5Y4/1。（出土遺物）なし。

第18号土坑（SK018・第111図）

（位置）08C-8,9グリッド。（重複）10号溝と重複。（形状）隅丸長方形（規模）長軸3.5m・短軸2.0m・深さ2.1m。（出土遺物）なし。

第19号土坑（SK019・第111図）

（位置）08C-8,9グリッド。（重複）10号溝と重複。（形状）隅丸長方形（規模）長軸3.6m・短軸2.5m・深さ1.5m。（出土遺物）なし。

第20号土坑（SK020・第111図）

（位置）08C,D,E-9グリッド。（形状）西側は擾乱に切られ不明だが、現状では計5基の土坑が東西方方向に連続して掘り込まれ、溝状を呈している。（規模）長軸8.0m・短軸2.1m・深さ2.2m。（出土遺物）なし。

第21号土坑（SK021・第112図）

（位置）08C-7,8グリッド。（形状）不整円形。東側にテラスを持つ。（規模）長軸5.6m・短軸3.9m・深さ3.0m。（覆土）1層灰黄褐色砂礫層10YR4/2。2層灰黄褐色砂層10YR4/2。3層黒褐色礫層10YR3/2。4層黒褐色砂礫層10YR3/2。5層黒褐色小礫層10YR3/2。（出土遺物）なし。

第22号土坑（SK022・第112図）

（位置）08E-11グリッド。（重複）10号溝と重複している。（形状）不明。（規模）深さ0.3m。（出土遺物）なし。

第23号土坑（SK023・第112図）

（位置）08F,G-10,11グリッド。（形状）北西側が調査区外となり不明。（規模）深さ1.1m。（出土遺物）なし。

第24号土坑（SK024・第112図）

（位置）08H-7グリッド。（形状）南側が洪水跡と重複し不明。（規模）短軸1.0m・深さ0.3m。（覆土）1層灰黄褐色砂礫層10YR4/2。（出土遺物）なし。

第25号土坑（SK025・第112図）

（位置）08H,I-7,H-8グリッド。（形状）南側が洪水跡と重複し不明。（規模）短軸1.5m・深さ0.2m。（出土遺物）なし。

第26号土坑（SK026・第112図）

（位置）08B-8グリッド。（形状）不整形。（規模）長軸3.6m・短軸1.0m・深さ0.3m。（出土遺物）なし。

第27号土坑（SK027・第112図）

（位置）03R-14,15,S-15グリッド。（形状）北西側が調査区外となり不明。（規模）深さ1.8m。（覆土）1層黄褐色砂礫層2,5Y5/3。2層褐色礫層10YR4/4。3層オリーブ褐色砂礫層2,5Y4/3。4層にぶい黄褐色土層10YR4/3。5層にぶい黄褐色粘土層10YR4/3。（出土遺物）なし。

第28号土坑（SK028・第112図）

（位置）03R-15グリッド。（形状）不整円形。（規模）直径3.5m・深さ1.8m。（出土遺物）なし。

第1号歓状造構（第112図）

（位置）03Q,R,S,T-1・02Q,R,S-20グリッド。（重複）なし。（検出状況）Ⅲ区南東端で、ほぼ東西方方向に検出された。（形状・規模）東西に長さ3~12.8m、幅0.2~0.5m、深さ0.1~0.2mを測る細長い溝が7条確認され

た。畝部に相当する溝と溝の間隔は0.1~0.3mを測る。確認された範囲は南北5.4m、東西14.2m。(覆土) 1層黒色砂礫層7,5YR1/2。(出土遺物) なし。

第3号溝状遺構 (SD003・第109図)

(位置) 08B-8,C-5,8,D-5~8グリッド。(重複) 本址北端で、10号溝・洪水跡と重複。本址は洪水跡を切って構築されている。(形状・規模) 幅0.5~1.0m、深さ0.5~1.6m、断面バケツ形を呈す細長い溝が南北方向から東西方向へ屈曲しながら検出された。確認された範囲は南北約15m、東西約10m。(覆土) 1層黄褐色砂礫層2,5Y5/3。(出土遺物) 陶器仏飯器の破片が出土。

第8号溝状遺構 (SD008・第109図)

(位置) 08A-10・03S-12,13,T-10~13グリッド。(重複) 本址南端で洪水跡と重複。(形状・規模) 幅0.5~2.0m、深さ0.2~0.5m、断面たらい形を呈す溝が南北方向約20mに渡り、蛇行するように検出された。南側端部は洪水跡と重複しプランが判然としない。(覆土) 1層オリーブ褐色砂礫層2,5Y4/3。(出土遺物) 磁器染付皿の破片が出土。

第10号溝状遺構 (SD010・第109図)

(位置) 08B~E-8,9グリッド。(重複) 17~19・22号土坑及び、本址南端で3号溝状遺構と重複。(形状・規模) 幅0.5~1.5m、深さ0.2~0.5m、断面たらい形を呈す溝が東西方向約20mに渡り、蛇行するように検出された。(覆土) 1層褐色砂礫層7,5YR4/3。(出土遺物) 磁器楕の破片が出土。

洪水跡 (第109図)

(位置) 03Q-3,4,R-3~5,S-4~6,T-5~7・08A~F-5,6グリッド。(重複) 3号溝状遺構と重複。(形状・規模) 突発的出水で形成されたものと思われ、地面が深く抉り込み、内部には砂礫が充満していた。最大幅8.2m、最深度3.0mを測り、南東方向から北西方向に向かって樹枝状に検出されている。この洪水跡を切って、江戸時代以降と思われる陶器仏飯器の破片が出土した3号溝が構築されていることから、洪水はそれ以前、平安時代以降に起きたものと思われる。(出土遺物) なし。

IV区

第1号歛状遺構 (第113図)

(位置) 02P-15~17,Q-15~18,R-15~18,S-16~18,T-16~18・07A-16,17グリッド。(重複) なし。(検出状況) 調査区北側で、ほぼ東西方向に検出された。(形状・規模) 東西方向に長さ1~23m、幅0.2~0.5m、深さ0.1~0.2mを測る細長い溝が27条確認された。本址南東側では幅約2mを測る道路状の無遺構箇所が、溝を斜行するように検出された。畝部に相当する溝と溝の間隔は0.2~0.5mを測る。溝や溝間に直徑10cm前後の小穴が多数検出されている。確認された範囲は南北15m、東西23m。(覆土) 1層オリーブ黒色砂礫層5Y3/1。(出土遺物) なし。

V区

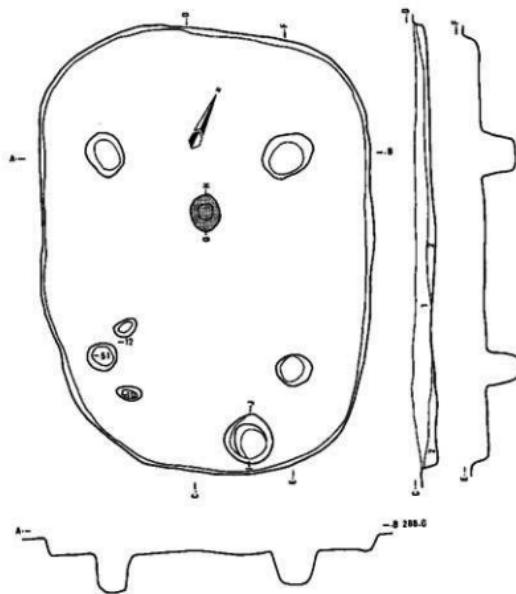
第1号歛状遺構 (第114図)

(位置) 04I-16,17,J-16~18,K-16~18グリッド。(重複) なし。(検出状況) 調査区北側で、東西に別れて検出された。(形状・規模) 東西方向に長さ4.5~10m、幅0.5~1.3m、深さ0.1~0.2mを測る細長い溝が、東側で13条、西側で10条確認された。南北方向は長さ5.0~13m、幅0.5~0.8m、深さ0.1~0.2mを測る細長い溝が、東側で2条、西側で1条確認された。畝部に相当する溝と溝の間隔は0.5~2.0mを測る。確認された範囲は南北15m、東西23m。(覆土) 1層にぶい黄褐色砂礫層10YR5/3。(出土遺物) なし。

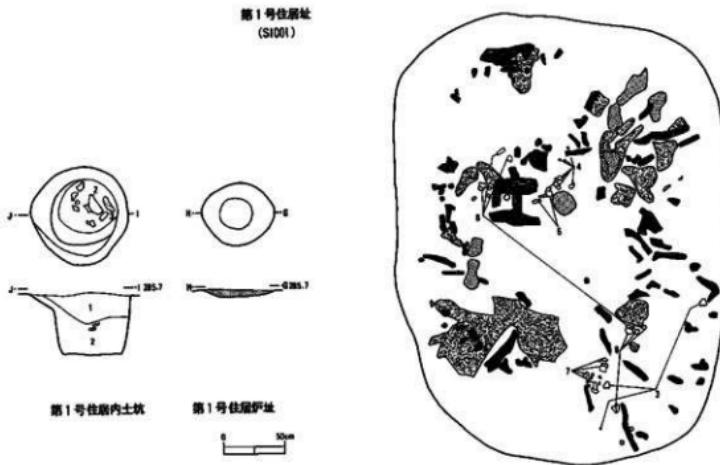


1/2000 50m

第5図 弥生時代遺構配置図

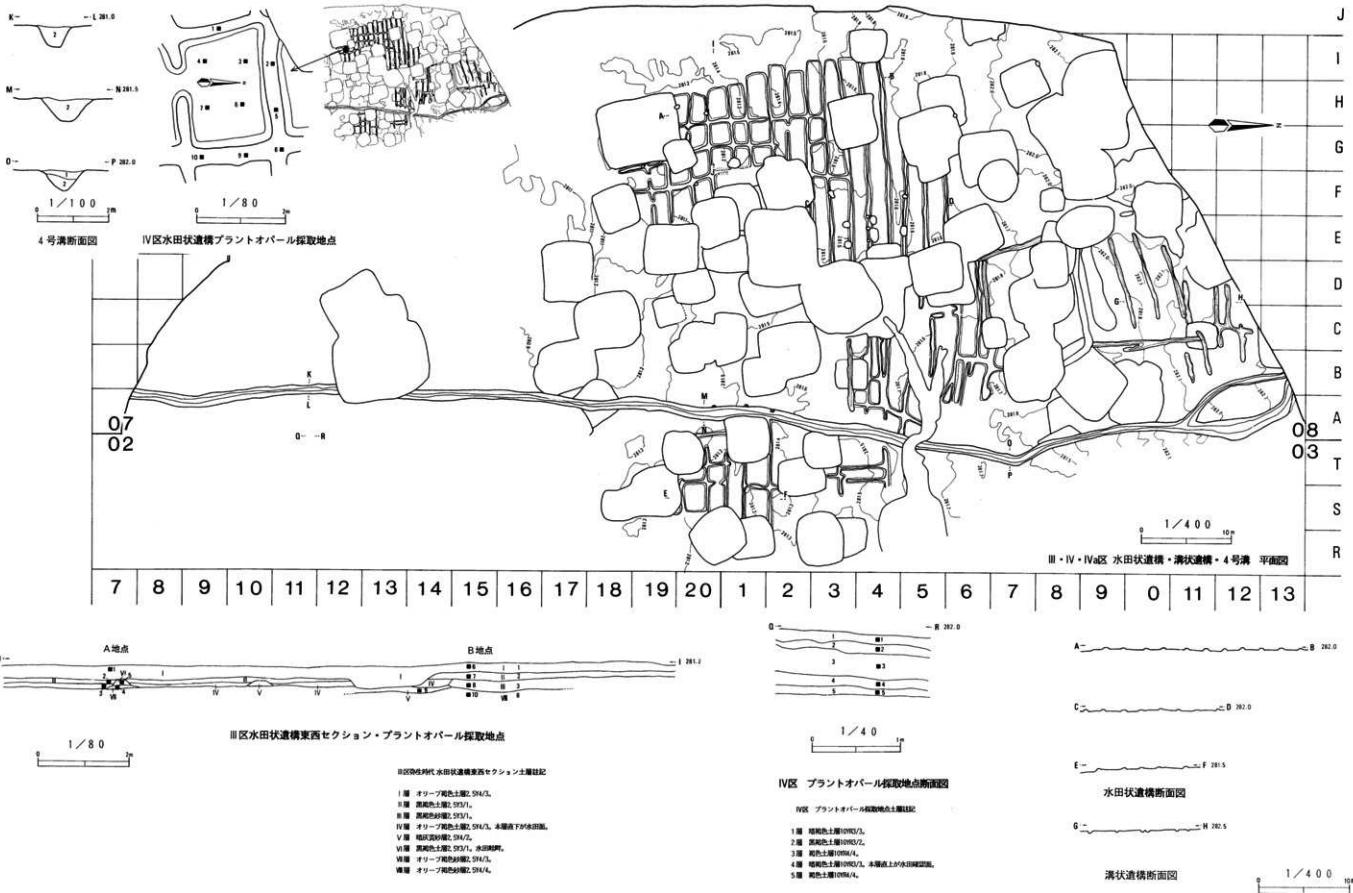


第1号住居址
(S1001)

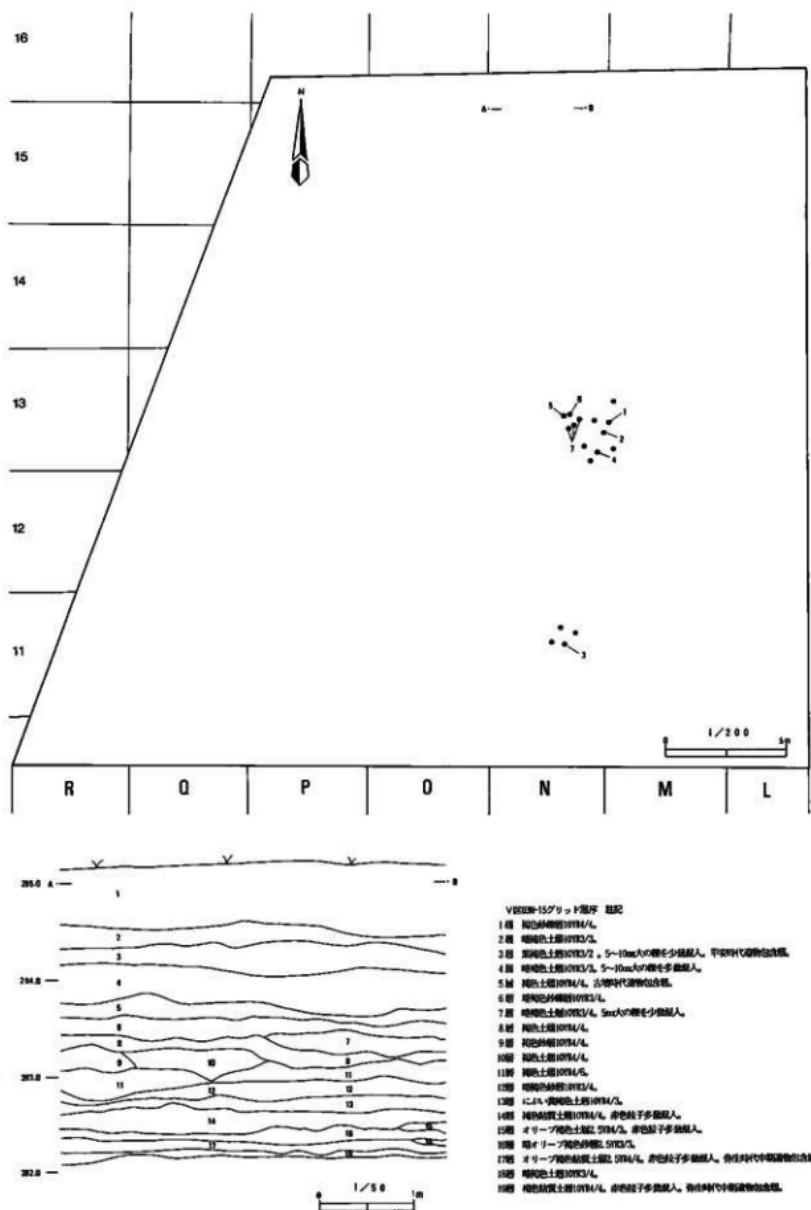


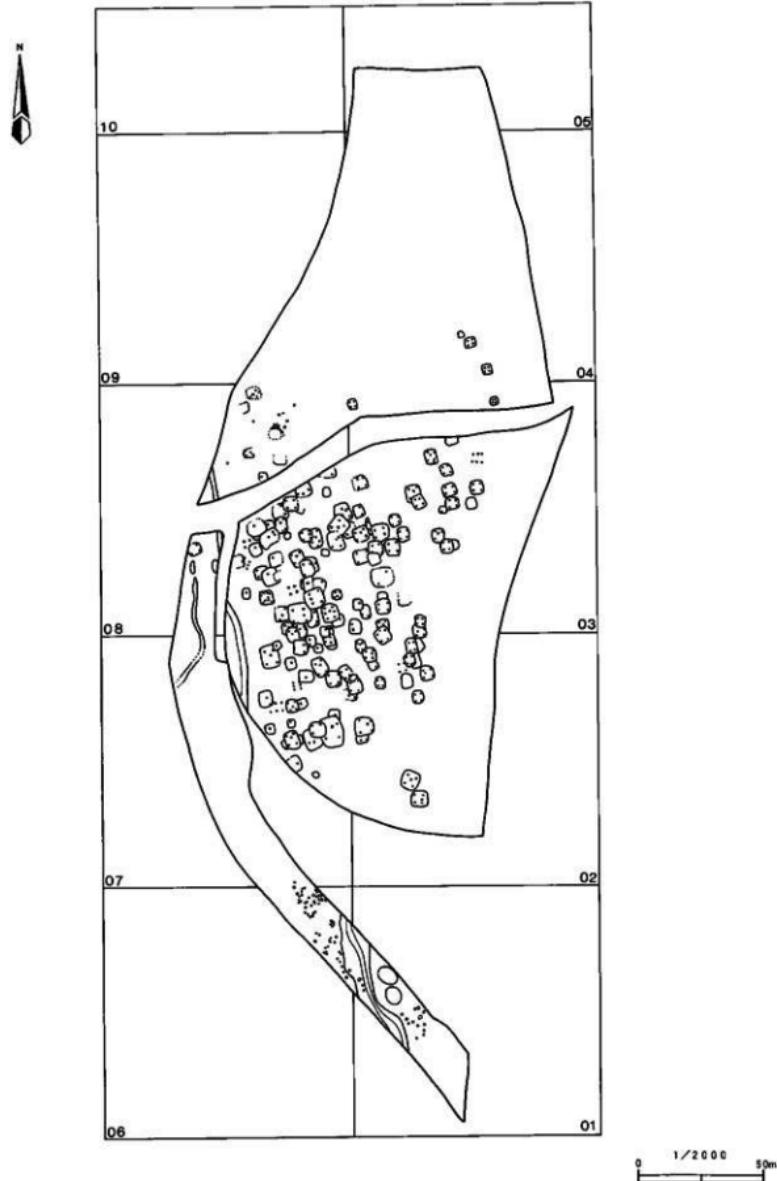
第1号住居址 遗物出土状況

第6図 II区弥生時代1号住居址 (S1001)

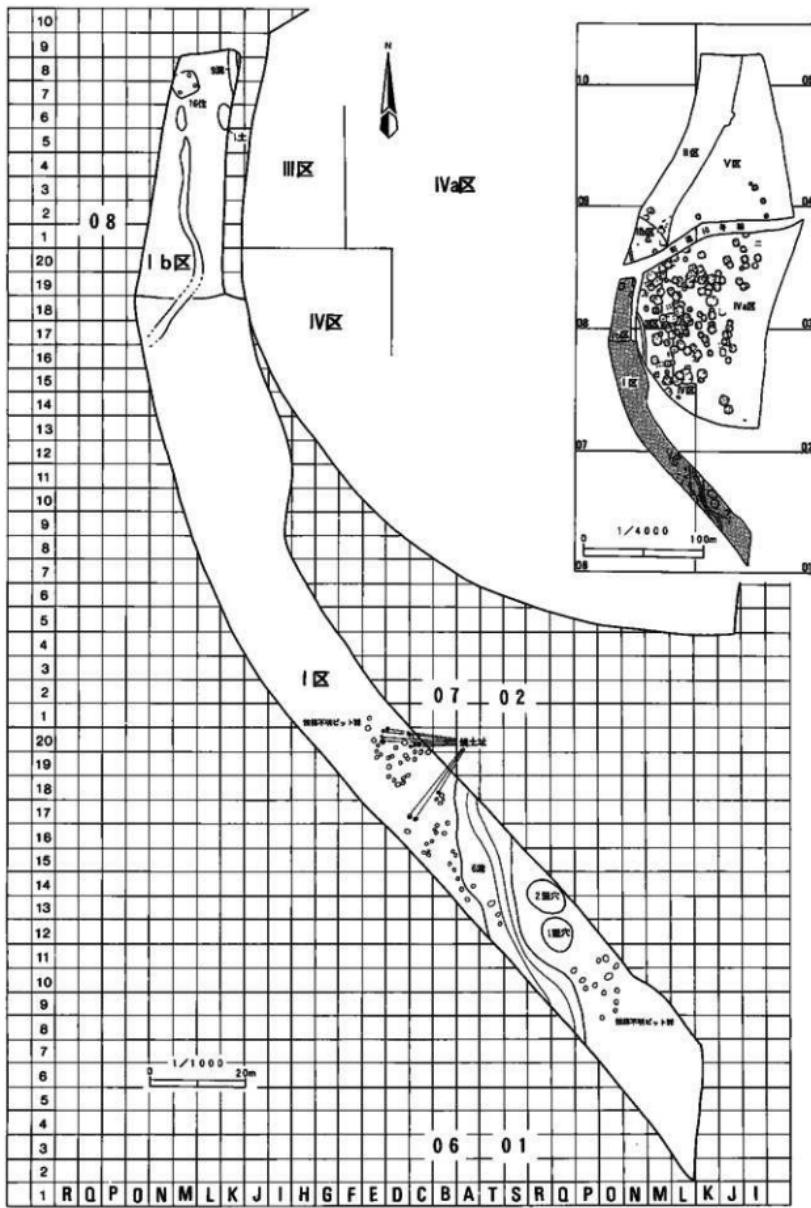


第7・8図 III・IV・IVa区弥生時代遺構

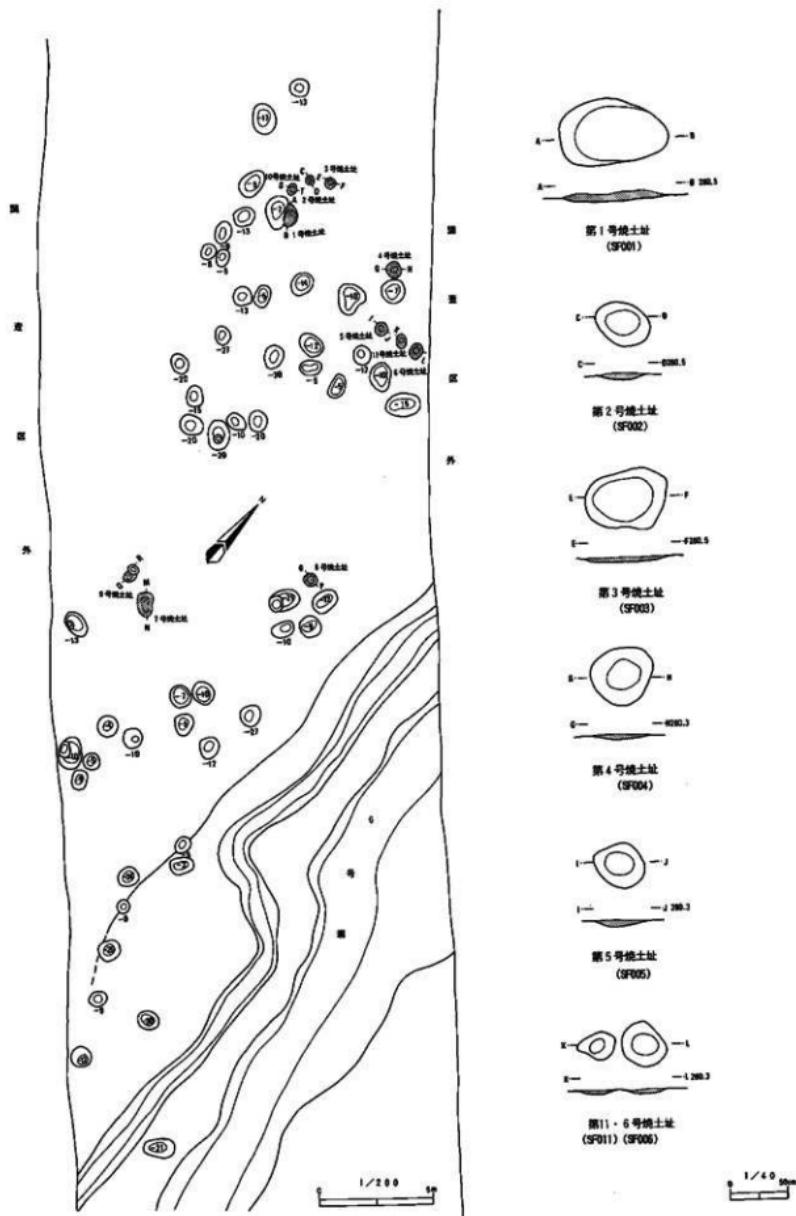




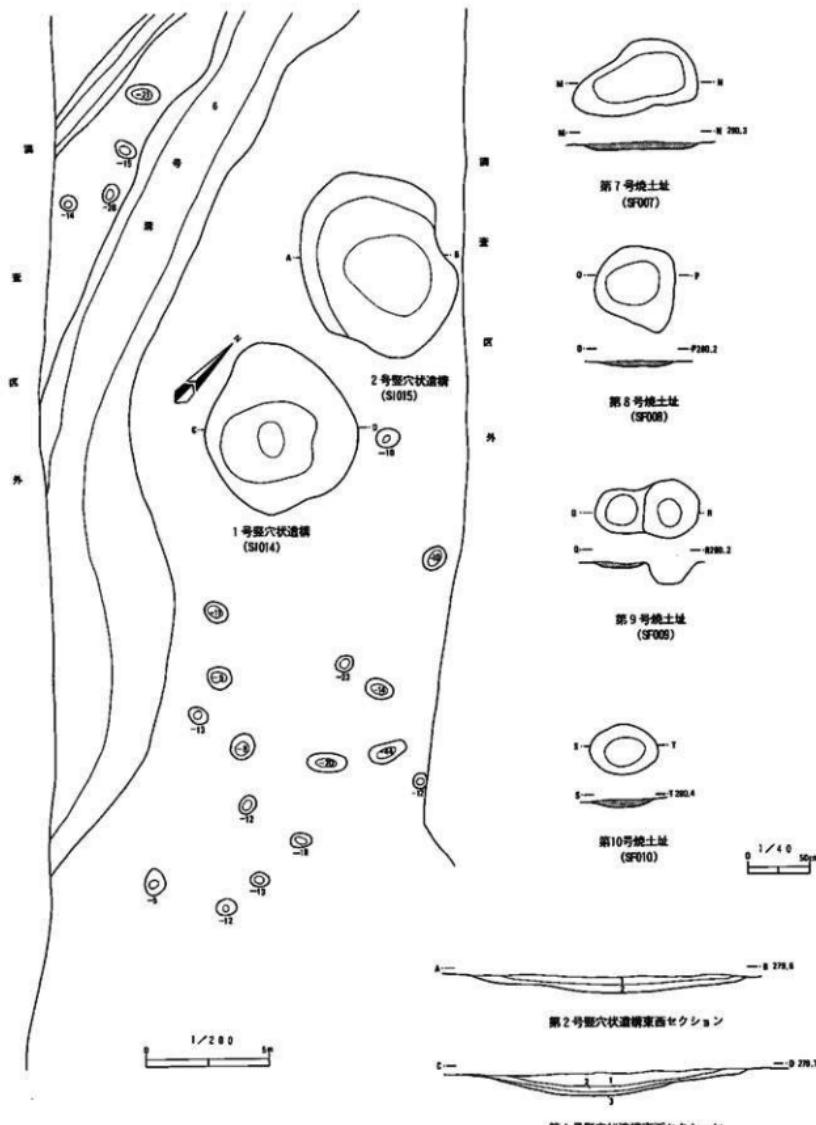
第10図 古墳時代遺構配置図



第11図 I・I b区古墳時代遺構配置図



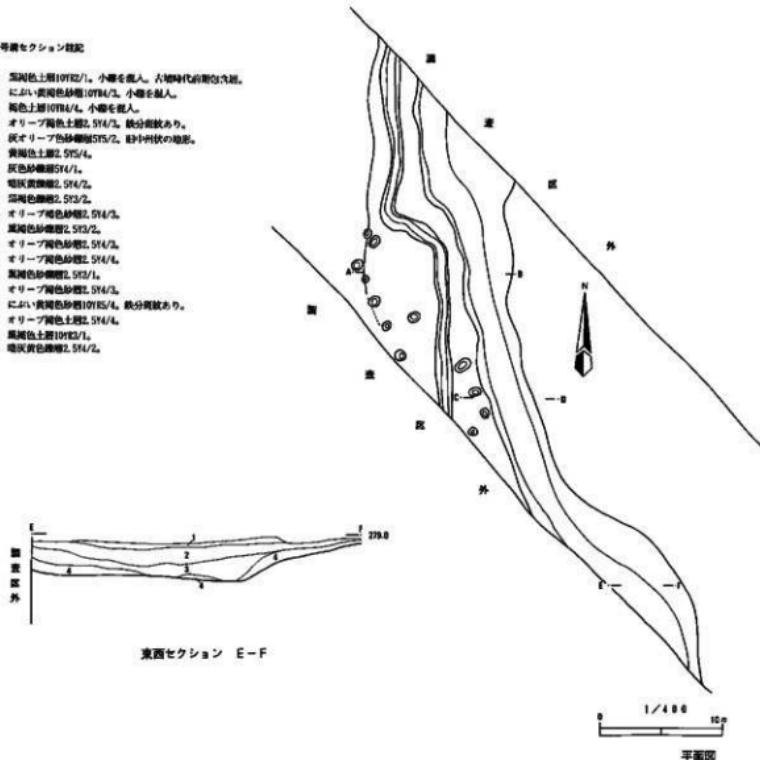
第12図 I区古墳時代焼土址及び性格不明ピット群



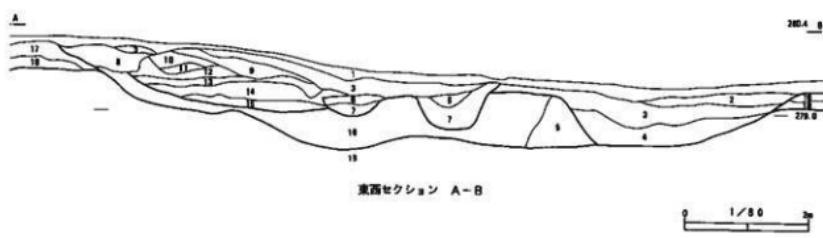
第13図 I区古墳時代堅穴状遺構及び性格不明ピット群

6号溝セクション記述

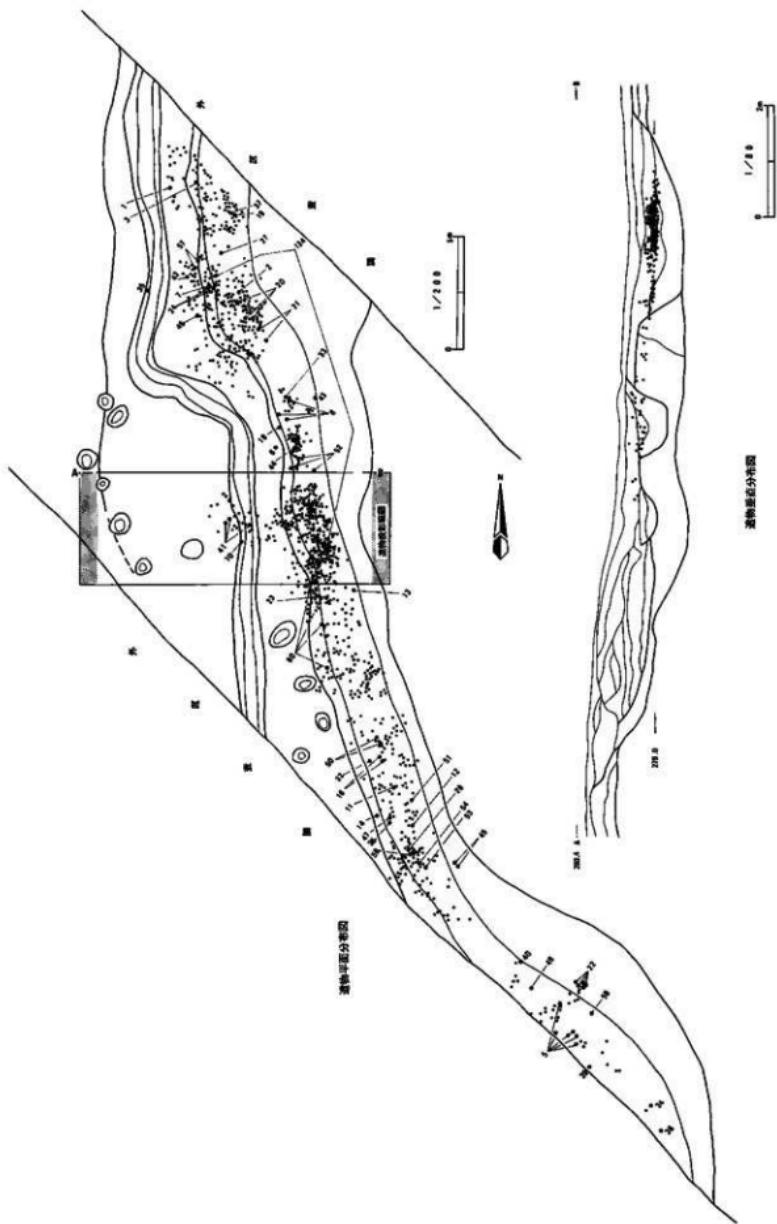
- 1層 黒褐色土層10cm/1. 小砾を混入。古墳時代後期文化層。
- 2層 にかい黄褐色砂層10cm/3. 小砾を混入。
- 3層 黄褐色土層10cm/4. 小砾を混入。
- 4層 オリーブ褐色土層2. 5cm/1. 鮫分粒状。
- 5層 深オーブ色砂層2. 5cm/2. 鮫分粒状の砂層。
- 6層 黄褐色土層2. 5cm/4.
- 7層 灰色砂層2. 5cm/1.
- 8層 黑灰褐色土層2. 5cm/2.
- 9層 黄褐色土層2. 5cm/2.
- 10層 オリーブ褐色土層2. 5cm/2.
- 11層 黑褐色砂層2. 5cm/2.
- 12層 オリーブ褐色土層2. 5cm/2.
- 13層 オリーブ褐色土層2. 5cm/4.
- 14層 黑褐色砂層2. 5cm/1.
- 15層 オリーブ褐色砂層2. 5cm/2.
- 16層 にかい黄褐色砂層10cm/4. 鮫分粒状。
- 17層 オリーブ褐色土層2. 5cm/1.
- 18層 黄褐色土層2. 5cm/2.



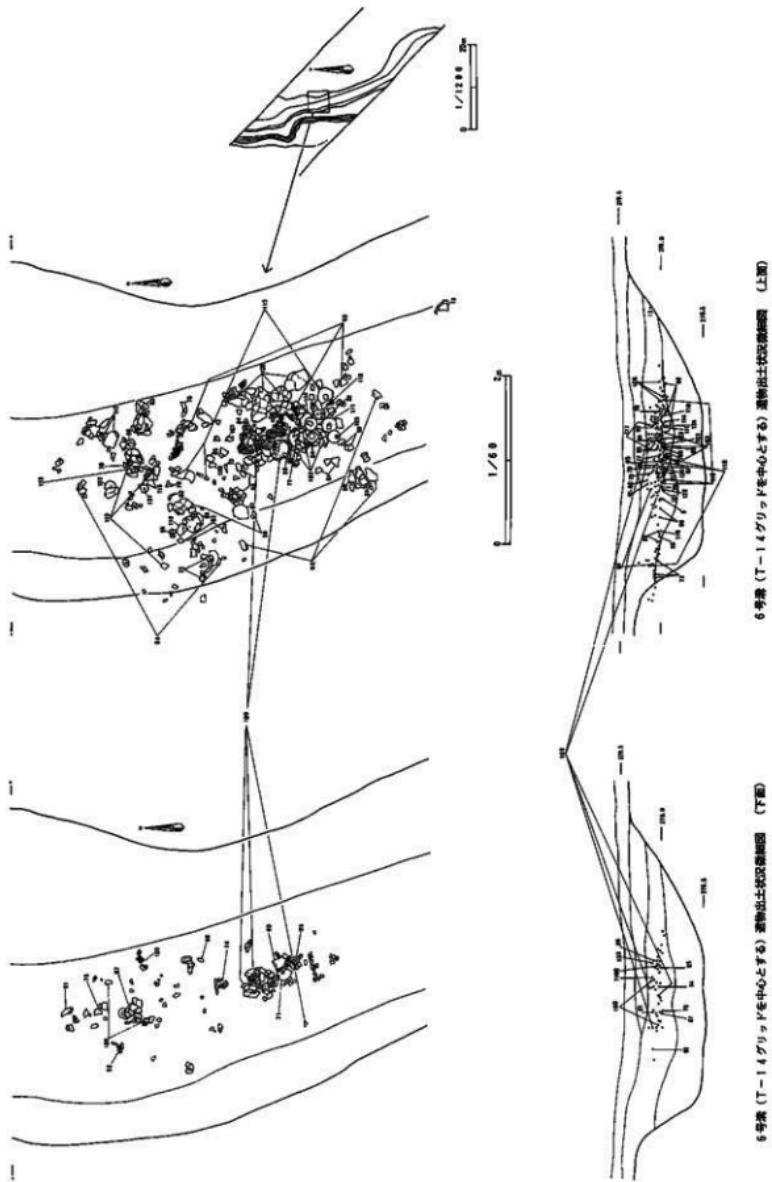
東西セクション C-D



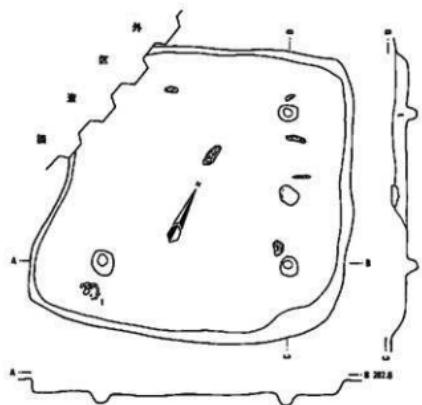
第14図 I区古墳時代6号溝(SD006) 平・断面図



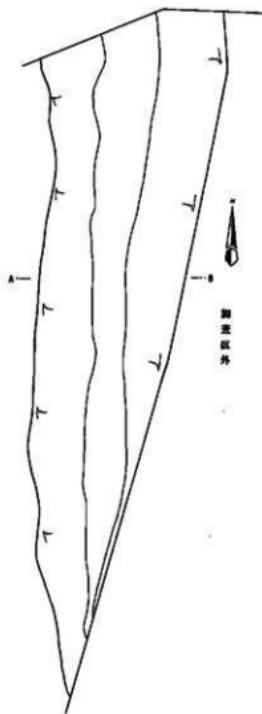
第15圖 I区古墳時代6号溝(SD006) 遺物出土状況



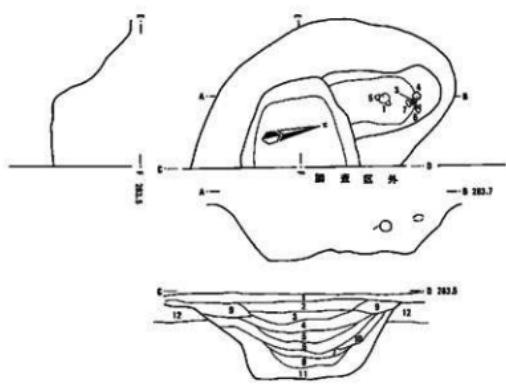
第16図 I区古墳時代6号溝 (SD006) T-14グリッド遺物出土状況



第16号住居址
(SH016)

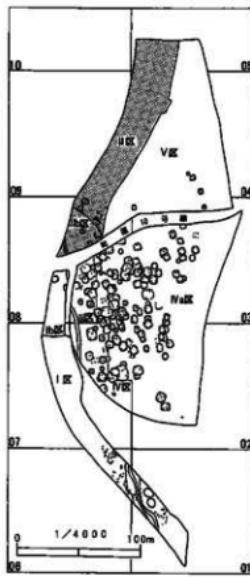
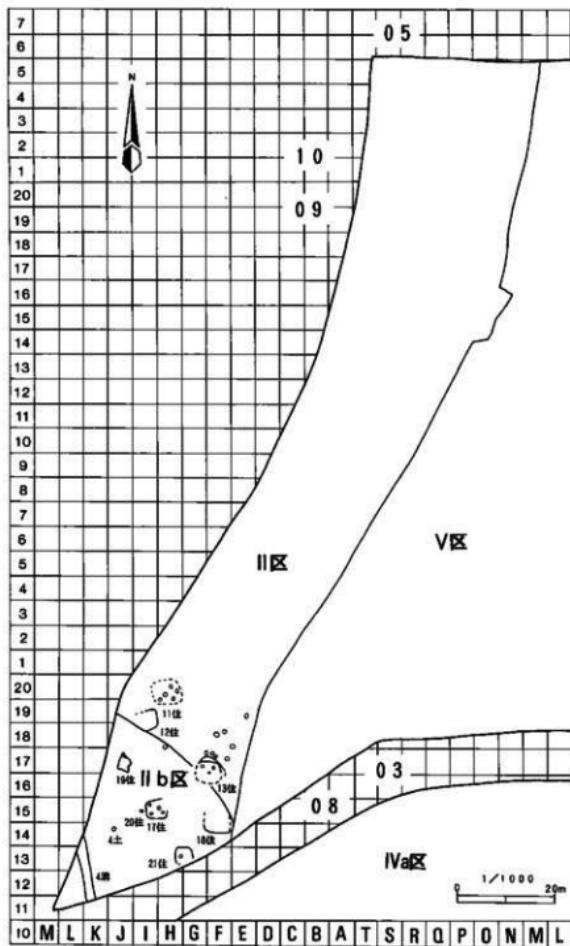


第1号墳址
(SH001)

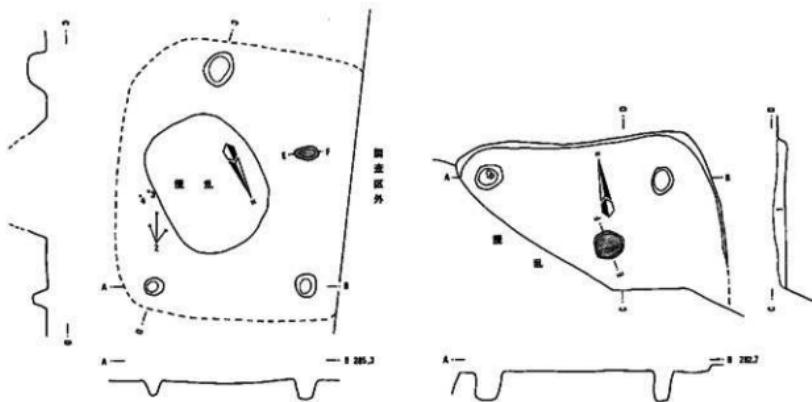


第1号墳
(SH001)

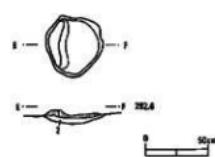
第17図 I b 区古墳時代遺構



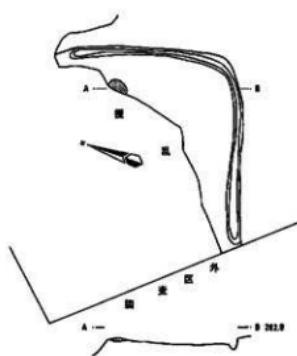
第18図 II・IIb区古墳時代遺構配置図



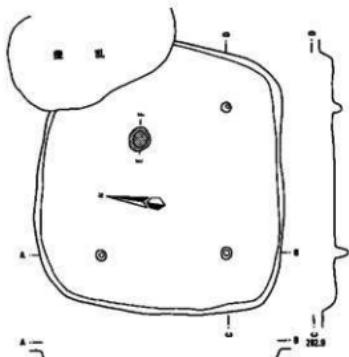
第11号住居址



第13号住居址



第19図 II区古墳時代遺構



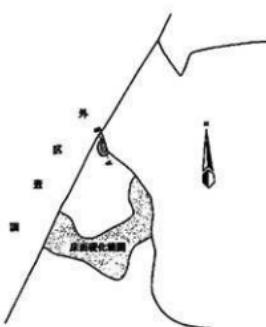
第17号住居址
(SI017)



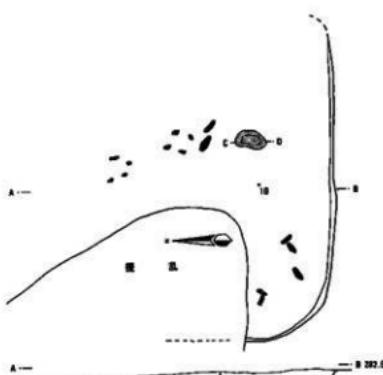
11号住居址遺物出土状況



第17号住居炉址



第19号住居址
(SI019)



第18号住居址
(SI018)



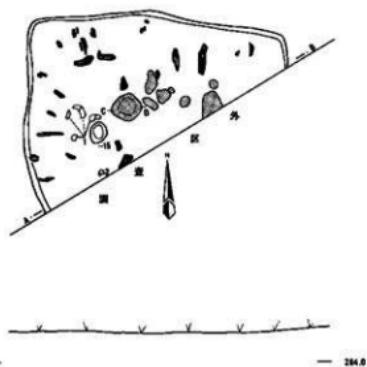
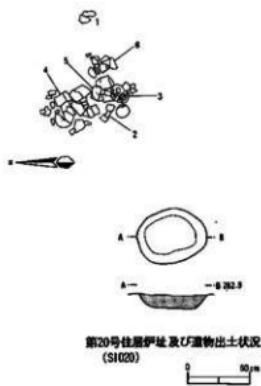
第18号住居炉址



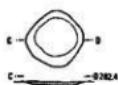
第19号住居址
(SI019)



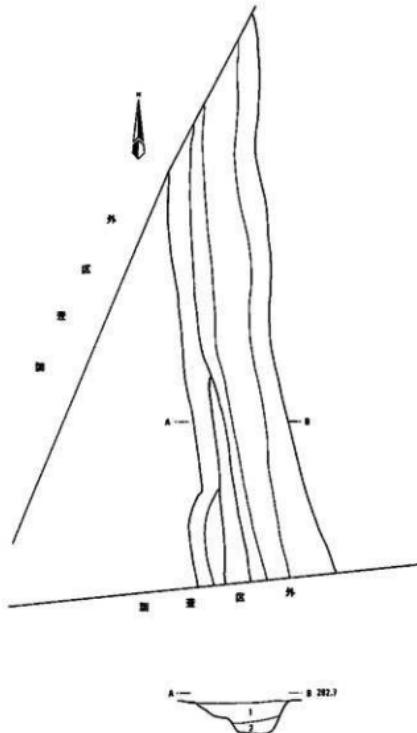
第20図 II b 区古墳時代遺構



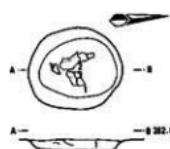
第21号住居跡
(SI021)



第21号住居跡

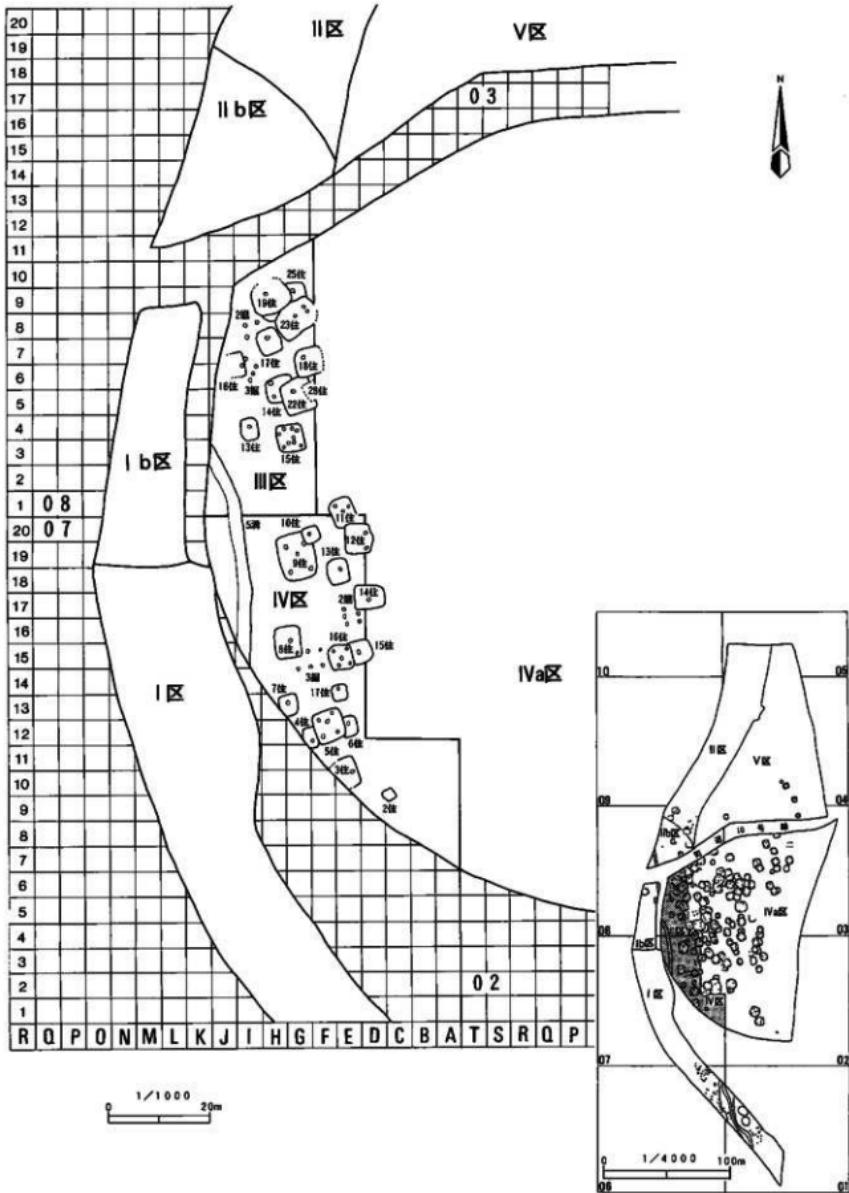


第4号墓址
(SI004)

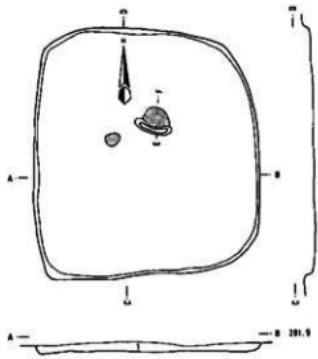


第4号土塗
(SI004)

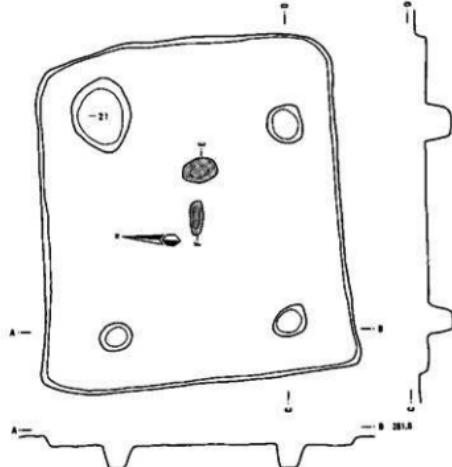
第21図 II b 区古墳時代遺構



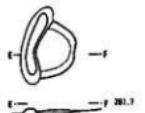
第22図 III・IV区古墳時代遺構配置図



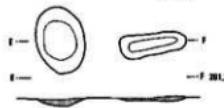
第13号住居址
(SI013)



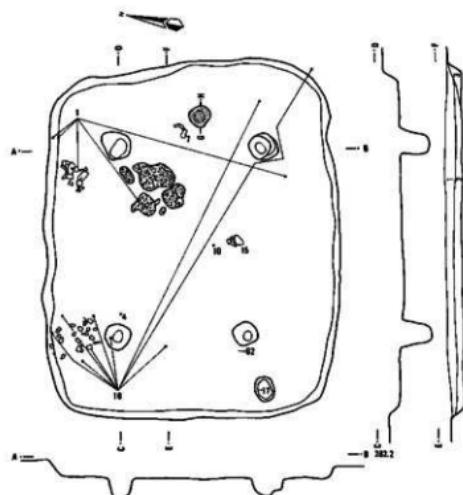
第15号住居址
(SI015)



第13号住居址



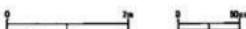
第15号住居址



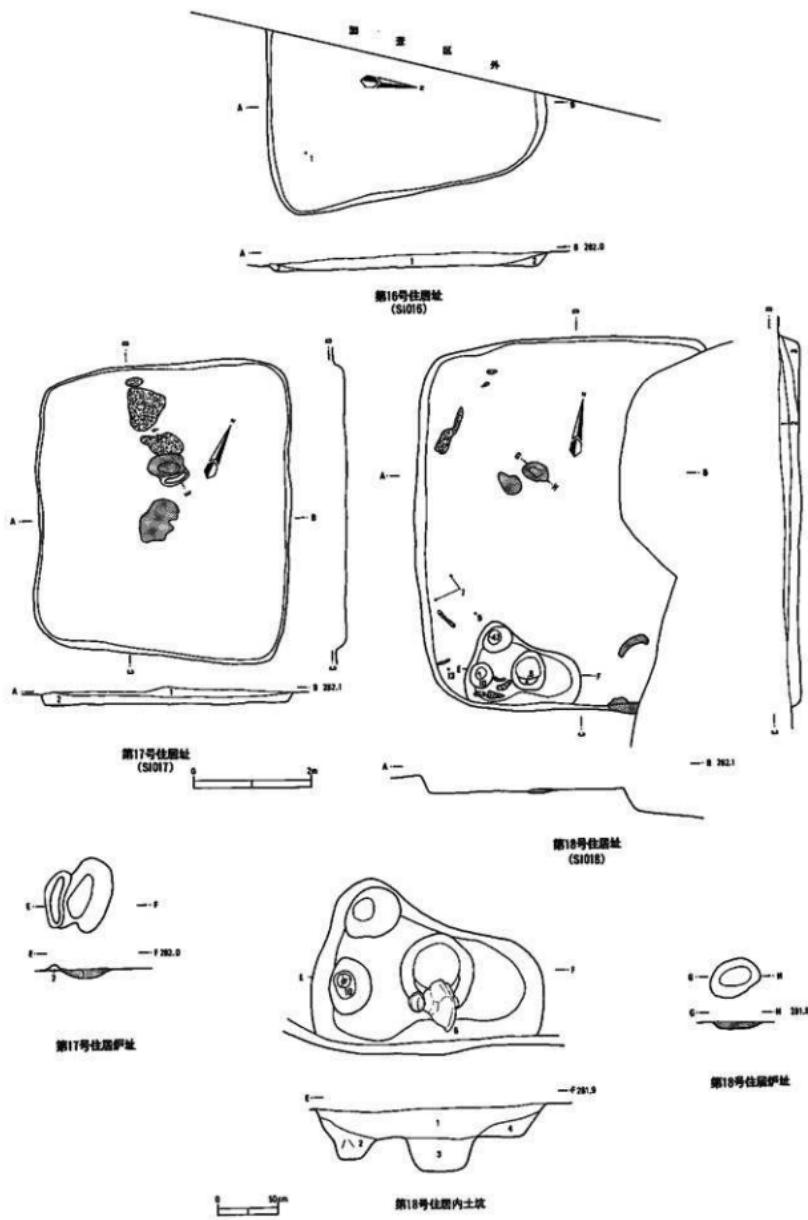
第14号住居址 (SI014)



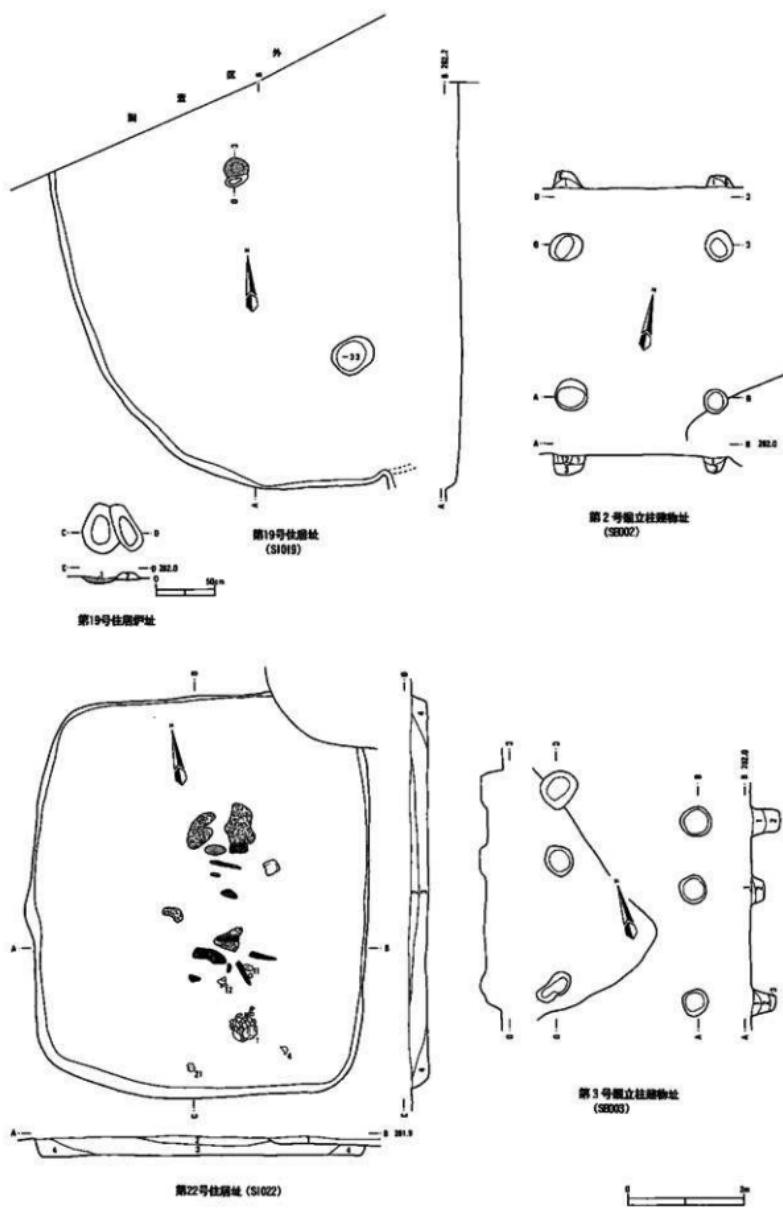
第14号住居址



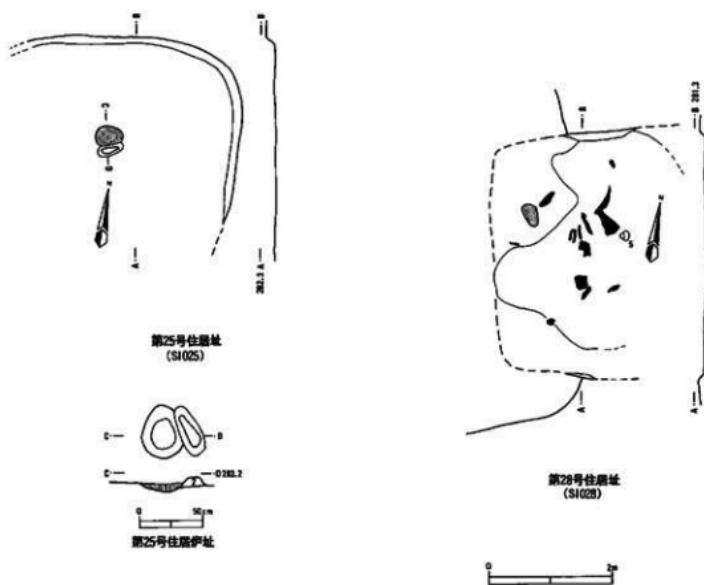
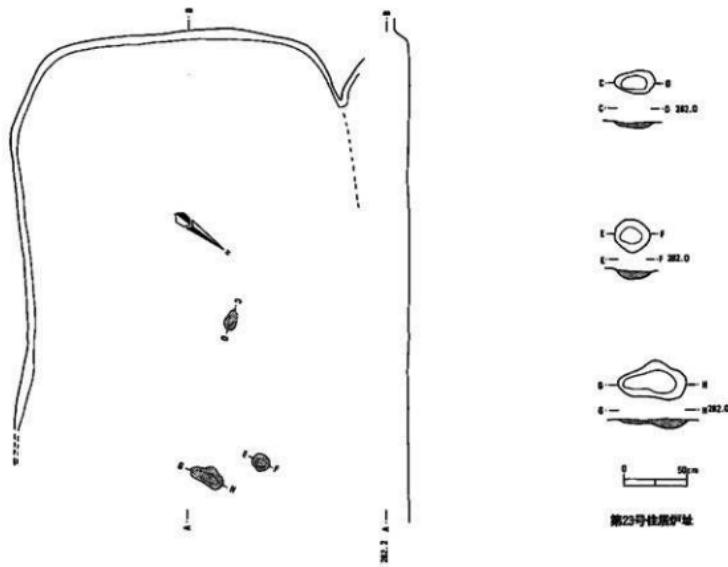
第23圖 III區古墳時代遺構



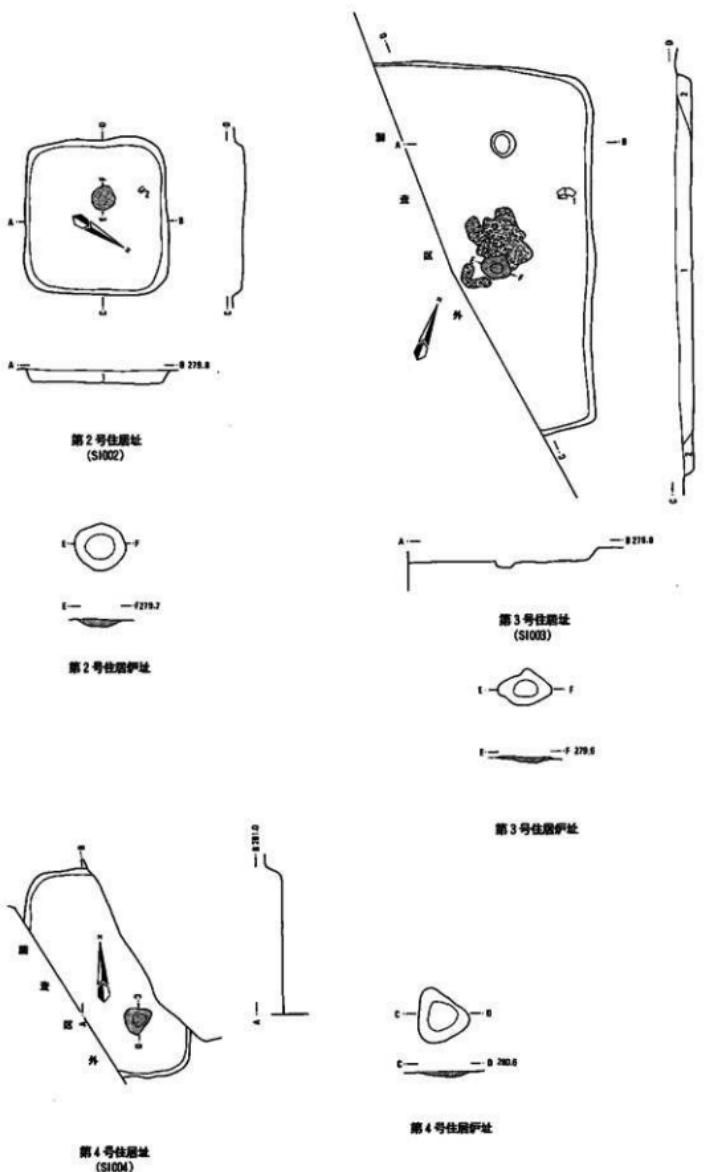
第24図 III区古墳時代遺構



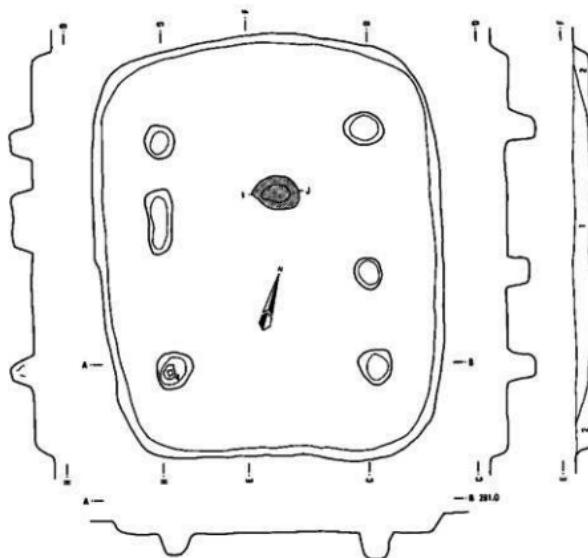
第25図 III区古墳時代遺構



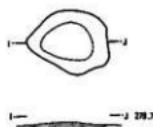
第26図 III区古墳時代遺構



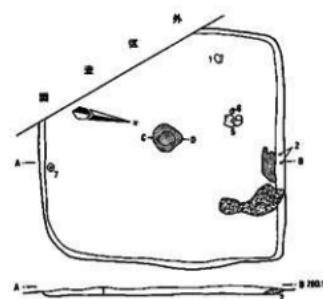
第27図 IV区古墳時代遺構



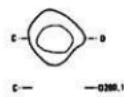
第5号住居跡
(SI005)



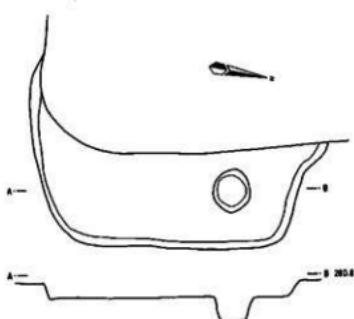
第5号住居跡



第7号住居跡
(SI007)



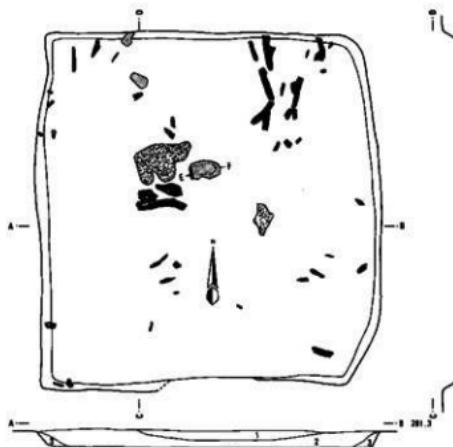
第7号住居跡



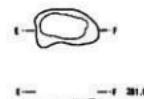
第6号住居跡 (SI006)



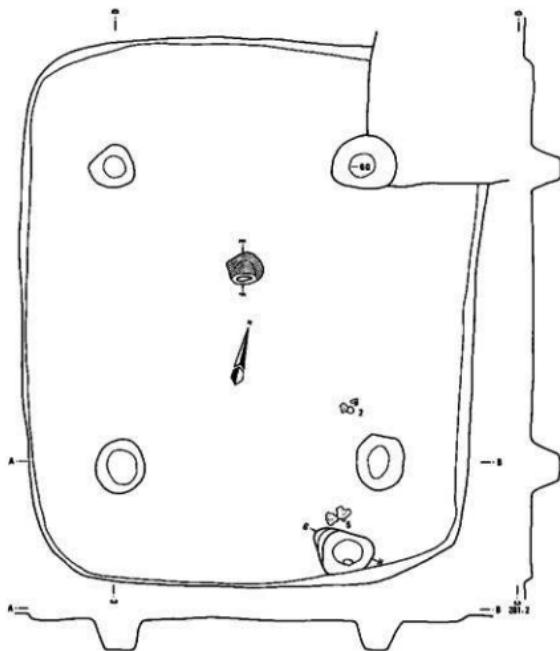
第28図 IV区古墳時代遺構



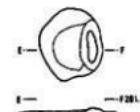
第8号住居址
(SI008)



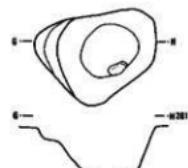
第8号住居址



第9号住居址
(SI009)



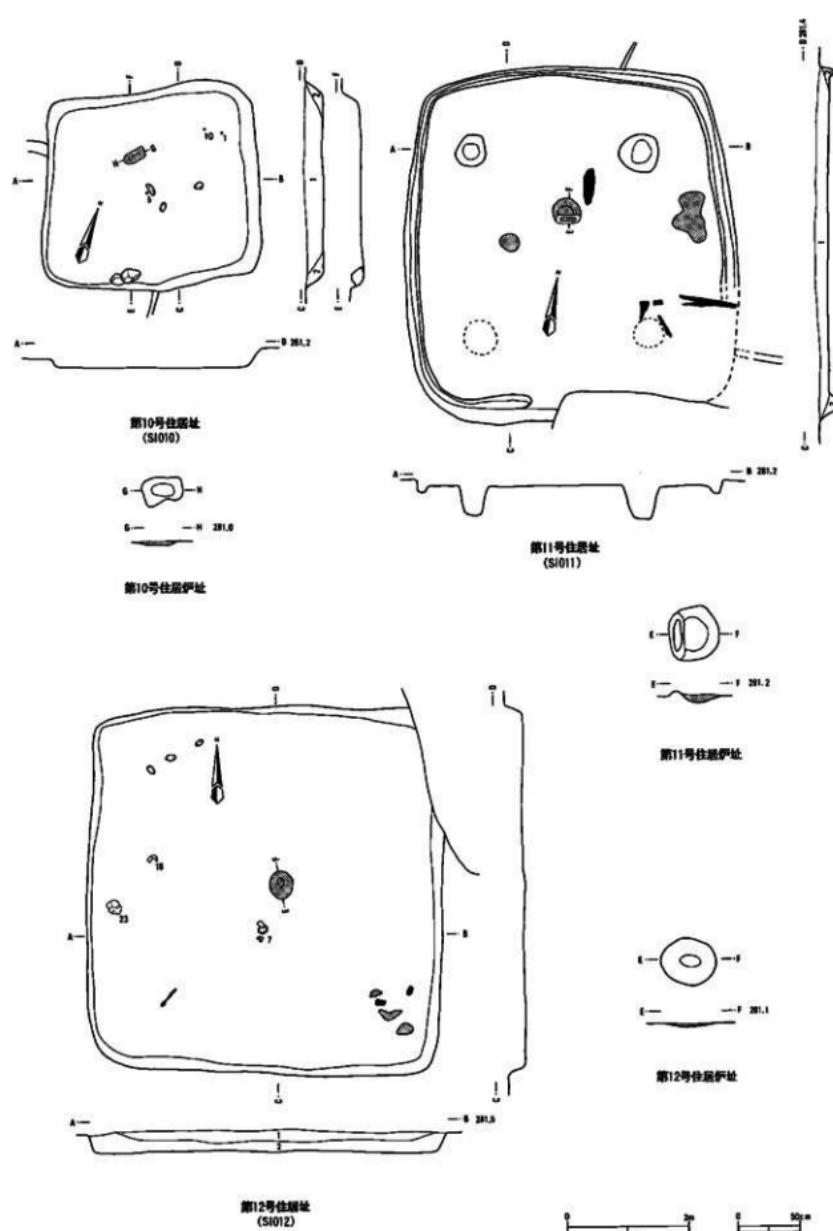
第9号住居址



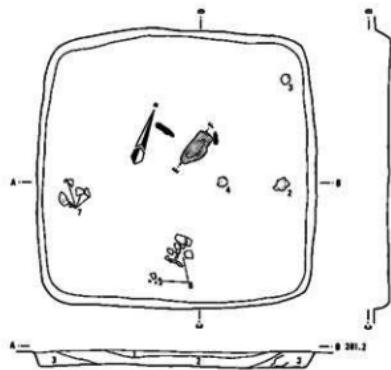
第9号住居址内土坑



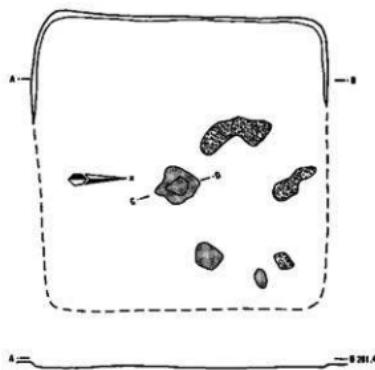
第29図 IV区古墳時代遺構



第30図 IV区古墳時代遺構



第13号住居址
(SI013)



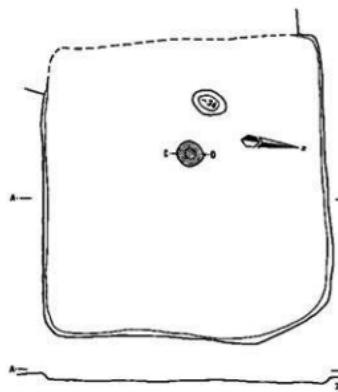
第14号住居址 (SI014)



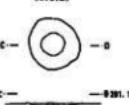
第13号住居址



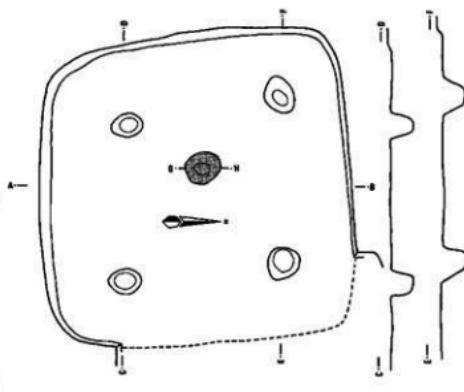
第14号住居址



第15号住居址
(SI015)



第15号住居址



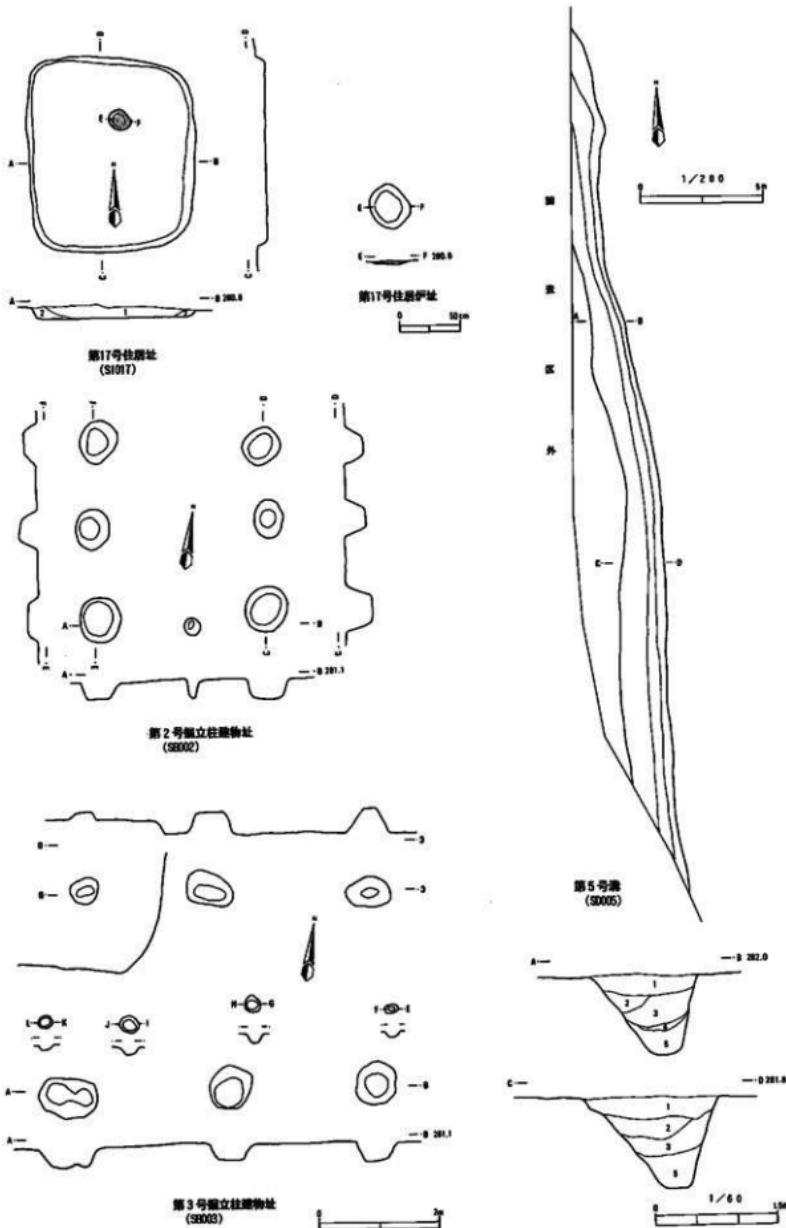
第16号住居址 (SI016)



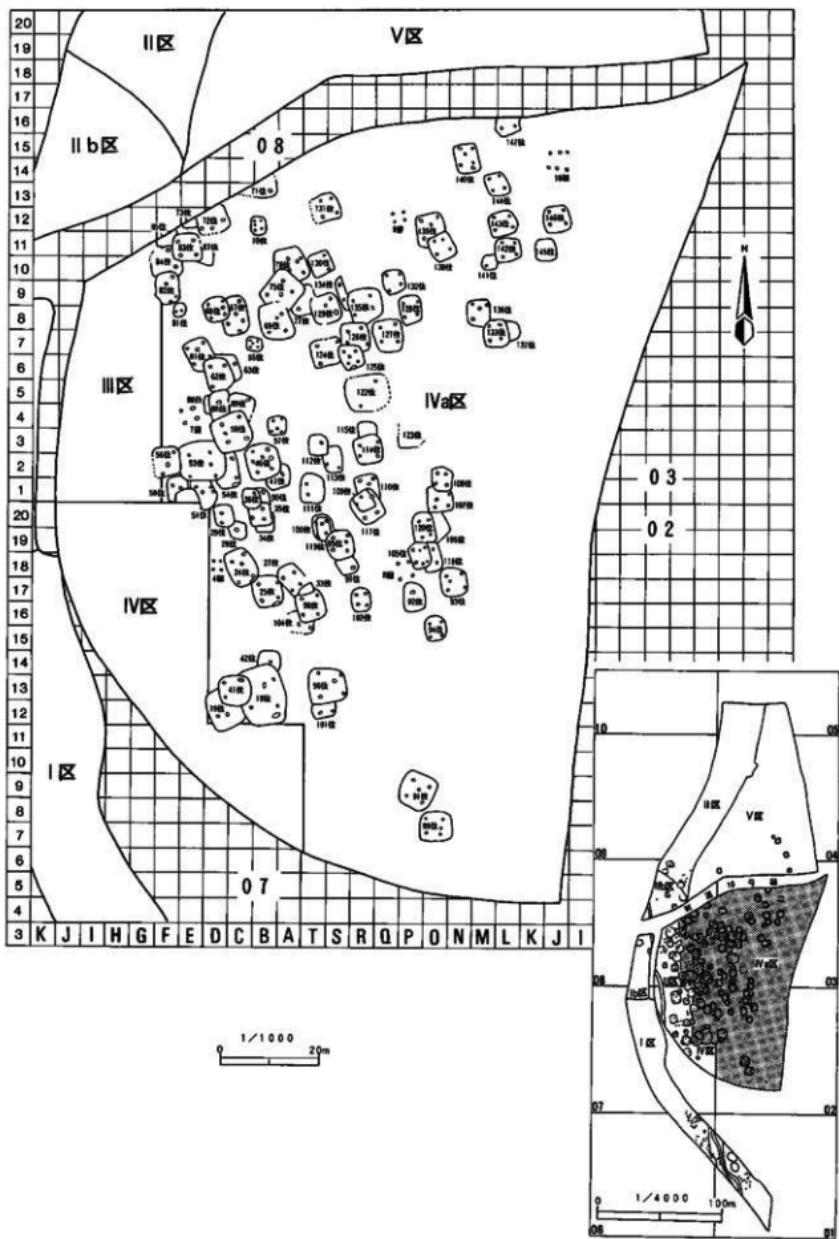
第16号住居址

— 200.0 —

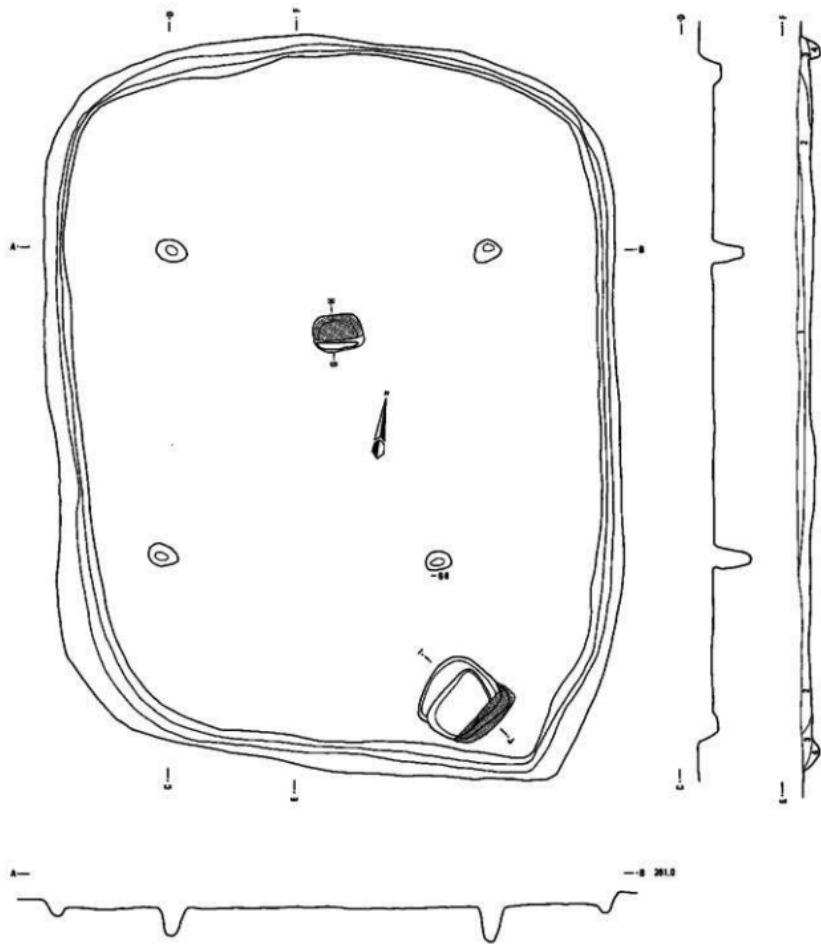
第31図 IV区古墳時代遺構



第32図 IV区古墳時代遺構

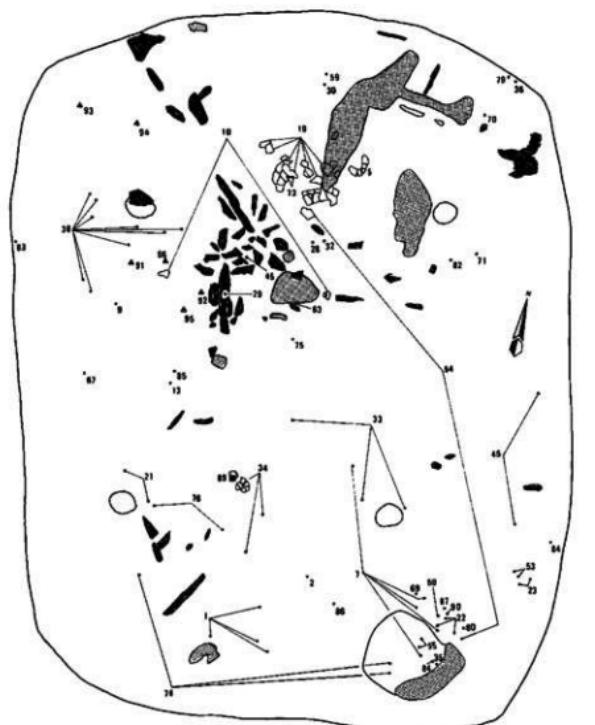


第33図 IVa区古墳時代遺構配置図



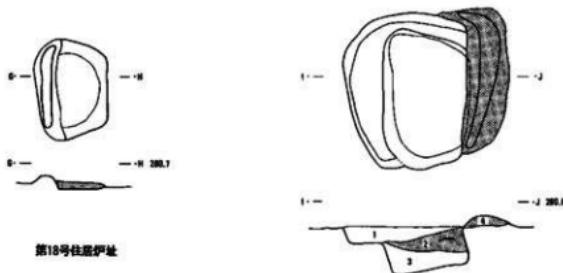
第18号住居址
(SI018)

第34図 IV a 区古墳時代遺構



第18号住居遺物出土状況

0 2m

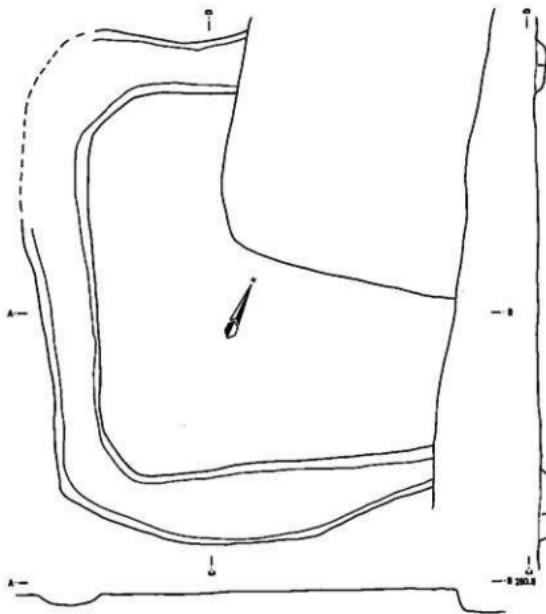


第18号住居炉址

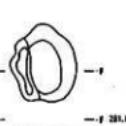
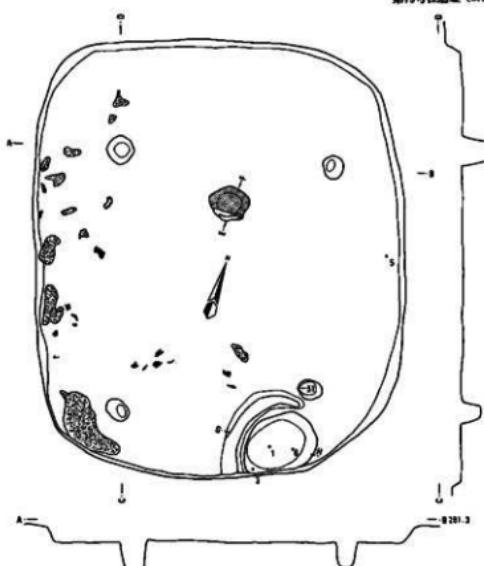
第18号住居内土坑

0 2m

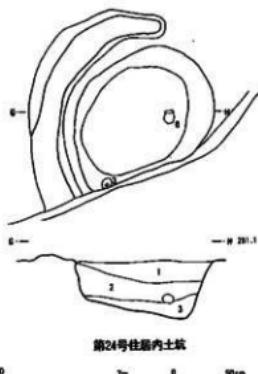
第35図 IV a 区古墳時代遺構



第19号住居址 (SI019)



第24号住居址

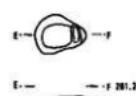
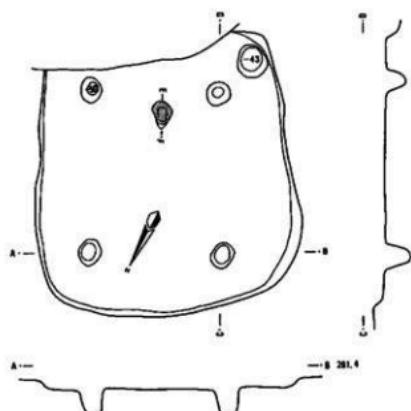
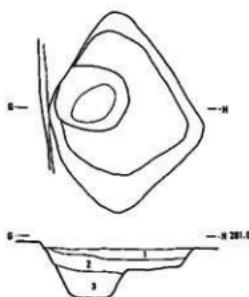
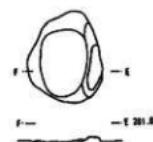
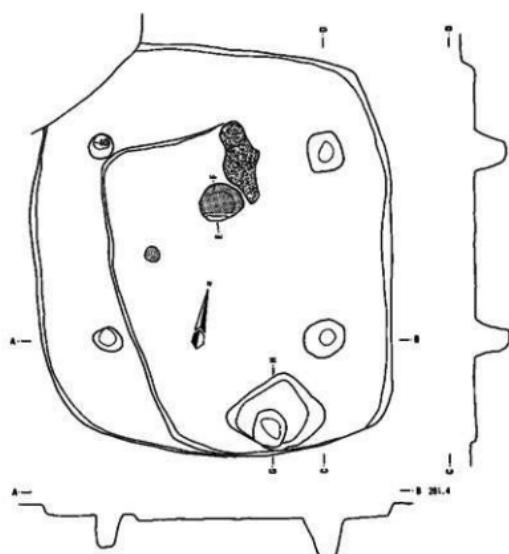


第24号住居内土坑

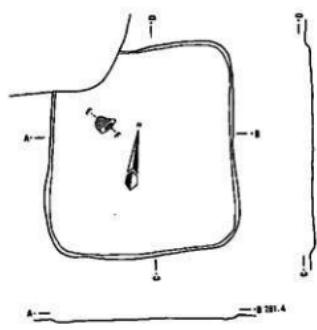


第24号住居址 (SI024)

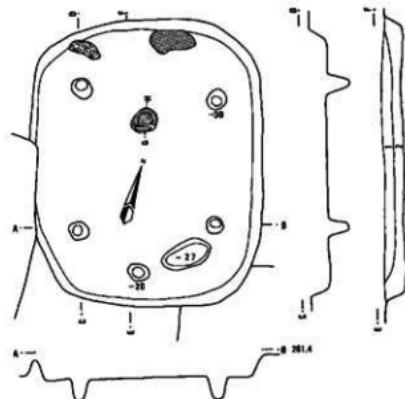
第36図 IV a区古墳時代遺構



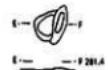
第37図 IVa区古墳時代遺構



第28号住居址
(SI028)



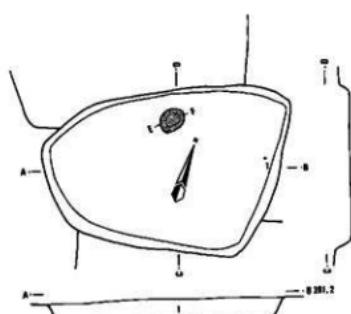
第29号住居址
(SI029)



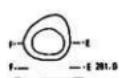
第28号住居址



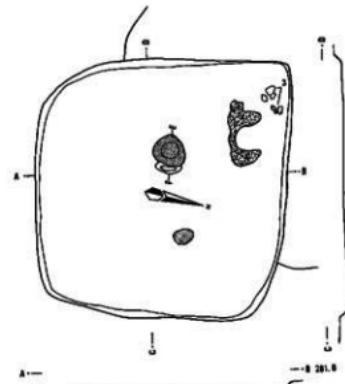
第29号住居址



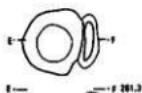
第33号住居址
(SI033)



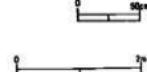
第33号住居址



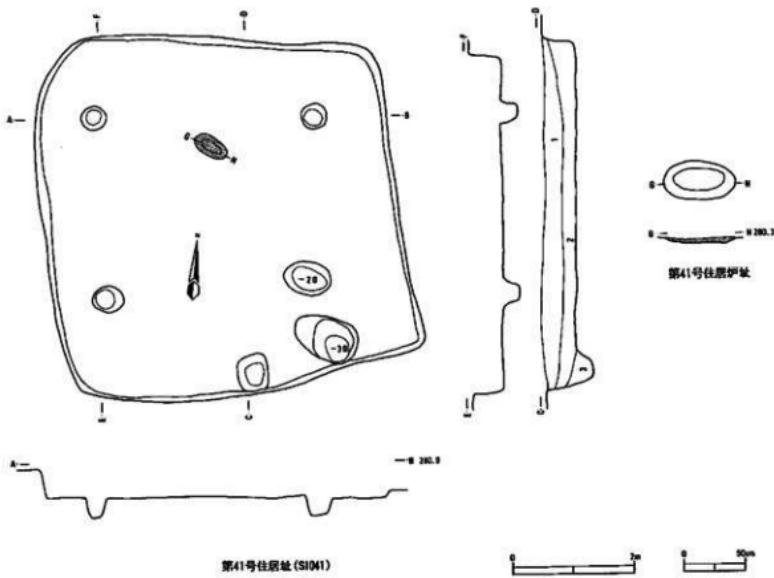
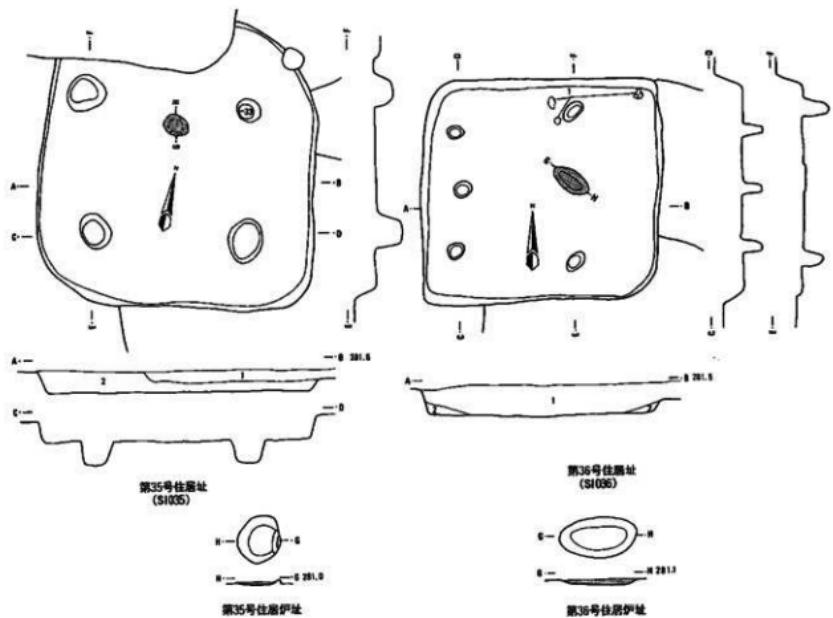
第34号住居址
(SI034)



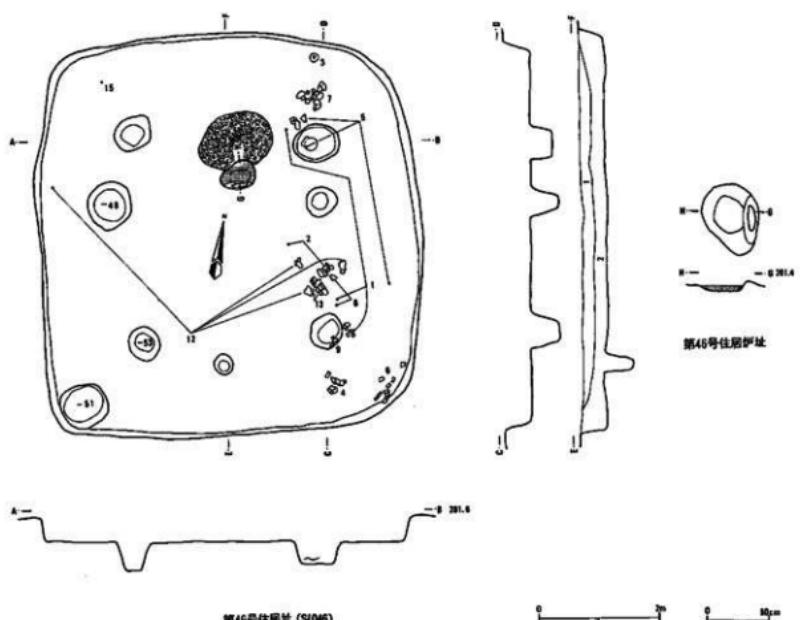
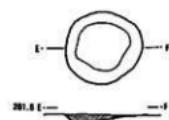
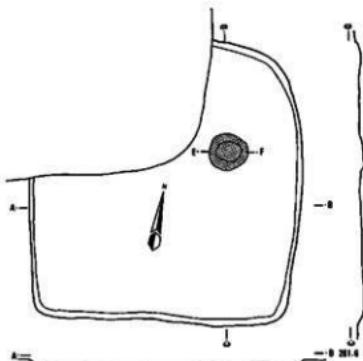
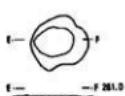
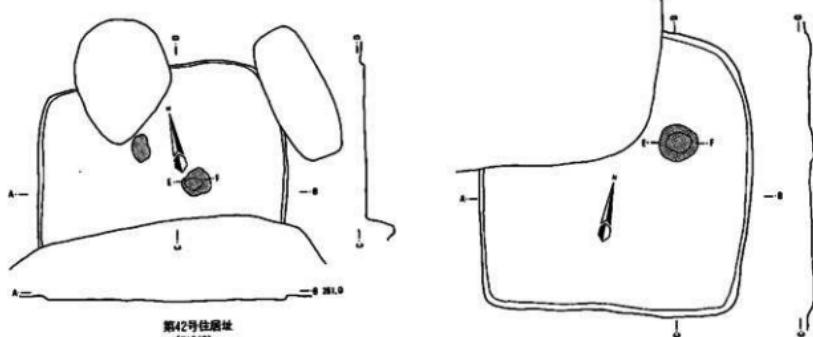
第34号住居址



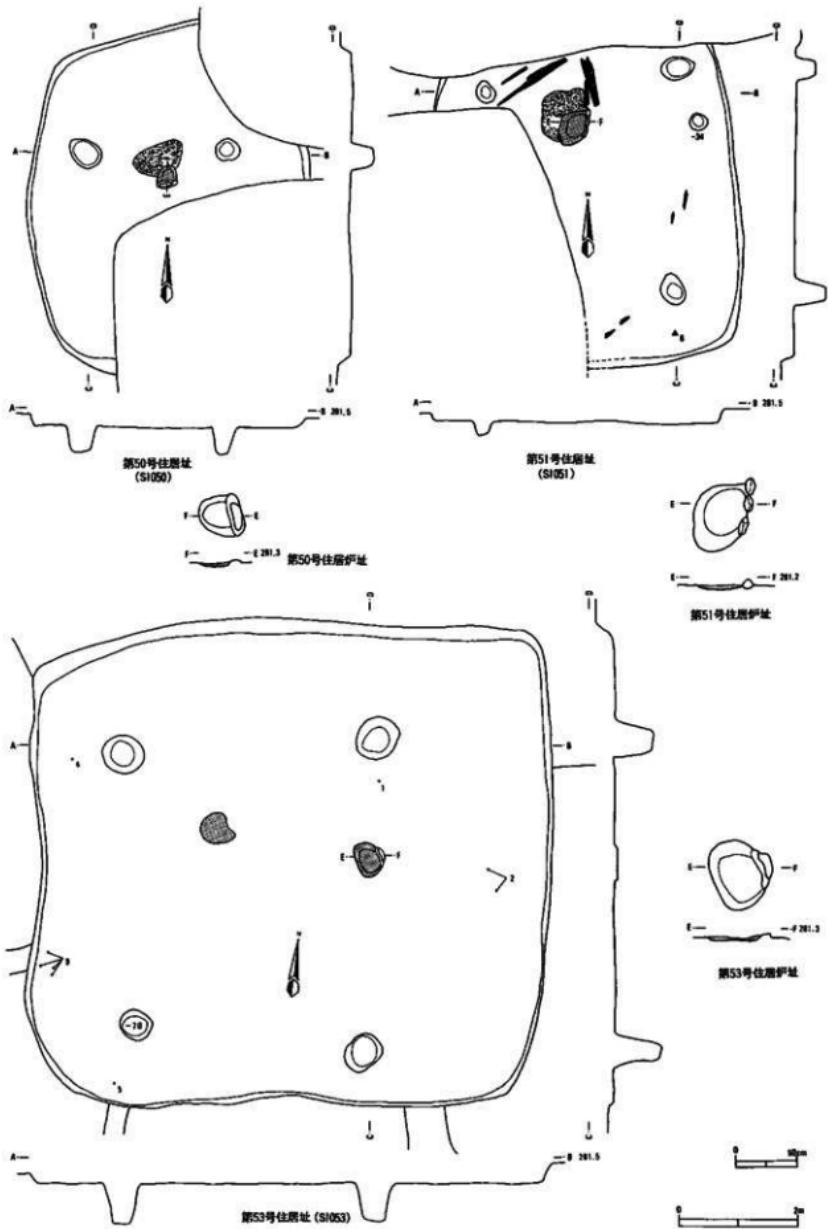
第38図 IV a区古墳時代遺構



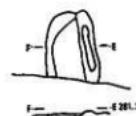
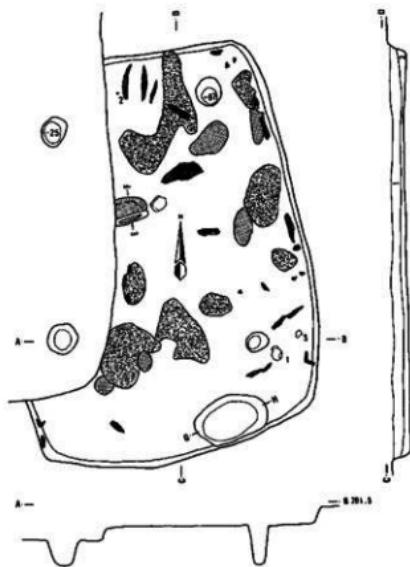
第39图 IVa区古墳時代遺構



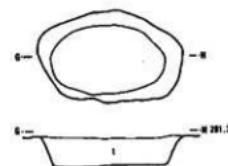
第40図 IVa区古墳時代遺構



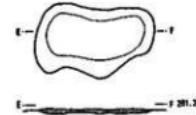
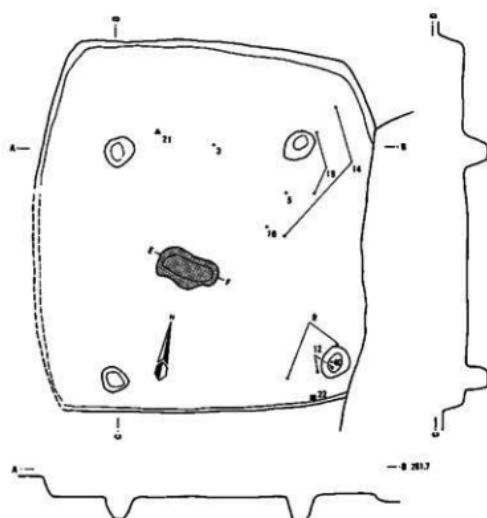
第41図 IVa区古墳時代遺構



第54号住居址



第54号住居内土坑

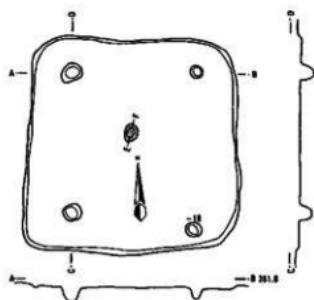


第56号住居址

第56号住居址 (SI056)



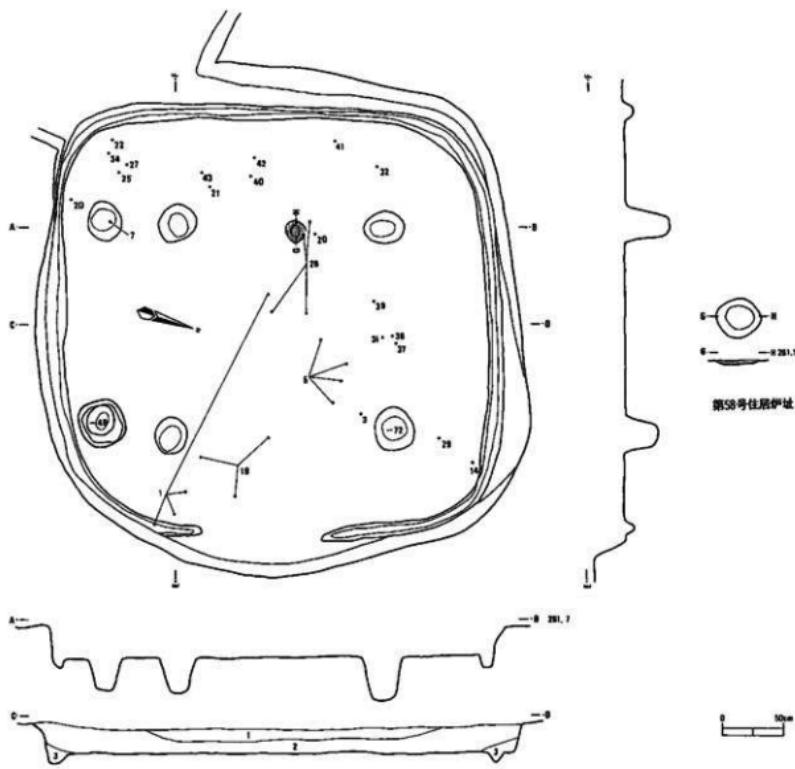
第42図 IVa区古墳時代遺構



第57号住居跡址
(SH57)



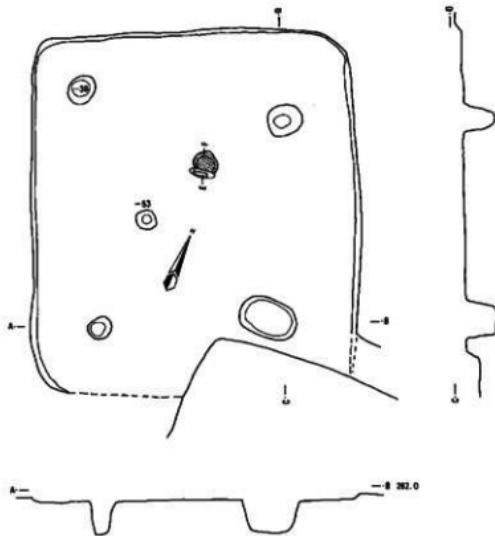
第57号住居跡址



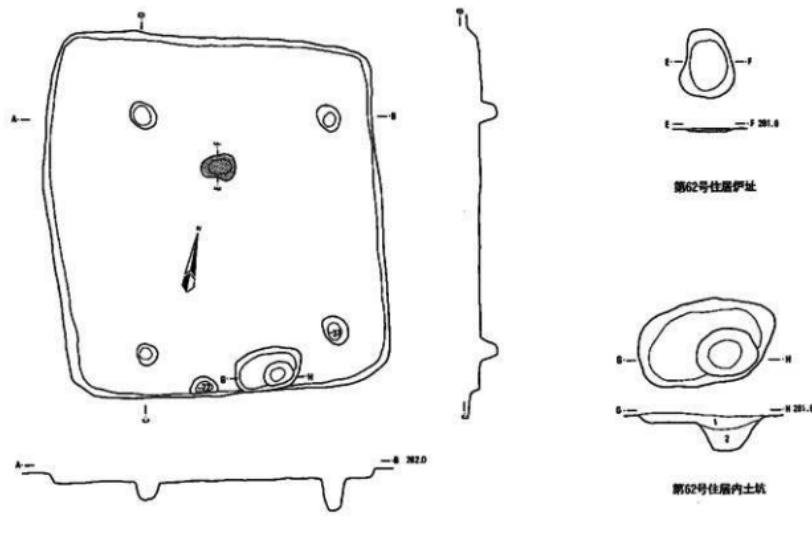
第58号住居跡址 (SI58)



第43図 IV a区古墳時代遺構

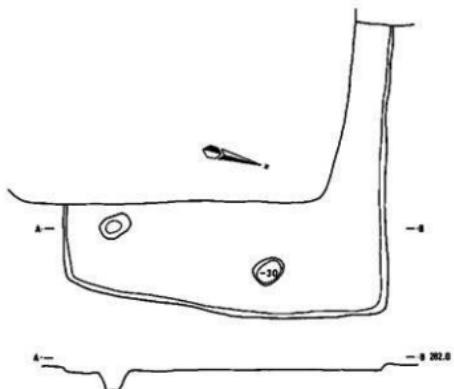


第61号住居址
(SH061)

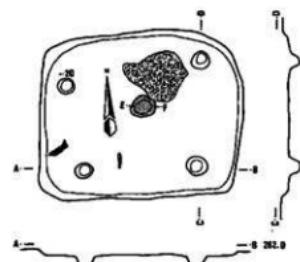


第62号住居址
(SH062)

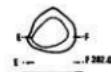
第44図 IV a 区古墳時代遺構



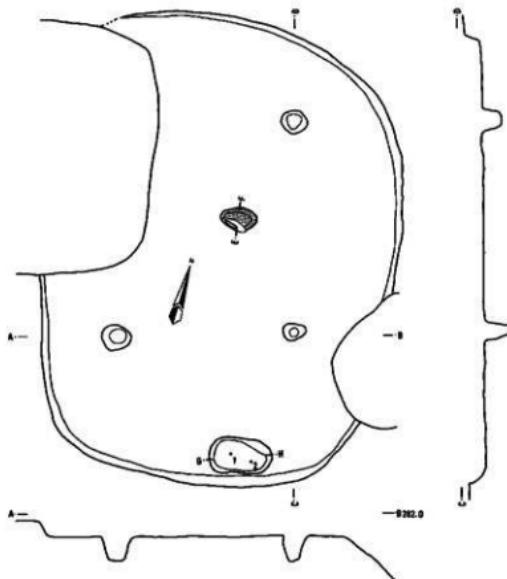
第63号住居址
(SI063)



第65号住居址
(SI065)



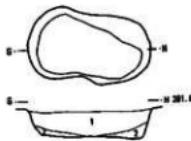
第66号住居址



第67号住居址
(SI067)



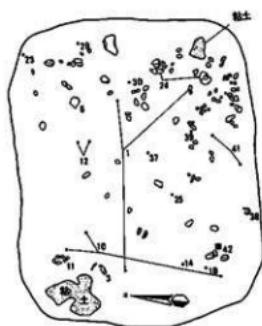
第67号住居内土坑



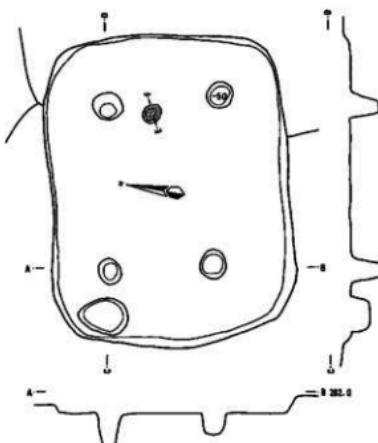
第67号住居内土坑



第45図 IV a区古墳時代遺構



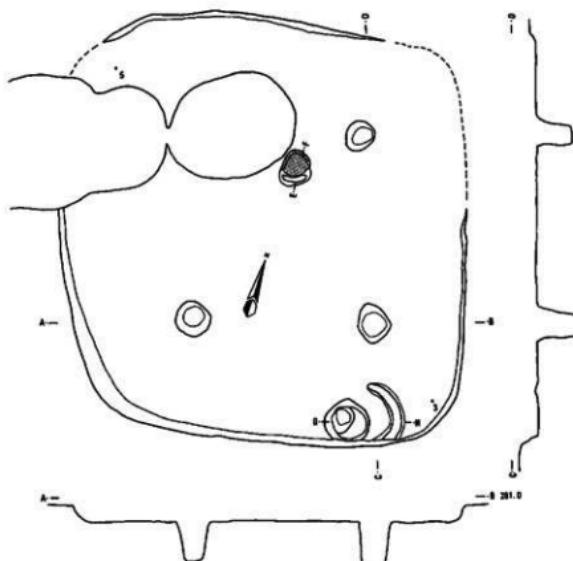
68号居住址遺物出土状況



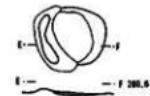
第68号居住址
(SI068)



第68号居住址



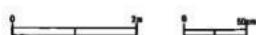
第69号居住址 (SI069)



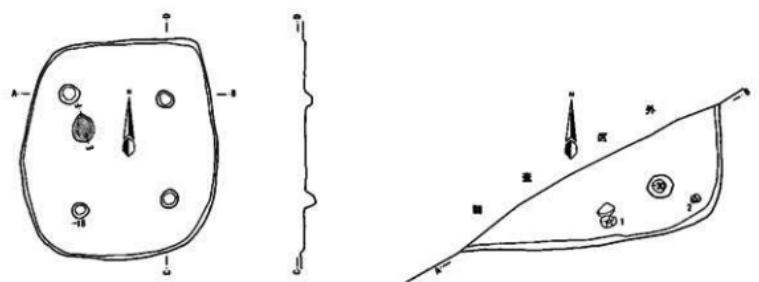
第69号居住址



第69号居住址内土坑



第46図 IV a区古墳時代遺構



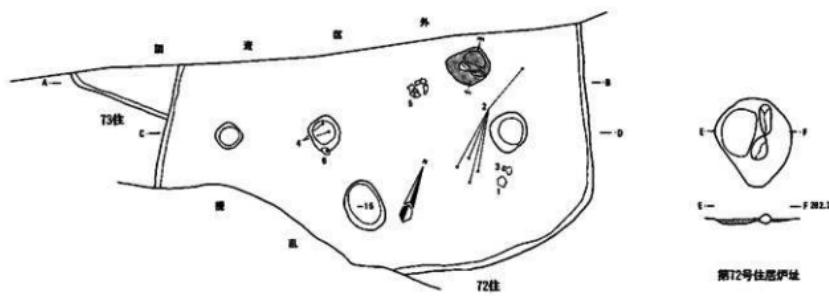
第70号住居址
(SI070)



第70号住居址



第71号住居址
(SI071)



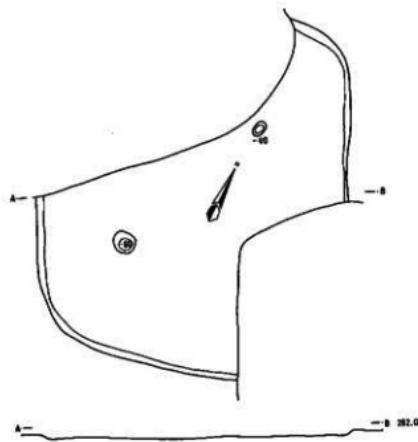
第72号住居址



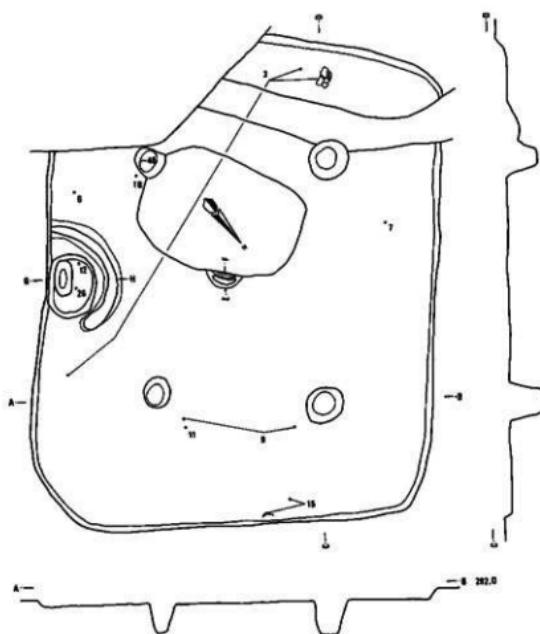
第72・73号住居址
(SI072) (SI073)



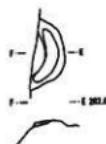
第47図 IV a区古墳時代遺構



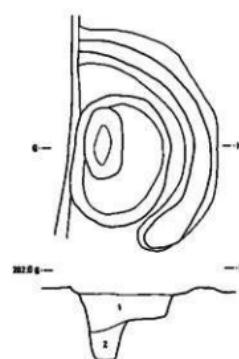
第77号住居址
(SI077)



第75号住居址 (SI075)



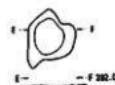
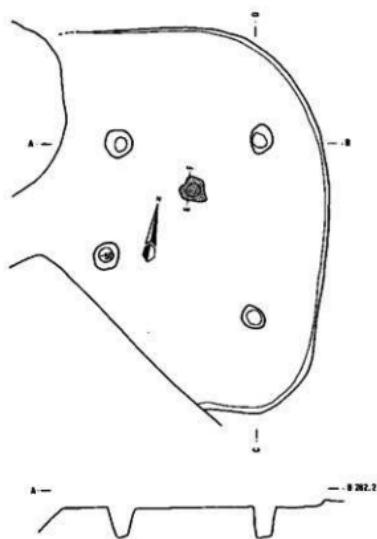
第75号住居址



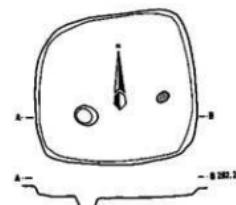
第75号住居内土坑



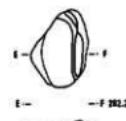
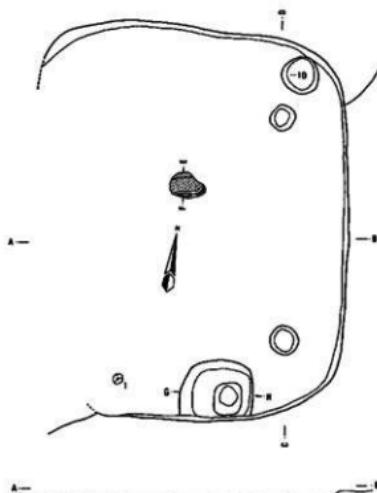
第48図 IV a 区古墳時代遺構



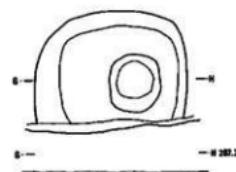
第78号住居址



第81号住居址
(SI081)



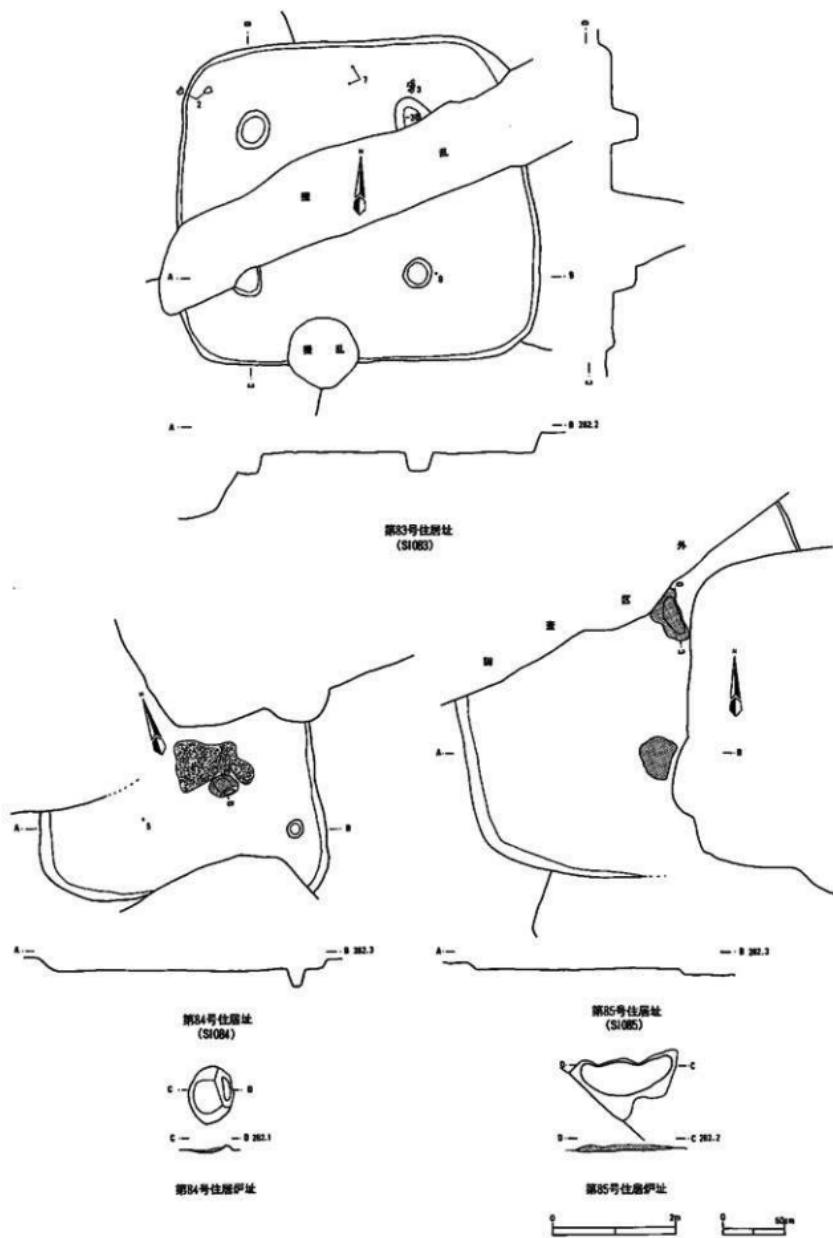
第82号住居址



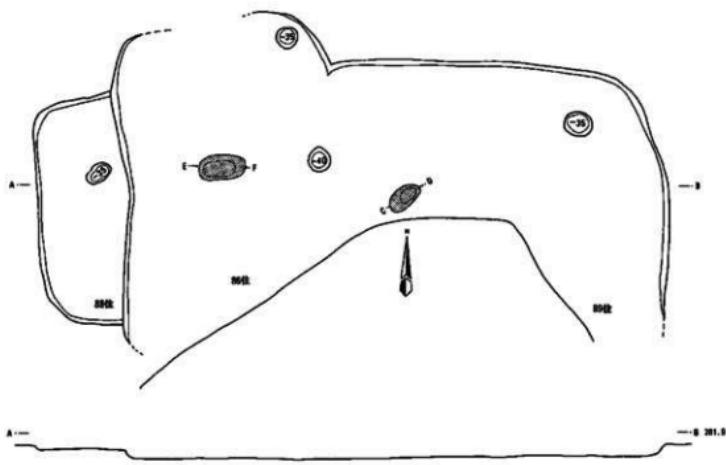
第82号住居内土坑

SI082

第49図 IV a 区古墳時代遺構



第50図 IVa区古墳時代遺構



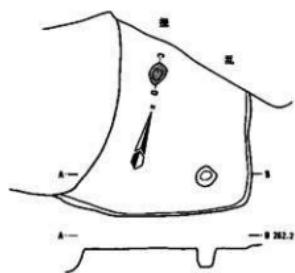
第86・88・89号住居址
(SI086)(SI088)(SI089)



第86号住居址



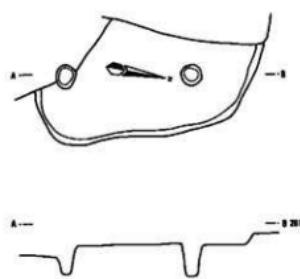
第89号住居址



第87号住居址
(SI087)



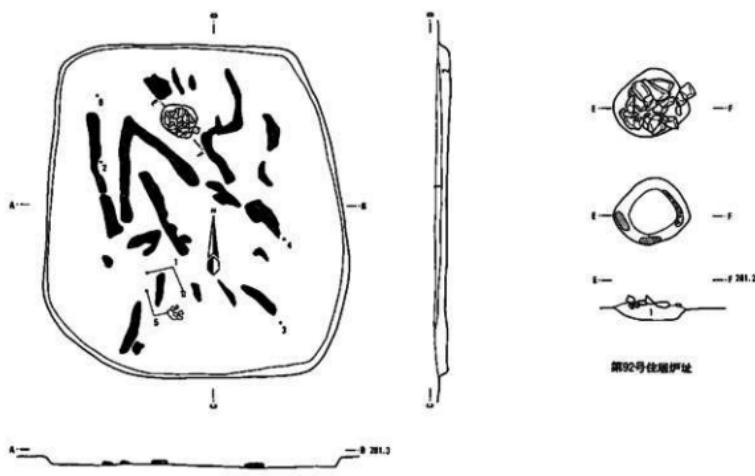
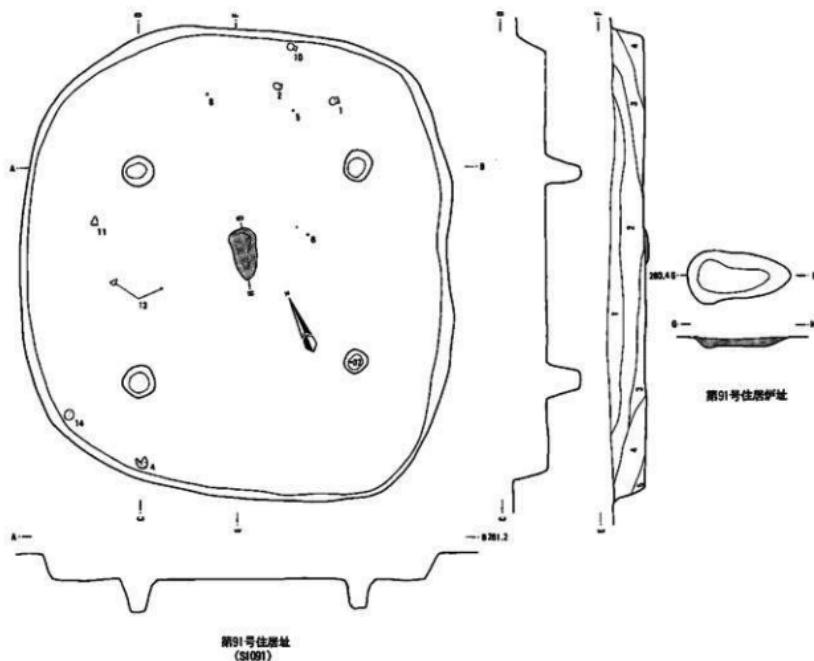
第87号住居址



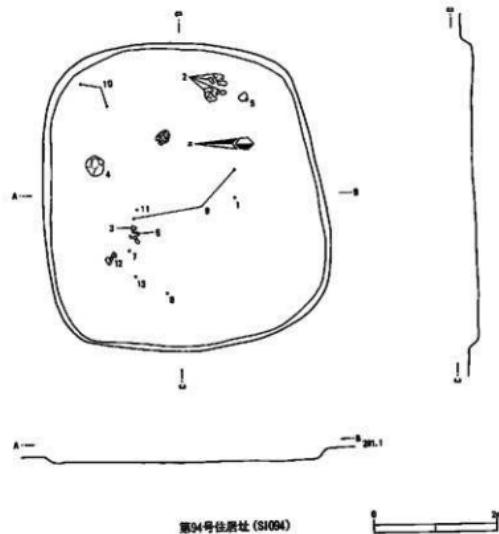
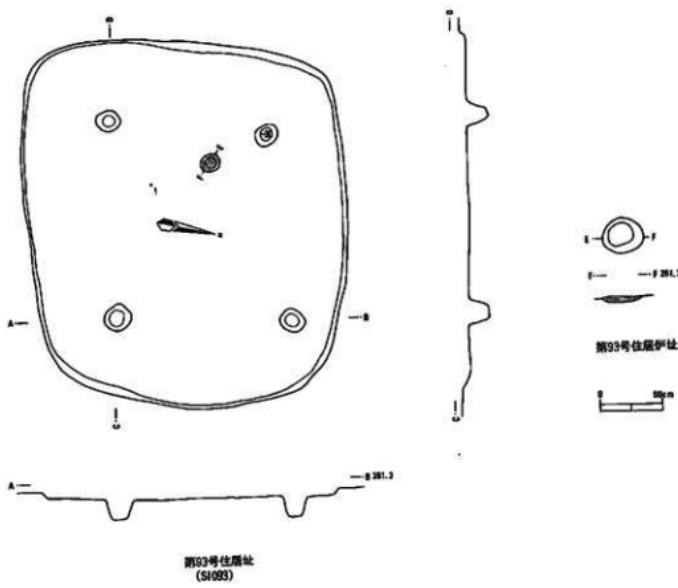
第90号住居址
(SI090)



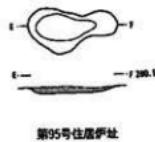
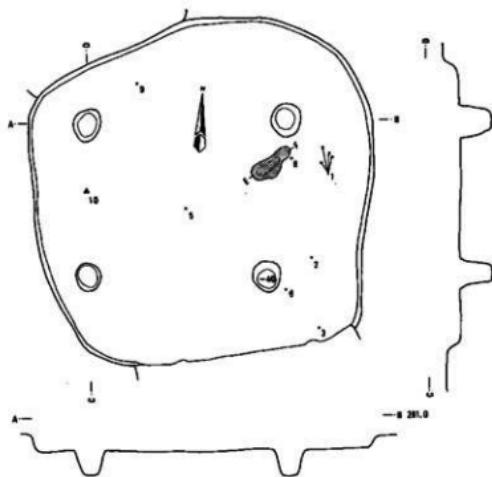
第51図 IVa区古墳時代遺構



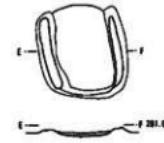
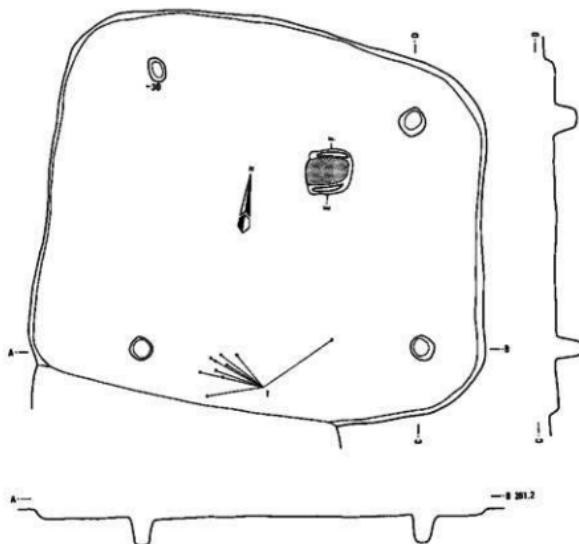
第52図 IV a区古墳時代遺構



第53図 Ma区古墳時代遺構



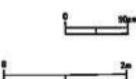
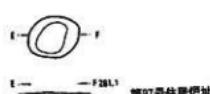
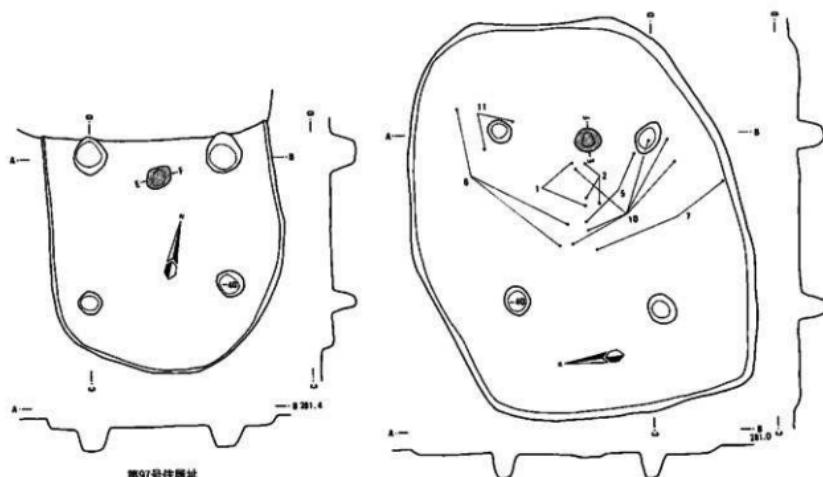
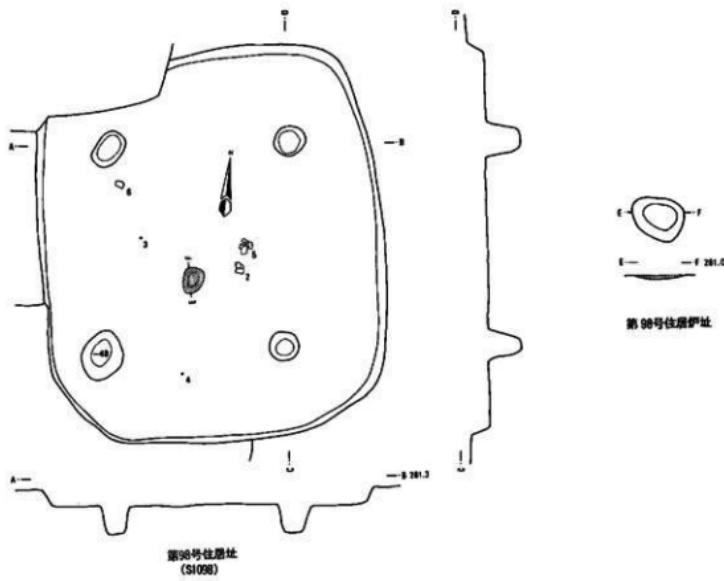
第95号住居跡
(SI095)



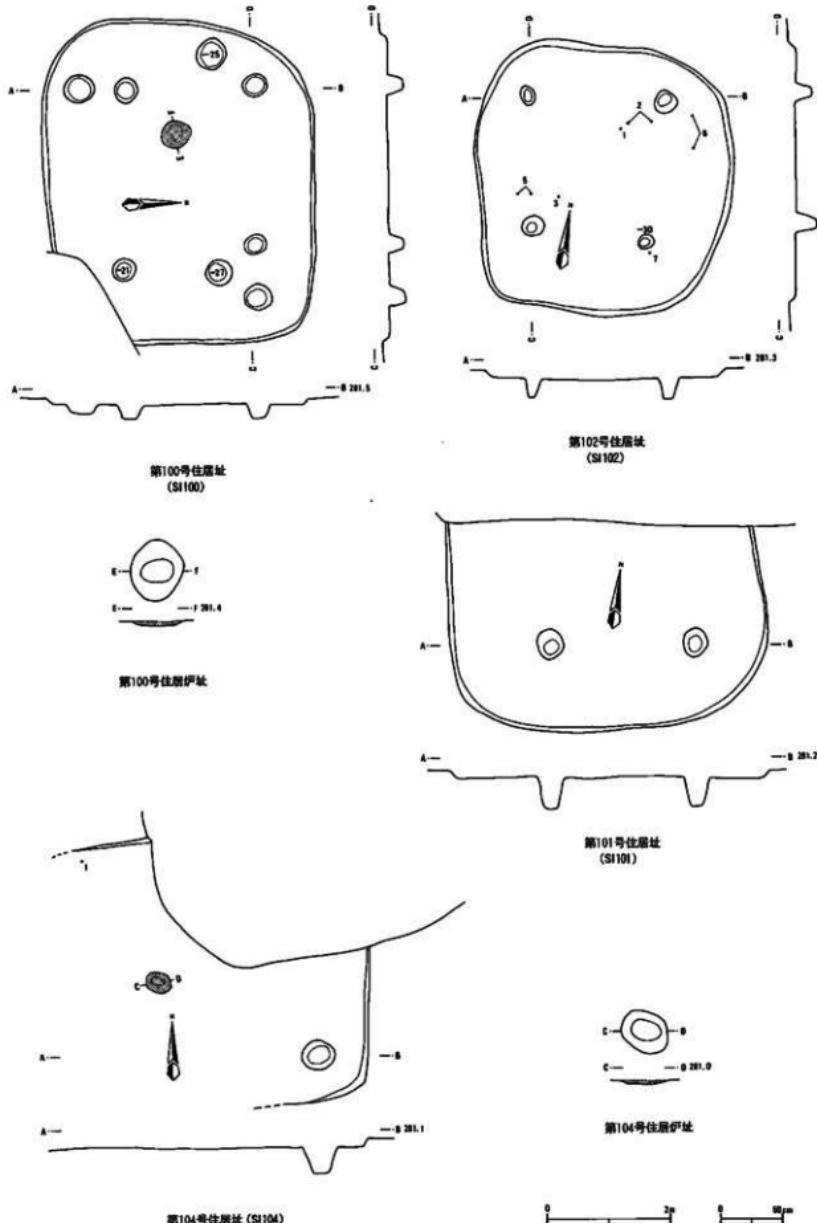
第96号住居跡
(SI096)



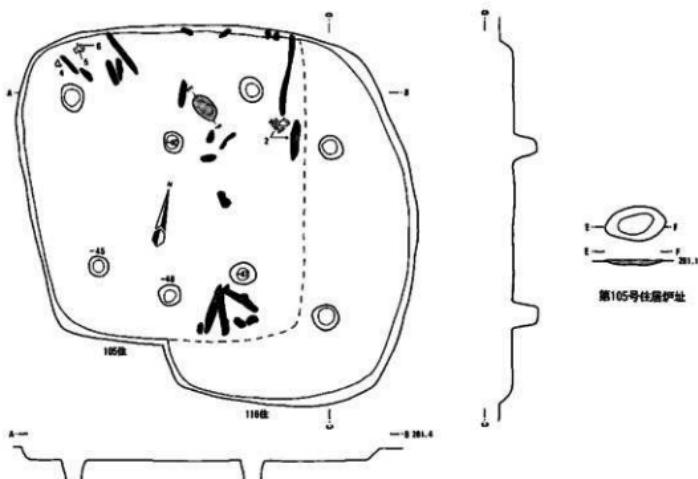
第54図 IV a区古墳時代遺構



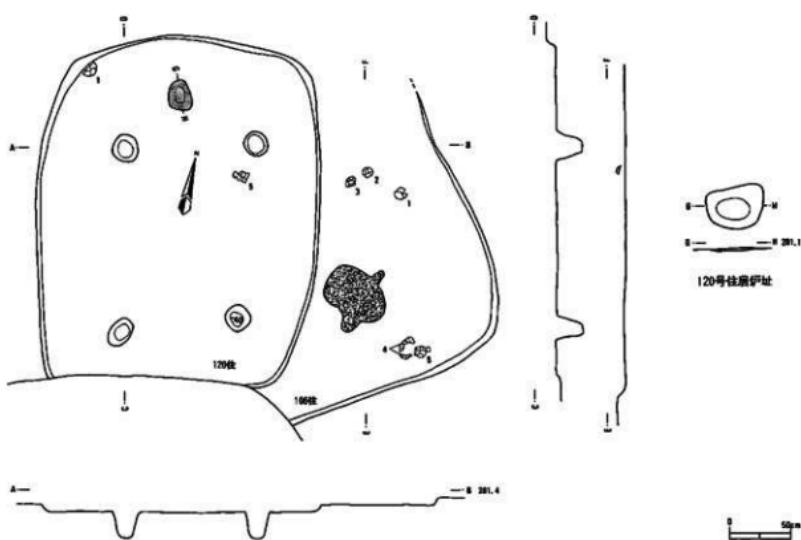
第55図 IVa区古墳時代遺構



第56図 IV a 区古墳時代遺構

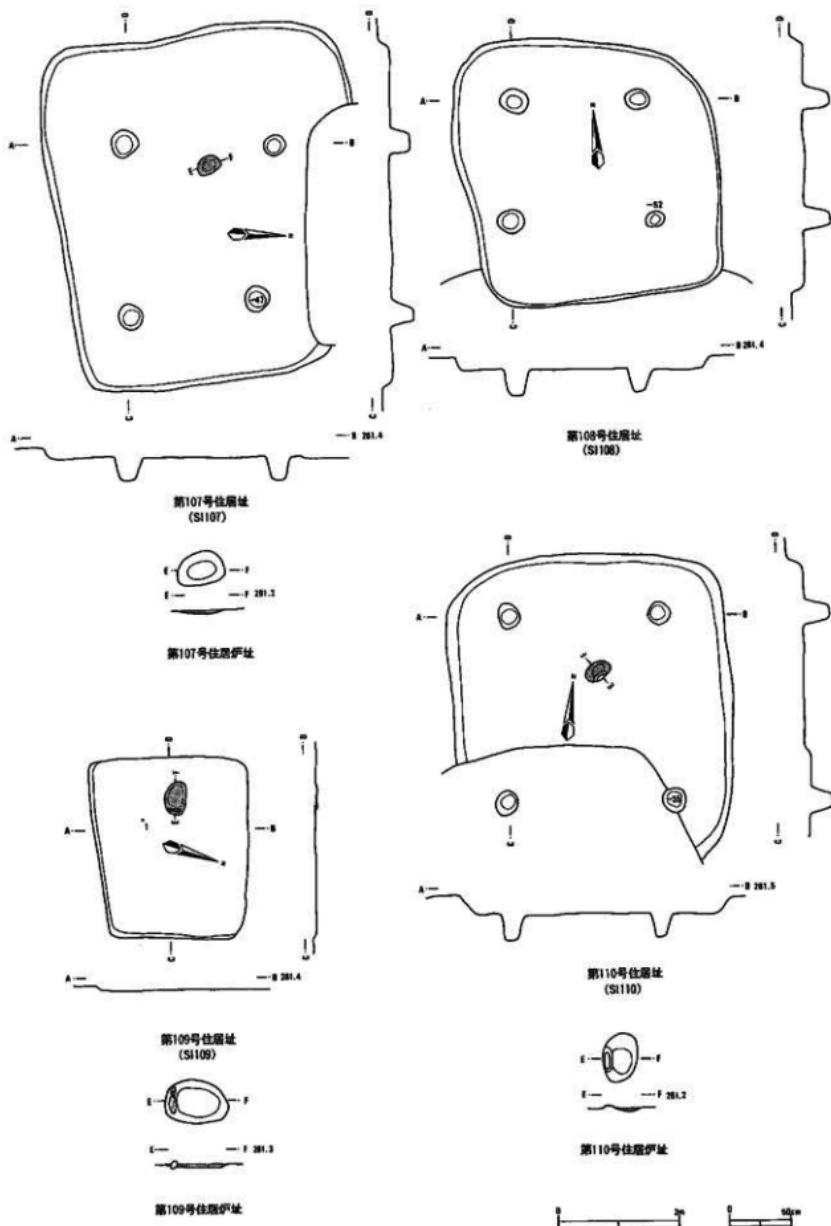


第105・116号住居跡
(SI105) (SI116)

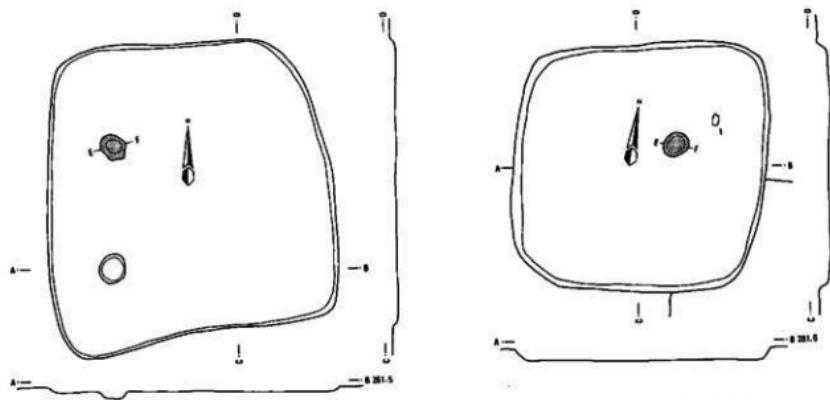


第106・120号住居跡
(SI106) (SI120)

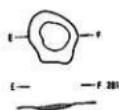
第57図 IVa区古墳時代遺構



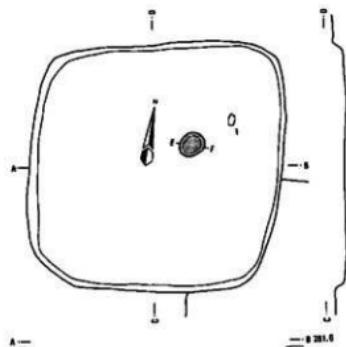
第58図 IVa区古墳時代遺構



第111号住居址
(SI111)



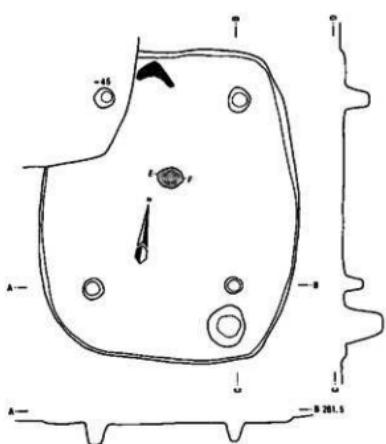
第111号住居址
炉址



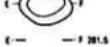
第112号住居址
(SI112)



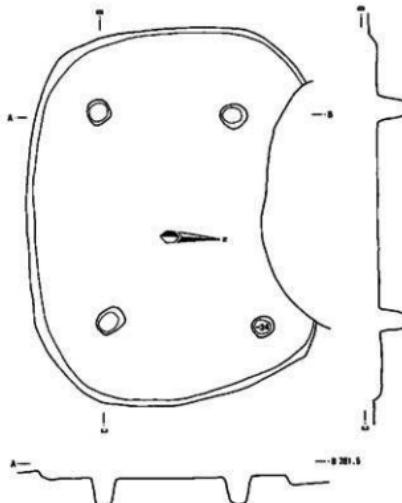
第112号住居炉址



第113号住居址
(SI113)



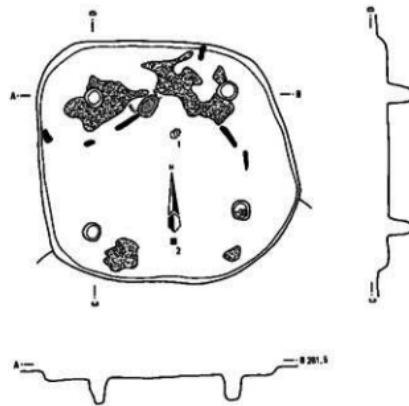
第113号住居址
炉址



第114号住居址
(SI114)

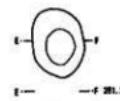
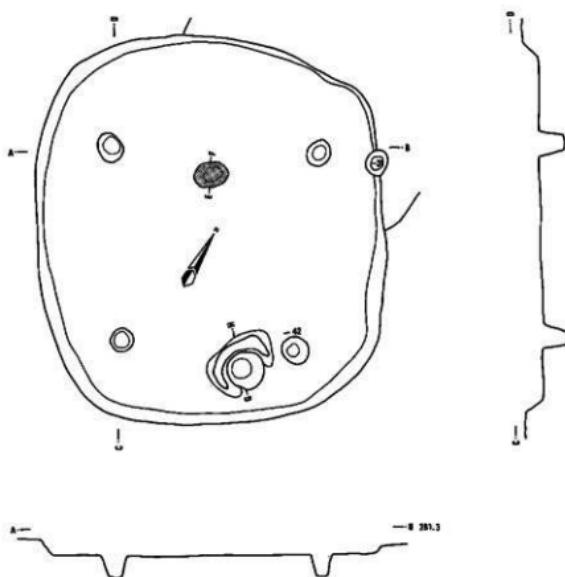


第59図 IVa区古墳時代遺構



第115号住居址

第115号住居址
(S1115)

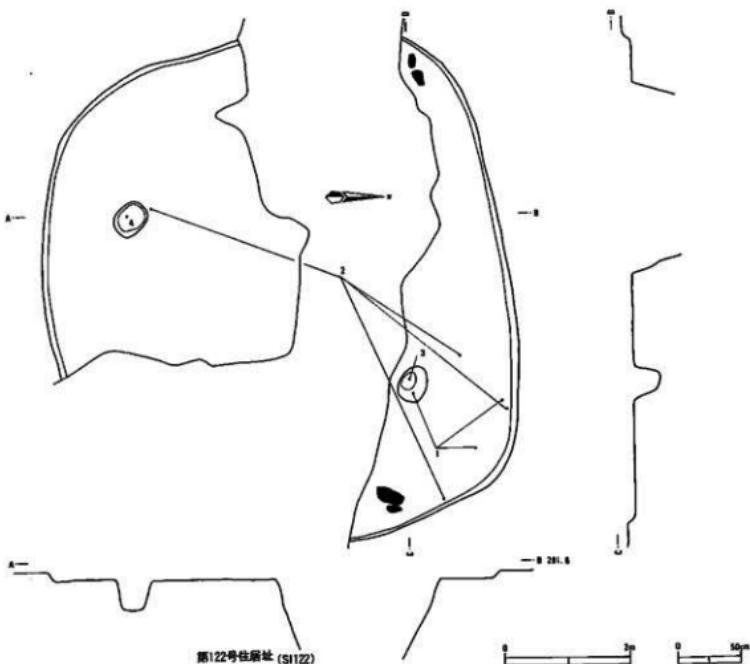
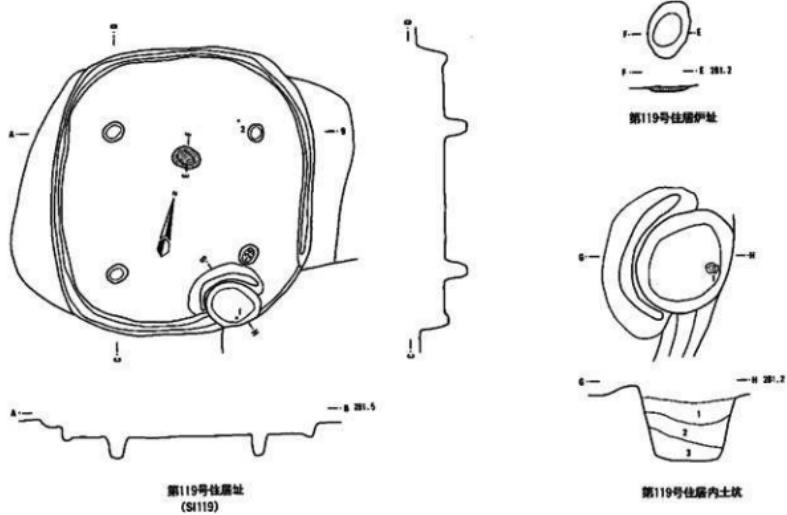


第117号住居址

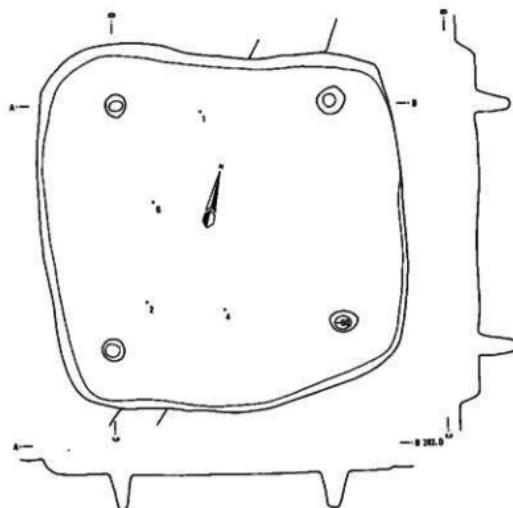
第117号住居址
(S1117)



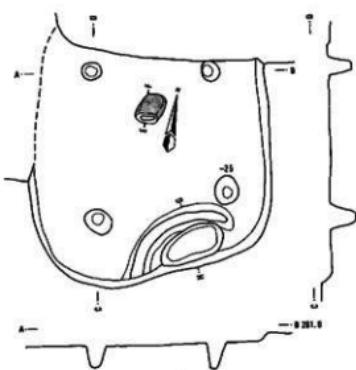
第60圖 IV a 区古墳時代遺構



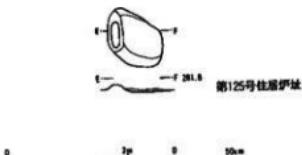
第61図 IV a区古墳時代遺構



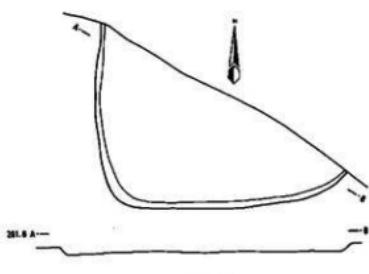
第124号住居址
(SI124)



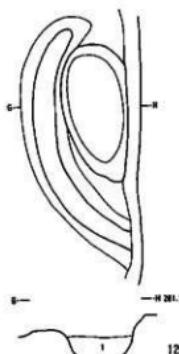
第125号住居址
(SI125)



第125号住居址



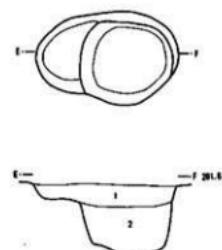
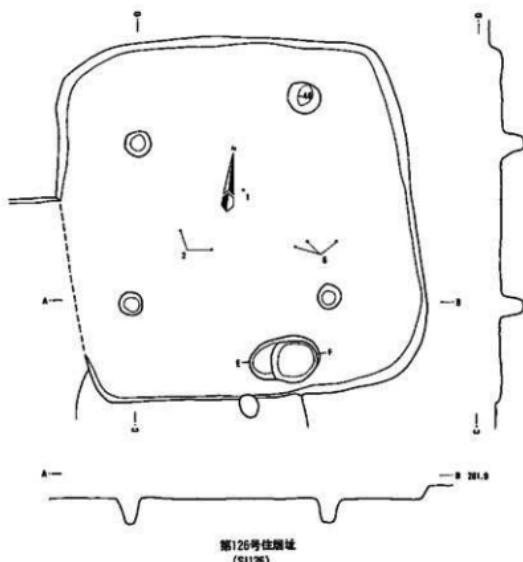
第123号住居址
(SI123)



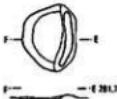
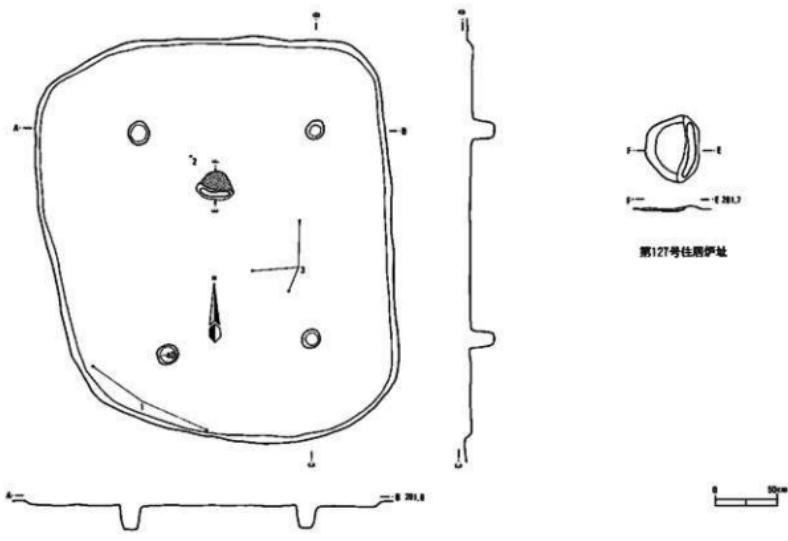
125号住居址内土坑

2m 10m

第62図 IV a区古墳時代遺構



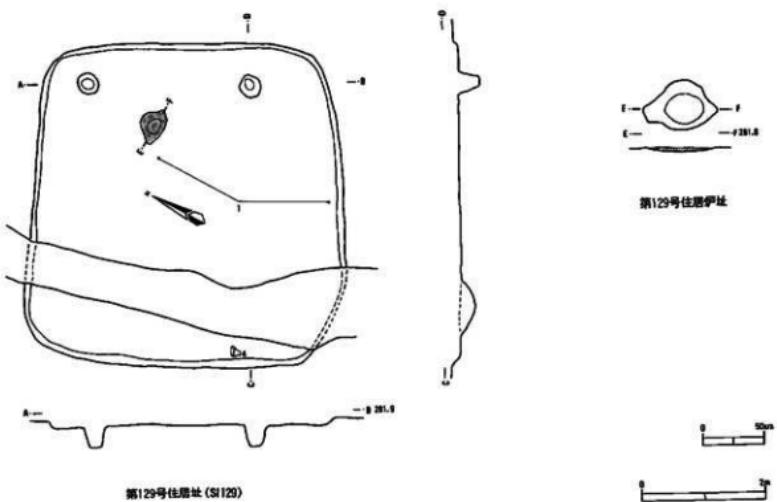
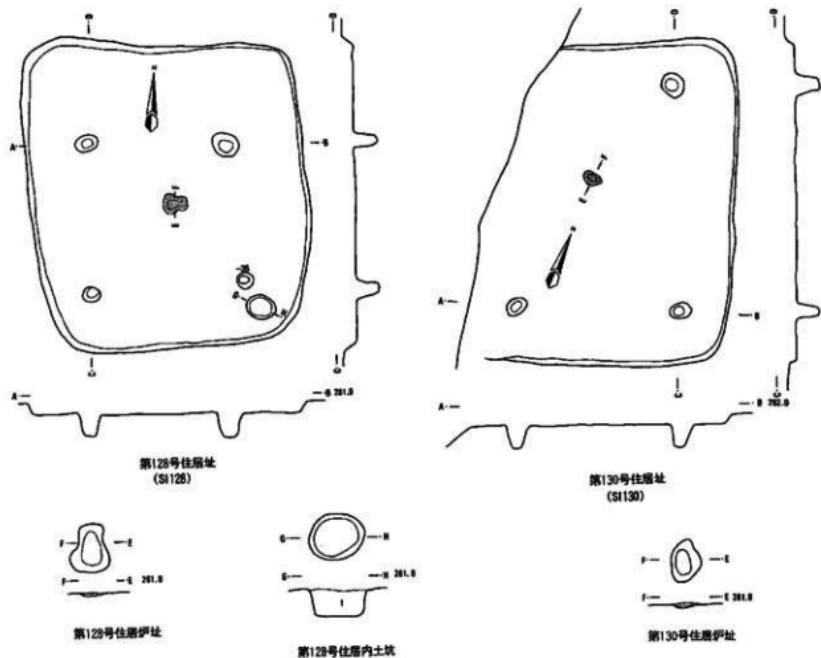
第126号住居内土器



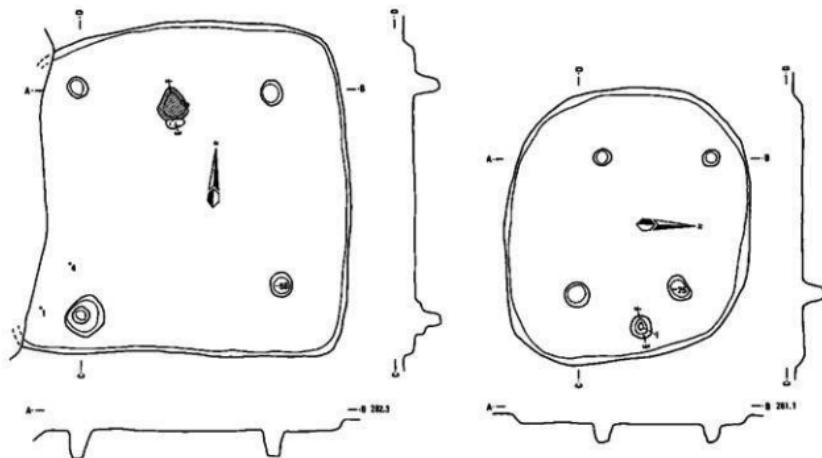
第127号住居内土器

第126号住居址 (SH126)

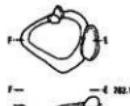
第63図 IV a 区古墳時代遺構



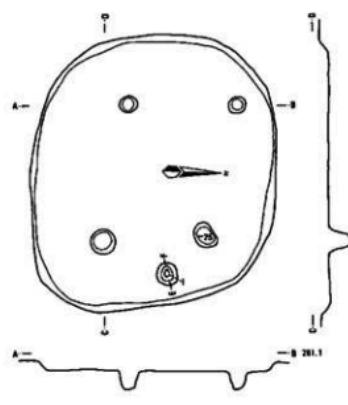
第64図 IV a 区古墳時代遺構



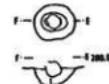
第131号住居址
(SH131)



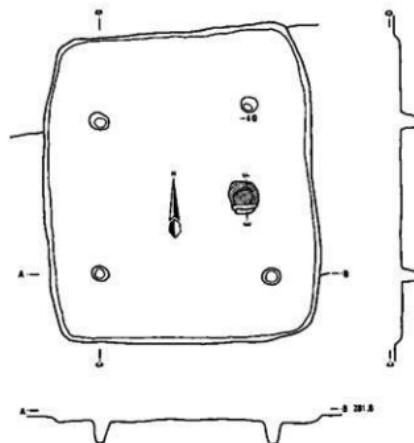
第131号住居炉址



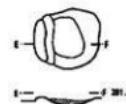
第132号住居址
(SH132)



第132号住居内土坑

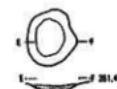
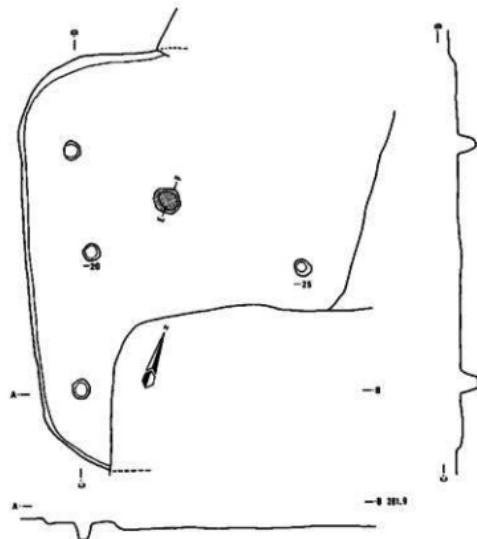


第133号住居址

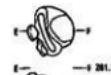
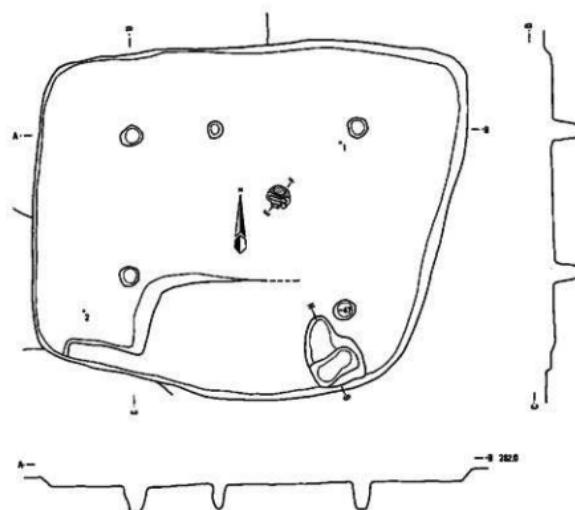


第133号住居址
(SH133)

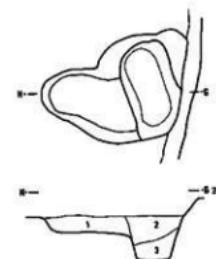
第65図 IV a 区古墳時代遺構



第134号住居址

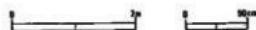


第135号住居址

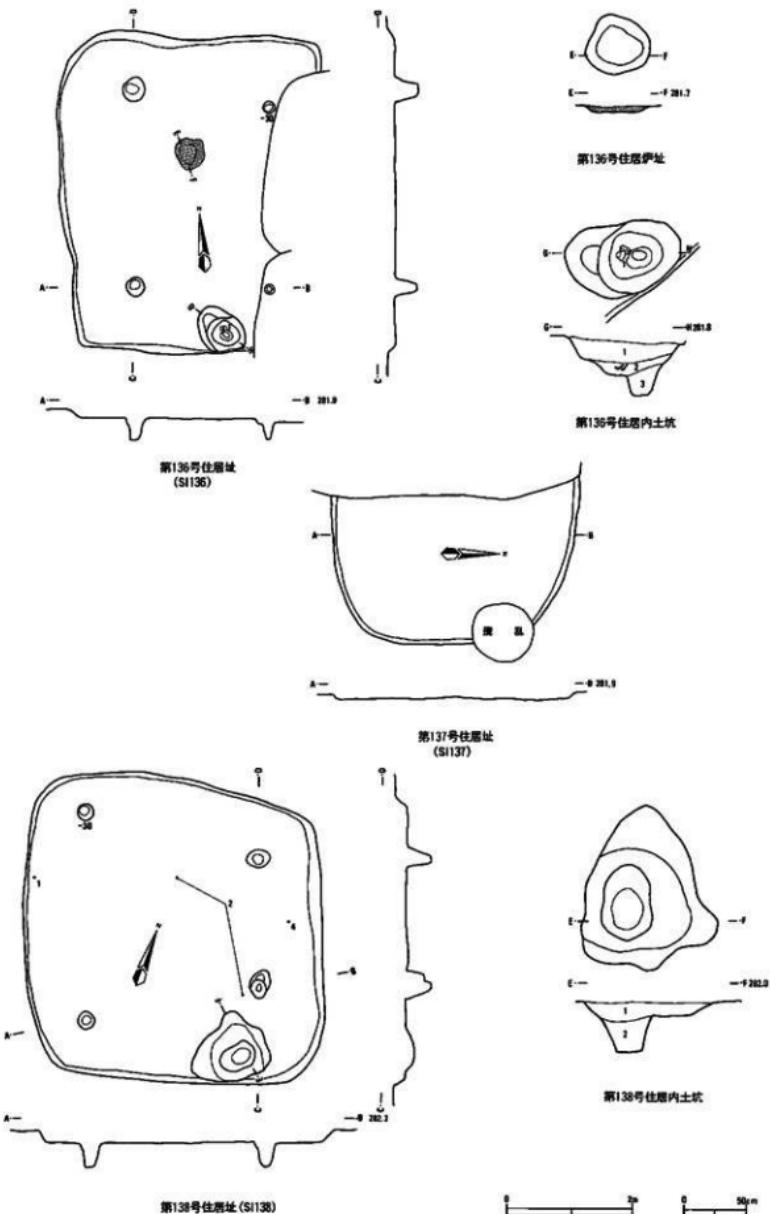


第135号住居内土坑

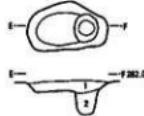
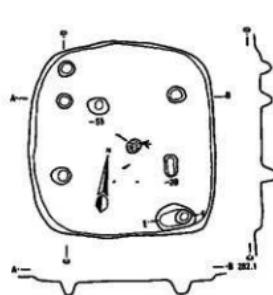
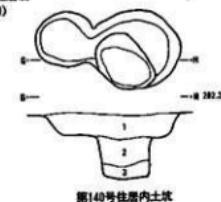
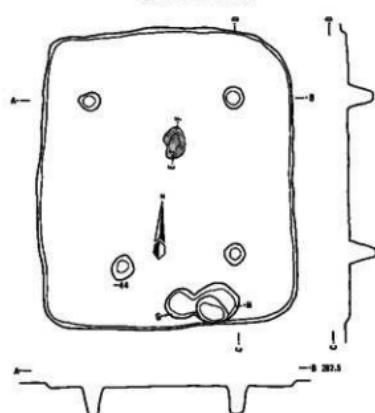
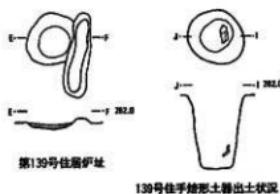
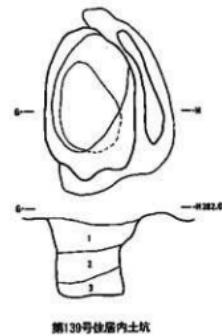
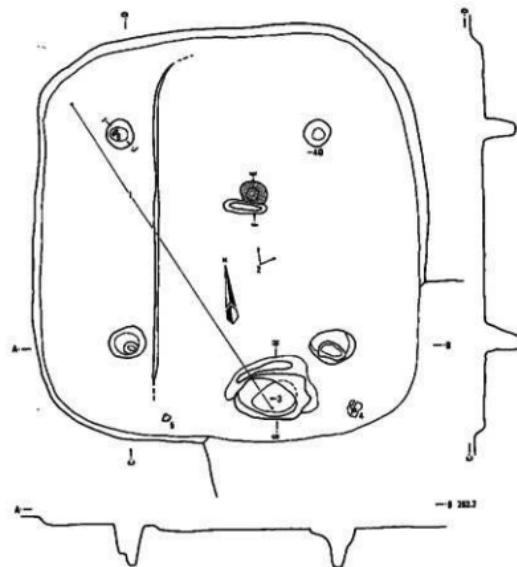
第135号住居址
(SI135)



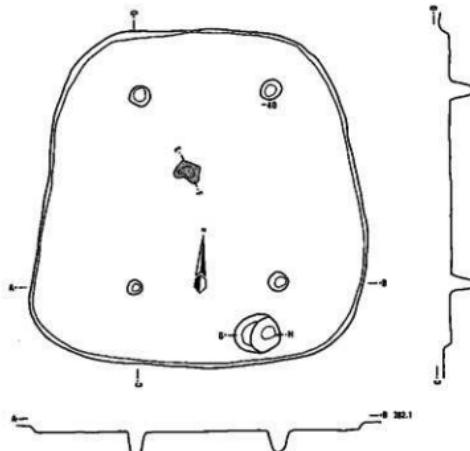
第66図 IVa区古墳時代遺構



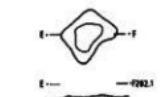
第67図 IV-a区古墳時代遺構



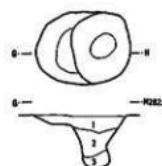
第68図 IV a区古墳時代遺構



第142号住居址
(SI142)

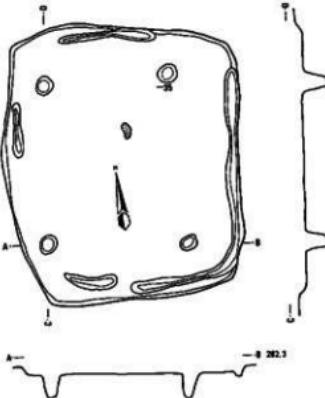


第142号住居址内土坑



第143号住居址
(SI143)

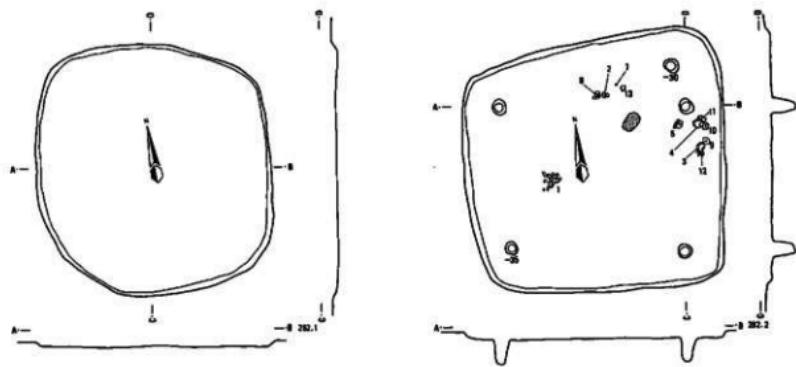
第144号住居址
(SI144)



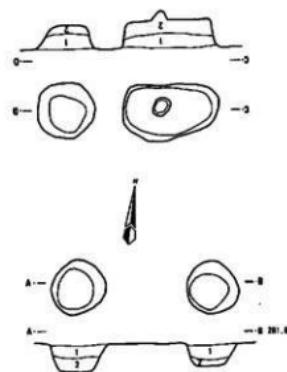
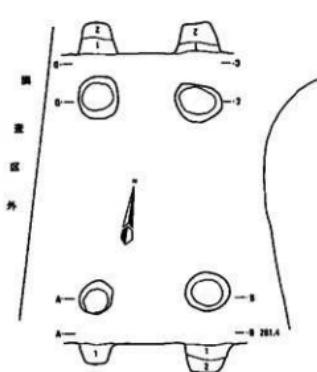
第143号住居址



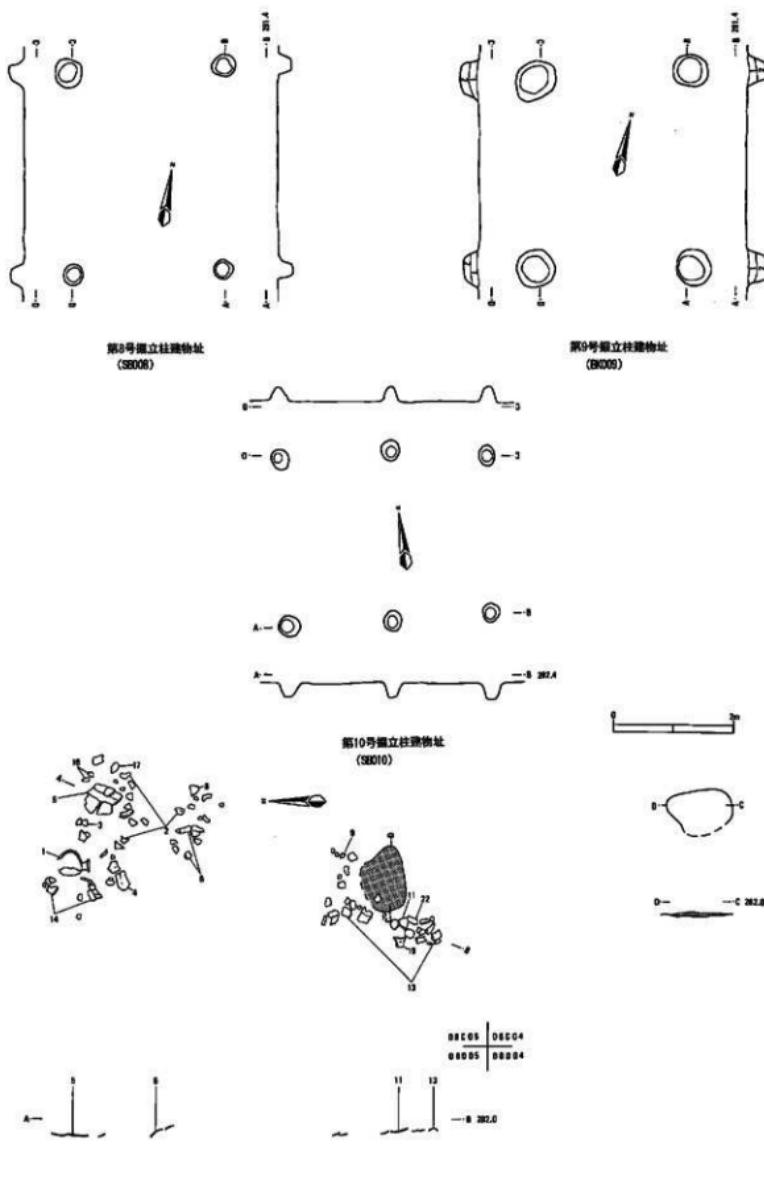
第69図 IV a区古墳時代遺構



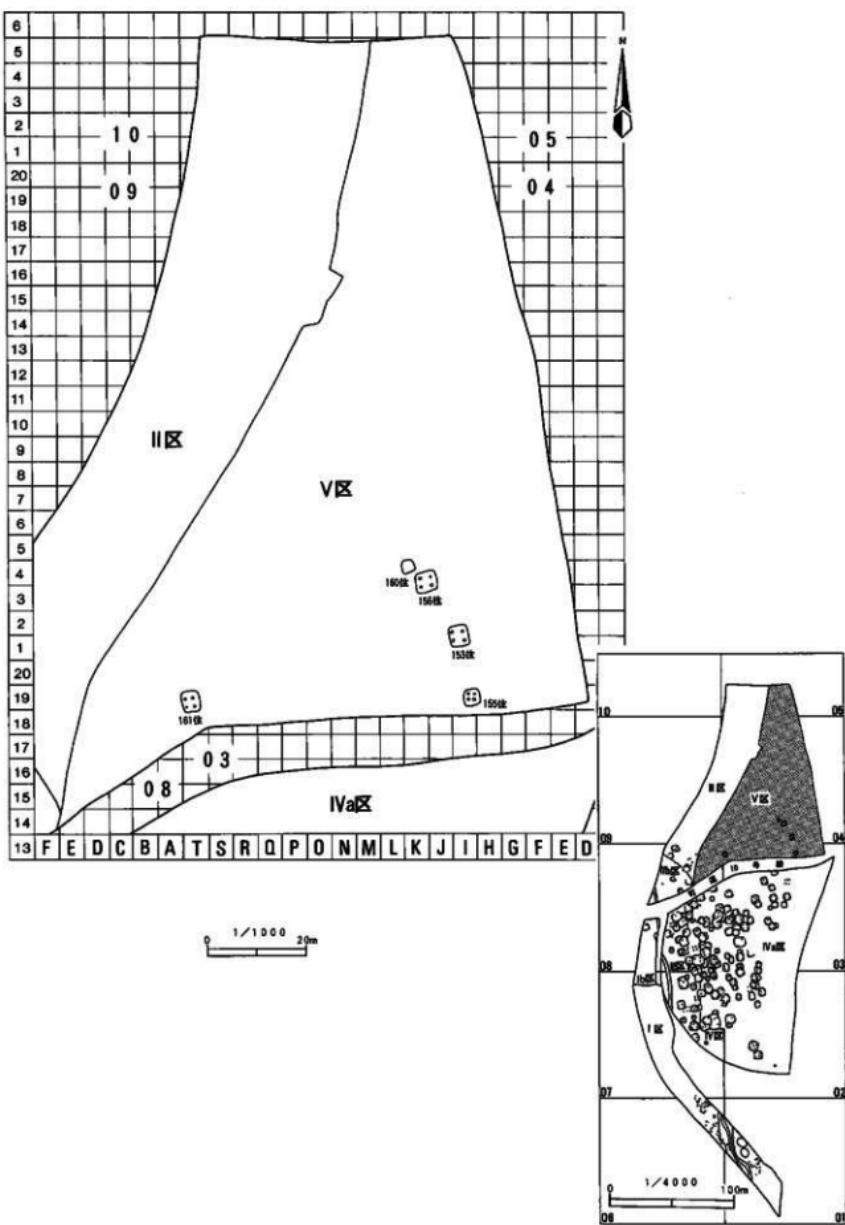
第146号住居址
(SI146)



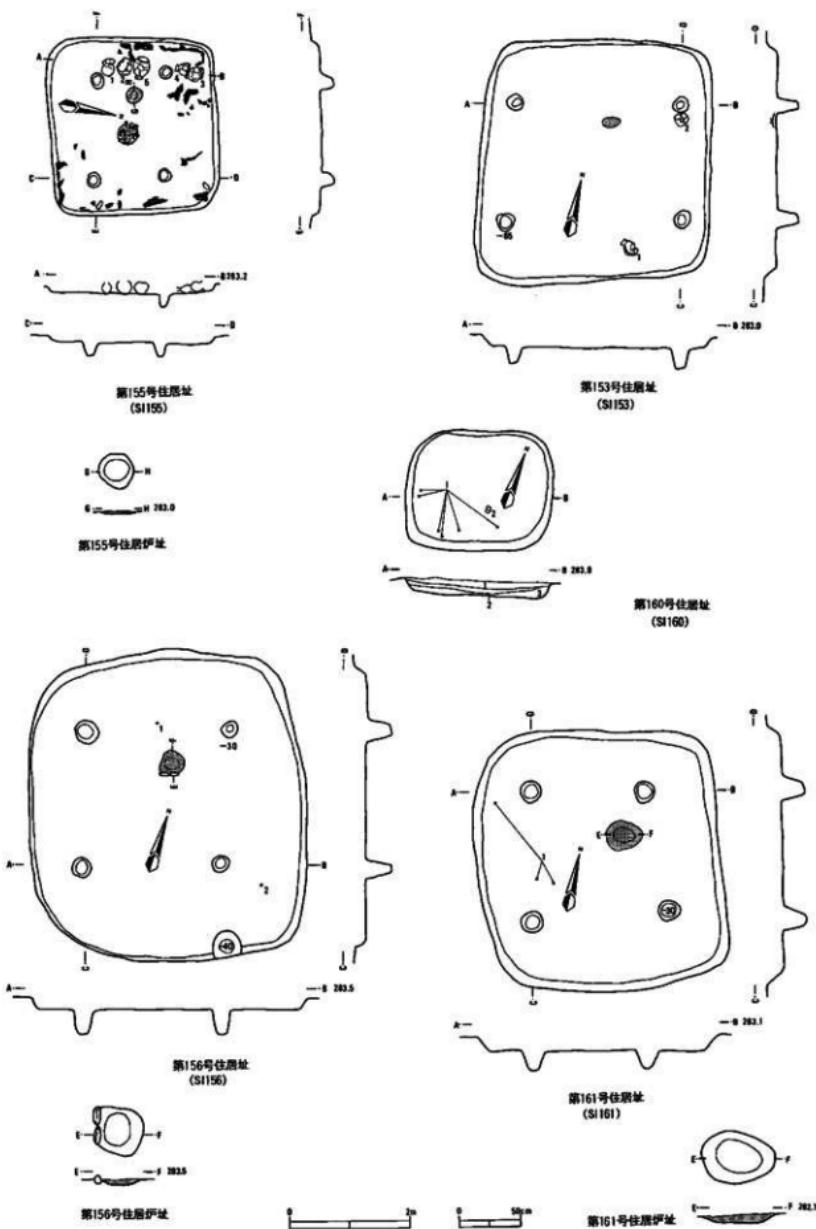
第70図 IV a区古墳時代遺構



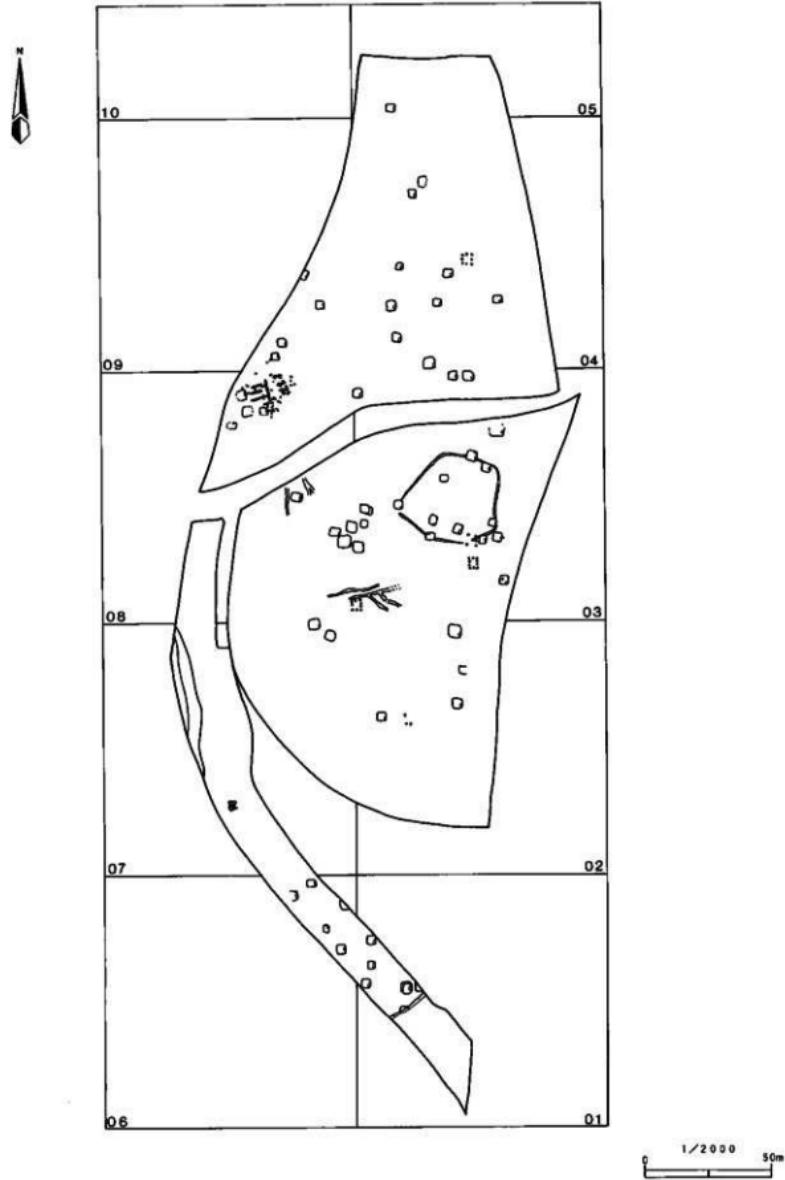
第71図 IV a区古墳時代遺構



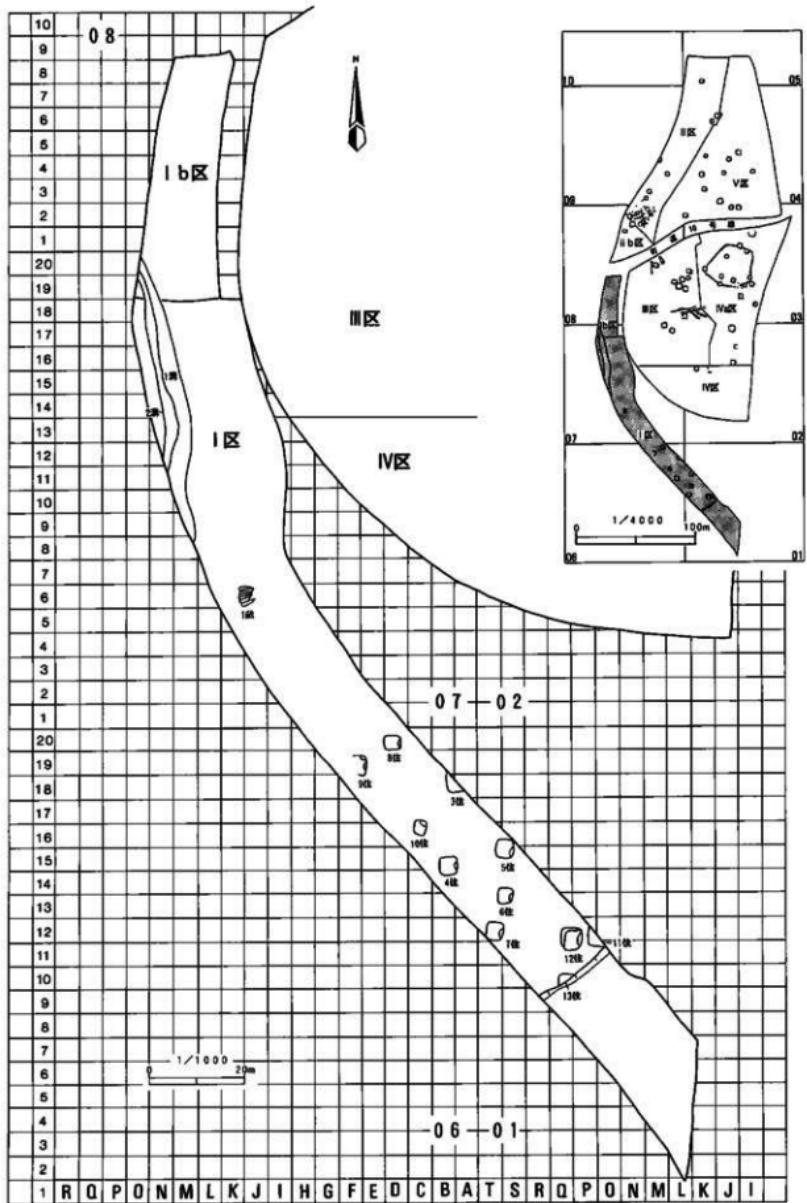
第72図 V区古墳時代遺構配置図

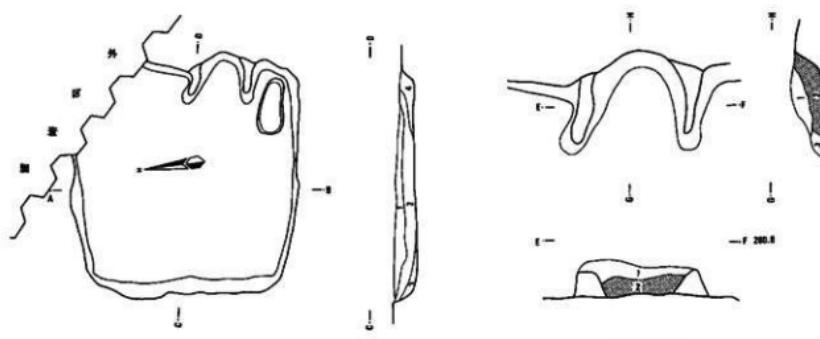


第73図 V区古墳時代遺構



第74図 平安時代遺構配置図

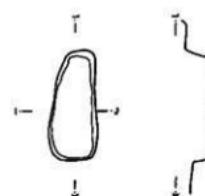




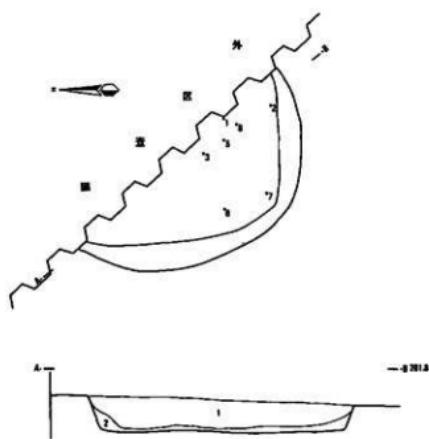
第5号住居構



第5号住居址
(SI005)



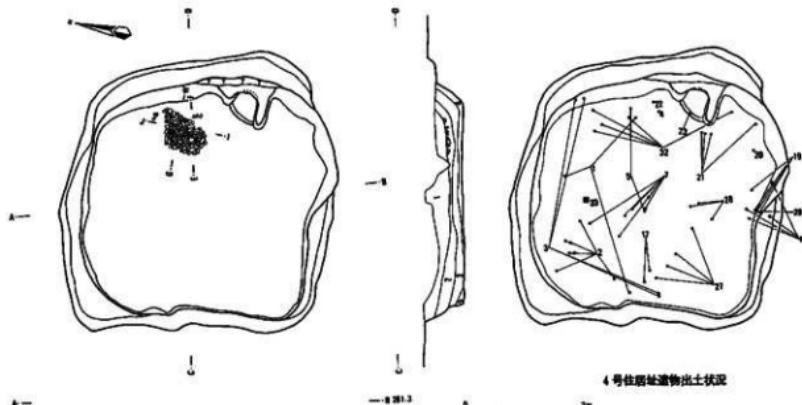
第5号住居内土坑



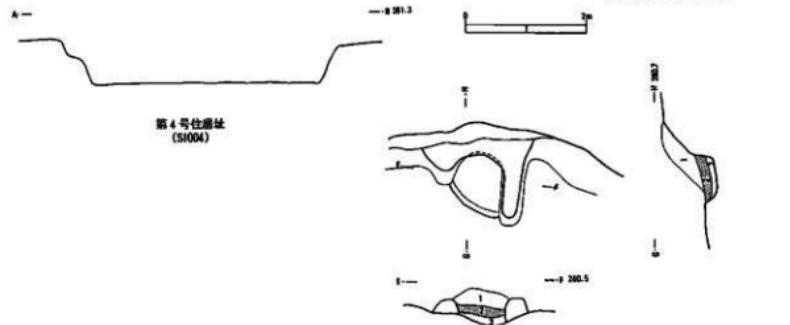
第5号住居址
(SI005)



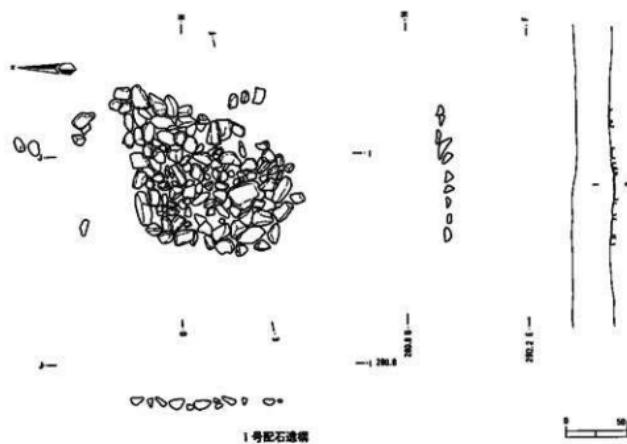
第76図 I区平安時代遺構



4号住居址出土状況

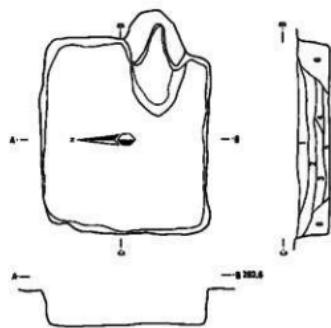


4号住居窓

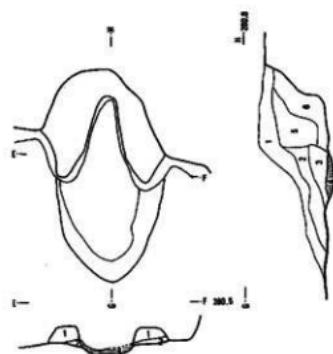


1号配石遺構

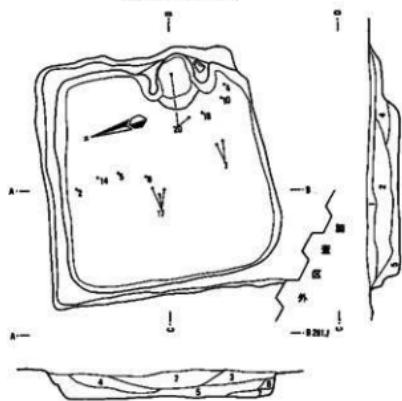
第77図 I区平安時代遺構



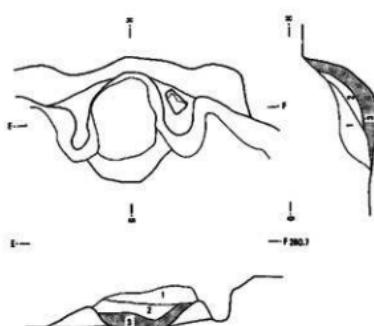
第6号住居址 (S1006)



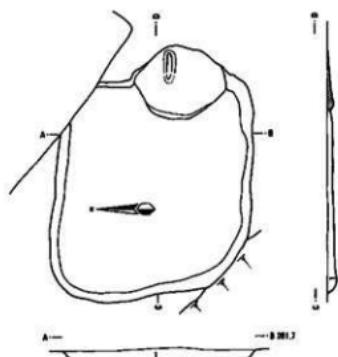
第6号住居址



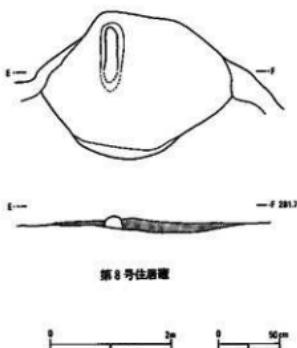
第7号住居址 (S1007)



第7号住居址

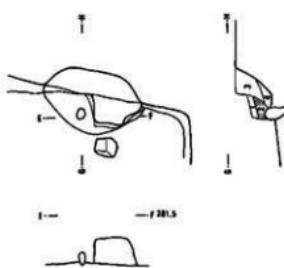
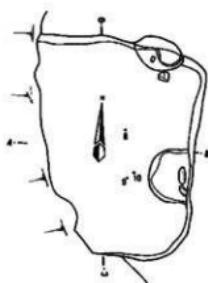


第8号住居址 (S1008)



第8号住居址

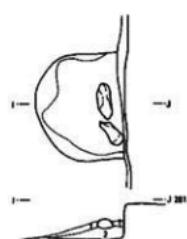
第78図 I区平安時代遺構



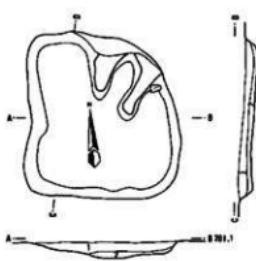
9号住居北窓



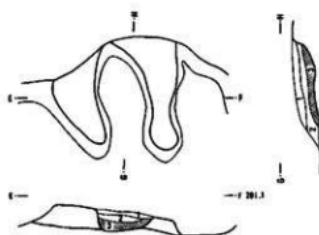
第9号住居址
(SI009)



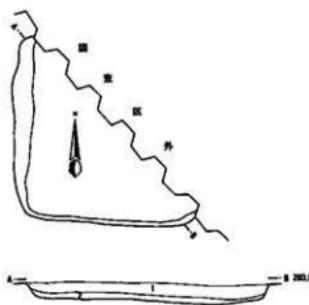
9号住居東窓



第10号住居址
(SI010)



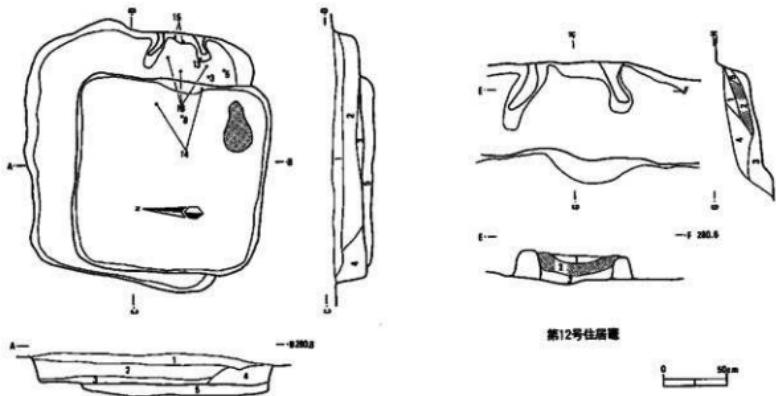
第10号住居南



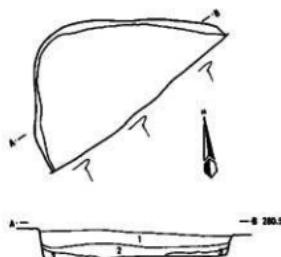
第11号住居址
(SI011)



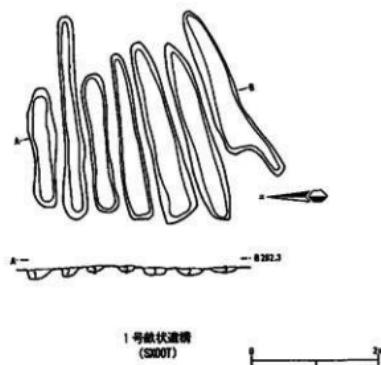
第79圖 I区平安時代遺構



第12号住居址
(SI012)

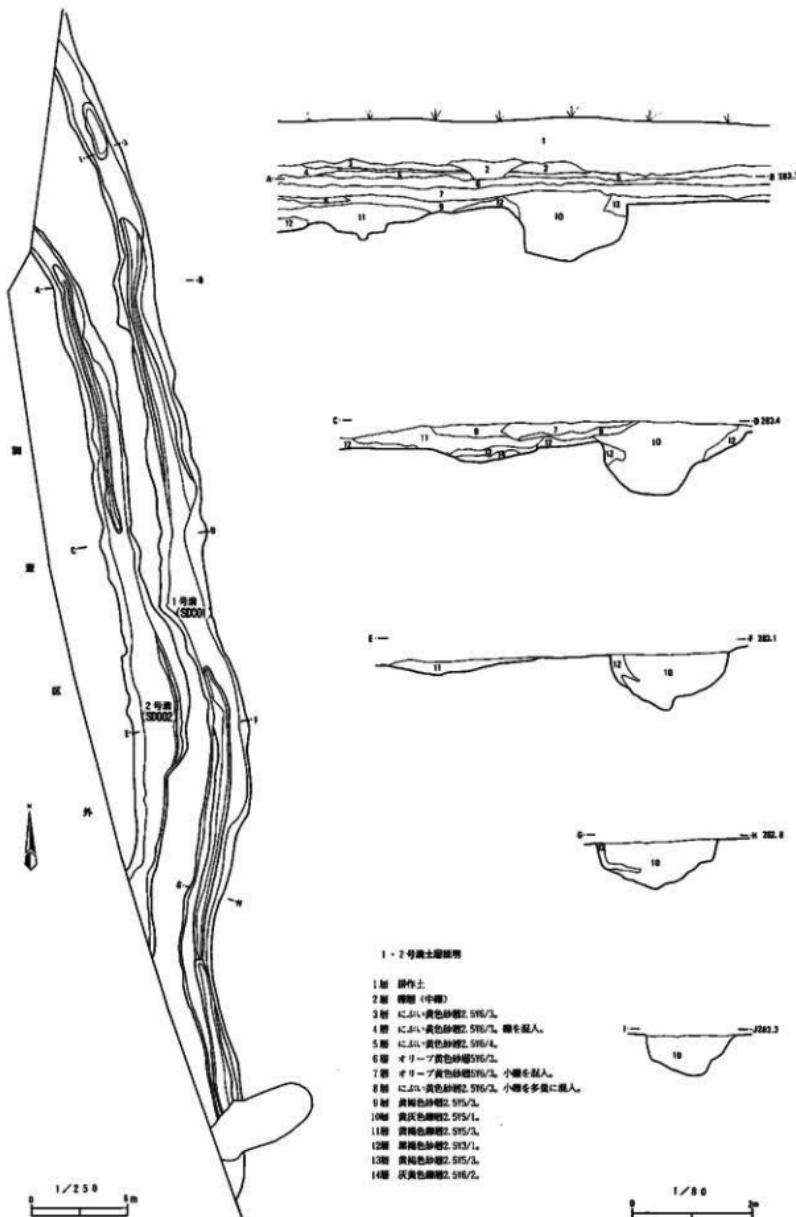


第13号住居址
(SI013)

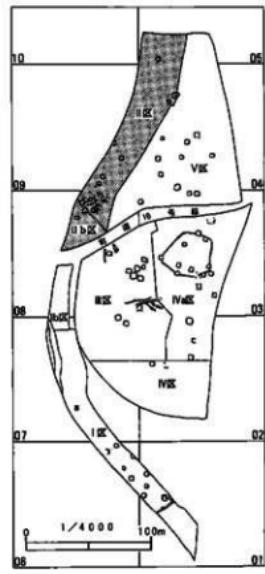
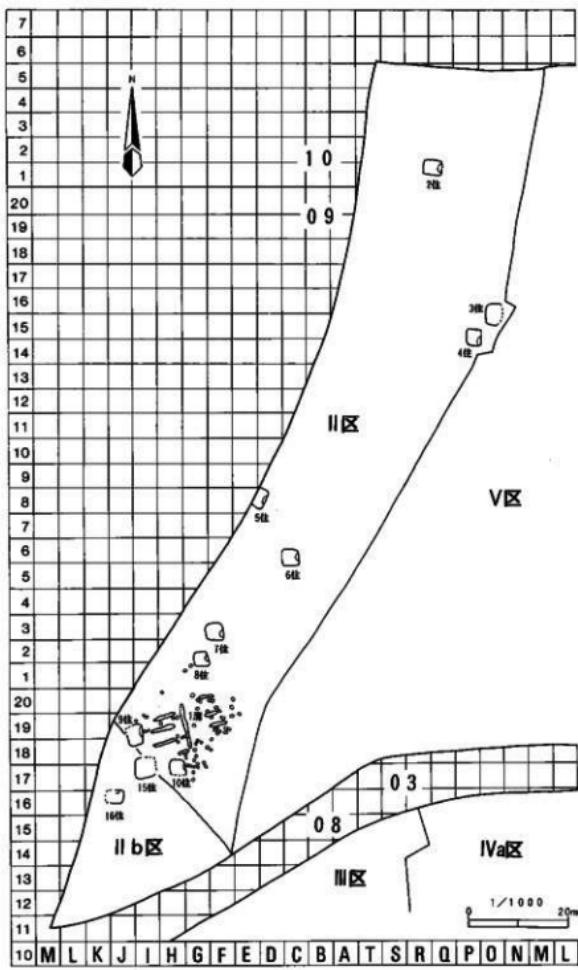


1号歫状溝
(SI007)

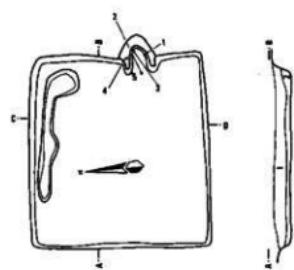
第80図 I区平安時代遺構



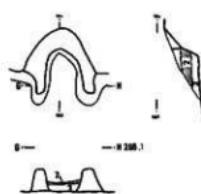
第81図 I・Ib区1・2号溝(SD001・002) 平・断面図



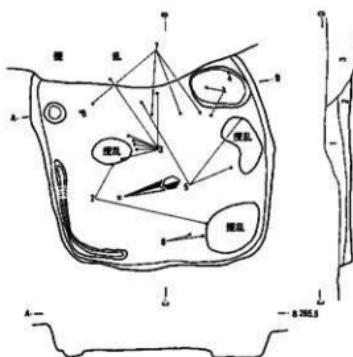
第82図 II・II b区平安時代遺構配置図



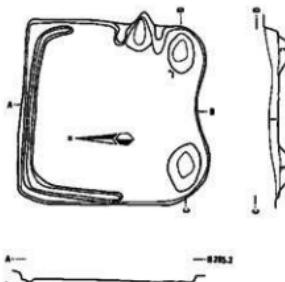
第2号住居址
— 8.285.1 —



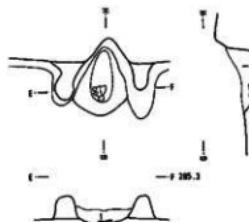
第2号住居址
— 8.285.1 —



第3号住居址
(SH003)



第4号住居址
— 8.285.2 —

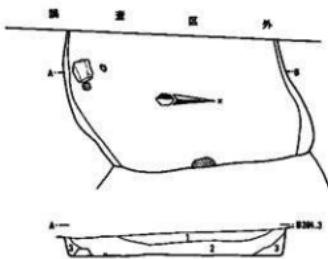


第4号住居址
— 8.285.2 —

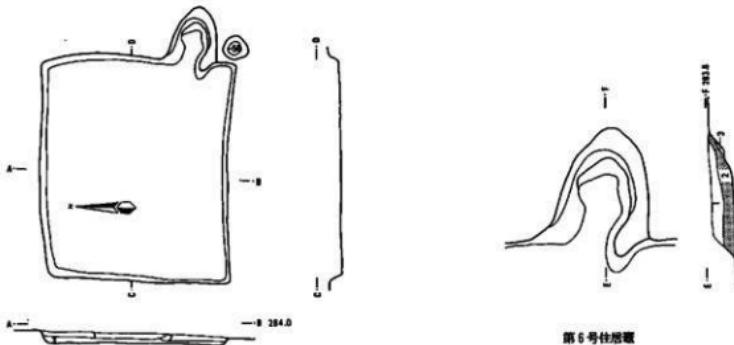
第4号住居址
(SH004)



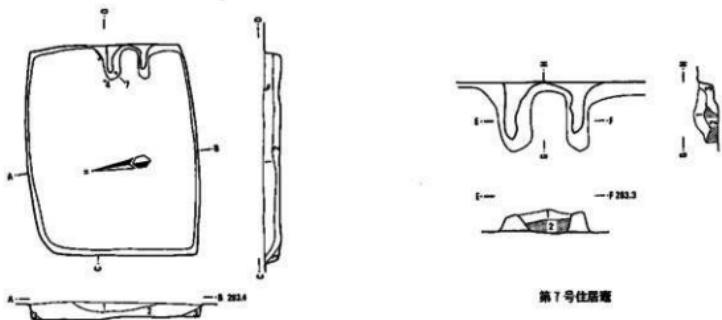
第83図 II区平安時代遺構



第5号住居址
(SI005)

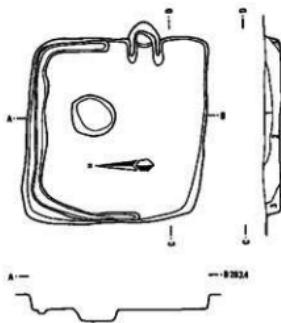


第6号住居址
(SI006)

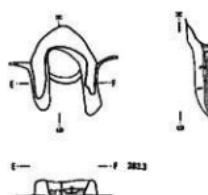


第7号住居址
(SI007)

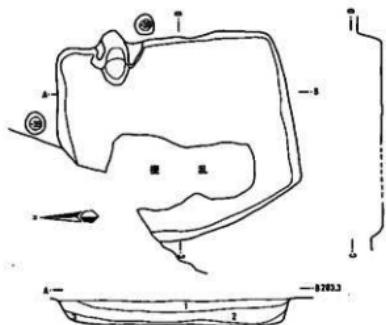
第84図 II区平安時代遺構



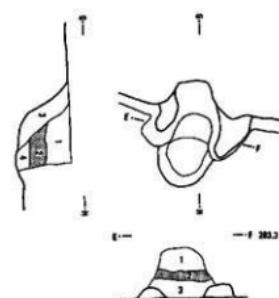
第8号住居址
(S1008)



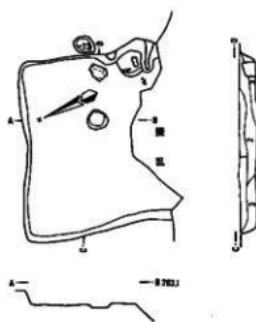
第8号住居址



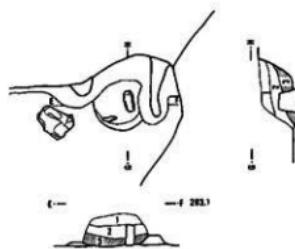
第9号住居址
(S1009)



第9号住居址



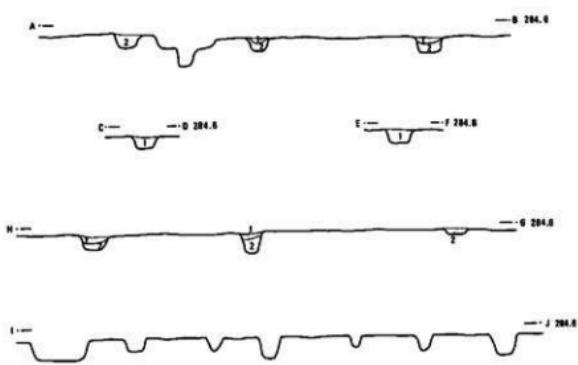
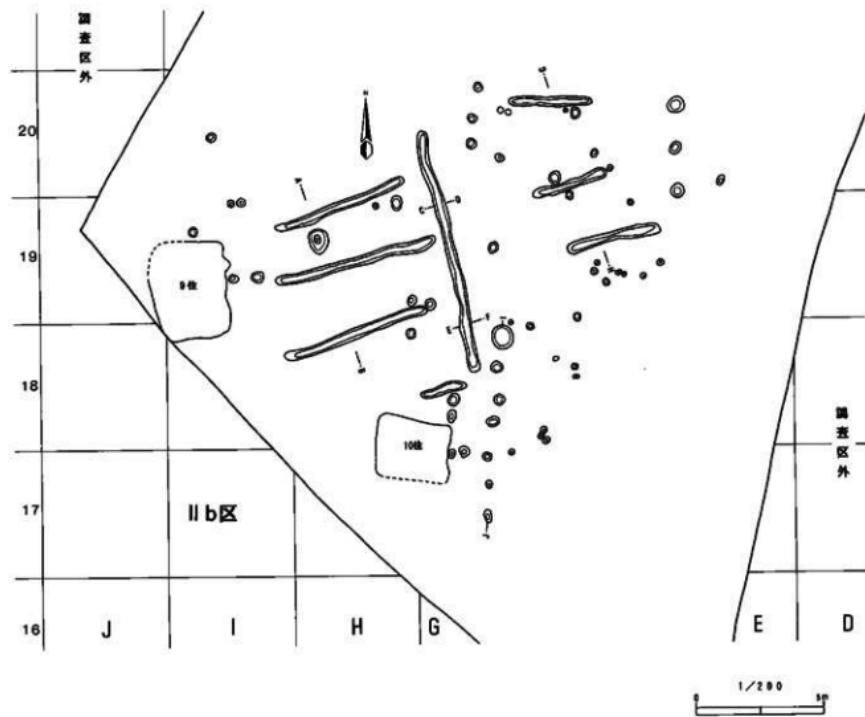
第10号住居址
(S1010)



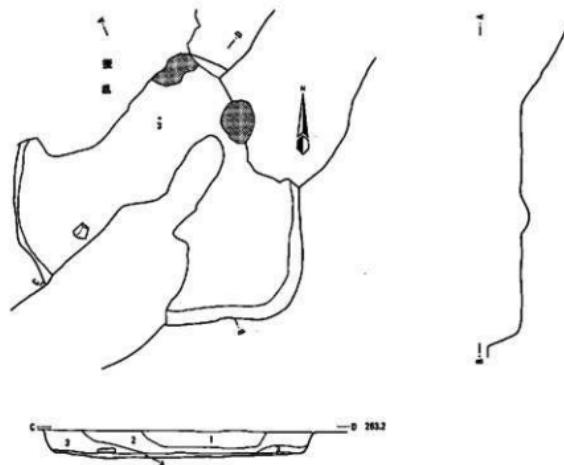
第10号住居址



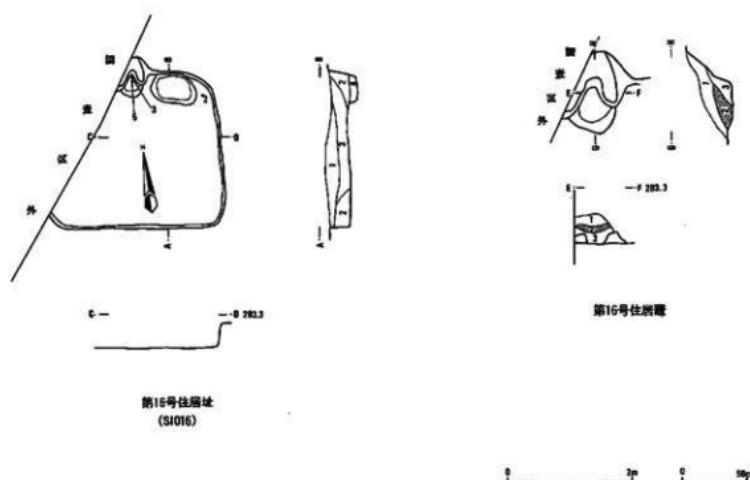
第85図 II区平安時代遺構



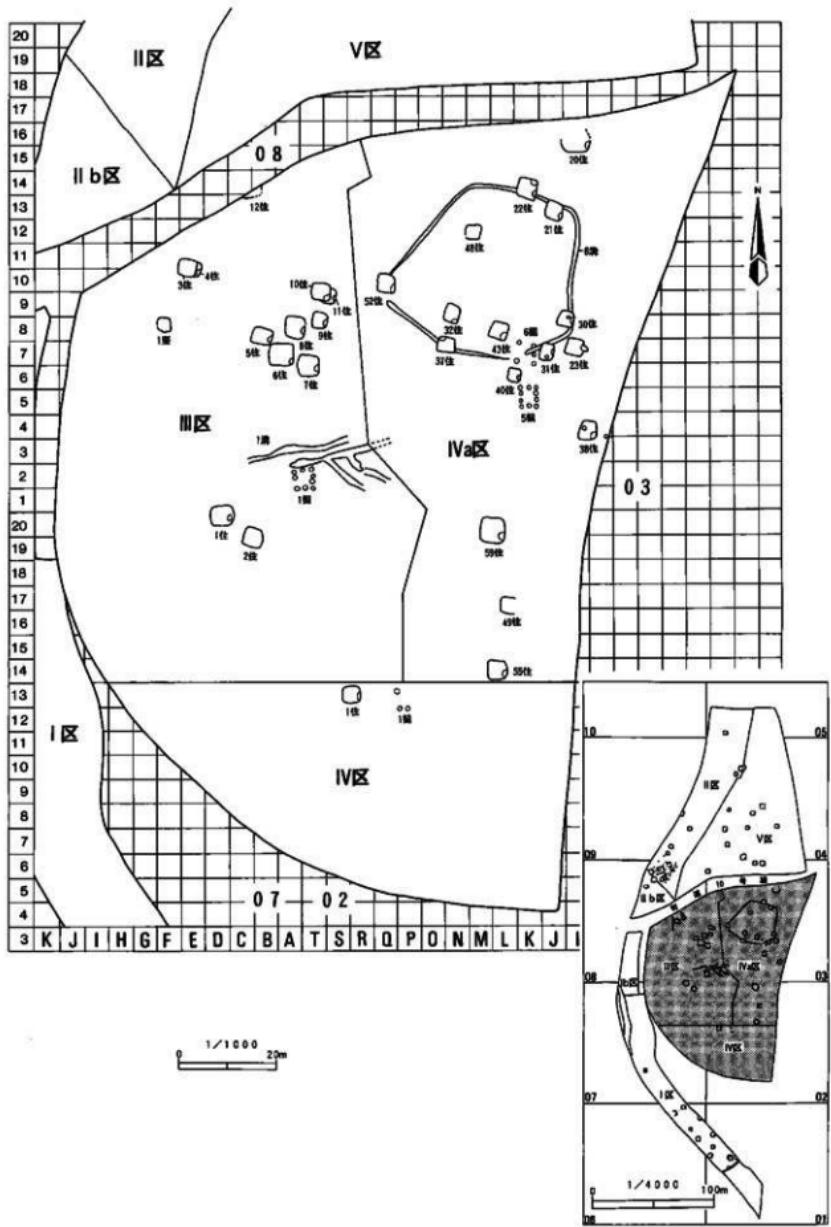
第86図 II区平安時代溝状造構及び性格不明ピット群 平・断面図



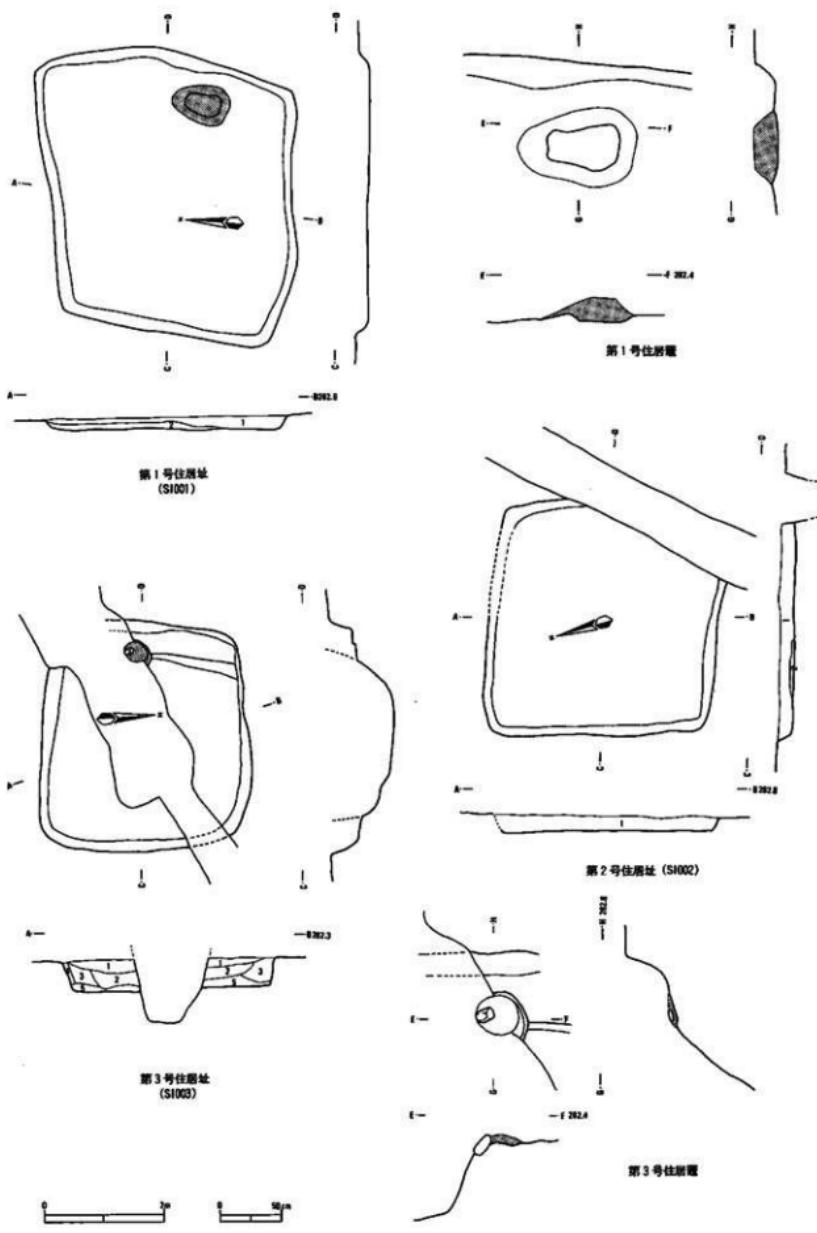
第15号住居址
(SI015)



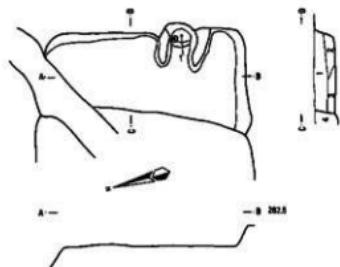
第87図 II b 区平安時代遺構



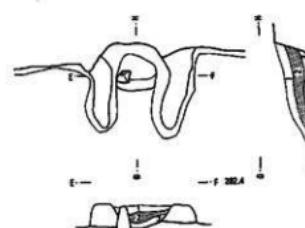
第88図 III・IV・IVa区平安時代遺構配図



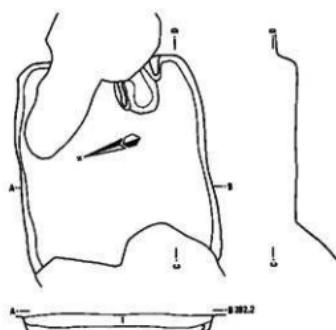
第89図 III区平安時代遺構



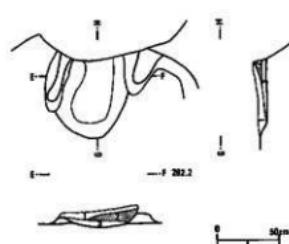
第4号住居址
(SI004)



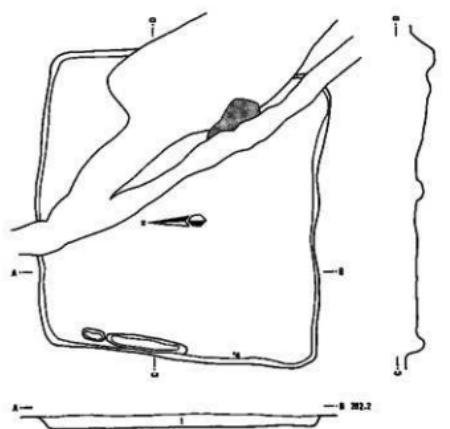
第4号住居址



第5号住居址
(SI005)



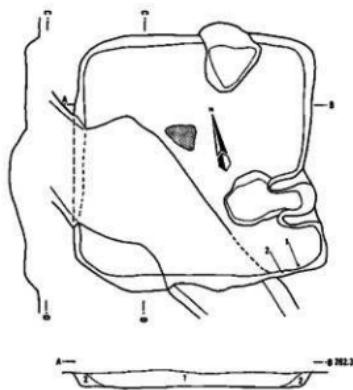
第5号住居址



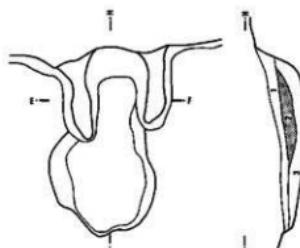
第6号住居址
(SI006)



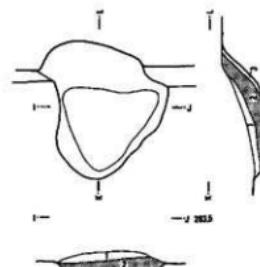
第90圖 III区平安時代造構



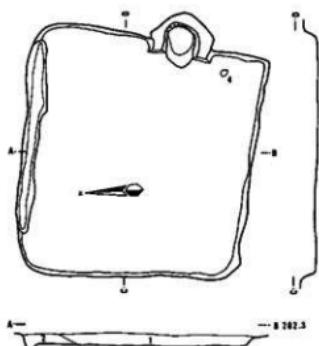
第7号住居址
(S1007)



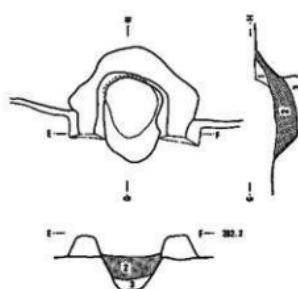
7号住居南端



7号住居北端

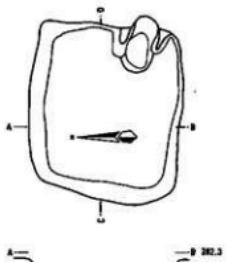


第8号住居址
(S1008)

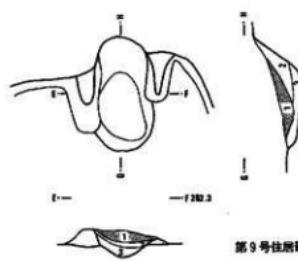


第8号住居南端

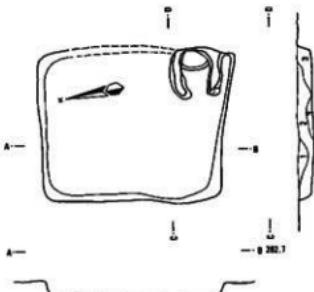
第91図 III区平安時代遺構



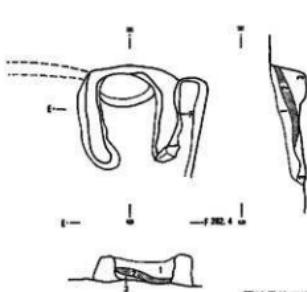
第9号住居址
(SI009)



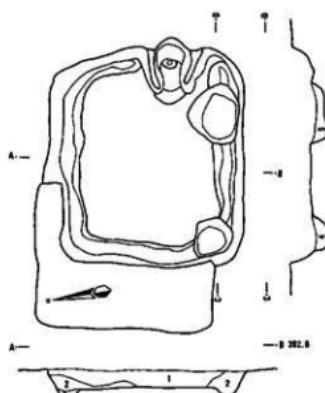
第9号住居址



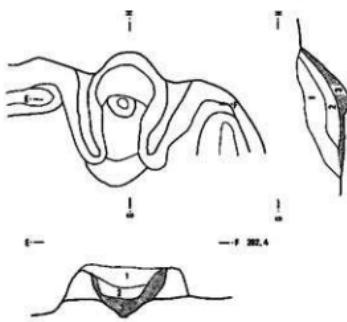
第10号住居址
(SI010)



第10号住居址

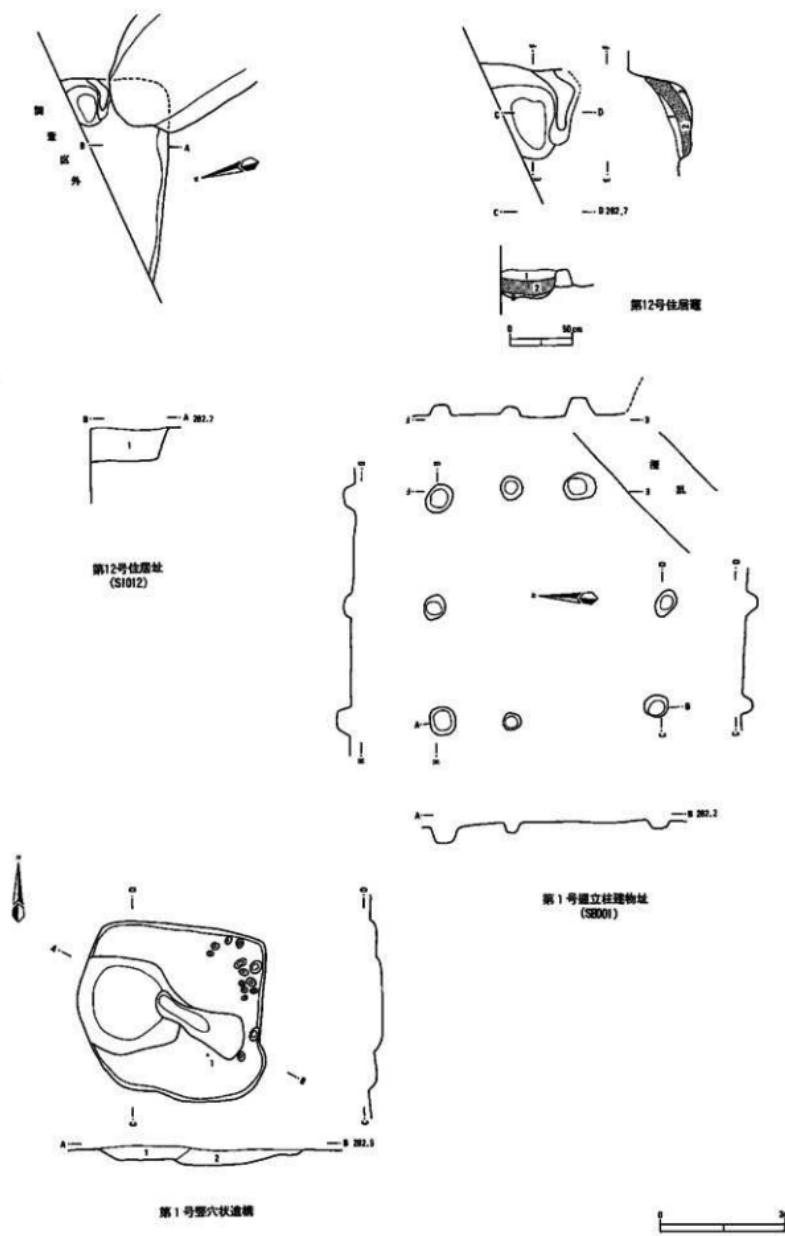


第11号住居址 (SI011)

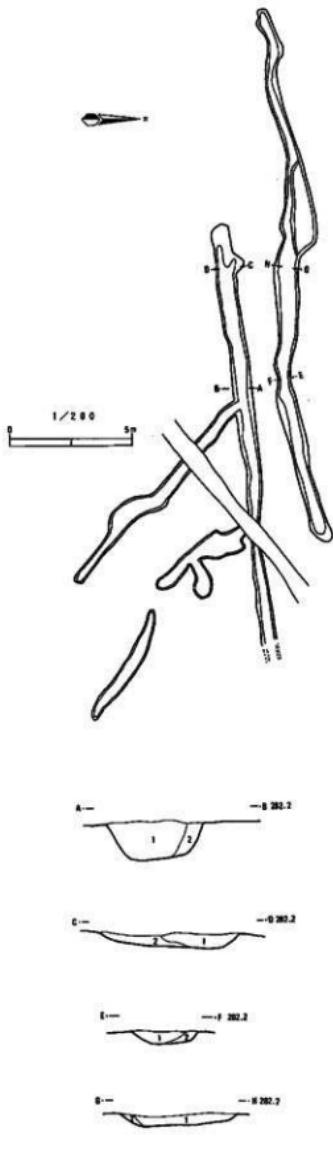


第11号住居址

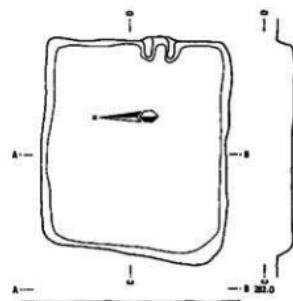
第92図 Ⅲ区平安時代遺構



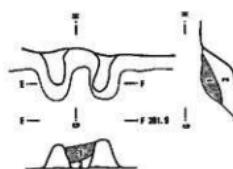
第93図 III区平安時代遺構



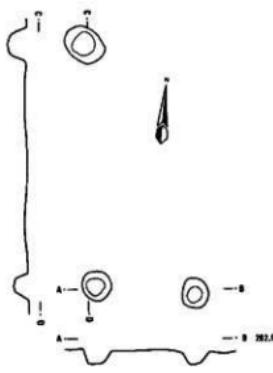
第1号陶状遺構



第1号住居址
(SI001)



第1号住居壁

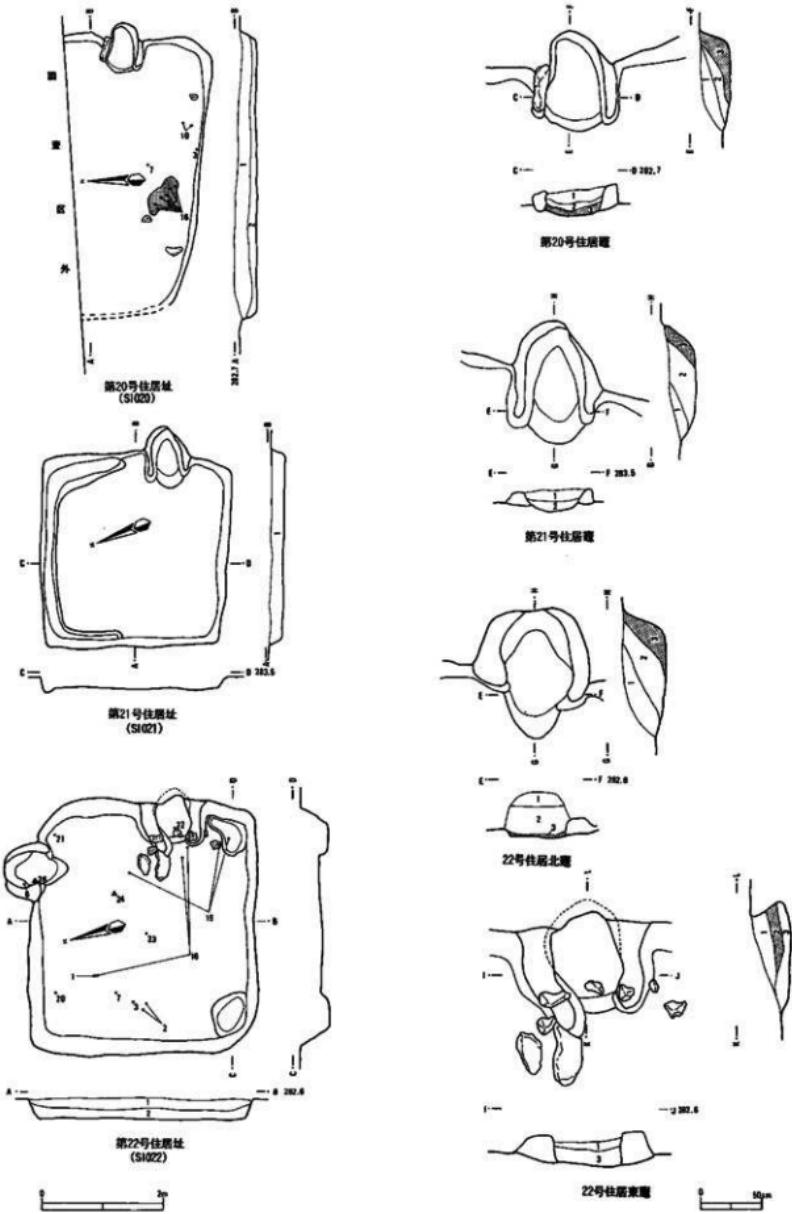


第1号柱立柱建物址
(SI001)

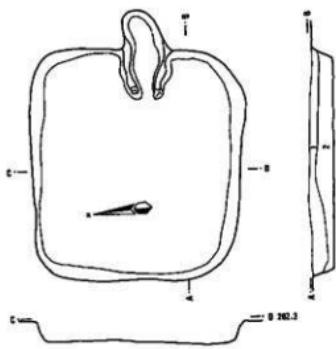
Ⅲ区

IV区

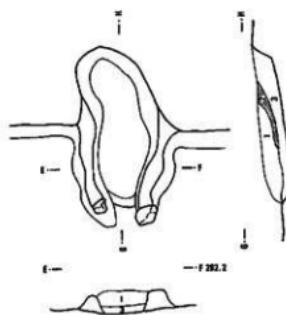
第94図 III・IV区平安時代遺構



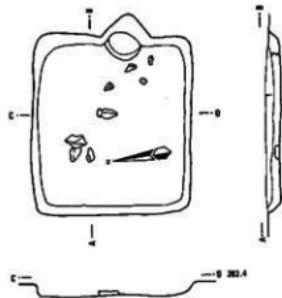
第95図 N a区平安時代遣構



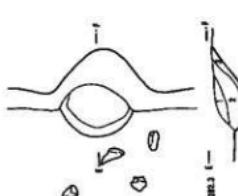
第23号住居址
(SI023)



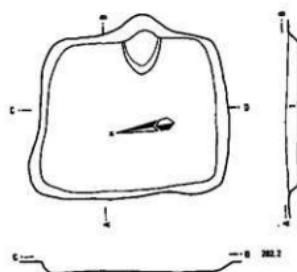
第23号住居址
(SI022)



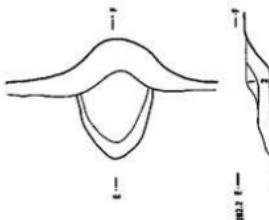
第30号住居址
(SI030)



第30号住居址
(SI021)



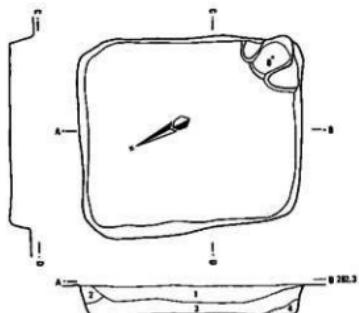
第31号住居址
(SI031)



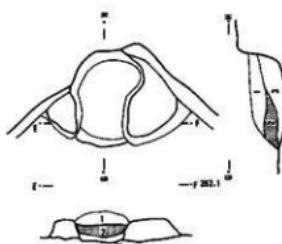
第31号住居址
(SI021)



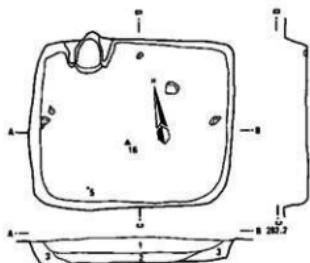
第96図 IV a 区平安時代遺構



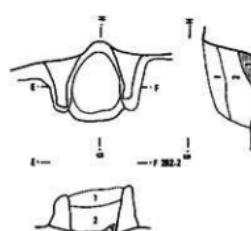
第32号住居址
(SI032)



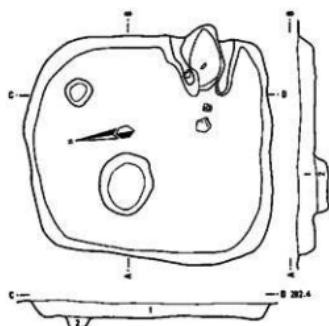
第32号住居址



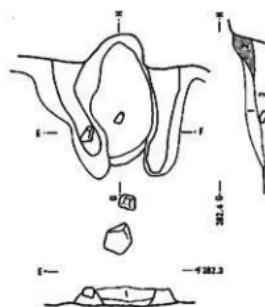
第37号住居址
(SI037)



第37号住居址

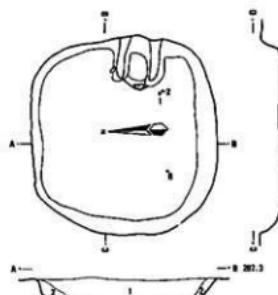


第38号住居址
(SI038)

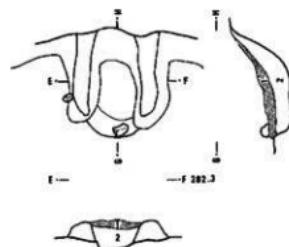


第38号住居址

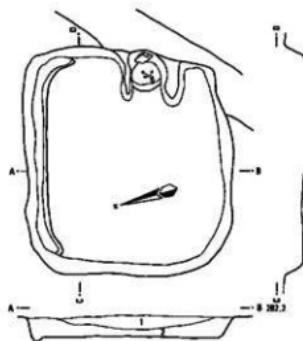
第97図 IV a 区平安時代遺構



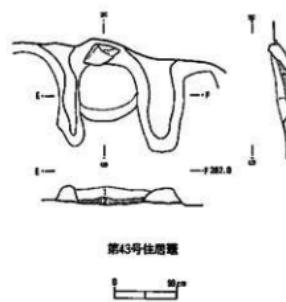
第40号住居址
(SI040)



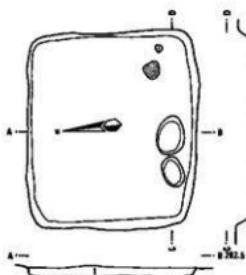
第40号住居址



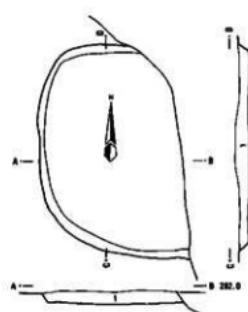
第43号住居址
(SI043)



第43号住居址

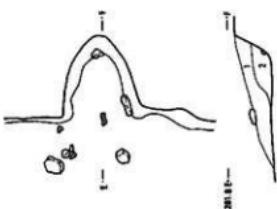
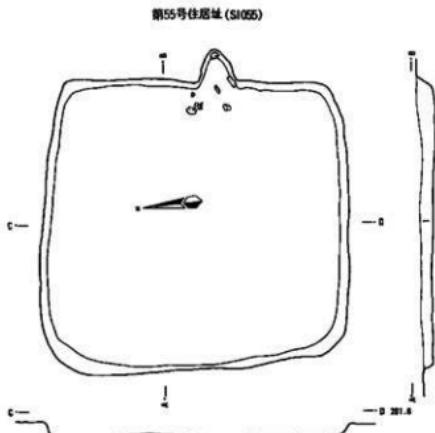
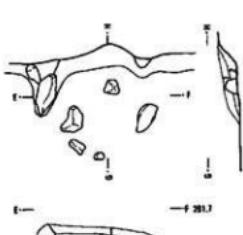
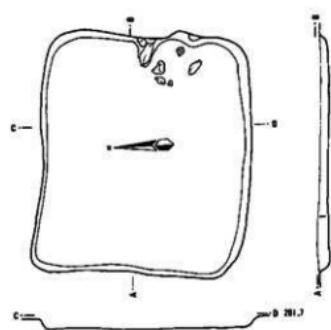
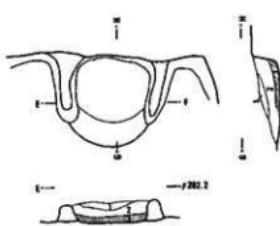
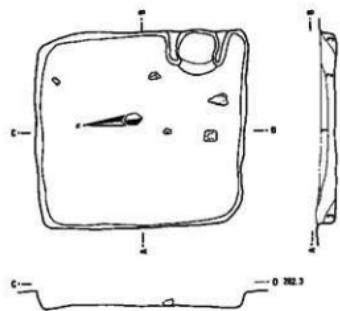


第48号住居址
(SI048)

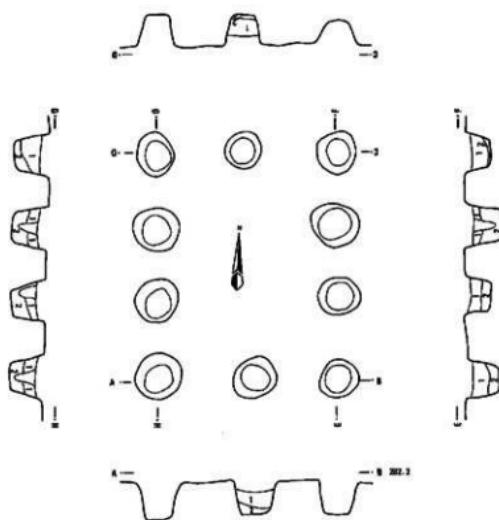


第49号住居址
(SI049)

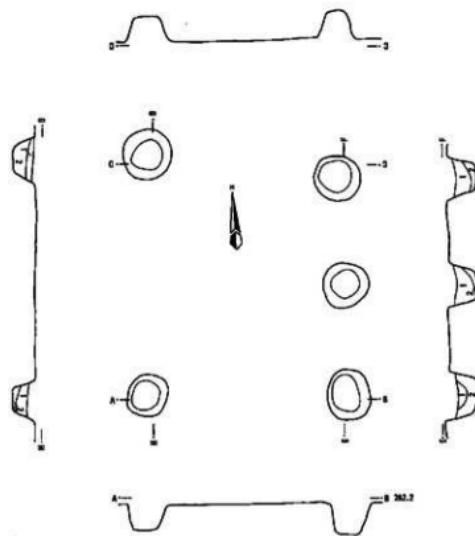
第98図 IV a 区平安時代遺構



第99図 IV a 区平安時代遺構



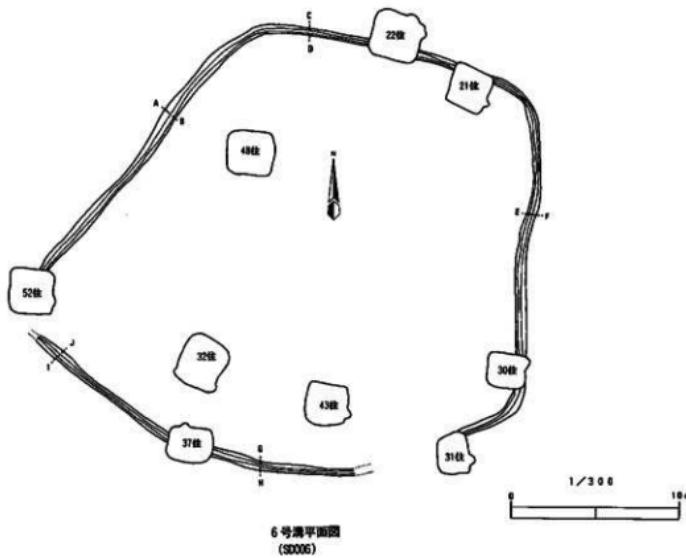
第5号縦立柱跡物址
(5005)



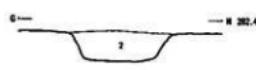
第6号縦立柱跡物址
(5006)



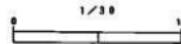
第100圖 Ma区平安時代遺構



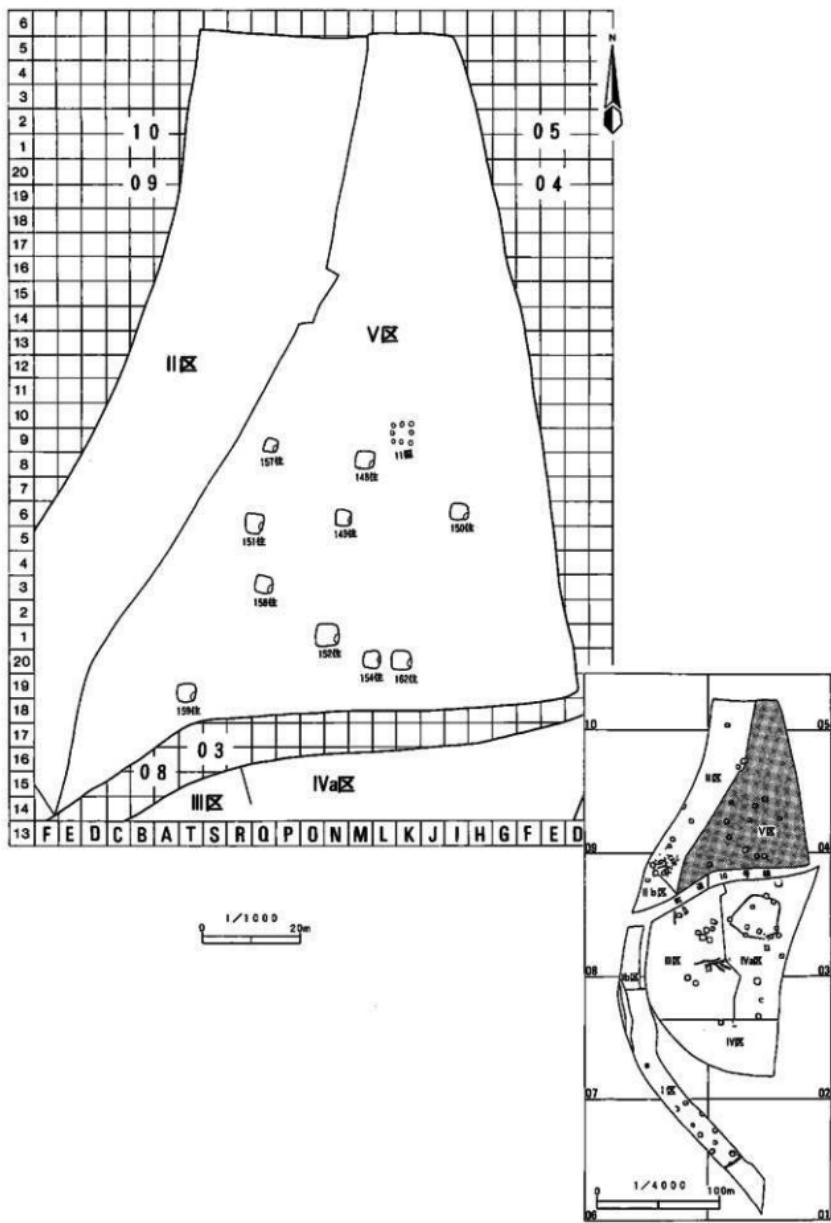
6号溝平面図
(SD006)



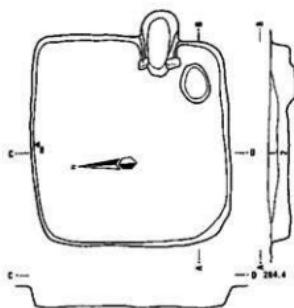
6号溝断面図



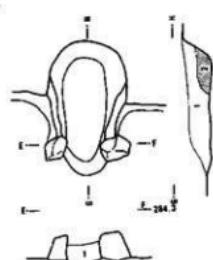
第101図 Ma区平安時代6号溝(SD006) 平・断面図



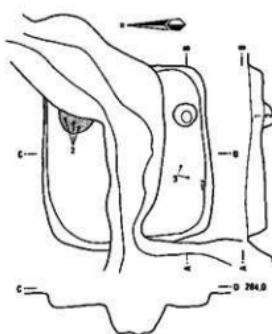
第102図 V区平安時代遺構配置図



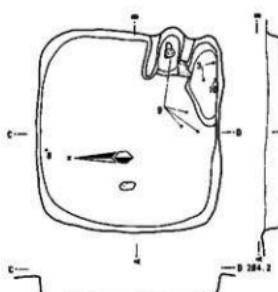
第148号住居址
(SI148)



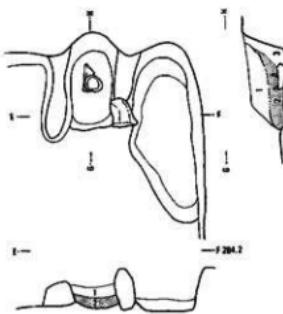
第148号住居窓



第149号住居址
(SI149)



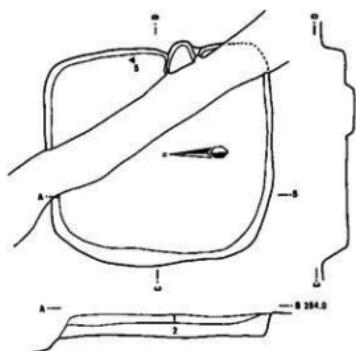
第150号住居址
(SI150)



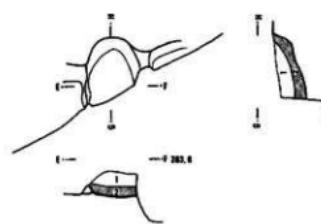
第150号住居窓



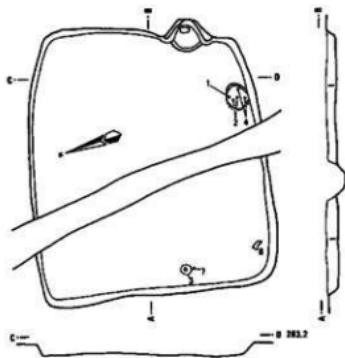
第103図 V区平安時代遺構



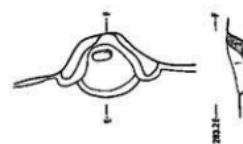
第151号住居址 (SI151)



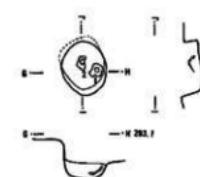
第151号住居址



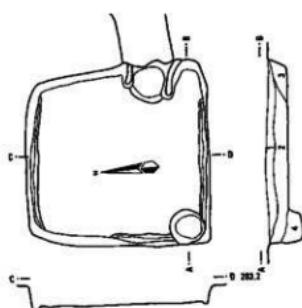
第152号住居址 (SI152)



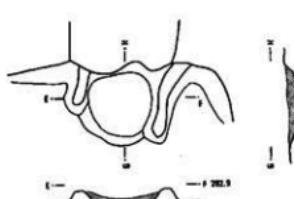
第152号住居址



第152号住居址内土状



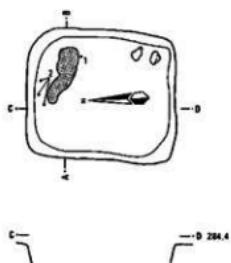
第154号住居址 (SI154)



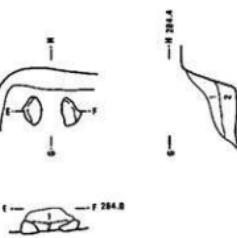
第154号住居址



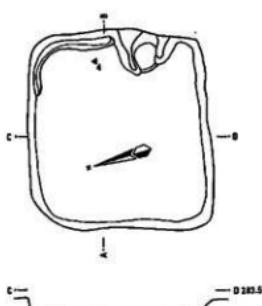
第104図 V区平安時代造構



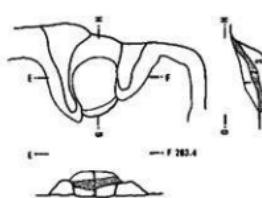
第157号住居址
(SI157)



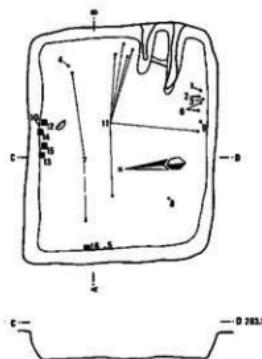
第157号住居址



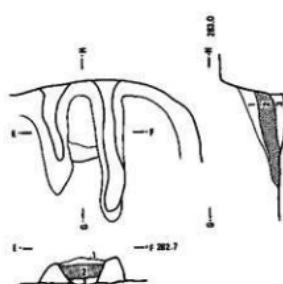
第158号住居址
(SI158)



第158号住居址



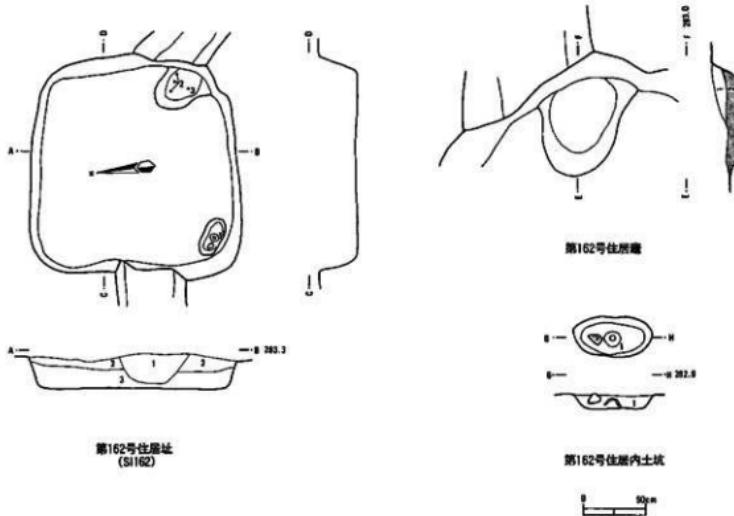
第159号住居址
(SI159)



第159号住居址



第105図 V区平安時代遺構

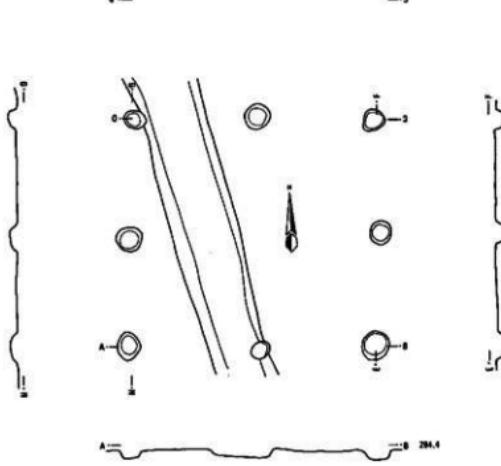


第162号住居址
(Site No. 162)

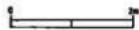
第162号住居壁



第162号住居内土坑

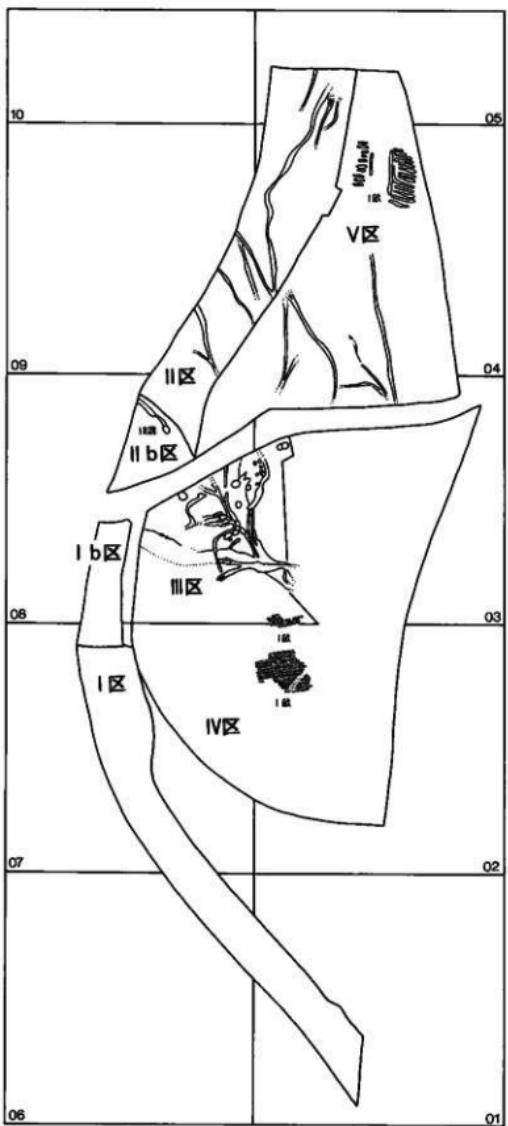


第11号掘立柱建物址
(Site No. 11)



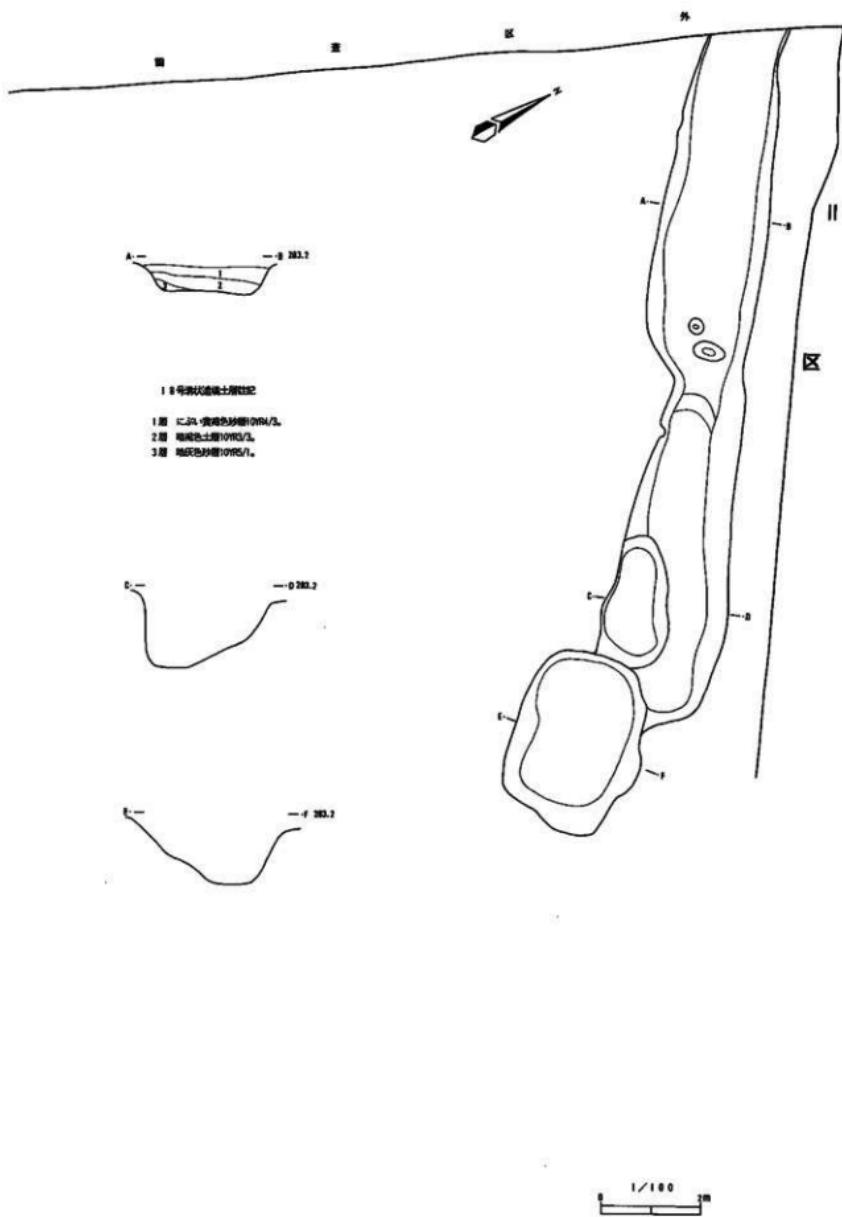
第106図 V区平安時代遺構

N

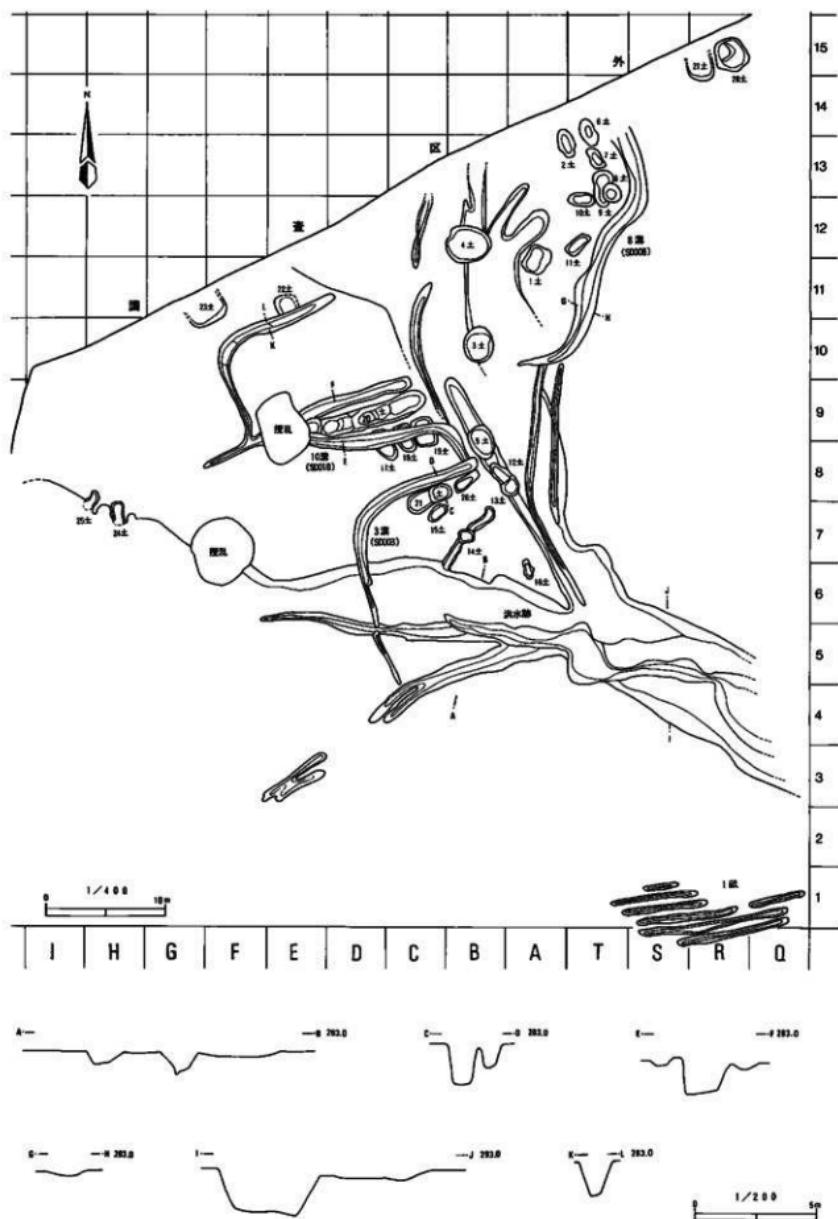


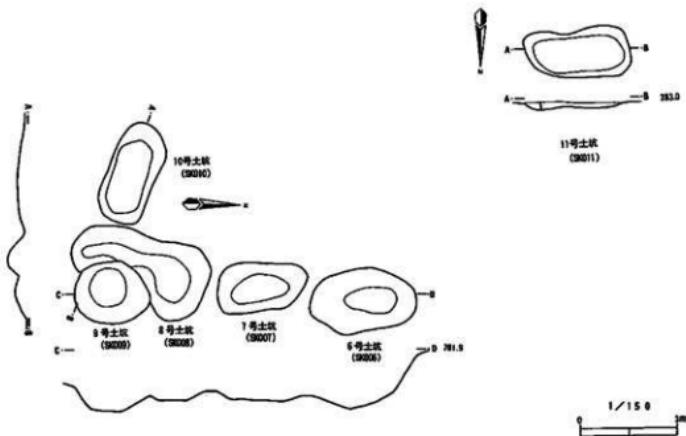
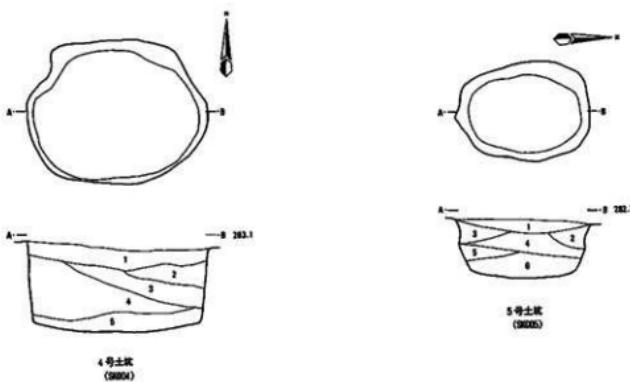
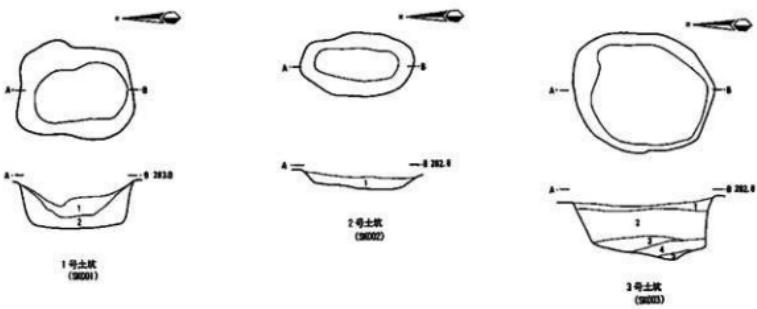
1 / 2000 50m

第107図 中世以降遺構配図

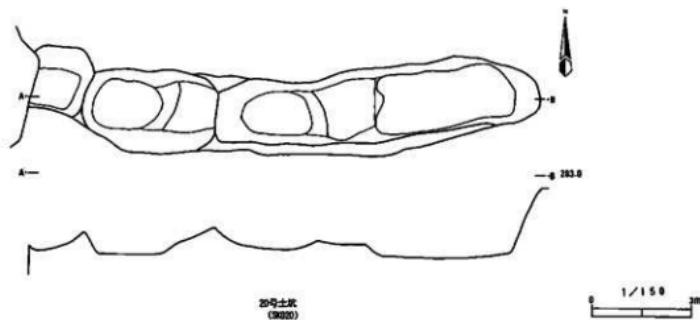
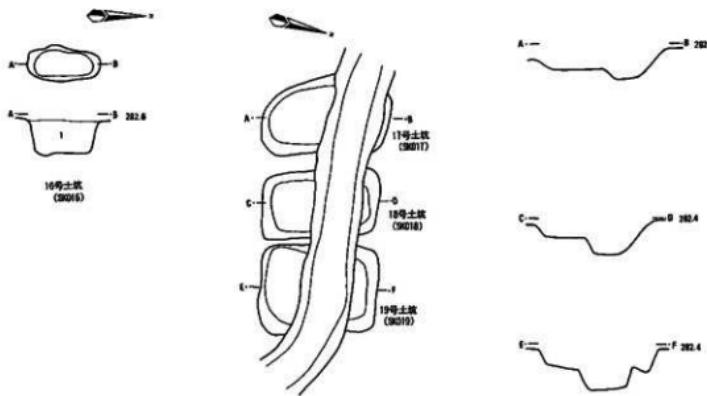
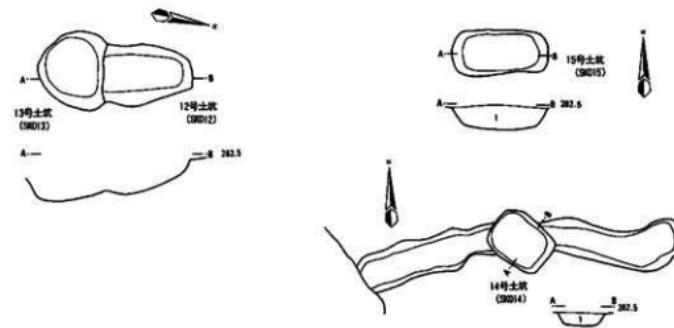


第108図 II b 区中世以降18号溝 (SD018) 平・断面図

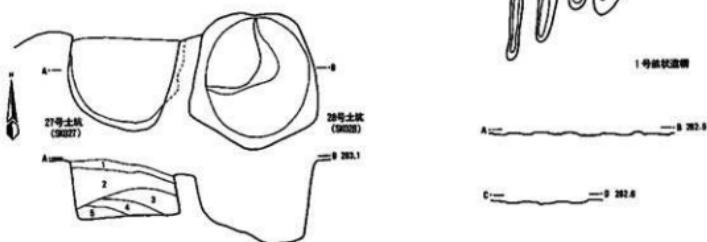
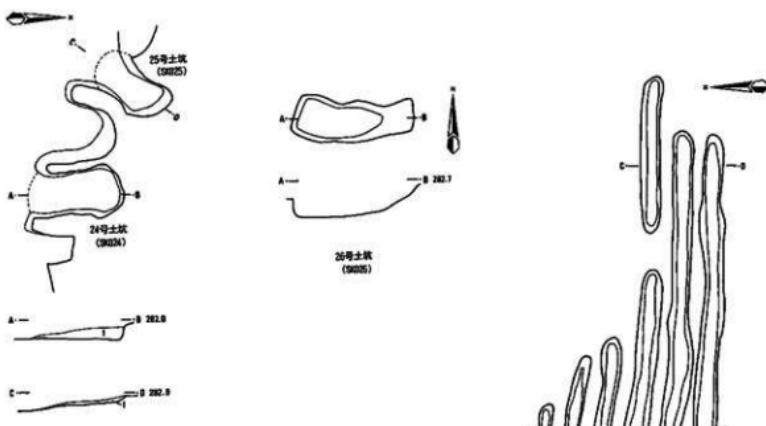
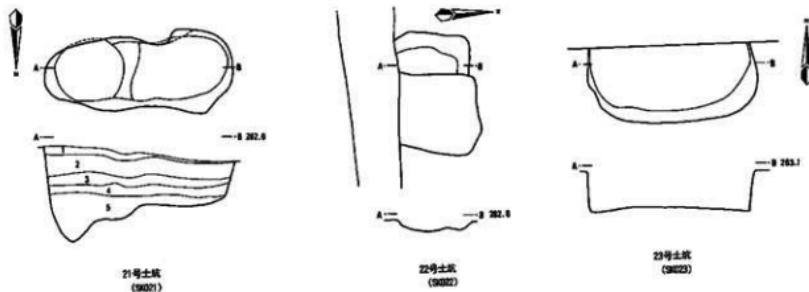




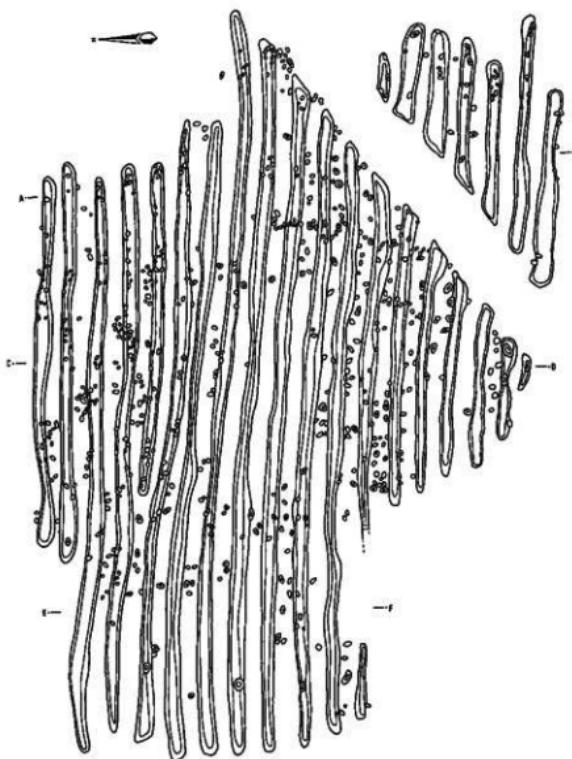
第110図 III区中世以降の土坑 平・断面図



第111図 III区中世以降の土坑 平・断面図



第112図 III区中世以降の土坑及び1号状状遺構 平・断面図



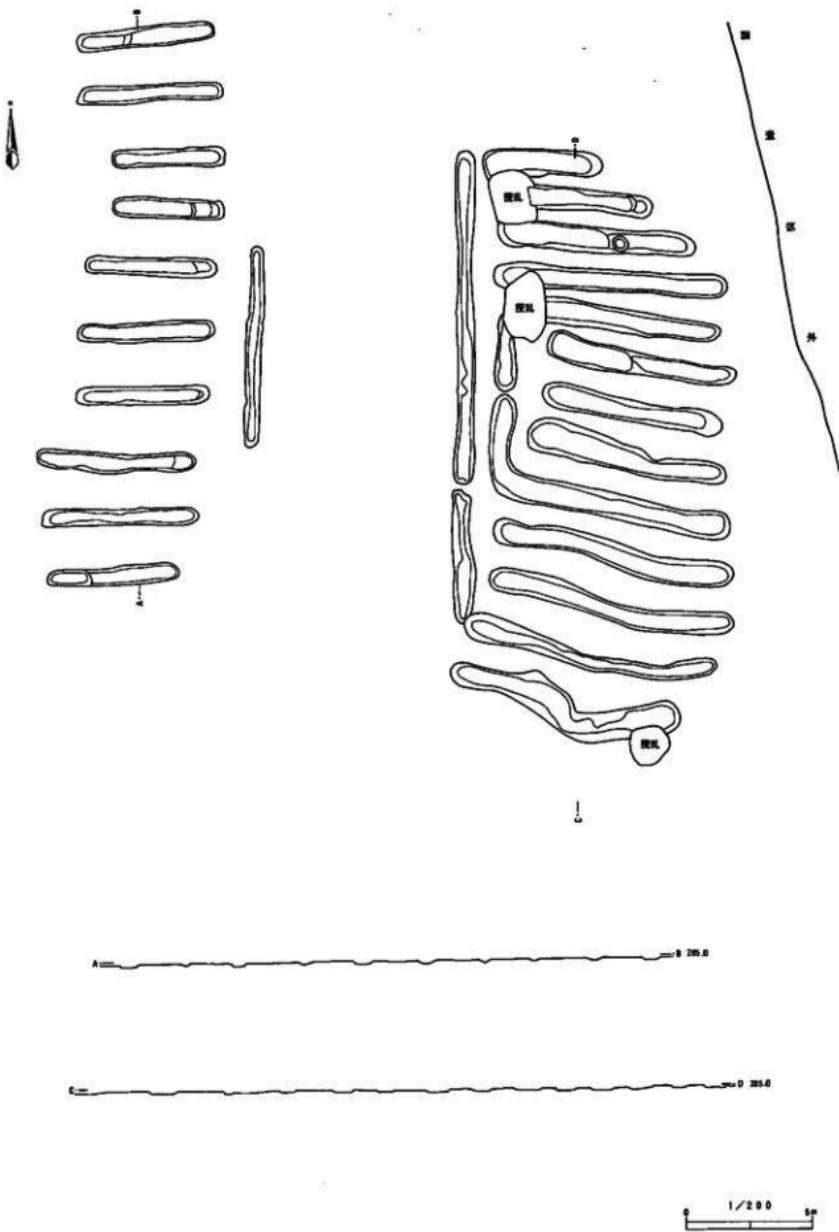
— 203.3

— 203.3

— 203.3

1/150 3m

第113図 IV区中世以降1号畝状遺構 平・断面図



第114図 V区中世以降1号款状造構 平・断面図

第5章 出土遺物とその観察

第1節 弥生時代

第1表 II区出土遺物観察表

(法量の単位はcm、-は計測不能()は推定値)

辨別番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	粘 土	備 考
II-5	1号住居	1	壺	(19.6)	-	-	折り返し口縁、内外面ハケメ	茶褐色		
II-5	*	2	*	-	(5.4)	-	外直、内面ハケメ 内面ミガキ、ハナゲ、ハケメ	淡茶褐色	小標	粘土分析試料 28
II-5	*	3	*	-	(10.0)	-	内外面磨耗のため不明	橙褐色	やや粗	
II-5	*	4	壺	(19.7)	-	-	唇部削り、内外面ハケメ	淡茶褐色	*	粘土分析試料 27
II-5	*	5	*	(19.7)	-	-	*	赤褐色	*	
II-5	*	6	*	(22.8)	-	-	内外面ハケメ	茶褐色		
II-5	*	7	*	(19.2)	-	-	内外面磨耗のため不明	淡茶褐色		
II-5	*	8	*	-	-	-	内外面ハケメ	赤褐色	*	

第2表 V区出土遺物観察表

辨別番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	粘 土	備 考
II-5	匂合場	1	不明	-	-	-	外面部板文	淡褐色	白色粒子	
II-5	*	2	*	-	-	-	*	*	*	
II-5	*	3	*	-	-	-	*	*	*	
II-5	*	4	壺	-	-	-	LR 单弦繩文	*	*	
II-5	*	5	*	-	-	-	二条平行沈継 LR 单弦繩文	*	*	
II-5	*	6	*	-	-	-	*	*	*	
II-5	*	7	*	-	-	-	LR 单弦繩文	*	*	

第2節 古墳時代

第3表 I区出土遺物観察表

辨別番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	粘 土	備 考
II-6	1号壁穴状造跡	1	壺	(15.2)	-	-	外面部のため不明 内面、ミガキ	淡茶褐色	白・赤色粒子、密	
II-6	*	2	壺	(11.6)	-	-	S字口縁、外面部板ハケメ後模証ハケメ 内面、磨擦痕ハケ	茶褐色	やや粗	
II-6	*	3	台付壺	-	(10.0)	-	外面部ハケメ 内面指ナチ脚台部折り返し	橙褐色	白色粒子	
II-6	*	4	高環	-	(20.0)	-	内外面、ミガキ	淡褐色	赤色粒子	脚部穿孔
II-6	*	5	壺	(20.2)	-	-	*	新褐色	やや密	
II-6	*	6	蓋台	7.2	-	-	内外面磨耗のため不明	*	赤色粒子	
II-6	2号壁穴状造跡	1	壺	(8.0)	-	-	内面ハケメ	*	白色粒子、やや粗	
II-6	*	2	壺	(13.2)	-	-	S字口縁、内面黒墨横ハケ	暗褐色	黒母	
II-6	*	3	台付壺	-	(9.4)	-	外面部ハケメ 内面指ナチ脚台部折り返し	淡茶褐色	*	
II-6	*	4	*	-	(7.6)	-	*	新褐色	赤色粒子、黒母	
II-6	*	5	*	-	(6.2)	-	脚台部折り返し	淡茶褐色	やや粗	
II-6	*	6	壺	13.1	-	-	内外面磨耗のため不明	橙褐色	赤色粒子	

(法量の単位はcm、-は計測不能()は推定値)

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
116	6号溝	1	盃	(19.2)	-	-	外腹、口縁部鋸歯線、棒状浮文、内面ミガキ	淡茶褐色	白色粒子、やや密	
116	+	2	+	(17.4)	-	-	外腹 口縁部 鋸歯線、鋸歯状縫合	赤褐色	*	
116	+	3	+	-	-	-	外腹 鋸歯線	淡茶褐色	白・赤色粒子、やや密	
116	+	4	+	-	-	-	外腹 鋸歯文	茶褐色	やや密	
116	+	5	+	(22.4)	6.0	28.0	内外腹、ミガキ	*	白・赤色粒子、やや粗	
116	+	6	+	17.4	-	-	外腹 口縁部、剥突、ミガキ	淡茶褐色	やや粗	
116	+	7	+	(17.2)	-	-	内外腹、ハケメ	*	白色粒子、やや粗	
116	+	8	+	-	-	-	内外腹 ミガキ	淡茶褐色	赤色粒子、やや粗	
116	+	9	+	-	-	-	外腹 口縁部、円形押文、横位ハケメ	赤褐色	赤色粒子、やや密	
116	+	10	+	-	-	-	外腹 楔形文 内腹 棒状浮文	淡茶褐色	赤色粒子、やや密	
116	+	11	+	-	-	-	外腹 楔形押文 円形押文 内腹 ハナダ	赤褐色	白・赤・黒色粒子、雲母	
116	+	12	+	(20.0)	-	-	外腹 ハケメ	棕褐色	白色粒子、やや粗	
116	+	13	+	(11.2)	-	-	外腹 ミガキ 内腹 棒状浮文 ハナダ	淡茶褐色	白・赤色粒子、雲母	
116	+	14	高坏	23.7	-	-	外腹 ミガキ 内腹 片唇ミガキ 脚部擦痕痕	*		脚部貫通孔
116	+	15	+	-	-	-	外腹 ミガキ 内腹 ハケメ	*		*
116	+	16	器台	10.0	-	-	外腹 ミガキ	棕褐色		器受部中央・脚部貫通孔
116	+	17	+	(9.2)	-	-	内外腹 廉耗のため不明	赤褐色	白・赤色粒子、雲母	
116	+	18	+	(9.6)	-	-	*	*	赤色粒子、雲母	器受部中央貫通孔
116	+	19	蓋	(7.0)	-	-	内腹 指痕痕	淡茶褐色	白色粒子、雲母	
116	+	20	蒜	(7.1)	2.0	6.9	外腹 ミガキ 内腹 斜削痕	*	黑色粒子、やや密	
117	+	21	甕	(24.4)	-	-	外腹 ハケメ 内腹 ミガキ	*	やや粗	
117	*	22	+	(15.2)	-	-	口唇部削目、外腹 ハケメ 内腹 ミガキ	茶褐色		
117	*	23	+	(21.6)	-	-	S字口縁、外腹 削位ハケメ後横位ハケメ 内腹 指ナダ	*	やや密	
117	*	24	+	(16.6)	-	-	*	*	白・赤色粒子、雲母	
117	*	25	+	(14.2)	-	-	*	*	黑色粒子、雲母、やや粗	
117	*	26	+	(12.2)	-	-	外面摩耗傷かにハケメ内腹裏部横ハケメ 脇壁かにハケメ指ナダ	淡茶褐色	白色粒子、雲母	
117	*	27	+	(18.3)	-	-	S字口縁、外腹 削位ハケメ後横位ハケメ 内腹 指ナダ	茶褐色	雲母、やや密	
117	*	28	+	(17.0)	-	-	*	淡茶褐色	白色粒子、雲母	
117	*	29	+	(12.2)	-	-	*	*	白・赤・黒色粒子、雲母	
117	*	30	+	(15.2)	-	-	S字口縁、外腹 削位ハケメ後横位ハケメ 内腹 指ナダ	*	黑色粒子、雲母、やや密	
117	*	31	+	(16.0)	-	-	S字口縁、外腹 削位ハケメ後横位ハケメ 内腹 指ナダ	棕褐色	白・赤色粒子、雲母、密	
117	*	32	+	16.0	-	-	*	茶褐色	赤・黒色粒子、雲母、やや密	
117	*	33	+	10.6	-	-	*	淡茶褐色	白・黒色粒子、雲母、やや粗	
117	*	34	+	(11.8)	-	-	*	*	白・黒色粒子、雲母、やや密	
117	*	35	+	(12.0)	-	-	*	*	白・赤色粒子、雲母、密	
117	*	36	+	(10.0)	-	-	*	茶褐色	*	
117	*	37	+	(16.3)	-	-	S字口縁、外腹 削位ハケメ後横位ハケメ 内腹 指ナダ ハナダ	淡茶褐色	白色粒子、雲母	
117	*	38	+	(14.0)	-	-	S字口縁、外腹 削位ハケメ後横位ハケメ 内腹 指ナダ ハナダ	茶褐色	白・赤色粒子、雲母	
117	*	39	+	(16.6)	-	-	*	*	白色粒子、雲母	
117	*	40	+	(13.2)	-	-	*	*	白色粒子、雲母、やや粗	
117	*	41	+	(14.2)	-	-	S字口縁、外腹 削位ハケメ 内腹 指ナダ ハナダ	淡茶褐色	白・黒色粒子、雲母	
117	*	42	+	(16.5)	-	-	S字口縁、外腹 削位ハケメ 内腹 指ナダ	*	白・赤色粒子、雲母	

(法量の単位はcm、ーは計測不能()は推定値)

辨認番号	出土地点	番号	器種	L径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	粒 土	備 考
117	6号溝	43	甕	(30.0)	—	—	S字口縁・外腹 刷毛目ハケメ	赤褐色	白色粒子、雲母	
117	*	44	*	(21.5)	—	—	S字口縁	淡茶褐色	*	
117	*	45	*	14.0	—	—	*	茶褐色	*	
117	*	46	*	(10.0)	—	—	S字口縁・外腹 刷毛目ハケメ	淡茶褐色	白色粒子、雲母、やや粗	
117	*	47	台付甕	—	6.0	—	外腹 刷毛目ハケメ 内腹 強ナダ・薄台部折り返し	赤褐色	白色粒子、雲母、やや粗	
117	*	48	*	—	10.6	—	*	淡茶褐色	白色粒子、雲母、やや粗	
118	*	49	甕	(38.0)	—	—	外腹 刷毛目ハケメ後継目ハケメ 内腹 強ナダ	茶褐色	白色粒子、雲母、白・赤色粒子、雲母	
118	*	50	*	(24.0)	—	—	*	淡茶褐色	白色粒子、雲母	
118	*	51	*	(34.2)	—	—	外腹 刷毛目ハケメ後継目ハケメ 内腹 強ナダ	茶褐色	白色粒子、雲母、やや粗	
118	*	52	*	(26.9)	—	—	外腹 ハケメ	*	白色粒子、雲母、やや粗	
118	*	53	*	(29.0)	—	—	内外腹 ハケメ	*	赤・黑色粒子、やや粗	
118	*	54	*	(28.0)	—	—	*	*	雲母、青	
118	*	55	甕?	(12.0)	—	—	外腹 刷毛目ハケメ	*	赤色粒子、雲母	
118	*	56	*	(13.5)	—	—	外腹 口縁部彫凹線	*	白・褐色粒子	
118	*	57	甕	(16.0)	—	—	*	*	白・赤色粒子、雲母、青	
118	*	58	*	(20.0)	—	—	外腹 口縁部彫凹線ハケメ 内腹 ハラナダ	淡茶褐色	白色粒子、粗	
118	*	59	*	(24.2)	—	—	外腹 口縁部彫凹線ハケメ 内腹 ハラナダ	*	白色粒子、雲母	
118	*	60	甕	(19.8)	—	—	外腹 口縁部彫凹線・横状浮文 ミガキ	褐色	白・赤色粒子、青	粘土分析試料 20
118	*	61	*	(21.8)	—	—	外腹 口縁部彫凹線・腹壁沈澱 巻毛のため不明	*	*	
118	*	62	*	—	—	—	外腹 口縁部彫凹線・横状浮文 巻毛のため不明	茶褐色	赤色粒子	
118	*	63	*	(15.2)	—	—	外腹 ミガキ 指謎表 内腹 極端指謎表	淡茶褐色	赤色粒子、やや密	内外腹、赤色痕跡
118	*	64	*	17.0	—	—	折り返し口縁・外腹 ハケメ 内腹 極端指謎表	茶褐色	赤色粒子	
118	*	65	*	15.4	—	—	内外腹 密着のため不明	茶褐色	白色粒子、雲母、粗	
118	*	66	*	—	—	—	外腹 瓢箪・凸唇、刺突、ハケメ 内腹 ミガキ・ハケメ・指謎表	赤褐色	白色粒子、青	
118	*	67	*	11.2	8.0	24.7	外腹 ミガキ ハケメ ヘラナダ 内腹 ハケメ ヘラナダ	褐色	白・赤・黑色粒子、粗	
118	*	68	*	14.0	—	—	外腹 ハケメ後継目ガギ 内腹 ハケメ 滲漏痕	淡茶褐色	白色粒子、雲母、やや密	
118	*	69	*	—	(7.0)	—	外腹 ミガキ ヘラナダ 内腹 ハラナダ	*	赤色粒子、青	
118	*	70	*	—	(8.4)	—	外腹 ミガキ 内腹 滲漏痕	茶褐色	白色粒子、雲母、青	
119	*	71	台付甕	14.0	9.0	19.9	S字口縁・外腹 刷毛目ハケメ後継目ハケメ 内腹 強ナダ・強ナダ	淡茶褐色	赤色粒子、やや粗	粘土分析試料 10
119	*	72	甕	17.8	—	—	外腹 刷毛目ハケメ後継目ハケメ 内腹 強ナダ	*	白・赤色粒子、雲母、やや密	
119	*	73	*	(18.2)	—	—	S字口縁・外腹 刷毛目ハケメ後継目ハケメ 内腹 強ナダ	*	白色粒子、雲母	
119	*	74	*	(16.5)	—	—	*	茶褐色	雲母	
119	*	75	*	—	—	—	外腹 刷毛目ハケメ後継目ハケメ 内腹 強ナダ・強ナダ	茶褐色	白・赤色粒子	
119	*	76	*	(16.0)	—	—	S字口縁・外腹 刷毛目ハケメ後継目ハケメ 内腹 強ナダ	茶褐色	白・赤色粒子、雲母、やや粗	粘土分析試料 11
119	*	77	*	15.6	—	—	*	淡茶褐色	雲母、やや密	粘土分析試料 15
119	*	78	*	(15.2)	—	—	*	茶褐色	雲母、やや粗	
119	*	79	*	(15.2)	—	—	S字口縁・外腹 刷毛目ハケメ後継目ハケメ 内腹 強ナダ	淡茶褐色	白色粒子、雲母、やや粗	
119	*	80	*	22.6	—	—	S字口縁・外腹 刷毛目・横位・刷毛目ハケメ 内腹 強ナダ	茶褐色	白・赤色粒子、雲母、やや粗	粘土分析試料 12
119	*	81	*	(17.0)	—	—	S字口縁・外腹 刷毛目ハケメ後継目ハケメ 内腹 強ナダ	茶褐色	白・赤色粒子	
119	*	82	*	(16.0)	—	—	*	茶褐色	白色粒子、雲母、青	
119	*	83	*	13.2	—	—	*	茶褐色	雲母	
119	*	84	台付甕	13.3	8.3	22.2	S字口縁・外腹 刷毛目ハケメ後継目ハケメ 内腹 強ナダ	*	赤色粒子	粘土分析試料 13

(法量の単位はcm、ーは計測不能()は推定値)

標印番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考	
119	6号井	85	台付甕	13.5	7.1	18.5	S字口縁、外腹・新位ハケメ後横位ハケメ 内腹・指ナデ、脚部折り返し	赤褐色	白・黒色粒子、雲母		
119	+	86	甕	12.4	—	—	S字口縁、外腹・新位ハケメ後横位ハケメ 内腹・指ナデ	淡茶褐色	白・赤・黒色粒子、雲母、やや粗		
119	+	87	+	(17.2)	—	—	+	+	赤・黒色粒子、雲母、やや粗		
119	+	88	台付甕	17.7	—	—	+	+	赤色粒子、雲母、やや粗	底部穿孔	
119	+	89	+	18.0	10.0	16.0	S字口縁、外腹口内T型ナデ、斜化ハケメ後横位ハケメ 内腹・指ナデ 脚部折り返し	+	赤色粒子		
120	+	90	+	13.4	—	—	S字口縁、外腹側位ハケメ後横位ハケメ 内腹・指ナデ	+	赤色粒子、雲母、やや粗	胎土分析試料 17	
120	+	91	甕	17.8	—	—	+	+	赤色粒子、雲母、やや粗		
120	+	92	+	(14.6)	—	—	+	+	白色粒子、雲母、やや粗		
120	+	93	+	(17.2)	—	—	+	+	白色粒子、雲母、やや粗		
120	+	94	+	(13.0)	—	—	+	+	白色粒子、雲母、やや粗		
120	+	95	+	(14.4)	—	—	S字口縁、外腹側位ハケメ後横位ハケメ	赤褐色	白・赤色粒子		
120	+	96	+	19.0	—	—	S字口縁、外腹新位ハケメ後横位ハケメ 内腹・指ナデ	淡茶褐色	白色粒子、雲母、やや粗		
120	+	97	+	14.0	—	—	S字口縁	灰褐色	白・赤色粒子		
120	+	98	台付甕	—	—	—	外腹・新位ハケメ後横位ハケメ 内腹・指ナデ	淡褐色	やや粗		
120	+	99	+	—	10.5	—	外腹・新位ハケメ 内腹・指ナデ、脚部折り返し	淡茶褐色	赤色粒子		
120	+	100	+	—	8.4	—	+	+	白・黒色粒子、雲母、粗		
120	+	101	+	—	8.0	—	+	+	白色粒子、雲母、やや粗		
120	+	102	+	—	9.3	—	+	+	白・黒色粒子、雲母、粗		
120	+	103	+	—	9.3	—	+	+	白・黒色粒子、雲母、粗		
120	+	104	+	—	8.6	—	+	+	赤色粒子、雲母		
120	+	105	+	—	—	—	外腹・新位ハケメ 内腹・指ナデ	淡茶褐色	やや粗		
120	+	106	+	—	7.7	—	外腹・新位ハケメ 内腹・ハケメ 指ナデ 脚部折り返し	茶褐色	白・赤色粒子、雲母、粗		
120	+	107	+	—	8.0	—	内腹・指ナデ 脚部折り返し	橙褐色	白・赤色粒子、やや粗		
121	+	108	甕	35.2	8.5	37.4	内外腹・ハケメ	淡茶褐色	白・赤・黒色粒子	胎土分析試料 14	
121	+	109	+	—	36.0	—	外腹・新位ハケメ後横位ハケメ 内腹・指ナデ	暗褐色	白・赤色粒子、雲母、やや粗	胎土分析試料 8・18	
121	+	110	+	(16.3)	(4.0)	24.7	外腹・ハナナデ 内腹・ハナナデ ハケメ	素褐色	白・赤色粒子、やや粗		
121	+	111	高坏	19.2	—	—	内外腹・ミガキ	淡茶褐色	白・赤色粒子		
121	+	112	+	—	20.0	13.0	13.0 外腹・ミガキ 内腹・ミガキ 指位部 折れ折り返し	淡茶褐色	+	脚部貫通孔	
121	+	113	+	—	13.6	10.6	10.1 内外腹・ミガキ	橙褐色	赤色粒子、やや粗		
121	+	114	+	—	21.9	15.9	15.7 外腹・ミガキ 内腹・ミガキ 脚部ヘナナデ	茶褐色	白・赤色粒子、雲母	脚部貫通孔	
121	+	115	+	—	22.2	15.6	15.0 外腹・ミガキ 内腹・ミガキ	+	赤色粒子	+	
121	+	116	+	—	—	23.6	— 外腹・ミガキ 内腹・ヘナナデ	淡茶褐色	赤色粒子、雲母	+	
122	+	117	器台	19.9	—	—	内腹・ミガキ	茶褐色	赤色粒子、やや粗	器底～脚部貫通孔 脚部受中央孔 胎土分析試料 9	
122	+	118	+	—	9.6	(12.3)	9.5 外腹・ミガキ ヘナナデ 指位底	+	赤色粒子	脚部受中央孔・脚部貫通孔	
122	+	119	+	—	—	13.2	— 外腹・ミガキ ヘナナデ	+	赤色粒子、やや粗	+	
122	+	120	+	—	—	— 外腹・ミガキ 指位底	橙褐色	白色粒子	脚部受中央貫通孔		
122	+	121	+	—	9.4	—	— 外腹・ミガキ 内腹・ミガキ	+	赤色粒子、雲母	脚部受中央・脚部貫通孔	
122	+	122	高坏?	—	—	13.0	— 内外腹・焼毛のため不明	淡茶褐色	赤色粒子	脚部貫通孔	
122	+	123	有孔鉢	16.5	3.5	9.0 外腹・ナデ 内腹・指位底	淡茶褐色	やや粗	底部中央貫通孔		
122	+	124	+	—	14.7	3.1	6.5 外腹・ハナナデ ヘナナデ ハラナデ	赤褐色	赤色粒子	+	
123	OGG-20	1	甕	20.0	—	— 外腹・口縁底 脊部底 佛狀浮文 内腹・指位底	+	白・赤色粒子、やや粗			
123	OGK-11	2	+	—	24.0	—	— 内腹・ミガキ	茶褐色	赤色粒子、雲母		

(法量の単位はcm、-は計測不能()は推定値)

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	高さ	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
123	01P - 10	3	壺	30.0	-	-	口部 刻目 内外面 ミガキ	茶褐色	白色粒子、やや粗	
123	07H - 02	4	+	(14.0)	-	-	外面 口唇部 有段部 刻目	淡茶褐色	白色粒子、やや粗	
123	07J - 07	5	+	(13.3)	-	-	外面 硬化 色塊 ハケメ	*	白色粒子、やや粗	
123	01N - 09	6	+	(39.8)	-	-	口部 剥離 刻目 内外面 ミガキ	茶褐色	白色粒子、雲母	
123	06F - 19	7	+	(13.6)	-	-	外面 口唇部 剥離 段階状 ハケ	赤褐色	白色粒子、やや粗	
123	01N - 08	8	+	(18.2)	-	-	外側 口唇部 横文 内底洋文	深茶褐色	白色粒子、雲母	
123	07H - 04	9	+	-	-	-	外底 ミガキ 内底 ハケメ 指揮痕	淡茶褐色	白色粒子、やや粗	
123	16D - 18	10	壺?	(14.0)	-	-	外面 口唇部 剥離	茶褐色	白色粒子	
123	01O - 11	11	甕	(16.1)	-	-	外面 口唇部 剥離 ハケメ 内底 廃棄物のため不明	赤褐色	白色粒子、やや粗	
123	01O - 10	12	+	(18.2)	-	-	外面 口唇部 剥離	茶褐色	白色粒子	
123	01P - 09	13	+	(21.0)	-	-	外面 口唇部 剥離 頭部ハケメ 内底 ハナダ	淡茶褐色	白色粒子、雲母、鐵	
123	01O - 10	14	+	(22.5)	-	-	外面 口唇部 剥離	茶褐色	白色粒子、雲母	
123	01Q - 07	15	+	(19.0)	-	-	外面 口唇部 剥離 段階状 指揮痕 内底 ハケメ	茶褐色	白色粒子、雲母	
123	出土地点不明	16	+	(14.4)	-	-	内底 ハケメ 外底 口唇部 剥離 段階状 指揮痕 内底 ハナダ	淡茶褐色	白色粒子、雲母、鐵	
123	07G - 02	17	+	14.3	-	-	内底 ハケメ 外底 口唇部 剥離 段階状 指揮痕 内底 ハナダ	茶褐色	白色粒子、雲母、鐵	
123	01S - 13	18	+	(15.8)	-	-	*	淡茶褐色	白色粒子、雲母、鐵	
123	07H - 04	19	+	19.4	-	-	外面 口唇部 剥離 ハケメ 内底 ハケメ 指揮痕	暗茶褐色	白色粒子、雲母	
123	06D - 19	20	+	14.0	-	-	外面 ハナダ 内底 指揮痕	赤褐色	白色粒子、雲母	
123	06C - 17	21	甕	9.4	-	-	外面 ミガキ 内底 口唇部ミガキ 頭部指揮痕	茶褐色	白色粒子、雲母	外表面全周、内底頭部まで赤色塗彩
123	07I - 03	22	+	5.2	-	-	外面 廃棄物のため不明 内底 ミガキ 指揮痕	*	白色粒子、雲母	
123	07H - 02	23	器台	9.0	-	-	外面 ミガキ 内底 廃棄物のため不明	赤褐色	*	器台中央・脚部穿孔
123	01S - 14	24	鉢	9.5	2.0	3.5	内外面 廃棄物のため不明	淡茶褐色	白色粒子	
123	07I - 04	25	+	(11.0) (4.4)	-	-	内外面 ミガキ	*	白色粒子、雲母、鐵	
123	01N - 09	26	+	13.8	3.4	5.6	内外面 廃棄物のため不明	赤褐色	白色粒子、やや粗	
123	01S - 13	27	+	-	-	-	内外面 ミガキ	淡茶褐色	白色粒子、雲母、鐵	赤色色彩

第4表 I b 区出土遺物観察表

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	高さ	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
124	16号住居	1	壺	-	(12.8)	-	外面 ミガキ	淡茶褐色	小穂、粗	
124	1号土坑	1	+	9.0	5.8	19.1	外面 ミガキ 内底 漆黒までミガキ	赤褐色	白色粒子、雲母	外表面全周 内底頭部まで赤色塗彩
124	*	2	+	-	(8.8)	-	外面 ミガキ 内底 ハケメ	淡茶褐色	やや粗	
124	*	3	甕	(15.0)	-	-	口部 削離 ハケメ	茶褐色	*	
124	*	4	鉢	11.4	-	-	外面 ミガキ 内底 黒部ミガキ 頭部ハナダ	淡茶褐色	やや粗	
124	*	5	台付甕	-	8.5	-	内外面 ハケメ	橙褐色	*	
124	*	6	+	-	8.5	-	*	淡茶褐色	白色粒子、雲母	
124	*	7	+	-	8.0	-	*	*	*	
124	*	8	高坏	23.8	-	-	内外面 ミガキ	*	白色粒子、雲母	
124	*	9	台付甕?	-	4.8	-	外面 ハケ後ハナダ	暗茶褐色	やや粗	
124	*	10	高坏	-	(10.8)	-	外面 ミガキ 内底 ハケ後ナダ	明褐色	*	脚部穿孔
124	*	11	+	-	-	-	内外面 廃棄物のため不明	暗茶褐色	白色粒子、やや粗	*
124	9号溝	1	壺	-	2.0	-	外面 ハナダ ミガキ	淡茶褐色	白色粒子	脚部穿孔
124	*	2	+	15.0	-	-	外面 廃棄物のため不明 内底 ミガキ	*	白色粒子、雲母	

(法量の単位はcm、-は計測不能()は推定値)

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
124	9号窓	3	壺	-	-	-	外面 狹口器突尖 内外面 ミガキ	淡茶褐色	白色粒子	
124	*	4	*	8.9	-	-	内外面 磨耗のため不明	茶褐色	白色粒子、雲母	
124	*	5	壺	(19.6)	-	-	S字口縁、外面側位ハケメ後横位ハケメ 内面 狹口器突尖 ハナデ	淡茶褐色	*	
124	*	6	壺?	(26.3)	-	-	外面 窄口にハケメ 内面 ミガキ	*	白・赤色粒子、雲母、密	
124	*	7	器台	-	11.7	-	外面 ミガキ 内面 ミガキ	*	白色粒子	器受部中央・脚部貫通孔
124	*	8	*	-	(10.0)	-	内面 ミガキ	*	白・赤色粒子、青	*
124	*	9	高坏	-	6.0	-	-	橙褐色	白・赤色粒子	脚部貫通孔
124	*	10	手輪式土器	-	-	-	外面 脚部に凸筋、下平ハケメ 内面 直腹底	淡茶褐色	白・赤色粒子、小環	
125	OBL-07	1	壺	(23.0)	-	-	口横部 内外面 磨耗状工具 矢羽文 横挫文 狹口器	*	白・赤色粒子	
125	OBL-02	2	*	15.8	-	-	外面 ハケメ ミガキ 内面 低腹底	赤褐色	白・赤色粒子、やや粗	
125	OBL-07	3	*	-	8.5	-	外縁 窄口に凸筋刺突 脚部横挫痕状文	茶褐色	白・赤色粒子、雲母、やや粗	
125	OBL-07	4	壺	(16.4)	-	-	S字口縁、外面 側位ハケメ 後横位ハケメ、内面 ハラナデ	褐色	白色粒子、やや密	
125	OBL-08	5	*	(15.4)	-	-	S字口縁、外面 側位ハケメ 後横位ハケメ、内面 磨耗状文 ハナデ ハケメ	淡茶褐色	白・赤色粒子、雲母、やや密	
125	OBL-09	6	*	(16.0)	-	-	S字口縁、外面 側位ハケメ 後横位ハケメ、内面 横挫文	橙褐色	白・赤色粒子、雲母、やや密	
125	OBL-07	7	*	(14.8)	-	-	S字口縁、外面 側位ハケメ 後横位ハケメ、内面 脚部横挫文	茶褐色	白色粒子、青	
125	OBL-08	8	*	(14.6)	-	-	外面 ハラナデ 内面 ハラナデ	赤褐色	白・赤色粒子、雲母、やや粗	
125	*	9	鉢	(11.4)	-	-	内外面 ハケメ	黑褐色	白色粒子、小連	
125	OBN-14	10	壺	(10.0)	-	-	内外面 磨耗のため不明	茶褐色	白色粒子	
125	OBL-02	11	高坏	12.4	-	-	外縁 窄口器 磨耗底 内外面 ミガキ	淡茶褐色	白・赤色粒子、やや粗	
125	OBL-06	12	*	(16.0)	-	-	内外面 ミガキ	橙褐色	赤色粒子、やや粗	
125	OBL-02	13	*	(6.0)	3.6	6.4	外縁 窄口器 磨耗底 脚部ヘラナデ 内面 脚部ハケメ	淡茶褐色	白・青・黒色粒子	
125	OBL-20	14	高坏?	7.0	5.8	3.6	外縁 ハケメ	*	白色粒子、雲母	
125	OBL-07	15	器台	-	-	-	外縁 ミガキ 脚部 橫挫 内外面 ハラナデ	淡茶褐色	赤色粒子、やや粗	器受部中央・脚部貫通孔
125	OBL-02	16	*	(8.2)	-	-	外縁 ミガキ	茶褐色	白色粒子、雲母	
125	OBN-04	17	*	8.7	(12.0)	8.1	外縁 ミガキ 内外面 ミガキ	*	白色粒子	器受部中央・脚部貫通孔
125	OBL-02	18	*	(8.6)	-	-	内外面 ミガキ	赤褐色	赤色粒子	器受部中央・脚部貫通孔
125	OBL-06	19	有孔鉢	(14.2)	4.6	7.2	内外面 ハケメ	茶褐色	やや粗	底部中央貫通孔

第5表 II区出土遺物観察表

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
126	II号住居	1	壺	-	-	-	外縁 ミガキ 内面 ハケメ	茶褐色	赤色粒子	
126	*	2	壺	16.2	-	-	外縁 ミガキ 内面 ハケメ ヘラナデ	淡茶褐色	*	
126	*	3	台付壺	-	11.8	-	内外面 ハケメ	*	白・赤色粒子	
126	*	4	鉢	8.0	4.2	4.5	内外面 ハケメ	茶褐色	赤色粒子、やや密	
126	12号住居	1	壺	-	14.6	-	外縁 ハケメ	淡茶褐色	やや密	
126	13号住居	1	*	-	5.4	-	外縁 ヘラナデ 内面 ハケメ	茶褐色	白色粒子、雲母	

第6表 II b区出土遺物観察表

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
126	17号住居	1	壺	-	(7.4)	-	外縁 磨耗のため不明 内面 ハケメ	灰褐色	やや粗	
126	*	2	*	-	(8.0)	-	外縁 ミガキ 内面 ハケメ	茶褐色	*	

(法量の単位はcm、-は計測不能()は推定値)

井戸番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	高さ	技法・形態の特徴	色調	岩土	備考
126	17号住居	3	甕	(19.2)	-	-	S字口縁、外腹内壁直角、外唇 斜面ハケメ後燒 足ナラフ、内腹 脊部折り返し	暗褐色	やや粗	
126	*	4	*	(14.0)	-	-		明褐色	やや密	
126	*	5	*	(9.2)	-	-	S字口縁、外腹内壁ハケメ後燒成ハケメ	*	粗	
126	*	6	台付甕	-	(9.8)	-	外唇 ハラフ 内腹 ハケメ 折ナダ 腰部折り返し	黄褐色	やや密	
126	*	7	*	-	8.0	-	外唇 ハケメ 内腹 腰部折り返し	茶褐色	やや粗	
126	*	8	高坏	26.2	-	-	内外面 ミガキ	*	やや密	
126	*	9	(低地)(腰輪)(厚さ) 底石 17.0 (2.8) (厚さ) 7.8	-	-	-			重さ 3250g 石材 砂岩	
126	18号住居	1	甕	12.8	-	-	内外面 ハケメ	赤褐色	やや密	
126	*	2	*	-	12.0	-	内外面 磨耗のため不明	淡茶褐色	粗	
126	*	3	甕	(14.8)	-	-	外唇 ハケメ 内腹 ハケメ 滑擦痕	赤褐色	白・赤色粒子、や や密	
126	*	4	*	-	-	-	外唇 ハケメ 内腹 ハラナダ	茶褐色	白・赤色粒子	
126	*	5	甕?	(9.2)	-	-	外唇 ハケメ 内腹 滑擦痕	茶褐色	赤色粒子、小理 密	
126	*	6	台付甕	-	10.8	-	外唇 ハラナダ 内腹 ハケメ	淡茶褐色	白・赤色粒子、や や密	
126	*	7	*	-	(8.0)	-	内外面 ハケメ	淡褐色	密	
126	*	8	*	-	(7.4)	-	内外面 磨耗のため不明	茶褐色	やや粗	
126	*	9	甕	10.0	4.2	5.3	*	赤褐色	赤色粒子、密	
126	*	10	手造泥土器	-	-	-	口縁 制作凸窓 内外面 ハケメ	淡茶褐色	やや粗	
127	20号住居	1	甕	8.6	3.6	14.5	外唇 ミガキ ハラナダ 内腹 滑擦痕	淡褐色	赤色粒子	
127	*	2	台付甕	13.6	6.6	21.9	外唇 ハケメ 内腹 口縁部 ハケメ 指ナダ	淡褐色	白・黒色粒子、書 は、やや粗	
127	*	3	*	14.7	-	-	外唇 ハケメ 内腹 ハラナダ	淡褐色	白・赤色粒子、雪 月	
127	*	4	*	17.4	9.2	29.6	*	*	*	
127	*	5	高坏	20.0	-	-	内外面 ミガキ	淡茶褐色	白・赤・黒色粒子、 蓋	
127	*	6	*	15.5	10.0	9.0	内外面 磨耗のため不明	茶褐色	赤色粒子	
127	21号住居	1	台付甕	17.0	12.2	28.0	S字口縁、外腹 内腹 腰部折り返し	淡茶褐色	赤	
127	*	2	高坏	11.4	6.1	6.5	内外面 ミガキ ハナメ	黄灰色	黑色粒子、小理 密	
127	4号土坑	1	甕	14.0	-	-	S字口縁、外腹内壁ハケメ 内腹 ハナダ	淡茶褐色	白・赤・黒色粒子、 やや粗	
127	*	2	*	16.3	-	-	外唇 口縁部折り返し ハナメ 内腹 ハラナダ	淡茶褐色	白・黒色粒子、雪 月	
128	OBH-13	1	甕	(15.4)	-	-	外唇 口縁部 廓型輪 構造文 ハケ 内腹 ミガキ	高褐色	白色粒子、密	赤色微影
128	OBH-14	2	*	(8.0)	-	-	*	赤褐色	白・赤・黒色粒子、 蓋	*
128	OBG-16	3	*	(12.0)	-	-	外唇 磨耗のため不明 内腹 順滑状工具 残羽文 ミガキ	淡茶褐色	白色粒子、雪 月	
129	OBH-14	4	*	17.6	-	-	内外面 磨耗のため不明	赤褐色	白・赤色粒子、粗	
128	OBG-14	5	*	(11.2)	-	-	外唇 ミガキ 内腹 磨耗のため不明	*	白色粒子、雪 月	外赤色微影
128	OBK-14	6	甕	(15.0)	-	-	S字口縁、外腹 脊部ハケメ後焼成ハケ メ 内腹 脊部ハケメ	淡茶褐色	赤色粒子	
128	OBF-15	7	*	(15.0)	-	-	S字口縁、外腹 脊部ハケメ後焼成ハケ メ 内腹 脊部ハケメ	*	白・黒色粒子、や や粗	
128	OBH-13	8	*	(14.0)	-	-	S字口縁、外腹 脊部ハケメ後焼成ハケ メ 内腹 脊部ハケメ	褐色	白・赤色粒子、密	
128	*	9	*	(13.4)	-	-	S字口縁、外腹 脊部ハケメ後焼成ハケ メ 内腹 脊部ハケメ	淡茶褐色	白・黒色粒子、雪 月	
128	OBH-15	10	*	(14.8)	-	-	S字口縁、外腹 脊部ハケメ後焼成ハケ メ 内腹 脊部ハケメ	淡褐色	白・赤色粒子、や や粗	
128	OBH-13	11	*	(11.6)	-	-	S字口縁、外腹 脊部ハケメ後焼成ハケ メ 内腹 脊部ハケメ	明褐色	白・赤色粒子、密	
128	OBH-13	12	*	(20.3)	-	-	*	被陶色	白・赤・黒色粒子、 蓋	
128	OBG-14	13	*	(17.2)	-	-	外唇 口縁部ナラフ ハケメ 内腹 順滑状	淡茶褐色	白・赤色粒子、や や粗	
128	OBK-14	14	*	(25.4)	-	-	折り返し口縁 外腹 ハケメ 内腹 順滑状	褐色	粗	
128	OBH-17	15	高坏	12.7	8.0	10.7	外唇 ミガキ ハケメ 内腹 ミガキ ハケメ 脊部 滑擦痕	淡茶褐色	白・赤・黒色粒子、 蓋	

(法量の単位)はcm、一は計測不能()は推定値

桝固番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
128	08J - 15	16	高環	—	(21.2)	—	外腹 ミガキ 内腹 槌打により不明	茶褐色	密	脚部貫通孔
128	08G - 14	17	鉢	(10.6)	4.7	4.3	内外腹 ミガキ	*	赤色粒子	
128	08H - 13	18	*	9.2	2.8	4.5	内外腹 槌打のため不明	淡茶褐色	赤・黒色粒子	

第7表 III区出土遺物観察表

桝固番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
129	13号住居	1	壺?	(20.6)	—	—	手裏落口 内腹 ハケメ	暗褐色	やや粗	
129	14号住居	1	壺	16.8	6.5	(32.0)	外腹 口唇落付 唇起ハケメ 脚部ヘラナデ 内腹 口持部 ヘラナデ 指痕痕	茶褐色	黑色粒子、やや粗	粘土分析試料4
129	*	2	*	(14.0)	—	—	内外腹 槌打のため不明	淡茶褐色	白・赤色粒子、雲母、やや粗	
129	*	3	*	(16.0)	—	—	*	*	やや粗	
129	*	4	*	—	4.4	—	内外腹 ヘラナデ ハケメ	茶褐色	やや粗	
129	*	5	*	—	(5.6)	—	外腹 ヘラナデ	暗褐色	*	
129	*	6	*	—	(9.8)	—	内外腹 槌打のため不明	淡茶褐色	*	
129	*	7	壺	(17.8)	—	—	S字口縁、外腹口唇部内腹唇起 唇起ハケメ 唇起ナデ 内腹 指痕痕	暗茶褐色		粘土分析試料5
129	*	8	*	(19.6)	—	—	S字口縁、外腹口縁下及び内腹前位ハケメ後横位ハケメ 唇起ナデ 内腹 指痕痕	暗褐色	やや粗	
129	*	9	*	(13.6)	—	—	S字口縁、外腹斜位ハケメ後横位ハケメ 内腹 ハラナデ	茶褐色	*	
129	*	10	台付壺	(11.6)	—	—	S字口縁、外腹斜位ハケメ後横位ハケメ 内腹 ハラナデ	*	白・赤色粒子、雲母、やや粗	粘土分析試料7
129	*	11	壺	(11.0)	—	—	S字口縁、外腹斜位ハケメ後横位ハケメ 内腹 ハラナデ	淡茶褐色	やや粗	
129	*	12	*	(15.0)	—	—	口唇部粗目 外腹 ハケメ	褐色	白色粒子	
129	*	13	台付壺	—	—	—	外腹 ハケメ 内腹 ヘラナデ	茶褐色	白色粒子、粗	
129	*	14	*	—	—	—	*	暗茶褐色	白色粒子、やや粗	
129	*	15	*	—	6.8	—	*	茶褐色	やや粗	粘土分析試料6
129	*	16	高環	(36.8)	(14.9)	23.0	外腹 ミガキ 内腹 环部 ミガキ 脚部ナデ	*	やや粗	脚部貫通孔、粘土分析試料5
129	*	17	*	(11.0)	—	—	内腹 坂部 指痕痕	赤褐色	白色粒子、やや粗	
129	*	18	器台	—	—	—	外腹 ミガキ	茶褐色	*	器受部中央 脚部貫通孔
129	*	19	高環	—	6.5	—	*	赤褐色	やや粗	
129	*	20	*	—	—	—	*	茶褐色	*	
129	*	21	*	—	6.6	—	外腹 ミガキ 内腹 ハラナデ	*	白色粒子、やや粗	脚部貫通孔
129	*	22	*	—	—	—	外腹 槌打のため不明 内腹 ナデ	暗褐色	褐色粒子、害	*
129	*	23	高環?	—	3.2	—	内外腹 指痕痕	茶褐色	やや粗	
129	*	24	壺	—	—	—	外腹 指痕痕	暗褐色	密	
129	15号住居	1	台付壺	—	—	—	外腹 ハケメ	淡茶褐色		
129	*	2	*	—	—	—	*	茶褐色	粗	
129	*	3	*	—	8.2	—	内外腹 ハケメ	淡茶褐色	小粒、やや害	
129	*	4	高環?	—	—	—	外腹 ミガキ 内腹 ハケメ後ナデ	淡茶褐色	白色粒子、害	脚部貫通孔
129	*	5	台付壺	—	—	—	外腹 ハケメ	茶褐色	白色粒子、やや粗	
129	*	6	*	—	—	—	外腹 ハケメ 内腹 脚部台 雪ナデ	淡茶褐色	やや粗	
129	*	7	鉢	(13.0)	(5.0)	5.8	内外腹 ミガキ	茶褐色	赤色粒子、小粒、粗	
129	16号住居	1	壺	—	—	—	内外腹 槌打のため不明	*	小粒、害	
129	*	2	*	—	(10.2)	—	*	暗褐色	小粒、粗	底部外腹木葉痕
129	*	3	*	—	5.6	—	外腹 ヘラナデ	淡茶褐色	白色粒子	
129	17号住居	1	*	—	10.5	—	外腹 ミガキ	*	小粒、粗	

(法量の単位はcm、-は計測不能()は推定値)

標識番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
130	18号住居	1	壺	-	(9.0)	-	外面 ハケメ	淡茶褐色	白色粒子	
130	*	2	*	-	(7.2)	-	内外面 磁化のため不明	*	粗	
130	*	3	壺	(11.0)	-	-	S字口縁 口唇各小穴鋸歯状 内面斜面ハケメ後側面ハケメ 内面 斜面ハケメ 表ナダ	淡茶褐色	やや粗	
130	*	4	*	(17.0)	--	-	S字口縁 外面鋸歯状ハケメ後側面ハケメ 内面 指ナダ	暗褐色	白色粒子、雲母	
130	*	5	*	(26.0)	-	-		暗茶褐色	白色粒子、やや密	
130	*	6	台付壺	19.0	10.0	28.7	外面 ハケメ 内面 ハケメ 指痕	淡茶褐色		
130	*	7	*	13.3	7.6	19.5	外面 ハケメ 内面 ハケメ 表ナダ	茶褐色	白色粒子、密	
130	*	8	*	-	7.0	-	外面 ハケメ 内面 鋸歯状 折り返し	暗褐色	白色粒子	
130	*	9	高壺	13.6	9.7	10.0	外面 ミガキ 内面 ミガキ ハケメ	淡茶褐色	小粒、やや密	開部貫通孔
130	*	10	器台?	-	11.0	-	外面 ミガキ 内面 ハケメ	暗褐色	白色粒子	*
130	*	11	高壺	-	7.2	-	内外面 磁化のため不明	暗褐色	*	
130	*	12	器台	-	-	-	*	黄褐色		器受部貫通孔
130	*	13	鉢	11.6	5.5	5.0	内外面 ハケメ	暗褐色	白色粒子	
130	19号住居	1	壺	-	-	-	内外面 磁化のため不明	茶褐色	白・褐色粒子	
130	*	2	台付壺	-	11.0	-	内外面 ハケメ	灰褐色	やや粗	
130	*	3	*	-	-	-	*	暗褐色	白色粒子	
130	*	4	高壺	-	-	-	内外面 磁化のため不明	淡茶褐色	白色粒子、粗	開部貫通孔
130	22号住居	1	壺	-	8.4	-	外面 ミガキ 内面 磁化のため不明	淡茶褐色	小粒、やや密	
130	*	2	*	-	12.2	-	内外面 ミガキ	明褐色	やや粗	
130	*	3	*	(9.8)	-	-	外面 ハケメ ヘラナダ 内面ハケメ 指痕	淡褐色	やや密	
130	*	4	*	(17.4)	-	-	口縁部 槌状浮立 内外面 ハケメ 内面 磁化ミガキ	淡褐色	白色粒子	
130	*	5	壺	-	7.6	-	外面 磁化のため不明 内面 ハケメ	淡茶褐色	やや密	
130	*	6	*	(18.4)	-	-	折り返し口縁 外面 ハケメ	*	小粒、やや密	
130	*	7	壺	(17.6)	-	-	S字口縁 外面斜面ハケメ後側面ハケメ 内面 磁化ハケメ 表ナダ	*	粗	
130	*	8	*	(10.2)	-	-	S字口縁 外面斜面ハケメ後側面ハケメ 内面 磁化ハケメ	暗褐色	密	
130	*	9	*	(12.0)	-	-	S字口縁 外面斜面ハケメ 内面 指ナダ	茶褐色	*	
130	*	10	台付壺	-	9.2	-	外面 ハケメ 内面 指ナダ 開口部 折り返し	暗褐色	白色粒子、雲母、 やや粗	
131	*	11	*	17.0	-	-	外面 ハケメ ミガキ 内面 ハケメ ミガキ	茶褐色	白色粒子、やや密	
131	*	12	*	17.0	-	-	外腹 口唇斜削面 ハケメ 内面 ハケメ ミナダ 指痕	淡茶褐色	白色粒子	
131	*	13	壺?	(11.6)	-	-	外腹 ハケメ 内面 ハケメ ヘラナダ	暗茶褐色		
130	*	14	台付壺	-	-	-	外腹 ハケメ 指ナダ	茶褐色	やや粗	
131	*	15	*	-	8.4	-	内外面 ハケメ	淡茶褐色	やや密	
131	*	16	*	-	-	-	外腹 ハケメ 内面 ハケメ ヘラナダ	暗褐色	白色粒子	
131	*	17	器台?	-	-	-	外腹 ハケメ 内面 ハケメ ヘラナダ	淡茶褐色	白色粒子、雲母	開部貫通孔
131	*	18	鉢	-	-	-	内外面 ミガキ	*	やや密	赤色色彩
131	*	19	*	11.4	3.8	5.2	外面 ハケメ	茶褐色	白色粒子、やや粗	
131	*	20	*	(13.6)	(5.2)	9.0	外腹 ミガキ 内面 口縁部 ミガキ 指痕 ヘラナダ 指痕	*	密	
131	*	21	手培形土器	-	4.6	14.7	外腹 斜面凸部ハケメ 背面下部破損 内面 磁化ハケメ	淡茶褐色	白色粒子	胎土分析試料 21
131	*	22	13号住居	-	-	-	外腹 磁化のため不明 内面 ナダ	淡茶褐色	白色粒子、やや密	
131	*	2	*	-	(6.8)	-	外腹 ヘラナダ	淡茶褐色	小粒、密	
131	*	3	*	-	(6.4)	-	内外面 ミガキ	明褐色	白色粒子、やや粗	外腹赤色色彩
131	*	4	壺	(16.2)	-	-	S字口縁 口唇部斜削突 外腹斜面ハ ケメ後側面ハケメ 内面 磁化ハケメ	淡茶褐色	赤色粒子、密	

(法量の単位はcm、ーは計測不能（ ）は推定値)

博団番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
131	23号住居	5	甕	(13.4)	—	—	S字口縁 両面針付ハケメ後継付ハケメ	茶褐色	粗	
131	+	6	+	(18.8)	—	—	外腹 ハケメ 指腹直 ヘラナダ	淡茶褐色		
131	+	7	+	(15.8)	—	—	外腹 ハケメ	*	小粒、やや密	
131	+	8	台付甕	—	9.4	—	外腹 ハケメ 指腹直	淡茶褐色	小粒、粗	
131	+	9	甕	(16.6)	—	—	内外腹 ハケメ	暗茶褐色	*	
131	+	10	+	(27.4)	—	—		淡褐色	やや粗	
131	+	11	高坏	—	10.4	—	外腹 えぎき 内腹 ヘラナダ	淡茶褐色	やや密	器部貫通孔
131	+	12	鉢	(9.2)	(2.4)	6.8	内外腹 ハケメ	*	赤色粒子、密	
131	+	13	+	(5.2)	—	—	内腹 指腹直	茶褐色	白・褐色粒子、粗	
132	25号住居	1	壺	(14.0)	—	—	折り返し縫 腹内付 着火のため不明	暗灰褐色	白色粒子	口縁部分孔
132	+	2	+	—	(12.0)	—	内外腹 着火のため不明	淡茶褐色	粗	
132	+	3	甕	13.6	—	—	S字口縁 外腹 新付ハケメ後継付ハケメ 内腹 信子ナダ	暗茶褐色	白色粒子、やや粗	
132	+	4	+	—	—	—	S字口縁 外腹 新付ハケメ後継付ハケメ	暗褐色	器母、やや密	
132	+	5	+	(10.8)	—	—	S字口縁 外腹 新付ハケメ後継付ハケメ 内腹 信子ナダ	淡褐色		
132	+	6	甕?	(16.2)	—	—	外腹 ハケメ	淡茶褐色	白色粒子	
132	+	7	鉢	(10.4)	—	—	内外腹 着火のため不明	*	黒・褐色粒子、小粒	
132	+	8	器台	(9.4)	—	—	*	*		
132	28号住居	1	壺	—	—	—	外腹 着火のため不明 内腹 指腹直	暗褐色	褐色粒子、密	
132	+	2	+	—	—	—	外腹 通舷刺突、横筋文	淡茶褐色		
132	+	3	台付甕	—	—	—	外腹 ハケメ 内腹 ヘラナダ	暗茶褐色	やや粗	
132	+	4	+	—	—	—	外腹 着火のため不明 内腹 ヘラナダ	灰褐色	褐色粒子、やや粗	
132	+	5	高坏	—	—	—	外腹 えぎき 内腹 片縫えぎき 指腹ハケメ	茶褐色	白色粒子	器部貫通孔
132	+	6	高坏?	—	(6.8)	—	外腹 えぎき	灰褐色	*	
132	+	7	器台	—	—	—	*	茶褐色	密	器受部中央・器部貫通孔
132	+	8	鉢	12.0	—	—	内腹 指腹直 ハケメ	暗褐色	赤色粒子	
133	08J-03	1	壺	(10.0)	—	—	外腹 口縁状浮出、凸筋、横筋、断面 刻突えぎき 内腹 えぎき	茶褐色	白色粒子、器母、赤色色彩 裏面	外腹全体内口縁部 赤色色彩 裏面孔
133	08G-10	2	+	—	—	—	外腹 凸筋、横筋、断面 刻突えぎき	淡茶褐色	赤色粒子、密	
133	08J-02	3	+	—	—	—	外腹 横筋 横曲文	*	白色粒子、器母、密	
133	+	4	+	—	—	—	*	*	赤色粒子、密	
133	08J-03	5	+	—	—	—	外腹 横筋 刻突文	*	*	
133	08J-05	6	+	—	—	—	外腹 横筋横曲文、波状文 内腹 指腹直 ハケメ	赤褐色	白・赤色粒子、器母、やや粗	
133	08J-03	7	+	(20.8)	—	—	内外腹 ミガキ	茶褐色	赤色粒子、やや密	
133	08G-04	8	+	(17.0)	—	—	外腹 ハケメ 指腹ミガキ	淡茶褐色	やや粗	
133	08J-07 08J-06	9	+	(15.4)	—	—	折り返し縫 外腹 口縁部 内腹 横筋文	*	粗	
133	08J-03	10	+	14.8	—	—	外腹 ハケメ 指腹直	赤褐色	赤色粒子、器母、 やや粗	
133	08G-08	11	+	13.0	—	—	外腹 口縁部横筋凹、断面焼付のため不 規則	茶褐色	赤色粒子、やや粗 器部脊孔 胎土分析試料1	
133	08G-04	12	甕	(13.8)	—	—	外腹 着火のため不明 内腹 ハケメ	灰褐色	白色粒子	
133	08J-03	13	+	(14.4)	—	—	外腹 口縁部側面縫合に残存	淡茶褐色	やや密	
133	08J-01 08J-02	14	+	(21.0)	—	—	S字口縁 口縁の背面突起、外腹斜付ハケメ後 継付ハケメ 内腹 斜面付ハケメ	暗茶褐色	雪母	
133	08J-03	15	+	(18.6)	—	—	*	*	白・赤色粒子器母、 やや粗	
133	08J-02	16	+	(18.0)	—	—	*	*	白色粒子、雪母、 密	
133	08J-04	17	+	(17.2)	—	—	S字口縁 口縁中段研究 外腹斜付ハケ メ 内腹無縫合ハケメ	淡茶褐色	粗	

(法量の単位はcm、ーは計測不能()は推定値)

標因番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	高さ	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
133	OBG-06	18	甕	(17.2)	—	—	S字口縁 口縁中段部ハケメ 内面 斜面 壁ハナテ 直ナナ	淡茶褐色	粗	
133	OBJ-03	19	*	(16.0)	—	—	S字口縁 口縁中段部斜面ハケメ 内面 ハケメ 内面 斜面ハケメ 壁ナナ	淡褐色	白・赤色粒子、雲母	
133	*	20	*	(14.4)	—	—	*	暗茶褐色	粗	
133	OBJ-05	21	*	(17.5)	—	—	S字口縁 外面斜面ハケメ後横続ハケメ 内面 斜面ハケメ 壁ナナ	赤褐色	白・赤・黒色粒子、雲母	
133	*	22	*	(16.2)	—	—	*	暗茶褐色	*	
133	OBJ-03	23	*	(15.5)	—	—	*	茶褐色	白色粒子	
133	OBJ-09	24	*	(21.8)	—	—	S字口縁 外面斜面ハケメ後横続ハケメ 内面 指ナナ	淡茶褐色	白・赤色粒子、雲母、やや青	
133	OBJ-02	25	*	(16.0)	—	—	S字口縁 外面斜面ハケメ後横続ハケメ 内面 斜面ハケメ 壁ナナ	暗褐色	白色粒子、密	
133	OBH-04	26	*	(17.8)	—	—	S字口縁 外面斜面ハケメ 内面 指ナナ	赤褐色	白・赤・黒色粒子、雲母	
133	OBH-02	27	*	(19.6)	—	—	S字口縁 外面斜面ハケメ後横続ハケメ 内面 斜面ハケメ 壁ナナ	赤褐色	白・赤・黒色粒子、雲母	
133	OBJ-04	28	*	(15.8)	—	—	*	淡茶褐色	密	
134	OBJ-05	29	*	(20.0)	—	—	*	淡茶褐色	雲母	
134	OBJ-03	30	*	(16.9)	—	—	*	暗褐色	白色粒子	
134	OBJ-04	31	*	(16.4)	—	—	*	淡茶褐色	白・赤・黒色粒子、雲母	
134	OBG-06	32	*	(16.0)	—	—	*	黃褐色	白色粒子、密	
134	OBJ-04	33	*	(12.8)	—	—	*	淡茶褐色	白・赤色粒子	
134	*	34	*	(15.6)	—	—	S字口縁 外面斜面ハケメ後横続ハケメ 内面 指ナナ	*	白・赤・黒色粒子、雲母	
134	OBJ-03	35	*	(15.8)	—	—	*	*	粗	
134	OBJ-01	36	*	(19.6)	—	—	*	暗褐色	雲母	
134	*	37	*	(15.3)	—	—	*	暗褐色	白色粒子	
134	OBH-09	38	*	(12.6)	—	—	S字口縁 外面斜面ハケメ後横続ハケメ 内面 斜面ハケメ 壁ナナ	淡茶褐色	白・赤・黒色粒子、雲母	
134	OBH-04	39	*	(12.0)	—	—	S字口縁 外面斜面ハケメ後横続ハケメ 内面 指ナナ	暗褐色	白色粒子、雲母	
134	OBJ-06	40	*	(18.3)	—	—	S字口縁 外面斜面ハケメ 内面 指ナナ	*	白・赤色粒子、雲母、やや青	
134	OBJ-08	41	甕?	(11.4)	—	—	外底 ハケメ 内面 ハラナナ	淡茶褐色	赤・黒色粒子、雲母、やや青	
134	OBJ-03	42	甕	(21.3)	—	—	外底 U型部裂開縫	暗褐色	白色粒子	
134	OBH-06	43	*	(21.4)	—	—	*	暗褐色	白・赤・黒色粒子、雲母	
134	OBJ-01	44	*	(33.6)	8.0	(42.0)	外底 刻溝ハケメ後横続ハケメ	暗褐色	雲母	
134	OBJ-07	45	甕?	(22.2)	—	—	外底 頸部ハケメ 内面 ミガキ	暗褐色	雲母	
134	OBJ-02	46	甕	(17.0)	—	—	外底 頸部のため不明	淡茶褐色		
135	OBJ-03	47	*	(16.4)	—	—	外底 口付部 頸部 頸部ハケメ 内面 ハケメ ミガキ	淡茶褐色	やや青	
135	OBJ-04	48	*	(19.8)	—	—	内外底 ハケメ	淡茶褐色	粗	
135	OBJ-03	49	*	(14.0)	—	—	外底 ハケメ 内面 ハケメ 斜面痕	淡茶褐色		
135	*	50	甕?	17.4	—	—	外底 ミガキ 内面 横面痕	淡茶褐色	密	
135	*	51	甕	(6.2)	—	—	内外底 脱乳のため不明	暗褐色	白・赤色粒子	
135	OBH-03	52	*	(13.2)	—	—	*	*	白・赤色粒子、やや粗	
135	OBJ-03	53	高环	(15.4)	—	—	内外底 ミガキ	淡茶褐色	粗	
135	*	54	*	(20.0)	—	—	*	暗褐色	白・赤色粒子、やや粗	
135	*	55	*	—	13.0	—	外底 ミガキ	*	雲母	脚部貫通孔
135	OBG-04	56	*	17.7	14.3	15.9	外底 ハケメ後 ミガキ 内面 ハナナナ 壁頭痕 ミガキ	黃褐色	赤色粒子	脚部貫通孔
135	OBJ-03	57	*	(14.0)	—	—	外底 ミガキ 内面 环状ミガキ	淡茶褐色		脚部貫通孔
135	OBG-06	58	器台	9.4	(14.4)	8.2	外底 ミガキ	黃褐色	赤色粒子	腰受部中央・脚部貫通孔 船上分骨試料2
135	OBJ-04	59	*	7.4	10.3	8.4	外底 ミガキ	淡茶褐色	白・赤色粒子、雲母、やや粗	腰受部中央・脚部貫通孔

(法量の単位はcm、-は計測不能()は推定値)

埠岡番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
135	081-05	60	手捏土器	10.4	5.4	3.2	内外面 指揮痕	淡茶褐色		
135	080-04	61	鉢?	-	4.0	-	外面 斧削のため不明 内面 指揮痕	赤褐色	赤色粒子、やや粗	
135	+	62	有孔鉢	12.8	4.7	11.6	外面 ハケメ 内面 ハケメ 指揮痕	+	赤色粒子、粗	底部中央貫通孔
135	080-06	63	手捏土器	-	-	-	外面 凸唇	淡茶褐色	白・赤色粒子混入、 やや空	
135	081-02	64	底石	(長軸) 7.2	(短軸) 4.7	(厚さ) 1.3				重さ 80 g、石材、砂岩

第8表 IV区出土遺物観察表

埠岡番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
136	2号住居	1	壺	-	4.4	-	内面 指揮痕 ハケメ	茶褐色	小粒、やや密	
136	+	2	*	-	(8.2)	-	外面 ハケメ	淡茶褐色	やや密	
136	3号住居	1	高坏	(23.6)	-	-	外面 ハケメ	*	密	
136	4号住居	1	*	-	-	-	内外面 ミガキ	淡茶褐色	小粒、密	
136	5号住居	1	鉢	(9.6)	-	-	*	淡茶褐色	*	
136	+	2	壺?	-	5.5	-	外面 ハケメ	*	密	
136	+	3	壺	-	(10.0)	-	外面 ヘラナデ	*	小粒、粗	
136	+	4	台付壺	-	-	-	外面 ハケメ 内面 ヘラナデ	*	小粒、密	
136	+	5	高坏	(16.2)	(7.8)	10.6	外面 脚部ミガキ	茶褐色	小粒、粗	
136	6号住居	1	*	-	-	-	外面 ミガキ	淡茶褐色	*	
136	7号住居	1	片口鉢	10.0	2.8	12.6	内外面 ヘラナデ ミガキ	赤褐色	赤色粒子、墨、 密	
136	+	2	壺	(11.0)	-	-	口唇部削目 ハケメ ヘラナデ	茶褐色		
136	+	3	*	(17.2)	-	-	口唇部削目 外面ハケメ	淡茶褐色	墨母、やや密	
136	+	4	*	(21.8)	-	-	外腹 口唇部削目 ハケメ 内腹 ハケメ	暗灰褐色	密	
136	+	5	台付壺	(23.6)	-	-	外腹 ハケメ 内腹 ヘラナデ	茶褐色	やや密	脚部穿孔
136	+	6	壺台	8.0	6.8	8.0	外面 ヘラナデ	赤褐色	赤色粒子、密	器受部中央貫通孔
136	+	7	鉢	10.8	5.0	5.0	*	褐色	白・褐色粒子、や り粗	
137	8号住居	1	壺	-	-	-	外面 四形浮文	淡茶褐色	小粒、密	
137	+	2	壺?	-	5.4	-	外面 ハケメ	淡茶褐色	粗	
137	9号住居	1	壺	-	-	-	外面 ミキモ 内腹 ハケメ 指揮痕	*		外面赤色塗影
137	+	2	*	-	10.5	-	内外面 磨耗のため不明	白色粒子		
137	+	3	鉢	(9.0)	4.4	9.1	外腹 ヘラナデ 内腹 ミキモ	*		
137	+	4	壺?	-	(5.4)	-	内外面 磨耗のため不明 内腹 ハケメ	*	白色粒子	
137	+	5	壺	15.6	-	-	外腹 口唇部削目 ハケメ ヘラナデ 内腹 ミキモ	茶褐色		
137	+	6	*	14.4	-	-	外腹 口唇部削目 ハケメ 内腹 口唇部 ハケメ	褐色	小粒	
137	+	7	台付壺	-	11.0	-	内外面 ハケメ	淡茶褐色	白色粒子	
137	+	8	壺	-	-	-	内外面 磨耗のため不明	褐色		
137	10号住居	1	壺	(11.6)	5.5	14.9	外腹 ミキモ ハケメ 内腹 脱胎 指揮痕	淡茶褐色	小粒、やや粗	
137	+	2	壺	(14.0)	-	-	5丁口縁 口唇部剥落 外腹新旋ハケメ 内腹剥落ハケメ 内腹 剥落ハケメ	褐色		
137	+	3	*	(17.6)	-	-	5丁口縁 外腹剥落ハケメ 内腹 剥落ハケメ	*	墨母、やや粗	
137	+	4	*	(18.0)	-	-	5丁口縁	褐色	白色粒子、墨母	
137	+	5	台付壺	-	8.2	-	外腹 ハケメ 内腹 指揮痕 脚部折り返し	淡茶褐色	やや粗	
137	+	6	*	-	(10.0)	-	*	灰褐色	*	
137	+	7	*	-	-	-	内外面 ハケメ	*	黑色粒子	

(法量の単位はcm、-は計測不能 () は推定値)

発掘番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	高さ	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
137	10号住居	8	合付甕	-	8.0	-	内外面 ハケメ	灰褐色		
137	*	9	甕	9.4	-	-	内面 ミガキ	褐褐色	褐色粒子	
137	*	10	甕	(7.6)	3.0	4.0	内外面 着火のため不規	淡茶褐色		
137	11号住居	1	*	9.6	6.4	14.4	内外面 ハケメ ミガキ	赤褐色	赤色粒子	
137	*	2	甕	(19.8)	-	-	口唇部目 内外面 ハケメ	暗茶褐色	密	
137	*	3	*	(15.0)	-	-	外面 ハケメ	褐褐色	白・赤色粒子、粗	
137	*	4	*	-	-	-	内外面 ハケメ	褐褐色	やや密	
137	*	5	*	-	-	-	外面 ハケメ	淡茶褐色	*	
137	*	6	合付甕	-	(8.4)	-	外腹 ハケメ 腹部斜 ヘラナダ	赤褐色	白・赤色粒子、や や粗	
137	*	7	高環	-	-	-	内外面 着火のため不明	灰褐色	粗	脚部貫通孔
138	12号住居	1	甕	(23.0)	-	-	*	黄褐色		
138	*	2	*	(17.6)	-	-	外腹 ハケメ 腹部斜突 内腹 ハケメ	淡茶褐色	赤・黒色粒子	
138	*	3	*	-	-	-	内外面 着火のため不明	赤褐色	白・赤色粒子、密	
138	*	4	*	-	-	-	内外面 ハケメ	淡茶褐色	白・赤色粒子、粗	外面赤色彩
138	*	5	*	-	(9.1)	-	内外面 着火のため不明	褐褐色	粗	
138	*	6	*	-	(9.6)	-	外腹 着火のため不明 内腹 ハケメ	褐褐色	白・赤色粒子、密	
138	*	7	甕	(18.0)	-	-	S字口縁 外腹斜位ハケメ後横位ハケメ 内腹 斜腹横ハケメ	褐色	白色粒子、若母、 やや密	
138	*	8	*	(17.0)	-	-	*	淡褐色	赤色粒子、若母、 密	
138	*	9	*	(17.6)	-	-	*	黑褐色	白色粒子、若母、 やや粗	
138	*	10	*	(14.4)	-	-	S字口縁 外腹斜位ハケメ後横位ハケメ 内腹 ナダ	淡茶褐色	白・赤色粒子、密	
138	*	11	*	(23.4)	-	-	*	*	やや密	
138	*	12	*	(17.4)	-	-	S字口縁 外腹斜位ハケメ後横位ハケメ	褐色	白・赤・黒色粒子、 密	
138	*	13	*	(17.0)	-	-	S字口縁 外腹斜位ハケメ後横位ハケメ 内腹 ナダ	褐褐色	*	
138	*	14	*	(10.4)	-	-	S字口縁 外腹ハケメ	淡茶褐色	赤色粒子、やや密	
138	*	15	合付甕	-	-	-	外腹 ハケメ 内腹 斜腹部 斜傾板	褐褐色	粗	
138	*	16	*	-	12.0	-	外腹 ハケメ 内腹 斜腹部 斜傾板折り返し	*	密	
138	*	17	*	(8.2)	-	-	*	*		
138	*	18	甕	(16.6)	-	-	口唇部 新目 外腹 ハケメ 内腹 滑腹底 ヘラナダ	黄褐色	白・赤・黒色粒子、 やや密	
138	*	19	甕?	(11.8)	-	-	内腹 ハケメ	赤褐色	白・赤色粒子、若母、 粗	
138	*	20	合付甕	-	(8.0)	-	*	褐色	*	
138	*	21	*	-	7.0	-	外腹 ハケメ 内腹 斜傾板	褐褐色	赤色粒子、やや密	
138	*	22	*	-	6.4	-	*	暗茶褐色	やや密	
138	*	23	高環	(24.0)	-	-	外腹 ミガキ	淡茶褐色	白・赤色粒子、密	
138	*	24	*	(22.0)	-	-	内外腹 着火のため不明	褐褐色	小窓、やや密	
138	*	25	*	-	12.8	-	*	*	赤色粒子、密	
138	*	26	*	-	13.0	-	外腹 ミガキ ナダ	淡茶褐色	赤色粒子、小窓、 密	
138	*	27	器台	9.4	-	-	内外腹 着火のため不明	褐褐色	白・赤色粒子、粗	脚部貫通孔
138	*	28	*	(8.4)	-	-	*	*	*	
138	*	29	*	-	-	-	*	*	赤色粒子、密	
138	*	30	有孔鉢	-	-	-	外腹 ナダ	赤褐色	白・赤・黒色粒子、 密	底部中央貫通孔
138	*	31	熟成品	(長さ) 3.5 (幅大) 1.4	(幅さ) 1.4 (厚さ) 0.92	-	外腹 ヘラナダ 内腹 斜傾板	淡茶褐色		
139	13号住居	1	甕	-	-	-	外腹 ヘラナダ 内腹 斜傾板	淡茶褐色	小窓、やや密	

(法量の単位はcm、一は計測不能 () は推定値)

博函番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
139	13号住居	2	台付甕	14.4	8.2	21.5	S字口縁 外面削りハケメ後焼成ハケメ 内面 出ナデ 斜面部削り窓し	暗褐色 白色粒子、雲母、 やや粗	白色粒子、雲母、 やや粗	胎土分析試料 24
139	+	3	*	12.0	—	—	S字口縁 外面削りハケメ 内面 出ナデ	暗褐色 白色粒子、雲母、 粗	白色粒子、雲母、 粗	胎土分析試料 23
139	+	4	甕	10.3	—	—	S字口縁 外面削りハケメ 内面 出ナデ	赤褐色 白色粒子、雲母、 やや粗	白色粒子、雲母、 やや粗	胎土分析試料 22
139	+	5	台付甕	—	7.6	—	外縁 ハケメ 内面 剥落跡より返し 滴漏痕	淡茶褐色 白色粒子、雲母、 粗	白色粒子、雲母、 粗	—
139	+	6	甕	30.2	—	—	外縁削りハケメ後焼成ハケメ 内面 削ナデ	淡褐色 白色粒子、雲母、 粗	白色粒子、雲母、 粗	調部穿孔 胎土分析試料 26
139	+	7	高坏	21.4	14.7	14.2	外縁 削び 突き出 内面 削部 ハナダ	赤褐色 白色粒子、雲母、 粗	白色粒子、雲母、 粗	調部穿孔 胎土分析試料 25
139	+	8	鉢	7.1	4.0	6.1	外縁 ハラナダ 内面 指頭痕	暗褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、雲母、 粗	—
139	14号住居	1	高坏	(19.0)	—	—	内外面 ミガキ	茶褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 粗	—
139	+	2	甕	—	—	—	内面 ハケメ	淡茶褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 粗	—
139	+	3	鉢瓶	(長さ) 4.5 (幅さ) 1.8	(厚さ) 0.6	—	—	—	—	—
139	15号住居	1	甕	(15.6)	—	—	内外面 ミガキ	茶褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 粗	—
139	+	2	台付甕	—	9.6	—	外縁 ハケメ 内面 ハラナダ	暗褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 粗	—
139	+	3	手捏土器	2.6	3.0	5.0	内外面 ナデ 指頭痕	赤褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 粗	—
139	16号住居	1	甕	—	5.2	—	外縁 ハラナダ 内面 ミガキ ハラナダ	茶褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 粗	—
139	+	2	高坏	—	—	—	内面 ハケメ	赤褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 粗	—
139	17号住居	1	甕	—	(8.0)	—	内外面 慈燒のため不明	茶褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 粗	—
139	+	2	甕	—	—	—	内外面 ハケメ	淡茶褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 粗	—
140	5号清	1	甕	—	—	—	口縁部 横状浮文	淡茶褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 粗	—
140	+	2	*	—	3.0	—	内面 ハラナダ	* 黑色粒子、雲母	黑色粒子、 雲母	—
140	+	3	甕?	(27.6)	—	—	折り返し口縁 外面 指頭痕 ミガキ 内面 剥離ハケメ 剥離ミガキ	赤褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 雲母	—
140	+	4	甕	17.8	—	—	外縁 口唇部剥離 ハケメ 内面 ハケメ 指頭痕	淡茶褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 粗	—
140	+	5	*	(24.8)	—	—	外縁 口唇部剥離 ハケメ 内面 ミガキ	暗褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 雲母	一部縫合着
140	+	6	*	22.5	—	—	内外面 ハケメ	淡茶褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 粗	—
140	+	7	*	(14.0)	—	—	内外面 ハケメ 内面 13種部ハケメ 剥離ナデ	暗褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 雲母、 やや密	—
140	+	8	高坏	(24.4)	—	—	坏部 内面 横状文 横文	淡茶褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 粗	—
140	+	9	*	—	—	—	外縁 ミガキ 内面 ハケメ	暗褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 雲母	調部貫通孔
140	+	10	*	—	9.3	—	外縁 ミガキ	淡茶褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 雲母	*
140	+	11	*	—	(3.0)	—	外縁 ナデ後ミガキ 内面 ハラナダ	暗褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 雲母	—
140	+	12	高坏?	—	9.3	—	外縁 ミガキ ハラナダ 内面 ハラナダ	淡茶褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 雲母	—
140	+	13	有孔鉢	—	4.0	—	外縁 ハラナダ	淡茶褐色 白色粒子	白色粒子	底部中央貫通孔
141	07B-14 07F-16	1	甕	16.2	—	—	折り返し口縁 外面 指頭痕	暗褐色 白色粒子、 や 少	白色粒子、 雲母	—
141	07F-18	2	*	12.0	—	—	外縁口縁剥離削成工具 刺突 集落ハケメ 内面 剥離	淡茶褐色 白色、赤、黑色粒子、 粗	白色、赤、黑色粒子、 粗	—
141	07I-18	3	*	17.7	—	—	外縁部ハケメ 脊部剥離削成工具 刺突? 内面 ハケメ	淡褐色 白色、黑色粒子	白色、黑色粒子	—
141	07I-16	4	*	—	(6.0)	—	外縁ハケメ 内面 ハケメ 指頭痕	赤褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 雲母、 やや粗	—
141	07D-14	5	*	—	—	—	外縁 円形浮文 機接透抜文 ミガキ	淡茶褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 雲母、 粗	—
141	07A-10	6	*	(28.0)	—	—	口縁部 横状浮文 内面 折り返し	*	白色粒子、 雲母、 粗	—
141	07G-16	7	*	(21.4)	—	—	内外面 慈燒のため不明	灰褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 雲母、 粗	—
141	07I-18	8	*	(20.2)	—	—	内外面 ミガキ	赤褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 雲母、 粗	—
141	07F-16	9	*	(14.2)	—	—	外縁 ミガキ	淡茶褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 雲母、 粗	—
141	07H-15	10	*	(15.2)	—	—	外縁 剥離凸部ハケメ 内面 ハラナダ 剥離	淡茶褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 雲母、 粗	—
141	07I-19	11	*	(15.1)	—	—	外縁口縁剥離	暗褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 雲母、 粗	—
141	07B-08	12	*	(21.6)	—	—	外縁口縁剥離 横状浮文 剥離 内面 ハケメ	暗褐色 白色粒子、 粗	白色粒子、 雲母、 粗	—

(法量の単位はcm、ーは計測不能()は推定値)

標図番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	高さ	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
141	071-15 071-16	13	盞	(21.4)	—	—	外面 口縁部 條状文 楔凹線 内面 口縁部 條状文 極凹線	茶褐色	白・赤色粒子、小 母、青母、青	
141	076-12 076-13 076-15	14	+	30.2	—	—	外側口縁部 條状文 極凹線 内面 口縁部 條状文 ロコネ	淡茶褐色	白・赤色粒子、青	外側全体 内面底部まで 赤色変形
141	073-20	15	+	—	—	—	外側 口縁部 凸唇 線文 刺突 線文	淡黃褐色	白・赤色粒子、青 母、青	
142	07G-16	16	甕	(23.8)	—	—	S字口縁 口縁中間部突 外側斜面ハケメ 内面 ハラナ	淡茶褐色	白・赤色粒子、や や粗	
142	07C-14	17	+	(15.6)	—	—	S字口縁 口縁中間部突 外側斜面ハケメ 内面 ハラナ	淡褐色	白・赤色粒子、や や粗	
142	07A-4	18	+	(17.6)	—	—	S字口縁 口縁中間部突 外側斜面ハケメ 内面 ハラナ	淡茶褐色	白・赤色粒子、青 母、やや粗	
142	071-19	19	+	(16.0)	—	—	S字口縁 口縁中間部突 外側斜面ハケメ 内面 ハラナ	淡褐色	赤・青色粒子、青 母、やや粗	
142	07F-13	20	+	(15.8)	—	—	—	褐色	赤・黒色粒子、青 母、やや粗	
142	07H-17	21	+	19.4	—	—	—	赤褐色	赤・黒色粒子、青 母、やや粗	
142	07E-14	22	+	(16.6)	—	—	S字口縁 外側斜面ハケメ 極凹線 内面 ハラナ	淡褐色	赤色粒子、黄色	
142	071-18	23	+	16.4	—	—	—	+	白・赤・黒色粒子、 黄母	
142	07F-16	24	+	(15.8)	—	—	—	淡褐色	白・赤・黒色粒子、 やや粗	
142	07F-14	25	+	17.7	—	—	外側 タクナ? 内面 斜面	淡茶褐色	白・赤・黒色粒子、 やや粗	
142	07H-15	26	+	17.6	—	—	外側 ハケメ 内面 ハケメ 指痕痕	茶褐色	白・赤・黒色粒子、 やや粗	
142	07G-13	27	+	(12.6)	—	—	内外面 ハケメ	暗茶褐色	白・赤色粒子	
142	*	28	+	(17.4)	—	—	—	淡茶褐色	白色粒子	
142	07H-20	29	高杯	11.5	—	—	外側 ミガキ 内面 环部ミガキ 脊部ヨコハケ	茶褐色	粗	脚部貫通孔
142	07E-17	30	+	—	—	—	外側 海胆 條状文 内面外側 ミガキ	淡褐色	白色粒子、粗	*
142	071-18	31	+	—	11.6	—	外側 海胆 條状文 内面 ハケメ 指痕痕	淡茶褐色	白・赤・黒色粒子	*
142	07F-14	32	+	(24.0)	—	—	内外面 ミガキ	茶褐色	白色粒子	
142	071-20	33	+	(22.4)	—	—	外面 脚部ミガキ	+	粗	脚部貫通孔
142	071-18	34	+	(23.0)	—	—	外面 ミガキ	+	赤色粒子	
142	*	35	+	12.2	—	—	内面 环部ミガキ	茶褐色	白・黒色粒子、青 母、やや粗	
142	07E-05	36	+	12.8	—	—	外面 环部ミガキ	茶褐色	白・赤色粒子、や や粗	
142	071-18	37	+	9.4	—	—	外面 ミガキ 内面 脚部ミガキ	淡茶褐色	赤・黒色粒子、青 母、やや粗	
142	07G-18	38	+	(10.2)	—	—	外面 ミガキ	赤茶褐色		
142	071-20	39	+	—	—	—	内面 線文 線曲文	淡褐色	赤色粒子	
142	07F-15	40	+	—	—	—	—	暗赤褐色	+	
142	07E-14	41	器台	8.4	—	—	外側 ミガキ 内面 脚部ミガキ	茶褐色		脚部貫通孔
142	07E-16	42	+	7.8	12.8	7.7	外面 ミガキ	淡茶褐色	白色粒子、青 母、やや粗	器受部中央・脚部貫通孔
142	07B-11	43	器台?	—	—	—	内外面 線文 線行波線 ミガキ	茶褐色	赤色粒子、青	
142	071-20	44	鉢	(12.4)	—	—	外側 ミガキ 内面 黒斑までミガキ 指痕痕	淡茶褐色	+	
142	07C-09	45	盞	5.8	3.3	31.0	外側 ハケメ ヘラナ 内面 指痕痕	+	白・赤色粒子、や や粗	
142	071-20	46	鉢	(10.0)	—	—	内外面 ミガキ	+	赤色粒子、青	
142	07H-16	47	盞	8.4	3.4	7.1	外側 脊長のめづ明 内面 ハラナ 指痕痕	+	白色粒子、やや青	
142	07F-14	48	手造形土器	—	—	—	外側 ハケメ 凸唇 内面 雪頭痕	暗褐色	白・赤色粒子、青 母、やや青	
142	07G-14	49	磨石	(実驗) 9.5	(倒轉) 7.9	4.9	—	—	重さ 420 g、石材安山岩	

第9表 IVa区出土遺物観察表

標図番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	高さ	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
143	18号住居	1	盞	17.8	—	—	折り返し口絆 外側 ハケメ ミガキ 内面 ハケメ ヘラナ 指痕痕	淡茶褐色	青	外側全体 内面底部まで 赤色変形

(法量の単位はcm、一は計測不能（）は推定値)

辨別番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	柱法・形態の特徴	色調	胎土	備考
143	18号住居	2	壺	22.0	—	—	折り返し口縁 外面 ハケメ ヘラナデ 内面 ハケメ	淡茶褐色	白・赤色粒子、審	
143	+	3	+	(20.0)	—	—	折り返し口縁 外面 ハケメ	赤褐色		内外面 赤色彫形
143	+	4	+	(18.8)	—	—		+	白色粒子	
143	+	5	+	25.0	—	—	折り返し口縁 外面円形浮文 ミザキ 内面 円孔 剥離状・剥離状文施文	+		口縁部 円孔 外面 赤色彫形
143	+	6	+	—	—	—	外腹斜部 織維文円形浮文 斜行織維文 内腹 ヘラナデ	茶褐色	赤色粒子、審	
143	+	7	+	15.3	6.9	24.4	折り返し口縁 外面 剥離状文 ミザキ 縦波状文 浮文 内面 ハケメ	赤褐色	+	外腹全体 赤色彫形
143	+	8	+	—	—	—	外腹 織維横筋文 浮波状文 剥離文 内腹 剥離状	淡茶褐色	白・赤色粒子、小 塊、雲母、審	
143	+	9	+	—	—	—	外腹 織維波状文 織維文 円形浮文	茶褐色	粗	
143	+	10	+	17.6	8.0	17.6	折り返し口縁 外面 剥離状文 ミザキ 内腹 剥離状	淡茶褐色	赤色粒子	
143	+	11	+	(34.0)	—	—	折り返し口縁 外面 刻目 ミザキ 内腹 ハケメ ヘラナデ	褐色		
143	+	12	+	11.2	—	—	外腹 ミザキ	淡茶褐色	白色粒子、小塊、 やや粗	
143	+	13	+	(22.0)	—	—	内外面 ハケメ 指頭痕	+	白色粒子、やや審	
143	+	14	+	(11.6)	—	—	外腹 口縁部 削突 ヨコハケ	赤茶褐色	審	
143	+	15	+	—	—	—	外腹 口縁部 縱波状文 縦凹線	赤褐色		
143	+	16	+	—	—	—	外腹 口縁部 剥離縦波状 内腹 ヘラナデ	茶褐色		
143	+	17	+	—	—	—	外腹 ミザキ 内腹 剥離状	茶褐色	白色粒子	
143	+	18	+	—	—	—	外腹 ハケメ 内腹 剥離のため不明	茶褐色	小塊、やや審	
144	+	19	+	—	16.0	—	外腹 ハナデ ミザキ 内腹 ハハメ ハラナデ 剥離痕	淡茶褐色	粗	底部外面木素痕
144	+	20	+	—	—	—	外腹 ヨコハケ 内腹 ハハメ	淡褐色	白色粒子、審	
144	+	21	+	—	—	—	外腹 ミザキ 内腹 剥離状	茶褐色	白色粒子、小塊、 やや審	
144	+	22	+	(0.2)	7.0	16.1	外腹 ミザキ 内腹 織維ハケメ	暗茶褐色	白色粒子、審	
144	+	23	+	—	(5.6)	—	外腹 ミザキ	赤褐色	赤色粒子、雲母	
144	+	24	+	—	(8.0)	—	外腹 剥離のため不明 内腹 ミザキ	褐色		底部外面木素痕
144	+	25	+	—	10.0	—	内外面 剥離のため不明	淡茶褐色	粗	
144	+	26	+	—	9.0	—	内外面 ヘラナデ	茶褐色	白・赤色粒子、や や粗	
144	+	27	+	—	(14.9)	—	外腹 ハナデ ハケメ 内腹 ヨコハケ	茶褐色	粗	
145	+	28	堀	(20.8)	—	—	S字口縁 外面斜肩ハケメ 内面 剥離状ハケメ 傷ナデ	+	+	
145	+	29	+	(13.8)	—	—	S字口縁 外面斜肩ハケメ 後横筋ハケメ 内面 剥離状ハケメ 傷ナデ	+	赤色粒子、やや審	
145	+	30	+	(15.2)	—	—	S字口縁 外面斜肩ハケメ 後横筋ハケメ 内面 ヘラナデ	茶褐色	赤色粒子、雲母	
145	+	31	+	(9.2)	—	—	S字口縁 外面斜肩ハケメ	茶褐色	赤・黒色粒子	
145	+	32	+	(31.2)	—	—		+		
145	+	33	+	(21.0)	—	—	外腹 口縁部 圓凹線	褐色		
145	+	34	台付堀	20.0	10.8	29.1	外腹 口縫部 削目 ハケメ 内腹 ハラナデ 剥離痕 剥離痕ハケメ	赤褐色	白・赤・黒色粒子	
145	+	35	堀	(18.0)	—	—	外腹 口縫部 削目 ハケメ	淡茶褐色	白色粒子、やや審	
145	+	36	台付堀	(8.6)	—	—	内外面 剥離のため不明	+	小塊、やや審	
145	+	37	堀	(16.0)	—	—	外腹 ハケメ 内腹 剥離痕	+	審	
145	+	38	+	—	—	—	外腹 ハケメ 内腹 剥離痕	暗茶褐色	粗	
145	+	39	台付堀	—	—	—	外腹 ハラナデ 内腹 ハケメ	淡褐色		
145	+	40	+	—	—	—	外腹 ハケメ 内腹 剥離のため不明	明褐色	雲母	
145	+	41	+	—	10.3	—	内外面 ハケメ 隅台部折り返し	茶褐色	小塊、やや審	
145	+	42	+	—	7.2	—	外腹 ハケメ 内腹 剥離痕	+		
145	+	43	+	—	8.3	—	外腹 斜台部 ヘラナデ ハケメ	+	白色粒子、やや審	

(法量の単位はcm、-は計測不能()は推定値)

辨別番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
145	18号住居	44	台付壺	-	11.2	-	外腹 ハケメ 内腹 鋸歯底	茶褐色	赤色粒子、やや粗	
145	*	45	*	-	12.4	-	外腹 ハケメ 脚台部ハコメ	*	赤色粒子、質滑、 密	
145	*	46	*	-	9.8	-	外腹 ハラナデ 内腹 鋸歯底 ハケメ	*	茶褐色	
145	*	47	*	-	7.6	-	外腹 ハケメ 内腹 脚台部 滑底	赤褐色		
145	*	48	*	-	12.1	-	内腹 ハケメ	淡茶褐色		
145	*	49	*	-	5.7	-	外腹 ハラナデ ハケメ 内腹 滑底 ハケメ	茶褐色	赤色粒子	
146	*	50	高环	(13.2)	-	-		*	白・赤色粒子、や や密	外腹全体 内面 环部 赤色色彩
146	*	51	*	17.4	-	-	内外腹 審耗のため不明	淡茶褐色	やや粗	
146	*	52	*	(19.0)	-	-	外腹 ミガキ	*	小織、密	
146	*	53	*	(13.0)	-	-	内外腹 ミガキ	暗褐色	白色粒子、密	
146	*	54	*	(23.2)	-	-	内外腹 審耗のため不明	茶褐色	やや粗	
146	*	55	*	-	-	-	外腹 ハケメ後ヘラナデ 内腹 ミガキ	暗褐色	白色粒子、質厚	
146	*	56	*	-	-	-	外腹 ミガキ 环部ミガキ 脚部 指痕底	淡茶褐色	白・赤色粒子	
146	*	57	*	-	-	-	外腹 ミガキ	暗褐色	やや密	内面 环部 赤色色彩
146	*	58	*	-	-	-	外腹 傷縫文 内腹 滑底	赤褐色	赤色粒子	脚部貫通孔
146	*	59	*	-	(11.0)	-	*	暗褐色	密	*
146	*	60	*	-	-	-	外腹 ミガキ 内腹 滑底	淡茶褐色	白・赤色粒子、密	
146	*	61	*	-	-	-	外腹 ミガキ	茶褐色	やや密	脚部貫通孔
146	*	62	高环?	-	6.7	-	内外腹 ナゲ	暗褐色	質厚	
146	*	63	高环	-	16.2	-	外腹 審耗のため不明 内腹 ハラナデ	淡茶褐色	白色粒子、やや粗	脚部貫通孔
146	*	64	*	-	15.2	-	外腹 ミガキ 内腹 ハラナデ	*	白色粒子、小織	*
146	*	65	器台	9.0	-	-	外腹 ミガキ 内腹 ナゲ	暗褐色	やや粗	
146	*	66	*	-	-	-	*	淡茶褐色	白色粒子、やや密	唇受部中央貫通孔
146	*	67	*	-	12.0	-	外腹 ミガキ 内腹 審耗のため不明	暗褐色	小織、やや密	唇受部中央・脚部貫通孔
146	*	68	蓋	9.8	-	-	外腹 ミガキ 内腹 ヨコハナ	暗褐色		外腹 赤色色彩
146	*	69	*	(9.0)	-	-	内外腹 ミガキ	茶褐色	粗	
146	*	70	鉢	9.8	4.4	4.3	内外腹 審耗のため不明	暗褐色		
146	*	71	*	10.7	5.4	6.0	*	淡茶褐色	小織	
146	*	72	*	9.0	-	-	内外腹 ナゲ	赤褐色		内外腹 赤色色彩
146	*	73	瓶	-	5.0	-	外腹 ハケメ 内腹 滑底	灰褐色	小織、やや密	
146	*	74	*	-	5.0	-	内外腹 滑底	*	密	
146	*	75	*	-	-	-	内外腹 審耗のため不明	赤褐色		
146	*	76	鉢	(15.6)	-	-	*	暗褐色	粗	
146	*	77	壺?	-	(4.2)	-	内外腹 ハラナデ	暗褐色	白・黒色粒子	
146	*	78	*	-	4.6	-	内外腹 審耗のため不明	暗褐色	小織、粗	
146	*	79	壺	-	-	-	*	暗褐色		
146	*	80	鉢	(9.8)	-	-	外腹 ハケメ 内腹 ハケメ 滑底	黑褐色	白色粒子、密	
146	*	81	*	9.2	-	-	内外腹 ハケメ	淡茶褐色	やや密	
146	*	82	*	(10.2)	4.6	8.6	外腹 審耗のため不明 内腹 滑底	灰褐色	白色粒子、小織	
146	*	83	鉢?	-	3.0	-	外腹 ハラナデ 内腹 滑底	黑褐色	密	
146	*	84	手捏土器	5.2	5.2	6.0	外腹 ハケメ 滑底	淡茶褐色	赤色粒子、密	
146	*	85	*	5.5	3.4	6.1	内外腹 滑底	茶褐色	*	

(法量の単位はcm、一は計測不能()は推定値)

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・悪態の特徴	色調	胎土	備考
146	18号住居	86	鉢	7.8	4.9	7.4	外面 濃緑のため不明 内面 指痕板	淡茶褐色	粗	
146	+	87	手掘土器	7.1	4.9	6.1	内外面 作領板	茶褐色	赤色粒子、密	
146	+	88	盞?	—	—	—	内外面 悪態のため不明	+		
146	+	89	磨石	(長軸) 11.0 (短軸) 10.0 (厚さ) 5.8	(長軸) 1.9 (短軸) 0.4	(厚さ) 0.35				重さ 960 g、石材安山岩
147	+	90	粘土塊	—	—	—		淡茶褐色	小粒、やや密	
147	+	91	鉢	(底径) 5.2 (最大幅) 1.9	(厚さ) 0.4					
147	+	92	+	4.5	1.2	(0.3)				
147	+	93	+	3.7	1.6	(0.35)				
147	+	94	+	4.75	1.75	(0.35)				
147	+	95	+	4.9	2.3	(0.33)				
147	+	96	+	3.2	1.6	(0.4)				
147	24号住居	1	盞	(15.0)	—	—	外面 佛状文 瓶部ハケメ	褐色	白色粒子	
147	+	2	盞?	—	6.0	—	内外面 指痕板	淡茶褐色	畫母、密	
147	+	3	高坏	10.0	—	—	外面 ハケ後ハナダ 内面 ハナメ ハラナダ	茶褐色	白色粒子、密	
147	+	4	高坏?	10.0	—	—	外面 ミガキ 内面 指痕板	+	やや粗	
147	+	5	台付壺	9.8	—	—	外面 ハケメ ハラナダ 内面 ハラナダ 指痕板	淡茶褐色	密	
147	+	6	盞	4.3	4.8	7.0	外面 指痕板 内面 ハケメ	茶褐色	密	
147	25号住居	1	+	(17.2)	—	—	内外面 ミガキ	赤褐色	白色粒子	
147	+	2	台付壺	—	8.4	—	内外面 ハケメ	淡茶褐色	やや粗	
147	+	3	+	—	8.8	—	+	+	赤色粒子、やや粗	
147	+	4	高坏	—	—	—	外面 ミガキ	明褐色	やや粗	
147	+	5	鉢	11.5	3.5	4.4	内外面 ミガキ	赤褐色	畫母	
147	+	6	+	16.5 (5.4)	—	7.8	外面 ハケメ	淡茶褐色	やや粗	
147	+	7	砥石	(長軸) 14.2 (短軸) 8.4	(厚さ) 5.6					重さ 900 g、石材 花崗岩 アブライ ト 砥石 使用面 滑らか
147	27号住居	1	盞	—	—	—	外面 濃緑凸唇 勾曲状工具による刻目 内面 横縦文 内面 指痕板	赤褐色	赤色粒子、やや密	
147	+	2	盞?	(20.2)	—	—	研り落し口縁 外面 指痕板 内面 ヨコナカ	+	赤色粒子、粗	
147	+	3	盞	12.0	—	—	外面 ハケメ	赤褐色	赤色粒子、やや粗	
147	+	4	+	(21.7)	—	—	外面 口縁部 刻目 ハケメ 内面 ハケメ	淡茶褐色	粗	
147	+	5	高坏	—	—	—	外面 ミガキ	赤褐色	赤色粒子、やや粗	脚部貫通孔
148	29号住居	1	盞	(17.0)	—	—	口縁部 刻目 ハケメ 内面 ハケメ	茶褐色	白色粒子、粗	
148	+	2	台付壺	—	—	—	外面 ハケメ 内面 悪態のため不明	+	やや粗	
148	+	3	+	—	—	—	外側 ハナダ 内面 脚台跡 ヨコナカ	淡茶褐色	小粒、やや粗	
148	+	4	高坏	(16.8)	—	—	外面 口縁部 刻目 ハケメ 内面 ハケメ	淡茶褐色	小粒、やや密	
148	+	5	鉢	—	—	—	外面 ミガキ 内面 ヨコナカ	+	密	脚部貫通孔
148	+	6	盞?	(8.0)	—	—	内外面 ハケメ	淡茶褐色	やや粗	
148	+	7	鉢	10.8	4.8	5.5	内外面 悪態のため不明	茶褐色	やや密	
148	33号住居	1	台付鉢	12.9	5.5	11.2	外面 ミガキ 台付部 ハラナダ	淡茶褐色	やや粗	
148	+	2	+	—	7.8	—	内外面 悪態のため不明	+	+	
148	34号住居	1	盞?	—	—	—	外側 ハナメ ハラナダ 内面 ハケメ	+	赤色粒子、密	
148	+	2	盞	—	—	—	内外面 ハケメ	+	赤色粒子、やや密	
148	+	3	台付壺	—	9.8	—	外面 悪態のため不明 内面 ハナメ	茶褐色	白色粒子、密	
148	+	4	盞	(21.2)	—	—	内外面 ハケメ	+	赤色粒子、粗	

(法量の単位はcm、-は計測不能 () は推定値)

器物番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	高さ	技法・形態の特徴	色調	胎上	備考
148	35号住居	1	壺?	(18.0)	-	-	折り重し口縁 外面 脊領痕 内面 磨耗のため不明	淡茶褐色	赤色粒子、やや粗	
148	+	2	壺	-	10.4	-	外面 ハケメ ヘラナデ	茶褐色	やや密	底部外側本章直
148	+	3	+	-	11.0	-	内外面 磨耗のため不明	*	やや粗	*
148	36号住居	1	+	17.4	-	-	外面 頭部ハケメ	*	赤・黒色粒子、密	
148	+	2	+	(12.0)	-	-		褐色	赤色粒子、密	
148	+	3	更	(15.8)	-	-	S字口縁 外面側位ハケメ後横位ハケメ 内面 脊領痕ハケ	茶褐色	やや粗	
148	+	4	+	-	-	-	外面側位ハケメ後横位ハケメ 内面 脊領痕ハケ	淡茶褐色	赤色粒子、密	
149	41号住居	1	壺	-	9.0	-	外面 ハケメ ヘラナデ	茶褐色	*	底部外側本章直
149	+	2	壺	(16.6)	-	-	内外面 ハケメ	褐色	露母、やや密	
149	+	3	+	(19.0)	-	-	S字口縁 外面側位ハケメ 内面 脊領痕ハケ	褐色	やや密	
149	+	4	壺	10.0	-	-	外面 ミガキ	茶褐色	赤色粒子、やや粗	
149	+	5	台付壺	-	-	-	内外面 磨耗のため不明	褐色	やや粗	
149	46号住居	1	壺	15.1	11.0	[34.3]	内外面 ハケメ	茶褐色	白・赤色粒子	
149	+	2	+	-	5.4	-	内外面 磨耗のため不明	茶褐色	赤色粒子、やや密	
149	+	3	鉢	(9.5)	3.5	5.0	*	*	白色粒子、密	
149	+	4	壺	23.0	-	-	S字口縁 外面側位ハケメ後横位ハケメ 内面 脊領痕ハケ	*		
149	+	5	+	24.3	-	-	折り返し口縁 外面 口唇部 刻目 帽 内面 ハケメ 内面 脊領痕ハラナデ	褐色	褐色粒子	
149	+	6	+	21.0	-	-	外面 口唇部 刻目 脊領痕ハケメ 内面 ハケメ ヘラナデ	茶褐色	やや粗	
149	+	7	+	(17.4)	-	-	外面 口唇部 刻目 ハケメ	灰褐色		
149	+	8	+	14.0	-	-	*	淡茶褐色	白色粒子、やや粗	
149	+	9	+	(16.4)	-	-	内外面 ハケメ	茶褐色	白色粒子	
149	+	10	+	15.0	-	-	*	茶褐色	赤色粒子	
149	+	11	+	(19.5)	-	-	外面 ハケメ	茶褐色	白色粒子、密	
150	+	12	+	21.5	-	-	内外面 ハケメ	淡茶褐色	小織	
150	+	13	+	-	-	-	*	褐色	密	
150	+	14	台付壺	-	8.6	-	外面 ハケメ 内面 ハケメ 脊領痕	茶褐色	*	
150	+	15	手握土器	-	1.3	-	内外面 ナデ	淡茶褐色	やや粗	
150	+	16	高環	-	-	-	内外面 磨耗のため不明	茶褐色	赤色粒子、やや密	
150	+	17	壺	-	-	-	*	淡茶褐色	やや密	
150	50号住居	1	壺	-	-	-	外面 ミガキ 内面 ヘラナデ	茶褐色	赤色粒子	
150	+	2	台付壺	-	7.8	-	内外面 ハケメ	褐色	赤色粒子、やや粗	
150	+	3	高環	-	-	-	外面 ミガキ 指痕痕	淡茶褐色	脚部貫通孔	
150	+	4	鋸台?	-	16.6	-	内外面 磨耗のため不明	茶褐色	赤色粒子	*
150	51号住居	1	壺	(16.0)	-	-	外面 庫部 楕円状工具 刻突	淡茶褐色	赤色粒子、密	
150	+	2	+	(24.8)	-	-	内外面 ハケメ	*	*	
150	+	3	+	-	(10.2)	-	内外面 磨耗のため不明	茶褐色	密	
150	+	4	壺	(18.0)	-	-	S字口縁 外面側位ハケメ	*	やや密	
150	+	5	台付壺	(16.0)	-	-	S字口縁 外面側位ハケメ後横位ハケメ 内面 ナデ	茶褐色	露母	
150	+	6	+	-	-	-	内外面 磨耗のため不明	茶褐色	やや密	
150	+	7	高環	-	-	-	外面 ミガキ	淡茶褐色	脚部貫通孔	
150	+	8	鉢	(長さ) 3.3 (最大幅) 4.3 (厚さ) 0.25	-	-	外面 口縁部 刻突 凸部 刻突 ハケ 内面 脊領痕	茶褐色	露母	
150	53号住居	1	壺	(11.5)	-	-	外面 口縁部 刻突 凸部 刻突 ハケ 内面 脊領痕	茶褐色	露母	

(法量の単位はcm、ーは計測不能（ ）は推定値)

特留番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考	
150	33号住居	2	壺	—	7.0	—	内外面 ハケメ	茶褐色	小粒、粗		
150	+	3	*	—	8.3	—	*	*	小粒		
150	+	4	壺	(14.4)	—	—	S字口縁 外面削位ハケメ後横位ハケメ 内面 壁部横ハケメ 指ナデ	*	雲母		
150	+	5	*	(15.5)	—	—	*				
150	+	6	*	(13.8)	—	—	S字口縁 内面 壁部横ハケ	茶褐色	粗		
150	+	7	*	—	—	—	片削削位ハケメ後横位ハケメ 内面 四隅横ハケメ 指ナデ	茶褐色	やや粗		
150	+	8	壺	(5.8)	—	—	内外面 慢民のため不明	茶褐色	密		
150	+	9	高坏	(12.5)	—	—	内外面 ミガキ	明褐色	小粒、密	脚部貫通孔	
150	+	10	*	—	10.2	—	外面 ミガキ 内面 指痕痕	*	雲母	*	
151	54号住居	1	壺	(14.6)	(7.6)	23.0	外面 ハケメ 後文ガタ 内面 ハラナデ 壁部斜位 脚部 壁部斜位	茶褐色	白色粒子、密		
151	+	2	*	—	(6.4)	—	外面 ハケメ 指痕痕	*			
151	+	3	高坏	16.6	—	—	外面 ミガキ 異様ハラナデ 内面 ミガキ	*	白色粒子		
151	56号住居	1	壺	(16.0)	—	—	外縁 ハケメ 脚部 部形状工具 刺突 内縁 ハケメ	淡茶褐色	密		
151	+	2	壺	(16.4)	—	—	S字口縁 外面削位ハケメ後横位ハケメ 内面 指ナデ	*	*		
151	+	3	*	(16.6)	—	—	S字口縁 外面削位ハケメ	*	*		
151	+	4	*	(20.8)	—	—	S字口縁 外面削位ハケメ後横位ハケメ 内面 指ナデ	*	*		
151	+	5	*	(12.4)	—	—	S字口縁 外面 口縁部 斜位ハケメ	*	*		
151	+	6	*	(15.4)	—	—	S字口縁 外面削位ハケメ後横位ハケメ 内面 指ナデ	*	*		
151	+	7	*	(12.4)	—	—	S字口縁	*	*		
151	+	8	*	—	—	—	外面削位ハケメ後横位ハケメ 内面 指痕痕	茶褐色	*		
151	+	9	*	—	—	—	外縁 ハケメ 内縁 ミガキ	淡茶褐色	*		
151	+	10	台付甕	—	(6.4)	—	外縁 ハラナデ 内縁 ハラナデ 壁部斜位	茶褐色	*		
151	+	11	高坏	22.7	—	—	内外面 ミガキ	茶褐色	雲母		
151	+	12	*	(13.0)	—	—	内外面 砂純のため不明	茶褐色		脚部貫通孔	
151	+	13	*	(11.9)	—	—	外縁 南純のため不明 内縁 ミガキ	淡茶褐色	密		
151	+	14	*	(10.6)	—	—	内外面 ハラナデ	*	白色粒子、密		
151	+	15	*	9.0	6.2	3.2	内外面 ハケメ	灰褐色			
151	+	16	*	(12.4)	—	—	外縁 ミガキ 内縁 ミガキ 壁部斜位ハラナデ	茶褐色			
151	+	17	*	—	—	—	内外面 砂純のため不明	*	粗	*	
151	+	18	*	—	—	—	内外面 ミガキ	*	やや密	*	
151	+	19	*	—	13.3	—	外縁 ミガキ	稻褐色		*	
151	+	20	器台	—	12.0	—	外縁 ミガキ 内縁 ハラナデ	*		晋受部中央・脚部貫通孔	
151	+	21	鉄製品	(底さ) 6.25	(最大巾) 25.0	(厚さ) 1.3	(厚さ) 0.25				
151	+	22	鐵石	(底幅) 11.0	(厚幅) 4.3					重さ 3580 g 石村 岩岸良ア ライ	
152	57号住居	1	壺	(18.2)	—	—	S字口縁 外面 削位ハケメ	茶褐色	雲母		
152	+	2	高坏	—	—	—	内外面 砂純のため不明	*	白・赤色粒子		
152	58号住居	1	壺	14.7	6.3	24.8	内外面 ミガキ	茶褐色	やや密		
152	+	2	*	14.2	—	—	*	稻褐色			
152	+	3	*	—	(6.0)	—	内外面 砂純のため不明	*	小粒、やや粗		
152	+	4	*	17.0	—	—	*	茶褐色	*		
152	+	5	*	16.5	7.0	30.0	折ちあし口縁 外面ハケメ ミガキ 内縁 上半分 ハケメ 壁部斜位 脚部 壁部斜位	*	やや粗		
151	+	6	*	12.8	(7.1)	31.2	外縁 ハケメ 内縁 ハケメ 壁部斜位	淡茶褐色	小粒、やや粗		

(法量の単位はcm、一は計測不能 () は推定値)

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	厚さ	技法・形態の特徴	色調	胎 土	備 考
152	58号住居	7	壺	—	6.0	—	外面 内面 縁部のため不明	黄褐色	やや密	底部外層本胎灰
152	*	8	*	—	9.2	—	外面 内面 縁部のため不明	茶褐色	粗	
152	*	9	*	—	(7.6)	—	外内面 縫耗のため不明	*	密	
152	*	10	*	—	(8.0)	—	外面 内面 ハケメ	*		
152	*	11	*	—	(11.2)	—	外内面 ハケメ	橙褐色	粗	
152	*	12	杯	6.0	2.8	5.2	外面 内面 ハラナデ	淡茶褐色	密	
152	*	13	鉢?	—	4.0	—	外内面 縫耗のため不明	茶褐色	やや密	
152	*	14	鉢	10.2	3.4	7.1	外面 内面 ハナデ	淡茶褐色	*	
153	*	15	台付壺	12.8	5.9	16.9	S字口縁 外面斜位ハケメ 内面 指ナデ 脚台部折り返し	赤褐色		
153	*	16	*	13.1	7.9	21.9	*	淡茶褐色	やや密	
153	*	17	*	12.0	—	—	S字口縁 外面斜位ハケメ 内面 指ナデ	橙褐色		
153	*	18	壺	18.8	—	—	*	明褐色	やや粗	
153	*	19	*	(11.2)	—	—	S字口縁 外面斜位ハケメ後縫位ハケメ 内面 指ナデ	深褐色	白色粒子、粗	
153	*	20	*	(14.8)	—	—	*	暗褐色	密	
153	*	21	*	(14.4)	—	—	*	*	藍母	
153	*	22	*	(14.4)	—	—	S字口縁 外面斜位ハケメ後縫位ハケメ 内面 ハラナデ	*	玄母、粗	
153	*	23	*	—	—	—	外面斜位ハケメ後縫位ハケメ 内面 指ナデ	茶褐色		
153	*	24	*	(18.6)	—	—	S字口縁 外面斜位ハケメ 内面 指ナデ	*	藍母	
153	*	25	*	16.2	—	—	*	*	やや粗	
153	*	26	*	22.8	—	—	*	*		
153	*	27	台付壺	19.8	11.0	(35.0)	S字口縁 外面斜位ハケメ 内面 下半 ハケメ 指ナデ 脚台部折り返し	淡褐色		
153	*	28	*	—	11.0	—	外面 内面 ハケメ 脚台部折り返し 指ナデ	明褐色	やや密	
153	*	29	*	—	8.6	—	*	茶褐色	*	
153	*	30	*	—	9.0	—	*	暗褐色	*	
154	*	31	高壺	22.5	15.3	13.9	外面 内面 縁部ミガキ 縁部ヘラナデ	明褐色		脚部貫通孔
154	*	32	*	16.4	21.3	13.6	外面 内面 縁部ミガキ 縁部ミガキ 縫耗ハケメミガキ	赤褐色	密	*
154	*	33	*	(14.2)	—	—	内外面 縫耗のため不明	棕褐色	白色粒子、粗	
154	*	34	*	12.8	—	—	*	明褐色	赤褐色	
154	*	35	*	—	(9.0)	—	*	暗褐色	やや粗	*
154	*	36	*	—	—	—	*	*	粗	*
154	*	37	番台	10.8	16.4	10.5	外面 内面 ミガキ 脚部ヘラナデ	明褐色	やや密	器部中央・脚部貫通孔
154	*	38	*	10.3	15.0	9.8	外面 内面 ミガキ 縁部ミガキ 縫耗ヘラナデ	茶褐色	密	*
154	*	39	*	9.4	14.5	9.3	外面 内面 ミガキ ヘラナデ 指痕痕	暗褐色		*
154	*	40	高壺	(22.3)	14.5	11.4	外面 内面 縁部ミガキ 縁部ヘラナデ 指痕痕	赤褐色	白・赤色粒子、や 少密	壺部・脚部貫通孔
154	*	41	番台	22.0	15.6	11.6	外面 内面 縁部ミガキ 縁部ヘラナデ	暗褐色		器部・脚部貫通孔
154	*	42	番台?	(19.6)	—	—	内外面 縫耗のため不明	暗褐色		器部貫通孔
154	*	43	番台	20.9	19.0	13.5	外面 縁部ミガキ	赤褐色		器部・脚部貫通孔
154	*	44	*	7.8	—	—	内外面 縫耗のため不明	茶褐色	白色粒子、やや密	器部中央・脚部貫通孔
154	61号住居	1	壺	—	4.5	—	*	淡茶褐色	白色粒子	
154	62号住居	1	*	—	—	—	外面 L字縁部 締状序文	茶褐色	密	
154	*	2	壺	(20.6)	—	—	内外面 縫耗のため不明	暗褐色	白色粒子、やや密	
154	*	3	*	(14.3)	—	—	外面 内面 ハケメ ハケメ 指痕痕	茶褐色	やや密	

(法量の単位はcm、ーは計測不能 () は推定値)

標印番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	高さ	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
154	62号住居	4	台付壺	—	7.3	—	内外面 磨耗のため不明	茶褐色	やや密	
154	+	5	+	—	—	—	内外面 ハケメ	+	白・赤色粒子、やや粗	
154	+	6	高壺	—	—	—	内面 ハラナデ 指顕痕	淡茶褐色	密	脚部貫通孔
154	66号住居	1	壺	(11.8)	—	—	S字口縁 外面斜位ハケメ後継位ハケメ 内面 磨耗位ハナダ	+	赤色粒子	
154	+	2	+	10.8	—	—	S字口縁 外面斜位ハケメ 内面 磨耗位ハナダ	淡褐色	白・黒色粒子	
154	+	3	器台	8.4	—	—	内外面 ミガキ	赤褐色		脚部貫通孔
155	67号住居	1	壺	(17.8)	—	—	外面 口唇部 刻目	暗褐色	密	
155	+	2	高壺	—	—	—	内面 ミガキ 内面 磨耗のため不明	暗褐色	白・赤色粒子、密	脚部貫通孔
155	+	3	+	—	—	—	内面 ミナメ 内面 ハラナデ	茶褐色	密	+
155	68号住居	1	壺	(17.8)	—	—	外縁 口唇部 磨耗位 指顕位凸筋 前後 ミガキ 内面 ミガキ	暗褐色	やや密	
155	+	2	+	—	—	—	内外面 磨耗のため不明	淡茶褐色	やや粗	
155	+	3	+	—	4.2	—	外縁 ハラナデ 内面 指顕痕	+	やや密	
155	+	4	+	(7.6)	—	—	外縁 ハラナデ 内面 ミガキ	茶褐色	+	
155	+	5	+	(7.6)	—	—	内外面 ハラナデ	+	+	
155	+	6	+	5.5	6.0	15.8	外縁 磨耗のため不明 内面 ミガキ	+	粗	
155	+	7	壺	(16.6)	—	—	内外面 ハラナデ	淡茶褐色	赤色粒子、密	
155	+	8	台付壺	(17.8)	—	—	外縁 ハケメ 内面 ハラナデ	+	密	
155	+	9	壺	(17.4)	—	—	内外面 磨耗のため不明	+	+	
155	+	10	壺?	(18.8)	—	—	*	茶褐色	+	
155	+	11	台付壺	(15.0)	(6.7)	(19.3)	外縁 ハケメ 内面 脚部 指顕痕	+	赤色粒子、密	
155	+	12	壺	12.6	—	—	S字口縁 外面斜位ハケメ後継位ハケメ 内面 磨耗位ハナダ 指ナダ	淡茶褐色		
155	+	13	+	(15.4)	—	—	S字口縁 外面斜位ハケメ後継位ハケメ 内面 磨耗位ハナダ 指ナダ	茶褐色		
155	+	14	+	(19.2)	—	—	S字口縁 外面斜位ハケメ後継位ハケメ 内面 磨耗位ハナダ 指ナダ	灰褐色	粗	
155	+	15	+	—	—	—	外縁斜位ハケメ後継位ハケメ 内面 磨耗位ハナダ 指ナダ	茶褐色		
155	+	16	+	—	—	—	*	*	粗	
155	+	17	+	(9.8)	—	—	5字口縁	淡茶褐色		
155	+	18	+	(17.2)	—	—	S字口縁 外面斜位ハケメ後継位ハケメ 内面 ハナダ	明褐色	雪舟	
155	+	19	+	(16.2)	—	—	外縁 ハケメ 内面 口唇部ハナダ以下指顕痕	暗褐色	密	
155	+	20	台付壺	—	10.0	—	外縁 磨耗のため不明 内面 磨耗痕	茶褐色	白色粒子、やや密	
155	+	21	+	—	10.9	—	*	暗褐色	密	
156	+	22	壺	—	—	—	外縁 ハケメ 内面 ハナダ 指顕痕	灰褐色	赤色粒子、やや密	
156	+	23	+	(17.6)	—	—	外縁 ハケメ 内面 指顕痕	淡茶褐色		
156	+	24	高壺	(22.6)	14.8	13.4	内外面 磨耗のため不明	暗褐色	赤色粒子、密	脚部貫通孔
156	+	25	+	(16.0)	—	—	内外面 ミガキ	淡茶褐色		
156	+	26	+	12.5	—	—	*	赤褐色	白・赤・黒色粒子、帶	
156	+	27	+	(17.6)	—	—	内面 ミガキ	+	赤色粒子、やや粗	
156	+	28	+	(16.6)	—	—	内外面 ハケメ	淡茶褐色	やや密	
156	+	29	+	—	—	—	外縁 磨耗のため不明 内面 ミガキ	+	白・黒色粒子、雲母	
156	+	30	+	—	11.2	—	内外面 ナダ	暗褐色	赤色粒子、密	
156	+	31	+	—	—	—	外縁 ミガキ	暗褐色	赤色粒子、やや粗	脚部貫通孔
156	+	32	+	—	—	—	外縁 磨耗のため不明 内面 指顕痕	淡褐色	赤色粒子、密	+
156	+	33	高壺?	—	10.2	—	外縁 ハラナデ 内面 指顕痕	暗褐色	粗	

(法量の単位はcm、一は計測不能 () は推定値)

解説番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	高さ	往法・彫痕の特徴	色調	胎土	備考
156	68号住居	34	器台	8.0	—	—	外面部ミガキ	赤褐色	赤色粒子	器部中央 貨通孔
156	+	35	+	10.0	—	—	内外面部ミガキ	淡茶褐色	白色粒子、雲母、やや密	
156	+	36	+	—	—	—	内外面部ヘラナダ	褐色	白色粒子、やや粗	器部中央・脚部貨通孔
156	+	37	体	(9.6)	(5.0)	5.8	内外面部ヘラナダ	褐色		
156	+	38	+	(7.6)	3.4	6.5	内外面部磨耗のため不明	+	やや密	
156	+	39	手挽土器	6.2	3.0	6.4	外面部指痕	+	+	
156	+	40	器台?	—	8.5	—	外面部ヘラナダ	褐色	赤色粒子、粗	
156	+	41	手挽土器	—	—	—	外面部凸帯 内面部指痕	褐色	白・黒色粒子、やや粗	
156	+	42	砾石	(長軸) 10.0 (短軸) 3.6 (厚さ) 2.5	—	—	折り返し口縁	褐色		重さ 140 g 石材 碎片
157	69号住居	1	壺	(18.8)	—	—	折り返し口縁	褐色		
157	+	2	+	—	—	—	外面部口縁 外面部指痕 内面部口縁粗 繊文	褐色	赤色粒子	口縁部凹孔
157	+	3	+	(13.0)	—	—	外面部 口縁部 指痕 繊維ミガキ	褐色	+	
157	+	4	壺	(22.2)	—	—	S字口縁 外面部指痕工具痕 斜化ハケメ	褐色		
157	+	5	+	(10.8)	—	—	S字口縁 外面部斜化ハケメ後横位ハケメ 内面部 指痕ナダ	褐色	雲母	
157	+	6	高坏	—	9.0	—	外面部ミガキ	褐色		
157	+	7	+	—	—	—	+	赤色粒子	内外面部 赤色彫影	
157	71号住居	1	壺	—	—	—	外面部ミガキ 内面部 繊部指痕 部附 と付子	褐色	白・赤色粒子、雲母	
157	+	2	台付壺	12.5	6.8	16.0	S字口縁 有面斜位ハケメ後横位ハケメ 内面部 指痕ナダ ハナダ 器台部斜位引延し	褐色	赤色粒子、密	
157	72号住居	1	壺	—	(6.0)	—	外面部ミガキ	褐色		
157	+	2	+	(26.7)	10.8	26.1	折り返し口縁 外面部ミガキ 脱脂痕 内面部ハケメ	褐色	赤色粒子	
157	+	3	+	7.6	3.7	15.1	外面部ミガキ 内面部調研ハケメ	褐色	小穂、粗	
157	+	4	壺	12.8	—	—	S字口縁 外面部斜位ハケメ後横位ハケメ 内面部 指痕ナダ	褐色	白・黒色粒子、雲母	
157	+	5	+	19.6	—	—	+	白・赤・黒色粒子、 雲母		
157	+	6	高坏	—	13.5	—	外面部ミガキ 内面部 指痕粗 ヘラナダ ハケメ	褐色	*	脚部貨通孔
158	75号住居	1	壺	(14.8)	—	—	折り返し口縁 外面部ハケメ	褐色	杏	
158	+	2	+	(19.0)	—	—	外面部口縁部 円形押文	褐色	やや密	
158	+	3	+	—	(7.6)	—	外面部ハケメ 内面部指痕粗 ハケメ	淡茶褐色	やや密	
158	+	4	+	—	7.2	—	外面部ヘラナダ 内面部ハケメ	褐色	*	
158	+	5	+	(12.0)	—	—	内外面部磨耗のため不明	褐色		
158	+	6	小丸底土器	(7.6)	—	6.4	内外面部ヘラナダ	淡茶褐色	密	
158	+	7	壺	(15.0)	—	—	内外面部ミガキ	褐色	*	
158	+	8	壺	(13.8)	—	—	内外面部ハケメ	淡茶褐色	*	
158	+	9	+	(14.0)	—	—	S字口縁 外面部斜位ハケメ後横位ハケメ 内面部 指痕ナダ	褐色	白色粒子、密	
158	+	10	+	(15.2)	—	—	+	褐色	密	
158	+	11	+	(14.6)	—	—	+	褐色	白色粒子、密	
158	+	12	+	(14.8)	—	—	+	褐色	密	
158	+	13	+	(14.6)	—	—	+	+	赤色粒子、雲母、密	
158	+	14	+	(16.0)	—	—	+	+	密	
158	+	15	+	(20.6)	—	—	+	淡茶褐色	白・赤色粒子、密	
158	+	16	+	(20.8)	—	—	+	褐色	白色粒子、密	
158	+	17	+	(17.2)	—	—	S字口縁 外面部斜位ハケメ 内面部 指痕ナダ	褐色	*	
158	+	18	+	(34.0)	—	—	外面部ハケメ	+	雲母、密	

(法量の単位はcm、ーは計測不能 () は推定値)

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・底の特徴	色調	胎土	備考
158	75号住居	19	甕	(26.6)	—	—		暗褐色	密	
158	◆	20	台付甕	—	10.0	—	外面 ハケメ 内面 脚台部折り返し 指捺痕	系褐色	密	
158	◆	21	◆	—	12.0	—	*			
158	◆	22	◆	—	7.0	—	*	*	密母、密	
158	◆	23	甕	(16.0)	—	—	外面 ハケメ後くさび 内面 ハケメ	*	密	
158	◆	24	器台	8.8	—	—	外面 くさび 内面 脚部 脚部痕	茶褐色	赤色粒子、密母	器受部中央・脚部貫通孔
158	◆	25	◆	—	13.2	—	外面 ミガキ	橙褐色	白・赤色粒子、密	器受部中央・貫通孔
158	◆	26	甕	15.7	—	5.4	内外面 ミガキ	赤褐色	白色粒子、やや密	内外面赤色透影
159	77号住居	1	甕	(16.0)	—	—	*	*	白・黑色粒子、密	
159	◆	2	◆	—	(6.4)	—	内面 ハケメ	*	赤色粒子	
159	◆	3	◆	—	(11.0)	—	*	*		外表面基本素板
159	◆	4	甕	(9.6)	—	—	S字口縁 外面斜位ハケメ 内面 指ナデ	淡茶褐色	白・黒色粒子、密母	
159	◆	5	◆	(12.8)	—	—	*	*	*	
159	◆	6	◆	(16.6)	—	—	S字口縁 外面斜位ハケメ後横位ハケメ 内面 指ナデ	茶褐色	密母	
159	◆	7	◆	(14.0)	—	—	S字口縁 外面斜位ハケメ後横位ハケメ 内面 指ナデ	茶褐色	白・黑色粒子、密母	
159	◆	8	◆	(15.6)	—	—	S字口縁 外面ハケメ 内面 脚部 ハラナデ	茶褐色	白・赤・黑色粒子、密母	
159	◆	9	◆	(16.6)	—	—	S字口縁 外面斜位ハケメ 内面 指ナデ	*	白・黑色粒子、密母	
159	◆	10	◆	—	—	—		茶褐色	白・赤色粒子、密母	
159	◆	11	台付甕	—	—	—	外面ハケメ 内面 脚台部 指ナデ	淡茶褐色	*	
159	◆	12	◆	—	—	—	外面ハケメ 内面 指ナデ ハラナデ	*	白・黑色粒子、密母	脚台部貫通孔
159	◆	13	◆	—	6.8	—	外面ハケメ 内面 脚部 折り返し 指ナデ	茶褐色	白・赤・黑色粒子、密母	
159	◆	14	◆	—	—	—	外面ハケメ	*	白色粒子、密母	
159	◆	15	◆	—	5.6	—	外面ハケメ 内面 脚台部 折り返し 指ナデ	茶褐色	白・赤・黑色粒子	
159	◆	16	鉢	(14.8)	—	—	内外面 磨耗のため不明	赤褐色	白・赤色粒子	
159	82号住居	1	高环	16.7	—	—	外面 脚部痕 内面 ミガキ	淡茶褐色		内面赤色透影
159	83号住居	1	甕	(13.2)	—	—	外面 磨耗のため不明 内面 ミガキ	黄褐色	赤色粒子、小粒、密母	
159	◆	2	甕	(13.0)	—	—	S字口縁 外面斜位ハケメ後横位ハケメ 内面 指ナデ	橙褐色	赤色粒子、密母	
159	◆	3	◆	—	—	—	外面斜位ハケメ後横位ハケメ 内面 指ナデ	茶褐色		
159	◆	4	◆	(16.0)	—	—	S字口縁 外面斜位ハケメ	*		
159	◆	5	◆	(20.0)	—	—	S字口縁	*	密	
159	◆	6	◆	—	—	—	外面 ハケメ	淡茶褐色	褐	
159	◆	7	器台	(22.4)	—	—	内外面 ミガキ	橙褐色	赤色粒子	器部・器受部中央 貫通孔
159	◆	8	高环	—	—	—	外面 ミガキ 内面 高环、ミガキ	赤褐色	密	脚部貫通孔
159	84号住居	1	鉢	(13.0)	—	—	内外面 ミガキ	*	褐色粒子、やや密	
159	◆	2	甕	(15.4)	—	—	外面 ハケメ 内面 脚部痕	橙褐色	やや密	
159	◆	3	◆	—	—	—	外面 ハラナデ	茶褐色		
159	◆	4	◆	—	(10.0)	—	外面 ハケメ	橙褐色	やや密	
159	◆	5	鉢?	(14.8)	—	—	内外面 磨耗のため不明	*	褐	
160	86号住居	1	甕	(15.0)	—	—	折り返し口縁 内外面 磨耗のため不明	*	*	
160	◆	2	甕	(19.6)	—	—	S字口縁 外面斜位ハケメ後横位ハケメ 内面 指ナデ	茶褐色		
160	◆	3	高环	—	(12.8)	—	内外面 磨耗のため不明	黄褐色	赤色粒子	脚部貫通孔
160	◆	4	器台	(9.8)	—	—	外面 脚部ミガキ	橙褐色	赤色粒子、密	器受部中央 脚部貫通孔

(法量の単位はcm、ーは計測不能 () は推定値)

碑図番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
160	86号住居	5	器台	—	—	—	外腹 脊部ミギキ	黄褐色	赤色粒子、青	器受部中央・脚部貫通孔
160	*	6	壺	—	—	—	内外面 磨耗のため不明	淡茶褐色	白色粒子	
160	91号住居	1	壺	5.4	6.2	24.6	外腹 ハケメ 内腹 ハケメ	茶褐色	粗	
160	*	2	*	—	4.0	—	外腹 ミギキ 内腹 磨耗のため不明	淡茶褐色	青	
160	*	3	*	(11.2)	—	—	内外面 磨耗のため不明	暗褐色	やや青	
160	*	4	台付壺	14.2	—	—	S字口縁 外腹斜削ハケメ後横位ハケメ 内腹 指ナデ	茶褐色	青	
160	*	5	壺	(15.6)	—	—	*	淡茶褐色	*	
160	*	6	*	(13.0)	—	—	*	*	*	
160	*	7	*	(14.8)	—	—	S字口縁 内外面 磨耗のため不明	*	やや青	
160	*	8	*	(13.6)	—	—	S字口縁 外腹斜削ハケメ後横位ハケメ 内腹 指ナデ	*	粗	
160	*	9	台付壺	—	—	—	外腹 ハケメ	*		
160	*	10	高坏	11.4	—	—	外腹 ミギキ 内腹 ミギキ 脚部ヘラナデ	茶褐色	青	脚部貫通孔
160	*	11	*	—	9.8	—	外腹 脊部ミギキ 内腹 ヘラナデ	*	*	
160	*	12	*	—	9.0	—	外腹 脊部ミギキ 内腹 ミギキ	明褐色	*	
160	*	13	器台	—	(15.8)	—	内外面 磨耗のため不明	*	赤色粒子、青	器受部中央・脚部貫通孔
160	*	14	*	10.0	14.0	8.6	外腹 ミギキ 内腹 ヘラナデ	茶褐色	*	*
160	*	15	*	—	—	—	外腹 ヨコナデ ミギキ 内腹 ヘラナデ	*	青	*
160	92号住居	1	壺	13.8	—	—	S字口縁 口縁半周前外腹斜位ハケメ後横位ハケメ 内腹 斜削痕 ミギキ 指ナデ ハケメ	暗褐色	*	
160	*	2	*	(15.2)	—	—	S字口縁 外腹斜位ハケメ後横位ハケメ 内腹 斜削痕 ハケメ 指ナデ	*	白色粒子、青、白	
160	*	3	*	(13.2)	—	—	S字口縁 外腹斜位ハケメ 内腹 指ナデ	暗褐色	白色粒子、やや青	
160	*	4	*	—	—	—	外腹 斜位ハケメ	淡茶褐色	青	
160	*	5	高坏	26.4	13.2	15.4	外腹 ミギキ 内腹 年跡ミギキ 脚部 指痕痕	茶褐色	*	脚部貫通孔
160	*	6	器台	8.2	—	—	外腹 ミギキ 内腹 表面剥離	*	青緑、青	*
161	93号住居	1	壺	(17.2)	—	—	S字口縁 外腹斜位ハケメ 内腹 指ナデ	暗褐色	白・赤色粒子、青	
161	*	2	台付壺	—	7.6	—	外腹 ハケメ 内腹 斜削痕 脚部 斜り返し	茶褐色	白・赤色粒子	
161	94号住居	1	壺	(20.2)	—	—	外腹 條状浮文 斜四稜 四形押文 ミギキ 内腹 ハケメ	赤褐色	赤色粒子	内外面赤色塗彩
161	*	2	*	15.4	8.2	26.7	外腹 斜削下斜窓 ハケメ後ミギキ 内腹 ミギキ	赤褐色	粗	
161	*	3	鉢	(11.3)	—	—	外腹 ヘラナデ ミギキ 内腹 指痕痕	淡茶褐色	白・赤色粒子、青	
161	*	4	壺	16.0	—	—	外腹 ハケメ 膨腹状工具斜行沈線 ミギキ 内腹 ハケメ 指痕痕	*	*	
161	*	5	*	—	—	—	外腹 ハケメ 内腹 指痕痕	茶褐色	白・赤色粒子、青	
161	*	6	壺	17.2	—	—	S字口縁 口縁半周前外腹斜位ハケメ後横位ハケメ 内腹 黒部擦痕 ハケメ 指ナデ	淡茶褐色	白・黑色粒子、青	
161	*	7	*	18.3	—	—	*	茶褐色	白色粒子、青	胎土分析試料 32
161	*	8	*	(19.2)	—	—	S字口縁 口縁半周前外腹斜位ハケメ後横位ハケメ 内腹 ハケメ 指ナデ ミギキ	淡茶褐色	白・黑色粒子	
161	*	9	*	(23.2)	—	—	S字口縁 口縁半周前外腹斜位ハケメ後横位ハケメ 内腹 ハケメ	褐色	*	
161	*	10	*	(11.2)	—	—	S字口縁 外腹斜位ハケメ後横位ハケメ 内腹 斜削痕ハケメ 指ナデ	茶褐色	白・黑色粒子、青	胎土分析試料 33
161	*	11	*	(11.9)	—	—	*	淡茶褐色	*	
161	*	12	*	(17.8)	—	—	*	茶褐色	白色粒子、青	
161	*	13	*	(17.2)	—	—	*	*	白・赤・黑色粒子	
161	*	14	台付壺	—	7.3	—	外腹 ハケメ 内腹 指ナデ 脚部斜り返し	淡茶褐色	白・黑色粒子、青	
161	*	15	*	—	8.8	—	*	赤褐色	*	
161	*	16	高坏	—	10.2	—	外腹 ミギキ 内腹 ヘラナデ	暗褐色	白・黑色粒子	脚部貫通孔
161	*	17	*	—	—	—	外腹 ミギキ 内腹 年跡ミギキ 脚部 指痕痕	茶褐色	白・赤・黑色粒子	*

(法量の単位はcm、-は計測不能 () は推定値)

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	高さ	様法・形態の特徴	色調	胎土	備考
161	95号住居	1	鉢	(11.4)	(3.8)	8.0	外腹 ハケメ 内面 ハケメ 傷ナダ	黒褐色	赤色粒子、やや密	
161	*	2	甕	(13.8)	-	-	S字口縁 口腹中腰削先 外腹斜位ハケメ後横位ハケメ 内腹 斜面削ハケメ 傷ナダ	暗褐色	やや密	
161	*	3	*	(16.0)	-	-		茶褐色	*	
161	*	4	*	(12.6)	-	-	S字口縁 口腹中腰削先 外腹斜位ハケメ後横位ハケメ 内腹 斜面削ハケメ 傷ナダ	*	*	
161	*	5	*	(21.4)	-	-	S字口縁 外腹斜位ハケメ後横位ハケメ 内腹 斜面削ハケメ	*	粗	
162	*	6	*	(13.2)	-	-	S字口縁 外腹斜位ハケメ後横位ハケメ 内腹 斜面削ハケメ 傷ナダ	*	やや密	
162	*	7	*	(17.0)	-	-	*	暗褐色	粗	
162	*	8	*	(12.6)	-	-	S字口縁 外腹斜位ハケメ後横位ハケメ 内腹 傷ナダ	茶褐色	*	
162	*	9	*	(18.6)	-	-	S字口縁	*	密	
162	*	10	刀子	(長さ) 6.0 (幅さ) 1.1 (厚さ) 0.65						
162	96号住居	1	甕	(20.4)	-	-	外腹 口唇部 縫目 内腹 傷痕密	茶褐色	白色粒子、雲母、鐵	
162	*	2	*	(21.6)	-	-	外腹 口唇部 縫目	*	粗	
162	97号住居	1	壺	8.0	-	-	表面のため不明 内腹 ハケメ	黄褐色	小綿	
162	*	2	高坏	15.4	-	-	外腹 表面のため不明 内腹 ハケメ	明褐色	やや密	
162	98号住居	1	壺	-	11.5	-	内外腹 摩耗のため不明	赤褐色	赤色粒子	
162	*	2	甕	13.4	-	-	外腹 タキ? 内腹 推測痕	茶褐色	*	
162	*	3	台付甕	-	8.2	-	外腹 腹部推合部 指痕痕	赤褐色		
162	*	4	*	-	9.5	-	外腹 ハケメ 内腹 ハラナデ	*		
162	*	5	*	-	8.4	-	内外腹 ハケメ 内腹 腹部部 切り返し	茶褐色	白色粒子	
162	*	6	砾石	(長軸) 26.3 (短軸) 3.9 (厚さ) 5.7	-	-				重さ 3280 g、石材安山岩
163	99号住居	1	壺	-	-	-	外腹 ハケメミガキ 内腹 制版ハケメ	茶褐色	白色粒子	
163	*	2	甕	(14.8)	-	-	S字口縁 外腹斜位ハケメ後横位ハケメ 内腹 制版ハケメ 傷ナダ	淡茶褐色	白色粒子、やや密	
163	*	3	*	(15.4)	-	-	*	暗褐色	赤色粒子、雲母、鐵	
163	*	4	*	(13.0)	-	-	S字口縁 外腹 ハケメ	淡茶褐色	赤色粒子、青	
163	*	5	*	(15.0)	-	-	S字口縁 外腹斜位ハケメ後横位ハケメ 内腹 傷ナダ	茶褐色	白色粒子、雲母、やや密	
163	*	6	*	(15.4)	-	-	*	*	雲母、やや密	
163	*	7	*	-	(19.0)	-	*	淡茶褐色		
163	*	8	*	-	-	-	外腹斜位ハケメ後横位ハケメ 内腹 傷ナダ	茶褐色	白色粒子、雲母、青	
163	*	9	*	-	(19.6)	-	S字口縁 外腹 ハケメ	淡茶褐色	赤色粒子、青	
163	*	10	*	-	(36.8)	-	外腹斜位ハケメ後横位ハケメ 内腹 傷ナダ	暗褐色	白・赤色粒子、密	
163	*	11	台付甕	-	-	-	外腹 ハケメ 内腹 脊古輪ヘラナデ	*	赤色粒子、雲母、青	
163	*	12	*	-	7.9	-	外腹 ハケメ 内腹 制版底	茶褐色	雲母	
163	*	13	*	-	9.0	-	外腹 ハケメ 内腹 傷ナダ 腹部部 切り返し	淡茶褐色	白・赤色粒子、やや密	
163	100号住居	1	甕?	(12.0)	-	-	内外腹 ハケメ	茶褐色		
163	*	2	*	(15.2)	-	-	外腹 ハケメ	淡茶褐色		
163	101号住居	1	壺	-	9.4	-	内外腹 摩耗のため不明	*		外腹底部木葉痕
163	*	2	高坏	-	(8.0)	-	外腹 ミガキ 内腹 ハケメ	微褐色	白色粒子、粗	
163	*	3	*	-	(6.2)	-	外腹 ミガキ 内腹 摩耗のため不明	淡茶褐色	白色粒子	
163	102号住居	1	壺	(20.0)	-	-	外腹 ミガキ 内腹 制版底	褐色	青	
163	*	2	*	(9.4)	4.0	15.1	内外腹 摩耗のため不明	茶褐色	粗	
163	*	3	*	(6.6)	(4.4)	13.4	外腹 ハケメ 内腹 制版底	淡茶褐色		
163	*	4	壺?	-	(3.4)	-	内外腹 ハケメ	*	青	

(法量の単位はcm、-は計測不能()は推定値)

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
164	102号住居	5	甕	(14.2)	-	-	内外面 磨耗のため不明	淡茶褐色	粗	
164	+	6	+	(10.0)	-	-	S字口縁 口縁内側凹内面斜削ハケメ 内面 厚・削削ハケメ	茶褐色	やや密	
164	+	7	+	(20.4)	-	-	外面 口縁部 刻目 硬部ハケメ 内面 ハケメ	淡茶褐色	粗	
164	+	8	+	16.4	-	-	外面 ハケメ 内面 指痕板	茶褐色	やや密	
164	+	9	高坏	-	-	-	内外面 磨耗のため不明	+	密	脚部貫通孔 内面環部赤色着色
164	+	10	+	-	-	-	+	淡茶褐色	+	脚部貫通孔 外面赤色着色
164	+	11	壺?	-	-	-	内外面 ハケメ	+	やや密	
164	104号住居	1	高坏	12.8	-	-	外面 ハケメ 内面 磨耗のため不明	黄褐色	粗	
164	105号住居	1	甕	(13.0)	-	-	S字口縁 外面斜削ハケメ後削伐ハケメ	茶褐色	密	
164	+	2	+	(15.4)	3.8	14.8	外外面 ハケメ	+	粗	
164	+	3	台付甕	-	(8.2)	-	外面 ハケメ 内面 脚部ハケメ 手ナデ	淡茶褐色	+	
164	+	4	高坏	(11.9)	5.9	6.3	外外面 ハケメ ミガキ	黄褐色		
164	+	5	+	18.4	9.0	12.0	外面 ミガキ 内面 研磨ミガキ	+	粗	脚部貫通孔
164	+	6	鉢	10.4	3.8	5.3	内面 ミガキ	茶褐色	白色粒子、茶母	
164	106号住居	1	壺	15.6	8.0	13.6	内外面 ハケメ後ミガキ	+	白・赤色粒子	
164	+	2	+	17.2	7.8	(23.3)	外面 ハケメ ミガキ 内面 ハケメ 指痕板	赤褐色	白・赤・黒色粒子、やや密	外面底部本塗灰
164	+	3	+	-	9.2	-	外面 ミガキ 内面 ハケメ	+	白・赤色粒子	
164	+	4	+	-	7.0	-	外面 ミガキ 底部ハケメ ハケメ 指痕板	茶褐色	赤色粒子	
164	+	5	台付甕	(15.6)	8.0	21.1	S字口縁 外面斜削ハケメ後削伐ハケメ 内面 指痕板 手ナデ 脚部削り直し	褐色	白・黒色粒子、茶母	粘土分析試料 31
165	107号住居	1	鉢	(10.8)	-	-	外面 ミガキ 内面 ミガキ	淡茶褐色	白色粒子、密	
165	+	2	甕	(17.6)	-	-	S字口縁 外面斜削ハケメ後削伐ハケメ	+	やや密	
165	+	3	+	-	-	-	外表面斜削ハケメ後削伐ハケメ 内面 指痕板 手ナデ	+	赤色粒子、密	
165	+	4	+	-	-	-	+	白色粒子、密		
165	+	5	器台?	-	(9.8)	-	内外面 磨耗のため不明	+	+	脚部貫通孔
165	109号住居	1	+	7.8	10.5	8.6	外面 ハケメ ミガキ 内面 脚部 ハラナダ	茶褐色	+	
165	+	2	高坏	-	7.0	-	外面 ハケメ 内面 ミガキ ハケメ	+		
165	112号住居	1	砾石	(瓦輪) 14.7	(瓦輪) 7.2	(厚さ) 6.6				重さ 1220 g. 石材(自然輝) 花崗岩質 アブライト
165	114号住居	1	壺	-	5.4	-	外面 硬部ミガキ 指痕板 内面 ミガキ	茶褐色		
165	+	2	甕?	(11.8)	-	-	S字口縁 口縁内側斜削 外面斜削ハケメ後削伐ハケメ 内面 厚・削削ハケメ 手ナデ	+	粗	
165	+	3	高坏	-	-	-	外面 ミガキ	+	+	脚部貫通孔
165	115号住居	1	壺?	13.6	-	-	外面 口縁部 刻目 ハケメ後ミガキ	茶褐色	密	
165	+	2	砾石	(瓦輪) 13.7	(瓦輪) 8.6	(厚さ) 9.2	内面 ハケメ			重さ 1500 g. 石材玄武岩
165	116号住居	1	台付甕?	-	8.7	-	内外面 ハケメ	茶褐色	白・赤色粒子、やや粗	
165	117号住居	1	甕	-	-	-	S字口縁 外面 横削ハケメ	淡茶褐色	+	
165	119号住居	1	台付甕	-	(9.6)	-	内外面 ハケメ	茶褐色	粗	
165	+	2	高坏	(8.8)	-	-	外面 ミガキ 磨耗のため不明	明褐色	白・赤色粒子、粗	
166	120号住居	1	壺	-	7.0	-	外面 ミガキ 指痕板	淡茶褐色	密	外表面底部本塗灰
166	+	2	+	-	8.0	-	外面 ミガキ	+	粗	
166	+	3	台付甕	-	9.8	-	内外面 ハケメ	+	やや粗	
166	+	4	+	-	9.0	-	+	茶褐色	白色粒子、やや粗	
166	+	5	+	12.6	(6.6)	18.6	内外面 ハケメ 内面 指痕板	+	やや粗	
166	122号住居	1	+	(18.9)	9.6	(34.8)	S字口縁 外面斜削ハケメ後削伐ハケメ 内面 硬部曲ハケメ 手ナデ 脚部削り直し	茶褐色	白・黒色粒子、密	

(法量の単位はcm、一は計測不能（）は推定値)

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形态の特徴	色調	胎土	備考
166	122号住居	2	台付甕	14.0	(9.2)	24.0	S字口縁 外面斜削ハケメ後横抜ハケメ 内面 斜削抜ハケメ 傷付有 斜り返し	褐褐色	白・赤・黒色粒子、やや粗	
166	*	3	高环	—	—	—	外腹 ミガキ 内腹 ベラサザ 横傾斜	赤褐色	白・赤色粒子、雲母	脚部貫通孔
166	*	4	鉢	12.4	3.6	5.8	内外面 ミガキ	淡茶褐色	白・赤・黒色粒子、密	
166	124号住居	1	壺	(12.0)	—	—	内面 制限 ヘナダ	黄褐色	白・赤色粒子	
166	*	2	*	(15.4)	—	—	外腹 制限ナダ ミガキ 内腹 斜削	黄褐色	やや粗	
166	*	3	甕	(14.0)	—	—	S字口縁 外面斜削ハケメ後横抜ハケメ 内腹 斜削抜ハケ ナダ	*	雲母	
166	*	4	*	(15.2)	—	—	*	褐褐色	*	
166	*	5	*	(18.6)	—	—	S字口縁 外面斜削ハケメ後横抜ハケメ 内腹 塗ナダ	褐褐色	やや粗	
166	*	6	*	(14.2)	—	—	S字口縁 外面斜削ハケメ後横抜ハケメ 内腹 斜削抜ハケ 塗ナダ	*	白・赤色粒子、雲母	
166	*	7	*	(12.2)	—	—	S字口縁 外面斜削ハケメ後横抜ハケメ 内腹 塗ナダ	淡茶褐色	やや粗	
166	*	8	*	—	—	—	外腹 ハケメ	*		
166	*	9	台付甕	—	8.7	—	外腹 ハケメ 内腹 傷付 両脇部 斜り返し	褐褐色	雲母	
166	*	10	*	—	4.9	—	内腹 制限痕	褐褐色	粗	
166	*	11	高环	—	—	—	外腹 ミガキ 内腹 磨擦のため不明	褐褐色	やや粗	外腹赤色斑、脚部貫通孔
166	*	12	*	—	—	—	外腹 ミガキ 内腹 ヘナダ	赤褐色	白・赤色粒子、密	脚部貫通孔
166	*	13	台付甕	11.7	—	—	内外面 ハケメ	*	白色粒子、粗	
166	*	14	器台	—	—	—	外腹 ミガキ	褐褐色	白・赤色粒子、雲母、粗	器受部中央貫通孔
166	*	15	*	—	—	—	*	*	白・赤・黒色粒子	*
166	*	16	高环	—	6.5	—	外腹 ミガキ 内腹 ハケメ	淡褐色	やや粗	
167	126号住居	1	壺	—	—	—	外腹 口唇部 ハケメ 横位沈線 内腹 ハケメ	褐褐色	赤色粒子、密	
167	*	2	甕	13.1	—	—	内外面 ハケメ	褐褐色	白色粒子、やや粗	
167	*	3	高环	20.0	—	—	内外面 ミガキ	淡茶褐色	やや粗	
167	127号住居	1	壺	(18.8)	—	—	外腹 口唇部 ハケメ 横位沈線 内腹 ハケメ	褐褐色	白色粒子、やや密	
167	*	2	甕	(19.4)	—	—	外腹 口唇部 刻日 ハケメ ヘナダ 内腹 振痕 ハケメ	淡茶褐色	小綿、密	
167	*	3	*	15.5	—	—	外腹 口唇部 刻日 ハケメ ヘナダ 内腹 ハケメ	褐褐色	やや密	
167	128号住居	1	壺	(15.8)	—	—	剪り返し跡 内腹 磨擦のため不明	赤褐色	白・赤色粒子、雲母、やや粗	
167	*	2	甕	(14.0)	—	—	外腹 口唇部 刻日 ハケメ	褐色	白・赤色粒子、雲母、やや粗	
167	*	3	台付甕	—	(9.1)	—	内外面 ハケメ 脊部基 斜り返し	淡褐色	白・赤色粒子、雲母、やや密	
167	129号住居	1	甕	(13.6)	—	—	S字口縁 外面斜削ハケメ後横抜ハケメ 内腹 塗ナダ	淡茶褐色	白・赤・黒色粒子、雲母	
167	*	2	*	(17.0)	—	—	S字口縁 外面斜削ハケメ 内腹 塗ナダ	褐褐色	*	
167	*	3	高环	—	—	—	外腹 ミガキ	赤褐色		脚部貫通孔
167	*	4	*	28.6	—	—	外腹 磨擦のため不明 内腹 破壊ミガキ	*	白・赤色粒子、雲母	*
167	130号住居	1	甕	(12.8)	—	—	S字口縁	淡茶褐色	白・赤・黒色粒子、やや粗	
167	131号住居	1	*	(15.0)	—	—	外腹 ハケメ 内腹 斜削痕	褐褐色	赤色粒子	
167	*	2	*	(15.5)	—	—	内外面 ハケメ	*	*	
167	*	3	*	(15.0)	—	—	S字口縁 外面斜削ハケメ 内腹 斜削痕ハケ ナダ	*	*	
167	*	4	器台	7.5	—	—	外腹 塗ナダ 内腹 磨擦のため不明	褐褐色	*	脚部貫通孔
167	*	5	鉢	—	(3.8)	—	内外面 ハケメ ヘナダ	*	*	
167	132号住居	1	壺	(8.9)	7.5	13.3	外腹 円形浮文 内腹 斜削痕	淡茶褐色	*	網格状孔、外腹底部本面板
167	133号住居	1	*	—	—	—	結節圓文 円形浮文	淡茶褐色		
167	*	2	*	—	—	—	網文	赤褐色	赤色粒子	
168	134号住居	1	甕	(18.0)	—	—	S字口縁 外面斜削ハケメ後横抜ハケメ 内腹 塗ナダ	赤褐色	赤色粒子、やや粗	

(法量の単位はcm、ーは計測不能()は推定値)

総固番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
168	135号住居	1	壺	(21.0)	—	—	外面 口部斜削 刃目 頂部ハケメ 内面 ハナダ	褐色		
168	*	2	壺	7.6	2.4	3.7	内外面 表面削 ナダ	赤褐色	赤色粒子	
168	136号住居	1	鉢	9.3	4.2	6.3	外表面 口縁部 指彫痕 ハケメ	褐色	やや密	
168	138号住居	1	甕	(15.8)	—	—	S字口縁 外面斜削ハケメ 内面 壁厚	褐色	密	
168	*	2	甕?	(12.8)	—	—	折り返し口縁 外面 指彫痕 内面 ミガキ	淡茶褐色	粗	
168	*	3	台付甕?	—	9.3	—	外表面 ハケメ	茶褐色	密	
168	*	4	高坏	—	—	—	外表面 ミガキ 内面 脱落 ミガキ	淡茶褐色	*	
168	139号住居	1	壺	14.2	—	—	折り返し口縁 外面 内面浮文 ハケメ ミガキ 内面 ハケメハナダ	茶褐色	*	
168	*	2	甕	29.8	—	—	外表面 ハケメ 内面 ハケメ ヘナダ 指彫痕	淡茶褐色	粗	
168	*	3	台付甕?	—	—	—	外表面 ハナダハケメ 内面 斜削痕	茶褐色	黑色粒子、粗	
168	*	4	高坏	—	—	—	外表面 ミガキ 内面 环部 ミガキ 脱落 ヘナダ	*	粗	脚部貫通孔
168	*	5	鉢	11.8	4.4	8.3	内外面 ハケメ	明褐色	白色粒子、やや粗	
168	*	6	手造形土器	—	—	—	外表面 口縁部 刃安部凸唇斜削位横位ハ ケメ 内面 斜彫痕 ハケメ	淡灰褐色	白・黒色粒子、や や密	
168	142号住居	1	台付甕	—	9.0	—	外表面 ハケメ 内面 ハケメ 指彫痕	赤褐色	白・赤色粒子、密	
168	143号住居	1	壺	12.0	—	—	外表面 ミガキ 内面 口縁部 ミガキ 脱落	茶褐色	白・赤色粒子	
168	*	2	高坏	—	—	—	外表面 ミガキ 内面 脱落 ヘナダ	淡茶褐色	白・赤色粒子、露 母、やや粗	脚部貫通孔
169	146号住居	1	壺	—	7.0	—	外表面 壁かたハケメ 内面 斜削痕 ハケメ	*	白・赤色粒子、小 粒	
169	*	2	*	10.0	(4.4)	13.0	外表面 壁耗のため不明 内面 斜削痕 ヘナダ	*	白・赤色粒子、小 粒、やや粗	
169	*	3	鉢	17.8	5.0	10.2	外表面 ミガキ 内面 斜削痕 ミガキ	*	赤色粒子、密	
169	*	4	台付甕	14.1	8.8	21.0	S字口縁 外面斜削ハケメ 内面 折台部 折り返し	褐色	白・赤色粒子、密、 白	
169	*	5	甕	14.6	—	—	S字口縁 外面斜削ハケメ	茶褐色	赤色粒子、密、 白	
169	*	6	*	(15.6)	—	—	S字口縁 口縁に段剥突 外面斜削ハケ 内面 斜彫痕ハナダ	淡茶褐色	白色粒子、やや密	
169	*	7	*	(16.0)	—	—	*	*	密	
169	*	8	高坏	14.8	—	—	内外面 壁耗のため不明	暗褐色	白・赤色粒子、小 粒、密	
169	*	9	*	13.0	(8.4)	8.9	外表面 壁耗のため不明 内面 半部 ミガキ 脱落 ヘナダ	*	白・赤色粒子、密	
169	*	10	*	13.4	9.0	8.7	外表面 壁厚 ヘナダ 内面 壁厚 ミガキ 脱落 ヘナダ	淡茶褐色	白色粒子、密	
169	*	11	器台	10.0	16.0	10.5	内外面 壁耗のため不明	暗褐色	白・赤色粒子、密	器台部中央・脚部貫通孔
169	*	12	*	9.0	14.0	8.8	外表面 壁耗のため不明 内面 壁厚 ミガキ	*	*	*
169	*	13	鉢	9.3	3.8	8.5	外表面 ハケメ ミガキ 内面 斜削痕 ハケメ	茶褐色	小粒、やや粗	
169	147号住居	1	甕	14.0	—	—	外表面 口部斜削 刃目 内面 ハケメ	*	粗	
169	*	2	壺	12.8	—	—	内外面 壁かたにハケメ	茶褐色	雲母、粗	
169	*	3	台付甕	—	9.8	—	外表面 壁耗のため不明 内面 ハケメ	淡茶褐色	小粒、粗	
170	焼土址	1	壺	(14.0)	—	—	折り返し口縁 外面斜削 壁耗のため不明	茶褐色	赤色粒子、密	
170	*	2	*	13.5	—	—	折り返し口縁 外面斜削 ミガキ	暗褐色	赤色粒子、雲母、 やや密	
170	*	3	*	(17.8)	—	—	折り返し口縁 外面斜削 ミガキ 内面 ミガキ	淡茶褐色	白・赤・黒色粒子、 雲母	
170	*	4	*	(9.2)	—	—	外表面 ハケメ 指彫痕	*	白色粒子、やや粗	
170	*	5	*	21.6	(9.2)	(36.9)	外表面 ミガキ 内面 斜彫痕 ハケメ	茶褐色	赤色粒子、雲母、 やや粗	
170	*	6	*	—	9.4	—	外表面 ハケメ 内面 斜彫痕	茶褐色	白・赤・黒色粒子、 雲母	底部外縁水痕
170	*	7	*	—	10.4	—	外表面 ハケメ 内面 斜彫痕	茶褐色	粗	*
170	*	8	*	—	(4.6)	—	外表面 斜彫痕 内面 ハケメ	*	白・赤色粒子、雲 母、やや密	
170	*	9	*	(9.0)	—	—	外表面 ミガキ 内面 斜彫痕	*	白色粒子、雲母	
171	*	10	甕	(18.6)	—	—	S字口縁 外面斜削ハケメ 内面 壁厚ハナダ ヘナダ	*	密	

(法量の単位はcm、-は計測不能 () は推定値)

桝闇番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・部材の特徴	色調	胎土	備考
171	後土社	11	甕	(16.8)	-	-	外裏 口縁部 縦凹線 内裏 廉部のため不明	茶褐色	素	
171	*	12	*	(19.6)	-	(25.0)	外裏 口縁部 縦凹線 内裏 廉部剥炎 断部 ハケメ 内面 指捺痕	暗褐色	*	
171	*	13	台付甕	(17.2)	(7.5)	(25.2)	外裏 ハケメ 内面 口縁部 ハケメ 四周 断部 ハケメ 内面 廉部ハケメ	褐色	白・赤色粒子	
171	*	14	甕	29.3	-	-	外裏 ハケメ 内面 口縁部 ハケメ 四周 断部 ハケメ 内面 廉部	淡茶褐色	素	
171	*	15	台付甕	-	(9.6)	-	外裏 ハラナデ 内面 ハラナデ ハケメ 四周 断部 ハケメ 内面 廉部	深褐色	白・赤色粒子、黒 斑	
171	*	16	萬字	27.4	-	-	外裏面 ミガキ	淡茶褐色	白・赤・黒色粒子、 雲母	
171	*	17	*	(23.0)	-	-	外裏 ミガキ 内面 橫筋文 鋸齒文	*	素	
171	*	18	*	-	11.0	-	内外面 廉部のため不明	*	白・赤・黒色粒子、 やや密	脚部貫通孔
171	*	19	*	-	11.0	-	*	暗褐色	*	*
171	*	20	器台	9.0	-	-	*	茶褐色	素	*
171	*	21	*	-	-	-	外裏 ミガキ 内面 廉部のため不明	淡茶褐色	白・赤・黒色粒子、 雲母	*
171	*	22	*	-	(8.6)	-	内外面 廉部のため不明	*	白・赤色粒子、や や粗	器部中央 脚部貫通孔
172	03L-13	1	甕	(15.0)	-	-	外裏 口縁部 縦凹線 連状浮文 廉部 ハケメ 内面 口縁部 縦筋文	*	白色粒子	赤色胎形
172	表 探	2	*	-	-	-	外裏 頂部ハケメ 廉部 御鉢状工具 内面 ハケメ 廉部後	*	黑色粒子、やや粗	
172	03N-06	3	*	-	-	-	外裏 ミガキ 内面 ハケメ	茶褐色	やや粗	
172	03L-12 03L-13	4	鉢	20.4	-	-	内外面 ミガキ ハケメ	*	褐色粒子、素	
172	082-01	5	甕?	(13.8)	-	-	内面 指捺痕	淡茶褐色	やや粗	
172	表 探	6	甕	-	(6.0)	-	外裏 ミガキ	*	赤・黑色粒子、や や粗	
172	03N-06	7	*	6.7	4.8	10.8	内外面 ハケメ	*		
172	*	8	*	7.4	5.0	10.1	外裏 ハケメ 内面 ハケメ 指捺痕	*	白・赤色粒子	
172	*	9	*	-	6.0	-	外裏 ハケメ 内面 指捺痕 ハラナデ ハケメ	赤褐色	赤色粒子、やや粗	
172	07D-15	10	*	8.7	5.4	14.0	内面 指捺痕	淡茶褐色	白・赤色粒子、素	
172	03L-12	11	甕	(21.8)	-	-	S字口縁 口縁中段斜変 外面斜位ハケ メ 内面 指ナデ	*	白・褐色粒子、雲 母	
172	08D-03	12	*	(18.5)	-	-	S字口縁 外面斜位ハケメ 内面 斜位ハケメ 指ナデ	茶褐色	白色粒子、やや粗	
172	03L-13	13	*	(15.3)	-	-	S字口縁 外面斜位ハケメ後横位ハケ メ 内面 斜位ハケメ 指ナデ	*	赤色粒子、雲母	
172	08D-03	14	*	(14.7)	-	-	S字口縁 外面斜位ハケメ後横位ハケ メ 内面 指ナデ	*	雲母	
172	08D-03	15	*	(13.8)	-	-	*	淡茶褐色	やや粗	
172	08B-06	16	*	(12.3)	-	-	*	*	白色粒子、雲母、 粗	
172	08E-01	17	*	(13.6)	-	-	*	*	赤色粒子、雲母	
172	08B-09	18	*	-	-	-	外裏斜位ハケメ後横位ハケメ 内面 指ナデ	*	雲母	
172	08E-01	19	*	(13.2)	-	-	S字口縁 外面斜位ハケメ後横位ハケ メ 内面 指ナデ	*	赤色粒子、雲母、 粗	
172	08A-06	20	*	-	-	-	外裏斜位ハケメ後横位ハケメ 内面 指ナデ	*		
172	表 探	21	*	(22.0)	-	-	S字口縁 外面斜位ハケメ後横位ハケ メ 内面 指ナデ	茶褐色		
172	08B-06	22	*	(14.0)	-	-	*	*	白・赤色粒子	
172	08E-01	23	*	(11.8)	-	-	S字口縁 外面斜位ハケメ後横位ハケ メ 内面 指ナデ	*	赤色粒子、雲母、 やや粗	
172	09O-02	24	*	(13.2)	-	-	*	淡茶褐色		
172	03Q-11	25	*	(16.2)	-	-	S字口縁 外面斜位ハケメ 内面 指ナデ	*	白色粒子、雲母	
172	09O-12	26	*	(16.0)	-	-	*	*	赤色粒子、雲母	
172	08F-03	27	*	(17.1)	-	-	*	茶褐色	雲母	
172	08B-06	28	*	(15.6)	-	-	S字口縁	*	*	
173	02K-13	29	台付甕	17.0	8.7	21.6	S字口縁 外面 斜位 指位 斜位斜位ハケ メ 内面 指ナデ 合成折り返し	淡茶褐色		
173	08A-06	30	甕	-	-	-	外裏斜位ハケメ後横位ハケ メ 内面 指ナデ	暗褐色	赤色粒子、雲母	

(法量の単位はcm、-は計測不能()は推定値)

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
173	03L-13	31	台付甕	-	7.8	-	外面斜面ハケメ後接2ハケメ 内面 ハケメ 脚台部折り返し	茶褐色	白色粒子	
173	03L-12	32	*	17.0	9.4	28.4	S字口縁 外面斜面ハケメ 内面 ハケメ 脚台部折り返し	*	赤色粒子	
173	08B-08	33	甕	(35.6)	-	-		黄褐色	黄土、やや密	
173	08A-06	34	高环	13.0	-	-	内外面 ミガキ	茶褐色	赤色粒子、密	
173	07D-19	35	*	(13.8)	-	-	*	褐褐色	白・赤色粒子、密	
173	03O-02 03P-02	36	*	(28.4)	-	-	*	明褐色	白色粒子	
173	07A-18 07A-19	37	*	-	-	-	外面 ミガキ 内面 指彫痕	淡茶褐色	赤色粒子、密	脚部貫通孔
173	08A-06	38	*	-	10.6	-	外面 ミガキ 内面 ハケメ	褐褐色	黑色粒子、粗	*
173	*	39	脚台	-	(14.2)	-	内外面 磨耗のため不明	*	赤色粒子、密	器身中央・脚部貫通孔
173	表 採	40	*	(6.8)	(8.7)	8.0	外面 ミガキ	*	やや密	脚部貫通孔
173	03N-06	41	片口甕	14.0	5.0	11.0	内外面 ハケメ	淡茶褐色	やや粗	
173	03L-13	42	鉢	10.2	2.7	4.7	内面 指彫痕	褐褐色	密	

第10表 V区出土遺物観察表

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
174	153号住居	1	甕	15.0	6.5	27.3	外面 磨耗 傷かにハケメ ミガキ 内面 指彫痕 ハケメ	淡茶褐色		脚部穿孔
174	*	2	高環	21.0	-	-	外腹 磨耗 傷かにハケメ ミガキ 内腹 ミガキ 周囲ハケメ	*	墨色	
174	155号住居	1	甕	(13.3)	9.0	24.2	外腹 斧引近口縁 内面浮文 傷かにハケメ 内腹 ハケメ 浮文	*	赤色粒子、密	
174	*	2	*	-	7.0	-	外腹 磨耗 傷かにハケメ 内腹 指彫痕	茶褐色	白・赤・黒色粒子、調節孔	
174	*	3	台付甕	17.0	9.5	25.5	口唇部 刃目 内外面 ハケメ	淡茶褐色		
174	*	4	*	15.4	8.4	19.3	外腹 口唇部 刃目 内面 縦ハケ 内腹 脚台部 ヘラナデ	褐褐色	赤色粒子、墨色	
174	*	5	*	17.8	9.0	28.0	斧引近口縁 外腹 ハケメ 内腹 ハケメ 指彫痕	茶褐色	墨色	
174	156号住居	1	甕	(18.8)	-	-	L口唇部 刃目 内外面 ヘラナデ	*	白・黒色粒子、密	
174	*	2	*	(16.8)	-	-	外腹 ハケメ 内腹 ハケメ ヘラナデ 指彫痕	*	白・赤色粒子、密	
174	160号住居	1	甕	-	6.4	-	外腹 ミガキ 内腹 ヘラナデ	褐褐色	赤色粒子、粗	
174	*	2	台付甕	-	10.3	-	外腹 ハケメ 内腹 指彫痕 ヘラナデ	褐褐色	白・赤色粒子、密	
174	161号住居	1	高環	-	11.0	-	内外面 磨耗のため不明	茶褐色	白色粒子、やや密	脚部貫通孔

第3節 平安時代

第11表 I区出土遺物観察表

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
175	3号住居	1	土師器 环	(11.8)	(5.0)	3.9	体部・底部ハケズリ 内腹 塗文	褐褐色	赤色粒子、密	
175	*	2	*	(11.9)	-	-	体部 ヘラケズリ	黄褐色	赤色粒子	
175	*	3	*	(12.2)	(6.2)	3.5	体部 ヘラケズリ 内腹 塗文	褐褐色	赤色粒子、密	
175	*	4	*	-	(5.3)	-	体部 ヘラケズリ 底部系切り後ヘラケ 内腹 塗文	*	*	
175	*	5	*	-	(5.0)	-	*	淡茶褐色	*	
175	*	6	土師器 皿	(14.2)	(6.6)	-	体部 ヘラケズリ 内腹 塗文	褐褐色	*	
175	*	7	*	(16.2)	-	-	*	*	*	
175	*	8	*	-	(6.6)	-	底部系切り後ヘラケズリ	*	*	

(法量の単位はcm、ーは計測不能()は推定値)

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	様式・形態の特徴	色調	胎土	備考
175	4号住居	1	土器器 环	12.0	4.8	4.6	体部 底部へラケズリ 底部へラケズリ 成部未切り後へラケズ リ	暗褐色	赤色粒子、害	
175	+	2	+	12.5	5.1	4.5	体部 底部へラケズリ	*	*	
175	+	3	+	12.4	4.7	4.2	体部 底部へラケズリ	茶褐色	*	
175	+	4	+	12.5	3.9	4.6	体部 底部へラケズリ	暗褐色	*	体部外面被削 口唇部 内面底付青
175	+	5	+	14.5	5.5	5.6	体部 底部へラケズリ	*	*	体部外面墨青
175	+	6	+	—	(4.2)	—	体部へラケズリ 成部未切り後へラケズ リ	茶褐色	*	
175	+	7	+	—	6.3	—	—	*	白・赤色粒子	
175	+	8	+	—	4.5	—	—	*	赤色粒子	
175	+	9	+	—	(8.7)	—	底部削り出し高台 内面青文	暗褐色	*	
175	+	10	土器器 内面环	—	(5.0)	—	体部 底部へラケズリ 内面 青文	淡茶褐色	赤色粒子、害	
175	+	11	+	—	(4.8)	—	成部へラケズリ 内面 青文	暗褐色	*	
175	+	12	+	(12.8)	—	—	体部へラケズリ	淡茶褐色	*	
175	+	13	+	—	5.6	—	体部へラケズリ 成部未切り後へラケズ リ	赤褐色	*	
175	+	14	+	(13.8)	—	—	体部へラケズリ	暗褐色	*	
175	+	15	+	—	(8.4)	—	—	淡茶褐色	*	
175	+	16	+	—	5.9	—	体部 底部へラケズリ	暗褐色	*	
175	+	17	土器器 皿	13.4	5.0	3.0	体部へラケズリ 成部未切り後へラケズ リ	茶褐色	*	底部外面被削
175	+	18	+	12.2	3.5	2.8	体部 底部へラケズリ	暗褐色	*	底部外面墨青
175	+	19	+	12.4	3.5	2.0	—	淡黄褐色	*	
175	+	20	+	13.0	4.5	2.8	—	暗褐色	*	
175	+	21	+	(12.2)	3.7	2.7	—	*	*	
175	+	22	+	(13.0)	—	—	体部へラケズリ	*	*	
175	+	23	+	12.9	4.8	2.6	体部へラケズリ 成部未切り後へラケズ リ	淡茶褐色	*	
175	+	24	+	11.7	—	—	体部へラケズリ	暗褐色	*	
175	+	25	土器器 环	11.0	—	—	—	灰色	害	
175	+	26	+	—	(6.8)	—	—	*	*	
175	+	27	灰陶陶器 碗	(16.0)	—	—	—	*	*	
175	+	28	灰陶陶器 盆	—	8.9	—	付高台	*	*	体部外面自然釉
176	+	29	土器器 皿	(30.0)	—	—	内面裏 ハケメ 内面 指掘痕	暗褐色	白色粒子、紫母、 粗	
176	+	30	+	(28.0)	—	—	内面裏 ハケメ	*	*	
176	+	31	+	(28.5)	—	—	—	*	白色粒子、紫母	
176	+	32	+	—	(8.4)	—	—	*	白色粒子、紫母、 粗	底部外面本紫釉
176	+	33	铁製品 空引金	長さ 8.4	巾 2.7	厚さ 3.5	—	—	—	
176	5号住居	1	土器器 环	(10.6)	(4.2)	5.2	体部へラケズリ 内面 青文	暗褐色	赤色粒子、害	
176	+	2	土器器 皿	(16.2)	7.0	2.7	底部へラケズリ	*	*	
176	+	3	+	—	(6.2)	—	体部へラケズリ 成部未切り後へラケ ズリ 内面 青文	茶褐色	*	
176	+	4	破壊器 釜	(16.3)	—	4.1	—	青灰色	白色粒子、害	
176	+	5	破壊器 环	(13.0)	(8.2)	4.1	—	灰褐色	やや害	
176	+	6	土器器 皿	—	(7.0)	—	内面裏 ハケメ	暗褐色	白色粒子、紫母、 粗	底部外面本紫釉
176	+	7	+	—	(8.0)	—	—	*	*	*
176	6号住居	1	土器器 环	11.5	5.5	4.5	体部へラケズリ 成部未切り後へラケズ リ 内面 青文	淡褐色	赤色粒子、害	底部外面墨青
176	+	2	+	(10.3)	—	—	内面 青文	*	*	

(法量の単位はcm、-は計測不能()は推定値)

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	高さ	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
176	6号住居	3	土器器 环	(11.0)	5.8	4.2	底部余切り後ヘラケズリ 内面 帽文	棕褐色	赤色粒子、密	
176	*	4	*	(10.9)	-	-	体部ヘラケズリ 内面 帽文	*	*	
176	*	5	*	(11.7)	-	-	内面 帽文	茶褐色	*	
176	7号住居	1	*	(10.6)	(4.8)	4.5	体部ヘラケズリ 底部余切り後ヘラケズリ 内面 帽文	棕褐色	*	
176	*	2	*	10.8	5.2	4.5	*	赤褐色	*	
176	*	3	*	(10.3)	(5.4)	4.0	*	棕褐色	*	
176	*	4	*	(9.8)	5.5	3.8	底部余切り後ヘラケズリ 内面 帽文	淡褐色		
176	*	5	*	(10.4)	5.4	4.1	体部ヘラケズリ 底部余切り後ヘラケズリ 内面 帽文	赤褐色	赤色粒子、密	
176	*	6	*	(11.0)	5.8	4.2	*	棕褐色	*	
176	*	7	*	(10.4)	4.8	4.0	*	茶褐色	*	
176	*	8	*	(10.2)	-	-	体部ヘラケズリ 内面 帽文	*	*	
177	*	9	*	(15.3)	-	-	内面 帽文	棕褐色	*	
177	*	10	*	11.2	5.2	4.6	体部ヘラケズリ 底部余切り後ヘラケズリ 内面 帽文	*	*	
177	*	11	*	(12.5)	5.7	4.9	体部ヘラケズリ 底部余切り後ヘラケズリ 内面 帽文	*	*	
177	*	12	*	(8.0)	-	-	割り出し高台	茶褐色	*	
177	*	13	*	-	(5.0)	-	体部ヘラケズリ 底部余切り後ヘラケズリ 内面 帽文	棕褐色	*	底面内面無
177	*	14	*	-	(7.3)	-	底部余切り後ヘラケズリ 割り出し高台 内面 帽文	*	*	
177	*	15	*	(11.0)	-	-	*	淡褐色	密	
177	*	16	土器器 环	(12.0)	-	-	*	青褐色	*	
177	*	17	土器器 环	-	(5.6)	-	*	灰褐色		
177	*	18	土器器 环	(23.2)	-	-	内外面 ハケメ	茶褐色	白色粒子、密	
177	*	19	*	(25.5)	-	-	*	暗褐色	*	
177	*	20	*	(25.0)	-	-	*	茶褐色	密	
177	*	21	*	-	7.0	-	外面 ハケメ	暗褐色	白色粒子、粗	底部外面木目模
177	*	22	*	-	8.2	-	内外面 ハケメ 内面 指窓	淡茶褐色	白色粒子、密	
177	6号住居	1	土器器 皿	(14.8)	(6.0)	2.9	底部余切り後ヘラケズリ	茶褐色	赤色粒子、密	
177	9号住居	1	土器器 皿	(13.0)	(6.0)	5.0	体部ヘラケズリ 底部余切り後ヘラケズリ	*	*	
177	*	2	*	(12.4)	-	-	体部ヘラケズリ	赤褐色	*	
177	*	3	*	-	-	-	体部ヘラケズリ 内面 帽文	*	*	
177	*	4	土器器 皿	(13.7)	-	-	*	棕褐色	*	
177	*	5	*	-	6.0	-	底部余切り後ヘラケズリ 内面 帽文	茶褐色	*	
177	*	6	土器器 皿	-	5.4	-	体部ヘラケズリ 底部余切り後ヘラケズリ	棕褐色	*	
177	*	7	土器器 皿	(14.3)	-	-	*	淡茶褐色	*	
177	*	8	土器器 皿	(26.0)	-	-	内外面 ハケメ	暗褐色	白色粒子、密	
177	*	9	*	(26.7)	-	-	*	茶褐色	*	
178	*	10	*	(28.7)	-	-	内外面 ハケメ 内面 指窓	暗褐色	*	
178	*	11	*	-	(8.0)	-	*	黑褐色	密	底部外面木目模
178	*	12	*	-	(9.0)	-	内外面 ハケメ 内面 指窓	茶褐色	*	*
178	10号住居	1	*	-	(8.7)	-	内外面 ハケメ	暗褐色	白色粒子、密	*
178	11号住居	1	土器器 环	(11.2)	(4.9)	(4.3)	体部 底部ヘラケズリ 内面 帽文	茶褐色	赤色粒子、密	
178	*	2	*	-	(5.4)	-	体部ヘラケズリ 底部余切り後ヘラケズリ	棕褐色	*	
178	*	3	土器器 皿	(13.2)	-	-	*	茶褐色	*	

(法量の単位はcm、-は計測不能()は推定値)

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	高さ	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
178	11号住居	4	土器器皿	(13.2)	-	-		茶褐色	赤色粒子、雲母、やや粗	
178	*	5	土器器皿	-	(9.0)	-	内外面 ハケメ	暗褐色	白色粒子、雲母、やや粗	底部外面木葉痕
178	12号住居	1	土器器皿	10.5	5.4	4.3	体部ヘラケズリ 底部未切り後ヘラケズリ 内面 塗文	茶褐色	赤色粒子、雲母、やや粗	
178	*	2	*	11.2	6.3	4.1	*	淡褐色	密	
178	*	3	*	10.6	5.0	4.6	*	茶褐色	赤色粒子、雲母、やや粗	
178	*	4	*	11.5	-	-	内面 塗文	淡茶褐色	*	
178	*	5	*	11.3	6.0	3.5	底部未切り後ヘラケズリ 内面 塗文	赤褐色	*	底部外面木葉痕
178	*	6	*	(12.2)	-	-	体部ヘラケズリ	茶褐色	*	
178	*	7	土器器皿?	-	6.1	-	底部ヘラケズリ	茶褐色	*	
178	*	8	土器器皿	(15.5)	7.0	2.6		*	*	
178	*	9	土器器皿	(11.6)	6.5	3.8	底部未切り	青灰色	白色粒子、雲母、やや粗	
178	*	10	土器器皿	(15.4)	-	-		茶褐色	*	
179	*	11	土器器皿	(16.4)	-	-		*	赤色粒子、雲母、やや粗	
179	*	12	*	(14.8)	-	-		淡褐色	褐色粒子、雲母、やや粗	
179	*	13	土器器皿	(25.5)	-	-	内外面 ハケメ 内面 塗文	茶褐色	白色粒子、雲母、やや粗	
179	*	14	*	23.3	-	-	*	暗褐色	*	
179	*	15	*	(26.7)	-	-	*	*	*	
179	*	16	*	-	(7.8)	-	内外面 ハケメ	茶褐色	*	底部外面木葉痕
179	*	17	*	-	(8.5)	-	*	暗褐色	*	*
179	13号住居	1	土器器皿	(15.3)	-	-	内面 塗文	暗褐色	赤色粒子、雲母、やや粗	
179	06E-20	1	土器器皿	-	5.8	-	体部ヘラケズリ 底部未切り後ヘラケズリ 内面 塗文	赤褐色	*	
179	*	2	*	-	(5.0)	-	*	茶褐色	*	
179	*	3	*	-	(6.4)	-	底部未切り後ヘラケズリ 地り出し高台 内面 塗文	黄褐色	*	
179	07E-04	4	土器器皿	-	(4.0)	-	*	赤褐色	*	
179	*	5	*	(12.0)	-	-	内面 塗文	茶褐色	*	
179	06D-20	6	*	(13.8)	-	-	*	暗褐色	*	
179	06J-04	7	*	(13.0)	-	-	*	*	*	

第12表 II区出土遺物観察表

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	高さ	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
180	2号住居	1	土器器皿	(11.4)	(4.6)	3.8	体部ヘラケズリ	淡茶褐色	赤色粒子、雲母、やや粗	
180	*	2	土器器皿	(12.4)	(3.3)	2.2	体部 底部ヘラケズリ	暗褐色	*	
180	*	3	土器器皿	(15.4)	-	-	内外面 磨耗のため不明	暗褐色	白色粒子、雲母、やや粗	
180	*	4	*	(15.8)	-	-	内外面 ハケメ	茶褐色	雲母、やや粗	
180	*	5	*	(20.4)	-	-	*	暗褐色	*	
180	3号住居	1	土器器皿	(13.8)	(6.2)	4.3	体部ヘラケズリ 内面 塗文	茶褐色	赤色粒子、やや粗	
180	*	2	*	(12.2)	-	-	*	*	赤色粒子、雲母、やや粗	
180	*	3	*	(11.2)	-	-	体部ヘラケズリ	茶褐色	赤色粒子、やや粗	
180	*	4	*	-	(6.8)	-	*	茶褐色	赤色粒子、雲母、やや粗	
180	*	5	土器器皿 内周環	(15.2)	-	-	体部ヘラケズリ	茶褐色	赤色粒子、やや粗	
180	*	6	土器器皿	(12.0)	-	-	内外面 ハケメ	茶褐色	雲母、やや粗	

(法量の単位はcm、-は計測不能 () は推定値)

標図番号	出土地点	番号	器種	L径	底径	器高	形状・形態の特徴	色調	胎土	備考
180	3号住居	7	土師器 壺	(32.4)	-	-	内外面 ハケメ 内面 密封のため不明	赤褐色	雲母、粗	
180	*	8	*	(29.8)	-	-	内外面 ハケメ 内面 滴頭痕	*		
180	4号住居	1	土師器 壺	(13.2)	4.9	2.6	体部 底部ヘラケズリ 内面 塗文	*	赤色粒子、密	
180	5号住居	1	土師器 壺	(12.8)	-	-	体部ヘラケズリ 内面 塗文	淡褐色	褐色粒子、密	
180	*	2	土師器 壺	(12.2)	(5.8)	2.2	底部ヘラケズリ	茶褐色	赤色粒子、密	
180	*	3	土師器 壺	(31.8)	-	-	内外面 ハケメ	*	白色粒子、雲母、 やや粗	
180	6号住居	1	土師器 壺	(12.2)	-	-	内面 塗文	淡褐色	赤色粒子、密	
180	*	2	*	(11.2)	-	-	体部ヘラケズリ	淡褐色	*	
180	*	3	*	-	(5.4)	-	*	茶褐色	*	
181	7号住居	1	*	(10.2)	-	-	*	黒褐色	褐色粒子、密	
181	*	2	土師器 壺	(16.0)	-	-		茶褐色	赤色粒子、密	
181	*	3	土師器 壺	(14.4)	7.6	13.8	内外面 ハケメ	茶褐色	白色粒子、雲母、 やや粗	底部外面本塗底
181	*	4	*	(23.4)	-	-	*	茶褐色	白色粒子、雲母、 粗	
181	*	5	*	(25.0)	-	-	*	茶褐色	雲母、やや粗	
181	*	6	*	(28.8)	-	-	*	茶褐色	白色粒子、雲母、 やや粗	
181	*	7	*	-	(8.0)	-	内外面 ハケメ 内面 滴頭痕	暗褐色	*	底部外面本塗底
181	*	8	*	-	(8.0)	-	内外面 ハケメ	茶褐色	*	*
181	*	9	*	-	(8.3)	-	*	*	白色粒子、雲母	*
181	8号住居	1	土師器 壺	(11.2)	(5.8)	4.0	底部ヘラケズリ	明茶褐色	赤色粒子、密	
181	9号住居	1	*	(16.0)	-	-	体部ヘラケズリ 内面 塗文	茶褐色	褐色粒子、密	
181	*	2	*	(14.8)	(5.0)	(5.0)		茶褐色	赤色粒子、密	
181	*	3	*	(11.8)	-	-		*	褐色粒子、密	
181	*	4	*	(11.8)	-	-	体部ヘラケズリ	淡茶褐色	赤色粒子、密	
181	*	5	*	-	(4.2)	-	*	茶褐色	褐色粒子、密	
181	*	6	土師器 壺	(13.8)	-	-	内面 塗文	明茶褐色	*	
181	*	7	*	(12.3)	-	-		茶褐色	*	
181	*	8	*	-	(5.2)	-	内面 塗文	茶褐色	*	
181	*	9	*	-	(6.0)	-	体部ヘラケズリ 内面 塗文	淡茶褐色	褐色粒子、密	
182	*	10	土師器 壺	12.4	(4.0)	3.2	体部ヘラケズリ	茶褐色	褐色粒子、密	
182	*	11	*	-	4.5	-	体部ヘラケズリ 底部条切り後ヘラケズリ	淡茶褐色	*	
182	*	12	土師器 壺	(12.2)	(4.0)	2.5		*	*	
182	*	13	土師器 壺	(28.2)	-	-	内外面 ハケメ	茶褐色	白色粒子、雲母、 やや粗	
182	*	14	*	(30.2)	-	-	*	茶褐色	*	
182	*	15	*	-	(9.4)	-	*	*	*	底部外面本塗板
182	*	16	*	-	(7.2)	-	*	*	白色粒子、やや粗	*
182	10号住居	1	土師器 壺	(13.8)	-	-	体部 ベルベット	淡茶褐色	赤・黒色粒子、や や粗	
182	*	2	*	(13.2)	-	-		茶褐色	褐色粒子、密	
182	*	3	*	-	(4.7)	-	体部 底部ヘラケズリ	淡茶褐色	褐色粒子、やや密	
182	*	4	土師器 壺	(23.6)	9.1	11.2	*	茶褐色	褐色粒子、密	
182	*	5	土師器 壺	(20.4)	-	-	内外面 ハケメ	*	白色粒子、雲母、 やや粗	
182	*	6	*	-	-	-	*	*	雲母	
182	*	7	土師器 壺	-	20.5	-	内面 タキキ	深色	青	

第13表 II b 区出土遺物観察表

(法量の単位はcm、-は計測不能 () は推定値)

序団番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
183	15号住居	1	土器器 环	(16.5)	6.2	5.3	体部・底部ヘラケズリ	暗灰褐色	褐色粒子、密	
183	*	2	*	(14.2)	-	-	体部ヘラケズリ	深褐色	褐色粒子、密	
183	*	3	土器器 皿	12.8	4.0	2.6	体部ヘラケズリ 底部糸切り後ヘラケズ リ	暗灰褐色	褐色粒子、密	
183	*	4	*	(13.8)	-	-		明褐色		
183	*	5	土器器 皿	-	4.0	-	体部ヘラケズリ 底部糸切り後ヘラケズ リ	灰褐色		
183	*	6	土器器 皿?	-	8.2	-	底部糸切り	褐色	密	
183	16号住居	1	土器器 环	(11.6)	-	-	内面縦文	深褐色	白・赤色粒子、密	体部外表面縮割
183	*	2	*	10.8	3.2	4.6	体部ヘラケズリ 底部糸切り後ヘラケズ リ 内面縦文	灰褐色	褐色粒子、密	
183	*	3	*	-	6.5	-	体部ヘラケズリ 底部糸切り後ヘラケズ リ	明褐色	*	
183	*	4	土器器 皿	(23.0)	-	-	内外部ハケメ 内面縮痕	暗褐色	雲母、やや粗	
183	*	5	*	(26.4)	-	-	*	*	雲母、やや密	
183	*	6	*	-	(8.8)	-	外面脚下半～底部ハケメ 内面ハケメ縮痕	*	*	底部外表面粗

第14表 III区出土遺物観察表

序団番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
184	1号住居	1	土器器 环	11.0	5.4	4.1	体部ヘラケズリ 底部糸切り後ヘラケズ リ 内面縦文	暗褐色	褐色粒子、密	
184	*	2	*	-	(6.6)	-	内面 縦文	暗褐色	*	
184	*	3	土器器 皿内底坏	-	(6.8)	-	体部 内面ヘラケズリ	暗褐色	褐色粒子、密	
184	*	4	土器器 皿	(15.0)	-	-		暗褐色	褐色粒子、やや密	
184	*	5	*	(14.0)	-	-		*	*	
184	*	6	土器器 皿	(14.0)	-	-	内外面 ハケメ	*	白色粒子、やや粗	
184	3号住居	1	土器器 环	(11.0)	(5.0)	4.2		暗褐色	褐色粒子、密	
184	*	2	土器器 皿	(14.2)	-	-		暗褐色	*	
184	*	3	土器器 皿	-	-	-		灰褐色	褐色粒子、密	
184	4号住居	1	土器器 皿	20.8	-	-	内外面 ハケメ	暗褐色	雲母、やや粗	
184	5号住居	1	土器器 皿	(14.6)	-	-		暗褐色	褐色粒子、密	
184	*	2	土器器 皿	(14.8)	-	-		*		
184	*	3	土器器 皿	(21.5)	-	-	内外面 ハケメ 内面 缩痕	暗褐色	白色粒子、雲母、 鐵	
184	6号住居	1	土器器 环	11.8	4.6	4.0	体部 底部ヘラケズリ 内面 縦文	赤褐色	褐色粒子	
184	*	2	*	12.0	4.6	3.8	*	暗褐色	赤・黒色粒子、や 密	
184	*	3	*	(12.6)	-	-	体部ヘラケズリ 内面 縦文	暗褐色	褐色粒子、密	
184	*	4	*	12.0	-	-	体部 底部ヘラケズリ	暗褐色	*	
184	*	5	土器器 皿	12.8	4.6	2.4	底部糸切り後ヘラケズリ 内面 縦文	*	*	
184	*	6	*	-	5.0	-	底部糸切り後ヘラケズリ	*	褐色粒子、やや密	
184	7号住居	1	土器器 环	11.4	5.0	3.8	体部ヘラケズリ 底部糸切り後ヘラケズ リ 内面 縦文	暗褐色	褐色粒子、密	
184	*	2	*	10.9	2.8	4.2	*	暗褐色	*	
184	*	3	*	(12.8)	(5.0)	4.3	体部ヘラケズリ 内面 縦文	*	褐色粒子、密	
184	*	4	*	(13.2)	-	-	体部ヘラケズリ	暗褐色	褐色粒子、密	
184	*	5	*	(12.4)	-	-	*	*	*	
184	*	6	土器器 皿内底坏	-	7.0	-	底部糸切り後ヘラケズリ 内面 縦文	*	赤・黒色粒子、密	

(法量の単位はcm、一は計測不能()は推定値)

桟回番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	高さ	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
184	7号住居	7	土師器 瓶	(12.4)	(4.2)	2.7	底部ヘラケズリ 内面 唇文	棕褐色	赤色粒子、密	
184	*	8	土師器 瓶	—	(7.0)	—	底部ヘラケズリ 内面 唇文	赤褐色	赤色粒子、やや密	
184	*	9	土師器 瓶	(25.6)	—	—	内外面 ハケメ	暗褐色	やや粗	
184	*	10	陶器 瓶	—	—	—	外面 タタキ	灰褐色	白色粒子、密	
185	8号住居	1	土師器 杯	(11.4)	—	—	底部ヘラケズリ 内面 唇文	茶褐色	白色粒子、密	
185	*	2	土師器 内腹杯	—	(6.0)	—	*	棕褐色	赤色粒子、密	
185	*	3	土師器 内腹杯	—	(4.8)	—	付高台	褐色	白色粒子、やや密	
185	*	4	*	—	8.2	—	*	棕褐色	赤色粒子、密	
185	*	5	土師器 瓶	—	(9.0)	—	内外面ハケメ 内面 指痕	暗褐色	白色粒子、やや粗	底部外面本漆痕
185	*	6	*	—	(8.6)	—	*	茶褐色	白色粒子、やや密	*
185	9号住居	1	土師器 杯	11.4	5.1	4.5	底部 底部ヘラケズリ	褐色	密	
185	*	2	*	(14.3)	6.2	4.5	*	茶褐色	赤色粒子、密	
185	*	3	*	(14.2)	(5.0)	5.3	底部ヘラケズリ 底部余切り後ヘラケズリ	明褐色	白・赤色粒子、密	体部外面墨痕
185	*	4	*	—	4.4	—	*	淡茶褐色	赤色粒子、密	
185	*	5	土師器 内腹杯	14.6	(4.5)	5.2	体部 底部ヘラケズリ	褐色	*	体部外面墨痕
185	*	6	土師器 皿	(13.6)	—	—	底部ヘラケズリ	茶褐色	*	
185	*	7	*	(13.5)	3.6	2.4	体部下半 底部ヘラケズリ	明褐色	*	
185	*	8	*	(13.6)	—	—	体部ヘラケズリ	暗褐色	赤色粒子、密	体部外面墨痕
185	*	9	土師器 杯	—	2.0	—	体部ヘラケズリ 底部余切り後ヘラケズリ	茶褐色	赤色粒子、密	
185	*	10	灰釉陶器 瓶	(15.2)	—	—	*	灰褐色	密	
185	*	11	土師器 瓶	(29.0)	—	—	内外面ハケメ	暗褐色	雪母	
185	10号住居	1	土師器 杯	(13.2)	—	—	体部ヘラケズリ	茶褐色	赤色粒子、密	
185	*	2	*	—	4.2	—	体部 底部ヘラケズリ	*	*	
185	*	3	*	—	(5.4)	—	体部ヘラケズリ 底部余切り後ヘラケズリ 内面略凹	暗褐色	*	
185	*	4	土師器 皿	(12.8)	(6.0)	2.0	体部ヘラケズリ 底部余切り後ヘラケズリ	*	赤色粒子、小瘤	
185	*	5	*	12.0	5.9	2.1	底部ヘラケズリ	*	赤色粒子	
185	*	6	土師器 皿	(30.2)	—	—	内外面 ハケメ	暗褐色	白色粒子、やや密	
185	*	7	*	(30.0)	—	—	*	茶褐色	*	
185	*	8	*	(30.0)	—	—	*	暗褐色	雪母	
186	11号住居	1	土師器 杯	(12.0)	4.3	4.2	体部ヘラケズリ 底部余切り後ヘラケズリ	茶褐色	赤色粒子、密	
186	*	2	*	(14.2)	5.0	4.8	体部ヘラケズリ	暗褐色	白色粒子、密	
186	*	3	*	15.6	(5.7)	5.0	体部 底部ヘラケズリ	淡茶褐色	赤色粒子、密	
186	*	4	*	14.0	—	—	体部ヘラケズリ	茶褐色	褐色粒子、密	
186	*	5	土師器 内腹杯	(14.0)	—	—	*	淡茶褐色	赤色粒子、密	
186	*	6	*	—	(6.6)	—	*	*	密	
186	*	7	土師器 皿	12.7	5.3	2.2	体部ヘラケズリ 底部余切り後ヘラケズリ	*	*	
186	*	8	*	(13.0)	(5.0)	2.0	体部ヘラケズリ	茶褐色	*	
186	*	9	土師器 瓶	—	5.0	—	体部ヘラケズリ 底部余切り後ヘラケズリ	*	赤色粒子、密	
186	*	10	土師器 皿	—	5.0	—	体部ヘラケズリ	*	*	
186	*	11	土師器 瓶	(13.4)	(7.4)	9.8	内外面 ハケメ 内面 膜張痕	赤褐色	底部外面本漆痕	
186	*	12	*	(30.8)	—	—	*	茶褐色	粗	
186	*	13	*	(26.6)	—	—	内外面 ハケメ	*	*	

(法量の単位はcm、-は計測不能 () は推定値)

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
186	11号住居	14	土器器皿	(30.2)	-	-	内外面 ハケメ	茶褐色	粗	
186	+	15	土器器皿 内面縁口部 張裏器皿	(28.6)	-	-	体部ヘラケズリ	*	白・赤色粒子、や や青	
186	+	16	土器器皿	(34.0)	-	-		暗茶褐色	やや密	
186	12号住居	1	土器器皿	(11.4)	(5.3)	4.3	体部ヘラケズリ 内面 番文	淡茶褐色	赤色粒子、密	
186	+	2	+	-	5.2	-	体部ヘラケズリ 底部余切り後ヘラケズ リ 内面 番文	*	*	
186	+	3	+	10.0	5.6	3.8		茶褐色	*	
186	+	4	+	(11.0)	(5.0)	4.2		赤褐色	赤色粒子	
186	+	5	+	11.4	6.3	4.2	底部余切り後ヘラケズリ	淡茶褐色	赤色粒子、密	
186	+	6	+	-	4.8	-	体部ヘラケズリ	暗褐色	密	
186	1号堅穴状遺構	1	土器器皿	11.0	5.6	3.9	体部ヘラケズリ 底部余切り後ヘラケズ リ 内面 番文	茶褐色	赤色粒子、密	
186	表 探	1	土器器皿	-	5.7	-	底部余切り後ヘラケズリ	暗褐色	白・赤色粒子、密	底部外表面黒

第15表 IV a 区出土遺物観察表

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
187	20号住居	1	土器器皿	(12.0)	4.6	3.8	体部ヘラケズリ 底部余切り後ヘラケズ リ 内面 番文	赤褐色	赤色粒子、密	
187	+	2	+	11.2	5.0	4.2	体部 内面 番文	淡茶褐色	赤色粒子、密	
187	+	3	+	11.4	4.4	4.1	体部ヘラケズリ 底部余切り後ヘラケズ リ 内面 番文	赤褐色	赤色粒子、密	
187	+	4	+	(11.0)	3.8	3.8	*	暗褐色	*	
187	+	5	+	(11.5)	5.0	2.0	体部ヘラケズリ 底部余切り後ヘラケズ リ	淡茶褐色	*	
187	+	6	+	(10.8)	(4.4)	4.1	体部ヘラケズリ	*	*	
187	+	7	+	(10.8)	-	-		淡褐色	褐色粒子、やや密	
187	+	8	+	-	4.0	-	体部 底部ヘラケズリ	明褐色	褐色粒子、密	
187	+	9	+	-	4.8	-	底部余切り後ヘラケズリ	暗褐色	赤色粒子、密	底部外表面黒
187	+	10	土器器皿	12.8	5.3	2.3	表部ヘラケズリ 内面 番文	淡茶褐色	*	
187	+	11	+	13.8	5.8	1.8	体部 内面 番文	暗褐色	*	
187	+	12	+	(13.0)	(4.0)	1.8	体部 内面 番文	赤褐色	*	
187	+	13	+	(14.0)	(4.6)	1.7	底部ヘラケズリ	*	*	
187	+	14	土器器皿	(13.8)	-	-	内外面 ハケメ	*	白色粒子、密	
187	+	15	+	(12.8)	-	-	*	褐色	*	
187	+	16	+	(27.0)	-	-	*	茶褐色	粗	
187	+	17	+	(25.6)	-	-	*	*	白色粒子、密、 粗	
187	+	18	土器器皿	(16.4)	-	-	内面 番文	暗褐色	褐色粒子、密	
187	+	19	+	-	-	-	*	暗褐色	赤色粒子、密	外表面黒
187	+	20	張裏器皿	-	-	-		灰色	白色粒子、密	裏入か?
187	+	21	張裏器皿	-	-	-	外面 タキ 内面 張裏ヘラナデ	暗灰色	密	
187	+	22	陶製品 刀子	長5 (3.8)	幅1.2 (0.3)	厚8 (0.3)	底部ヘラケズリ 内面 番文ミガキ	茶褐色	赤色粒子、密	
188	21号住居	1	土器器皿 内面環	(16.8)	(7.0)	5.1	体部 内面 番文ミガキ	茶褐色	赤色粒子、密	
188	+	2	土器器皿	-	(5.2)	-	体部 内面 番文	茶褐色	*	
188	+	3	土器器皿	(13.8)	(5.4)	2.3	体部 底部ヘラケズリ	*	*	
188	+	4	+	(14.6)	-	-		*	*	
188	+	5	+	13.0	6.6	2.2	体部 底部ヘラケズリ 内面 番文	茶褐色	*	

(法量の単位はcm、-は計測不能()は推定値)

標印番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
188	21号住居	6	土器器 底	(12.7)	-	-	内外面 ハケメ	暗褐色	やや粗	
188	*	7	*	-	(8.2)	-	*	*	*	底部外腹木雲痕
188	*	8	土器器 底	-	-	-	体部凸沿	灰褐色	やや密	
188	*	9	土器器 底	(20.4)	-	-		*	密	
188	22号住居	1	土器器 底	(13.4)	5.8	4.3	体部 底部へラケズリ 内面 喰文	暗褐色	赤色粒子、密	
188	*	2	*	(12.4)	6.0	4.8	*	*	赤色粒子	
188	*	3	*	(10.8)	3.8	3.9	*	*	赤色粒子、密	
188	*	4	*	-	(4.0)	-	*	赤褐色	*	
188	*	5	*	-	5.0	-	*	*	*	
188	*	6	土器器 内面环	-	(6.4)	-	内面 喰文	淡茶褐色	白・赤色粒子、密	
188	*	7	土器器 底	11.8	5.3	3.5	体部 底部へラケズリ	暗褐色	赤色粒子、密	
188	*	8	土器器 底	(13.8)	(5.6)	2.4	内面 喰文	*	*	
188	*	9	*	-	5.8	-	底部へラケズリ 内面 喰文	赤褐色	*	
188	*	10	*	-	(5.5)	-	*	暗褐色	*	
188	*	11	*	(14.2)	-	-		淡茶褐色	*	
188	*	12	*	-	(7.4)	-		赤褐色	*	
188	*	13	*	-	5.2	-	体部へラケズリ 底部赤切り抜へラケズリ 内面 喰文	暗褐色	*	
188	*	14	*	-	(5.4)	-		暗褐色	褐色粒子、やや密	
188	*	15	*	-	(5.5)	-	底部へラケズリ	暗褐色	赤色粒子、密	
188	*	16	土器器 内面环	(21.0)	(8.4)	5.5	体部へラケズリ 刺り出し高台 内面 喰文	*	赤色粒子、やや密	
188	*	17	土器器 底	-	(8.4)	-	刺り出し高台?	*	赤色粒子、密	
188	*	18	土器器 底	-	-	-		暗褐色	密	
188	*	19	土器器 底	14.0	6.6	6.8	内外面 ハケメ	暗褐色	*	底部外腹木雲痕
189	*	20	*	24.8	-	-	*	*	白色粒子、雲母、粗	
189	*	21	*	25.4	-	-	*	茶褐色	雲母、粗	
189	*	22	*	29.5	-	-	*	*	白色粒子、雲母、粗	
189	*	23	*	31.4	-	-	*	*	白色粒子、粗	
189	*	24	陶製品 輪廻車	長さ 17.8	幅 4.5	厚さ 0.8				
189	*	25	陶製品 封?	長さ 9.4	幅 0.45	厚さ 0.45				
189	*	26	鐵錠	11.0	10.0	2.7				
189	23号住居	1	土器器 底	11.2	4.3	3.9	体部へラケズリ 底部赤切り抜へラケズリ 内面 喰文	基褐色	密	
189	*	2	*	11.2	4.8	4.4	体部 底部へラケズリ 内面 喰文	明褐色	赤色粒子、密	
189	*	3	土器器 底	(29.2)	-	-	内外面 ハケメ	暗褐色	やや粗	
189	30号住居	1	土器器 底	(12.4)	-	-	体部へラケズリ 内面 喰文	暗褐色	赤色粒子	
189	*	2	土器器 底	(14.0)	-	-	体部へラケズリ	暗褐色	赤色粒子、密	
189	31号住居	1	土器器 底	12.0	4.7	4.1	体部 底部へラケズリ	暗褐色	赤色粒子	
189	*	2	*	(15.2)	(6.2)	4.7	体部へラケズリ	暗褐色	褐色粒子、密	
189	*	3	*	(15.0)	-	-		淡褐色	赤色粒子	
189	*	4	土器器 内面环	-	(5.4)	-	体部へラケズリ	基褐色	*	
189	*	5	土器器 底	12.8	5.1	2.7	体部 底部へラケズリ	淡褐色	白・赤色粒子	
189	*	6	土器器 底	-	(12.0)	-		暗褐色	赤・黒色粒子	
189	*	7	土器器 底	(28.6)	-	-	内外面ハケメ	暗褐色	雲母	

(法量の単位はcm、-は計測不能 () は推定値)

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	従法・形態の特徴	色調	胎土	備考	
189	31号住居	8	土器器 盤	-	(9.8)	-	外面 ハラナデ 内面 ハケメ	暗褐色	小粒、雲母	底部外面部素面	
190	32号住居	1	土器器 盤	(10.8)	-	-	体部ヘラケズリ	淡褐色	密		
190	+	2	*	(12.2)	-	-	*	*	赤色粒子		
190	+	3	*	-	[5.0]	-	*	黄褐色	赤色粒子、密		
190	+	4	土器器 皿?	-	4.4	-	体部ヘラケズリ 底部未切り抜ヘラケズ リ	淡褐色	*		
190	+	5	土器器 皿環	(11.8)	-	-	体部ヘラケズリ	褐色	赤色粒子		
190	+	6	灰釉陶器 碗	(14.2)	3.8	4.4	台高台	灰褐色	白色粒子、密		
190	+	7	灰釉陶器 盆	-	-	-	*	*			
190	+	8	土器器 盤	(30.6)	-	-	内外面 ハケメ	暗褐色	白色粒子、雲母、 鐵		
190	37号住居	1	土器器 盤	(12.8)	(4.7)	5.2	体部ヘラケズリ	明褐色	やや粗		
190	+	2	*	15.2	-	-	*	暗褐色	赤色粒子、密		
190	+	3	*	(15.6)	-	-	*	明褐色	*		
190	+	4	土器器 皿環	(12.8)	-	-	体部ヘラケズリ 内面 壁文	淡褐色	*		
190	+	5	*	(15.4)	4.6	5.1	体部ヘラケズリ	淡茶褐色	*		
190	+	6	*	-	(5.8)	-	*	*	*		
190	+	7	土器器 皿	(11.4)	-	-	*	茶褐色	*		
190	+	8	*	(12.8)	-	-	*	明褐色	*		
190	+	9	*	(12.5)	5.7	2.4	*	茶褐色	*		
190	+	10	灰釉陶器 盆	-	-	-		淡灰色	密		
190	+	11	灰釉陶器 碗	-	(7.2)	-	台高台	*	*		
190	+	12	土器器 皿	(9.6)	-	-	内面 ハケメ	黑褐色	粗		
190	+	13	*	(29.2)	-	-	外腹 ハケメ	茶褐色	*		
190	+	14	*	29.0	-	-	内外面 ハケメ	暗褐色	白色粒子、鐵		
190	+	15	須恵器 盤	36.0	-	-		灰色	密		
190	+	16	須恵器 盤	長さ 18.8	幅 2.7	厚さ 0.4					
190	+	17	鉄製品	長さ 3.9	幅 0.7	厚さ 0.4					
191	38号住居	1	土器器 盤	12.0	-	-	体部ヘラケズリ	黄褐色	密		
191	+	2	*	(11.0)	-	-	*	茶褐色	白・赤色粒子、密		
191	+	3	土器器 皿?	(12.5)	-	-		*	赤色粒子、密		
191	+	4	土器器 皿	-	(6.0)	-		*	密		
191	+	5	土器器 皿	(15.0)	-	-	内外面 ハケメ	暗褐色	白色粒子、雲母、 鐵		
191	+	6	*	(34.2)	-	-	内外面 ハケメ 樹脂底	*	雲母、鐵		
191	+	7	土器器 皿	(40.2)	(9.0)	(19.1)	内外面 ハケメ	*	*	底部外面部素面	
191	40号住居	1	土器器 盤	11.7	4.1	4.2	体部ヘラケズリ 底部未切り抜ヘラケズ リ	茶褐色	赤色粒子、密		
191	+	2	*	11.5	5.0	4.2	*	*	*		
191	+	3	*	(13.4)	-	-	体部ヘラケズリ	*	*		
191	+	4	*	(11.1)	4.5	4.2	体部ヘラケズリ 底部未切り抜ヘラケズ リ	*	赤色粒子	張付着	
191	+	5	*	-	4.5	-	*	*	赤色粒子、密		
191	+	6	*	-	4.6	-	各部 底部ヘラケズリ	*	*		
191	+	7	土器器 皿環	-	(5.6)	-	底部未切り抜ヘラケズリ 内面 壁文	*	褐色粒子、密		
191	+	8	土器器 皿	12.6	3.5	2.3	体部 底部ヘラケズリ	*	赤色粒子、密	体部外面部素面	
191	+	9	土器器 皿	(29.0)	-	-		*	赤・黒色粒子、密		

(法量の単位はcm、ーは計測不能()は推定値)

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
191	40号住居	10	土師器盤	(34.0)	—	—	内外面 ハケメ	茶褐色	白色粒子、粗	
191	*	11	*	(31.3)	—	—	*	暗褐色	白色粒子、筍母、粗	
192	43号住居	1	土師器盤	(11.6)	—	—		淡茶褐色	褐色粒子、密	
192	*	2	土師器盤	—	(8.0)	—	体部 底部へラケズリ	赤褐色	褐色粒子	
192	*	3	土師器盤	—	5.0	—	*	深褐色	褐色粒子、密	
192	*	4	土師器盤	(27.0)	—	—	内外面 ハケメ	茶褐色	筍母	
192	*	5	*	(30.6)	—	—	*	赤褐色	筍母、粗	
192	48号住居	1	土師器盤	—	(4.5)	—	体部へラケズリ	淡茶褐色	褐色粒子	
192	*	2	*	—	(4.2)	—	*	*	赤色粒子、密	
192	*	3	土師器皿	—	(4.5)	—		赤褐色	*	
192	*	4	*	—	(5.0)	—	底部糸切り後へラケズリ	*	*	
192	49号住居	1	土師器皿	—	4.6	—	体部・底部へラケズリ	深褐色	*	
192	*	2	*	—	(5.8)	—	体部・底部へラケズリ 内面 印文	淡茶褐色	褐色粒子	
192	*	3	土師器皿	(13.2)	—	—		深褐色	褐色粒子、密	
192	*	4	*	(13.6)	(5.4)	2.7	体部へラケズリ 底部糸切り後へラケズリ	赤褐色	褐色粒子	
192	*	5	*	(14.0)	—	—	体部へラケズリ	淡茶褐色	*	
192	*	6	土師器皿	(15.4)	—	—	内外面 ハケメ	茶褐色	白色粒子、筍母、粗	
192	*	7	*	(28.2)	—	—	外面 繊維のため不明 内面 ハケメ	*		
192	*	8	鉄製品	長さ 7.5	幅 1.2	厚さ 0.3				
193	52号住居	1	土師器皿	(12.3)	4.2	4.7	体部へラケズリ 底部糸切り後へラケズリ	茶褐色	褐色粒子、密	
193	*	2	*	(11.0)	(3.5)	4.1	体部 底部へラケズリ	*	密	内面縦付着
193	*	3	*	(12.8)	(5.0)	3.7	*	淡茶褐色	白・赤色粒子、密	
193	*	4	土師器皿?	4.7	—	—	*	茶褐色	*	
193	*	5	土師器皿	(33.4)	—	—	内外面 ハケメ	*	筍母、密	
193	*	6	*	—	(9.6)	—	*	*	粗	底面外側水漬痕
193	55号住居	1	土師器皿	(12.8)	(6.4)	3.4	体部 底部へラケズリ 内面 印文	深褐色	密	内面縦付着
193	*	2	土師器皿	—	—	—	体部内面印文	茶褐色	褐色粒子	
193	59号住居	1	土師器皿	11.2	4.8	3.6	体部へラケズリ 底部糸切り後へラケズリ 内面 印文	深褐色	褐色粒子、密	
193	*	2	土師器皿	—	—	—	体部へラケズリ 内面 印文	淡茶褐色	褐色粒子、密	
193	*	3	土師器皿	13.2	6.0	2.3	体部へラケズリ 底部糸切り後へラケズリ 内面 印文	暗褐色	褐色粒子、密	表面外部剥離

第16表 V区出土遺物観察表

辨認番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
194	148号住居	1	土師器皿	(15.8)	(5.8)	5.6	体部 底部へラケズリ 内面 印文	赤褐色	白・赤色粒子、密	
194	*	2	*	—	(6.0)	—	*	茶褐色	褐色粒子、密	
194	*	3	土師器皿	(12.8)	—	—	体部へラケズリ	淡茶褐色	褐色粒子、やや密	
194	*	4	土師器皿	—	(5.8)	—	体部 底部へラケズリ	赤褐色	*	
194	*	5	土師器皿	(27.4)	—	—	内外面 ハケメ	茶褐色	白・赤・褐色粒子、筍母	
194	*	6	土師器皿	—	—	—	銅鋳合否	黑色	白色粒子、筍母、密	自然施
194	*	7	灰陶物器	—	(9.6)	—		淡灰色	褐色粒子、筍母、密	
194	*	8	鉄製品	長さ (10.1)	幅 1.7	厚さ 0.6			*	

(法量の単位はcm、ーは計測不能 () は推定値)

博団番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
194	149号住居	1	土器器 环	11.4	5.0	4.2	体部へラケズリ 底部赤切り後へラケズ リ	淡茶褐色	赤色粒子	
194	◆	2	◆	(10.8)	5.0	4.5	底部へラケズリ	淡褐色	◆	
194	◆	3	土器器 环	12.2	4.8	8.1	内外面クロコ彫刻 下半へラケズリ	茶褐色	◆	底部外面木葉痕
194	150号住居	1	土器器 环	11.8	5.0	4.2	体部へラケズリ 底部赤切り後へラケズ リ	黄褐色	赤色粒子、青	
194	◆	2	◆	12.0	4.0	4.1	体部 底部へラケズリ	◆	◆	
194	◆	3	土器器 环	12.4	4.2	3.1	体部へラケズリ 底部赤切り後へラケズ リ	橙褐色	◆	
194	◆	4	◆	12.0	3.7	2.8	◆	◆	◆	
194	◆	5	◆	(12.4)	(5.0)	2.3	体部へラケズリ	◆	◆	
194	◆	6	◆	12.2	5.0	2.3	体部 底部へラケズリ	◆	◆	
194	◆	7	◆	(12.0)	4.0	2.5	◆	◆	やや青	
194	◆	8	灰陶陶器 碗	—	7.4	—	付高台	灰褐色	黑色粒子、青	
194	◆	9	土器器 碗	—	9.0	—	内外面 ハケメ 指面痕	暗褐色	赤色粒子、青母、 やや粗	底部外面木葉痕
194	◆	10	◆	28.5	10.0	34.0	内外面 ハケメ 内面 指面痕	◆	青母、やや粗	◆
195	151号住居	1	土器器 环	11.3	5.0	3.8	体部へラケズリ 底部赤切り後へラケズ リ	黄褐色	赤色粒子	
195	◆	2	土器器 环	—	5.0	—	体部 体部へラケズリ 内面 唇文	赤褐色	赤色粒子、やや粗	
195	◆	3	土器器 环	—	6.4	—	底部赤切り後へラケズリ 内面 唇文	橙褐色	やや青	
195	◆	4	土器器 碗	(25.6)	—	—	内外面 ハケメ 内面 指面痕	赤褐色	赤色粒子	
195	◆	5	铁製品 鍔頭草	長さ 16.9	幅 4.1	厚さ (0.35)	◆	◆	◆	
195	152号住居	1	土器器 环	12.0	4.5	3.9	体部へラケズリ 底部赤切り後へラケズ リ 内面 唇文	赤褐色	赤色粒子	
195	◆	2	◆	(12.0)	(5.0)	3.9	◆	淡茶褐色	◆	
195	◆	3	◆	11.8	5.5	3.8	◆	茶褐色	白、赤色粒子	
195	◆	4	◆	11.8	4.5	4.0	体部へラケズリ 底部赤切り後へラケズ リ	橙褐色	赤色粒子	体部外面墨痕
195	◆	5	土器器 皿	14.2	5.0	3.0	底部へラケズリ	赤褐色	◆	
195	◆	6	土器器 碗	(16.4)	—	—	内外面 ハケメ	茶褐色	赤色粒子	
195	◆	7	铁製品 刀子	長さ (2.9)	幅 0.4	厚さ (0.5)	◆	◆	◆	
195	◆	8	铁製品 鍔	長さ (15.0)	幅 4.0	厚さ (1.0)	◆	◆	◆	
195	154号住居	1	土器器 环	—	4.4	—	体部へラケズリ 底部赤切り後へラケズ リ	茶褐色	白、赤色粒子、青	
195	◆	2	灰陶陶器 灰陶	—	—	—	◆	灰褐色	青	自然釉
195	◆	3	土器器 碗	(23.2)	—	—	内外面 ハケメ	暗褐色	白色粒子、青	
195	◆	4	土器器 皿	(24.2)	—	—	◆	◆	白、赤色粒子、青	
195	◆	5	铁製品 鍔?	長さ (8.0)	幅 0.4	厚さ 0.7	◆	◆	◆	
196	157号住居	1	土器器 皿	12.8	6.7	11.9	内外面 ハケメ	赤褐色	白、赤色粒子、青母	底部外面木葉痕
196	◆	2	◆	17.2	—	—	◆	茶褐色	◆	
196	158号住居	1	土器器 皿	(16.0)	(7.4)	2.5	割り出し高台	淡茶褐色	赤色粒子、青	
196	◆	2	土器器 皿	—	—	—	◆	茶褐色	◆	
196	◆	3	土器器 皿	(20.6)	—	—	内外ハケメ 外面 指面痕	暗褐色	白色粒子、青母	
196	◆	4	铁製品 鍔?	長さ (3.8)	幅 0.35	厚さ (0.6)	◆	◆	◆	
196	159号住居	1	土器器 环	11.2	5.4	4.2	体部へラケズリ 底部赤切り後へラケズ リ 内面 唇文	明褐色	赤、黒色粒子、青	
196	◆	2	◆	10.6	5.0	4.1	◆	茶褐色	青	
196	◆	3	◆	10.5	4.2	4.5	◆	◆	赤色粒子、青	
196	◆	4	◆	10.8	5.0	4.9	◆	◆	白、赤色粒子、青	
196	◆	5	◆	10.7	4.4	5.1	体部へラケズリ	暗褐色	◆	

(法量の単位はcm、一は計測不能()は推定値)

辨別番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
196	159号住居	6	土師器 环	11.4	6.0	4.3	体部 底部へラケズリ	茶褐色	赤色粘土、密	
196	*	7	*	—	4.8	—	体部へラケズリ 底部条切り後へラケズリ	茶褐色	*	
196	*	8	*	—	5.0	—	体部へラケズリ 底部条切り後へラケズリ 内面 喰文	茶褐色	密	
196	*	9	土師器 環	15.1	7.5	2.6	底部へラケズリ	茶褐色	白・赤色粘土、密	
196	*	10	窓透器	—	8.0	—	付高台 底部削口面取り	灰白色	白色粘土、密	外腹底部墨付有、転用型
196	*	11	土師器 環	18.6	8.0	38.5	内外面 ハケメ 内面 喰痕	暗褐色	素透、やや粗	底部外腹木葉模
196	*	12	石 灰 未加工品	長輪 3.6	短輪 2.2	厚5 1.6				重さ 13 g 石材石英
196	*	13	*	長輪 4.9	短輪 3.4	厚5 1.7				重さ 21 g *
196	*	14	*	長輪 4.6	短輪 4.0	厚5 3.3				重さ 55 g *
196	*	15	*	長輪 6.5	短輪 4.7	厚5 3.8				重さ 108 g *
196	*	16	*	長輪 11.3	短輪 7.5	厚5 4.3				重さ 326 g *
196	162号住居	1	土師器 环	12.0	3.1	4.5	体部へラケズリ 底部条切り後へラケズリ	茶褐色		
196	*	2	土師器 環	25.7	—	—	内外面 ハケメ	暗褐色	素透	
196	*	3	*	—	9.0	—	外面 ハケメ 内面 喰痕	*	*	底部外腹木葉模

第4節 中世以降

第17表 II b区出土遺物観察表

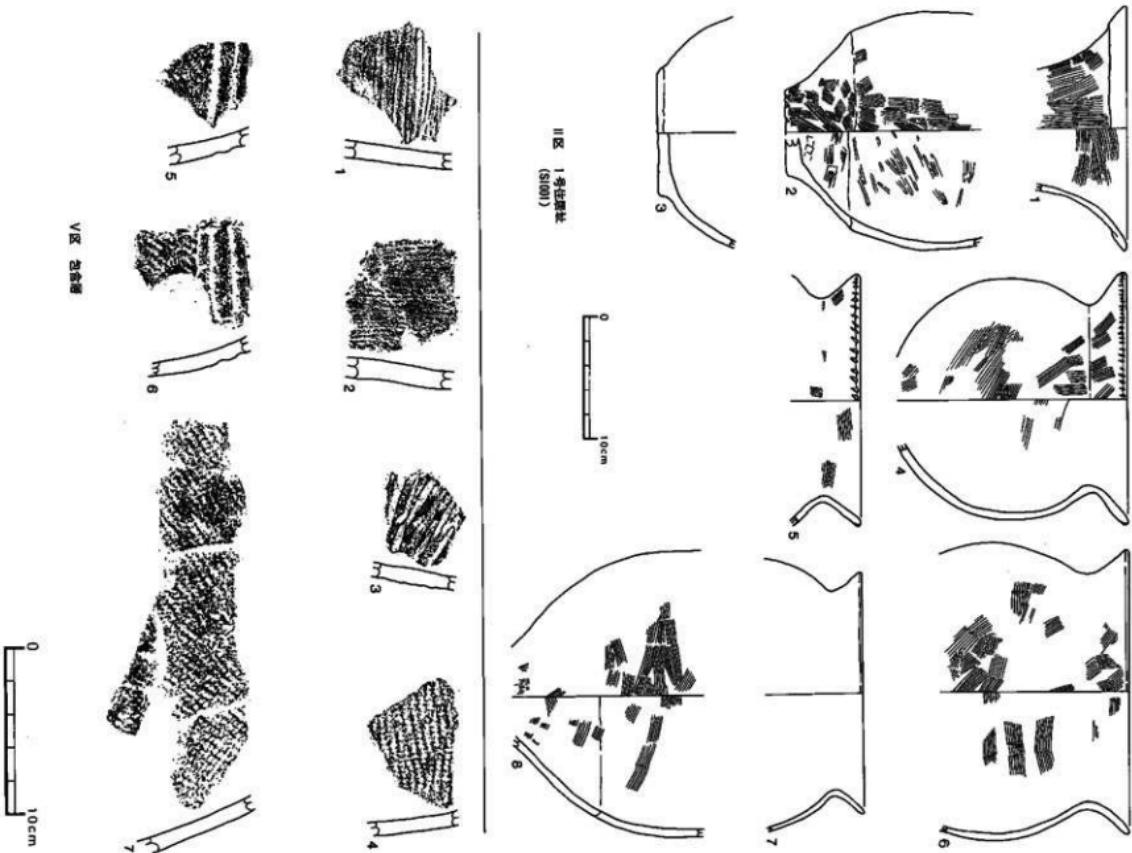
辨別番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
197	18号溝	2	磁器 碗	(12.8)	(4.6)	5.0				側板部写楽付鏡
197	*	4	磁器 おもし皿	13.0	7.4	2.6	吹き幅で花形を表す			側板部写楽器身付皿

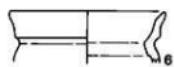
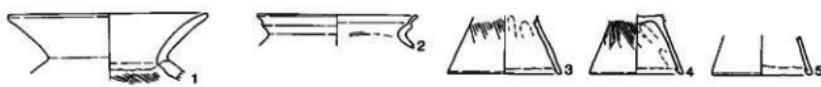
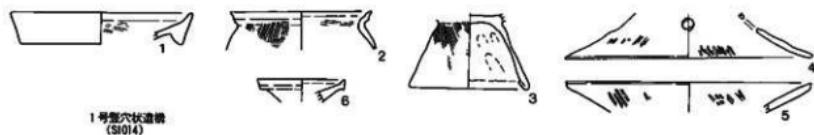
第18表 III区出土遺物観察表

辨別番号	出土地点	番号	器種	口径	底径	器高	技法・形態の特徴	色調	胎土	備考
197	10号溝	1	磁器 碗	(9.6)	—	—	外面高足の臺、内面上下開縫			手描磁器身付碗
197	8号溝	3	磁器 皿	(13.8)	7.0	3.4	外面青草、底部「福」、内面底部五瓣花			手描磁器身付皿
197	4号土坑	5	磁器 皿	—	—	—	蓋をあしらう			手描磁器身付皿
197	3号溝	6	陶器 豆	—	4.5	—				灰釉

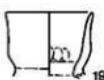
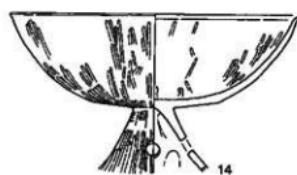
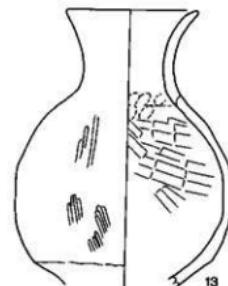
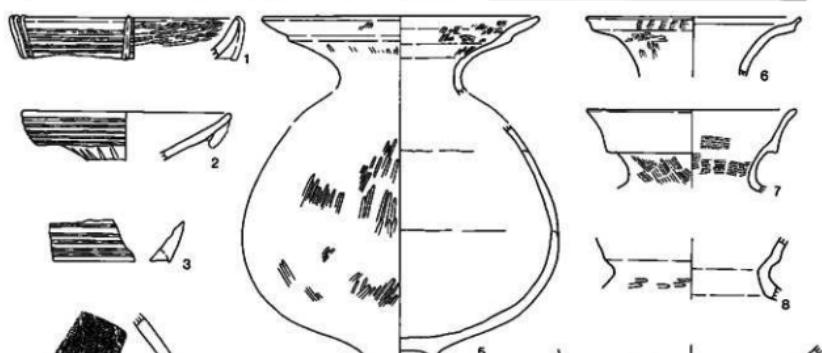
第115図 II・V区弥生時代出土遺物

— 220 —





2号型穴状遗物
(SI015)

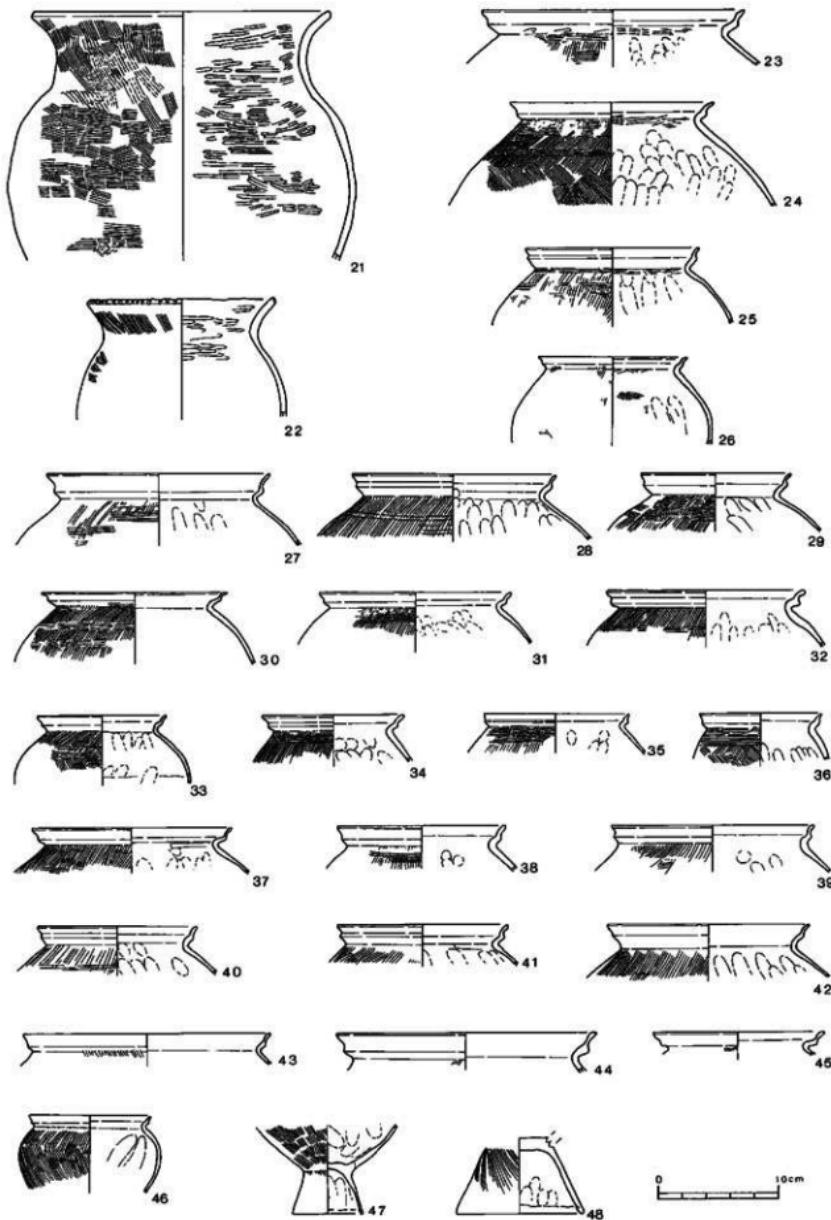


0
10cm

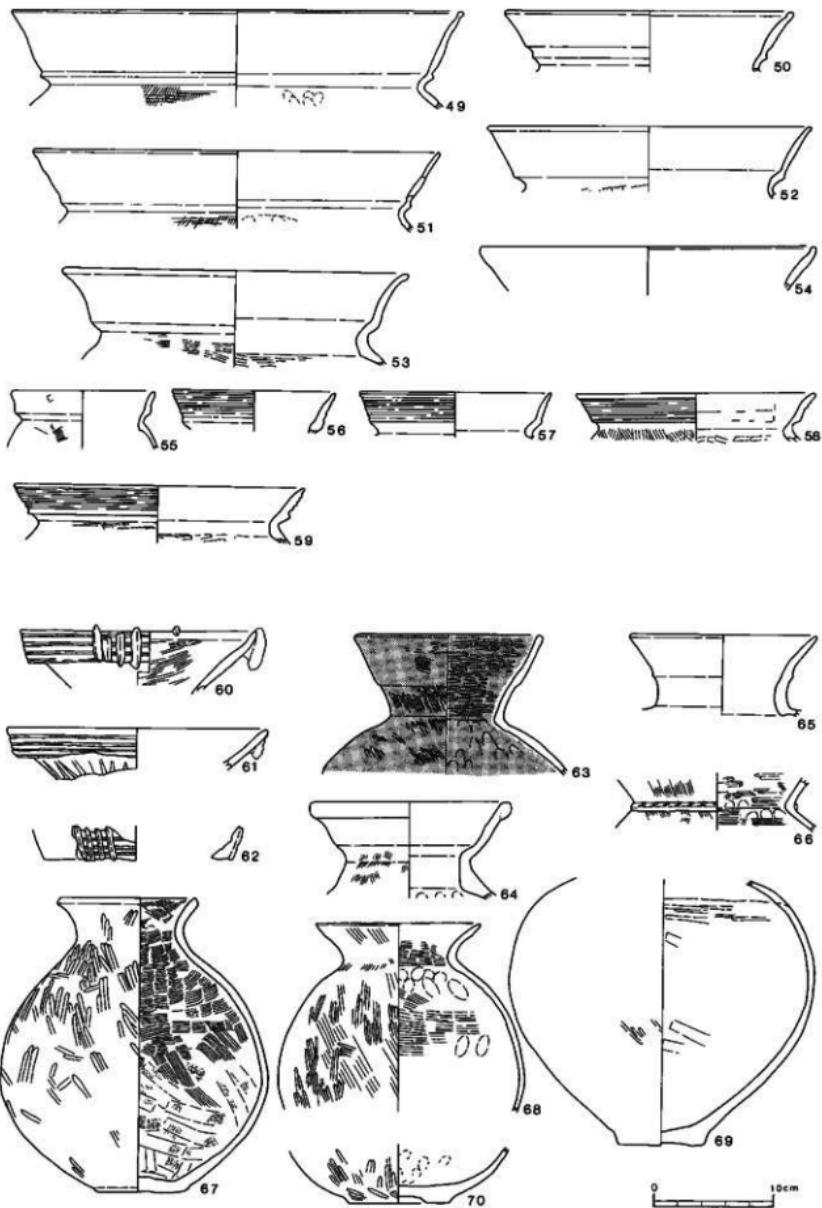
6号器
(SI006)
0
10cm



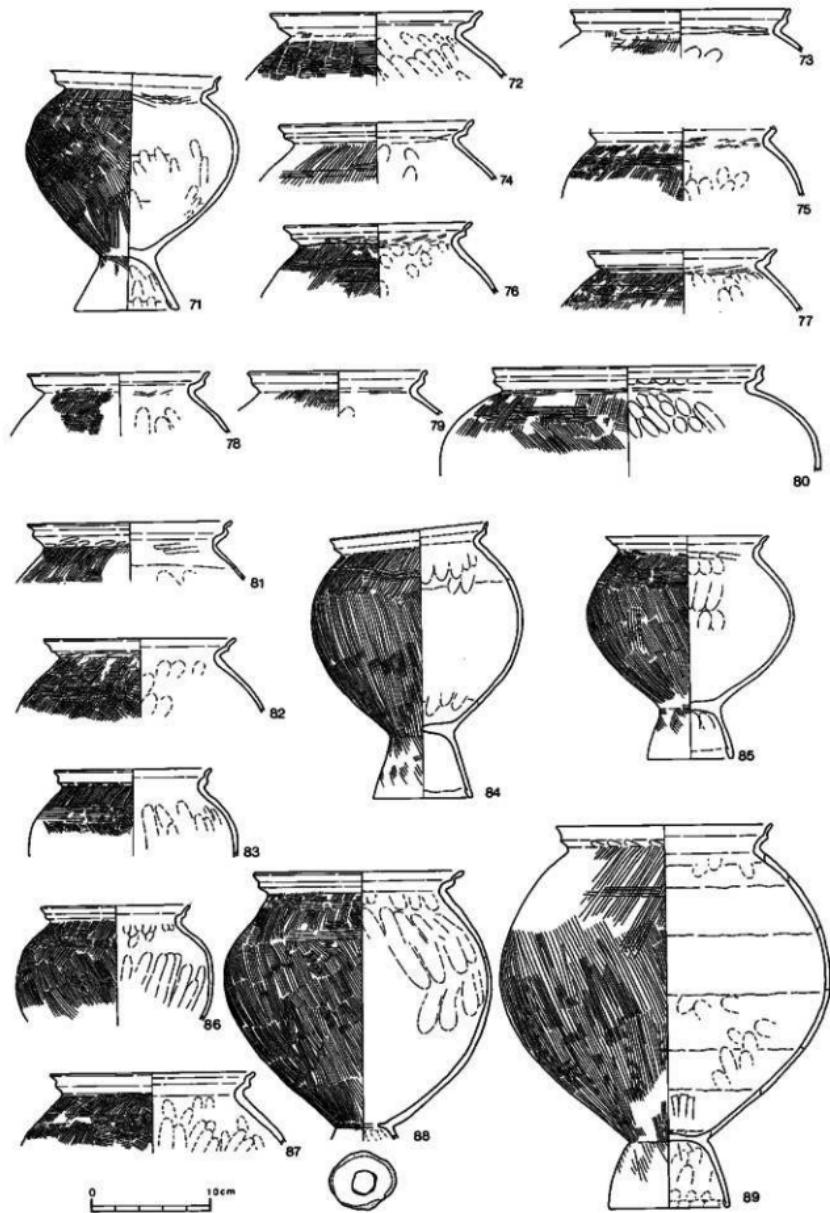
第116図 I区古墳時代遺構出土遺物



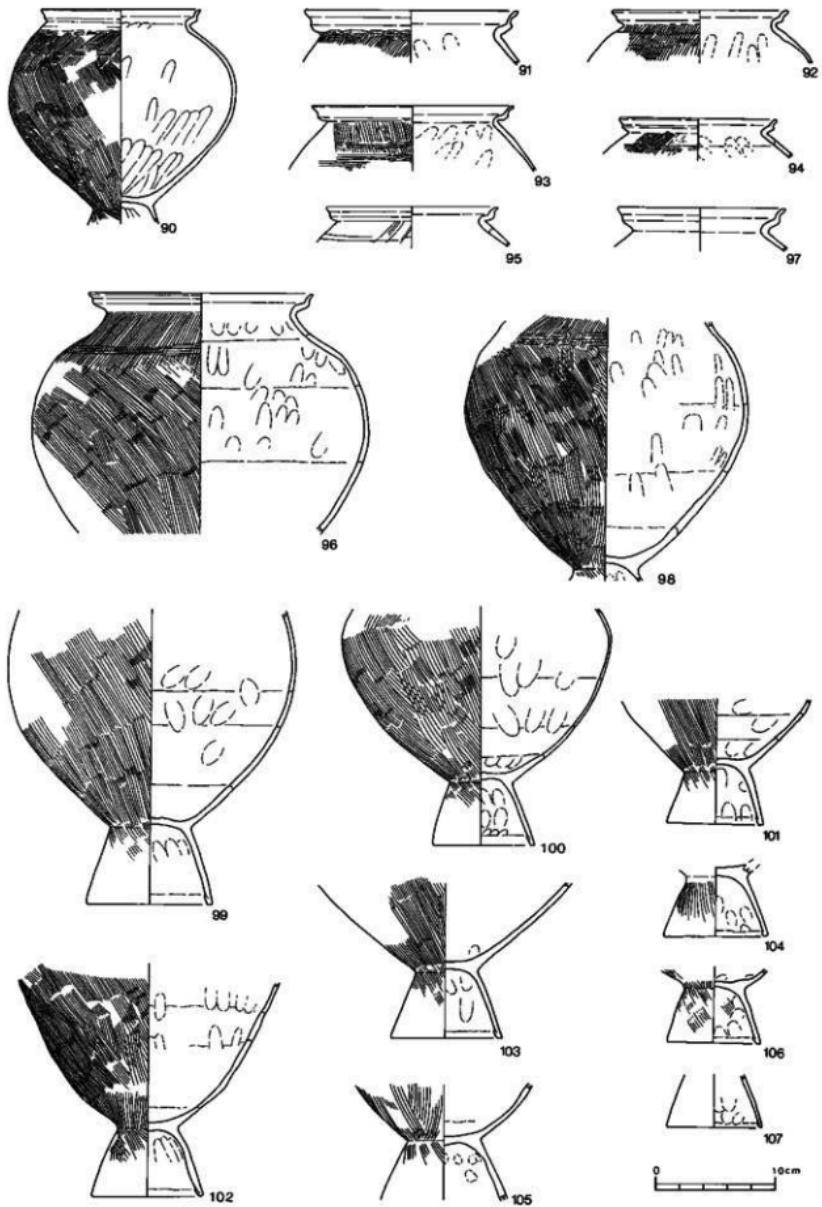
第117図 I区古墳時代6号溝(SD006)出土遺物



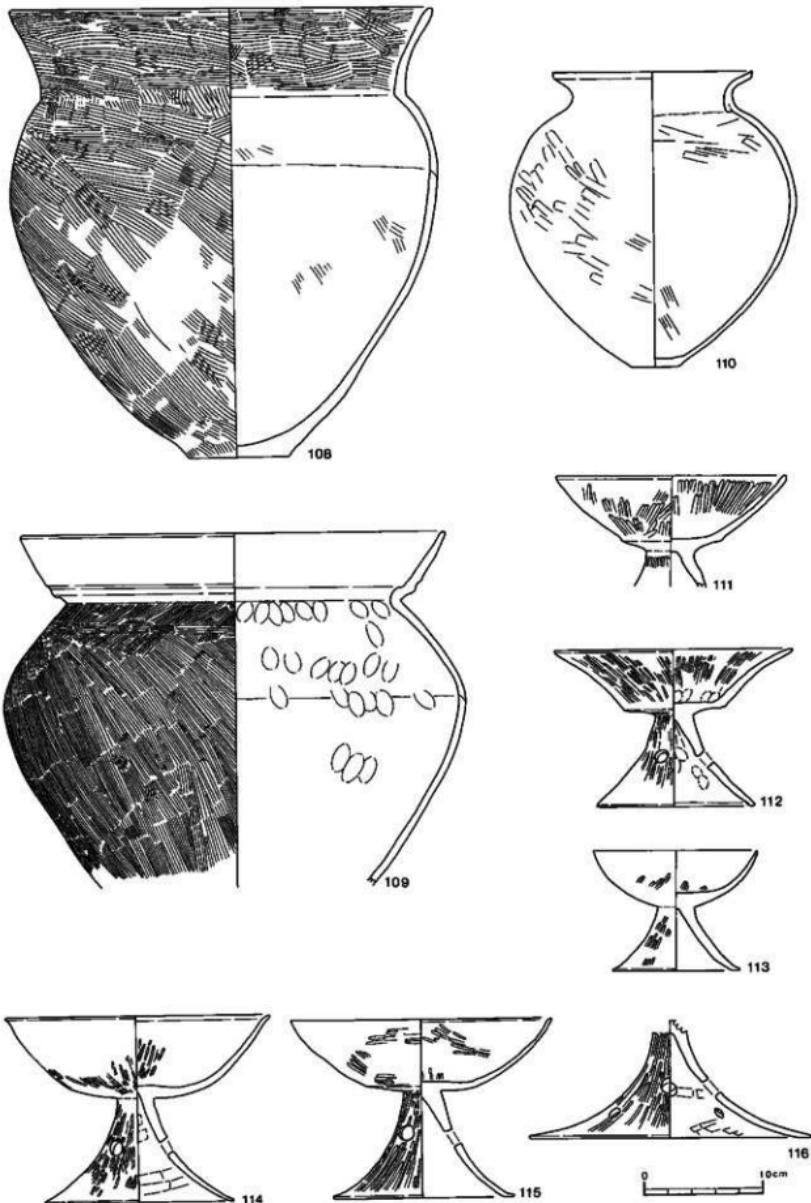
第118図 I区古墳時代6号溝（SD006）出土遺物



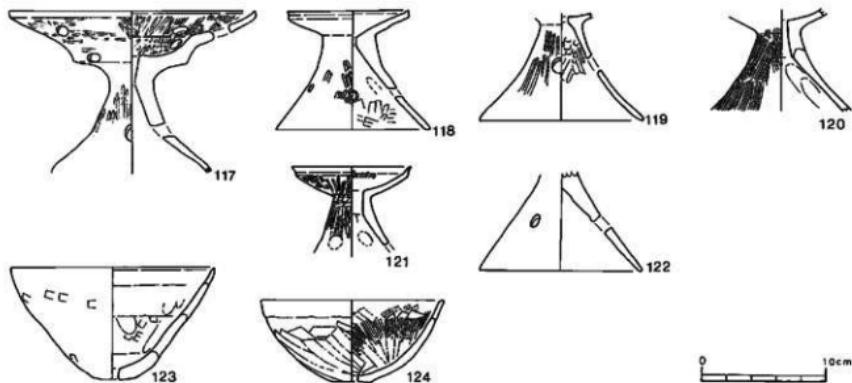
第119図 I区古墳時代6号坑 (SD006) 出土遺物



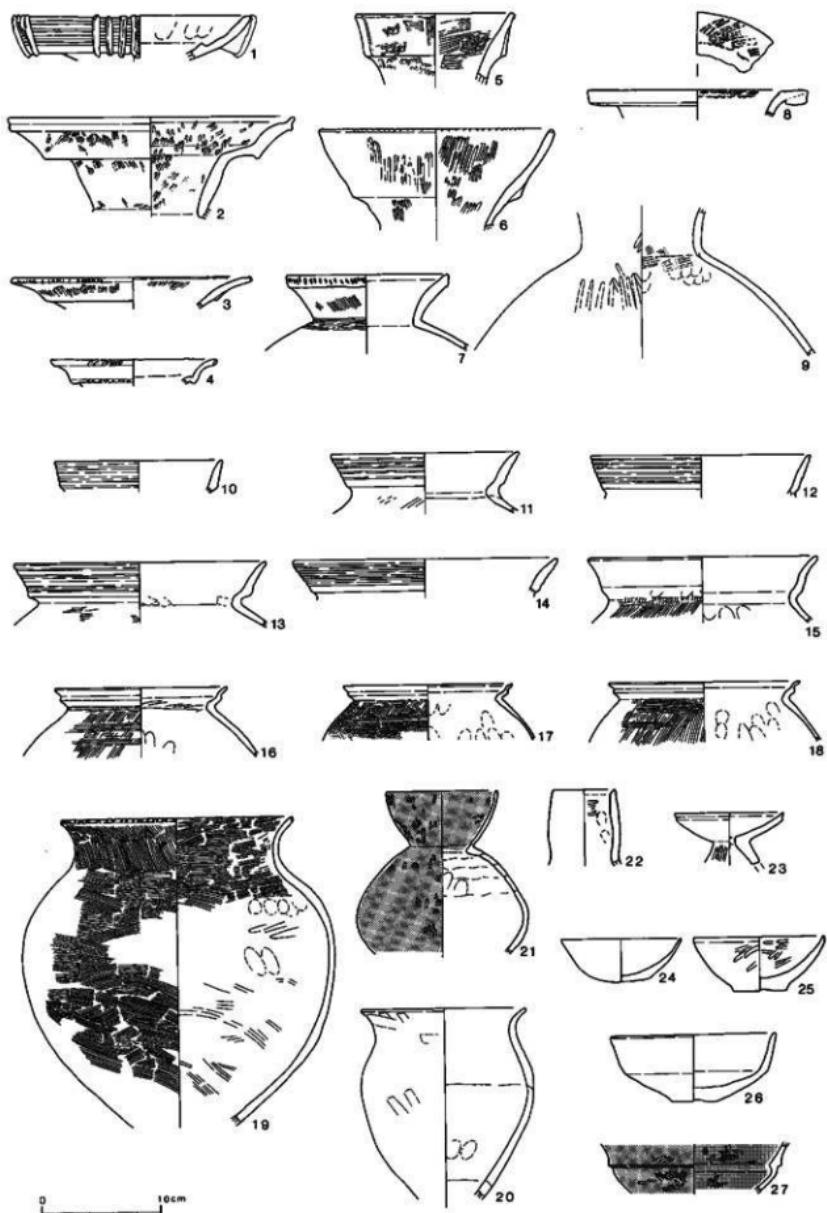
第120図 I区古墳時代6号溝(SD006)出土遺物



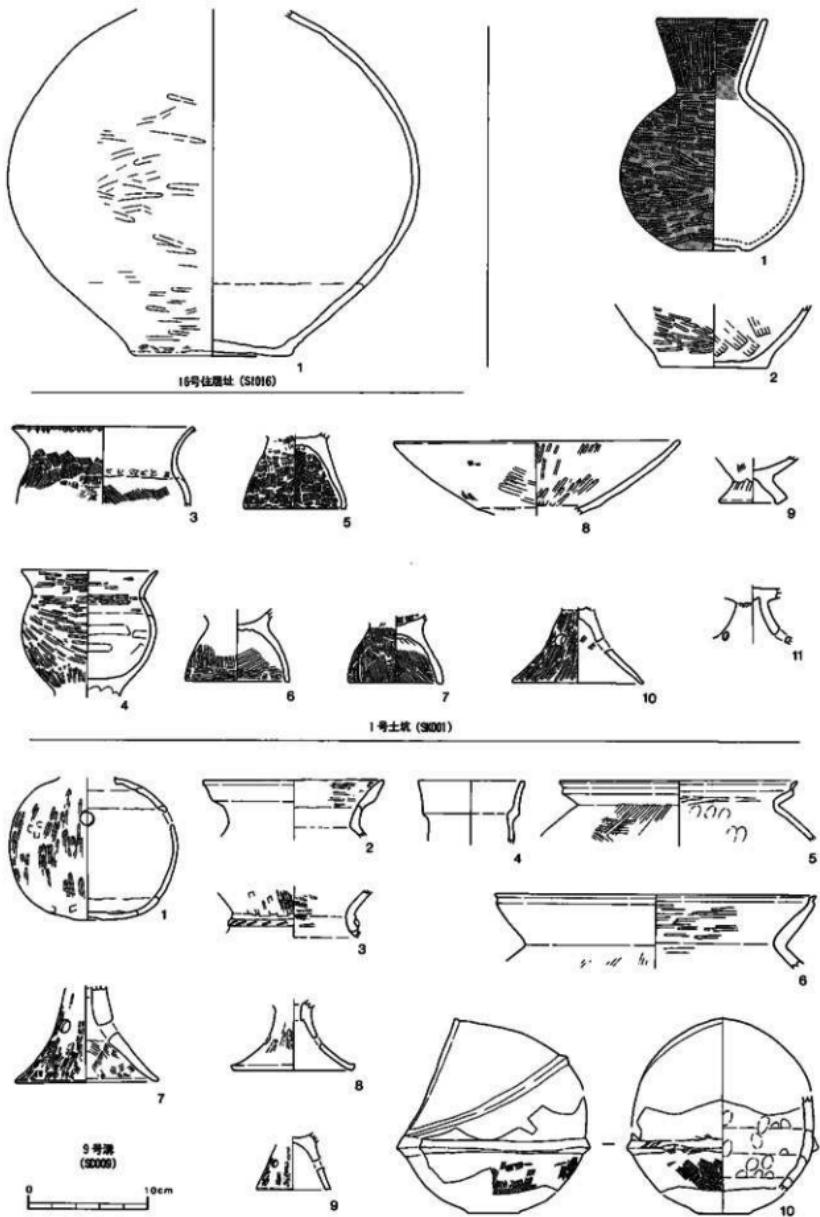
第121図 I区古墳時代6号溝 (SD006) 出土遺物



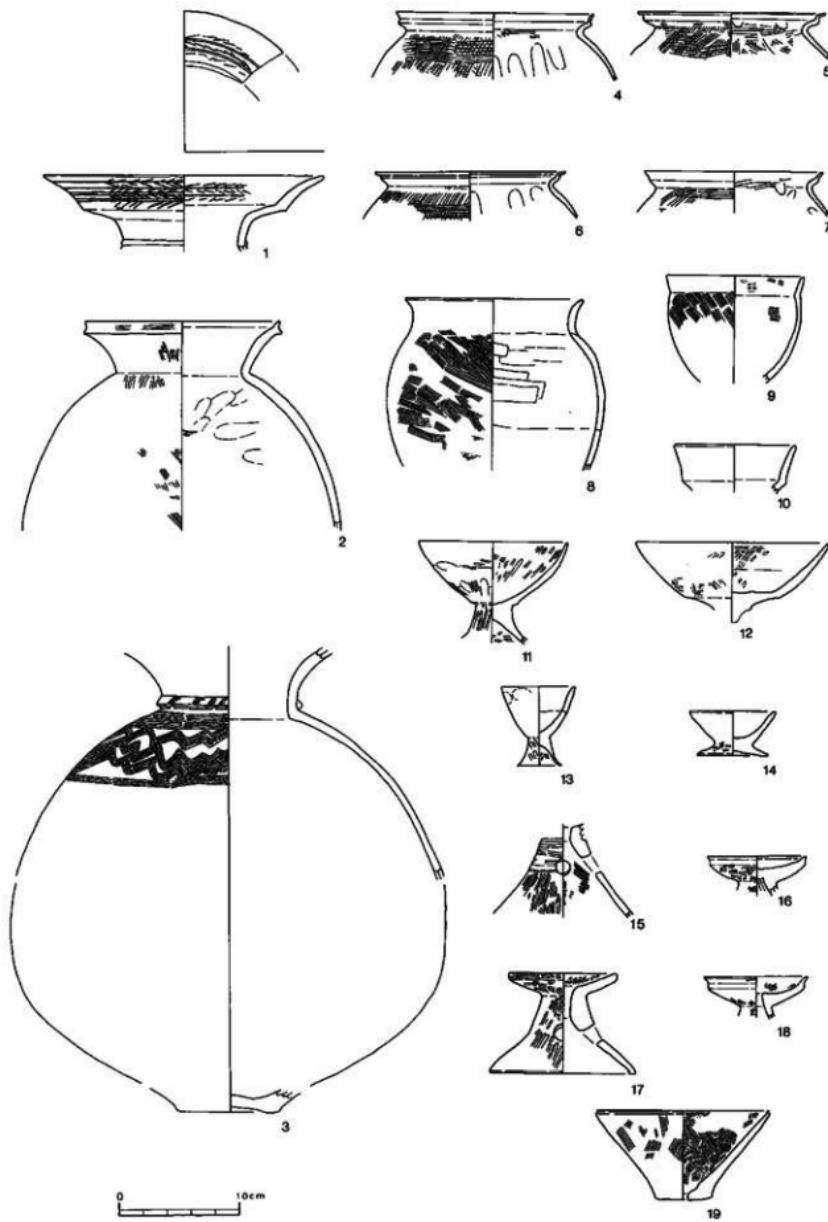
第122図 I区古墳時代6号溝（SD006）出土遺物



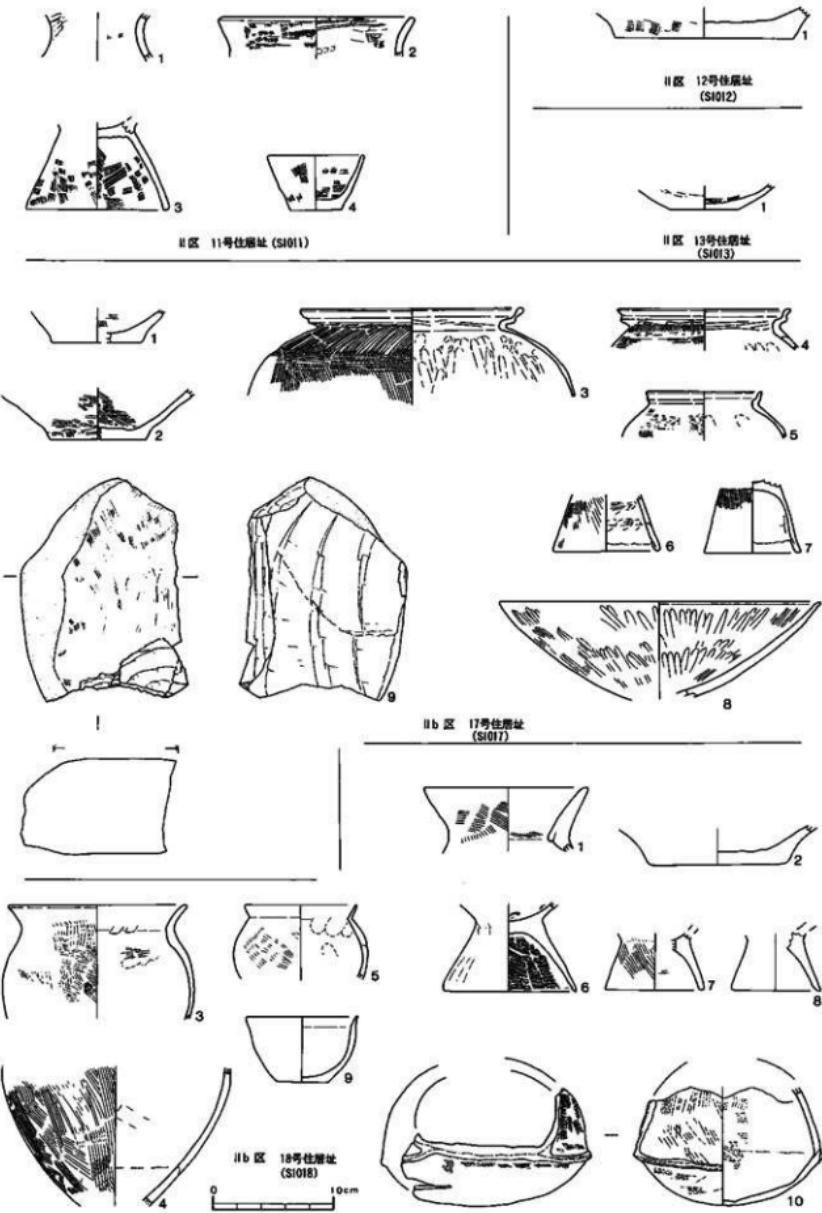
第123図 I区古墳時代グリッド出土遺物



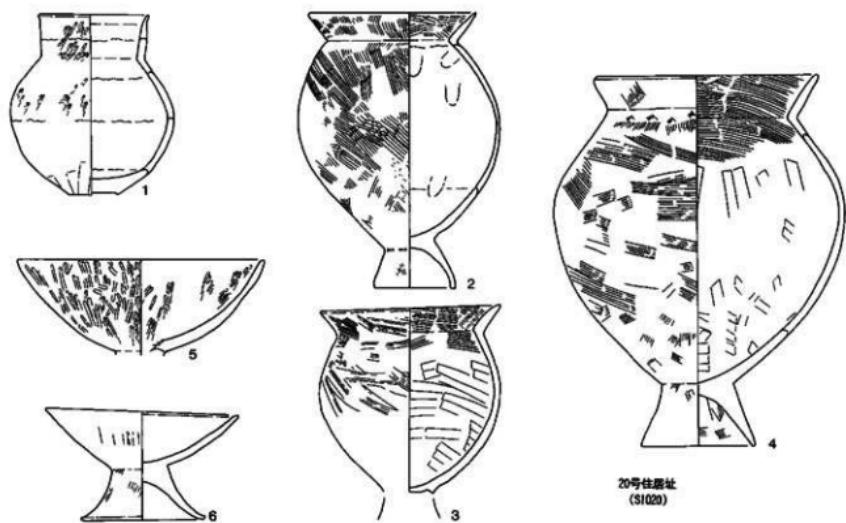
第124図 I b 区古墳時代遺構出土遺物



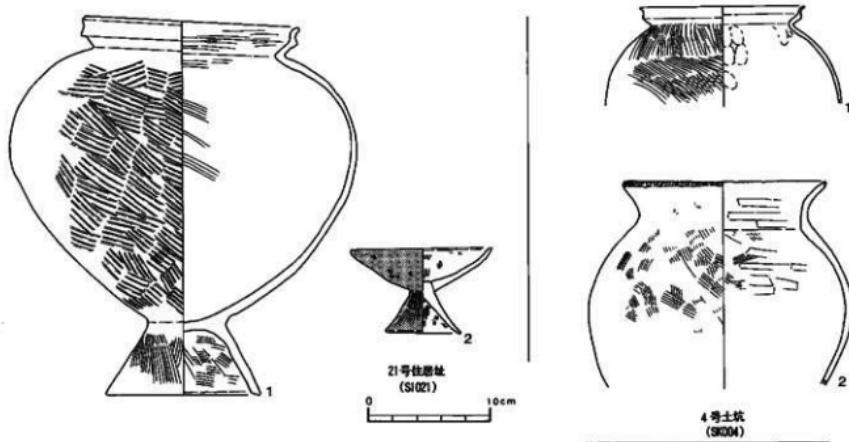
第125図 I b 区古墳時代グリッド出土遺物



第126図 II・IIb区古墳時代遺構出土遺物



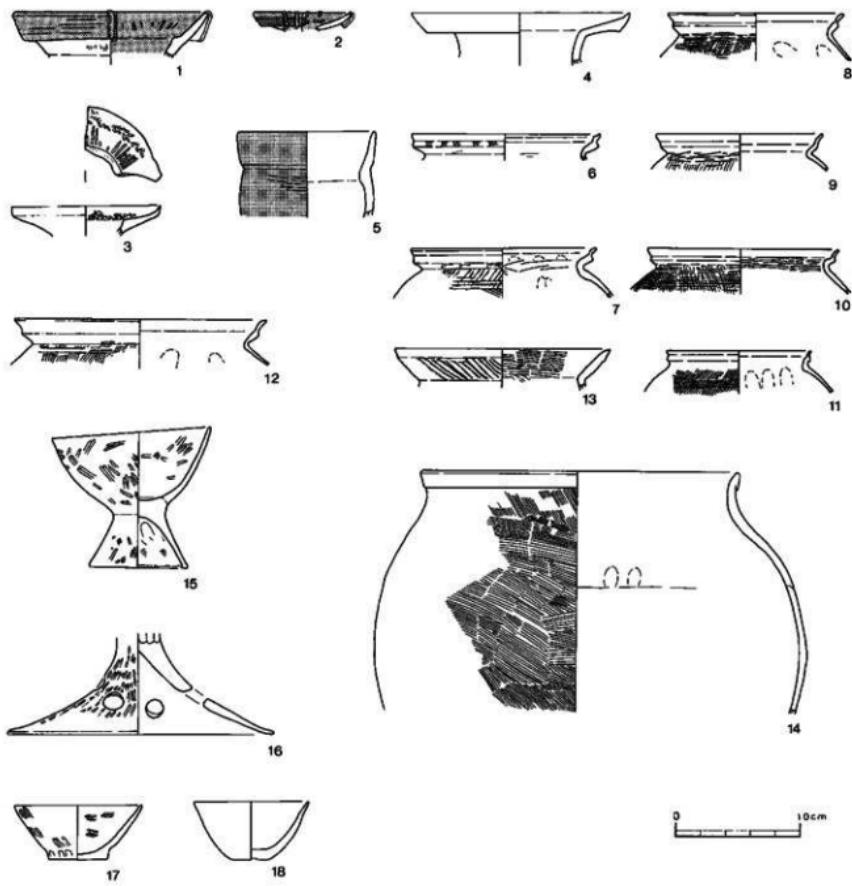
20号住居址
(SI020)



21号住居址
(SI021)

4号土坑
(SK004)

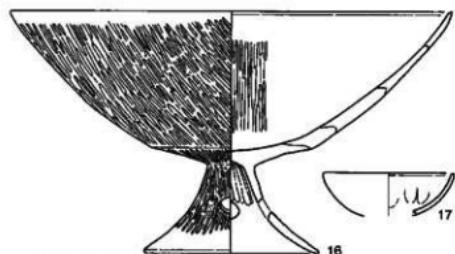
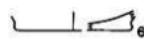
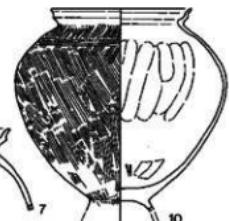
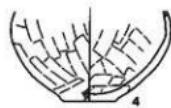
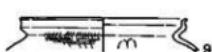
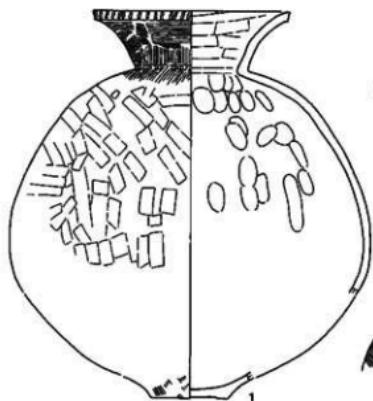
第127図 II b 区古墳時代遺構出土遺物



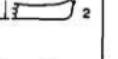
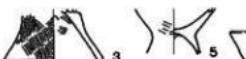
第128図 II b 区古墳時代グリッド出土遺物



13号住居跡 (SI013)



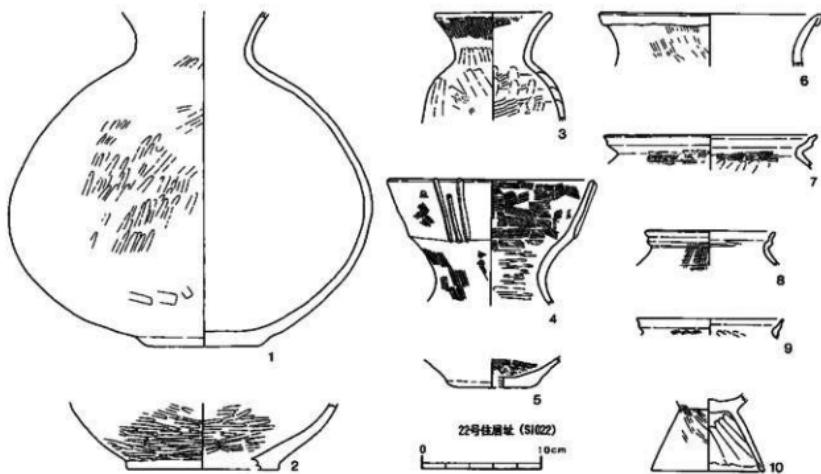
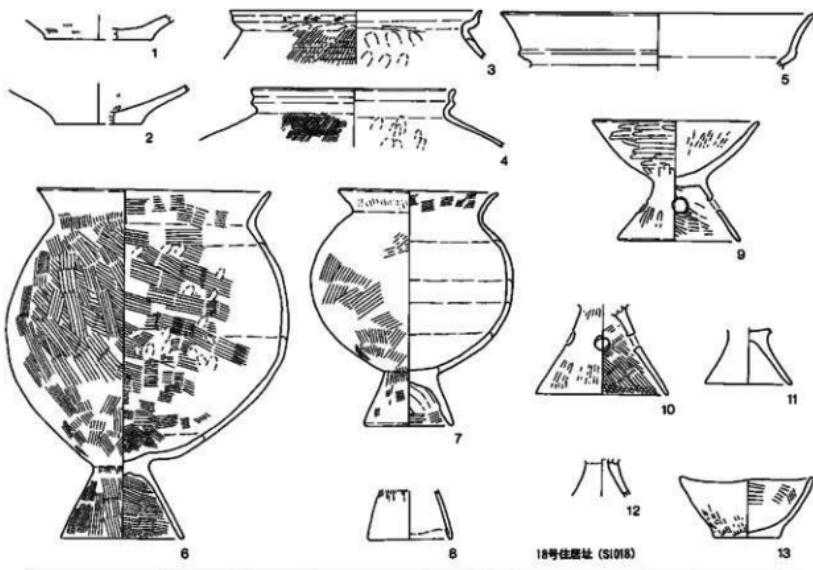
14号住居跡 (SI014)



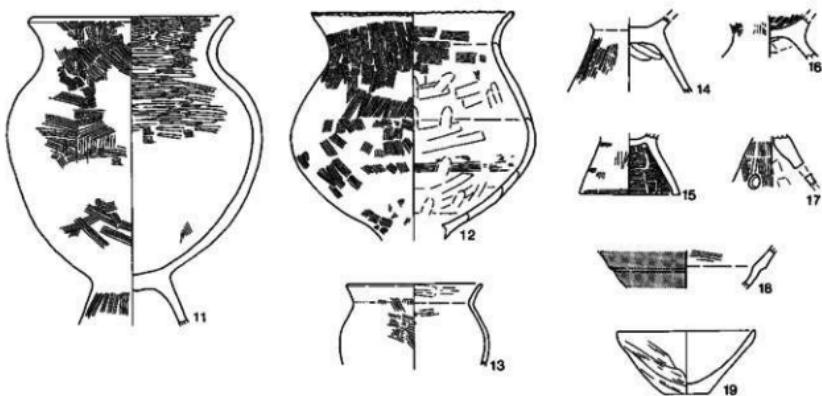
15号住居跡 (SI015)

17号住居跡
(SI017)

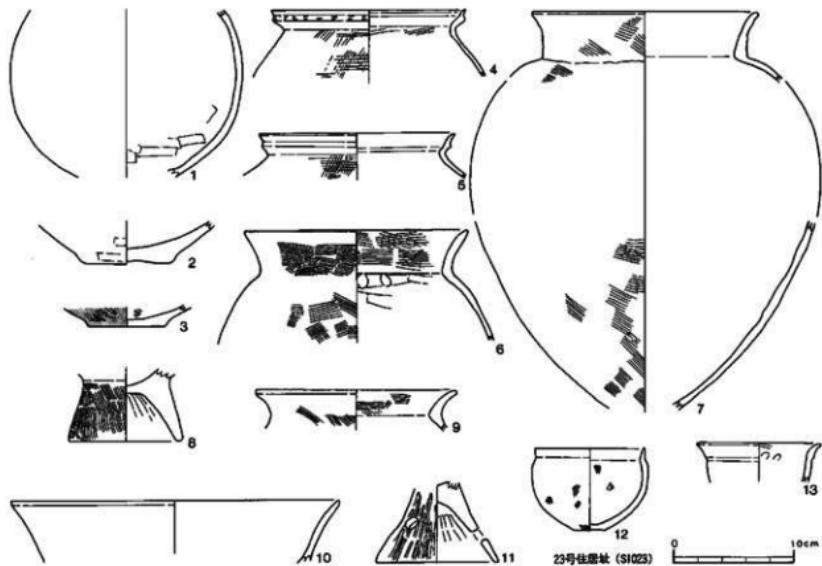
第129図 III区古墳時代遺構出土遺物



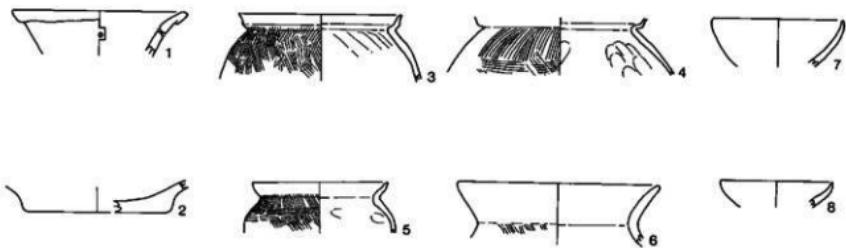
第130図 III区古墳時代遺構出土遺物



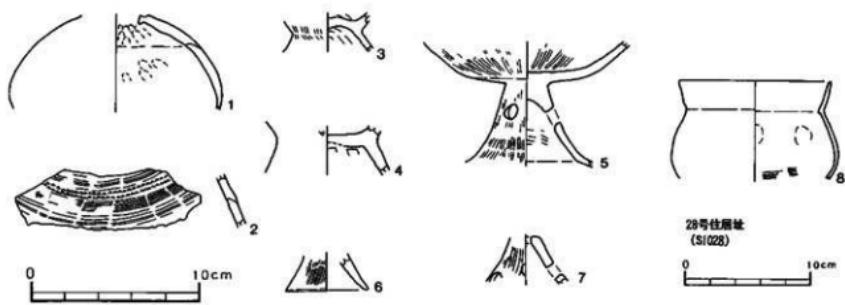
22号住居址
(SI022)



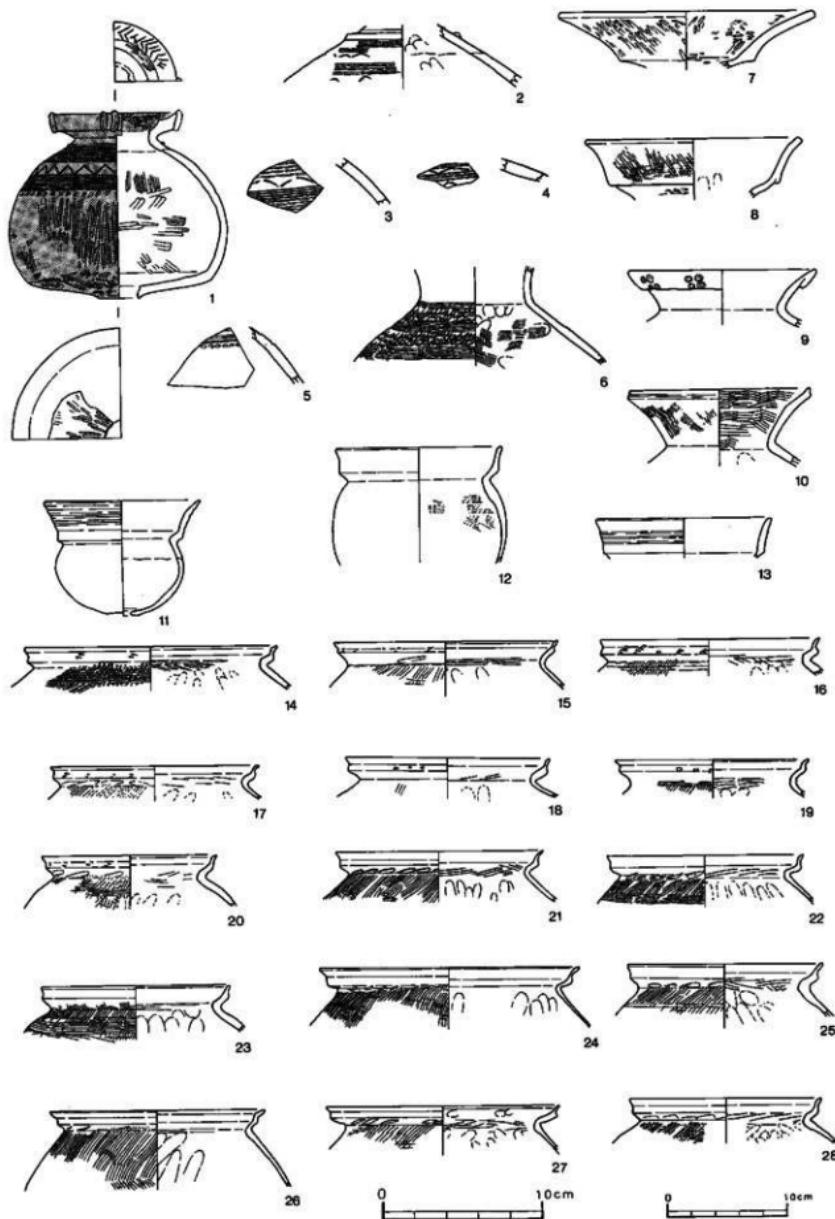
第131圖 III区古墳時代遺構出土遺物



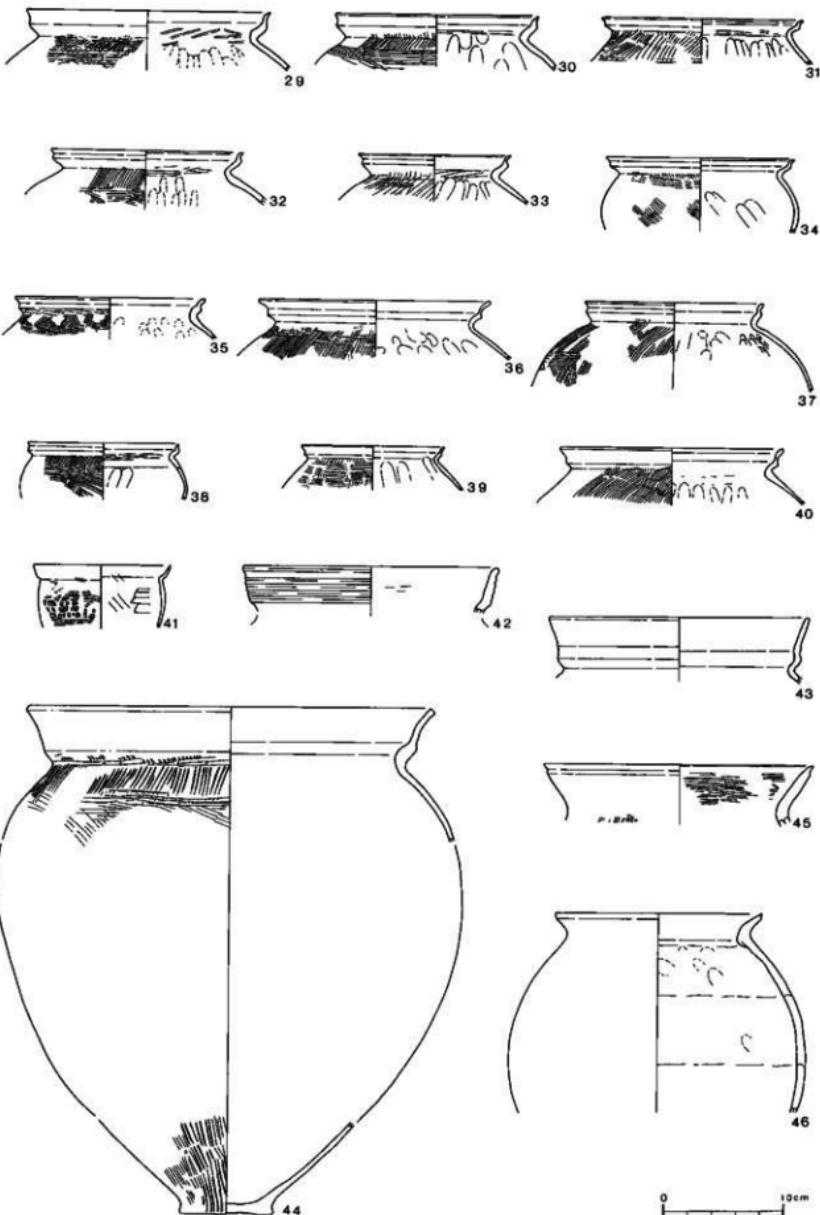
25号住居址
(SI025)



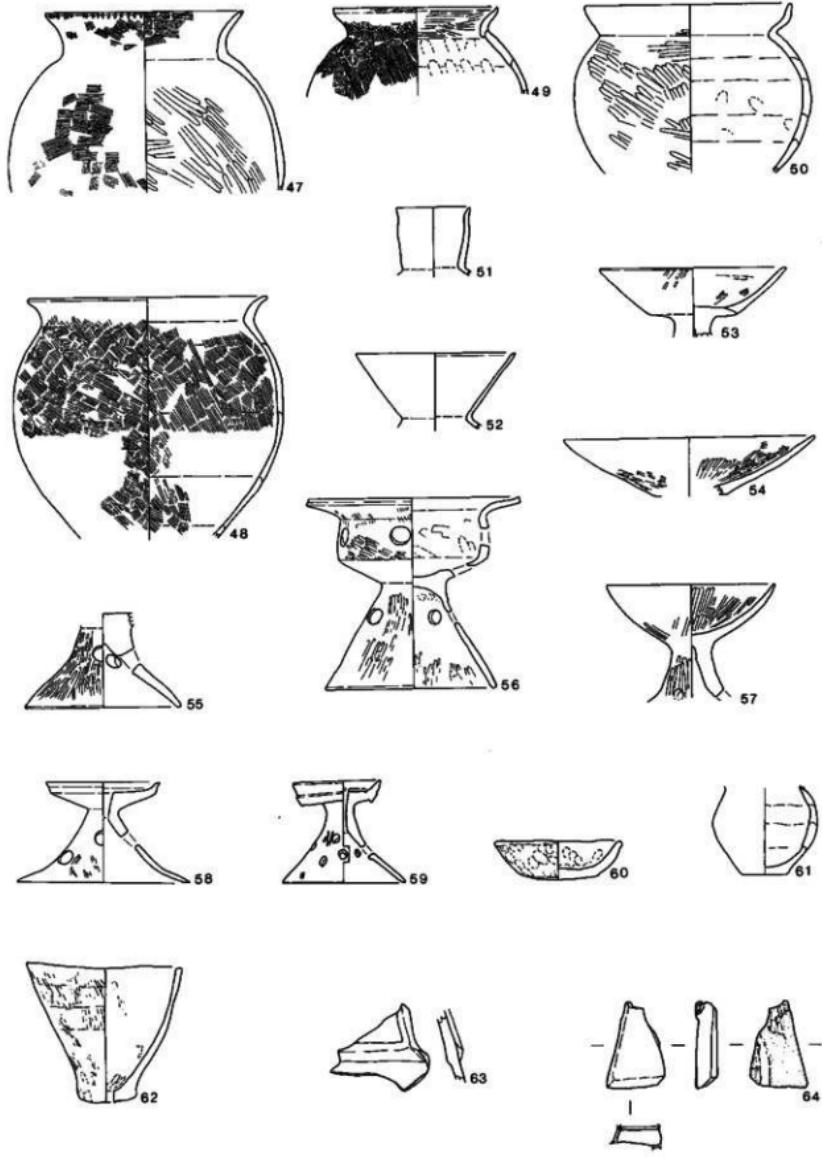
29号住居址
(SI028)



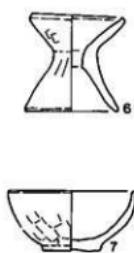
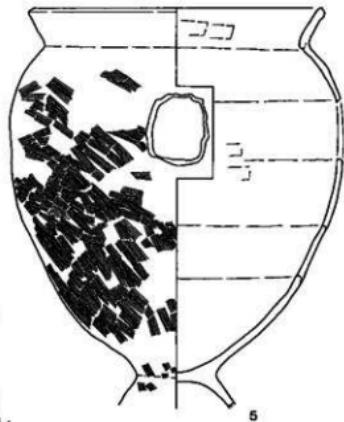
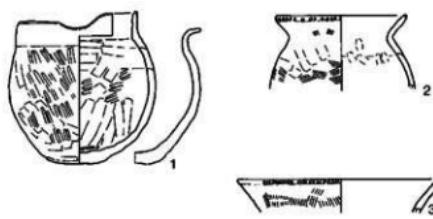
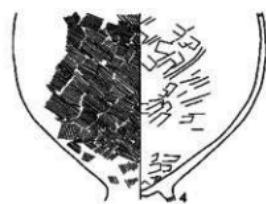
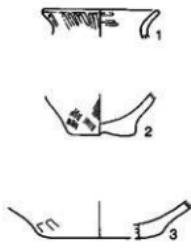
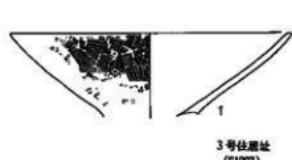
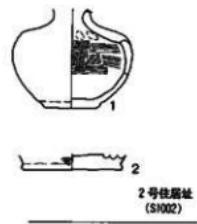
第133図 III区古墳時代グリッド出土遺物



第134図 Ⅲ区古墳時代グリッド出土遺物

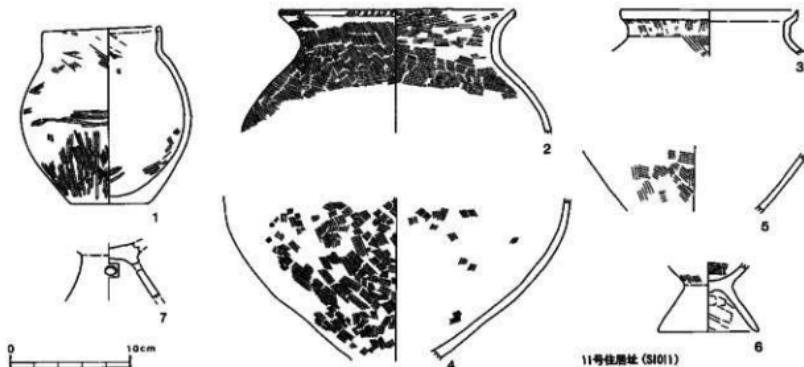
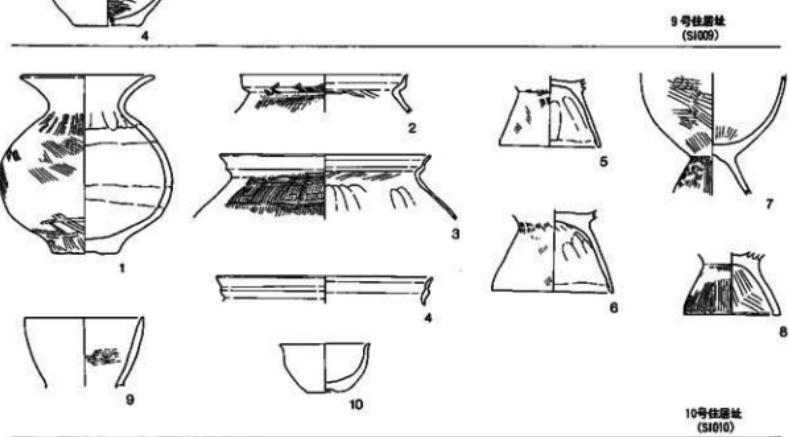
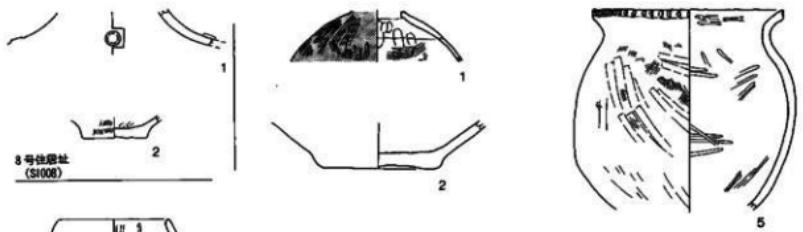


第135図 III区古墳時代グリッド出土遺物

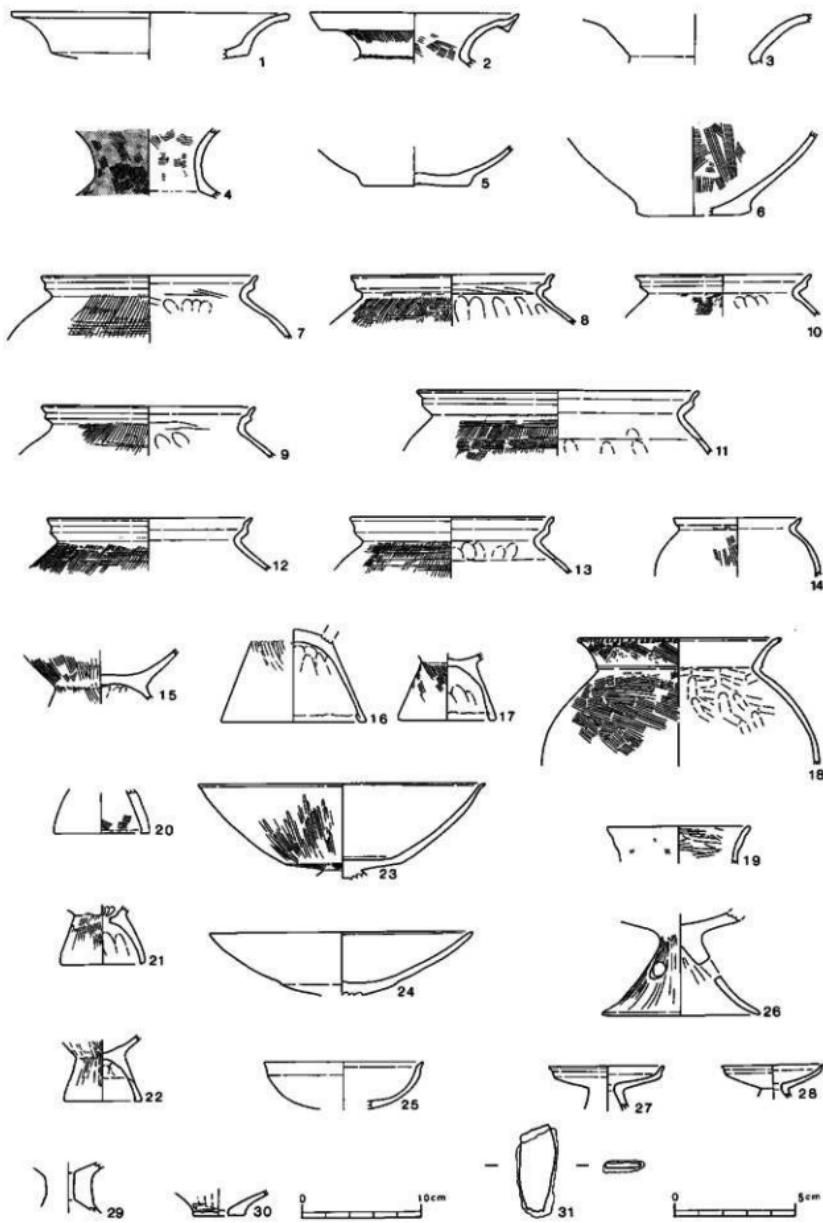


0 10cm

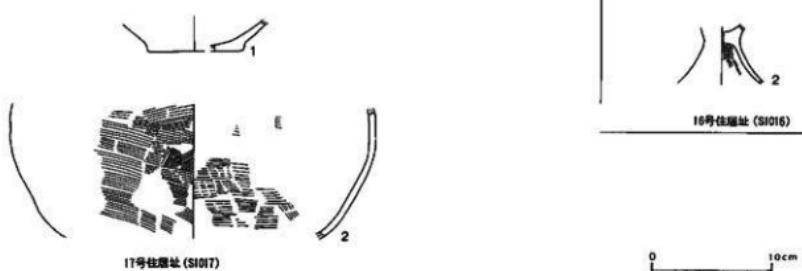
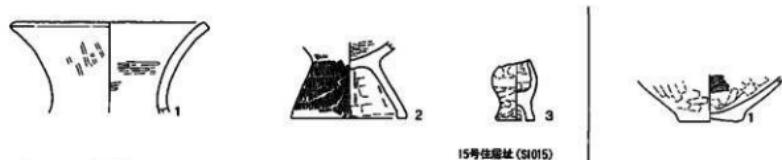
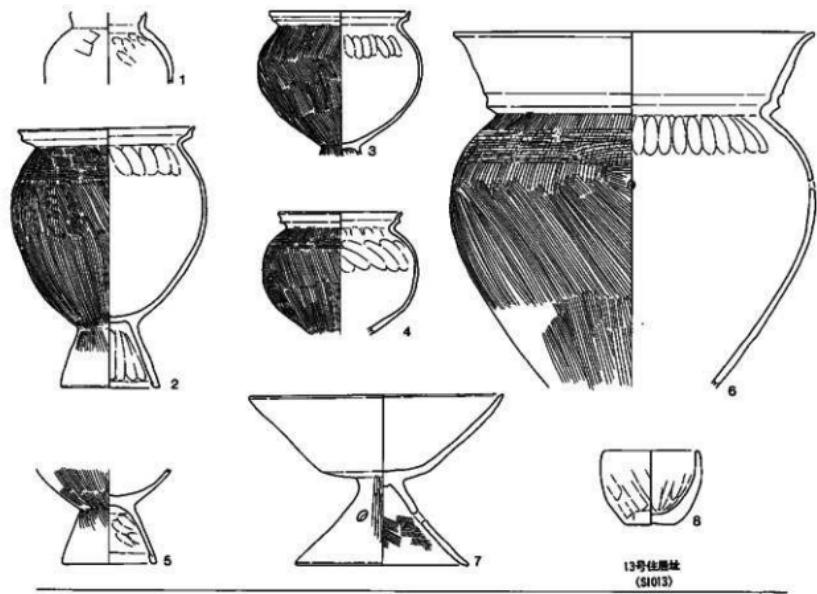
第136図 IV区古墳時代遺構出土遺物



第137図 IV区古墳時代遺構出土遺物



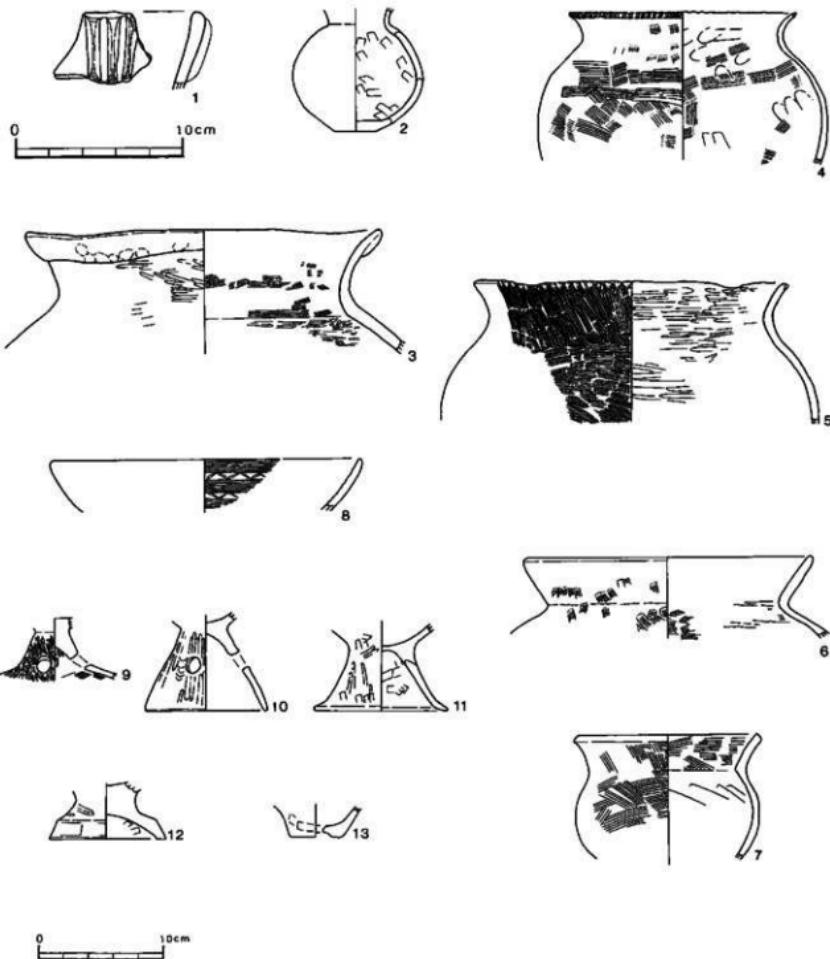
第138図 IV区古墳時代12号住居址 (SI012) 出土遺物



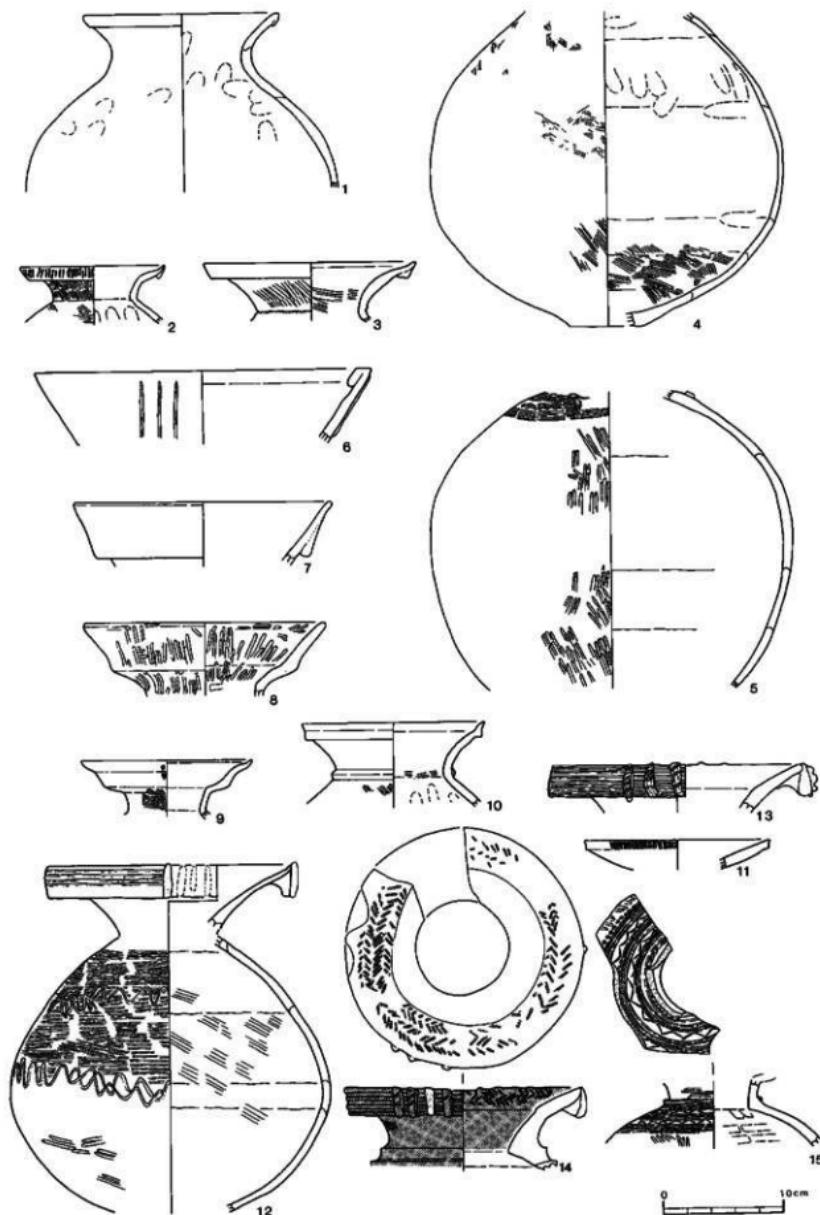
17号住居址 (SI017)

0 10 cm

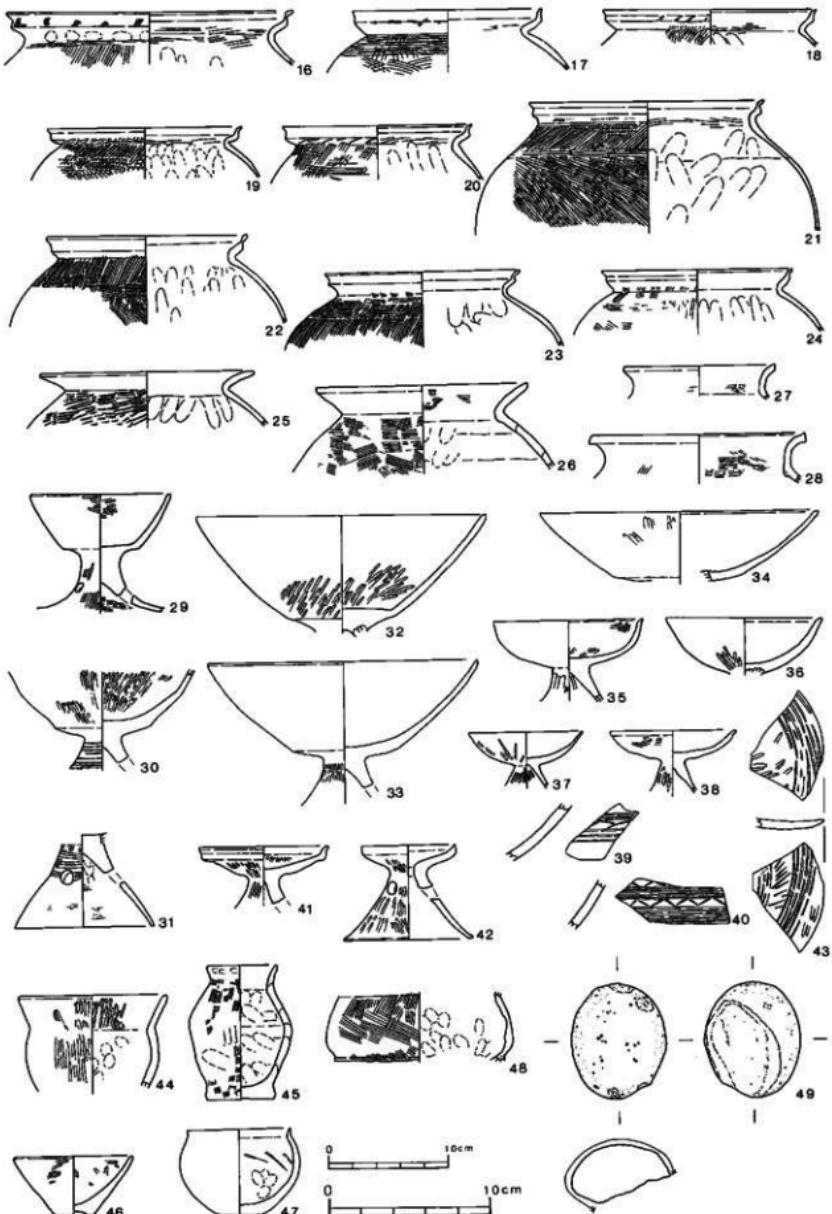
第139図 IV区古墳時代遺構出土遺物



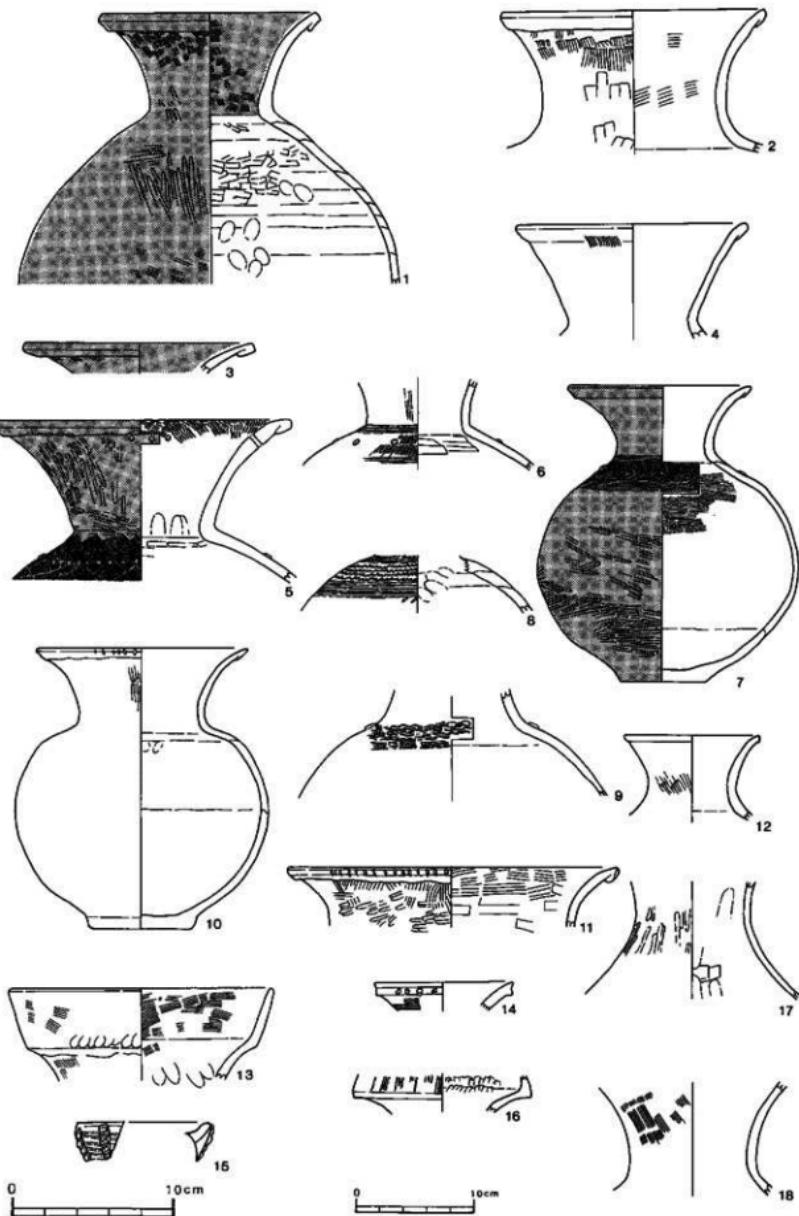
第140図 IV区古墳時代5号溝（SD005）出土遺物



第141図 IV区古墳時代グリッド出土遺物



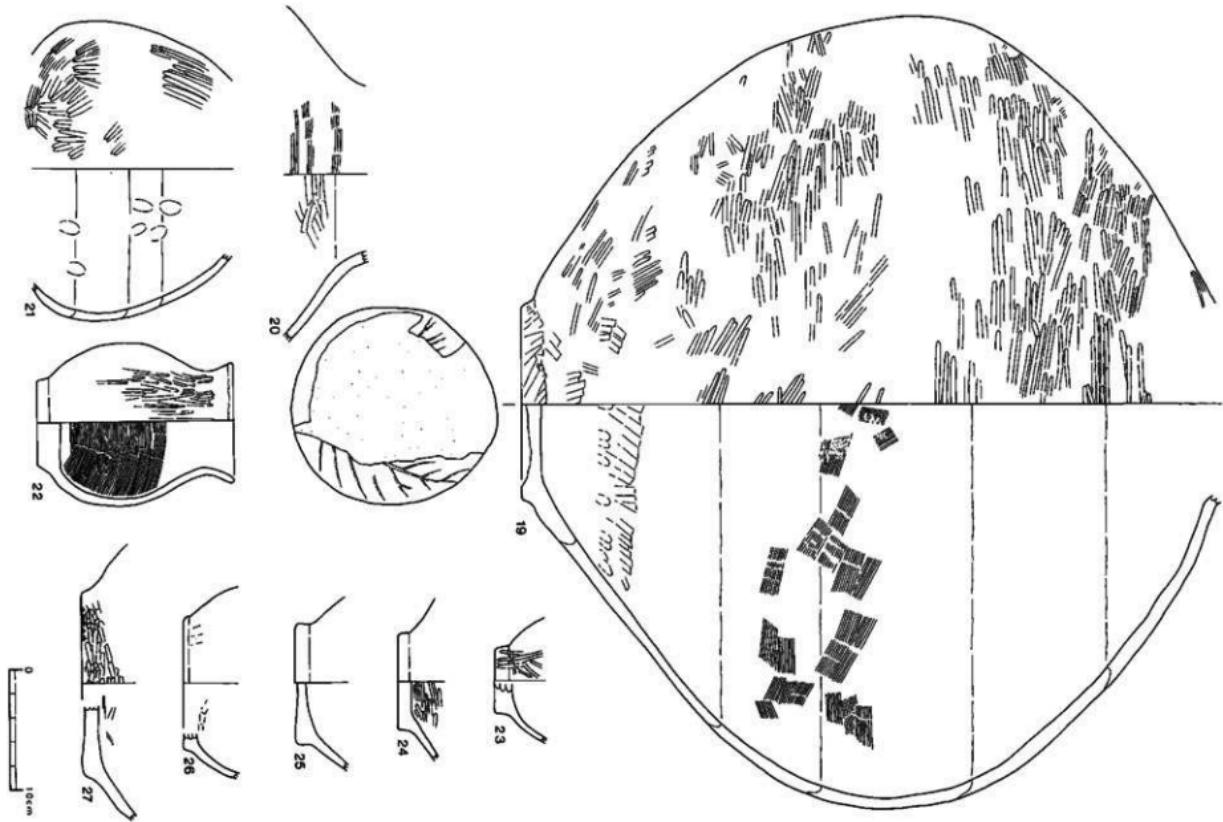
第142図 IV区古墳時代グリッド出土遺物



第143図 IVa区古墳時代18号住居址 (SI018) 出土遺物

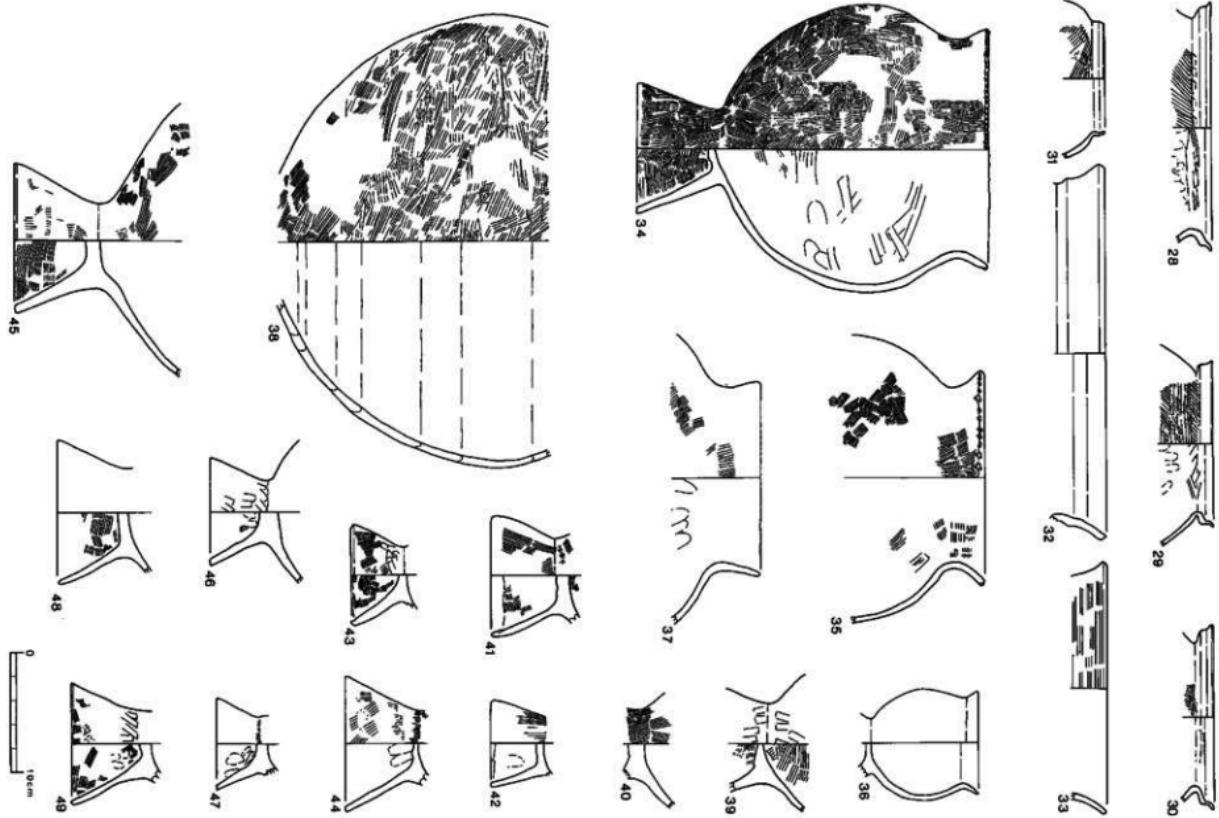
第144図 IVa区古墳時代18号住居址(SI018)出土遺物

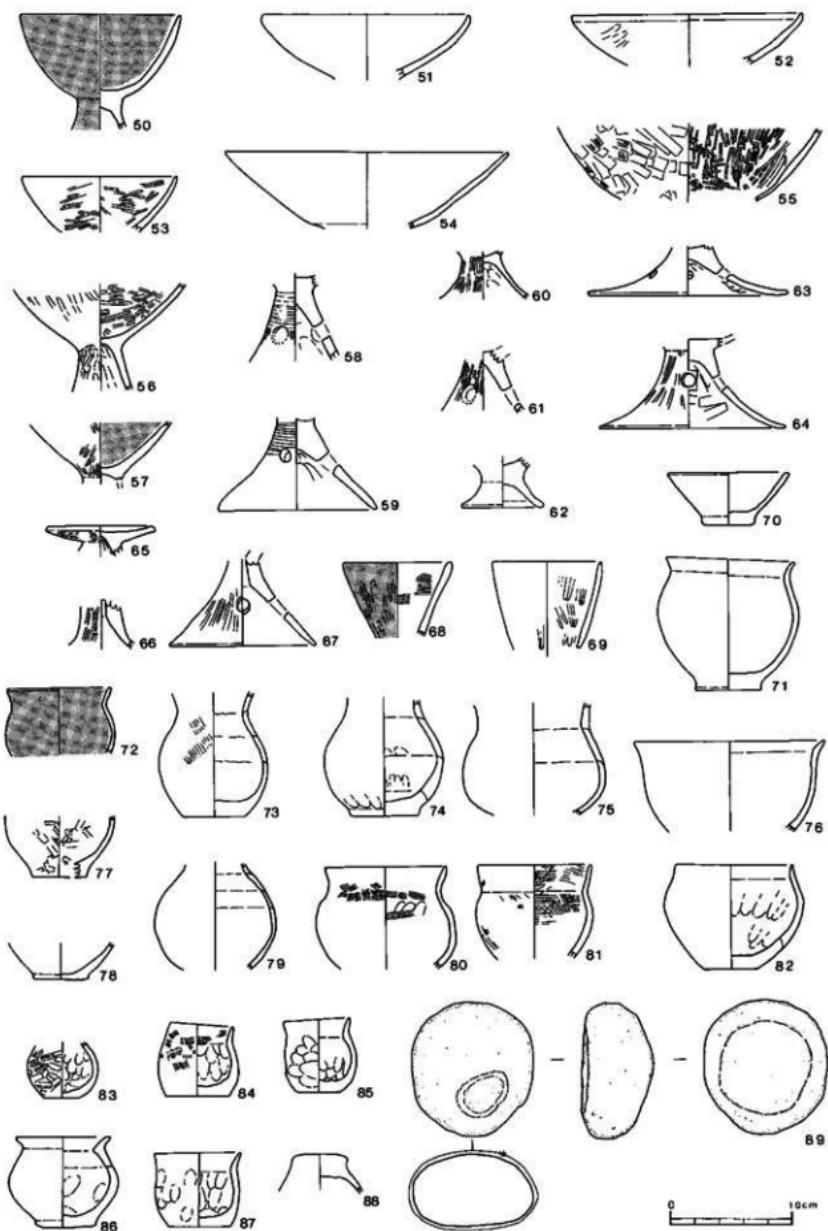
—249—



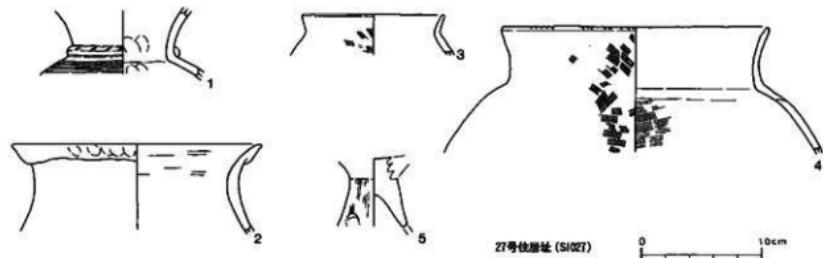
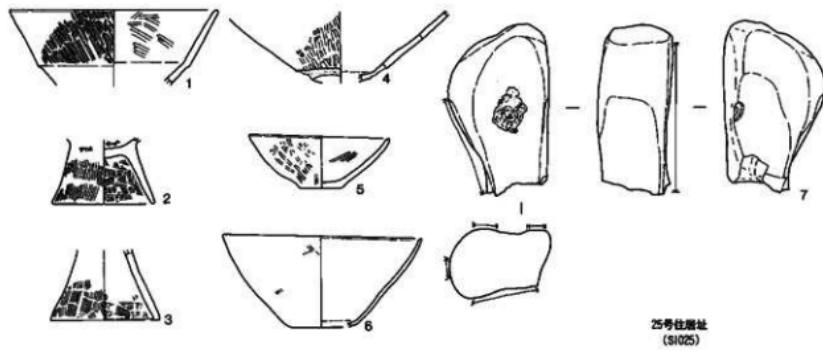
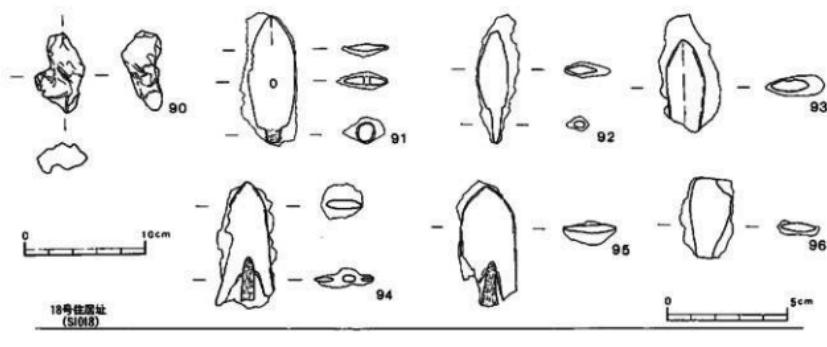
第145図 IVa区古墳時代18号住居址(SI018) 出土遺物

— 250 —

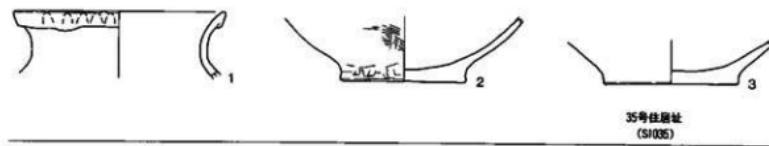
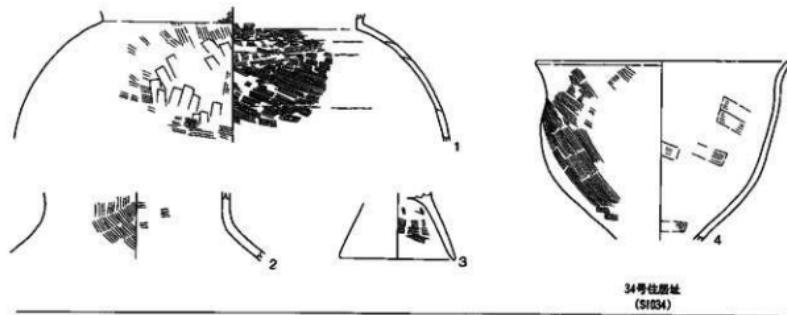
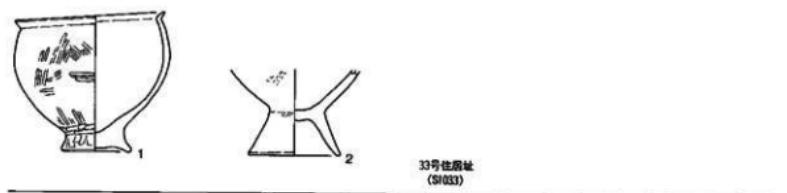
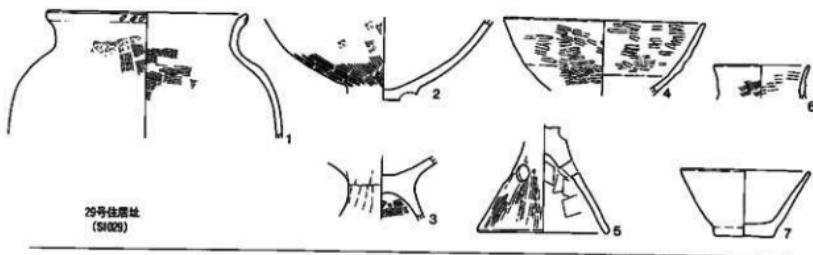




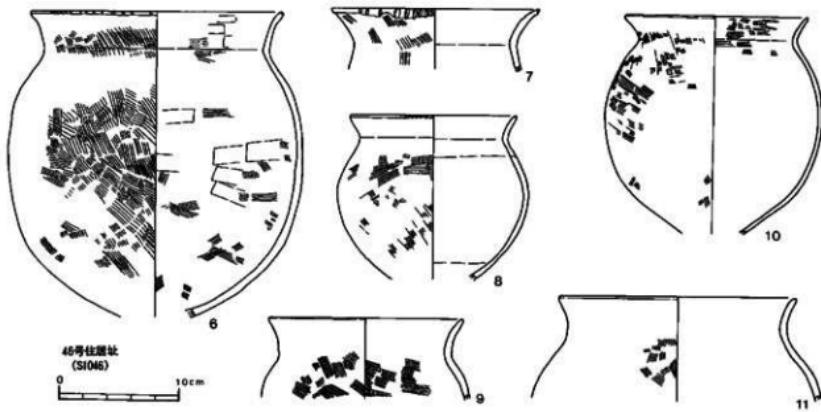
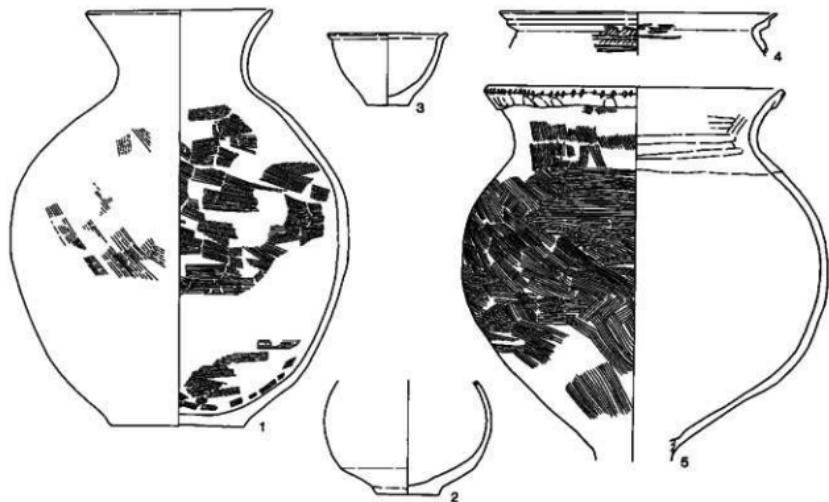
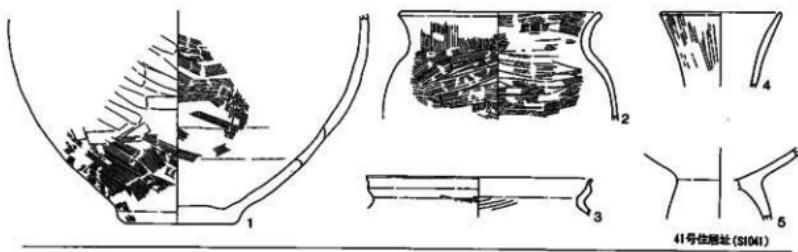
第146図 IVa区古墳時代18号住居址 (SI018) 出土遺物



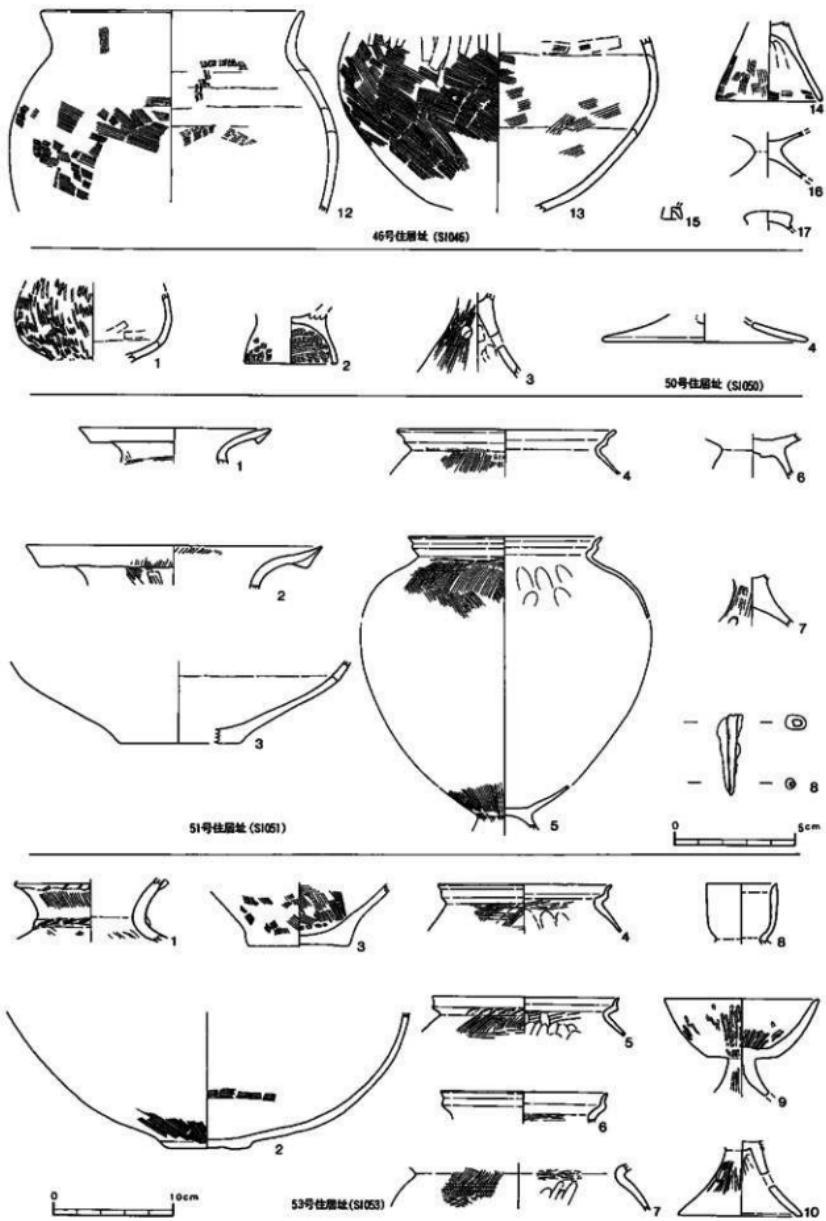
第147図 IV a区古墳時代遺構出土遺物



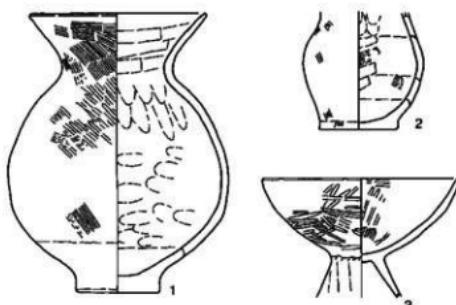
第148図 IV a区古墳時代遺構出土遺物



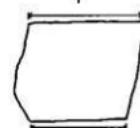
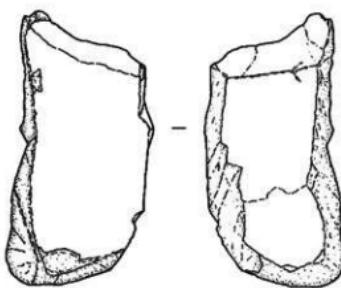
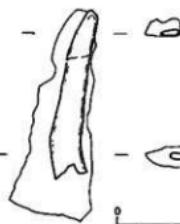
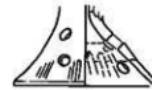
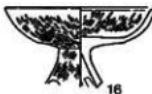
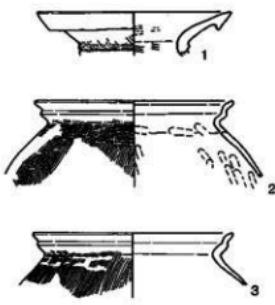
第149図 IV a区古墳時代遺構出土遺物



第150図 IVa区古墳時代遺構出土遺物

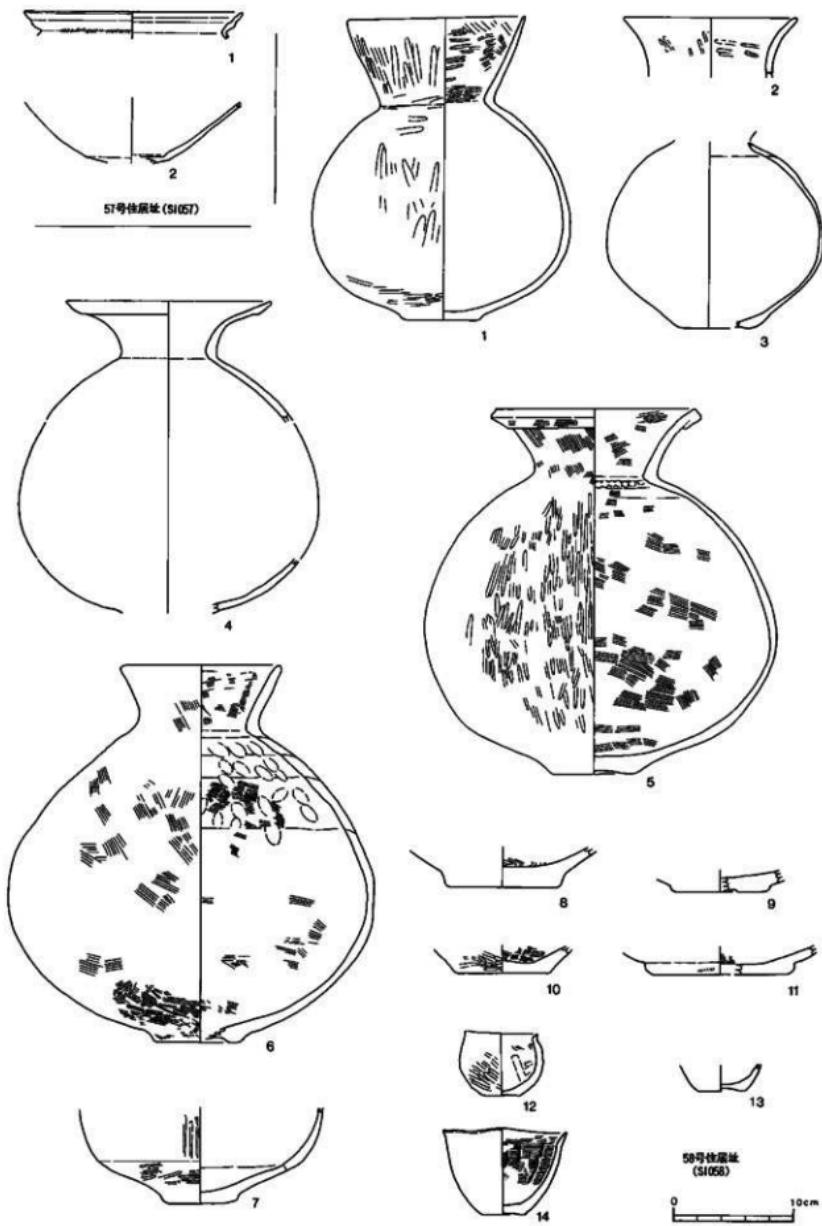


54号住居址 (S1054)

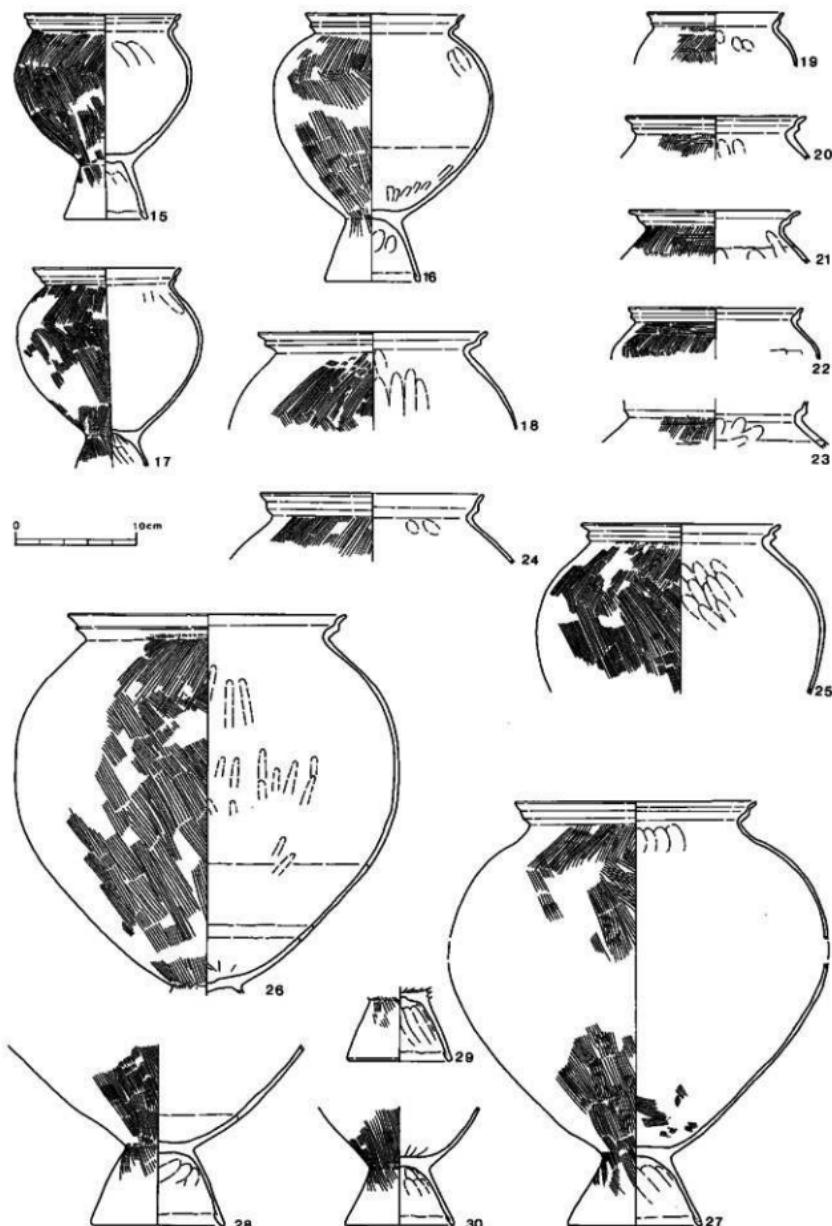


55号住居址 (S1055)

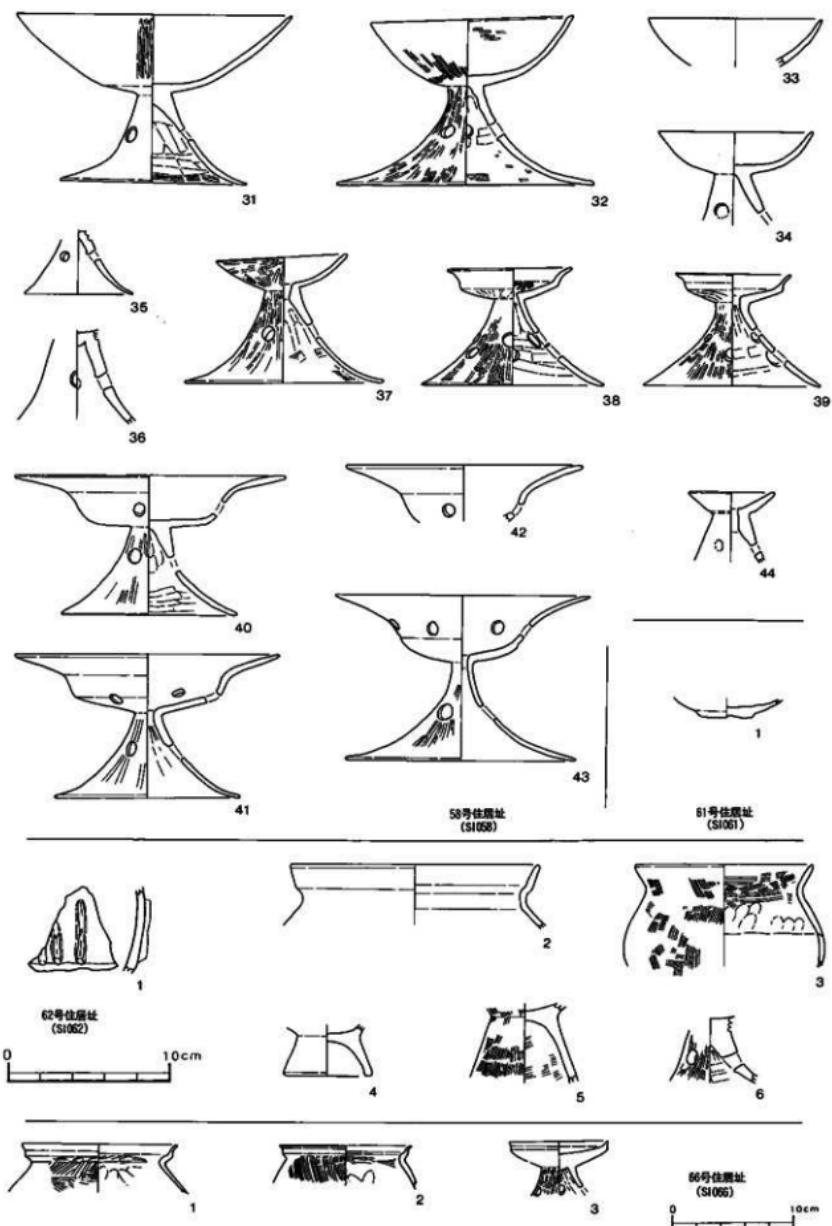
第151図 IV a区古墳時代遺構出土遺物



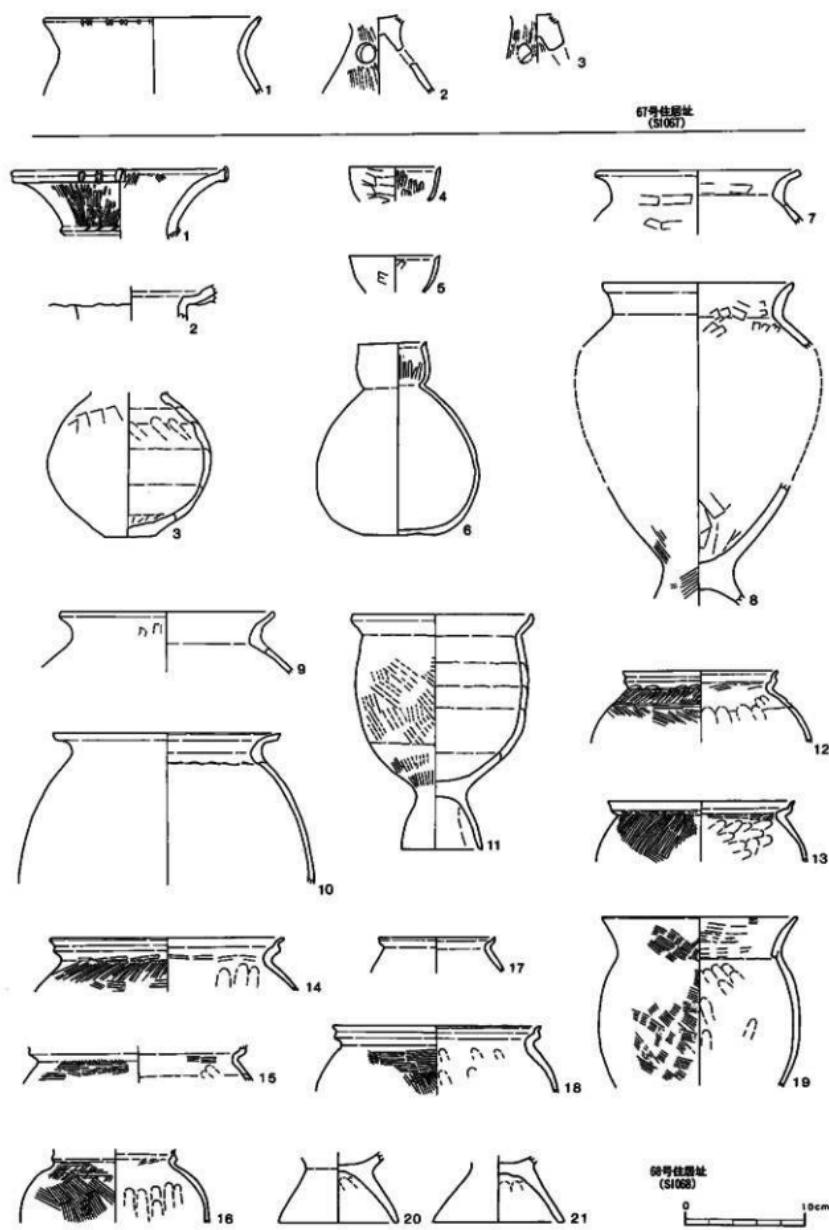
第152図 IVa区古墳時代遺構出土遺物



第153図 IV a区古墳時代58号住居址 (SI058) 出土遺物



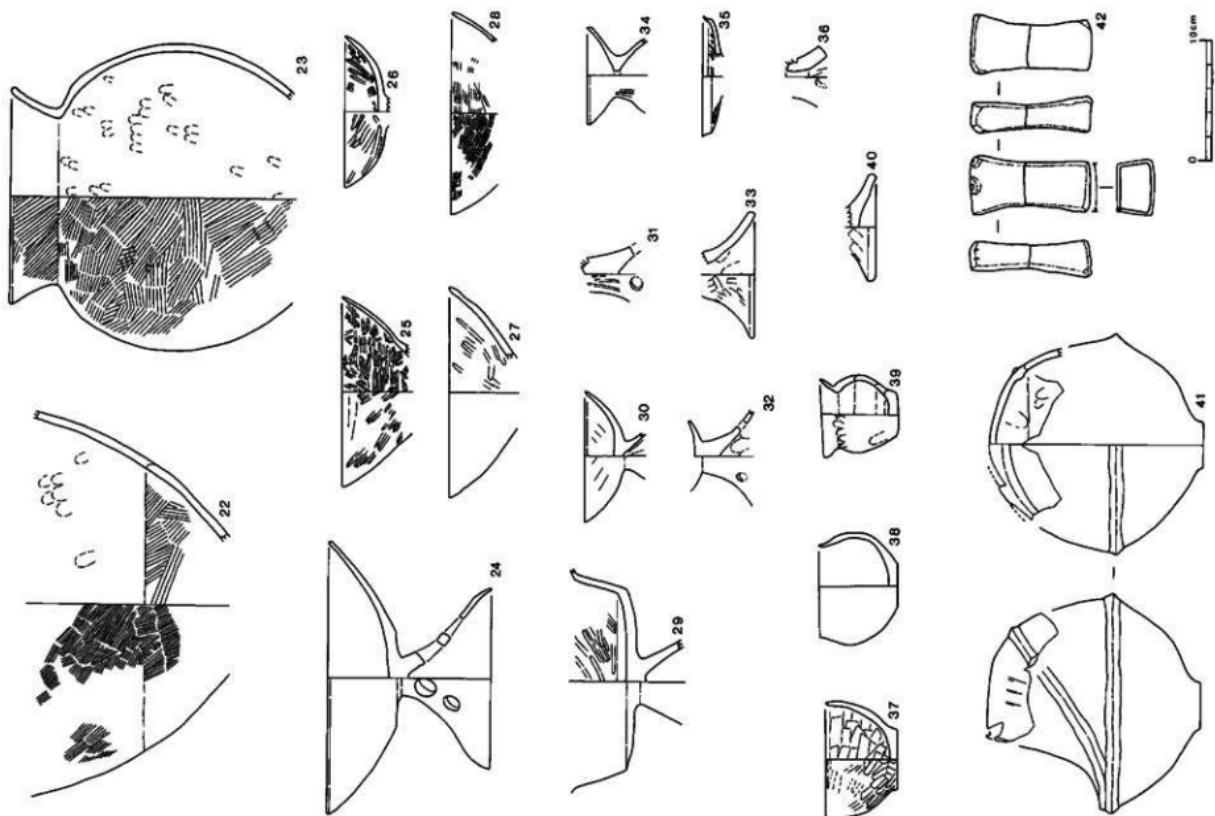
第154図 IVa区古墳時代遺構出土遺物

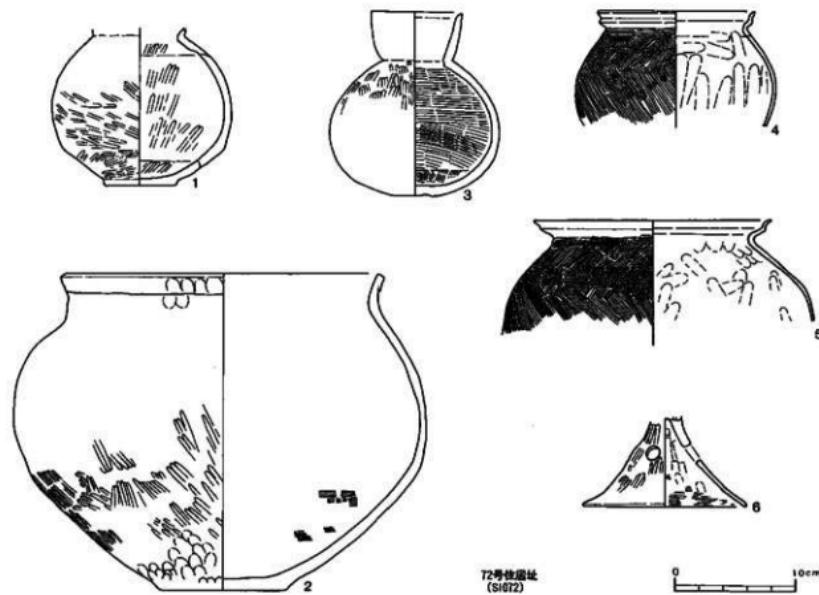
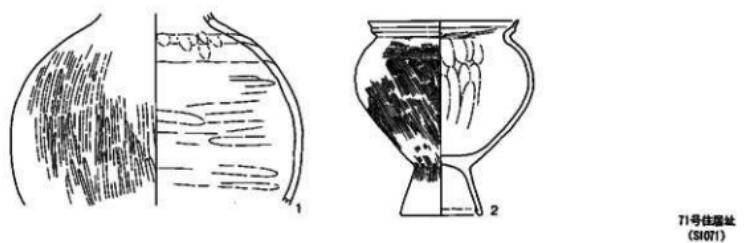
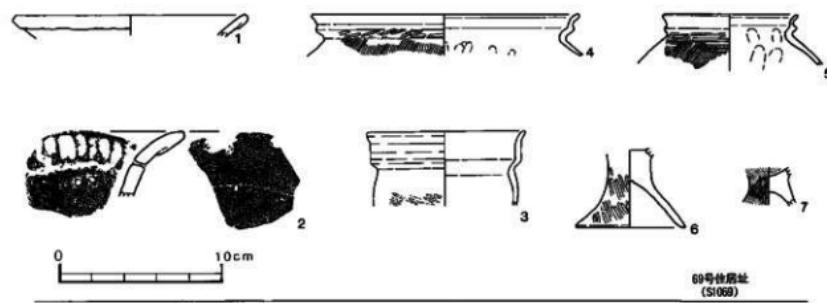


第155図 IVa区古墳時代遺構出土遺物

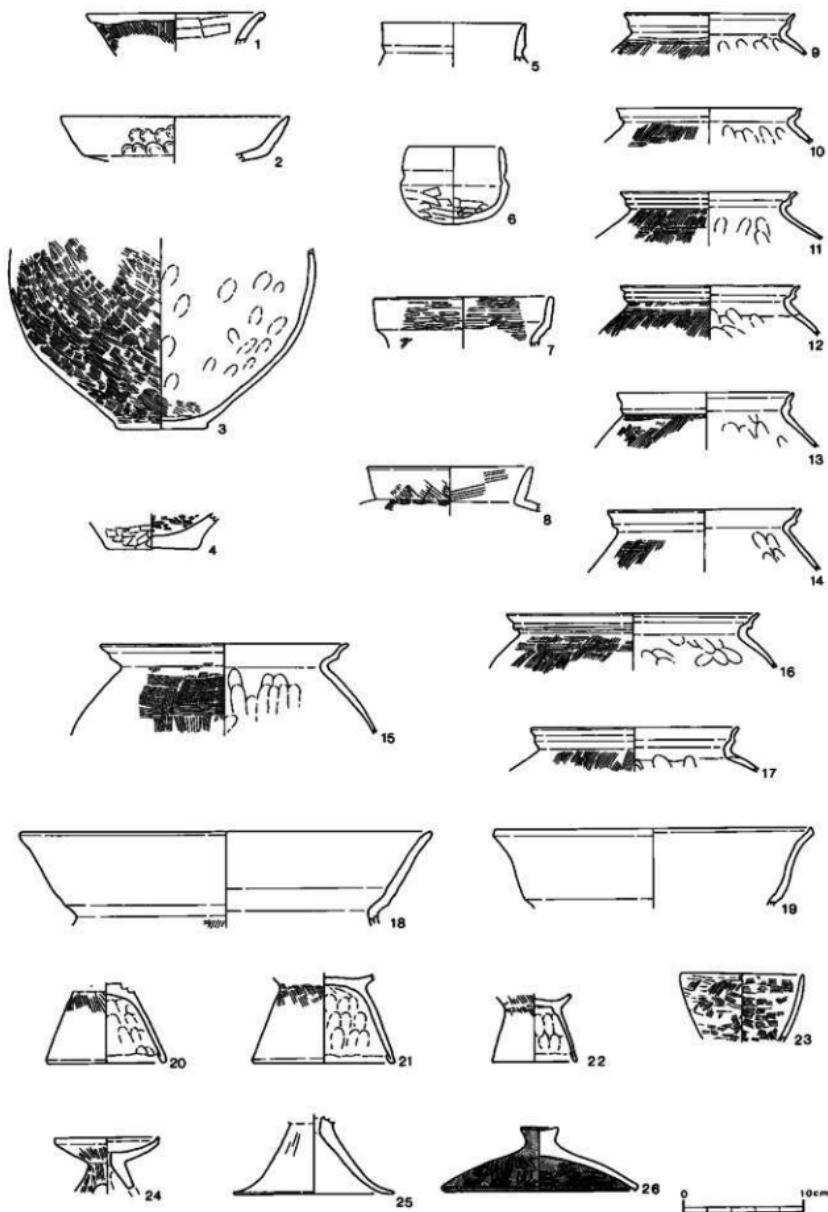
第156圖 IV a區古墳時代68號住居址 (SI068) 出土遺物

— 261 —

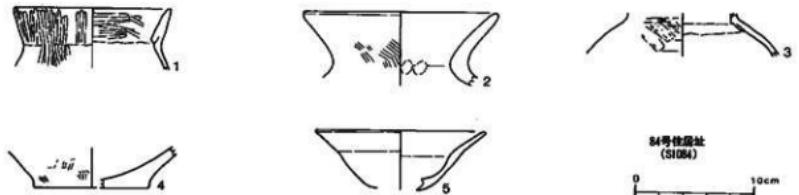
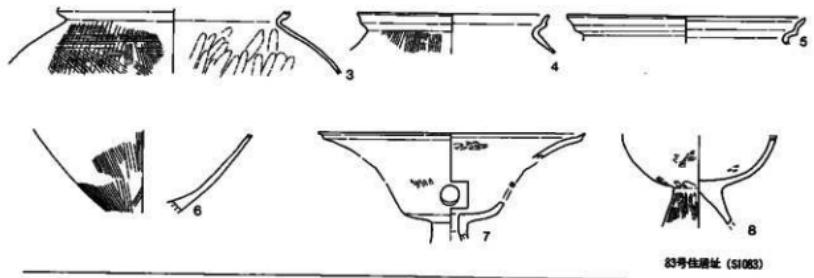
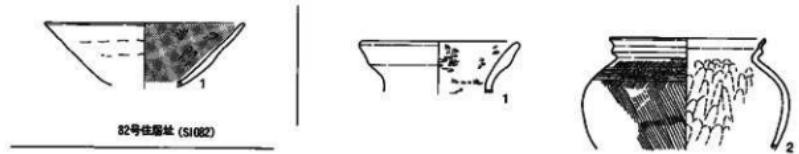
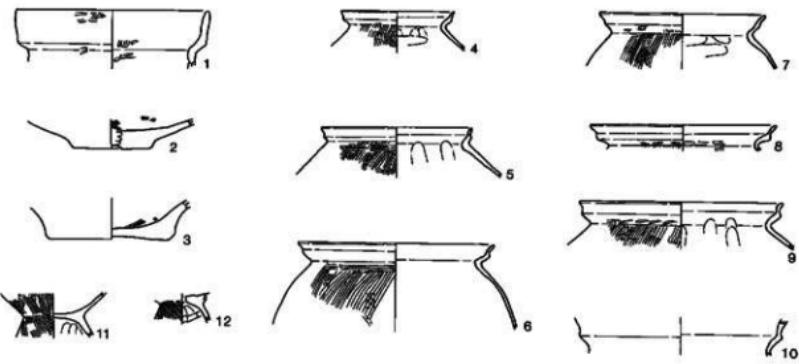




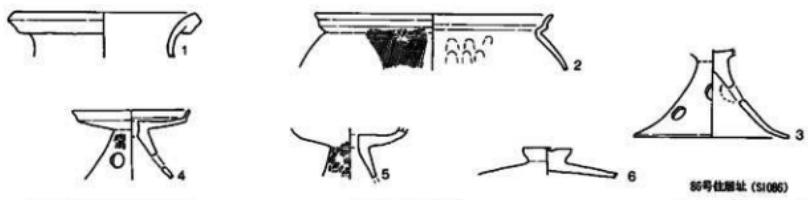
第157図 IV a区古墳時代遺構出土遺物



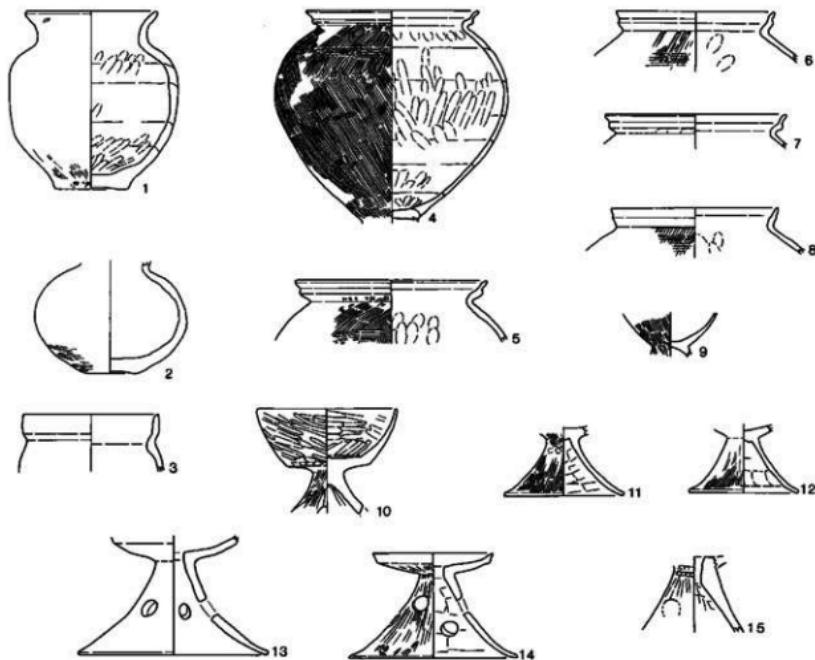
第158図 IV a区古墳時代75号住居址 (SI075) 出土遺物



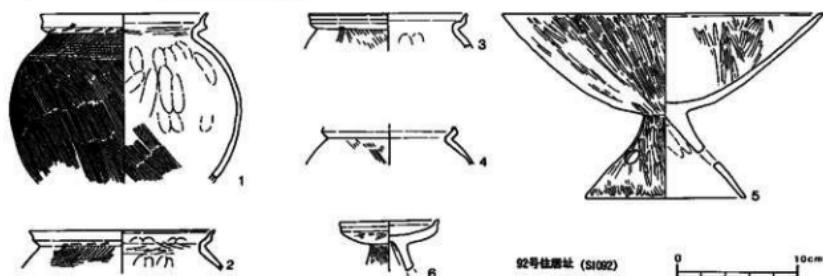
第159図 IV a区古墳時代遺構出土遺物



86号住居址 (S1066)

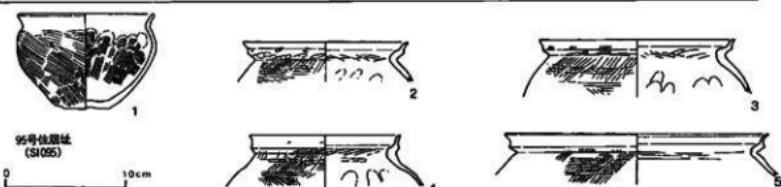
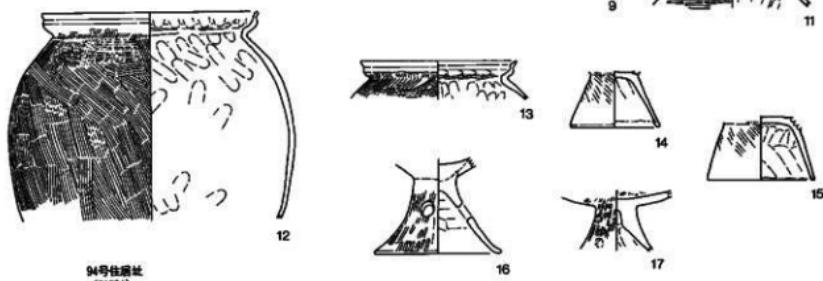
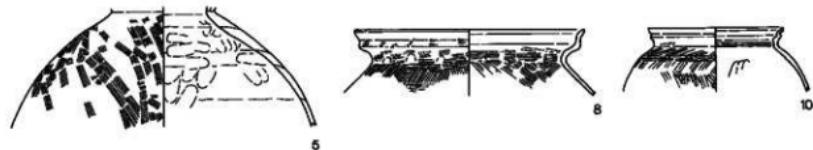
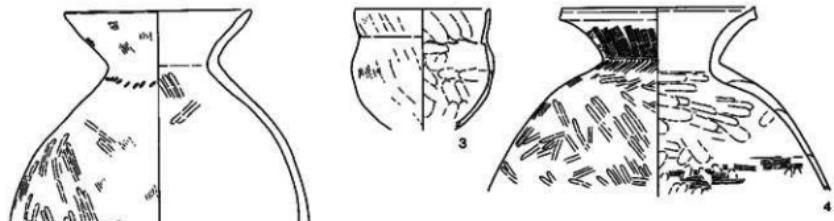


91号住居址 (S1091)

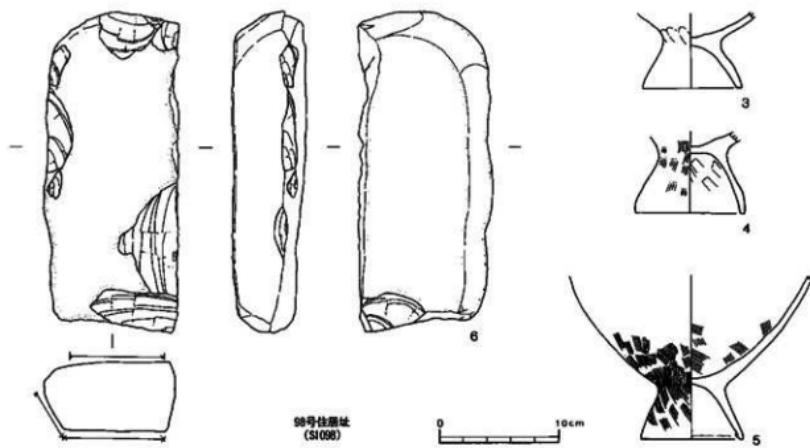
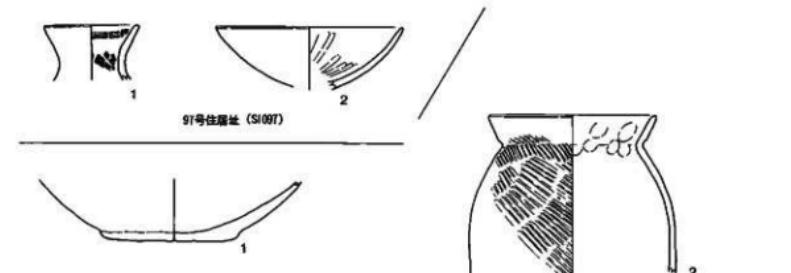
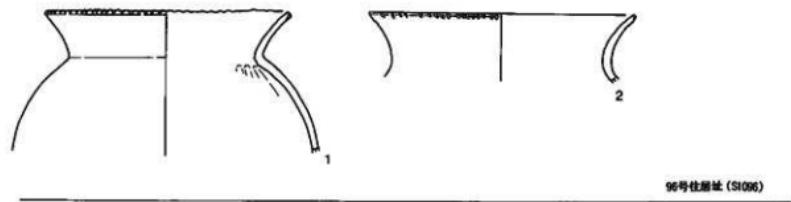
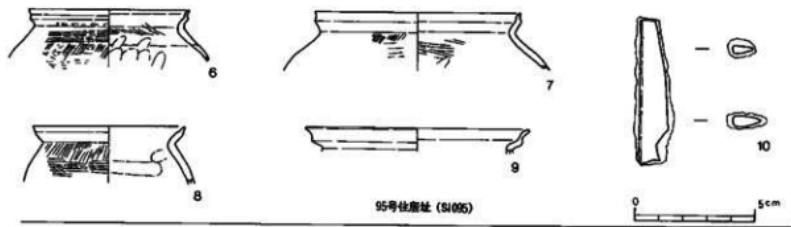


92号住居址 (S1092)

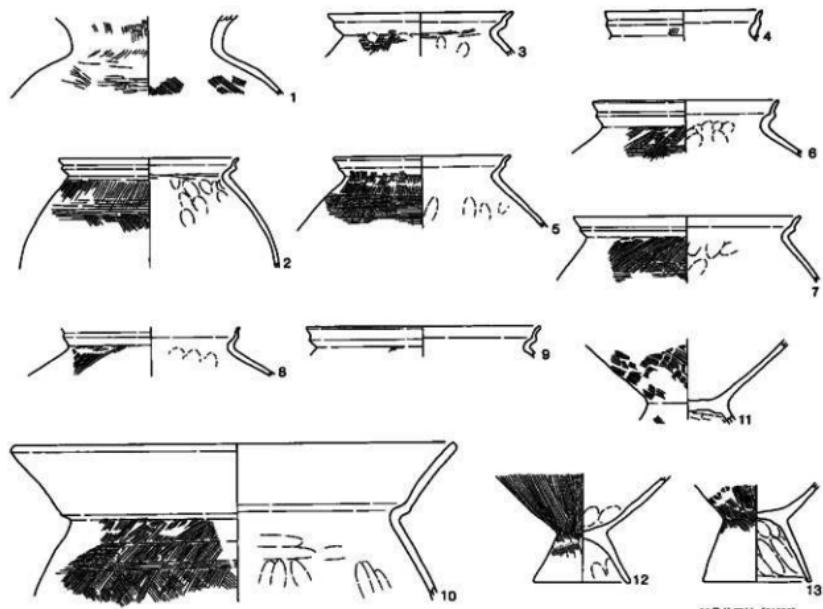
第160図 IV a区古墳時代遺構出土遺物



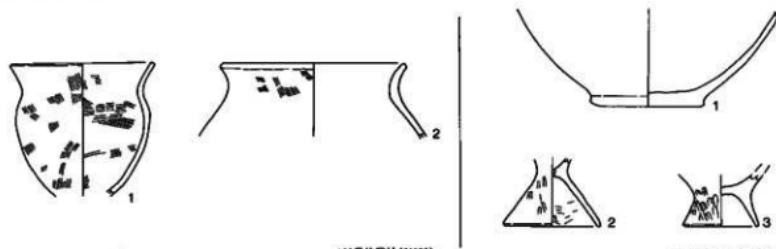
第161図 IV-a区古墳時代遺構出土遺物



第162図 IV a区古墳時代遺構出土遺物

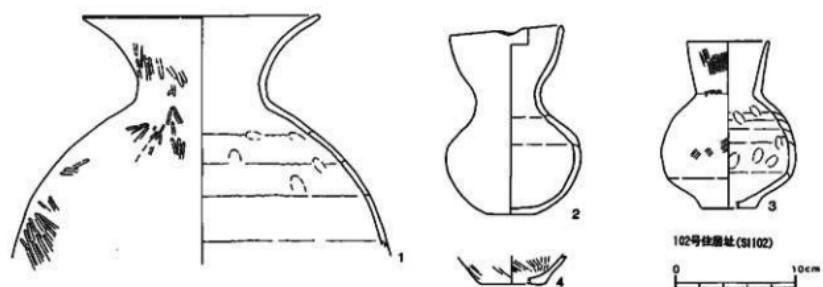


99号住居址 (SI090)



100号住居址 (SI100)

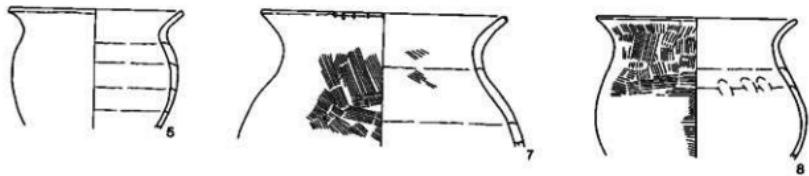
101号住居址 (SI101)



102号住居址 (SI102)

0 10cm

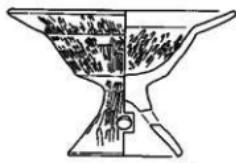
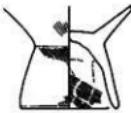
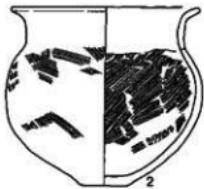
第163図 IVa区古墳時代遺構出土遺物



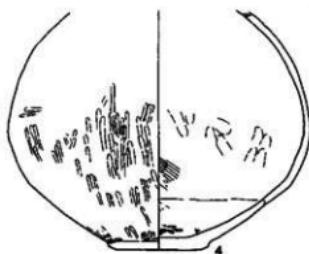
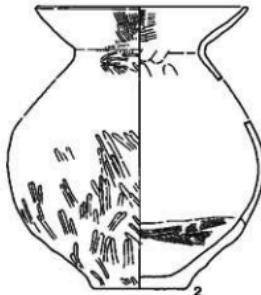
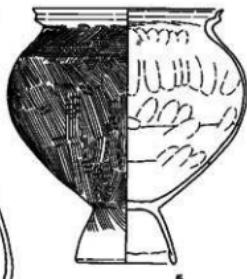
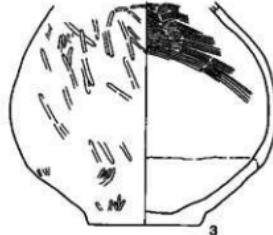
105号住居址
(SI102)



104号住居址
(SI104)



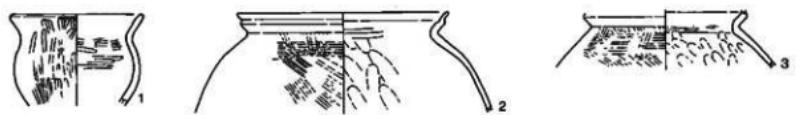
105号住居址(SI105)



106号住居址
(SI106)

0 10 cm

第164図 IVa区古墳時代遺構出土遺物



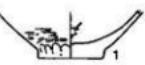
107号住居址
(SH107)



4



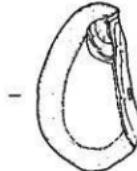
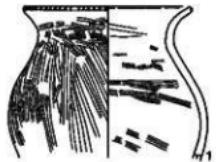
109号住居址
(SH109)



114号住居址
(SH114)



112号住居址
(SH112)



116号住居址 (SH116)

115号住居址
(SH115)



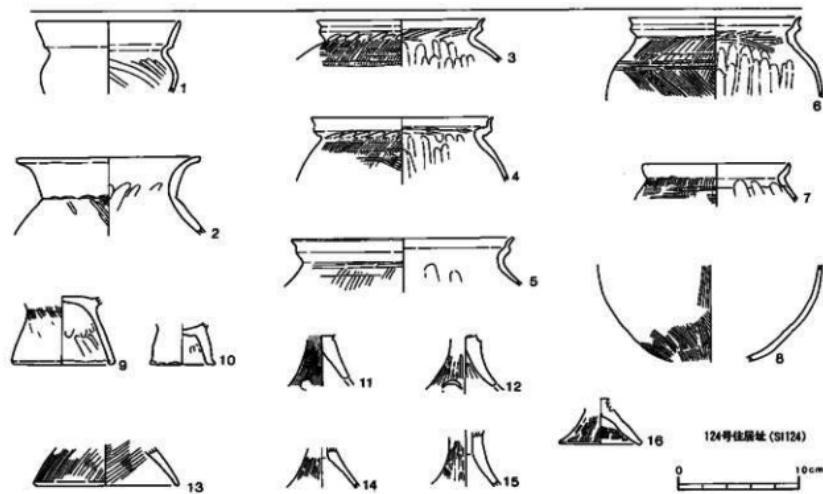
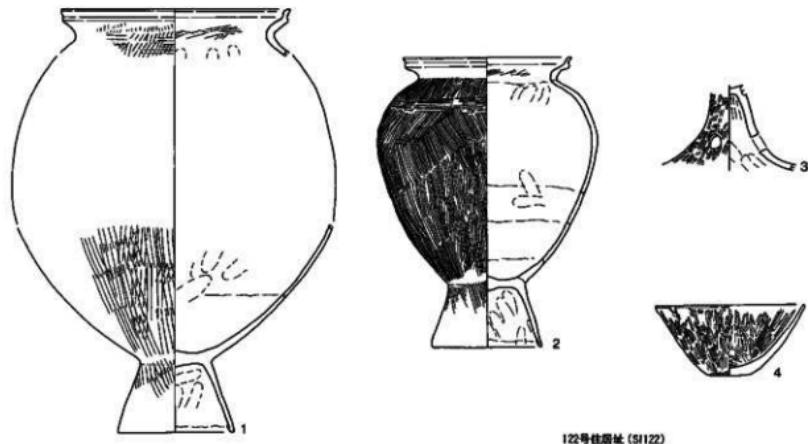
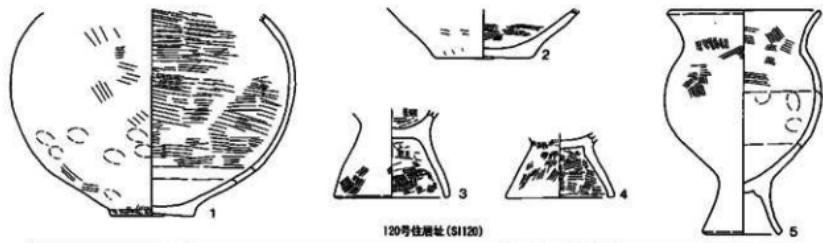
117号住居址
(SH117)



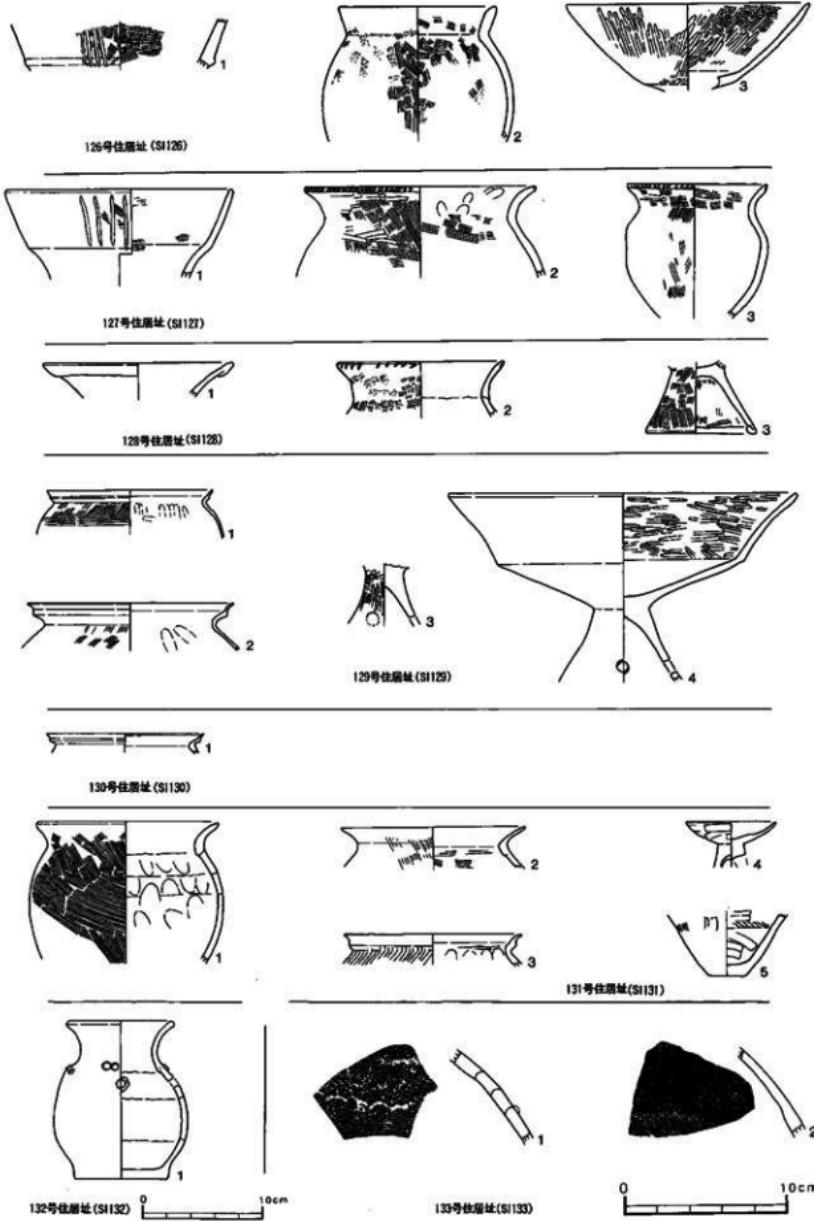
119号住居址 (SH119)



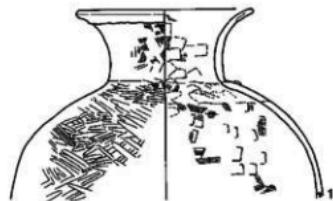
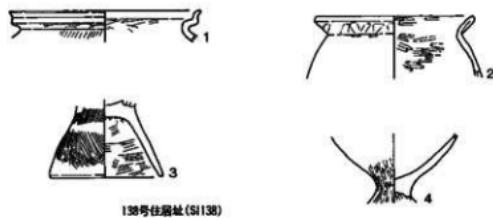
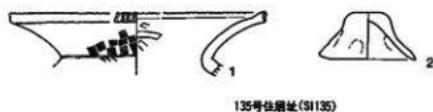
第165図 IV a区古墳時代遺構出土遺物



第166図 IV a区古墳時代遺構出土遺物

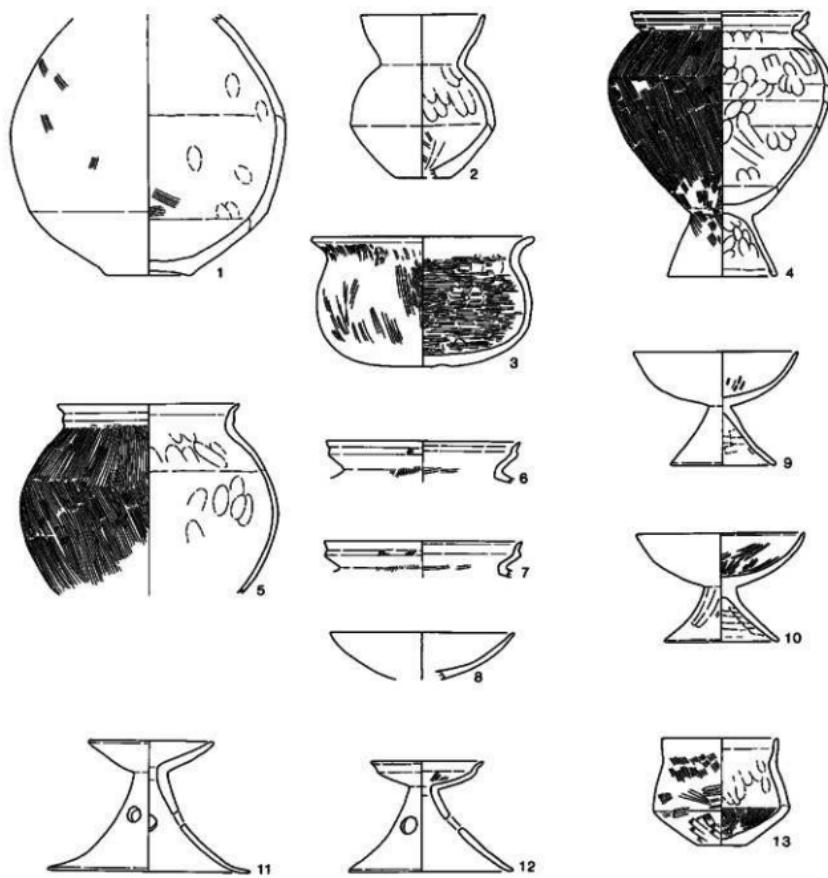


第167図 IVa区古墳時代遺構出土遺物

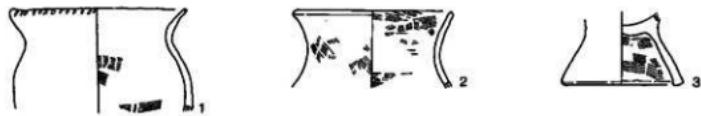


0 10cm

第168図 IV a区古墳時代遺構出土遺物



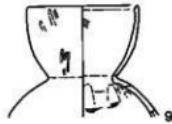
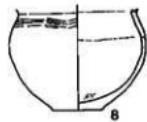
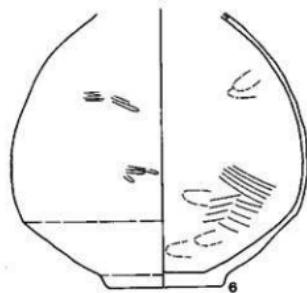
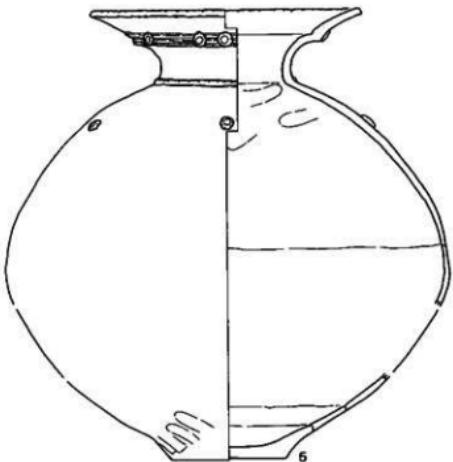
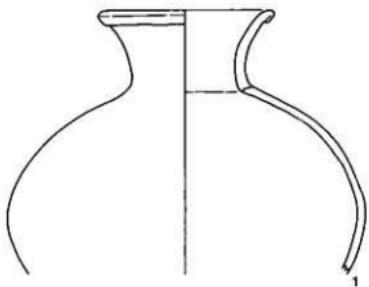
146号住居址 (SI146)



147号住居址 (SI147)



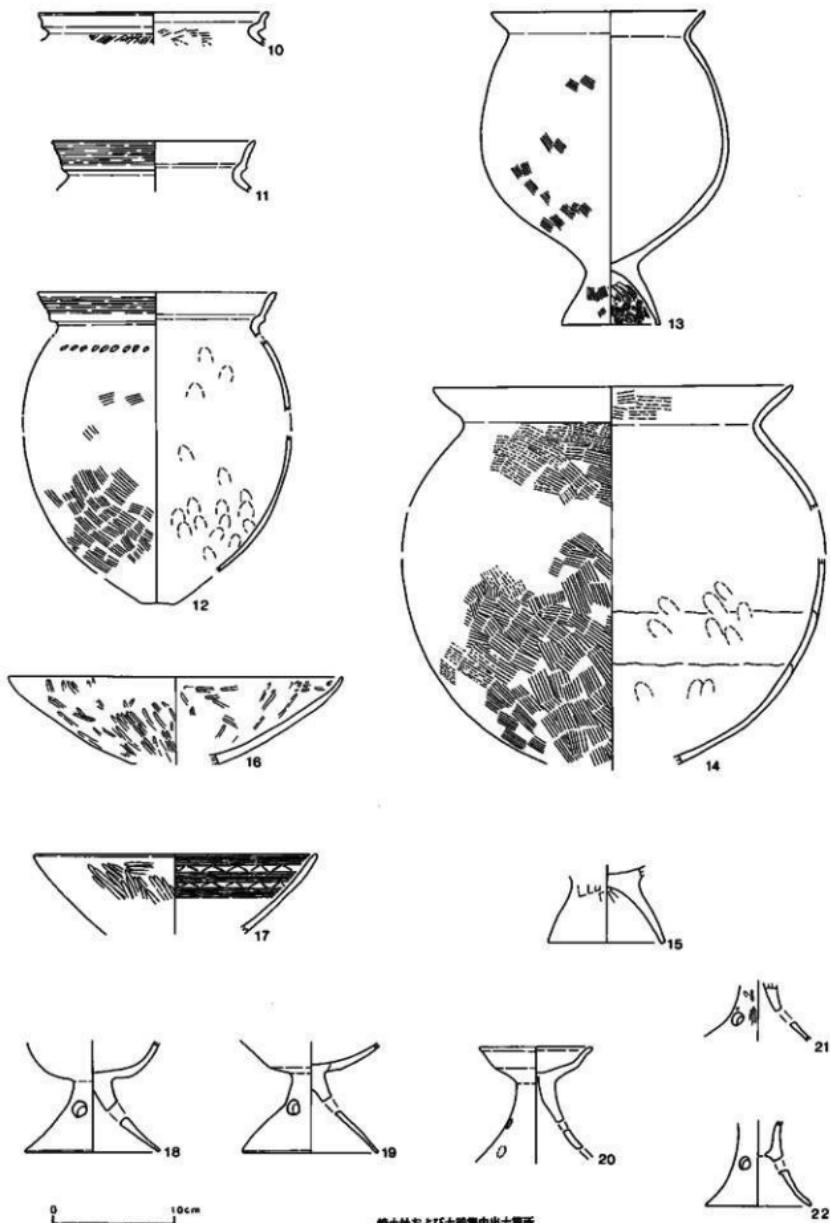
第169図 IV a区古墳時代遺構出土遺物



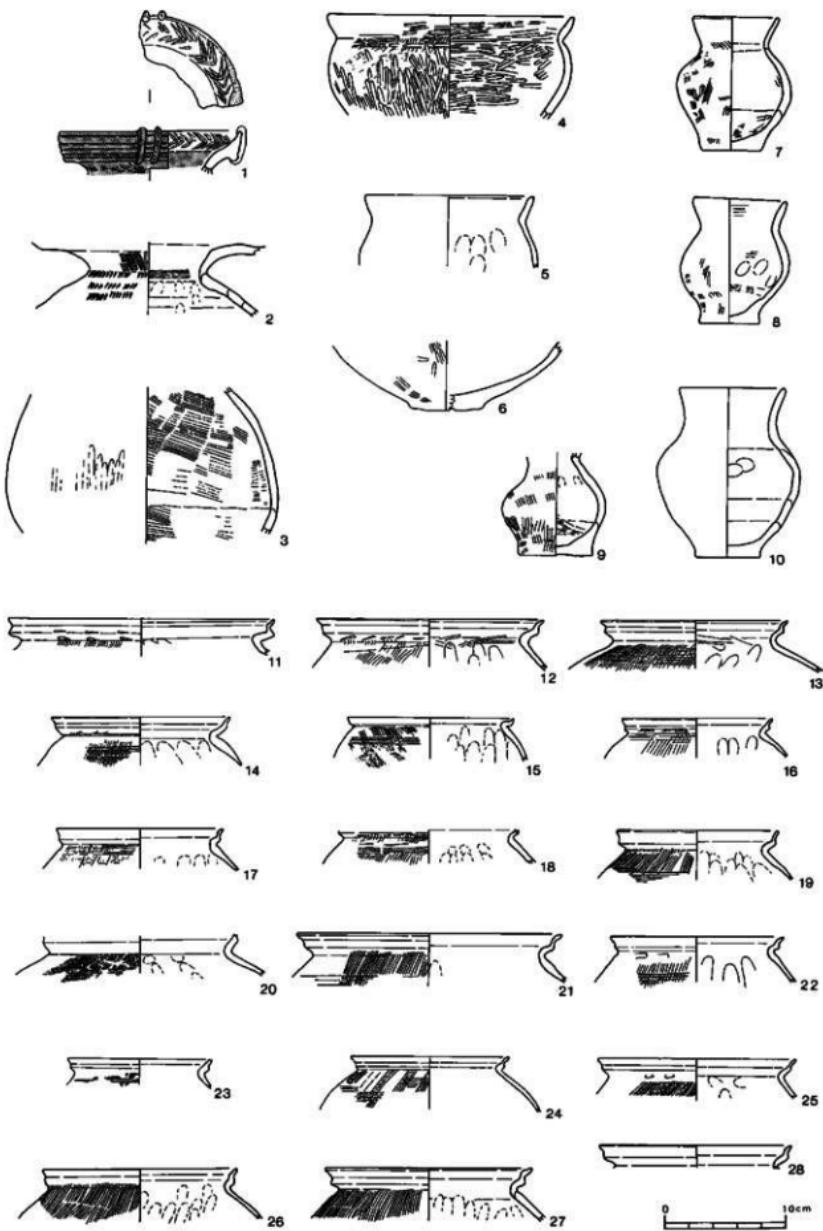
出土品および土器集中出土箇所

0 10cm

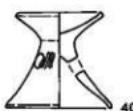
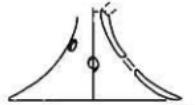
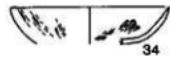
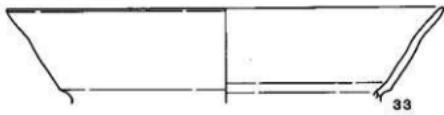
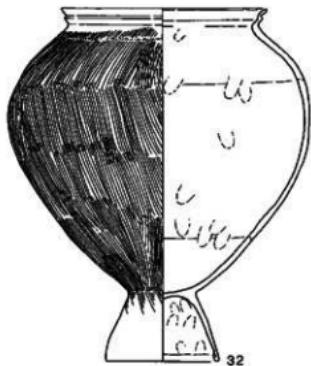
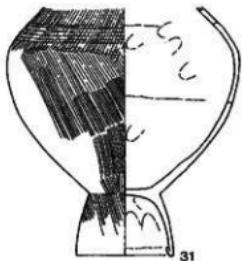
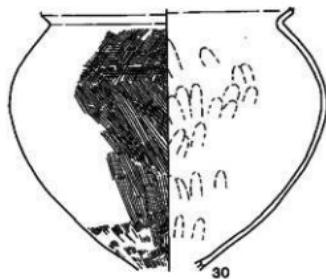
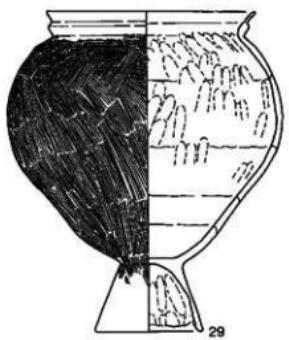
第170図 IV a 区古墳時代造構出土遺物



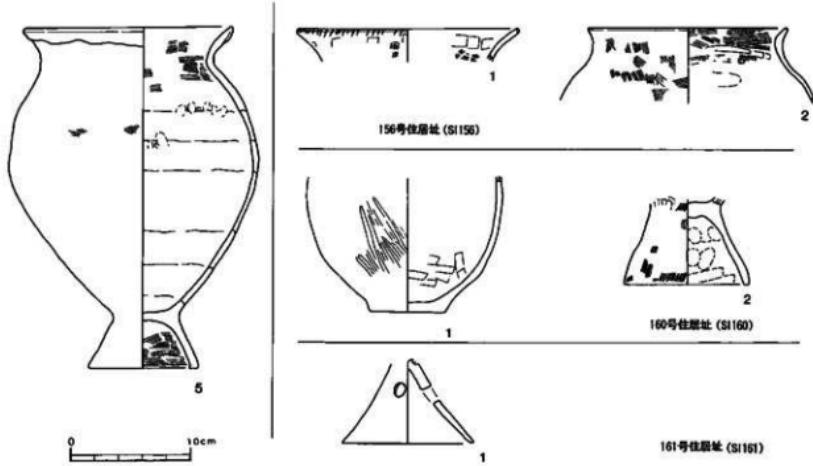
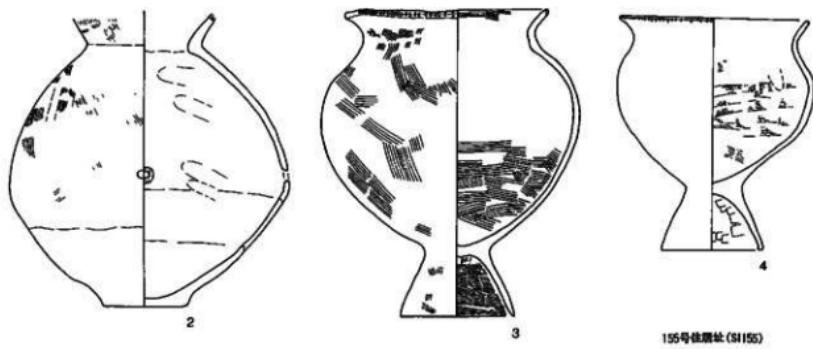
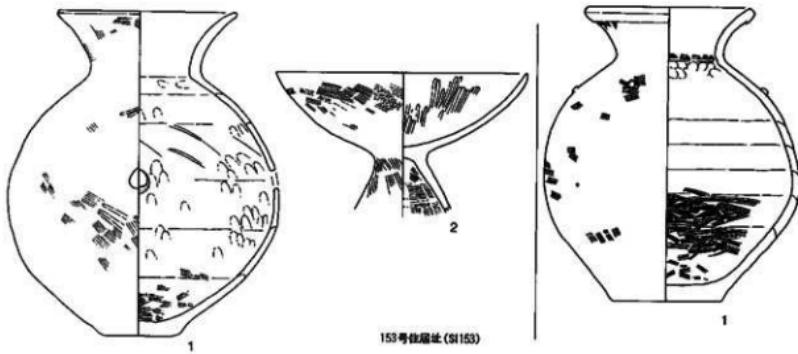
第171図 IVa区古墳時代遺構出土遺物



第172図 IVa区古墳時代グリッド出土遺物



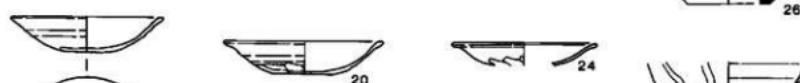
第173図 IVa区古墳時代グリッド出土遺物



第174図 V区古墳時代遺構出土遺物



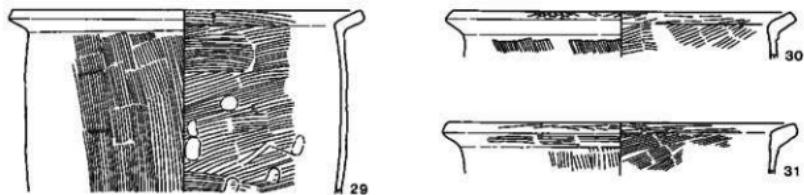
3号住居址 (SI003)



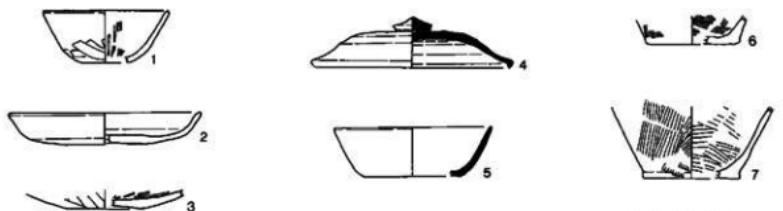
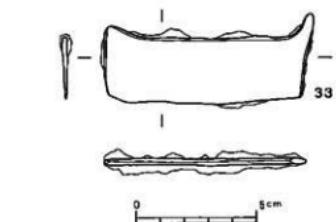
4号住居址 (SI004)



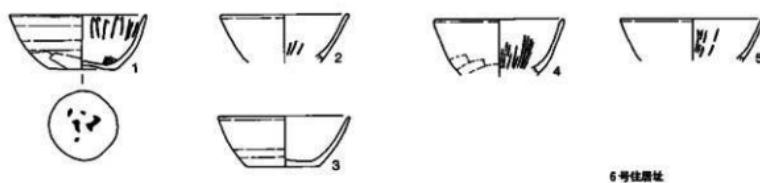
第175図 I区平安時代遺構出土遺物



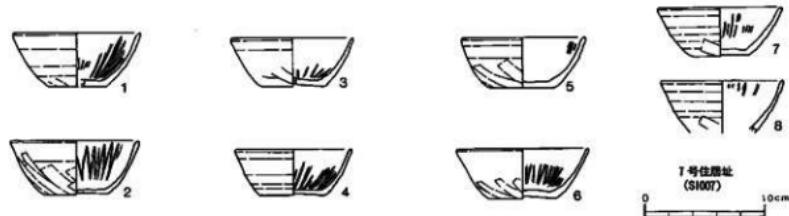
4号住居址
(S1004)



5号住居址 (S1005)

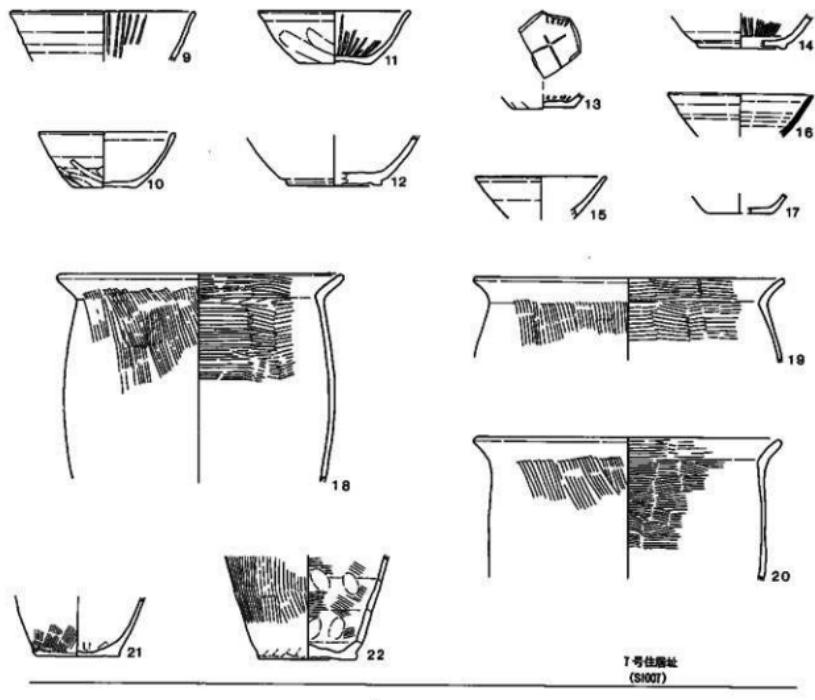


6号住居址
(S1006)

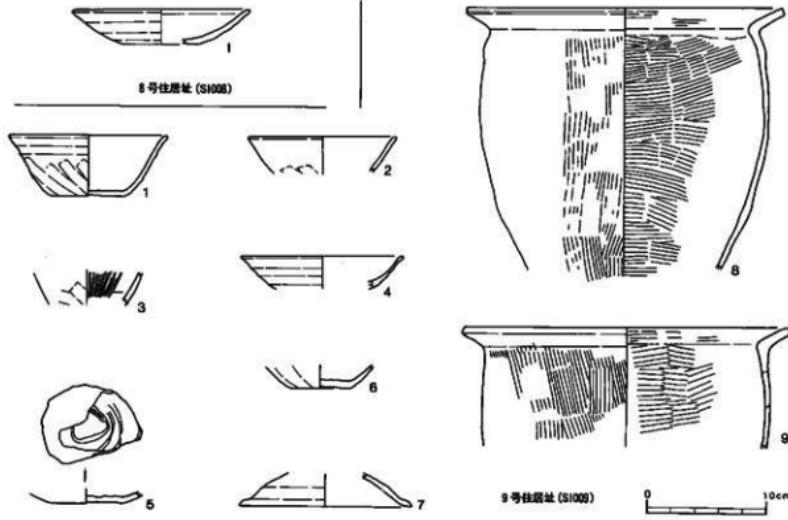


7号住居址
(S1007)

第176図 I区平安時代造構出土遺物

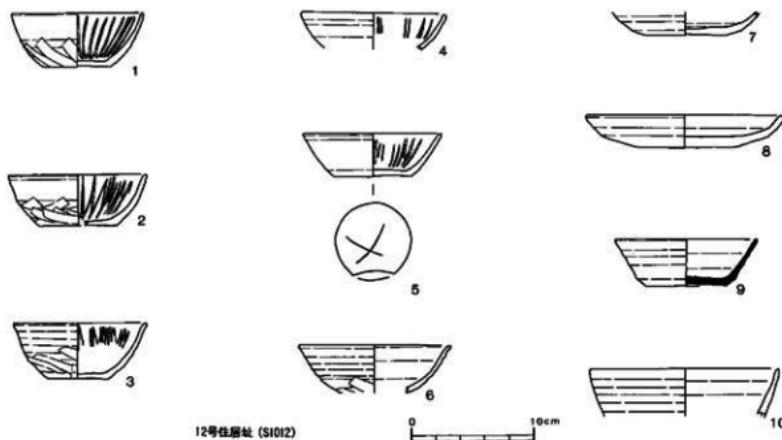
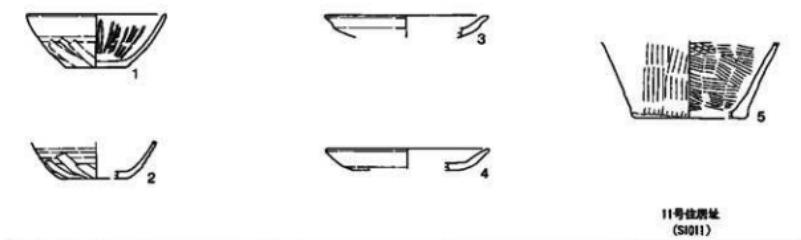
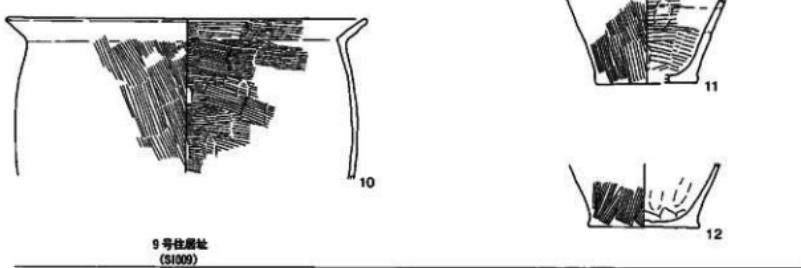


T号住居址
(S1007)

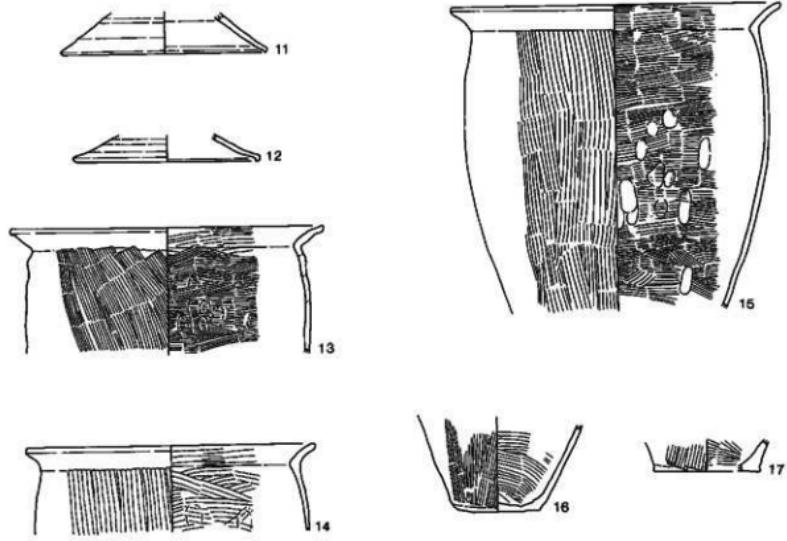


A metric ruler is shown horizontally, starting at 0 and ending at 10 cm. The ruler has major tick marks every 1 cm and minor tick marks every 0.5 cm.

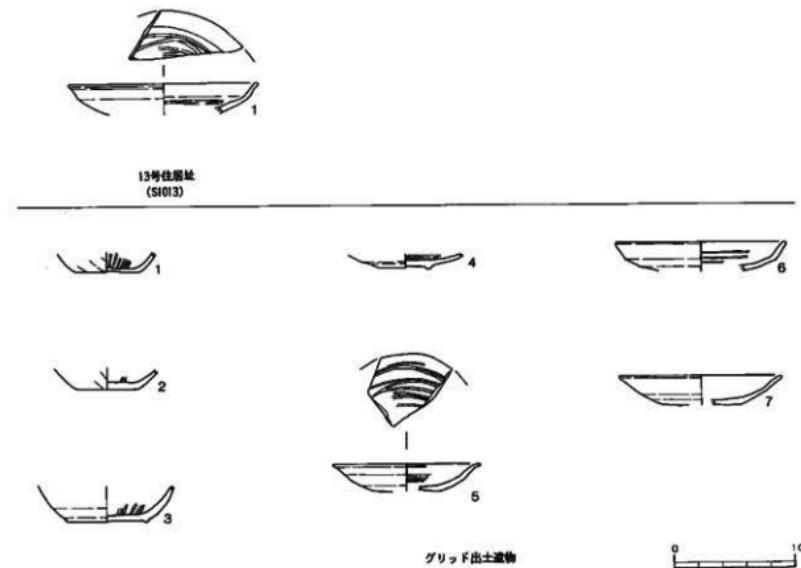
第177図 I区平安時代遺構出土遺物



第178図 I区平安時代遺構出土遺物



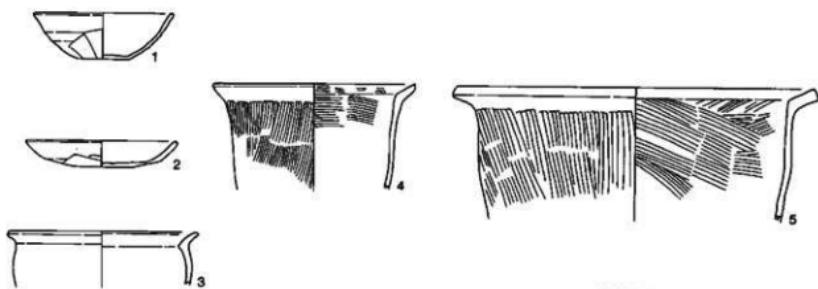
12号住居址
(SI012)



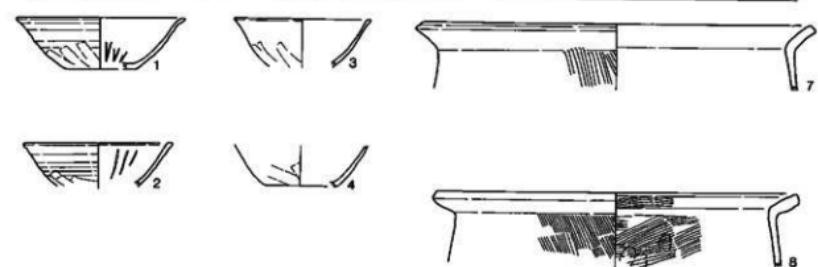
グリッド出土遺物



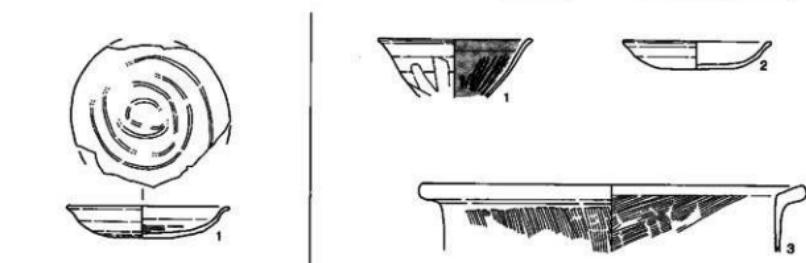
第179図 I区平安時代遺構・グリッド出土遺物



2号住居址
(SI002)

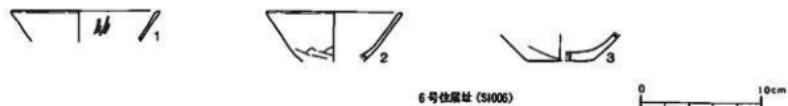


3号住居址
(SI003)



4号住居址
(SI004)

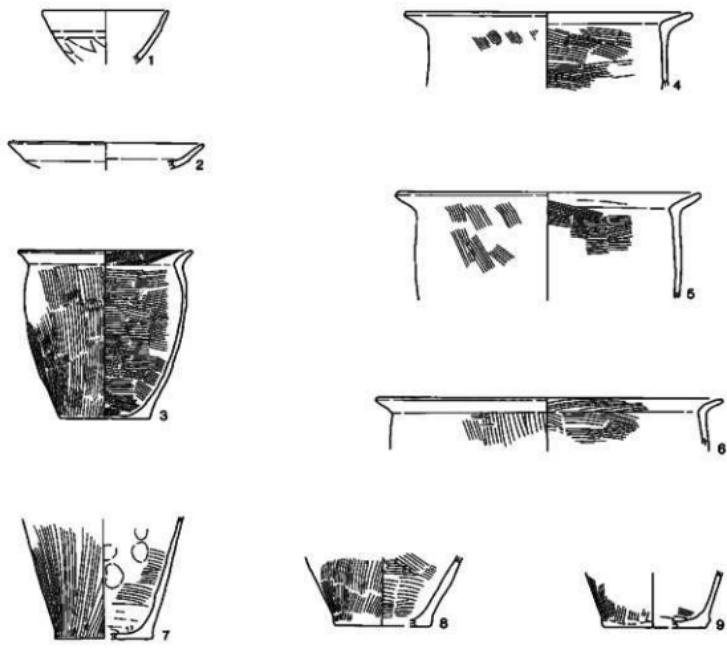
5号住居址
(SI005)



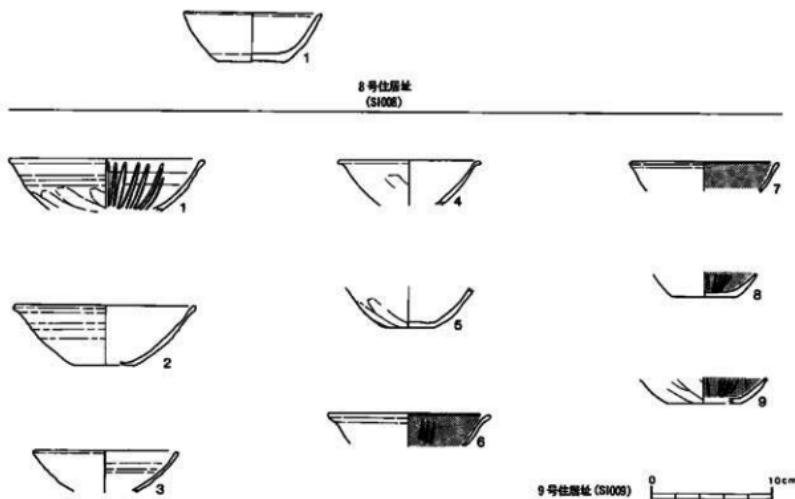
6号住居址 (SI006)

0 10cm

第180図 II区平安時代遺構出土遺物

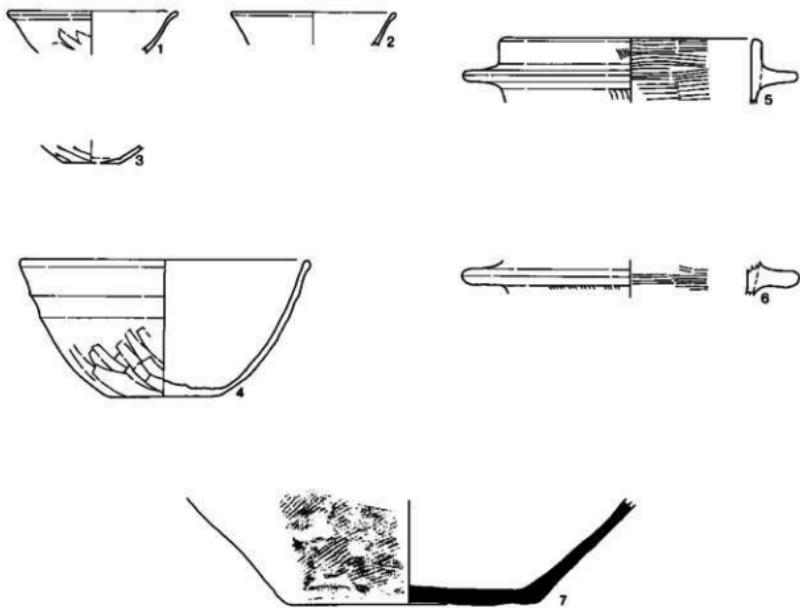
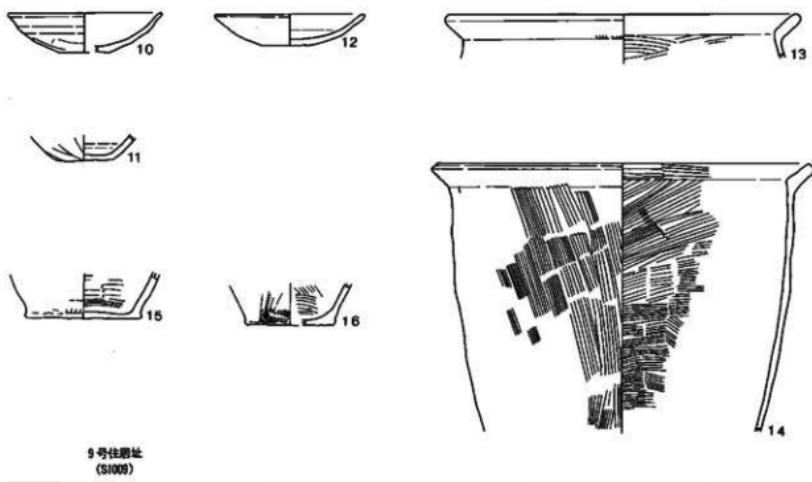


7号住居址
(S1007)



9号住居址 (S1009) 0 10cm

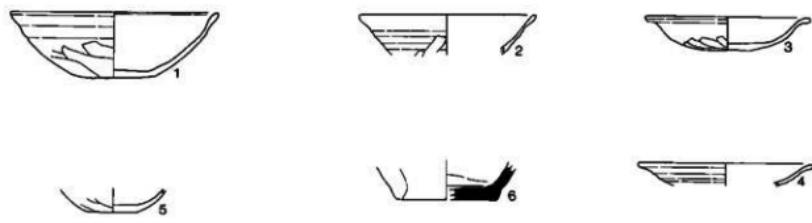
第181図 II区平安時代遺構出土遺物



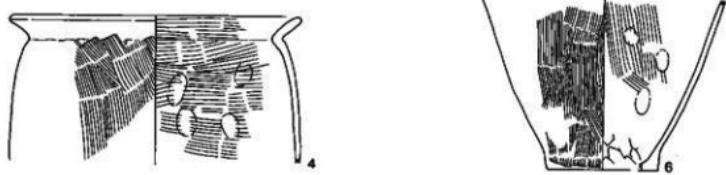
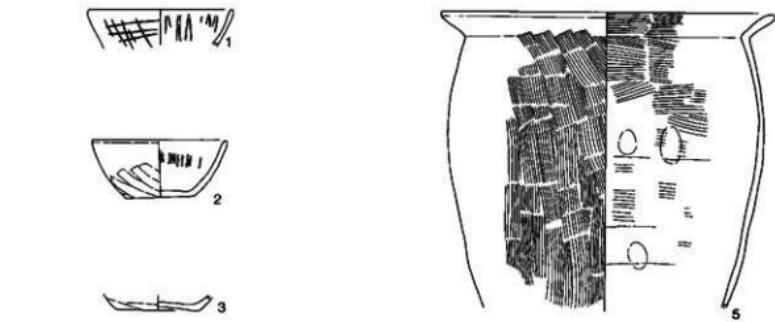
10号住居址 (S1010)



第182図 II区平安時代遺構出土遺物



15号住居址
(SI015)



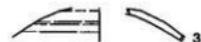
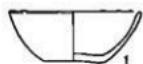
16号住居址
(SI016)



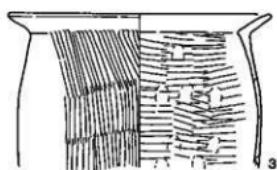
第183図 II b 区平安時代遺構出土遺物



1号住居址 (SI001)



3号住居址 (SI003)

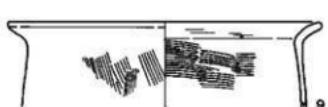
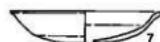


4号住居址
(SI004)

5号住居址
(SI005)



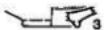
6号住居址 (SI006)



0 10cm

T号住居址 (SI007)

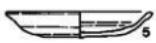
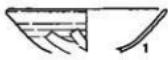
第184図 III区平安時代遺構出土遺物



8号住居址 (SI008)

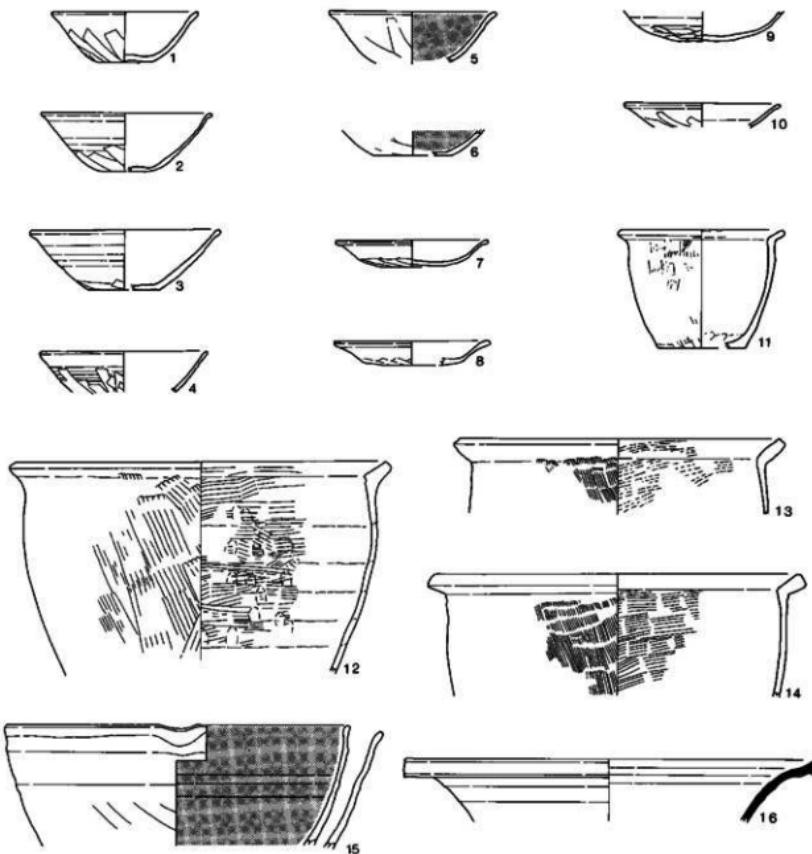


9号住居址 (SI009)

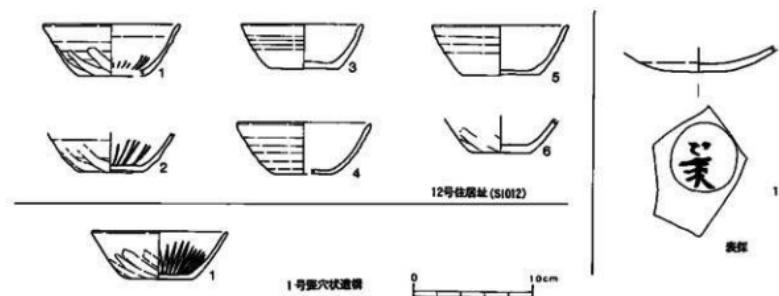


10号住居址 (SI010)

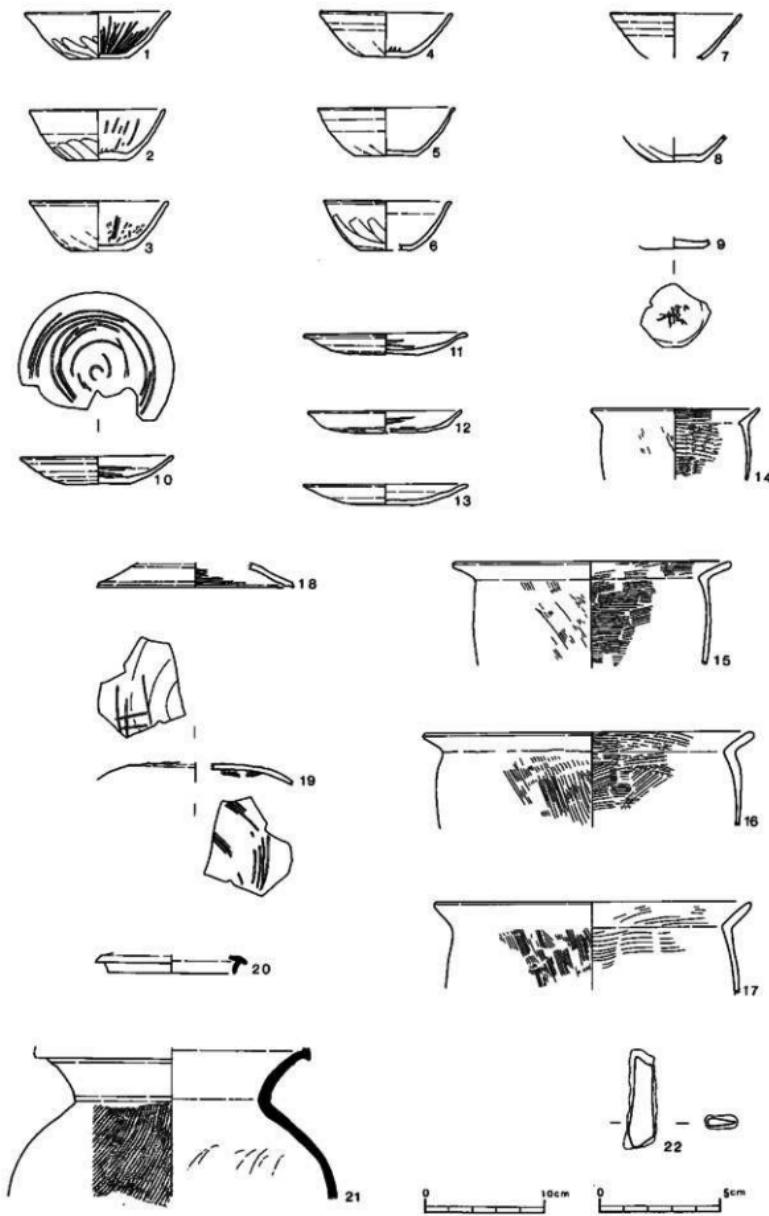
第185図 III区平安時代遺構出土遺物



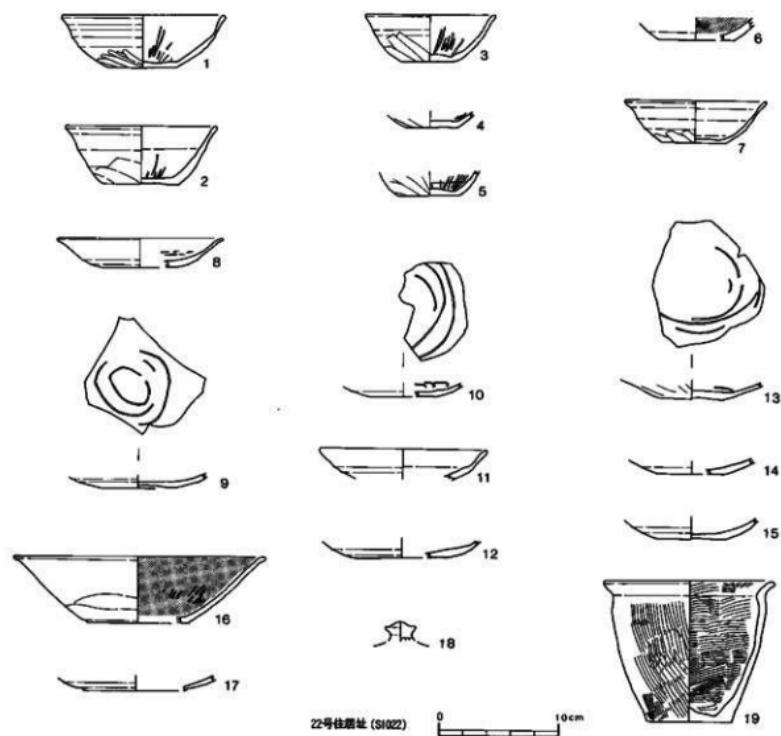
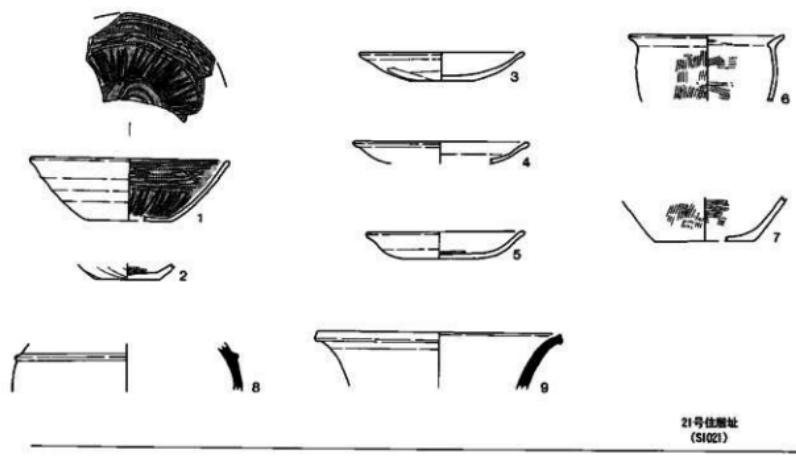
11号住居址 (S1011)



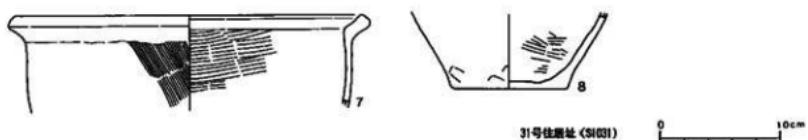
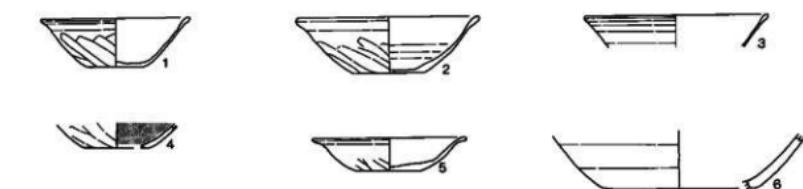
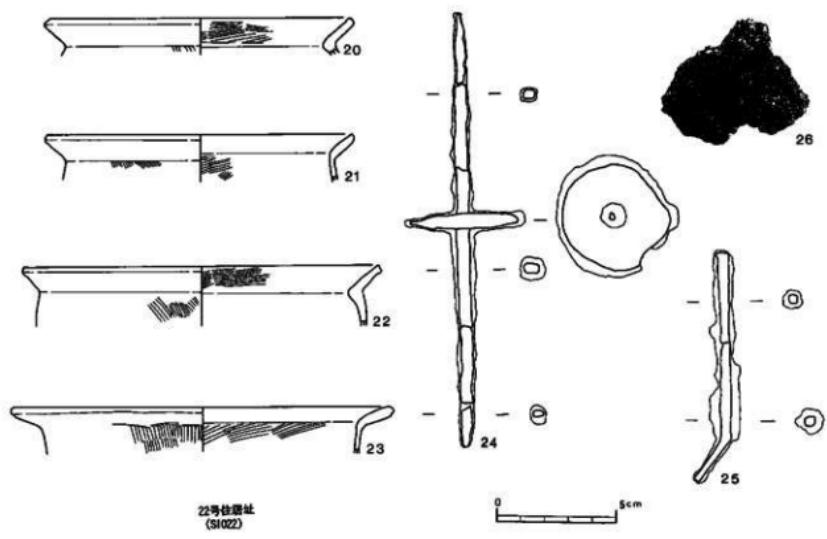
第186図 III区平安時代遺構出土及び表面探集の遺物



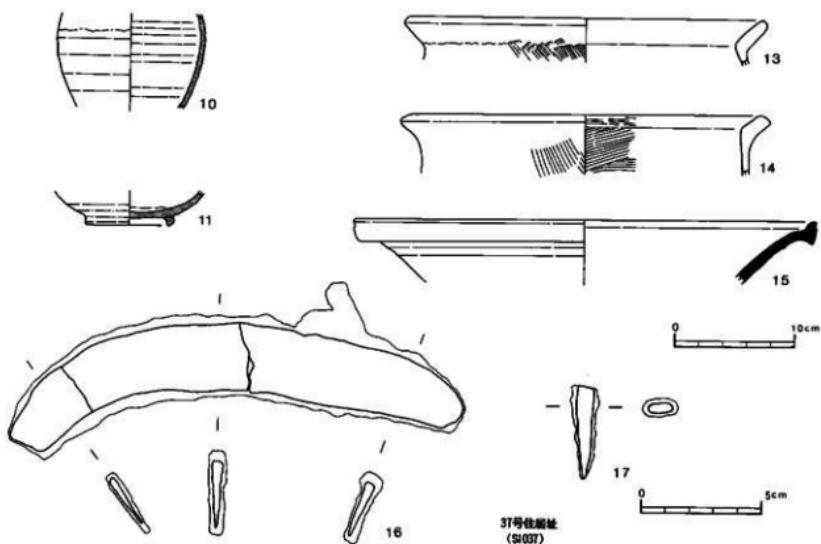
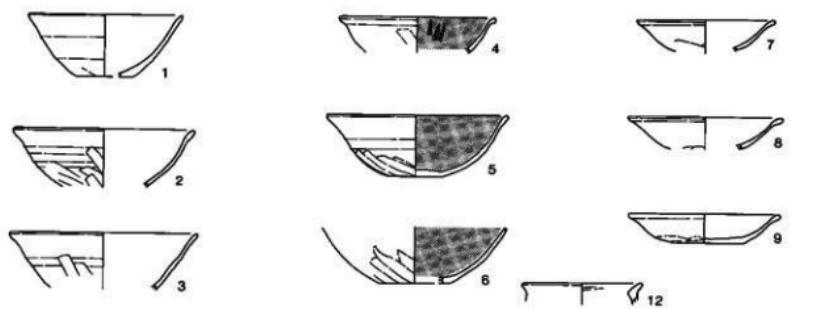
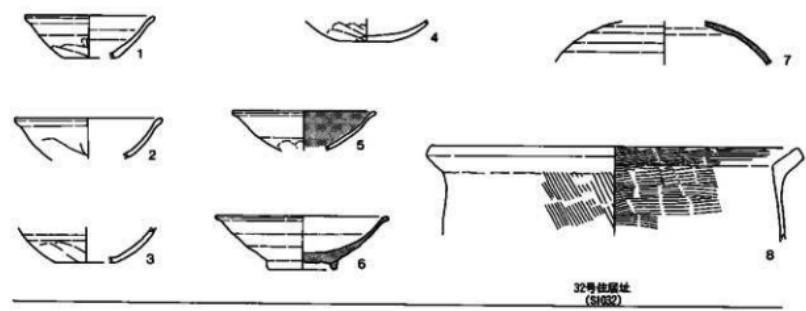
第187図 IV a区平安時代20号住居址 (S1020) 出土遺物



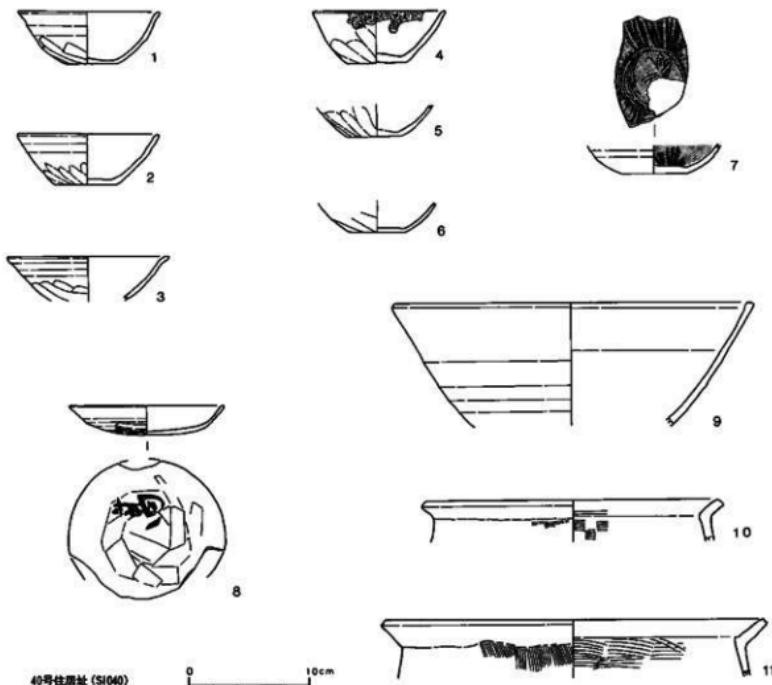
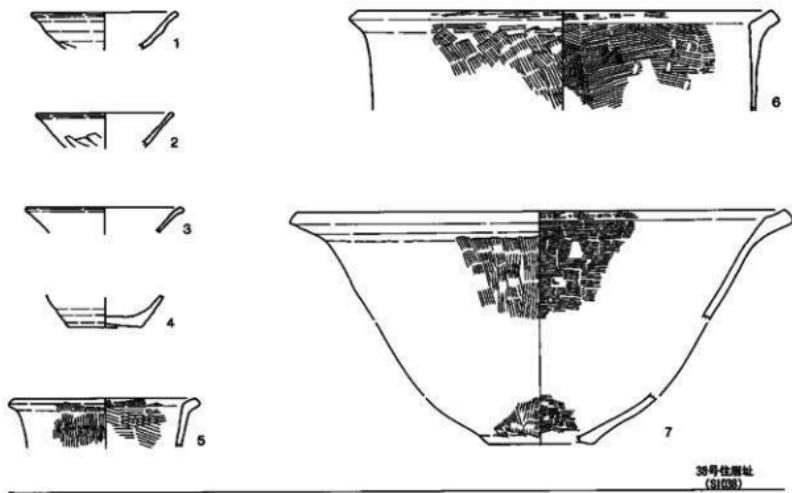
第188図 IV a 区平安時代遺構出土遺物



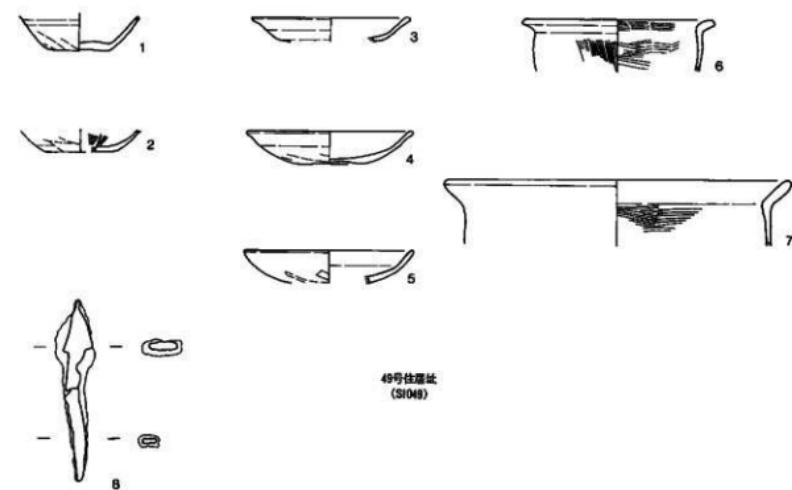
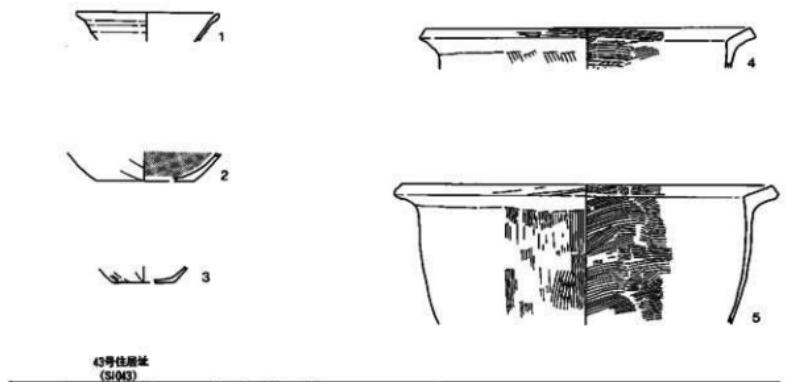
第189図 IV a区平安時代造構出土遺物



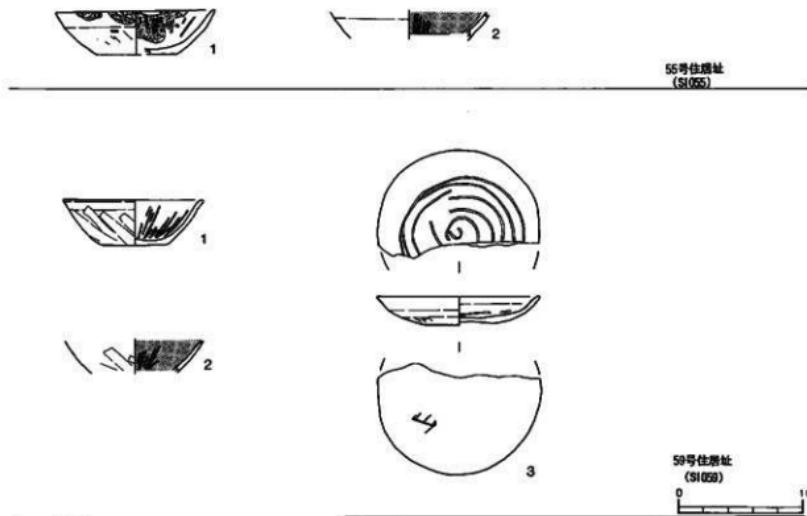
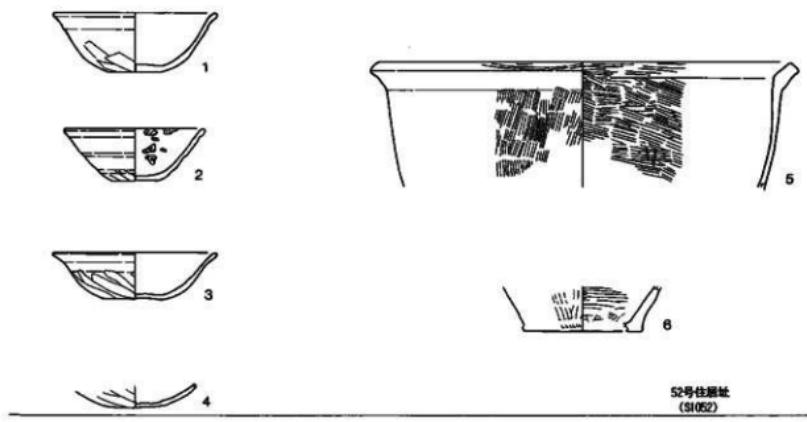
第190図 IV a 区平安時代遺構出土遺物



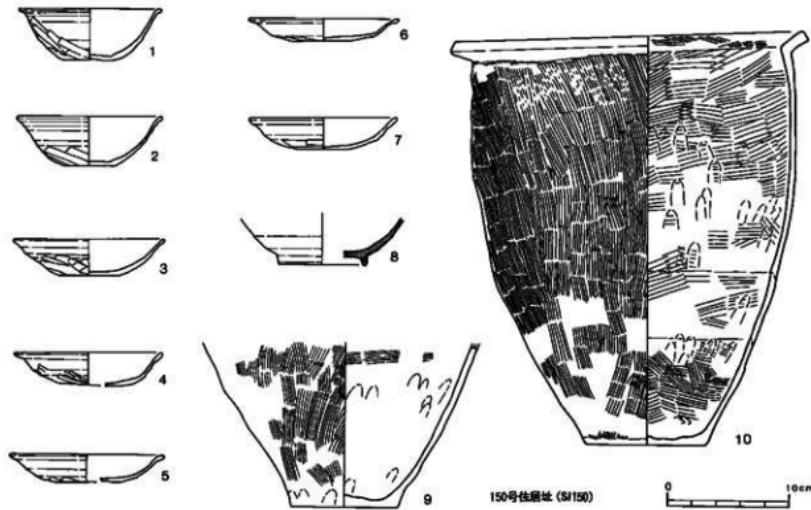
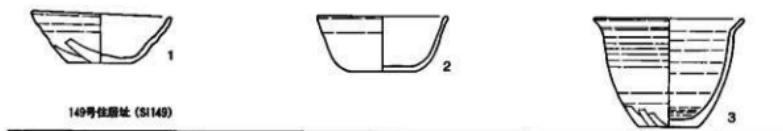
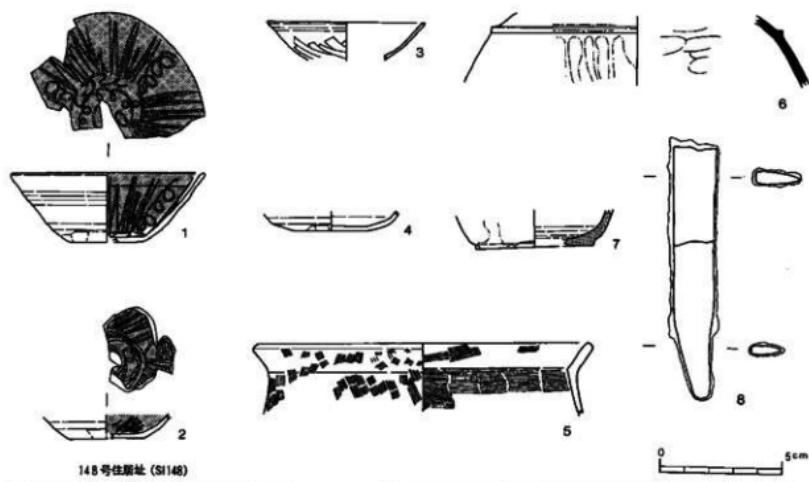
第191図 IV a区平安時代遺構出土遺物



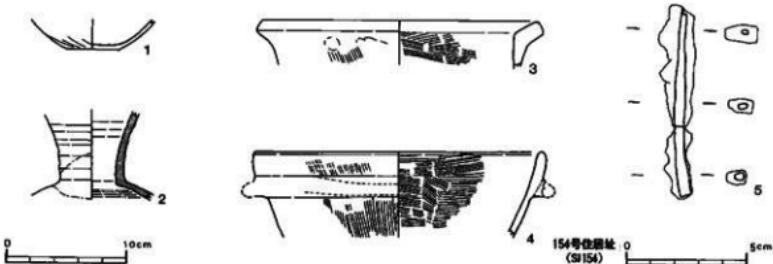
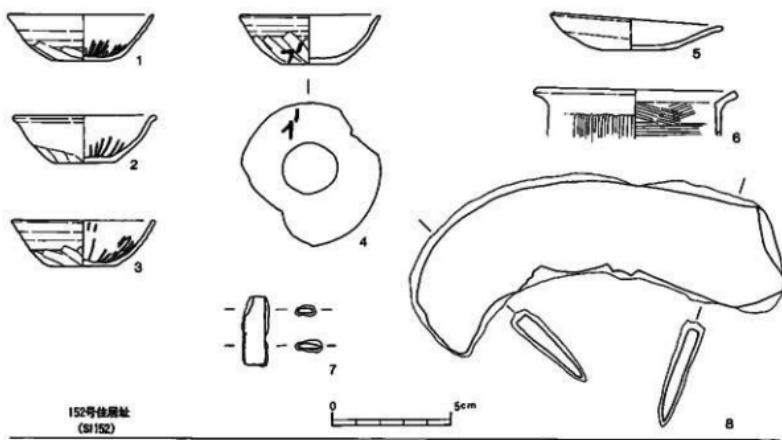
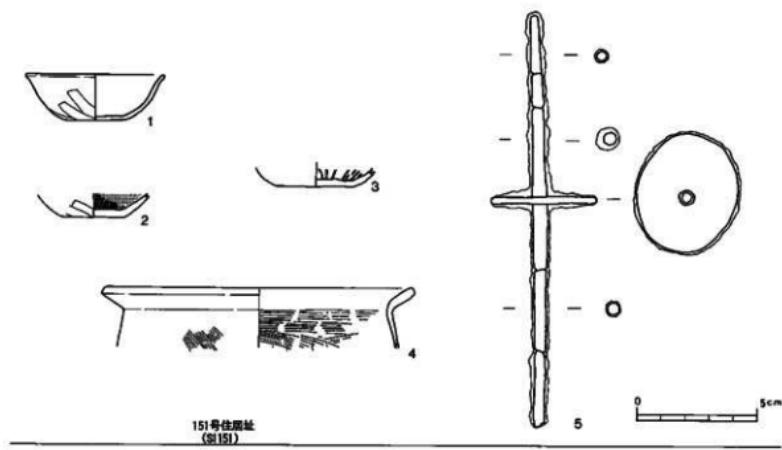
第192図 IV a区平安時代遺構出土遺物



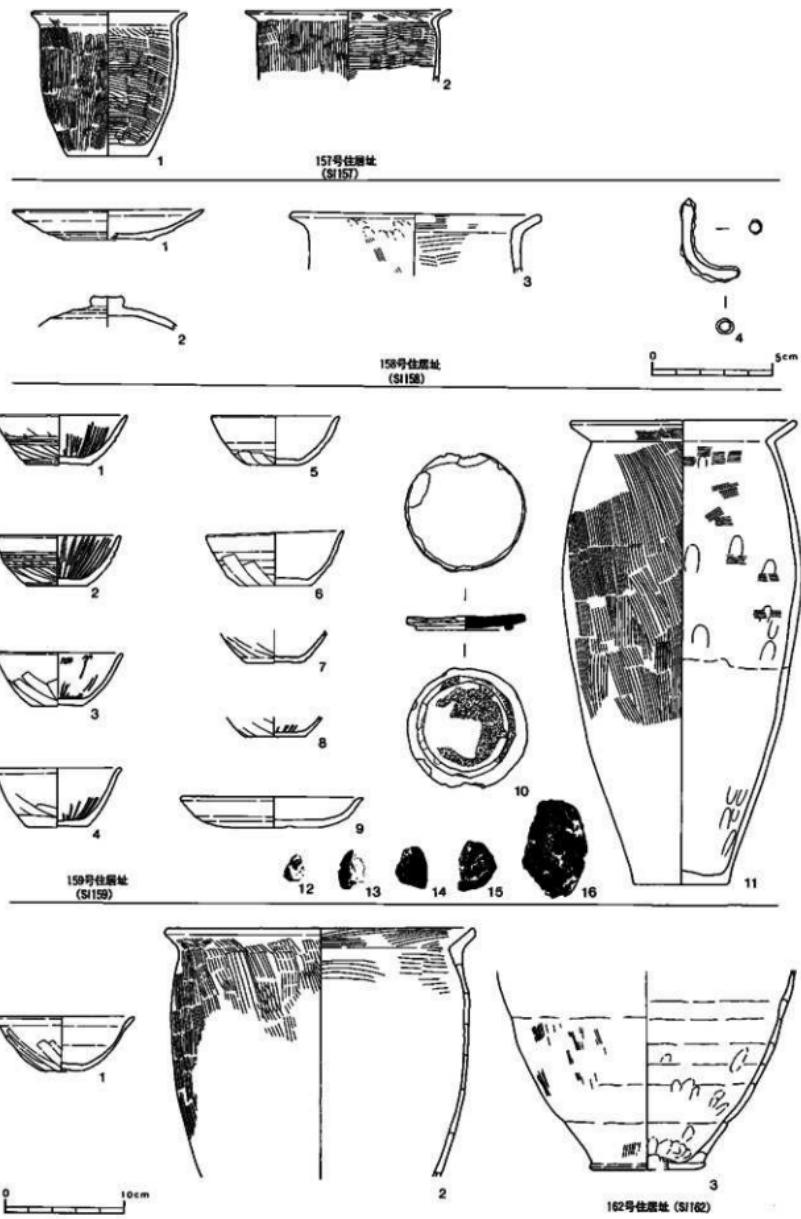
第193図 IVa区平安時代遺構出土遺物



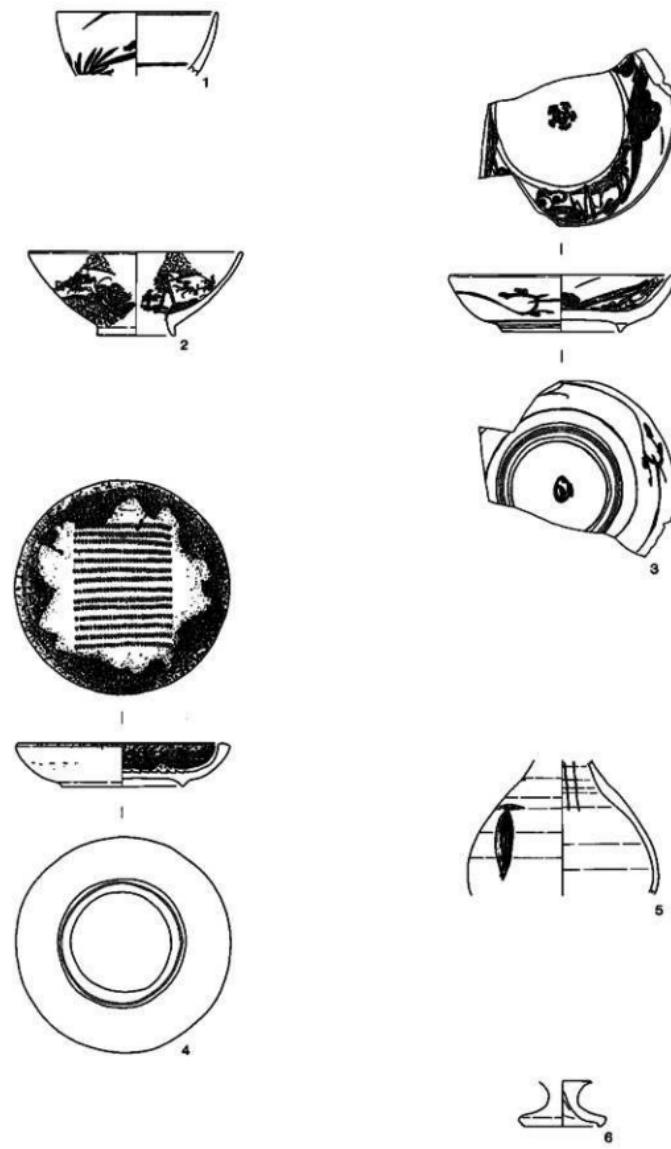
第194図 V区平安時代遺構出土遺物



第195図 V区平安時代遺構出土遺物



第196図 V区平安時代遺構出土遺物



0 10cm

第197図 II b・III区中世以降出土遺物

第6章 1990年度調査報告

第1節 調査の概要

(1) 調査経緯

本発掘調査は、一般国道52号線（甲西バイパス）建設に伴う畠地灌漑用水管移設工事に先駆けて、県埋蔵文化財センターが行ったものである。調査期間は1990年11月19日から翌91年2月15日にかけて行った。

調査の結果、古墳時代の住居跡1軒、土坑1基、溝4本、集石遺構1基の他、遺物集中地区1ヶ所、平安時代の住居址3軒、掘立柱建物跡1棟、堅穴状遺構1基、溝2本、ピット77基、近世以降の堅穴状遺構6基および溝2本が確認された。

(2) 調査区の設定

調査対象地区は、1993年以降調査されたⅢ区、Ⅳ区の周縁部を取り囲むような細いトレンチ状の調査区で、現在使用されている畠地灌漑用水管や道路によって分断するため、便宜上A～D地区の4区に調査区名を付して調査を行った。

調査区のグリッド設定は、当該インターチェンジ工事用杭のNa10LとNa11Lを基準にX軸、Y軸のグリッドを簡易的に発生させ、これを基に調査を行った。したがって、その後調査したI～V区の調査基準グリッドとは一致しない。調査杭の呼称は、Na10Lを3-1杭とし、そこから西側に向かってX軸を5m毎に4.5.6.7…、北側に向かってY軸の表記を2.3.4.…として、X-Yの数値の組み合わせによって杭番号を表現した。グリッド名の基準はグリッド南東部のコーナー地点の杭番号とする。

また、B区およびD区は、調査区の幅が狭い範囲で上記の基準杭の設定が困難であったため、各区の調査区に対応した仮杭を5m間隔で設定し調査を行った。

第2節 古墳時代

A地区で古墳時代前期の堅穴住居址1軒、土坑1基、溝状遺構4本および集石遺構1ヶ所、B地区で遺物集中地区が検出された。

A地区

第4号住居址（第199図・第205図）

（位置）17・18-3・4グリッド。（重複）なし。（形状）南側半分が調査区外に延びるため全体の形状は不明であるが、楕円形を呈すると推定される。（規模）長軸3.5m前後の小型住居。壁高は遺構確認面から20cm～30cm。（炉）未検出。（床）やや硬化した床面が広がる。（壁溝）なし。（柱穴）未検出。（その他の施設）なし。（遺物出土状況）住居東側の覆土内より台付甕が出土している。（遺物）単純口縁、S字状口縁台付甕、（時期）古墳時代前期。

第1号土坑（第199図）

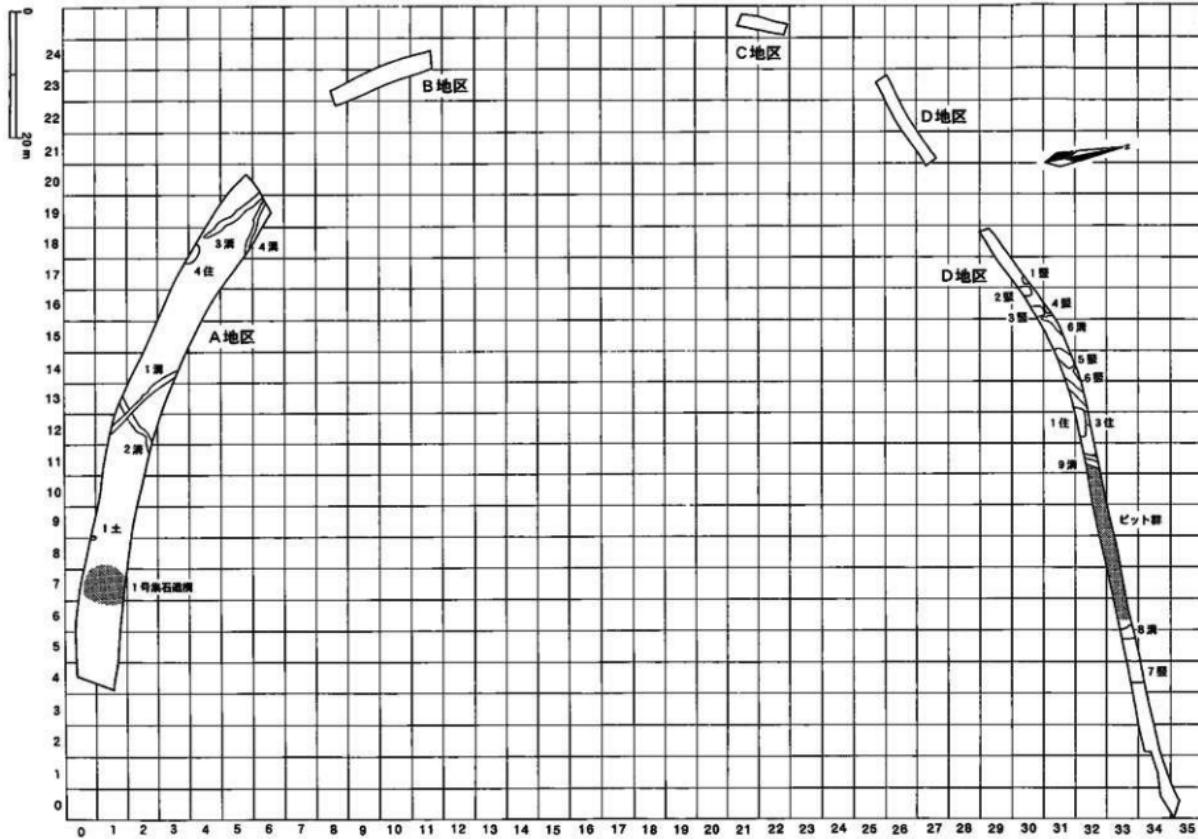
（位置）8-0グリッド。（重複）なし。（形状・規模）長軸85cm、短軸50cm、深さ40cmの楕円形を呈する。底部はほぼ平坦で、直立して壁が立ち上がる。（遺物出土状況）土坑覆土上面から壺形土器が出土している（第図199）。（遺物）壺（時期）古墳時代前期

第1号溝（第200図）

（位置）12～14-1～3グリッド。両端がA地区南北調査区外に向かって延びる。古墳時代前期の遺物包含層から30cm程の砂層を挟んで上層に位置する。（重複）2号溝と交差する。（形状・規模）確認長15m、幅130cm

第198図 1990年度調査記録図

— 304 —



前後、深さ20~50cm。(覆土) 中疊を主体とした上部からの疊層。(出土遺物) なし。

第2号溝(第200図)

(位置) 12~13-1~2グリッド。両端がA地区東西調査区外に向かって延びる。古墳時代前期の遺物包含層から30cm程の砂層を挟んで上層に位置する。(重複) 1号溝と交差する。(形状・規模) 確認長11m、幅50~90cm前後、深さ20cm。(覆土) 中疊を主体とした上部からの疊層。(出土遺物) なし。

第3号溝(第201図)

(位置) 18~20-4~6グリッド。A地区西側調査区外に向かって延びる。古墳時代前期の遺物包含層から30cm程の砂層を挟んで上層に位置する。(重複) なし。(形状・規模) 確認長10.5m、幅1m、深さ10~20cm。(覆土) 中疊を主体とした上部からの疊層。(出土遺物) なし。

第4号溝(第201図)

(位置) 18~19-5~6グリッド。両端がA地区西側および東側調査区外に向かって延びる。古墳時代前期の遺物包含層から30cm程の砂層を挟んで上層に位置する。(重複) なし。(形状・規模) 確認長8m、幅80cm前後、深さ10~20cm。(覆土) 中疊を主体とした上部からの疊層。(出土遺物) なし。

第1号集石造構(第199図)

(位置) 7-0~1グリッド。(重複) なし。(形状・規模および遺物出土状況) 一辺5m前後の凹地状部分に集石および遺物が集中する。集石は拳大から人頭大の自然礫によって構成される。(出土遺物) S字口縁台付壺、有段口縁壺、高坏。(時期) 古墳時代前期

B地区

B地区は22~24-8~11グリッドに設定された調査区である。本地区においては、遺構は検出されなかったが、地表下3m程の黒褐色の遺物包含層から多量の土器が全面にわたって出土している(第202図)。

(出土遺物) 壺、壺、高坏、ヒサゴ壺、小型器台、手捏土器などさまざまな器種が存在する。

壺はS字状口縁壺(第207図13、14)および、刻目口縁壺(第207図18)、単純口縁台付壺(第207図16)などの形態がある。S字壺には、口縁部に押引き刺突がめぐるA類に属するものや、口縁端部が尖るB類のものなど同器種の中でも古相に属するものがある。第207図16では、頸部が明瞭に屈折し、やや内湾しながら開く口縁部をもつ台付壺で、弥生時代末に見られる在地の台付壺とは明らかに違いが認められる。また、壺の中には第207図7のように口縁部に擬凹線を持つものや、第208図17の様にバレス壺の特徴を模倣したものなども認められる。ヒサゴ壺は頸部から口縁部が内湾するタイプで、甲斐の古墳時代前期に見られる長頸壺などよりも古い形態をとどめている。高坏は、坏部が単純に開くものやくびれを持つものなど、さまざまなバリエーションをもち、B地区の中でも若干の時間差をもつと考えられる。なかでも、第208図6の様な脚台部の下半が内湾するものなど古相を示すものであろう。小型器台には器受部底部に単孔をもつものともたないタイプが存在する。

これらの土器群は、東海西部地域の古式土師器の特徴を非常に色濃く示している。

C地区

C地区は25-21、22グリッドに設定された調査区である。本地区においては、遺構は検出されなかったが、B地区と同一の黒褐色の遺物包含層からわずかに土器が出土している。

(出土遺物) 台付壺、壺。

第3節 平安時代

平安時代の遺構はD地区に集中し、住居址3軒、掘立柱建物跡1棟、ピット77基、溝2本が確認された。

第1号住居址（第203・204図・第209図）

（位置）32-12・13グリッド。（重複）2号・3号住居址。（形状）南側が調査区外に延びるため全体の形状は不明であるが、隅丸方形を呈すると推定される。（規模）一辺4.7m前後の小型住居。壁高は遺構確認面から50cm。（カマド）住居北東隅に存在する。（床）やや硬化した床面が広がる。床面直上には炭化材が認められ、火災住居と考えられる。（壁溝）なし。（柱穴）なし。（その他の施設）不整形ピットが3ヶ所で検出されている。（遺物出土状況）覆土内から出土。（遺物）土師器壺、皿、甕、須恵器壺片、すり石状石器。（時期）甲斐型土器XII期（9世紀末～10世紀初頭）。

第2号住居址（第203・204図・第209図）

（位置）32-11・12グリッド。（重複）1号・3号住居址。1号住に切られる。（形状）住居の北東コーナーおよび西側壁のみが確認され全体の形状は不明であるが、隅丸方形を呈すると推定される。（規模）一辺3.9m前後の小型住居。壁高は遺構確認面から40cm。（カマド）未確認。（床）やや硬化した床面が広がる。（壁溝）なし。（柱穴）なし。（その他の施設）なし。（遺物出土状況）覆土内から出土。（遺物）土師器壺、蓋。（時期）甲斐型土器VII期（9世紀前葉）。

第3号住居址（第203図）

（位置）32-12グリッド。（重複）1号・2号住居址。1号住居址に切られる。（形状）住居の西側壁の一部のみが確認され全体の形状は不明である。（規模）平面規模は不明。壁高は遺構確認面から15cm。（カマド）未確認。（床）やや硬化した床面が広がる。（壁溝）なし。（柱穴）なし。（その他の施設）なし。（遺物出土状況）覆土内から出土。（遺物）灰釉高台付壺。黒帯90号窯式。（時期）9世紀後半～10世紀。

第1号掘立柱建物址（第203図）

（位置）33-7・8グリッドに存在するピット25、29、38、43は、掘立柱建物址と判断される。（重複）28、16、35、30、37、39、40、42号ピットと重複する。（形状）柱穴は方形ないし隅丸方形を呈する。建物形状は不明であるが、一辺3間以上の方形建物と推定される。（規模）柱穴の平面規模は一辺65～80cm、深さ20～45cmを測る。建物の規模は、この4本の柱穴で一辺が構成されたとすれば、一辺5m80cm程の規模と考えられるが、調査区外に柱穴が伸びればさらに規模が大きくなる。ピット25、29、38、43での柱穴間の距離は、中心部の間隔で165cm、190cm、180cmとなる。（その他の施設）なし。（遺物）なし。

第7号竪穴状造構（第203図・第209図）

（位置）4-33グリッド。（重複）なし。（形状）不明。（規模）幅3m40cm、深さ10cm。（床）やや硬化した床面が広がる。（壁溝）なし。（柱穴）ピット1が伴う。（その他の施設）なし。（遺物出土状況）覆土内から平安時代の土器が出土。（遺物）土師器壺、甕。（時期）甲斐型土器XII期（9世紀末～10世紀初頭）。

溝およびピット群（表19）

D地区には、該期の溝2本、ピット77基が検出されている。ほとんど出土遺物がなく明確な時期は不明であるが、覆土、確認状況から平安時代の遺構と判断しておきたい。これらの概要は、一覧表にまとめる。

第4節 近世以降

近世以降の遺構はD地区で竪穴状遺構6基、溝2本が検出されている。出土遺物はないが、表土下1m前後の暗褐色シルトを基本とする小砾まじりの層から掘込みが見られることから近世以降のものと判断した。これらの竪穴遺構の用途は不明であるが、Ⅲ区調査で確認された近世の粘土採掘坑とされるものとの関連が推定される。

第1号竪穴状遺構（第203図）

（位置）17-30グリッド。（重複）なし。（形状）不明。（規模）幅1m45cm、深さ43cm。（その他の施設）なし。（遺物）なし。

第2号竪穴状遺構（第203・204図）

（位置）16-30グリッド。（重複）なし。（形状）隅丸方形。（規模）長軸1m70cm以上、短軸1m50cm、深さ50cm。（その他の施設）なし。（遺物）なし。

第3号竪穴状遺構（第203・204図）

（位置）16-30グリッド。（重複）なし。（形状）長方形。（規模）長軸1m80cm、短軸1m5cm以上、深さ35cm。（その他の施設）なし。（遺物）なし。

第4号竪穴状遺構（第203図）

（位置）16-31グリッド。（重複）なし。（形状）不明。（規模）長軸1m50cm、深さ40cm。（その他の施設）なし。（遺物）なし。

第5号竪穴状遺構（第203・204図）

（位置）14・15-31グリッド。（重複）なし。（形状）長方形。（規模）長軸3m90cm、短軸1m70cm、深さ40cm。（その他の施設）なし。（遺物）なし。

第6号竪穴状遺構（第203図）

（位置）14-32グリッド。（重複）なし。（形状）長方形？。（規模）長軸2m20cm、深さ42cm。（その他の施設）なし。（遺物）なし。

第5号溝（第203・204図）

（位置）13-31・32グリッド。（重複）なし。（規模）幅1m20cm、深さ80cm。（その他の施設）なし。（遺物）なし。

第6号溝（第203図）

（位置）15-31グリッド。（形状）溝の端部の立ち上がりが認められ、細長い竪穴状となる。（重複）なし。（規模）幅1m10cm、深さ45cm。（その他の施設）なし。（遺物）なし。

第19表 D地区ピット群一覧

遺構名	検出位置	規模(cm)	形狀	時期	備考
Pit.1	4-33Grid	長軸? : 短軸72 : 深40	楕円形?	平安	
Pit.2	5・6-33Grid	幅70 : 深65	不明	平安	
Pit.3	6-33Grid	幅68 : 深10	不明	平安	
Pit.4	6-33Grid	長軸135 : 短軸45 : 深15	楕円形	平安	
Pit.5	6-33Grid	長軸40 : 短軸25 : 深20	楕円形	平安	
Pit.6	6-33Grid	長軸73 : 短軸? : 深30	方形	平安	
Pit.7	6-33Grid	長軸20 : 短軸15 : 深15	楕円形	平安	
Pit.8	6-33Grid	長軸25 : 短軸20 : 深20	楕円形	平安	
Pit.9	6-33Grid	長軸108 : 深18	不整楕円形	平安	
Pit.10	6-33Grid	長軸30 : 短軸25 : 深25	楕円形	平安	
Pit.11	7-33Grid	直径20 : 深10	円形	平安	
Pit.12	7-33Grid	直径20 : 深15	円形	平安	
Pit.13	7-33Grid	直径25 : 深16	不整円形	平安	
Pit.14	7-33Grid	長軸50 : 短軸20 : 深さ18	不整形	平安	
Pit.15	7-33Grid	長軸60 : 短軸38 : 深さ22	不整形	平安	
Pit.16	7-33Grid	長軸50 : 深さ23	不整楕円形	平安	
Pit.17	7-33Grid	短軸30 : 深23	楕円形?	平安	
Pit.18	7-33Grid	長軸25 : 短軸20 : 深16	楕円形	平安	
Pit.19	7-33Grid	幅20 : 深12	?	平安	
Pit.20	7-33Grid	長軸70 : 短軸60 : 深さ36	不整形	平安	
Pit.21	7-33Grid	短軸50 : 深さ42	楕円形	平安	
Pit.22	7-33Grid	幅18 : 深12	不整形	平安	
Pit.23	7-33Grid	長軸23 : 短軸16 : 深15	楕円形	平安	
Pit.24	7-33Grid	直径40 : 深さ32	不整円形	平安	
Pit.25	7-33Grid	一辺65 : 深20	隅丸方形	平安	1号掘立柱建物址
Pit.26	7-33Grid	長軸58 : 短軸38 : 深23	楕円形	平安	
Pit.27	7-33Grid	直径35 : 深25	円形	平安	
Pit.28	7-33Grid	長軸113 : 深38	円形?	平安	
Pit.29	8-33Grid	長軸65 : 短軸60 : 深25	方形	平安	1号掘立柱建物址
Pit.30	8-33Grid	直径35 : 深22	円形	平安	
Pit.31	8-33Grid	短軸15 : 深12	円形?	平安	
Pit.32	8-33Grid	短軸30 : 深23	楕円形?	平安	
Pit.33	8-33Grid	直径30 : 深20	円形	平安	
Pit.34	7-33Grid	直径30 : 深30	不整円形	平安	
Pit.35	8-33Grid	直径25 : 深16	不整形	平安	
Pit.36	8-33Grid	長軸68 : 短軸43 : 深さ23	楕円形	平安	
Pit.37	8-33Grid	一辺100 : 深35	方形	平安	
Pit.38	8-33Grid	長軸64 : 短軸55 : 深35	方形	平安	1号掘立柱建物址
Pit.39	8-33Grid	直径30 : 深さ20	?	平安	
Pit.40	8-33Grid	長軸50 : 短軸35 : 深26	長方形	平安	
Pit.41	8-33Grid	直径20 : 深15	円形	平安	
Pit.42	8-33Grid	長軸90 : 深29	不整形	平安	
Pit.43	8-33Grid	一辺80 : 深45	隅丸方形	平安	1号掘立柱建物址
Pit.44	8-33Grid	長軸40 : 短軸35 : 深28	楕円形	平安	

遺構名	検出位置	規模(cm)	形狀	時期	備考
Pit.45	8-33Grid	長軸25:短軸20:深15	橢円形	平安	
Pit.46	9-33Grid	長軸128:深22	不整形	平安	
Pit.47	8・9-33Grid	長軸115:短軸50:深35	橢円形	平安	
Pit.48	8-33Grid	直径23:深22	円形	平安	
Pit.49	9-32Grid	長軸110:短軸60:深20	不整形	平安	
Pit.50	8-33Grid	長軸65:短軸50:深40	隅丸方形	平安	
Pit.51	8-33Grid	長軸65:深30	?	平安	
Pit.52	8-33Grid	短軸38:深18	橢円形?	平安	
Pit.53	8-33Grid	一直径55:深25	円形	平安	
Pit.54	8-33Grid	長軸35:短軸25:深16	不整形	平安	
Pit.55	9-32Grid	長軸115以上:短軸98:深28	不整形	平安	
Pit.56	9-32Grid	長軸35:短軸15:深18	橢円形	平安	
Pit.57	9-32Grid	長軸30:短軸24:深20	橢円形	平安	
Pit.58	9-32Grid	幅53:深22	不整形	平安	
Pit.59	9-32Grid	長軸55:短軸40:深36	橢円形	平安	
Pit.60	9-32Grid	幅40:深20	不整形	平安	
Pit.61	9-32Grid	短軸30:深19	橢円形?	平安	
Pit.62	9-32Grid	直径43:深30	円形	平安	
Pit.63	9-32Grid	長軸35:短軸15:深24	橢円形	平安	
Pit.64	9-32Grid	幅95:深20	?	平安	
Pit.65	10-32Grid	直径50:深34	円形?	平安	
Pit.66	10-32Grid	長軸100:短軸33:深22	長方形	平安	
Pit.67	10-32Grid	長軸43:短軸30:深22	橢円形	平安	
Pit.68	10-32Grid	直径18:深24	円形	平安	
Pit.69	10-32Grid	直径20:深20	円形	平安	
Pit.70	10-32Grid	幅120:深28	不整形	平安	
Pit.71	10-32Grid	長軸45:短軸35:深25	橢円形	平安	
Pit.72	10-32Grid	長軸38:短軸25:深26	橢円形	平安	
Pit.73	10-32Grid	直径55:深22	円形?	平安	
Pit.74	10-32Grid	長軸140:深20	不整形	平安	
Pit.75	10-32Grid	長軸70:短軸50:深20	方形	平安	
Pit.76	10-32Grid	幅25:深17	橢円形?	平安	
Pit.77	11-32Grid	長軸170:深28	?	平安	
1号竪穴	17-30Grid	幅145:深43	?	近世	覆土疊層
2号竪穴	16-30Grid	長軸170以上:短軸150:深50	隅丸方形	近世	覆土疊層
3号竪穴	16-30Grid	長軸180:短軸105以上:深35	長方形	近世	覆土疊層
4号竪穴	16-31Grid	長軸150:深40	?	近世	覆土疊層
5号竪穴	14・15-31Grid	長軸390:短軸170:深40	長方形	近世	覆土疊層
6号竪穴	14-32Grid	長軸220以上:深42	長方形?	近世	覆土疊層
7号竪穴	4-33Grid	幅340:深さ10	方形?	平安	
5号溝	13-31・32Grid	幅120:深:80		近世	
6号溝	15-31Grid	幅110:深45		近世	
7号溝	13-32Grid	幅40:深30		古墳	
8号溝	5・6-33Grid	長さ?:幅180:深さ65		平安	
9号溝	11-32Grid	幅170:深55		平安	

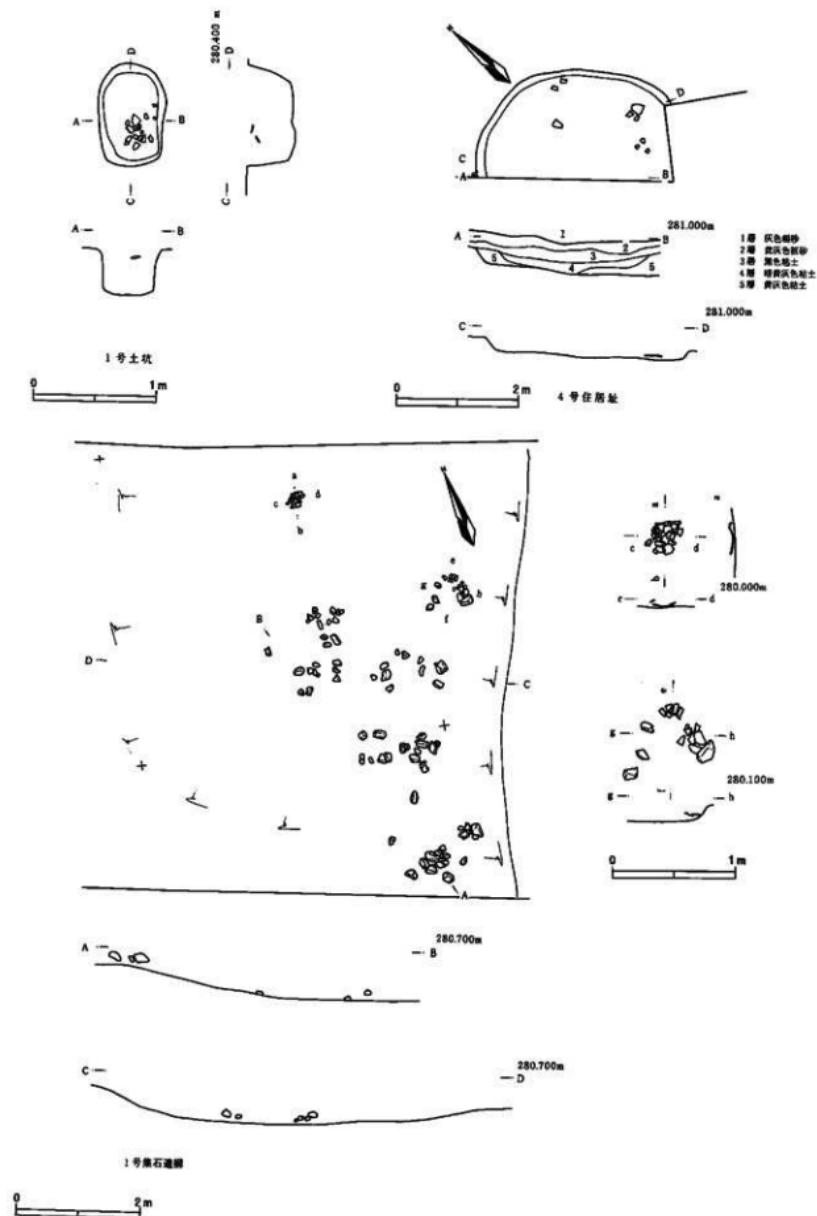
第20表 1990年度調査出土遺物観察表

図版番号	地区	出土位置	器種	口径：底径：高さ (内) 内は測定または現存	特徴	器面調査	胎土	色調	焼成
205-1	A地区	4号住居址	S字状口縁合付壺	19.6 : ? : (11.8)	縁部がくの字状の屈曲	外面部ケズリ	赤色粒子、砂粒を多量に含み、粗い	暗褐色	良
205-2	A地区	4号住居址	S字状口縁台付壺	17.6 : 6.8 : 26.5	S字口縁部が継ぐ屈折、口縁部が尖る	外面部横ハケ、内面部横ハケ、腹部指ナダ	赤色粒子、石英、長石を多く含み、粗い	黄褐色	良
205-3	A地区	4号住居址	S字状口縁合付壺	17.8 : 7.8 : 27.0	S字口縁部が継ぐ屈折、口縁部がやや尖る	外面部横ハケ、内面部横ハケ、腹部指ナダ	石英、長石、砂粒を多く含み、粗い	暗褐色	良
205-4	A地区	A西No 14	単純口縁壺	20.4 : 9.4 : 30.0	縁部がくの字状に屈曲し、口縁部がやや内凹する	外面部横ハケ、胴下半部に瘤目痕	赤色粒子石英、長石を多く含み、粗い	明赤褐色	良
205-5	A地区	I5-3Grid	S字状口縁合付壺	15.0 : ? : (2.0)	S字口縁部上段が直立し、口唇部が尖る	口縁部ナダ、外面部突起、内面部指ナダ	雲母、砂粒を多く含み、緻密	赤褐色	良
205-6	A地区	I8-4Grid	S字状口縁台付壺	18.0 : ? : (6.0)	S字口縁部上段が直立し、口唇部が尖る	外面部横ハケ、内面部横ハケ	雲母、砂粒を多く含み、やや粗い	赤褐色	良
205-7	A地区	I9-5Grid	S字状口縁合付壺	16.8 : ? : (4.2)	S字口縁部上段が直立し、口唇部が尖る。口縫部に刺突(4箇)	外面部横ハケ、内面部横ハケ、腹部指ナダ	雲母、石英を多く含み、やや粗い	明赤褐色	良
205-8	A地区	6-0Grid	S字状口縁合付壺	10.6 : ? : (4.0)	S字口縁部上段が外反し、縁部が尖る	外面部横ハケ、内面部横ハケ	雲母、石英を多量に含み、やや粗い	暗褐色	良
205-9	A地区	7-0Grid	S字状口縁台付壺	11.0 : ? : (2.3)	口縁部の屈曲が鋭い	外面部横ハケ	雲母、石英を含み、緻密	暗褐色	良
205-10	A地区		S字状口縁台付壺	11.4 : ? : (2.8)	S字口縁部上段が外反し、縁部が尖る。内面部に沈維がめぐる	外面部横ハケ、内面部ケズリ、腹部指ナダ	雲母、砂粒を多量に含み、粗い	明黄褐色	良
205-11	A地区	I2-2Grid	S字状口縁合付壺	10.8 : ? : (2.3)	S字口縁部上段が弱く外反し、縁部が丸みを持つ	外面部横ハケ、内面部ハケ	雲母、砂粒を多量に含み、粗い	明黄褐色	良
205-12	D地区	I2-32Grid	S字状口縁台付壺	11.2 : ? : (3.3)	S字口縁部上段が外反し、縁部が丸みを持つ	外面部横ハケ、内面部ケズリ、腹部指ナダ	雲母、砂粒を多量に含み、やや粗い	明赤褐色	良
205-13	A地区	I2-2Grid	S字状口縁合付壺	13.2 : ? : (2.2)	S字口縁部上段が弱く外反し、縁部に面を持つ	口縁横ナダ、内面部横ハケ	赤色粒子、砂粒を含み、粗い	明黄褐色	良
205-14	A地区	I2-2Grid	S字状口縁台付壺	12.0 : ? : (4.4)	S字口縁部上段が外反し、縁部が丸みを持つ	外面部横ハケ、内面部ハケ、内面部ケズリ、腹部指ナダ	雲母、赤色粒子、石英を多量に含み、粗い	黄褐色	良
205-15	A地区	9-1Grid	S字状口縁台付壺	18.6 : ? : (2.9)	S字口縁部の屈曲が鋭い	外面部横ハケ、内面部ケズリ	雲母、砂粒、石英を多量に含み、粗い	明赤褐色	良
205-16	A地区	7-1Grid	S字状口縁台付壺	14.0 : ? : (4.3)	S字口縁部の屈曲が鋭い	外面部横ハケ、内面部横ハケ、腹部指ナダ	雲母、石英を多量に含み、粗い	明黄褐色	良
2068-17	A地区	8-1Grid	S字状口縁台付壺	16.0 : ? : (10.2)	S字口縁部上段が外反し、縁部が丸みを持つ	外面部横ハケ、内面部横ハケ、内面部ケズリ、腹部指ナダ	石英、長石、砂粒を多量に含み、やや粗い	明赤褐色	良
205-18	A地区	7-0Grid	S字状口縁合付壺	17.6 : ? : (5.0)	S字口縁部上段が外反し、縁部が尖る	外面部横ハケ、内面部ハケ	雲母、砂粒を多量に含み、粗い	明褐色	良
205-19	A地区	7-0Grid	S字状口縁合付壺	15.0 : ? : (21.0)	S字口縁部が継ぐ屈折	外面部横ハケ、内面部ハケ	雲母、石英、砂粒を多量に含み、粗い	赤褐色	良
205-20	A地区	7-1Grid	S字状口縁台付壺	15.6 : ? : (21.0)	S字口縁部が大きく外反、縁部が丸みを持つ	外面部横ハケ、内面部ハケ、腹部指ナダ	雲母、石英を多量に含み、粗い	明赤褐色	良
206-1	A地区	7-0Grid	S字状口縁台付壺	17.4 : ? : (5.5)	S字口縁部が大きく外反。縁部が丸みを持つ	外面部横ハケ、内面部横ハケ、腹部指ナダ	雲母、石英、赤色粒子を多量に含み、粗い	明黄褐色	良
206-2	A地区	8-1Grid	S字状口縁台付壺	14.4 : ? : (3.4)	S字口縁部の屈曲が鋭い	外面部横ハケ、内面部指ナダ	赤色粒子、砂粒を含み、やや粗い	明褐色	良
206-3	A地区	I2-2Grid	台付壺	? : ? : (4.5)	大型	外面部ハケ、内面部底ナダ	雲母、石英、砂粒を多量に含み、粗い	黑褐色	良
206-4	A地区	7-0Grid	S字状口縁台付壺	19.6 : ? : (4.6)	S字口縁部が大きく外反。縁部が尖る	外面部横ハケ、内面部ケズリ、腹部指ナダ	雲母、石英、砂粒を多量に含み、粗い	明黄褐色	良
206-5	A地区	I2-3Grid	S字状口縁合付壺	15.0 : ? : (2.3)	S字口縁部が大きく外反。縁部がやや丸みを持つ	外面部ハケ、内面部横ハケ	雲母、砂粒を多量に含み、粗い	明黄褐色	良
206-6	A地区	5-0Grid	台付壺	? : ? : (2.0)		外面部ハケ、内面部ケズリ	砂粒を含み、粗い	明褐色	やや不良
206-7	A地区	7-0Grid	S字状口縁台付壺	18.0 : ? : (2.8)	S字口縁部が丸みを持つ	外面部横ハケ、内面部横ハケ、腹部指ナダ	雲母、石英、赤色粒子を多量に含み、粗い	明黄褐色	良

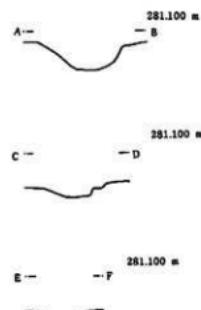
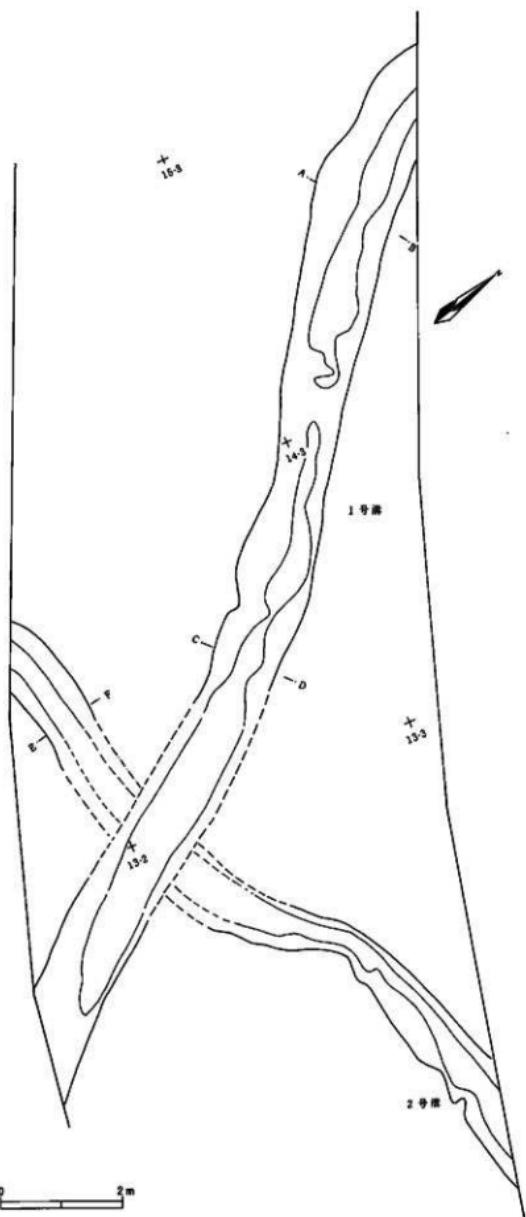
206 - 8	A地区	9-1Grid	S字状口縁台付窓	16.4 : ? : (2.3)	S字口縁部が大きく外反屈曲し、窓部が肥厚	外画面部ハケ	雲母、長石を多量に含み、やや粗い	明赤褐色	良
206 - 9	D地区	17-30Grid	S字状口縁台付窓	14.0 : ? : (2.7)	S字口縁部が大きく外反。窓部がやや丸みを持ち肥厚	外画面部ハケ、内面窓部ケズリ	雲母、長石、赤色粒子、砂粒を多量に含み、粗い	明褐色	良
206 - 10	C地区	No 7	台付窓	? : 9.8 : (5.5)	脚部通透が内側に折り返し	外画面部ハケ、内面窓部指ナデ	雲母、石英、砂粒を多量に含み、粗い	明黄褐色	良
206 - 11	A地区	10-11Grid	S字状口縁台付窓	26.6 : ? : (2.6)	S字口縁部が大きく外反。窓部がやや丸みを持つ	外画面部ハケ	雲母、石英を含み緻密	明褐色	良
206 - 12	A地区	7-0Grid	S字状口縁台付窓	18.8 : ? : (2.8)	口縁部の屈曲は弱く、口縁端部が肥厚	外画面部ハケ、内面窓部ケズリ	雲母を多く含み、緻密	明赤褐色	良
206 - 13	A地区	7-1Grid	台付窓	? : 9.6 : (8.8)	台部通透が内側に折り返し	外画面部ハケ、内面窓部指ナデ	雲母、砂粒、石英を多量に含み、やや粗い	黄褐色	良
206 - 14	D地区		有段口縁窓	26.6 : ? : (6.0)	幅広の有段口縁(山形系?)	外画面ナデ	雲母、砂粒、石英を多量に含み、粗い	暗褐色	良
206 - 15	A地区	7-1Grid	有段口縁臺	33.0 : ? : (6.8)	幅広の有段口縁(山形系?)	口縁外画面ナデ	雲母、石英を多量に含み、緻密	暗褐色	良
206 - 16	A地区	15-3Grid	臺	12.0 : ? : (2.3)	口縁部に刻み	外画面にハケ	砂粒を多く含み、やや粗い	黄褐色	良
206 - 17	A地区	12-2Grid	臺	? : ? : (4.0)	肩部に凹彫文、奥窓文を施す		砂粒を含みやや粗い	黄褐色	良
206 - 18	A地区	10-2Grid	臺	14.4 : ? : (7.7)	幅広の有段口縁(北陸系)	磨耗が激しく調整痕不鮮明	赤色粒子、長石、砂粒を含み、やや粗い	明赤褐色	良
206 - 19	A地区	8-0Grid	臺	18.4 : ? : (8.6)	頭部が屈曲し、口縁部拡張口縁	外画面ミガキ、内面肩部指ナデ	赤色粒子を多量に含み、やや粗い	明褐色	良
206 - 20	A地区	5-0Grid	小型器台	8.0 : 14.0 : 8.9	器受部底部に単孔、肩部が大きく外反し、6つの穿孔	外画面ミガキ、内面ケズリ	赤色粒子を含み、緻密	黄褐色	良
206 - 21	A地区	17-3Grid	小型器台	7.6 : ? : (4.7)	器受部底部に単孔、肩部に3つの穿孔	外画面ナデ	赤色粒子、砂粒を含み、やや粗い	赤褐色	良
206 - 22	A地区	A西No 11	高坏	? : ? : (3.5)	肩台部に穿孔	外画面ミガキ、内面ケズリ	雲母、砂粒、赤色粒子を含み、粗い	明褐色	良
206 - 23	A地区	7-1Grid	高坏	? : 8.4 : (4.5)	脚部は低く外反	外画面ミガキ、内面指ナデ	赤色粒子を含み、粗い	明黄褐色	良
206 - 24	A地区	A西No 52	小型鉢	5.8 : 5.0 : 4.6	肩部がやや内湾する	外画面ハケ	砂粒を多量に含み、粗い	黄褐色	良
206 - 25	A地区	7-1Grid	高坏	21.0 : 13.0 : 12.9	环修下手で屈曲し、脚部に3つの穿孔	环修外画面ミガキ、脚部内面ケズリ	赤色粒子を含み、緻密	明褐色	良
206 - 26	A地区	10-11Grid	高坏	14.0 : ? : (3.1)	环修がやや内湾し、口縁端部が尖る	环修外画面ミガキ	赤色粒子を含み、緻密	明黄褐色	良
206 - 27	A地区	A西No 9	高坏	? : 17.6 : (8.0)	脚台部が外反し、3つの穿孔	外画面ミガキ、内面上部ケズリ	雲母、赤色粒子を含み、緻密	明赤褐色	良
207 - 1	B地区	No 54	臺	11.8 : ? : (4.5)	單純口縁		砂粒を多量に含み、粗い	明黄褐色	良
207 - 2	B地区	No 106	臺	13.0 : ? : (2.9)	折り返し口縁	口縁端部刻み、口縁部にハケ、板状工具による刺突	砂粒を含み、緻密	明黄褐色	良
207 - 3	B地区	No 39	臺	? : ? : (8.0)		外画面ハケ、内面内ハケ及び指痕	赤色粒子を含み、緻密	暗黄褐色	良
207 - 4	C地区	No 16	臺	13.0 : ? : (5.0)	単純口縁	外画面ヨコナメ、内面ケズリ、指ナデ	赤色粒子を含み、緻密	黄褐色	良
207 - 5	B地区	No 79	臺	18.0 : ? : (3.3)	口縁端部と口縁部に半斜竹筋による刻文。赤彩		砂粒、石英、赤色粒子を含みやや粗い	明黄褐色	良
207 - 6	B地区	No 73	臺	? : ? : (10.5)	頭部が長く外反する	内面指ナデ	赤色粒子を含み、やや粗い	明褐色	良
207 - 7	B地区	No 32	臺	1.72 : ? : (5.2)	折り返し口縁部に擬凹彫文	内面ナデ	砂粒を多く含み、粗い	黄褐色	良
207 - 8	C地区	No 17	臺	19.4 : ? : (5.0)	口縁部に墊土の貼り付け、赤彩	外画面ハケ、内面ケズリ、赤色粒子を含み、緻密	赤色粒子を含み、粗い	黄褐色	良
207 - 9	B地区	No	臺	17.0 : ? : (5.0)		内面ナデ	砂粒を多く含み、緻密	暗赤褐色	良
207 - 10	C地区	No 6	臺	? : 5.0 : (10.0)		外画面ハケケズリ、内面ケズリ後ナデ	赤色粒子、石英を多量に含み、緻密	明黄褐色	良
207 - 11	B地区	No 36	臺	12.2 : 6.8 : 20.1	単純口縁、頭部にボタン状貼付文8ヶ所	外画面頭部ハケ、脚部ミガキ、内面ハケ後ナデ	砂粒を含み、粗い	黄褐色	良
207 - 12	B地区	No 102	臺	? : ? : (25.0)	頭部下半に最大径を持ち、断面に削みをもつ強帯を這らす	外画面ミガキ、内面指ナデケズリ	砂粒を含み、粗い	明黄褐色	良

207 - 13	B 地区	No 4	S 字状口縁堀	18.0 : ? : (2.0)	口縁外に刺突(A 頭)	外面部ハケ、内面部ハケ	サ母、砂粒を含み、やや粗い	赤褐色	良
207 - 14	B 地区	No 201	S 字状口縁堀	15.6 : 4.5 : 12.7	口縁端部が鋸くらる、平底	外面部ハケ、前部に後ハケ、内面部ハケ	サ母、長石を含み、やや粗い	暗赤褐色	良
207 - 15	B 地区	No 132	台付堀	? : 9.0 : (5.2)	底部下端と両合部の接合部を粘土膜り付け	外面部ハケ、内面部ハケ	砂粒を含み、緻密	純い黄褐色	良
207 - 16	B 地区	No 70	単純口縁台付堀	15.0 : 8.4 : 24.5	縫部がくの字状に屈折する	外面部ハケ、内面部ナデ、舞台部内面ケズリ	赤色粒子を含み、緻密	明褐色	良
207 - 17	B 地区	No 87	壺	? : 10.6 : (2.0)	底部木蓋底	外面部ケズリ	砂粒を含み、粗い	明黄褐色	良
207 - 18	B 地区	No 117		17.8 : ? : (6.8)	口縁端部に板状工具による押引状の刺突	外面部ハケ、内面部ナデ	赤色粒子、砂粒を含み、やや粗い	明褐色	良
208 - 1	B 地区	No 133	ヒサゴ壺	6.4 : (6.8) : (15.7)	口縁部がやや内済する	外面部ミガキ	砂粒、赤色粒子を多量に含み、粗い	明褐色	良
208 - 2	B 地区	No 112	ヒサゴ壺	9.0 : ? : (6.0)	口縁部がやや内済する	ケズリ後ナデ	緻密	黄褐色	良
208 - 3	B 地区	No 27	高坏	11.8 : (12.2) : (8.5)	高坏部がやや内済し、下部に屈折痕を持つ	砂粒を含み、粗い	黄褐色	良	
208 - 4	B 地区	No 60	高坏	19.0 : 11.6 : 12.9	高坏部が有段となり屈曲する。脚部に3つの穿孔	砂粒が激しく、調整不鮮明。脚部内面ケズリ	赤色粒子を含み、緻密	明褐色	良
208 - 5	B 地区	No 83	高坏	16.4 : 13.6 : (13.3)	高坏下部に屈曲、再部に3つの穿孔	外面部丁寧なミガキ	石英、砂粒を多く含み、粗い	赤褐色	良
208 - 6	B 地区	No 68	高坏	(18.4) : 15.7 : (17.0)	脚部下半がやや内済する。脚部2孔一組の穿孔が2ヶ所	外面部ミガキ、内面部ケズリ、ハケ	赤色粒子、砂粒を多量に含み、緻密	黄褐色	良
208 - 7	B 地区	No 134	高坏	23.6 : 15.8 : 12.2	高坏部大きく開き、下半部に屈折痕。脚部に3つの穿孔	外面部ミガキ	砂粒を含み、緻密	黄褐色	良
208 - 8	B 地区	No 67	高坏	13.0 : 15.0 : 10.3	高坏部はやや内済しながら立ち上がる。脚部に2孔1組の穿孔2ヶ所	内面部とも磨耗が激しい。脚部内面にハケ	赤色粒子、赤英を含み、粗い	明褐色	良
208 - 9	B 地区	No 114	高坏	14.0 : 15.8 : 11.2	高坏部が内済し、下部に屈折痕がある。脚部に3つの穿孔	内面部とも磨耗が激しい。脚部内面のケズリ	砂粒を含み、緻密	黄褐色	良
208 - 10	B 地区	No 128	小型鉢	10.1 : 5.0 : 7.9	口縁部がやや外反す	内面部ケズリ	砂粒を含み、粗い	明黄褐色	良
208 - 11	B 地区	No 52	手捏土器	5.8 : 5.1 : 5.6	口縁部が外反し、端部が尖る	外面部ハケ、内面部張痕	赤色粒子を含み、やや粗い	黄褐色	良
208 - 12	B 地区	No 72	小型器台	8.0 : ? : ?	口縁部が直立する	外面部ナデ	砂粒を含み、粗い	明黄褐色	良
208 - 13	B 地区	No 77	小型器台	6.8 : (9.6) : (8.8)	器台部は大きく開く。脚部に穿孔	磨耗が激しく調整痕が不明	砂粒を含み、緻密	赤褐色	良
208 - 14	B 地区	No 70	小型器台	7.2 : 9.8 : 8.7	口縁部は短く、両合部に3つの穿孔	外面部はナデ、脚部はミガキ、内面部上半に棒状工具によるケズリ	砂粒を含み、緻密	赤褐色	良
208 - 15	B 地区	No 40	小型器台	(8.5) : 13.2 : 9.5	脚部に3つの穿孔	外面部ミガキ、内面部ケズリ後ナデ	砂粒を多く含み、粗い	明黄褐色	良
208 - 16	B 地区	No 133	小型器台	9.0 : 10.5 : 9.6	器台部が直線的に開き、器部底部に穿孔。脚部は下端部がやや内済する	内面部ともミガキが不明	赤色粒子を含み、緻密	明褐色	良
208 - 17	B 地区	No 80	壺	22.0 : ? : (2.5)	口縁部に菱四瓣文と棒状弦文を持バレス型。口縁部赤形		赤色粒子を含み、緻密	明褐色	良
209 - 1	D 地区	1号住居址	土器器皿	? : 4.5 : (1.0)	底部回転糸切	外面部ケズリ、内面部ナデ	赤色粒子を含み、緻密	黄褐色	良
209 - 2	D 地区	1号住居址	土器器皿	? : 3.7 : (0.7)	底部へラ切	外面部ケズリ、内面部ナデ	赤色粒子を含み、緻密	橙色	良
209 - 3	D 地区	1号住居址	土器器皿	12.6 : 3.5 : 2.4	底部回転糸切	内面部にロクロによるナデ。脚部下端部にケズリ	赤色粒子を含み、緻密	良	
209 - 4	D 地区	1号住居址	土器器皿	13.0 : ? : (4.2)	内面部内黒	内面部ロクロによるナデ	赤色粒子を含み、緻密	明黄褐色	良
209 - 5	D 地区	1号住居址	土器器皿	? : 4.6 : (1.7)	底部回転糸切後ケズリ	外面部ケズリ、内面部ナデ	赤色粒子を含み、緻密	橙色	良
209 - 6	D 地区	1号住居址	須恵器器皿	? : ? : (14.0)		外面部タキ目	石英を含み、緻密	青灰色	良
209 - 7	D 地区	1号住居址	磨石?	b16.5 : w6.0 : t2.8	端部が丸みをもつ		砂岩を加工した磨石?		
209 - 8	D 地区	1号住居址	土器器皿	36.0 : ? : (4.0)	口縁部が外屈する	外面部ハケ、内面部縫合ナデ、脚部ハケ	石英、長石、雲母を多く含み、粗い	暗赤褐色	良
209 - 9	D 地区	1号住居址	土器器皿	35.0 : ? : (3.0)	肥厚した口縁が外屈する	外面部ハケ、内面部縫合ナデ、脚部ハケ	石英、雲母を多く含み、粗い	暗赤褐色	良

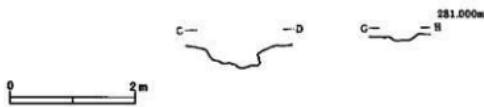
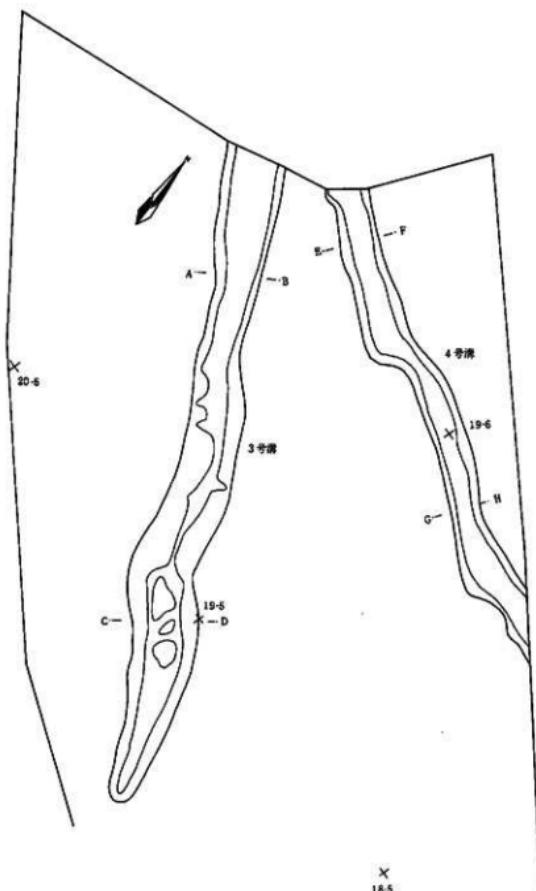
209 - 10	D地区	2号住居址	土師器壺	? : ? : (4.7)	撰み付蓋	ロクロ整形痕	赤色粒子を含み、緻密	褐色	良
209 - 11	D地区	2号住居址	土師器壺	11.4 : 4.7 : 5.5	底部回転糸切	側面ロクロによるナデ、 脚下半ヘラケズリ	赤色粒子を多量に含 み、緻密	黄褐色	良
209 - 12	D地区	3号住居址	灰輪环	13.4 : 5.6 : 4.5	高台付环、内面に刷毛塗 りによる動痕。高台輪部 が尖り三日月形を呈す る。黒径 90号瓶式。	クロク整形痕。重ね焼き 痕跡。	砂粒を含み、や粗い	灰色	良
209 - 13	D地区	7号竖穴	土師器壺	? : 4.6 : (1.7)	底部ヘラ切	外面下部ケズリ、内面ナ デ	赤色粒子を含み、緻密	黄褐色	良
209 - 14	D地区	7号竖穴	土師器壺	? : 4.2 : (0.7)	底部ヘラ切	外面下部ケズリ、内面ナ デ	赤色粒子を含み、緻密	褐色	良
209 - 15	D地区	7号竖穴	土師器壺	37.0 : ? : (4.7)	肥厚した口縁が外屈す る	外面脚部ハケ、内面ハケ	雲母を多く含み、粗い	明赤褐色	良
209 - 16	D地区	グリッド内	土師器壺	11.6 : 4.4 : 4.4	口縁端部がやや外反し、 玉縁状をなす	側面ロクロによるナデ、 脚下半ヘラケズリ	赤色粒子を多量に含 み、緻密	黄褐色	良
209 - 17	D地区	グリッド内	土師器壺	? : 4.8 : (1.3)		底部ヘラケズリ、内面に 暗文	赤色粒子を多量に含 み、緻密	褐色	良
209 - 18	D地区	Pit.43	土師器壺	8.6 : ? : (3.5)		内外面ナデ、外面下部ケ ズリ	赤色粒子を多量に含 み、緻密	褐色	良
209 - 19	D地区	7号溝	土師器壺	? : ? : (5.2)	脚部に3つの穿孔	内面上部にケズリ	赤色粒子を含み、緻密	明褐色	良
209 - 20	D地区	グリッド内	土師器壺	12.6 : ? : (2.5)	口縁部が外反	内外面ナデ	赤色粒子を多量に含 み、粗い	黄褐色	良
209 - 21	D地区	グリッド内	土師器壺	11.0 : 2.0 : 3.0	口縁端部がやや外反し、 玉縁状をなす	側面ロクロによるナデ、 脚下半ヘラケズリ	赤色粒子を含み、緻密	明黄褐色	良
209 - 22	D地区	グリッド内	土師器壺	? : 9.2 : (2.1)		内外面ナデ?	赤色粒子を多量に含 み、粗い	黄褐色	良
209 - 23	D地区	グリッド内	土師器壺	13.8 : ? : (4.2)	内面内黒	側面ロクロによるナデ	赤色粒子を含み、粗い	褐色	良
209 - 24	D地区	グリッド内	羽釜	? : ? : (2.5)	羽釜の鶴状部分破片		雲母、石英を多く含み、 粗い	明赤褐色	良
209 - 25	D地区	グリッド内	土師器壺	31.0 : ? : (3.5)	肥厚した口縁が外屈す る	内面口縁部ハケ	雲母を多く含み、粗い	赤褐色	良



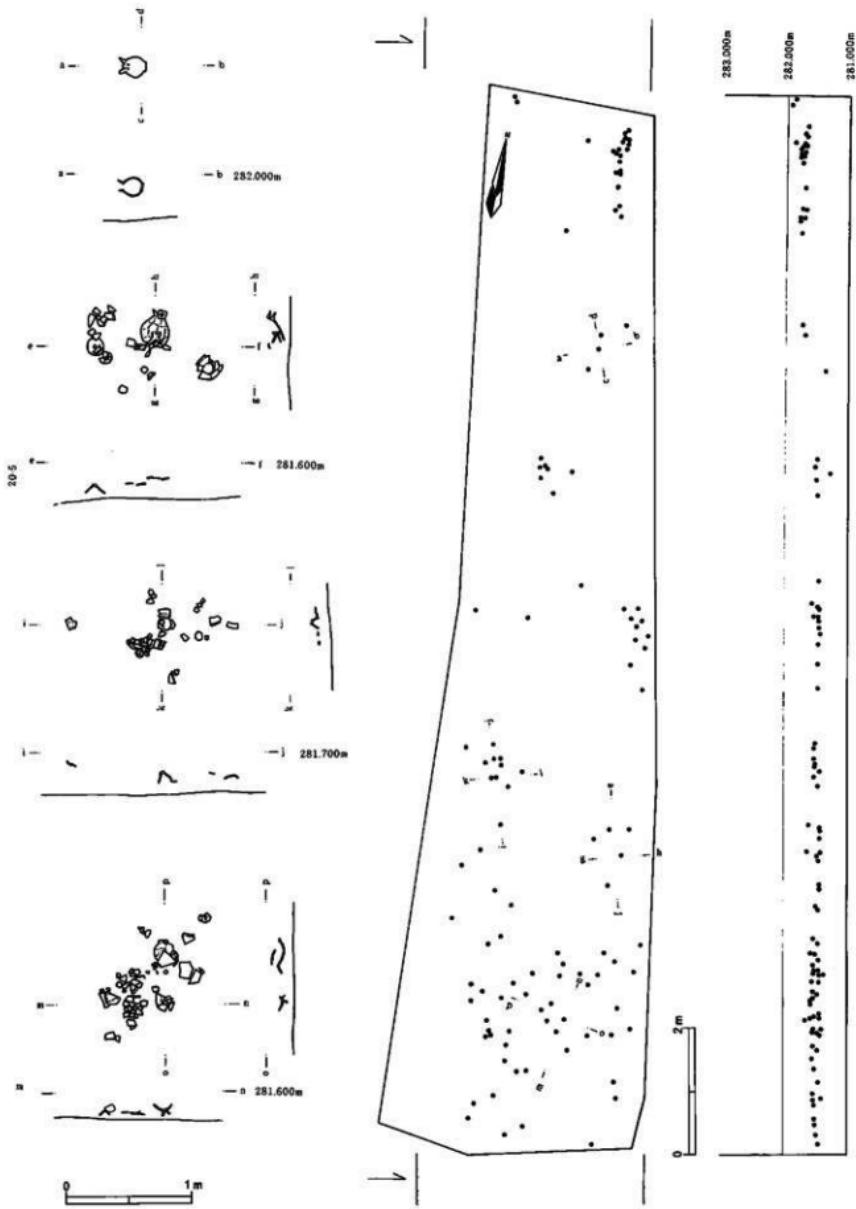
第199図 A地区古墳時代遺構図（1）



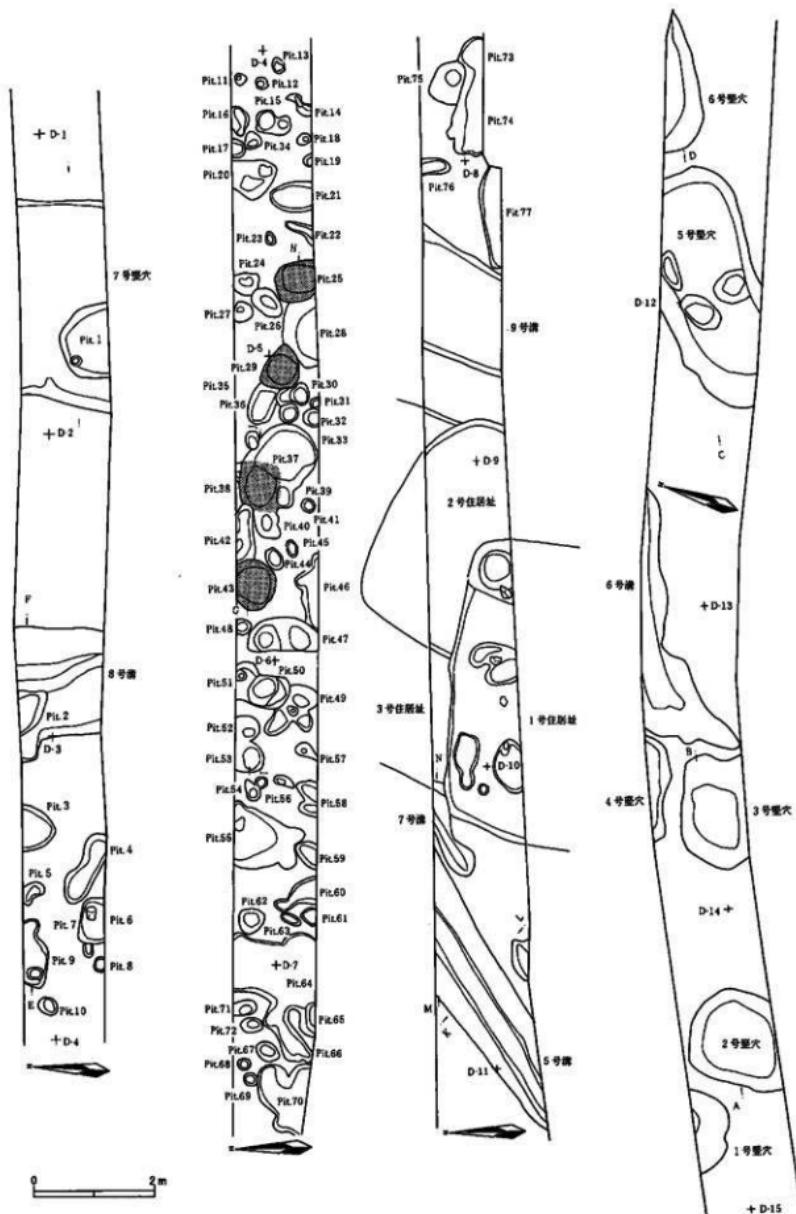
第200図 A地区古墳時代遺構図(2)



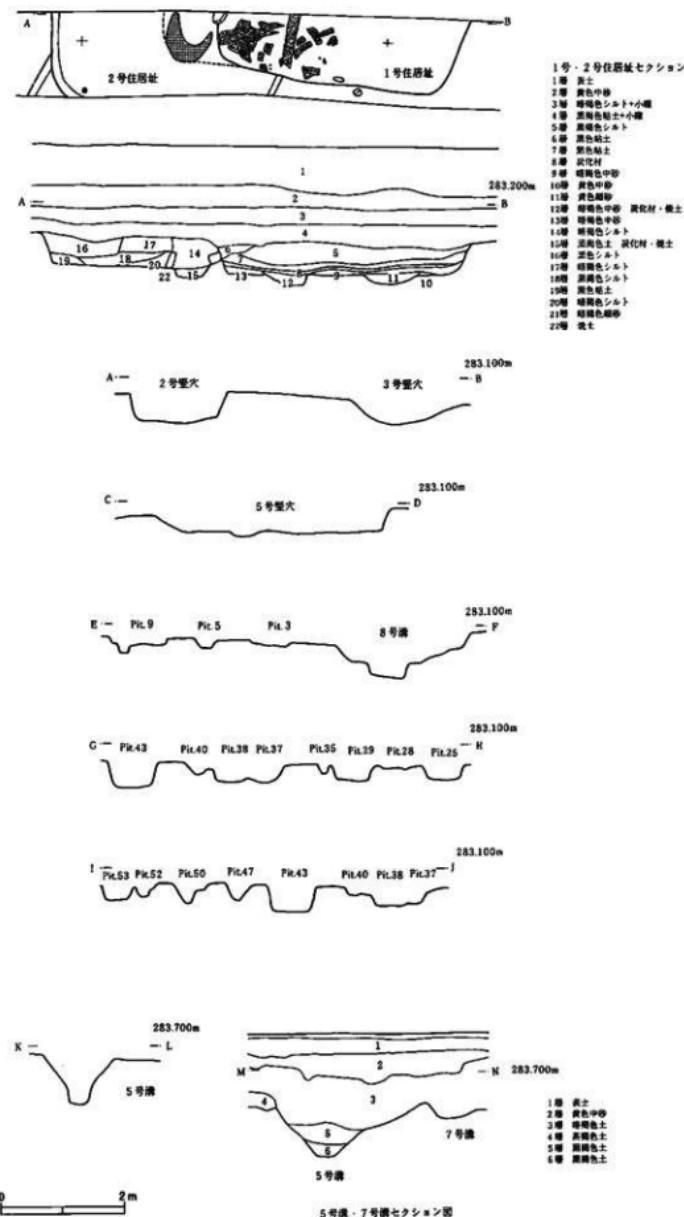
第201図 A地区古墳時代造構図（3）



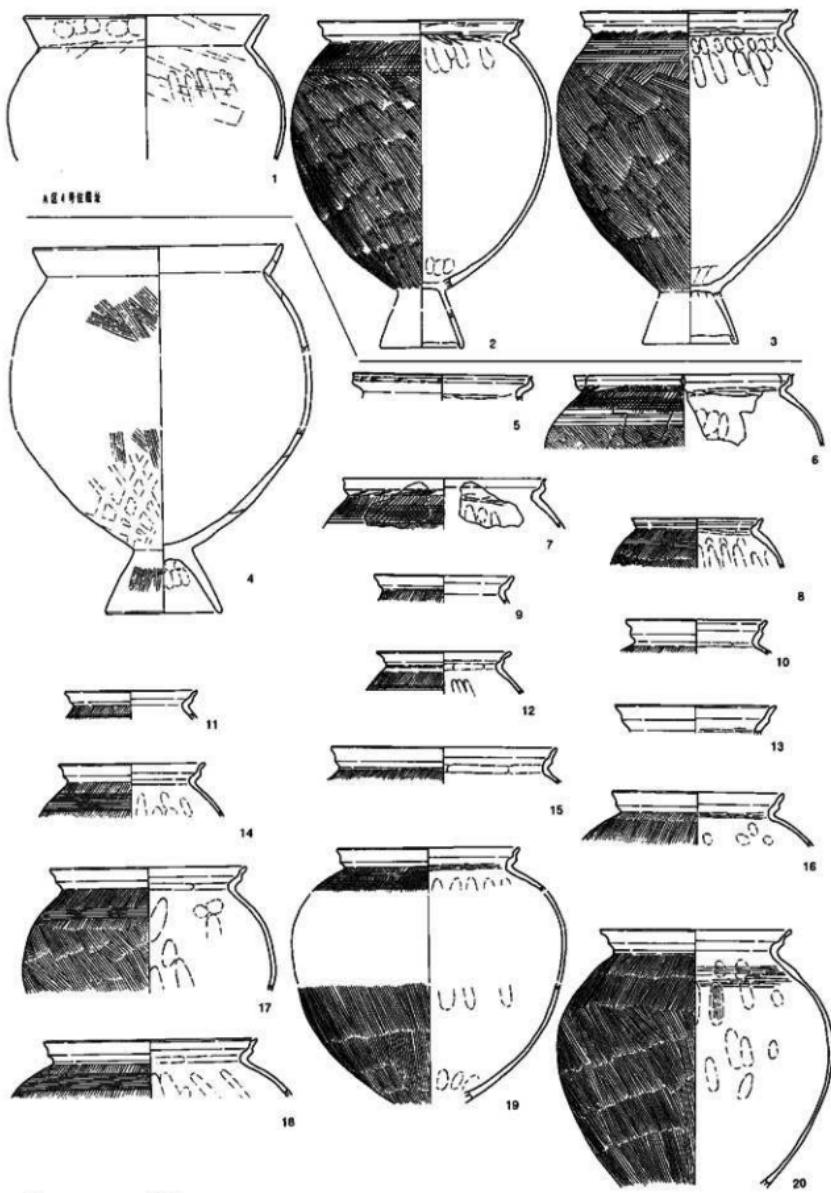
第202圖 B 地區遺物出土狀況



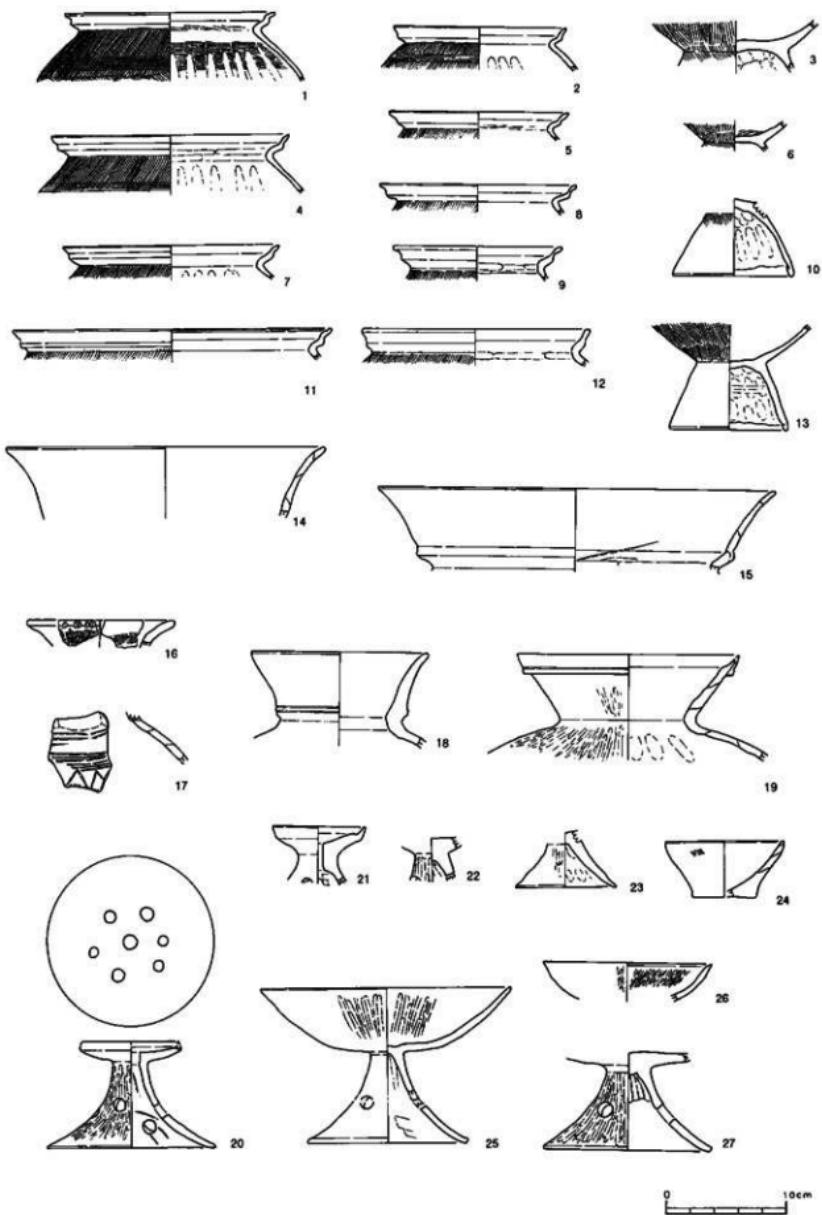
第203図 D地区平安時代および近世遺構配図



第204図 D地区地質構造図

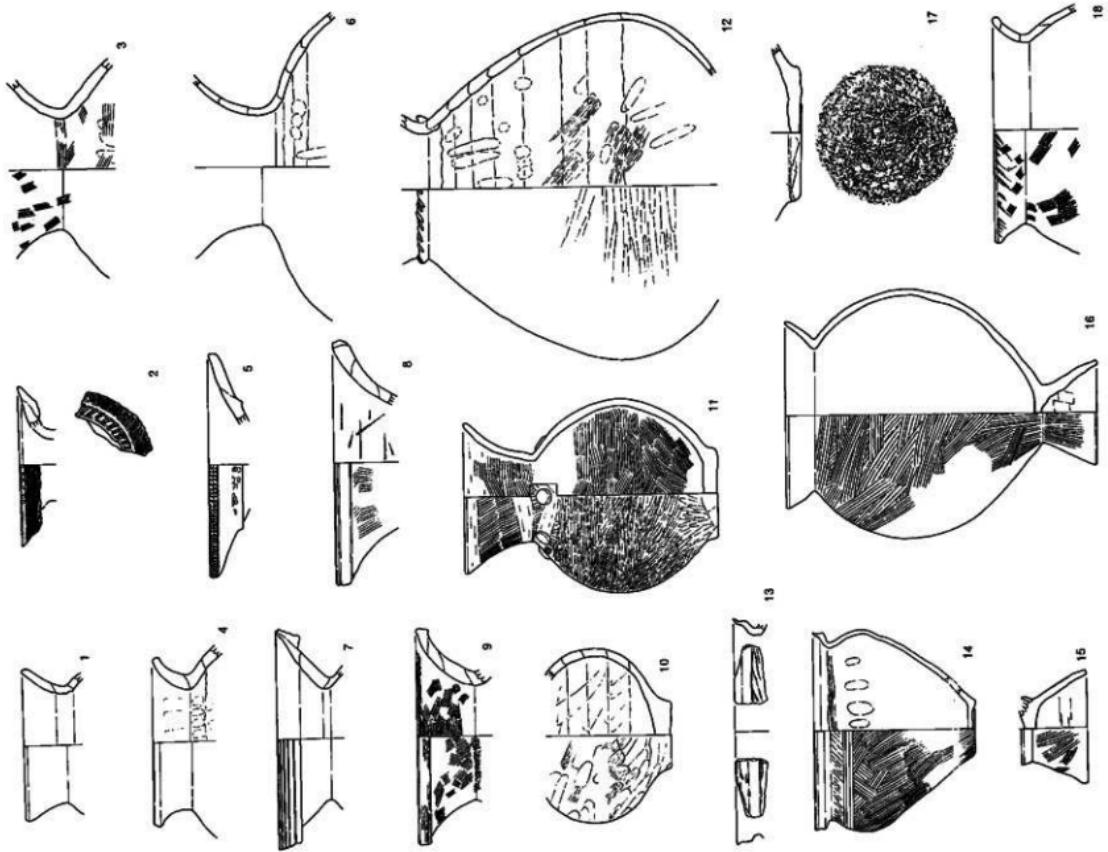


第205図 1990年度調査A区出土遺物

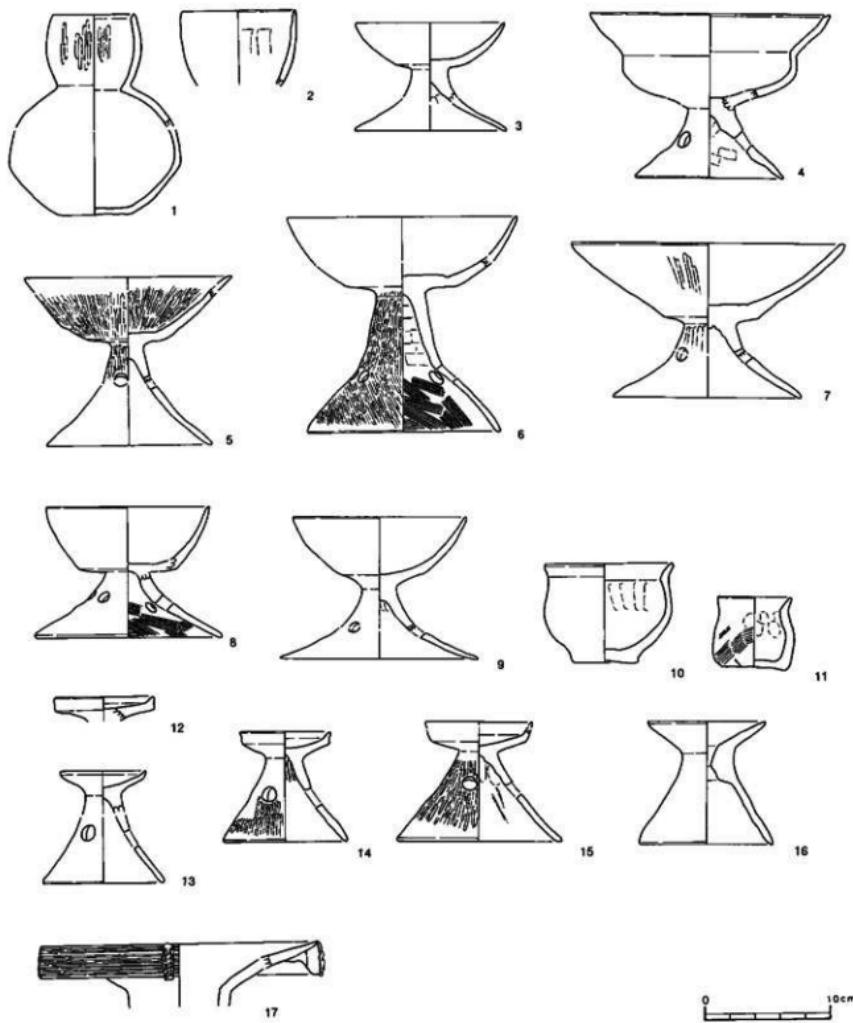


第206図 1990年度調査A区出土遺物

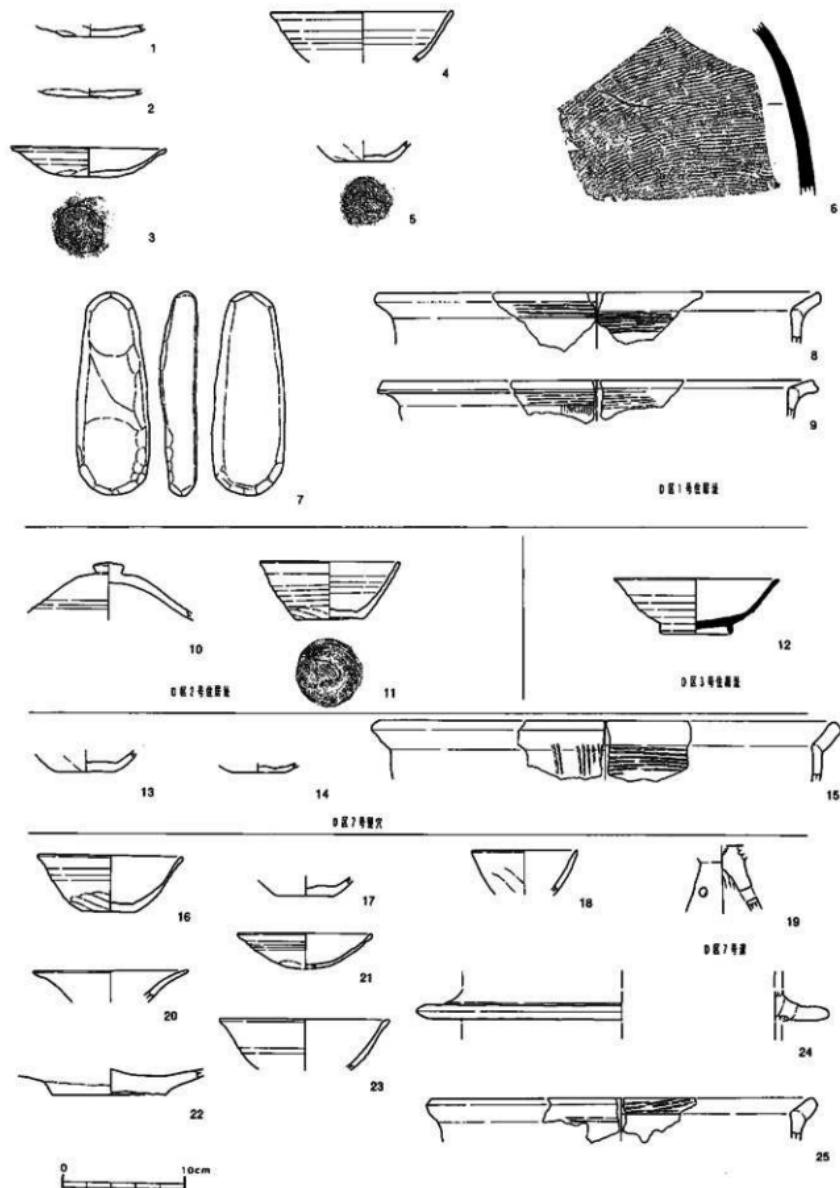
0 10cm



第207図 1990年度調査B区・C区出土遺物



第208図 1990年度調査B区出土遺物



第209図 1990年度調査D区出土遺物

第7章 自然科学分析

第1節 村前東A遺跡I・II区のプラント・オバール

鈴木 茂(バレオ・ラボ)

根から吸収された珪酸分は植物体内的各細胞に運ばれ、蒸散作用などによりその細胞内に蓄積される(植物珪酸体)。この植物珪酸体は植物が枯れることなどにより土壤中に混入・残留するのであるが、こうした植物起源の土粒子をプラント・オバールと呼んでいる。イネ科植物は別名珪酸植物とも呼ばれ珪酸を多量に吸収することが知られており(藤原, 1976)、その中で機動細胞珪酸体についてはイネを中心とした分類が進んでいる(藤原, 1978など)。

こうしたことから、ここでは機動細胞珪酸体に由来するプラント・オバールから村前東A遺跡における稻作やそれ以外のイネ科植物についての検討を中心に行った。また、ムギ類は機動細胞珪酸体が形成されないことから、畝状遺構においては単細胞珪酸体もあわせて検討した。

1. 試料と分析方法

分析用試料は、I区SX007畝状遺構が15点(図1)、SD006セクションAB(06B15~06S15)が2点(図2)、SD006セクション(06A13~01T13)が3点(図3)、SD006セクション(01A10~01R10)が3点(図4)、SI014(自然凹地?)が1点(図5)、2区のAグリットより8点(図6)、Bグリットより3点(図7)、の総計35点が採取された。各地点の詳しい土層記載については遺構の章を参照して頂き、分析試料についての簡単な記載を以下に示す。

1) SX007畝状遺構: 試料1~15

試料1、2は暗灰色のシルト質砂レキ、3は暗灰色のシルト質砂~砂質シルト、4は褐色を帯びた暗灰色シルト質砂レキである。5は暗灰色のシルト質砂、6~10は暗灰色のシルト質砂レキで、7以外は褐色を呈している。11は暗灰色のシルト~粘土質の砂で、レキが認められる。12は灰色のシルト混じり砂レキ、13は暗灰色のシルト質砂レキ、14、15は褐色を帯びた暗灰色の砂レキ混じりシルトで、土壤化をうけている様相が認められる。

2) SD006セクションAB(06B15~06S15): 試料15-1、-2

試料15-1は褐色を帯びた暗灰色の土壤で、最大径18mmのレキが含まれる。本試料層は微高地に連続する古墳時代前期包含層である。15-2は褐色を帯びた灰色の土壤である。

3) SD006セクション(06A13~01T13): 試料13-1~-3

試料13-1は灰褐色のシルト、13-2は黒灰色の粘土~シルトで、最大径12mmのレキが散在している。13-3は暗灰色の粘土~シルトで、最大径12mmのレキが散在している。時代は、2層(試料13-2)、3層(13-3)および4層が古墳前期遺物包含層である。

4) SD006セクション(01A10~01R10): 試料10-a~-c

試料10-aは黒色の粘土であるが、黄灰色の粘土(ローム?)が多く含まれる。土壤化をうけやや團粒状となっており、レキも認められる。10-bおよび-cは黄灰色の粘土で、ローム粒子?が多量に含まれている。また、10-cは土壤化をうけやや團粒状で、空隙も認められ、レキも含まれている。なお、試料10-a層(1層)は古墳前期遺物包含層である。

5) SI014(自然凹地?): 試料14-2

試料14-2は黒灰色のシルトで、土壤化をうけ、やや團粒状で、空隙も認められる。本試料層(2層)から下位の5層までが古墳前期遺物包含層である。

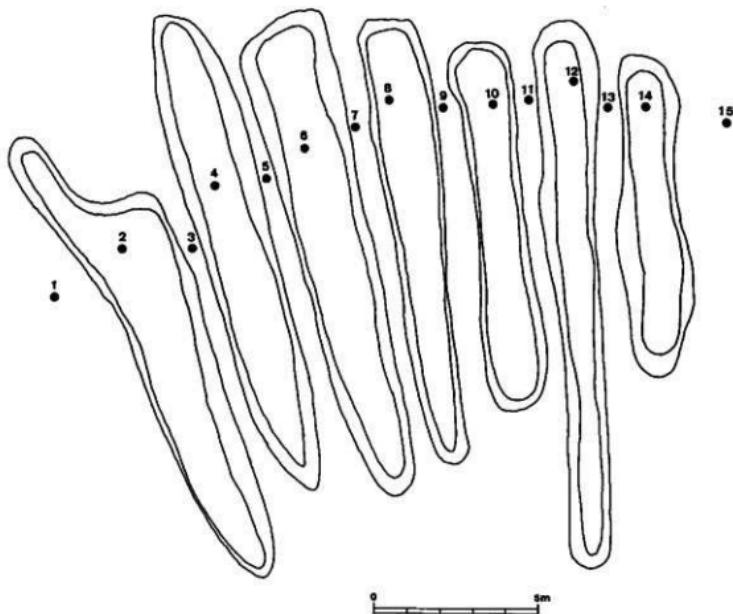


図1 I区SX007歛状造構における試料採取位置図

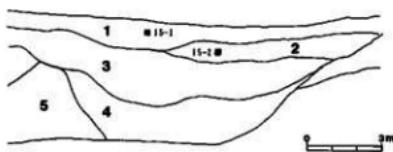


図2 I区SD006セクションAB(06B15~06S15)の試料採取層準

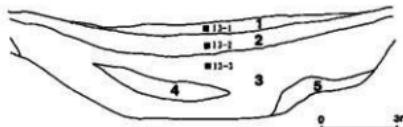


図3 I区SD006セクション(06A13~01T13)の試料採取層準

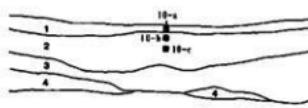


図4 I区SD006セクション(01A10~01R10)の試料採取層準

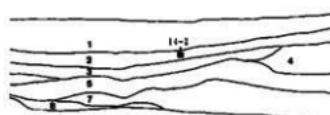


図5 I区SI014(自然凹地?)の試料採取層準

6) Aグリッド：試料4-1, -2, -3, 6-1, -2, 16, 21-1, -2

試料4-1はオリーブ褐色の粘土質シルト、4-2は褐色を帯びた黒色のシルト、4-3は暗オリーブ褐色のシルト、6-1は暗黄灰色のシルト、6-2は褐色を帯びた黒色のシルトで、いずれも土壤化をうけボソボソとしており、空隙も認められる。16, 21-1, -2は暗オリーブ褐色のシルト～粘土で、暗黄灰色の粘土塊（ローム？）が点在（16）、多量（21-1）、斑状（21-2）に認められる。なお、試料4-1～-3の4層が平安時代遺物包含層、6-1, -2の6層が古墳時代遺物包含層である。また、21層より天城カワゴ平軽石（2,800～2,900年前）に由来する火山ガラスが検出されている（テフラ分析の章参照）。

7) Bグリッド：試料24, 32-1, -2

試料24は褐色を帯びた黒色のシルトで、暗黄灰色の粘土小塊（ローム？）が散在している。32-1は褐色を帯びた黒色の粘土質シルトで、暗黄灰色の粘土小塊（ローム？）が点在している。32-2はオリーブ褐色のシルトである。なお、分析を行った試料24の層準（24層）より3mほど上位の5層が弥生時代末の遺物包含層、さらに上位の3層が平安時代遺物包含層である。

2. 分析方法

以上の35試料について以下のような手順にしたがってプランツ・オパール分析を行った。

体積を測定した試料を秤量し、乾燥後再び秤量する（仮比重測定）。なお、SX007歯状造構、SD006セクションA B（06B15～06S15）およびSD006セクション（06A13～01T13）の20試料については体積が測れなかったので仮比重の測定は行っていない（絶対乾燥重量を測定）。別に試料約1g（秤量）をとり、約0.02gのガラスピーズ（直径約40μm）を加える。次に30%の過酸化水素水を加え、脱水機物処理を行う。これに水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により微粒子（SX007歯状造構以外の試料については20μm以下の粒子）を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作成し、検鏡した。同定および計数は機動細胞珪酸体および単細胞珪酸体に由来するプランツ・オパールについてガラスピーズが400個に達するまで行った。

3. 結果および考察

同定・計数された各植物のプランツ・オパール数とガラスピーズ数の比率から試料1g当りの各プランツ・オパール数を求めた（表1、表2）。またこのプランツ・オパール数と試料の仮比重から試料1cc当りのプランツ・オパール数を算出し、それらの分布を図11～14に示した。なお、先にも記したがSX007歯状造構、SD006セクション

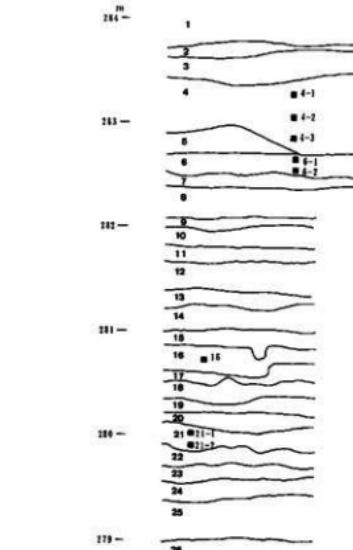


図6 II区Aグリッドの試料採取層準

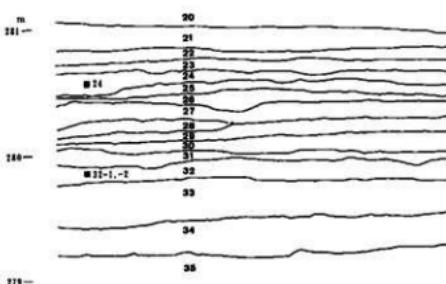


図7 II区Bグリッドの試料採取層準

表1 試料1g当たりのプラント・オパール個数（I区SX007歯状遺構）

試 料	機動細胞珪酸体							単細胞珪酸体				
	イネ	ネザサ節型	クマザサ属型	ヨシ属	シバ属	キビ族	ウシクサ族	不明	タケ型	キビ型	ヒゲシバ型	不明
1	0	600	600	0	600	0	2,500	2,500	4,500	1,300	0	600
2	0	0	700	0	700	700	4,000	2,700	2,000	2,700	0	700
3	0	1,400	700	1,400	0	0	1,400	2,100	6,200	3,400	0	700
4	0	0	0	1,400	700	0	2,100	1,400	1,400	2,500	700	0
5	0	700	0	0	700	0	4,400	3,600	2,900	4,400	0	0
6	0	1,400	1,400	0	700	0	700	4,900	2,800	4,200	0	0
7	0	700	0	0	0	0	0	700	0	1,300	0	0
8	0	1,400	1,400	700	1,400	0	2,500	3,500	2,100	1,400	0	0
9	0	0	1,300	0	0	0	1,300	700	2,000	3,500	700	700
10	0	1,100	600	0	500	0	5,100	3,400	11,900	5,700	500	1,700
11	4,400	700	2,900	0	2,200	700	3,700	6,600	5,900	7,300	700	3,700
12	0	0	600	0	0	0	0	600	0	0	0	600
13	0	2,200	1,100	1,100	0	0	1,700	2,200	6,600	10,500	1,100	1,100
14	0	0	3,000	0	0	0	4,500	3,800	33,000	16,500	0	3,800
15	0	700	0	1,500	0	0	5,500	3,600	18,900	27,600	1,500	3,600

表2 試料1g当たりのプラント・オパール個数（I区SX007歯状遺構以外）

試 料	イネ	ネザサ節型	クマザサ属型	ヨシ属	シバ属	キビ族	ウシクサ族	不明
1区 06B15～06S15	15-1	0	3,800	5,300	3,100	0	0	12,200 19,900
	-2	0	700	1,500	0	0	0	700 2,200
06A13～01T13	13-1	0	700	1,400	2,100	0	0	3,500 3,500
	-2	0	2,200	2,200	2,200	0	0	17,700 24,400
	-3	0	1,500	800	0	0	0	1,500 3,100
01A10～01R10	10-a	0	900	0	1,900	0	0	36,100 16,700
	-b	0	0	800	0	0	0	1,700 3,400
	-c	0	0	1,600	0	0	800	1,600 800
SI014	14-2	0	2,500	1,600	800	0	0	2,500 8,200
2区 Aグリッド	4-1	5,200	2,200	3,000	700	1,500	0	8,200 10,400
	-2	2,200	2,900	2,900	700	0	0	13,200 1,500
	-3	0	800	800	800	0	0	1,600 800
	6-1	0	0	1,600	0	0	0	0 800
	-2	0	0	800	2,300	0	0	800 3,800
	16	0	1,600	800	2,400	0	0	4,000 4,000
	21-1	0	5,600	2,400	800	0	0	3,200 11,200
	-2	0	9,500	3,200	800	0	0	3,900 3,900
Bグリッド	24	0	800	2,400	3,200	0	0	28,100 10,500
	32-1	0	5,300	5,300	1,800	0	900	16,600 16,600
	-2	0	6,700	4,200	800	0	800	18,400 8,400

AB (06B15～06S15) およびSD006セクション (06A13～01T13) については体積の測定が出来なかったことから、試料1g当たりのプラント・オパール数についての分布を図8～10に示した。以下に示すプラント・オパール数は試料1g当たりの数である。

1) SX007歯状遺構

検鏡の結果、機動細胞珪酸体ではイネのプラント・オパールが試料11のみより4,400個検出された。また、イネの穂の一部分とみられる珪酸体も10より検出されている。検出数について、全体としてはそれほど多くなく、最も多いウシクサ族でも4,000個前後である。

単細胞珪酸体のタケ型は試料10～15 (12を除く) において10,000個前後と他の試料に比べ多少多く得られ、特に14、15では突出している。キビ型も同様の傾向で、10～15 (12を除く) において急速に検出数が増加している。しかしながら、検出数に多少増減はあるものの、歯部の特徴、あるいは凹部の特徴といった明らかな傾

向は認められない。

以上のような結果から、イネについては1試料のみの産出であり、本遺構が稻作と関係している可能性は無いと思われる。人為的あるいは洪水などの自然的なものなのかどうかは不明であるが、他のところで当時栽培されていたものが試料11付近に供給され、その結果としてイネのプラント・オバールが検出されたのであろう。

大型植物化石分析で住居址などより検出されているムギ類についても、これらが含まれるイチゴツナギ亞科型の珪酸体が認められないことから、ムギ類の栽培についても可能性は低いと考える。

単細胞珪酸体のキビ型が試料12を除く14試料より検出されている。このキビ型や機動細胞珪酸体のキビ族には、いわゆるキビやアワ、ヒエといった栽培種が含まれ、種実分析においてもキビやアワが検出されている。しかしながら、このキビ族（キビ型）にはキビなどの栽培種の他、やはり種実分析において検出されているエノコログサをはじめとして雑草類も多く、形態的にそれらを分けることが困難なのが現状である。こうしたことから、今回の分析結果においては、キビやアワなどの栽培の可能性については言及できず、今後これらの形態分類について精度を高めていく必要があろう。



図8 I区SX007畝状遺構のプラント・オバール分布図

2) SD006セクションA B (06B15~06S15)

イネは得られず、ネザサ節型やクマザサ属型、ウシクサ族などが検出されている。そのうち、試料15-1ではウシクサ族が最も多く10,000個を越えている。また、ヨシ族も比較的検出されているが、15-2ではネザサ節型などが極少量得られているだけである。

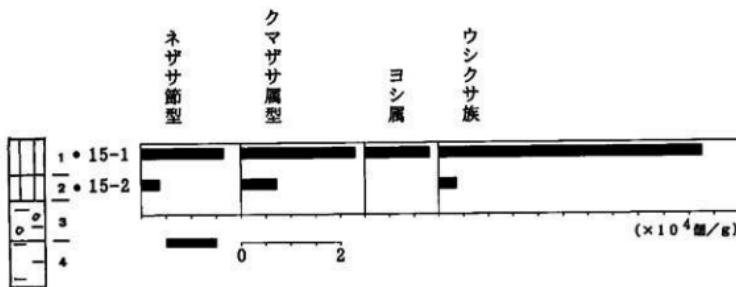


図9 I区SD006セクションAB (06B15~06S15) のプラント・オバール分布図

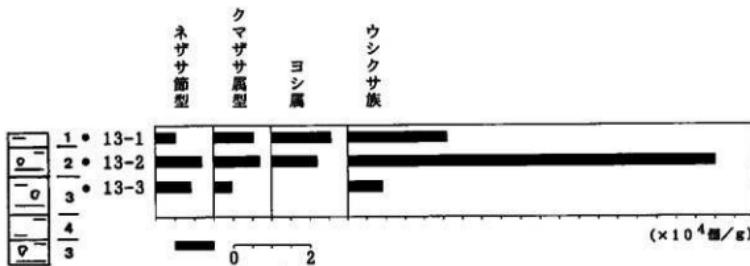


図10 I区SD006セクション (06A13~01T13) のプラント・オバール分布図



図11 I区SI014 (自然凹地?) のプラント・オバール分布図

以上のような結果から、古墳時代前期頃の本地点付近は、ヨシなどが生育する湿地あるいは水域の存在が予想される。また、ウシクサ族（スキやチガヤなど）やネザサ節などが生育する開けた草地的な環境も付近に広がっていたと推測される。

3) SD006セクション (06A13~01T13) およびSI014 (自然凹地?)

上記と同様の結果で、イネは得られず、ネザサ節型や、クマザサ属型、ヨシ属、ウシクサ族が少量検出されている。

以上のような結果から、SD006セクションA B同様これらの地点付近においては、ヨシなどがみられる湿地的な環境や、ネザサ節型やウシクサ族が生育する開けた草地の存在が予想される。

4) SD006セクション (01A10~01R10)



図12 I区SD006セクション (01A10~01R10) のプラント・オパール分布図

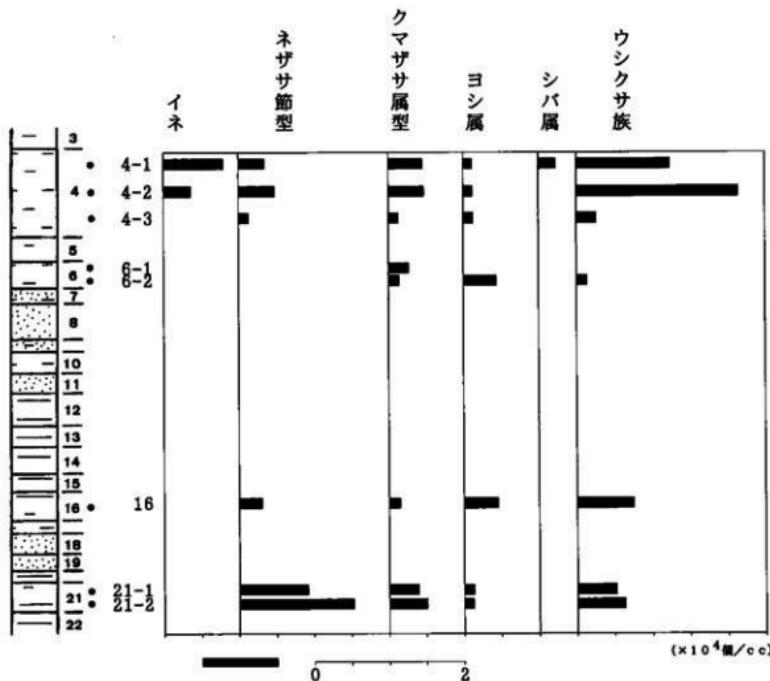


図13 II区Aグリッドのプラント・オパール分布図

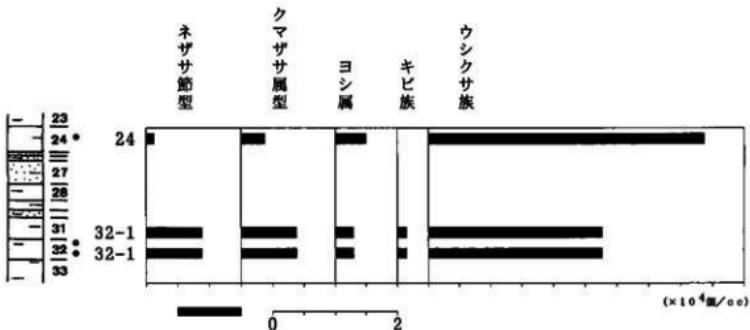


図14 2区Bグリッドのプラント・オパール分布図

観察された分類群は上記のものとあまり変わらないが、検出数はさらに少なくなっている。そのなかで試料10-aにおいてウシクサ族が約36,000個と比較的多く検出されている。

こうしたことから、古墳時代前期頃の本地点付近においてはススキやチガヤなどのウシクサ族が生育する草地が広がっていたと推測される。

5) AおよびBグリッド

Aグリッドの試料4-1, -2において、イネのプラント・オパールがそれぞれ5,200個、2,200個検出されている。ネザサ節型はAグリッドの6層準試料を除いて検出されており、それぞれ下位層準において増える傾向が認められる。クマザサ属型は全試料から得られ、数は2,000個前後であるが、Bグリッドの32層準においてはやや多くなっている。ヨシ属はAグリッドの6-1を除く試料より得られており、ウシクサ族も同様で、Bグリッドで20,000個前後の検出数を示している。

イネについて、量的な目安として示すと、試料1 g当りおよそ5,000個以上のイネのプラント・オパールが検出された場合に、そこで稻作が行われていた可能性は高いと判断されている(古環境研究所, 1989)。これにしたがえば、検出数からは平安時代のAグリッド試料採取地点においては稻作が行われていた可能性が考えられる。これについては、遺構との関連など他方面からの検討がさらに必要であるが、少なくとも平安時代においては村前東A遺跡にイネが存在していたといえるであろう。

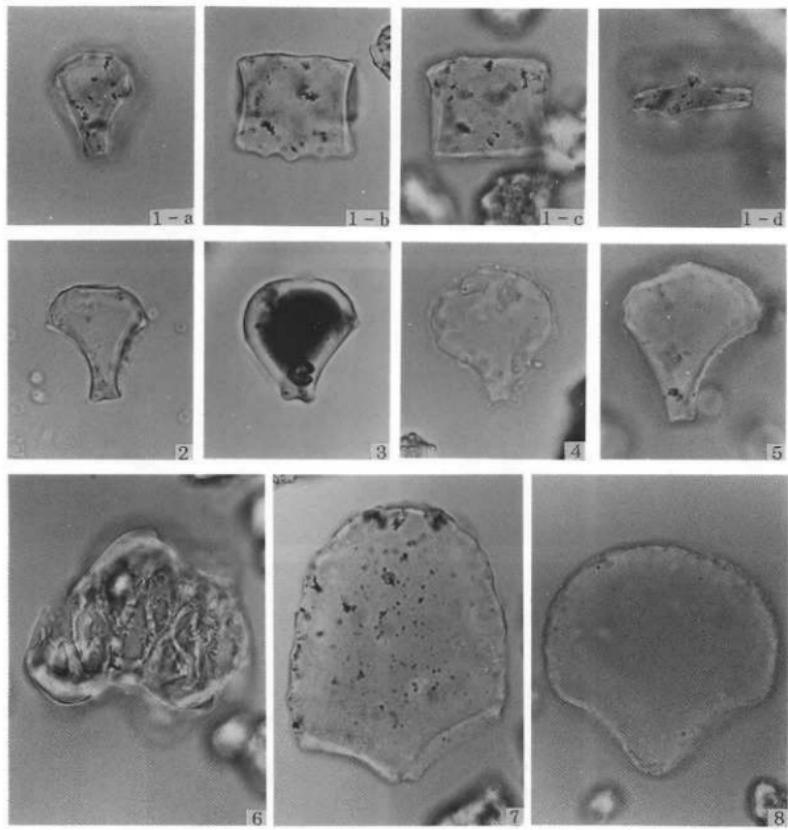
イネ以外では、ヨシ属がほぼ連続して検出されており、少なくとも縄文時代晩期から平安時代にかけての遺跡周辺では、ヨシなどが生育する水域の存在が推測される。また、この頃の遺跡周辺においては、ネザサ節などやウシクサ族が生育する草地も広がっていたであろう。なお、クマザサ属は森林の下草としての存在が予想され、こうした森林地よりクマザサ属型のプラント・オパールが遺跡内に供給されたのであろう。

4.まとめ

畝状遺構について、イネのプラント・オパールが1試料より検出されたが、これだけで本遺構においてイネが栽培されていたとは考え難く、ムギ類の栽培についても同型のプラント・オパールが認められず、本遺構における栽培は考え難い。アワやキビなどの栽培については形態分類の現状から、現時点では不明である。

村前東A遺跡における稻作については、2区Aグリッドの分析結果から平安時代以降と考えられる。

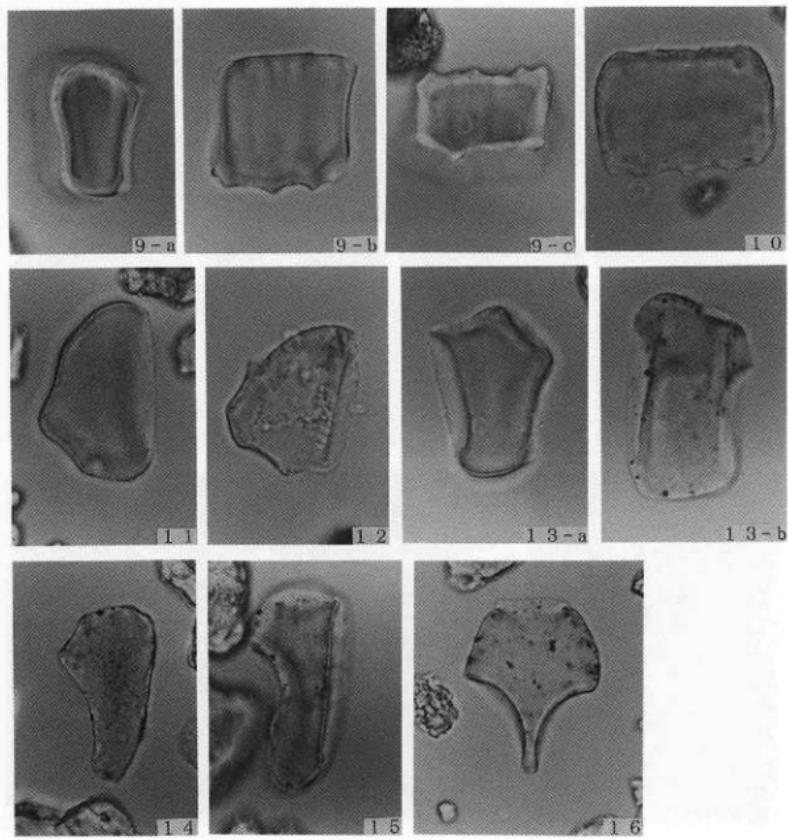
縄文時代晩期以降、古墳時代から平安時代にかけての遺跡周辺は、ヨシなどが生育する湿地の存在が予想され、また、ネザサ節などやウシクサ族(ススキやチガヤなど)が生育する開けた草地も広がっていたと推測される。



30 μ m

図版1 村前東A遺跡のプラント・オバール（機動細胞珪酸体）

- 1 : イネ (1-a : 断面、1-b : 側面、1-c : 側面、
1-d : 表面) Aグリッド4-1
- 2~5 : イネ (断面) 2, 3 : Aグリッド4-1,
4 : Aグリッド4-2, 5 : SX007 11
- 6 : イネの穎? (一部) SX007 10
- 7, 8 : ヨシ属 7 : Bグリッド24, 8 : SD006 13-1



$30 \mu\text{m}$

図版2 村前東A遺跡のプランクト・オバール（機動細胞珪酸体）

9、10：ネザサ節型（9-a : 断面、

9-b : 側面、9-c : 裏面、10 : 側面）9, 10 : Bグリッド32-1

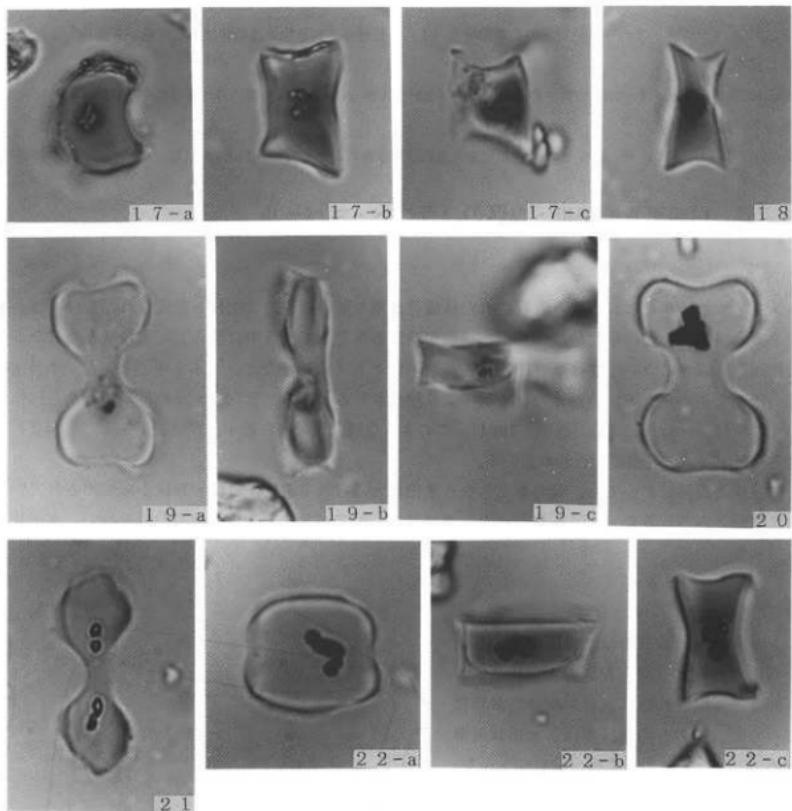
11、12 : クマザサ属型（断面）

11 : Aグリッド21-2、12 : SD006 10-c

13~15 : ウシクサ族（13-a, 14, 15 : 断面、13-b : 側面）

13 : Aグリッド4-1、14 : Bグリッド24、15 : SD006 10-a

16 : シバ属（断面）SX007 11



$30 \mu\text{m}$

図版3 村前東A遺跡のプラント・オバール(単細胞珪酸体) SX007 齢状遺構

17、18: タケ型 (17-a: 断面、

17-b, 18: 側面、17-c: 表面) 17:15, 18:13

19~21: キビ型 (19-a, 20, 21: 断面、

19-b: 側面、19-c: 表面) 19:11, 20, 21:13

22: ヒゲシバ型 (22-a: 断面、22-b: 側面、22-c: 表面) 10

引用文献

- 藤原宏志. 1976. プラント・オパール分析法の基礎的研究(1) - 数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法 - . 考古学と自然科学, 9: 15-29.
- 藤原宏志. 1978. プラント・オパール分析法の基礎的研究(2) - イネ(Oeyza)属植物における機動細胞珪酸体の形状 - . 考古学と自然科学, 11: 9-20.
- 古環境研究所. 1989. プラント・オパール. 「練馬区弁天池低湿地遺跡の調査」, 133-140. 東京都住宅局・練馬区遺跡調査会.

第2節 村前東A遺跡III・IV区のプラント・オパール

鈴木 茂(パレオ・ラボ)

プラント・オパールとは、根より吸収された珪酸分が葉や茎の細胞内に沈積・形成されたもの(機動細胞珪酸体や単細胞珪酸体などの植物珪酸体)が、植物が枯れるなどして土壤中に混入して土粒子となったものをいい、機動細胞珪酸体については藤原(1976)や藤原・佐々木(1978)など、イネを中心としたイネ科植物の形態分類の研究が進められている。また、土壤中より検出されるイネのプラント・オパール個数から稻作の有無についての検討も行われている(藤原 1984)。このような研究成果から近年、プラント・オパール分析を用いて稻作の検討が各地・各遺跡で行われている。

ここ村前東A遺跡においても、畦畔をともなう水田址とみられる遺構がIII区・IV区から検出されている。この水田状遺構とみられる部分より採取された土壤試料についてプラント・オパール分析を行い、水田状遺構の検証を試みた。

1. 試 料

プラント・オパール分析は、III区のA、B地点より採取された10試料、IV区の水田状遺構および断面より採取された15試料の総計25試料について行った。そのうちIII区では、水田状遺構A地点の1, 2, 4, 6, 7層(試料No1~5)の5点、水田状遺構B地点の1, 2, 3, 5, 8層(試料No6~10)の5点であるが、A、B地点の位置については遺構の章を参照されたい。

IV区試料は、水田状遺構の畦畔部6試料(試料No①, ②, ⑤, ⑧~⑩)と水田状遺構内4試料(試料No③, ④, ⑥, ⑦)、および07A-11グリッド東壁の1~5層より採取された各層1点の5試料(試料No1~5)である。なお、各試料の位置については図1(水田状遺構平面図)、図2(07A-11グリッド東壁断面図)に示したが、遺跡内の位置については遺構の章を参照されたい。また、07A-11グリッド付近においては水田状遺構は確認されていないが、4層が水田面に当たる。

2. 分析方法

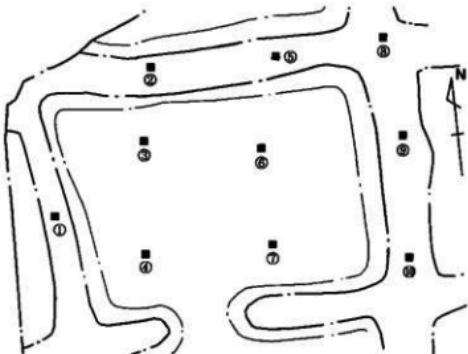


図1 IV区水田状遺構試料採取位置図

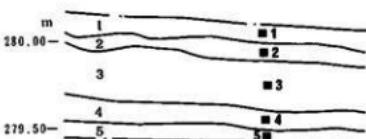


図2 IV区07A-11グリッド東壁の断面図と試料採取層準

プラント・オバール分析は上記した25試料について以下のような手順にしたがって行った。

重量を測定した試料を乾燥後再び秤量する（絶対乾燥重量測定）。別に、秤量した試料約1 g（湿重）をトルビーカーにとり、約0.02 gのガラスピーズ（直径約40 μm）を加える。これに30%の過酸化水素水を20~30cc加え、脱水機物処理を行う。処理後水を加え、超音波ホモジナイザーによる試料の分散後、沈降法により10 μm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作成し、検鏡した。同定および計数は機動細胞壁酸体に由来する植物細胞壁酸体についてガラスピーズが300個に達するまで行った。

表1 試料1 g当たりのプラント・オバール個数

試料番号	イネ (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	クマザサ属型 (個/g)	他のタケ亞科 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	シバ属 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)	不明 (個/g)
III区-1	0	0	4,300	0	1,100	0	2,200	9,700
-2	0	1,000	4,100	1,000	0	1,000	5,100	10,200
-3	0	0	4,100	0	0	0	1,000	4,100
-4	0	0	5,100	0	0	0	2,000	4,100
-5	0	1,000	11,000	0	5,000	2,000	17,000	7,000
-6	0	0	0	0	2,900	0	1,000	2,900
-7	0	1,000	6,900	0	3,000	0	9,800	4,900
-8	0	0	1,000	0	4,900	0	0	1,000
-9	0	0	0	0	3,800	0	0	900
-10	0	0	0	0	1,000	0	0	0
IV区-①	0	3,000	7,000	0	1,000	0	4,000	11,000
-②	0	4,400	0	1,100	2,200	0	3,300	3,300
-③	0	0	3,200	0	5,300	0	3,200	0
-④	0	0	2,100	0	1,000	0	0	4,100
-⑤	0	0	0	0	2,000	0	0	2,000
-⑥	0	1,100	1,100	0	5,300	0	1,100	5,300
-⑦	0	0	3,000	0	0	0	0	5,000
-⑧	0	3,100	5,200	1,000	5,200	0	4,100	10,300
-⑨	0	2,100	0	0	2,100	0	6,300	7,300
-⑩	0	0	0	0	1,100	1,100	5,300	7,400
IV区-1	0	6,400	8,200	0	900	0	17,400	17,400
-2	0	5,000	17,100	0	1,000	0	46,400	13,100
-3	0	900	0	0	0	0	2,800	1,900
-4	0	0	4,100	0	0	0	5,100	2,000
-5	0	900	0	0	1,900	0	0	2,800

3. 結 果

同定・計数された各植物のプラント・オバール個数とガラスピーズ個数の比率から試料1 g当りの各プラント・オバール個数を求めた（表1）。また、これらの分布を図3（III区）、図4（IV区水田状遺構）、図5（07A-11グリッド）に示した。以下に検鏡の結果を記すが、各分類群のプラント・オバール個数は試料1 g当りの個数で示してある。

1) III区水田状遺構（図3）

イネはまったく検出されず、他の分類群も全体に検出数が少なく、10,000個を超えたのはNo.5のクマザサ属型とウシクサ族だけであった。比較的検出されたのはクマザサ属型、ヨシ属、ウシクサ族で、いずれも10試料中7試料より得られている。検出個数としては、クマザサ属型が5,000個前後、ヨシ属は4,000個前後、ウシクサ族は差が大きいが5,000個前後である。

2) IV区水田状遺構(図4)

III区同様イネは検出されず、検出数も少なかった。その中で、ヨシ属は少ないながらNo.7を除く他の9試料より得られている。その他では、やはりクマザサ属型とウシクサ族が比較的検出されており、ネザサ節型もIII区水田状遺構試料よりは多く得られている。

3) IV区07A-11グリッド東壁断面(図5)

本地点においてもイネは検出されず、No.3より下位の試料においては検出数も少なかった。上位2試料では、ウシクサ族が最も多く検出されており、No.2では46,000個に達している。また、同試料においてはクマザサ属型も17,000個と比較的多く得られている。ヨシ属はNo.1, 2, 5より若干検出されている。

4. 水田状遺構試料の分析結果について

以上のように、水田面あるいは周囲の畦畔部より採取された全試料からイネは検出されず、プラント・オバール分析から稻作を支持する結果は得られなかった。宮城県仙台市の富沢遺跡において検出された複数の水田面におけるプラント・オバール分析においてもイネが検出されない水田遺構があり(古環境研究所 1991)、他の遺跡においても同様の事例を耳にしている(未公表)。しかしながら、そうしたことが起る要因は不明である。考えられることとしては、疑似畦畔の存在により真の水田層が検出しにくい状況や、村前東A遺跡においては全体にプラント・オバールの検出数が少なく、大量の他の無機物によってプラント・オバールの密度が非常に低くなったことが一因である可能性もある。また、耕作期間が非常に短く、イネのプラント・オバールの供給量が少なかったのかもしれないなど、いくつか要因が考えられるが、これについては今後の課題としたい。

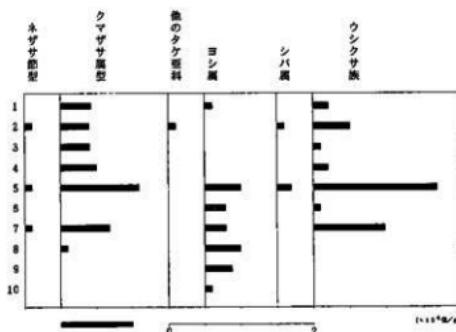


図3 III区水田状遺構のプラント・オバール分布図

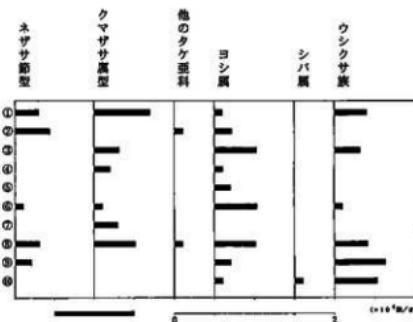


図4 IV区水田状遺構のプラント・オバール分布図

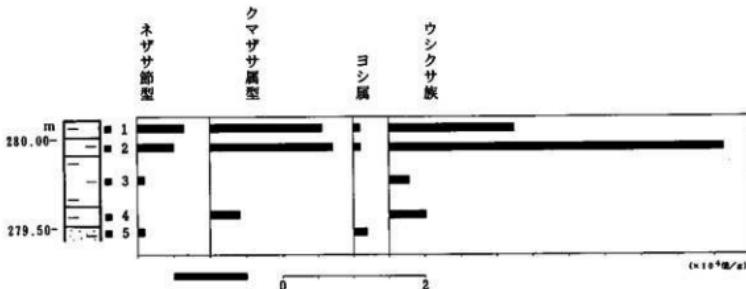
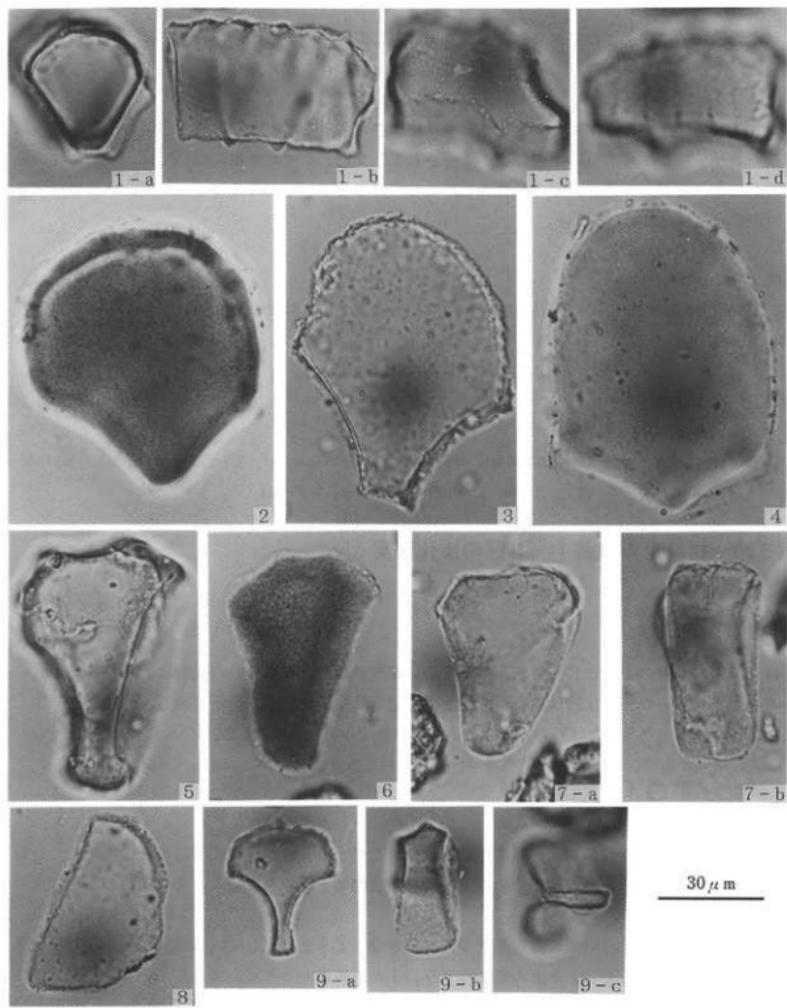


図5 IV区07A-11グリッド東壁のプラント・オバール分布図



図版 村前東A遺跡のプラント・オパール

1 : ネザサ節型 (1-a : 断面、1-b : 側面、1-c : 表面、1-d : 裏面) IV区No.1

2~4 : ヨシ属 (断面) 2 : III区-5、3 : IV区-2、4 : IV区-8

5~7 : ウシクサ族 (5, 6, 7-a : 断面、7-b : 側面)

5 : III区-2、6 : IV区No.1、7 : IV区No.2

8 : クマザサ属型 (8 : 断面) IV区No.2

9 : シバ属 (9-a : 断面、9-b : 側面、9-c : 表面) IV区-10

5. 遺跡周辺のイネ科植物

ヨシ属が比較的多く検出されており、このヨシ属は主に湿地や浅い水域に生育するイネ科植物である。よって、村前東A遺跡周辺ではこのヨシ属が生育する湿地や水域の存在が考えられ、水田稻作が営まれていたとすると、こうした湿地環境を切り開き行われるようになったと予想される。

ウシクサ族（スキヤチガヤなど）も比較的多く検出されていることから、遺跡周辺の山地・丘陵部ではウシクサ族やネザサ類が生育する草地の存在が予想される。また、クマザサ属については、主に森林の林下における生育が知られており、遺跡周辺の森林の下草として分布していたところによりクマザサ属型のプラント・オバールが供給されたのであろう。

引用文献

- 藤原宏志（1976）プラント・オバール分析法の基礎的研究（1）—数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法—。考古学と自然科学, 9, p. 15-29.
- 藤原宏志（1984）プラント・オバール分析法とその応用—先史時代の水田址探査—。考古学ジャーナル, 227, p. 2-7.
- 藤原宏志・佐々木彰（1978）プラント・オバール分析法の基礎的研究（2）—イネ（*Oryza*）属植物における機動細胞珪酸体の形状—。考古学と自然科学, 11, p. 9-20.
- 古環境研究所（1991）仙台市富沢遺跡第30次調査におけるプラント・オバール分析。仙台市文化財調査報告書第149集 富沢遺跡—第30次調査報告書第I文冊—縄文—近世編。仙台市教育委員会, p. 389-404.

第3節 村前東A遺跡Ⅰ・Ⅱ区の炭化種実

吉川 純子（パレオ・ラボ）

1. 試料について

試料は村前東A遺跡のⅠ区とⅡ区で竈、炉を中心に採取された。採取された試料は、水洗篩別され、炭化物のみひろいだされていた。炭化物は実体顕微鏡下で同定可能な炭化物のみを選び出し、分類群を同定した。同定結果は、種実の出土があった試料のみ表1と表2に個数で示した。また、試料びんについていた試料番号を、そのまま表に用いたので、試料番号と遺構番号、種類の対応表を表2のあとに示してある。

2. Ⅰ区出土炭化種実について

Ⅰ区では試料57が古墳時代の初頭の微高地に形成された焼土で、ほかは平安時代の竈の堆積物である。ただし、試料10は、平安時代の配石遺構でその直上の薄い炭化物層を採取している。この遺構の性格は今のところ不明である。

竈から出土した分類群は、いわゆる穀類が多く、なかでもイネを出土している試料が多かった。つぎにオオムギ、コムギ、ムギ類が多く、2か所の竈からアワ、1か所の竈からキビを出土している。また、イネとムギ類の個数の比較をしてみると、イネのみ出土の住居はSI006、SI012、イネがムギ類より多い住居はSI004、SI005、SI007、イネとムギ類が同じ住居は08I-5グリッド、イネよりムギ類が多い住居はSI010であった。出土個数がきわめて少なく、出土した炭化種実が利用されていた量に比して微量たる量であることを考え合わせると、有力な根拠とはなりえないようである。しかしながら、7住居中5住居でイネが優っており、全体としてはイネを利用する傾向が強いようにも思われる。穀類のほかに食糧とされている可能性がある分類群としては、ブドウ属で、もちろん食糧のほかに燃料として持ち込まれる可能性も考えられる。

スゲ属、カヤツリグサ科、エノコログサ属、イネ科、シロザ近似種、エノキグサはいずれもいわゆる雑草であり、食糧として持ち込まれることはない。大半が乾燥した場所に生育していた分類群と考えられ、燃料を持ち込むときや、衣服、足に付着して持ち込まれたものが、竈に入り、炭化したと考えられる。

表1 村前東A遺跡I区の炭化種実

試料番号 A-1	試料番号														
	1	2	5	6	8	9	10	11	12	15	18	19	20	23	25
堅果破片							5								
ブドウ属			1												
スグ属				2											
カヤツリグサ科	1														
イネ	1	1		1		3		2	1	3	1	1			
オオムギ						2									
コムギ	2							1							
ムギ類					2										
アワ							1			1				2	
キビ											2				
エノコログサ属								6							
イネ科															
エノキグサ				1	1										
シロザ近似種	2				1		5								
穀類塊		2									2	1			

試料番号 A-1	試料番号														
	26	28	29	31	33	41	42	43	44	45	47	48	49	51	57
堅果破片															
ブドウ属															
スグ属															
カヤツリグサ科															
イネ		1		1	1			1	2	1			2	1	
オオムギ															
コムギ															
ムギ類			1				2	2	3						
アワ															
キビ								1		1					
エノコログサ属															
イネ科															
エノキグサ															
シロザ近似種	1	1				1				1			1		
穀類塊							3					1			

配石遺構では、堅果破片、アワ、シロザ近似種を出土しており、アワは1粒のみで意識的にその場所に持ち込まれたかどうかは判断できない。

古墳時代初頭の焼土は、付近に特殊な土器を出土する溝があり、祭祈的意味合いを持つ可能性のある微高地に形成されている。ここではイネを出土するが、やはり1粒のみの出土で、持ち込まれたかどうかの判断は難しいようである。一般に焼土が形成されるのはその土壤の上で燃焼が起った為、熱を受けて変成した土が残っているもので、燃焼していた炭化物が出土することは稀である。さらにここでは微高地という条件のため、堆積後の環境も、流出の傾向が強いと考えられ、炭化物が残ることが難しいと思われる。

3. II区出土炭化種実について

試料2から11まではI区同様、平安時代の癌の堆積物で、イネ、オオムギ、コムギ、アワを出土する。ここではイネのみ出土の住居はSI007、イネよりムギ類が多く出土する住居はSI010と差は見られなかった。アワは2カ所から出土している。また、カヤツリグサ科、エノコログサ属、キイチゴ属、シロザ近似種といった、乾

燥地に生育する分類群を出土している。

試料14と17は古墳時代前期と思われる炉の堆積物で、14からはオニグルミ、イネを出土し、17からはシロザ近似種を出土している。

表2 村前東A遺跡II区の炭化種実、試料番号対応表

4. 出土分類群についての記載

オニグルミ：核の破片を出土した。細かい破片のため、特徴のはっきりしている部分についてはオニグルミと同定できた。
I区の堅果破片としたものは、激しく焼けるなどして特徴がはっきりしないためであるが、ほとんどはオニグルミの核破片と思われる。

ブドウ属：種子を出土した。大きさからヤマブドウ以外のブドウ属である。

スゲ属：果実を出土した。2面で逆三角形である。

カヤツリグサ科：果実は3面で光沢がある。

イネ：胚乳、穎が残っている胚乳の破片、焼けぶくれの激しい胚乳の3種類の状態を出土した。

オオムギ：穎が少し残っている胚乳を出土した。

コムギ：やや焼けぶくれした胚乳を出土した。

ムギ類：破片や焼けぶくれなどでオオムギかコムギかの区別がつかないものをムギ類とした。

アワ：焼けぶくれした胚乳を出土した。

キビ：やや焼けぶくれした胚乳を出土した。

エノコログサ属：半分ほど穎が残っている果実を出土した。やや細長いが、穎の模様からエノコログサ属と同定した。

イネ科：微小な穎果を出土した。

キイチゴ属：核を出土した。焼けたが激しく、種までの同定には至らなかった。

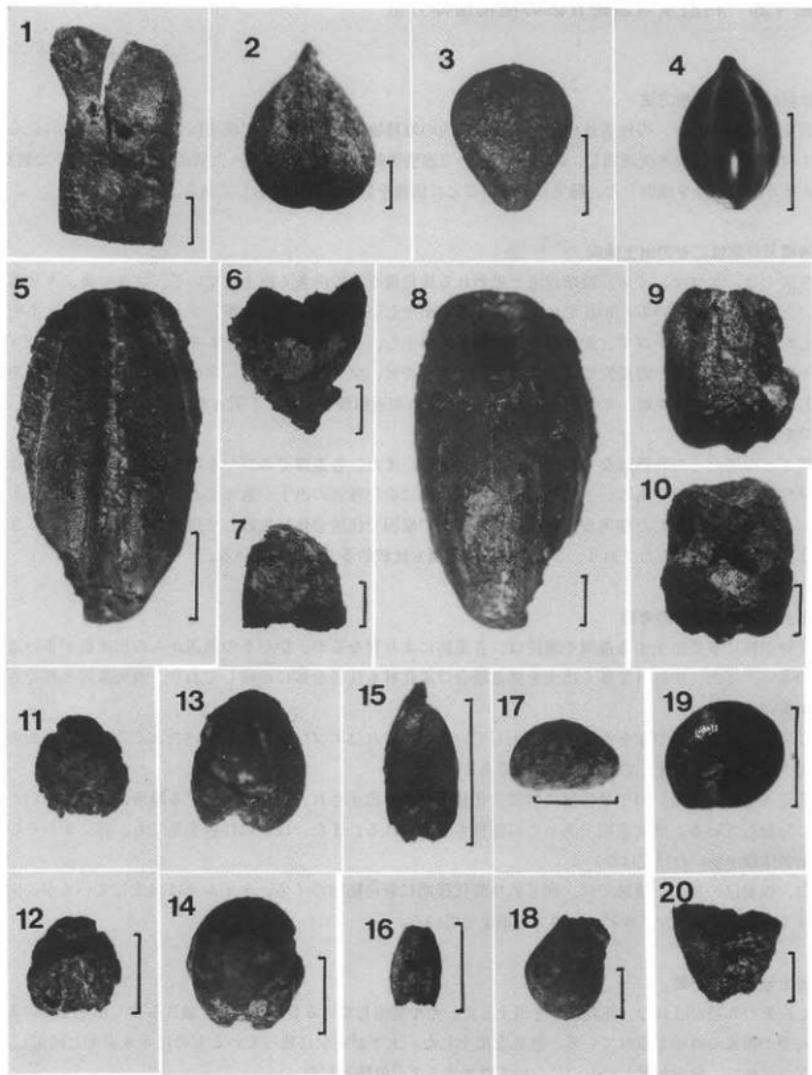
シロザ近似種：種子を出土した。シロザ近似種は黒色で堅く、炭化しているかどうかの判断が難しいが、光沢がなくなりかけているものや、熱により種皮がめくれかけているものなど、観察しながら区別していった。

エノキグサ：種子を出土した。表面に炭化物が付着しているものが多かった。これがエノキグサの種子の内部から出たものか、ほかの炭化物がついているかは不明である。

穀類塊：炭化物の中でも穀類起源とおもわれるものは穀類の塊とした。イネ、ムギ類、アワ、キビのいずれかではないかと考えられる。

A-II	試料番号						
	2	4	6	8	11	14	17
オニグルミ破片							1
カヤツリグサ科					1		
イネ				2	2	1	
オオムギ					1		
コムギ					1		
ムギ類						2	
アワ			1		2		
エノコログサ属						1	
キイチゴ属				2			
シロザ近似種			1				2
致頃塊						3	

試料番号と遺構の対応表	
A-I区 I MH-5 グリッド	31 S107Kカット*
2 MH-5 グリッド	33 S107Kカット*
5 S1004カット*	41 S110Kカット*
6 S1004カット*	42 S1010カット*
8 S1004カット*	43 S110Kカット*
9 S1004カット*	44 S112Kカット*
10 S1004石敷上位炭化物層	45 S112Kカット*
11 S1005Kカット*	47 S112Kカット*
12 S1005カット*	48 S112Kカット*
16 S1005カット*	49 S1012カット*
18 S1005カット*	51 S112Kカット* 4
19 S1005カット*	57 SF005焼土
20 S1006カット*	A-II区 2 S1002カット*
23 S1006カット*	4 S1004カット*
25 S1006カット*	6 S1007カット*
26 S107Kカット*	8 S1009カット*
28 S107Kカット*	11 S1010カット*
29 S107Kカット*	14 S1011 炉直上
	17 S1013 炉サブル



図版1. 村前東A遺跡の炭化種実 (スケールは1mm)

1. オニグルミ、核破片 (A-2-14)
2. ブドウ属、種子 (A-1-5)
3. スゲ属、果実 (A-1-6)
4. カヤツリグサ科、果実 (A-1-2)
5. イネ、胚乳 (A-1-44)
6. イネ、穎付き胚乳破片 (A-1-9)
7. イネ、胚乳破片 (A-1-51)
8. コムギ、穎果 (A-1-9)
9. コムギ、胚乳 (A-1-2)
10. 同対側
11. アワ、胚乳 (A-2-4)
12. 同対側
13. キビ、胚乳 (A-1-20)
14. 同対側
15. エノコログサ属、穎果 (A-2-11)
16. イネ科、穎果 (A-1-20)
17. キイチゴ属、核 (A-2-2)
18. エノキグサ、種子 (A-1-6)
19. シロザ近似種、種子 (A-1-2)
20. 穀類塊 (A-2-11)

第4節 村前東A遺跡II区の植物遺体分析

吉川純子（パレオ・ラボ）

1. 試料化処理と分析方法

村前東A遺跡（II区）の住居址の覆土及び遺構内の堆積物30試料について種実同定を行った。試料化の処理は、土壤試料を分散後水洗選別し、0.5mmのふるいで篩別後乾燥する。篩に残った残渣を实体顕微鏡下で観察し、種実かそうでないかを識別した。種実は分類群ごとに個数を数え、表1に示してある。

2. 遺構及び層位ごとの出土傾向

1号住居では、エゴマ、イネ、穀類起源と思われる炭化塊を比較的多く出土している。ブドウ属、タデ属、マメ科、キビも出土している。炉址では、イネが多く出土し、炭化塊、オオムギ、ブドウ属、マメ科、不明Aも出土した。焼土では、エゴマ、炭化塊を比較的多く出土し、イネ、アワ、オオムギ、オオムギ近似種、ブドウ属、不明Aを出土した。貯蔵穴では、エゴマ、イネ、キビ、マメ科、炭化塊。床面では、エゴマ、イネを多く出土し、炭化塊、ブドウ属、タデ属、オオムギ、オオムギ近似種、キビ、不明Aを出土した。柱穴では、イネ、エゴマを出土した。

遺構ごとの際だった特徴ではなく、ばらつきが大きい。また、各遺構でエゴマを出土しているが、これはすべて1号住居からの出土である。1号住居では住居全体に炭化種実の出土が散っており、柱穴からの出土も見られる。したがって炭化した種実が炭化後になんらかの原因で住居全体に拡散して堆積したと思われる。2号住居では、イネを多く出土しており、ブドウ属、炭化塊も比較的多く出土している。

3. 出土炭化種実からの考察

炭化物が特に多く出土する遺構や層位は、各遺跡により異なるが、炉やその周辺からの出土数が多い遺跡は比較的多い。また、炉以外で多く出土を見る場合は炭化材も住居全体に堆積しており、焼失家屋と推定される場合が多い。

1号住居だけで、エゴマを大変多く出土しているが、これはエゴマを保存していたところでなんらかの原因で利用されないまま炭化してしまったようである。

村前東A遺跡（II区）の1号住居に特に炭化種実が多く出土され、しかも出土する場所が住居内のいたるところに分散している。焼失家屋であった可能性も考えられる。また、ほかの住居を見ても、特に炉やその周辺が出土個体数が多いわけではない。

なお、板橋区の根の上遺跡では、同じ弥生時代後期に栽培植物のイネ、オオムギは出土しているが、向原遺跡ではこのほかに、アワ、キビ、エゴマも出土している。

4. 出土分類群の記載

イネ：穎果の外穎が取れた、胚乳部分を出土した。やや発泡しているものが多く、破片も少し出土している。

オオムギ：穎果の外穎が取れている、胚乳を出土した。上下が完全に残っているものはオオムギと同定したが、上下が取れて、発泡が激しいものについてはオオムギ近似種とした。

アワ：穎果の外穎がとれたものを出土した。形状が丸く、1.4mm前後、腹面の溝の形状などから、アワとした。

キビ：穎果の外穎がとれたものを出土した。1.7mmで、腹面の溝、形状などからキビであるとした。

ブドウ属：種子を出土した。心形で匙形の溝と2つの水滴形の溝がある。

マメ科：種子を出土した。一番状態のよいものでもへその部分を欠いているため、詳しい種まではわからない。

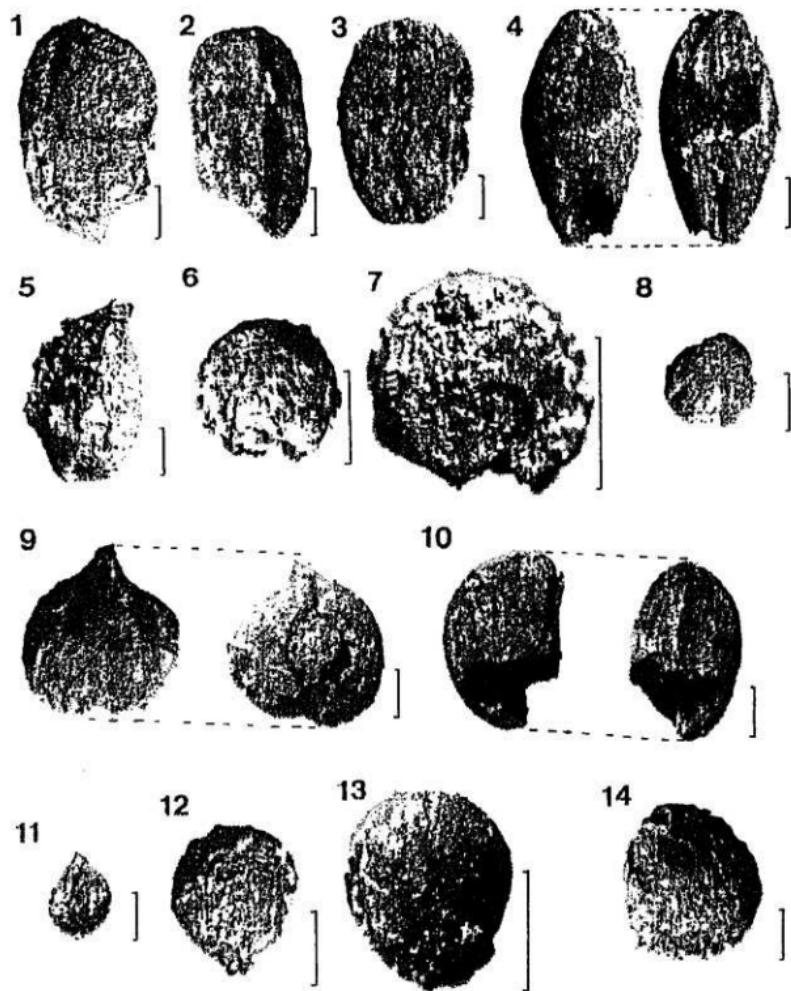
4mm前後と小さいが、多少厚いため、栽培される種類の可能性もある。

タデ属：3つの棱がはっきりしており、壁は堅くて厚いようである。1.9mm前後で、表面の保存は余りよくない

表1 村前東A遺跡（II区）の植物遺体分析結果

分類群	学名	出土地所 番号等	産出部位	1号														
				1	6	7	12	13	15	16	18	19	20	22	23	24	25	26
イネ	Oryza sativa Linn.	炉乳	1				1				1							3
オオムギ	Hordeum vulgare L.	炉乳破片	1															
オオムギ近似種	cf.Hordeum	炉乳					1											
アワ	Setaria italica Beauv.	炉乳破片	3															
キビ	Panicum miliaceum L.	炉乳						2										
ブドウ属	Vitis	種子										1						
マメ科	Leguminosae	種子							2									
タデ属	Polygonum	果実								1								
エゴマ	Perilla frutescens Britt.var.japonica	果実			8	47	1	5	3	3			1		37	8	29	
不明A	Unknown A		5	1				1		2		1						5
炭化発泡塊			5															

分類群	学名	出土地所 番号等	産出部位	1号								2号						
				炉址	炉址壙	焼土	1	3	4	5	6	9	10	18	貯藏穴	2	3	一括
イネ	Oryza sativa Linn.	炉乳	2							1		1	1		3			1
オオムギ	Hordeum vulgare L.	炉乳破片					1	3	4									1
オオムギ近似種	cf.Hordeum	炉乳																1
アワ	Setaria italica Beauv.	炉乳破片								12				1				
キビ	Panicum miliaceum L.	炉乳													1			
ブドウ属	Vitis	種子	3			11												
マメ科	Leguminosae	種子														1		
タデ属	Polygonum	果実																
エゴマ	Perilla frutescens Britt.var.japonica	果実			1	1	9	1	1	1	1		1			3		
不明A	Unknown A			8	1	2	1					2	1			5		2
炭化発泡塊																		



1. イネ、胚乳、11号住居貯蔵穴 2. イネ、胚乳、2号住居 3. イネ、胚乳、11号住居貯蔵穴、才オムギ、穎果、7号住居焼土 5. 才オムギ近似種、穎果、7号住居土壤 6. アワ、穎果腹面、13号住居焼土
7. アワ、6の背面拡大 8. キビ、穎果腹面、7号住居焼土 9. ブドウ属、種子、5号住居 10. マメ科、種子、13号住居焼土 11. タデ属、果実、13号住居 12. エゴマ、果実、1号住居焼土 13. エゴマ、果実(果皮が一部はがれている)、1号住居焼土 14. 不明A、11号住居

ため、タデ属とした。

エゴマ：果実を出土した。1.9mm前後とやや小さく、シソとの区別が難しいが、形状がシソは球形に近いのに比べて、その部分がエゴマはやや突出するような傾向にあり、縦にやや稜のようなものが発達する。また、表面の網目がシソよりやや太めで壁に張り付くようであり、網目の中がややえぐれる様な構造になっているので、エゴマと同定した。

不明A：大きさは3.2mm前後で、丸みを帯びた三角形である。果実か種子かはわからない。

炭化発泡塊：穀類か果実などのやや燃焼が進んだものと思われる。

第5節 村前東A遺跡II b・III区より出土した炭化種実

吉川純子(バレオ・ラボ)

1. 試料について

試料は村前東A遺跡のII b区及びIII区より竈、炉を中心いて採取された。試料はあらかじめ水洗篩分けされており、残査を実体顕微鏡下で観察、同定可能な炭化物を選び出し、分類群を同定、計数した。炭化種実の出土があったのは、II b区では14試料のうち7試料、III区では72試料のうち32試料であった。同定結果は表に出土部位別の個数で示した。

2. II b区出土炭化種実

ここでは出土数が少量で、竈からはイネ、コムギ、ムギ類、マメ科を出土している。貯蔵穴からはトチノキ、イネ、マメ科をわずかに出土した。炉からはイネとマメ科をわずかに出土した。また、雑草のエノキグサを1個だけ出土した。貯蔵穴から出土したトチノキとイネ、マメ科はおそらく炭化したものが堆積物の移動とともに動き、堆積したものであろう。穀類などの出土数が少量のため、時代、出土場所の比較検討はできなかった。

3. III区出土炭化種実

III区では竈からトチノキ、イネ、ムギ類、コムギ、オニグルミ、キビ近似種、アワ近似種、マメ科を出土

表1 村前東A遺跡III区出土炭化種実

試料番号	場所 271'														28
	3	4	7	9	11	20	21	22	23	24	25	26	27		
オニグルミ内果皮破片															2
トチノキ	種子破片														26
イネ	胚乳壳形														
	胚乳破片														
	胚乳塊														
コムギ	胚乳塊														1
ムギ類	胚乳塊														1
キビ近似種	胚乳塊														3
アワ近似種	胚乳塊														2
エノコログサ属	胚乳														1
イネ科	種子														1
ホタルイ属	果實														4
エノキグサ	種子														1
マメ科	種子														2
シロザ近似種	種子														1
穀類炭化塊															1

試料番号	場所 271'														貯蔵穴	271'
	29	31	34	36	41	44	45	46	47	48	49	50	52	53		
オニグルミ内果皮破片															1	
トチノキ	種子破片	9	13	1	11											
イネ	胚乳壳形															
	胚乳破片														1	
	胚乳塊															
コムギ	胚乳塊	1														1
ムギ類	胚乳塊														2	
キビ近似種	胚乳塊														1	
アワ近似種	胚乳塊														1	
エノコログサ属	胚乳														1	
イネ科	種子														1	
ホタルイ属	果實															
エノキグサ	種子															
マメ科	種子															
シロザ近似種	種子														1	
穀類炭化塊															1	

試料番号	場所 271'														貯蔵穴	271'
	29	31	34	36	41	44	45	46	47	48	49	50	52	53		
オニグルミ内果皮破片															1	
トチノキ	種子破片	9	13	1	11											
イネ	胚乳壳形														1	
	胚乳破片														1	
	胚乳塊															
コムギ	胚乳塊	1														
ムギ類	胚乳塊														2	
キビ近似種	胚乳塊														1	
アワ近似種	胚乳塊														1	
エノコログサ属	胚乳														1	
イネ科	種子														1	
ホタルイ属	果實															
エノキグサ	種子															
マメ科	種子															
シロザ近似種	種子														1	
穀類炭化塊															1	

表2 村前東A遺跡Ⅲ区出土炭化種実

場所	貯藏穴				炉
	014	015	017	018	
遺構	〃	〃	〃	019	
試料番号	55	57	61	65	66 68
オニグルミ内果皮破片		1			
トチノキ 種子破片					1
イネ 脱乳壳形		1			2
脱乳破片	2	2			
脱乳壳体					1
コムギ 脱乳壳体				2	
ムギ類 脱乳壳体			1		
キビ近似種 脱乳壳体					
アワ近似種 脱乳壳体					
エノコログサ属 脱乳					
イネ科 種子					
ホタルイ属 果実					
エノキグサ 種子	1				
マメ科 種子					1 2 3
シロザ近似種 種子	2	2	1		1 1 2
穀類炭化塊					

表3 村前東A遺跡Ⅱb区出土炭化種実

場所	貯藏穴				炉
	015	016	〃	〃	
遺構	73	74	75	77	017 020
試料番号				80	81 84
オニグルミ内果皮破片					
トチノキ 種子破片					1
イネ 脱乳壳形			1		2
脱乳破片					
脱乳壳体					1
コムギ 脱乳壳体				2	
ムギ類 脱乳壳体			1		
キビ近似種 脱乳壳体					
アワ近似種 脱乳壳体					
エノコログサ属 脱乳					
イネ科 種子					
ホタルイ属 果実					
エノキグサ 種子	1				
マメ科 種子					
シロザ近似種 種子	2	2	1		
穀類炭化塊					

し、トチノキは2遺構で量が比較的多かった。炉からはオニグルミ、イネを出土したが、少量であった。貯蔵穴からはイネ、コムギ、アワ近似種を出土したが少量である。

竈から多量に出土したトチノキは出土部位は種子の皮片で可食部分ではない。さらにトチノキは食用にするためには複雑な灰汁抜きを必要とするため、皮むき作業は屋外で行ったほうが効率的かも知れない。時々出土する竈周辺のこれらの種皮が何を意味するのかはまだはっきりしないが、むいた皮を植物燃料として持ち込んだか、皮むき作業を屋内で行ったかどちらかと考えられる。貯蔵穴から出土した穀類については、焼失家屋でない限り、IIb区と同様、堆積物の移動とともに堆積したと考えられる。

その他の雑草としてはエノコログサ属、イネ科、ホタルイ属、エノキグサ、シロザ近似種を出土した。

4. 出土分類群の記載（I・II区で出土しなかったもの）

トチノキ：種子破片を出土した。薄く堅く、多重構造になっており、表面には指紋のような微細構造が残るものもある。内部の子葉は灰汁抜き後、食用とする。

ホタルイ属：果実を出土した。2面形で側面観は上半部が広い卵形で上部先端がやや尖り、上面観は片とフレンズ形で表面には微細な網目模様がある。

マメ科：種子は丸い楕円形で厚みがあり、長さは3~4ミリであるが、焼け彫れている。大きさとしては栽培か野生か微妙な大きさであるが、現在の種類と比較すると、栽培種との雑種の可能性があるノラアズキと野生種のヤブツルアズキの中間の大きさとなる。

第6節 村前東A遺跡におけるテフラの検出

菱田 量（パレオ・ラボ）

1. はじめに

村前東A遺跡は山梨県中巨摩郡柳町に所在する。遺跡内のI区A地点およびII区Aグリッドは、シルトからシルト質砂を主体とする堆積物から構成されており、部分的にやや有機質で黒褐色がかった層もみられる。さらに、それらの層の間に砂疊層が何層か挟在している。これらの堆積層において上位から下位にかけて試料を探取し、その中に含まれるテフラ起源の火山ガラスの検出を行なう。その結果によって、肉眼では確認できないテフラの存在を明らかにし、さらにテフラの同定、対比を検討する。

2. 試料と分析方法

図1、2に示すように、I区A地点において28試料と、II区Aグリッドにおいて27試料を採取した。なお、出土遺物などから、I区A地点の5層は平安時代、10層が古墳前期とされ、II区Aグリッドでは4層が平安時代、6層が弥生時代とされている。土層記載の詳細は基本層序の項を参照されたい。

これらの試料について以下のような分析を行なう

(1) 1粒 (0.5mm :30メッシュ), 2粒 (0.25mm :60メッシュ), 3粒 (0.125mm :120メッシュ), 4粒 (0.063mm :250メッシュ) の4枚のふるいを重ね、流水下で湿式ふるい分けをする。各ふるいに残った残渣は、それぞれ乾燥・秤量を行ない、砂粒分の粒度組成として表す。

(2) 4粒の残渣(粒径 $0.125\sim 0.063\text{mm}$ の粒子)については、スライドグラス上に適宜散布して、偏光顕微鏡下で火山ガラスとその他の粒子に分類し、各試料約200個以上の粒子を同定・計数する。その結果から、鉱物組成として火山ガラスの含有量を百分率で表す。また、火山ガラスの形態については、町田・新井(1992)により、

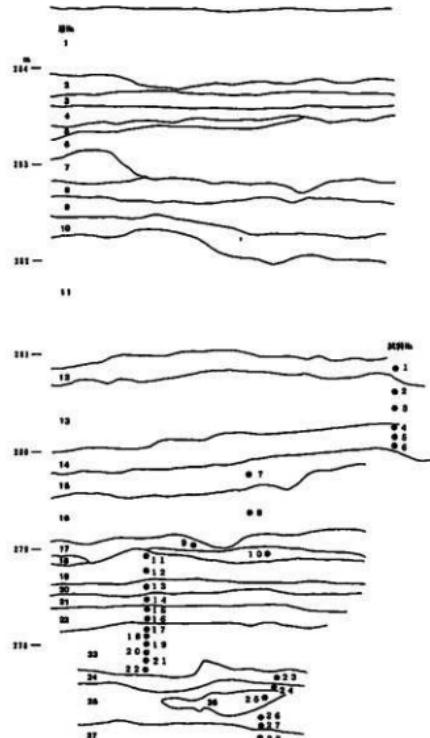


図1 試料採取位置(I区A地点)

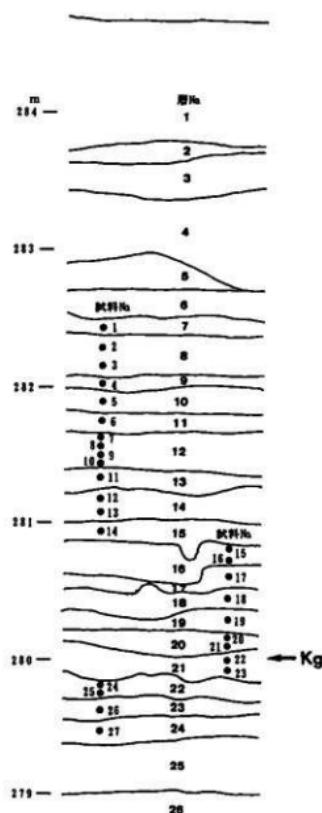


図2 試料採取地点(II区Aグリッド)

バブル型（平板状）、バブル型（Y字状）、軽石型（織維状）、軽石型（スponジ状）、急冷破碎型（フレーク状・塊状）の5種類に分類する（図3参照）。

(3) 火山ガラスが多く含まれている試料について、横山ほか（1986）の方法に従って、温度変化型屈折率測定装置（RIMS86）を用いて屈折率を測定し、その結果をrange（レンジ：範囲）で表す。

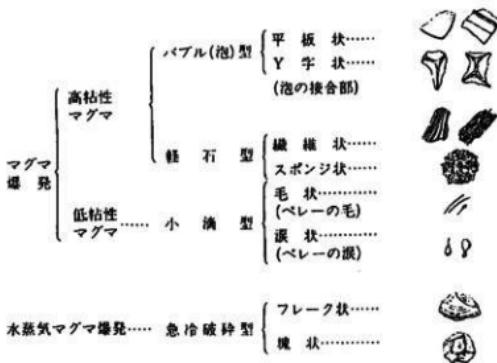


図3 火山ガラスの形態分類（町田・新井, 1992）

3. 結果（図4、5、表1、2）

I区A地点では、どの試料も火山ガラスは少なく、含まれている試料もほとんどが含有率1.0%以下である。わずかに軽石型（織維状・スponジ状）のものが全体に散在するのみで、密集する部分はみられない。II区Aグリッドでは、I区A地点と同様に火山ガラスが散在しているものの、試料No21～23（20層下部～21層）にはある程度、軽石型（織維状・スponジ状）の火山ガラスの密集が認められ、試料No22では含有率4.8%である。また、I区A地点とは異なり、試料No24（22層）以下では火山ガラスが含まれない。

また、II区Aグリッドの試料No22に含まれる火山ガラスの屈折率測定結果は、range: 1.4972–1.4999である。

4. 考 察

(1) テフラの検出

I区A地点では、火山ガラスがわずかに含まれるが、密集しているとはいえず、テフラの降灰した層準は推定するのは困難である。

一方、II区Aグリッドでは、21層（暗褐色からやや黒褐色のシルト層）に、明瞭ではないものの、軽石型の火山ガラスの密集がみられ、上位、下位の層に比較してやや多く含まれる。ここでの堆積物はシルトやシルト質砂などが主体であり、泥炭層のように静穏な堆積環境での堆積物と比較して、堆積時にある程度の水流の影響があったものと考えらる。そのため、火山ガラスが堆積物中に密集して残りにくい堆積環境であったことが推定される。以上のような状況を考慮すると、21層は火山ガラスの含有率は比較的少ないものの、他の層より火山ガラスが多く含まれることと、下位の層には含まれないことから、この層をテフラの降灰層準とみなすことができるであろう。

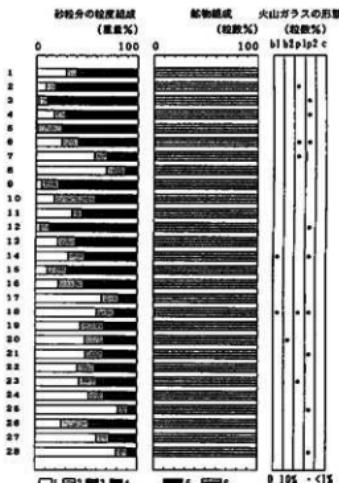


図4 村前東A遺跡I区A地点のテフラ検出結果
 1:ふるい残度 1:2 ふるい残度 1:3 ふるい残度 1:4 ふるい残度
 5:火山ガラス 6:その他の粒子
 b1:バブル型(平板状) b2:バブル型(Y字状)
 p1:軽石型(球形) p2:軽石型(スプリング状) c:急冷破砕型(塊状・ブチ状)

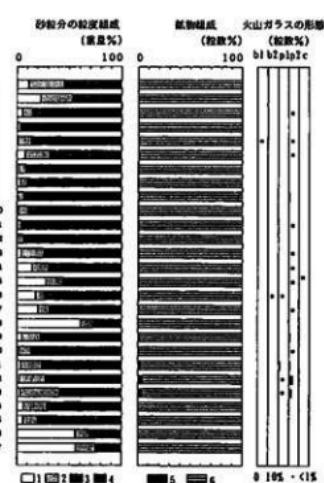


図5 村前東A遺跡II区Aグリッドのテフラ検出結果
 1:ふるい残度 1:2 ふるい残度 1:3 ふるい残度 1:4 ふるい残度
 5:火山ガラス 6:その他の粒子
 b1:バブル型(平板状) b2:バブル型(Y字状)
 p1:軽石型(球形) p2:軽石型(スプリング状) c:急冷破砕型(塊状・ブチ状)

(2) テフラの同定、対比

II区Aグリッドの21層にみられる火山ガラスは、後に述べる形態的特徴や屈折率特性、および挟在する層位から考慮すると、町田・新井（1992）などによる天城カワゴ平軽石（Kg）を起源とするものと考えられる。

町田（1980）、町田ほか（1984）、町田・新井（1992）によると、Kgの火山ガラスの形態は軽石型であり、屈折率特性はrange: 1.493–1.503, mode: 1.495–1.502である。今回、II区の21層に検出された火山ガラスは軽石型で、屈折率特性はrange: 1.4972–1.4999であることから、従来の研究成果によるKgの火山ガラスの特徴にはほぼ一致している。Kgは伊豆半島の天城山カワゴ平火口から、約2,800–2,900年前に噴出したテフラで、給源から北（微西）方へ60km以上（山中湖）、西へ120km以上（浜松）と特異な分布を示す（町田ほか、1984、町田・新井、1992など）。また、II区の21層の上位の6層が弥生時代の堆積物とされていることもKgの噴出年代と層位からみて調和的である。以上のことからII区Aグリッド21層に含まれる火山ガラスはKg起源のものと考えられる。

近年、東海地方から中部、近畿地方にかけての各地で、縄文時代後・晩期の堆積物中にガラス質のテフラが見いだされている（森ほか、1990、西田ほか、1993など）。これらの中で西田ほか（1993）はこのテフラの分布、火山ガラスの形態や屈折率特性などの岩石記載的特徴および火山ガラスの主成分組成などからKgに同定、対比されている。このようにKgは天城山より西方の地域に広域に分布し、今後山梨県内の遺跡においても多く見いだされる可能性が高く、縄文時代における年代の指標となる重要なテフラである。

5.まとめ

村前東A遺跡のI区A地点およびII区Aグリッドの堆積層の試料を用いて、テフラの検出を行なったところ、I区A地点ではほとんどテフラは検出できなかったが、II区Aグリッドでは、他の層と比較して21層中に軽石型火山ガラスがやや密集する部分が認められた。この火山ガラスは、形態的特徴と屈折率特性および、挟在する層位などから、約2,800–2,900年前に噴出した天城カワゴ平軽石（Kg）を起源とするものと考えられる。

No.	砂粒分の粒度組成 重量%				鉱物組成 粒数		火山ガラス形態分類 粒数							
	1	1phi	2phi	3phi	4phi	I	Vg	Oth	I	bl	b2	p1	p2	c
1	29.5	9.9	32.9	27.6	-	221	-	-	-	-	-	-	-	-
2	9.6	9.3	26.1	55.0	1	210	-	-	1	-	-	-	-	-
3	2.7	8.3	23.8	65.2	1	207	-	-	-	1	-	-	-	-
4	17.6	11.2	19.8	51.5	1	209	-	-	-	1	-	-	-	-
5	1.7	23.6	41.2	33.5	-	215	-	-	-	-	-	-	-	-
6	25.3	16.5	23.7	34.6	3	210	-	-	1	2	-	-	-	-
7	57.6	12.2	16.1	14.0	4	215	-	-	1	3	-	-	-	-
8	68.9	18.2	9.7	3.1	-	211	-	-	-	-	-	-	-	-
9	5.7	16.8	42.5	35.1	-	210	-	-	-	-	-	-	-	-
10	17.9	40.6	30.7	10.7	-	219	-	-	-	-	-	-	-	-
11	35.5	9.8	35.5	19.5	-	220	-	-	-	-	-	-	-	-
12	4.2	9.5	42.4	43.9	1	210	-	-	-	1	-	-	-	-
13	21.6	17.7	27.8	32.9	-	212	-	-	-	-	-	-	-	-
14	32.0	16.6	27.2	24.1	2	201	1	-	-	1	-	-	-	-
15	11.9	19.4	32.7	36.0	-	211	-	-	-	-	-	-	-	-
16	22.7	24.3	25.8	27.2	-	206	-	-	-	-	-	-	-	-
17	65.2	16.7	12.0	6.1	3	211	-	-	-	3	-	-	-	-
18	60.2	17.4	14.8	7.6	5	218	1	-	2	2	-	-	-	-
19	44.5	22.8	22.2	10.5	-	208	-	-	-	-	-	-	-	-
20	48.5	19.0	20.8	11.7	1	210	-	1	-	-	-	-	-	-
21	49.1	17.4	23.1	10.3	2	211	-	-	-	2	-	-	-	-
22	41.6	17.5	25.4	15.5	3	215	-	-	-	3	-	-	-	-
23	43.6	17.1	23.4	15.8	1	205	-	-	1	-	-	-	-	-
24	53.0	14.4	20.4	12.2	-	211	-	-	-	-	-	-	-	-
25	80.8	10.4	7.2	1.7	1	203	-	-	-	1	-	-	-	-
26	25.9	27.4	14.1	32.7	-	201	-	-	-	-	-	-	-	-
27	60.3	12.0	14.8	13.0	-	211	-	-	-	-	-	-	-	-
28	79.4	10.9	8.3	1.5	1	208	-	-	-	1	-	-	-	-

Vg:火山ガラス Oth:その他の粒子

bl:バブル型(平板状) b2:バブル型(二字状)

p1:柱石型(繊維状) p2:柱石型(スponジ状) c:急冷破砕型(塊状・フレーク状)

表1 村前東A遺跡I区A地点のテフラ検出結果一覧表

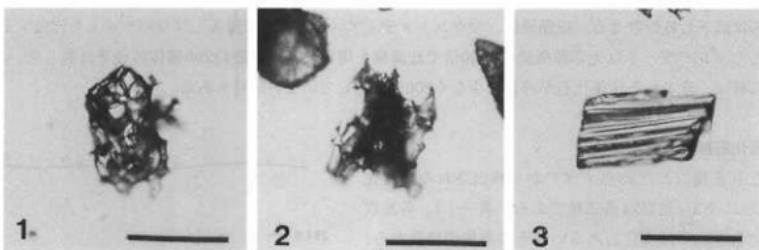
No.	砂粒分の粒度組成 重量%				鉱物組成 粒数		火山ガラス形態分類 粒数							
	1	1phi	2phi	3phi	4phi	I	Vg	Oth	I	bl	b2	p1	p2	c
1	11.5	33.4	33.9	21.1	-	210	-	-	-	-	-	-	-	-
2	22.8	30.0	28.1	19.1	-	209	-	-	-	-	-	-	-	-
3	5.4	9.7	46.0	38.9	1	211	-	-	-	-	-	-	-	-
4	0.4	2.9	43.9	52.8	-	207	-	-	-	-	-	-	-	-
5	1.1	12.7	29.9	56.2	3	210	-	-	-	2	-	-	-	-
6	7.9	23.4	48.0	20.7	2	210	-	-	-	2	-	-	-	-
7	2.2	5.9	48.5	43.4	-	208	-	-	-	-	-	-	-	-
8	3.7	6.1	43.1	47.2	-	215	-	-	-	-	-	-	-	-
9	0.8	5.5	44.6	49.0	3	213	-	-	-	-	-	3	-	-
10	1.6	9.3	37.9	51.3	-	206	-	-	-	-	-	-	-	-
11	0.2	3.9	40.8	55.1	1	212	-	-	-	-	-	1	-	-
12	0.4	5.6	34.7	59.3	-	205	-	-	-	-	-	-	-	-
13	4.1	22.0	33.0	40.9	2	201	-	-	-	-	-	2	-	-
14	14.8	15.6	35.6	34.0	1	202	-	-	-	-	-	1	-	-
15	28.0	15.9	27.7	28.2	1	214	-	-	-	-	-	1	-	-
16	18.0	8.7	30.9	42.4	2	211	-	1	1	-	-	-	-	-
17	20.3	10.4	29.4	39.1	1	204	-	-	-	-	-	1	-	-
18	60.8	12.0	22.8	4.4	-	210	-	-	-	-	-	-	-	-
19	4.8	17.8	56.7	20.7	3	200	-	-	-	-	-	3	-	-
20	1.9	11.6	35.6	50.1	1	209	-	-	-	-	-	1	-	-
21	3.9	19.7	49.6	26.6	6	201	-	-	3	3	-	-	-	-
22	2.6	24.8	38.1	34.8	10	210	-	-	-	1	9	-	-	-
23	3.5	37.1	34.7	24.7	8	207	-	-	2	6	-	-	-	-
24	6.3	22.4	28.4	42.9	-	210	-	-	-	-	-	-	-	-
25	6.0	13.8	29.4	50.7	-	208	-	-	-	-	-	-	-	-
26	55.5	14.0	18.7	11.8	-	221	-	-	-	-	-	-	-	-
27	55.9	15.9	16.5	8.8	-	211	-	-	-	-	-	-	-	-

Vg:火山ガラス Oth:その他の粒子

bl:バブル型(平板状) b2:バブル型(二字状)

p1:柱石型(繊維状) p2:柱石型(スponジ状) c:急冷破砕型(塊状・フレーク状)

表2 村前東A遺跡II区Aグリッドのテフラ検出結果一覧表



図版 堆積物中の火山ガラス (スケール: 0.1mm)

1: 軽石型 (スponジ状) 火山ガラス 2: 軽石型 (スponジ状) 火山ガラス 3: 軽石型 (繊維状) 火山ガラス

引用文献

- 町田 洋 (1980) 富士テフラと古代遺跡、考古学ジャーナル、178: 2-11.
- 町田 洋・新井房夫・小田静夫・渡藤邦彦・杉原重夫 (1984) テフラと日本考古学—考古学研究と関係するテフラのカタログー、「古文化財の自然科学的研究」: 865-928. 同朋舎出版。
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 「火山灰アトラス—日本列島とその周辺」, 276p. 東京大学出版会。
- 森 勇一・伊藤隆彦・宮田英嗣 (1990) 愛知県町田・松河戸遺跡から発見された縄文時代後・晩期の境界付近に位置する火山灰層について、第四紀研究、29: 17-23
- 西田史朗・高橋 豊・竹村恵二・石田志朗・前田保夫 (1993) 近畿地方へ東から飛んできた縄文時代後・晩期火山灰層の発見。第四紀研究、32: 129-138
- 横山卓雄・櫻原 徹・山下 遼 (1986) 温度変化型屈折率測定装置による火山ガラスの屈折率測定、第四紀研究、25: 21-30.

第7節 珪藻分析

藤根 久

1. はじめに

珪藻は、10~500 μm ほどの珪酸質殻を持つ单細胞藻類で、殻の形やこれに刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられている。また、現生の生態から特定環境を指標する珪藻種群も設定されている（小杉、1988；安藤、1990）。一般的に、珪藻の生育域は海水域から淡水域までと広範囲に及び、中には河川や沼地あるいは池などの水成環境以外の陸地においてもわずかな水分が供給される環境、例えばコケの表面や湿った岩石の表面などで生育する珪藻種も知られている（小杉、1986）。こうした珪藻種あるいは珪藻群集の性質から、過去の堆積物中の珪藻化石の解析から、遺跡を埋積する堆積物の堆積環境について知ることが可能である。

村前東A遺跡（II区）の堆積物を対象に、含まれる珪藻化石を調べ、珪藻化石種あるいは珪藻化石群集の特徴から堆積環境の推定を行う。

2. 試料と処理方法

試料は、村前東A遺跡（II区）のNoA1からNoA18までの14点である（第1図）。

(1). 試料から湿润重量約1g程度を取り出し、計量した後ビーカーに移し、30%過酸化水素を加え、加热・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行う。(2). 反応終了後水を加え、1時間程してから上澄み液を除去し、コロイド分を捨てる。この作業を上澄み液が透明になるまで繰り返す(7回程度)。(3). ビーカーに

残った残渣は、遠心管に細粒分のみ回収する。(4)マイクロビペットを用いて遠心管から適量を取り、カバーガラスに滴下し乾燥させる。乾燥後は、マウントメディア(封入剤)で封入しプレパラートを作成する。

作成したプレパラートは光学顕微鏡下1000倍で珪藻種を同定し、珪藻殻約200個体前後を計数した。ただし、一部の試料は、含まれる珪藻化石が非常に少なく200個に達していない試料もある。

3. 硅藻化石群集と堆積環境

珪藻化石を検討した13点すべてから検出される珪藻化石分類群は、83分類群24属65種である(表-1)。各地点ごとに、含まれる珪藻化石あるいはその群集の特徴から、5帯に分帶される。以下に、各地点ごとに珪藻化石およびその群集の特徴について述べ、推定される堆積環境について詳述する。

I 帯

全体としては底生種の占める割合が高いが、浮遊生種をある程度伴う。優占種としては、数々の生育地に分布する広布種の *Coccconeisplacentula* が約50%前後出現し、また同様の *Syndraulina* や *Melosira* 属などが随伴している。このことから、特定の環境を指標する珪藻種は少ないが、少なくとも浮遊生珪藻が生育する程度に水深のある環境が予想される。

II 帯

I 帯で優占して出現した *Coccconeisplacentula* は大きく減少し、他の底生種などが多くなる。環境的には I 帯と大きくは変わるものではないが、下位 I 帯と上位 III 帯の漸移帯と位置づけられる。

III 帯

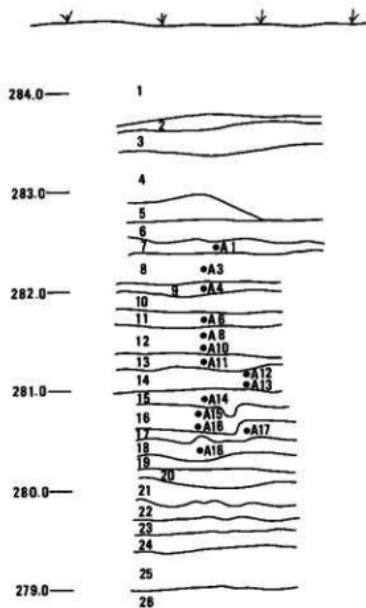
全体としては底生種により構成されている。特徴的な種としては安藤(1990)が設定した沼沢湿地付着生種群主要構成種の *Pinnulariaviridis* が高率で出現し、他に同種群の *Neidiumiridis* や *Pinnulariagibba* あるいは *Pinnulariaacrospherica* などが随伴する。堆積物が未分解質あるいは弱分解質の草本質泥炭から構成されることから湿地環境が推定される。

IV 帯

全体としては III 帯と同様、底生種により構成される。III 帯に比べ沼沢湿地付着生種の *Pinnulariaviridis* などは低率で、これに代わり広布種の *Diploneiovalis* や *Rhopalodiagibberula* あるいは *Diploneisyatukaensis* などが比較的高率で出現している。広布種の占める割合が高いため特定はできないが、沼沢地の要素を示すものと思われる。

V 帯

いずれの試料も珪藻殻は200個に満たないが、全体としては底生種が多く、陸生珪藻と呼ばれる一群も随伴する。この陸生珪藻とは、沼地や池などの水域ではなくジメジメした土壤表面などの環境に生育する好気的環境に生育する種群である。これら陸生珪藻を含め水域に見られる底生種が出現することから、多少とも水域を持つジメジメした環境が推定される。

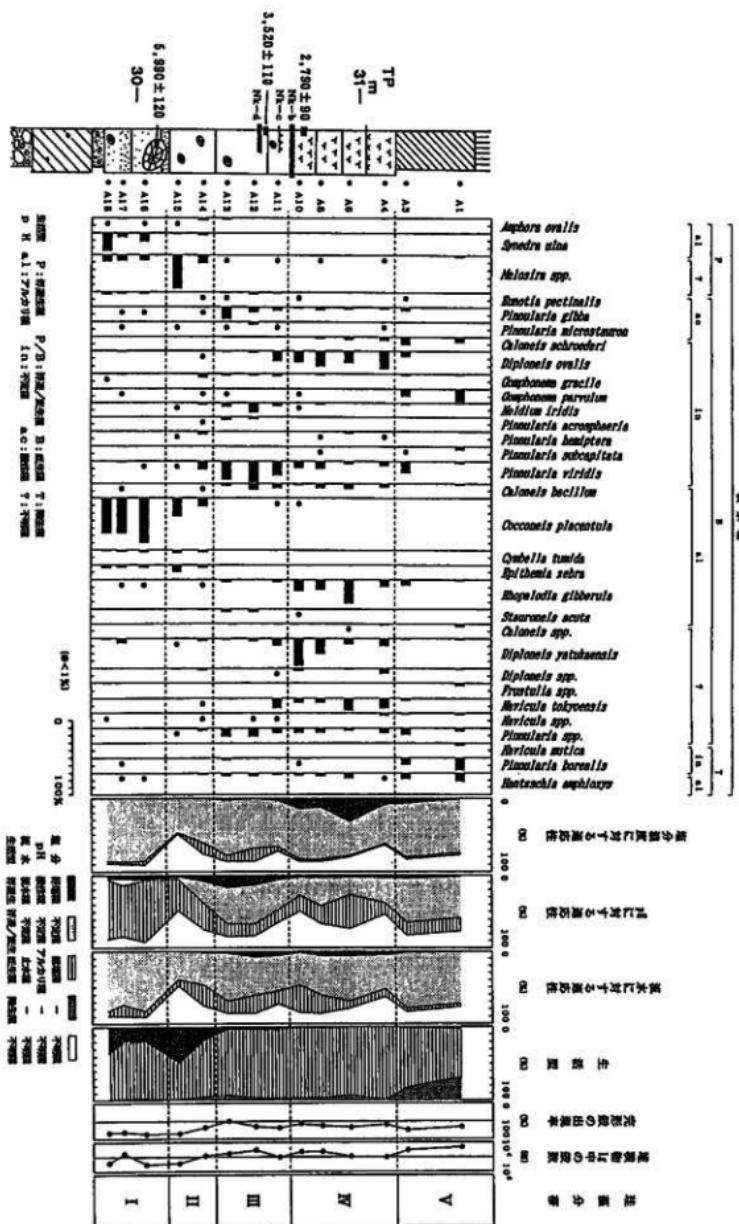


第1図 II区Aグリッド珪藻分析試料採取地点

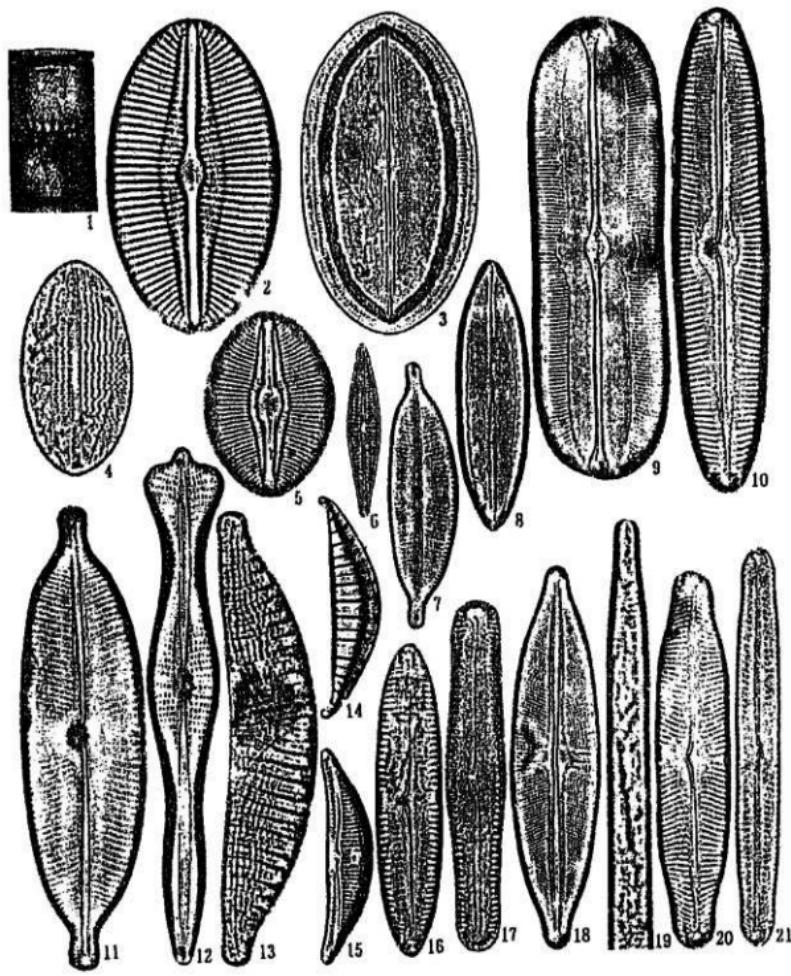
凡例 (適応性)

堆分部度	pH	液水	生産型
X : 混水層	acid	酸性層	F : 混合生種
-X : 酸-水汽層	Ind	不定層	F : 混合生種/底生種
J : 水汽層	Alta	アルカリ層	M : 底生種
-J : 混水-水汽層	T	不明層	T : 不明層
J-# : 混水-底層	-	-	-
J-# : 混水-不明層	-	-	-

表1 村前裏A遺跡（Ⅱ区）の珪藻化石産出表



第2図 村前東A遺跡（II区）の珪藻化石分布図



1. *Melosira italica* (A-15) 2. *Diploneis finnica* (A-15) 3. *Coccconeis placentula* (A-16)
 4. *Coccconeis placentula* (A-15) 5. *Diploneis ovalis* (A-15) 6. *Gomphonema gracile* (A-15)
 7. *Cymbella naviculiformis* (A-15) 8. *Neidium iridis* (A-15) 9. *Navicula americana* (A-15)
 10. *Pinnularia viridis* (A-15) 11. *Cymbella cuspidata* (A-15) 12. *Gomphonema acuminatum* (A-15)
 13. *Epthemia turgida* (A-15) 14. *Rhopalodia gibberula* (A-15) 15. *Amphora ovalis* var. *libyca* (A-15)
 16. *Pinnularia viridis* (A-15) 17. *Pinnularia acrosphaeria* (A-13) 18. *Stauroneis phoenicenteron* (A-13)
 19. *Synedra ulna* (A-15) 20. *Pinnularia microstauron* (A-12) 21. *Pinnularia gibba* (A-13)

引用文献

- 安藤一男 (1990) : 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, p73-88.
小杉正人 (1986) : 疣生珪藻による古環境の解析とその意義. -わが国への導入とその展望-、植生史研究, p29-44.
小杉正人 (1988) : 硅藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用. 第四紀研究, p1-20.

第8節 村前東A遺跡出土土師器の胎土分析

帝京大学山梨文化財研究所 河西 学

1.はじめに

村前東A遺跡は、甲府盆地西部に広がる御動使川扇状地扇央部に位置する。本遺跡では、古墳時代前期のS字状口縁台付甕（以下S字甕）や同時期の土師器などが多く出土している。甲府盆地内でのS字甕は、蘿崎市伊藤窪第2遺跡や北巨摩郡須玉町塙川遺跡などにおいてわずかな胎土分析事例が報告されている（河西,1991,1992a）。今回村前東A遺跡において出土したS字甕や同時期の土師器を対象として产地推定目的の胎土分析を行う機会を得たので、以下に報告する。

2.試料

分析試料を第1表・第1図に示す。

第1表 試料表

3.分析方法

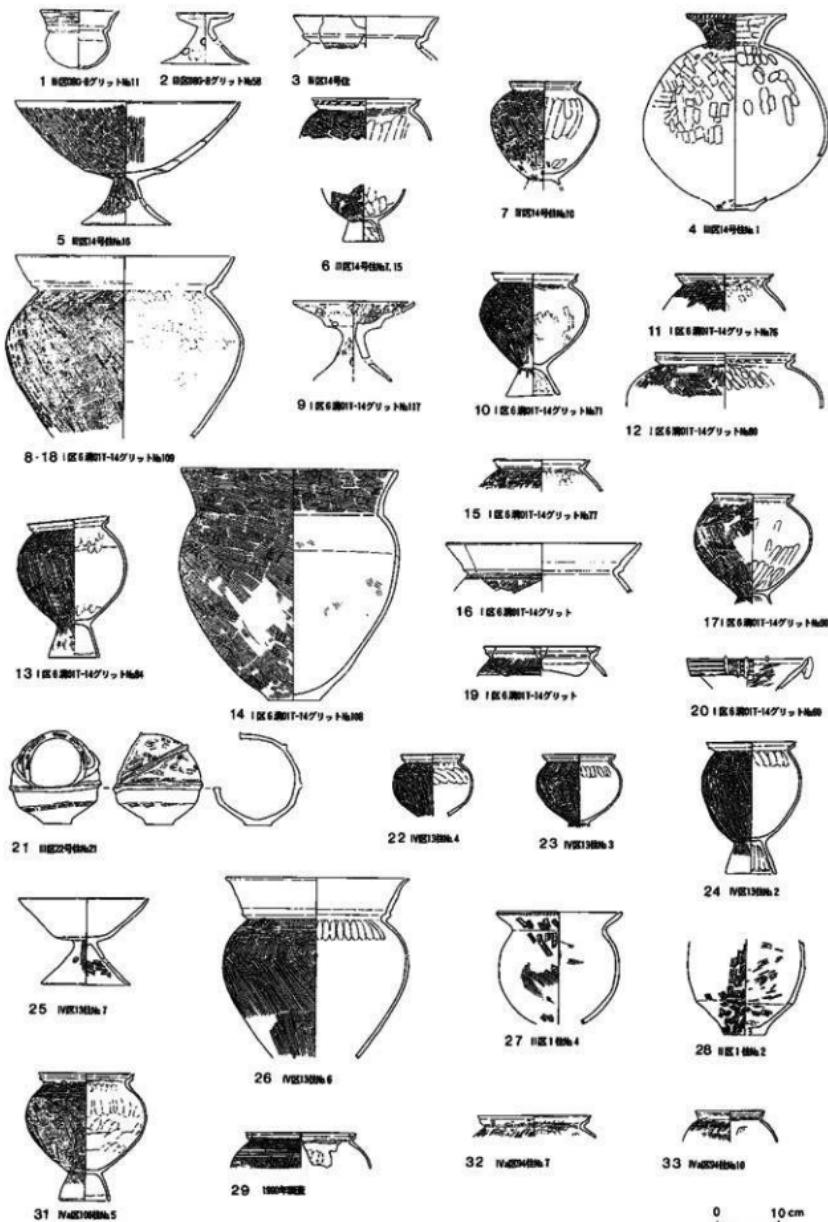
土器試料は、以下の方法で薄片を作製した。土器試料は、切断機で3×2.5cm程度の大きさに切断し、残りの試料は保存した。脆弱な試料はエボキシ樹脂を含浸させて補強し、岩石薄片と同じ要領で土器の器壁に平行する薄片を作製した。さらにフッ化水素酸蒸気でエッチングし、コバルチ亞硝酸ナトリウム飽和溶液に浸してカリ長石を黄色に染色しプレパラートとした。次に以下の方法で岩石鉱物成分のモード分析を行なった。偏光顕微鏡下において、ポイントカウンタを用い、ステージの移動ピッチを薄片長辺方向に0.33mm、同短辺方向に0.40mmとし、各薄片で2,000ポイントを計測する。計数対象は、粒径0.05mm以上の岩石鉱物粒子、およびこれより細粒のマトリックス（“粘土”）部分とし、植物珪酸体はすべてマトリックスに含める。

4.分析結果

分析結果を第2表に示す。試料全体の砂粒子・赤褐色粒子・マトリックスの割合（粒子構成）、および砂粒子の岩石鉱物組成および重鉱物組成を第2図に示す。重鉱物組成では右側に基数を表示した。

変質火山岩類（含“緑色火山岩類”）・玄武岩・安山岩・アライサイト¹⁾・花崗岩類・変成岩類（含ホルンフェルス）・砂岩・泥岩・珪質岩・炭酸塩岩のポイント数の

分析番号	出土地点	遺物番号	器種
No.1	村Ⅲ08G08	6461	北陸系鉢
No.2	村Ⅲ08G08	6458	甕
No.3	村ⅢSI014	6453	山陰系甕
No.4	村ⅢSI014	7631	甕
No.5	村ⅢSI014	7268	高壺
No.6	村ⅢSI014	7630	S字甕A類
No.7	村ⅢSI014	6460	S字甕
No.8	村Ⅰ01T14	10632	山陰系甕
No.9	村Ⅰ01T14	10253	北陸系有透器台
No.10	村Ⅰ01T14	10469	S字甕B
No.11	村Ⅰ01T14	10334	S字甕C
No.12	村Ⅰ(01T14)	10396	S字甕
No.13	村Ⅰ01T14	10639	S字甕
No.14	村Ⅰ01T14	10460	大型甕
No.15	村Ⅰ01T14	10370	S字甕
No.16	村Ⅰ01S13	10056	山陰系甕
No.17	村Ⅰ01T14	10476	S字甕B
No.18	村Ⅰ01T14	10632	山陰系甕
No.19	村Ⅰ01T14	10472	S字甕
No.20	村Ⅰ01T14	10464	甕
No.21	村ⅢSI022	8079	手あぶり
No.22	村IVSI013	3770	S字甕
No.23	村IVSI013	3774	S字甕
No.24	村IVSI013	3771	S字甕
No.25	村IVSI013	3768	高壺
No.26	村IVSI013	3768	山陰系甕
No.27	村ⅡSI001	18	甕
No.28	村ⅡSI001	57	甕（在地甕）
No.29	村A18-4		S字甕
No.30	粘土採取坑		
No.31	村IVsSI094	6128	S字甕
No.32	村IVsSI094	5322	S字甕
No.33	村IVsSI094	5334-5365	通尾平野系S字甕



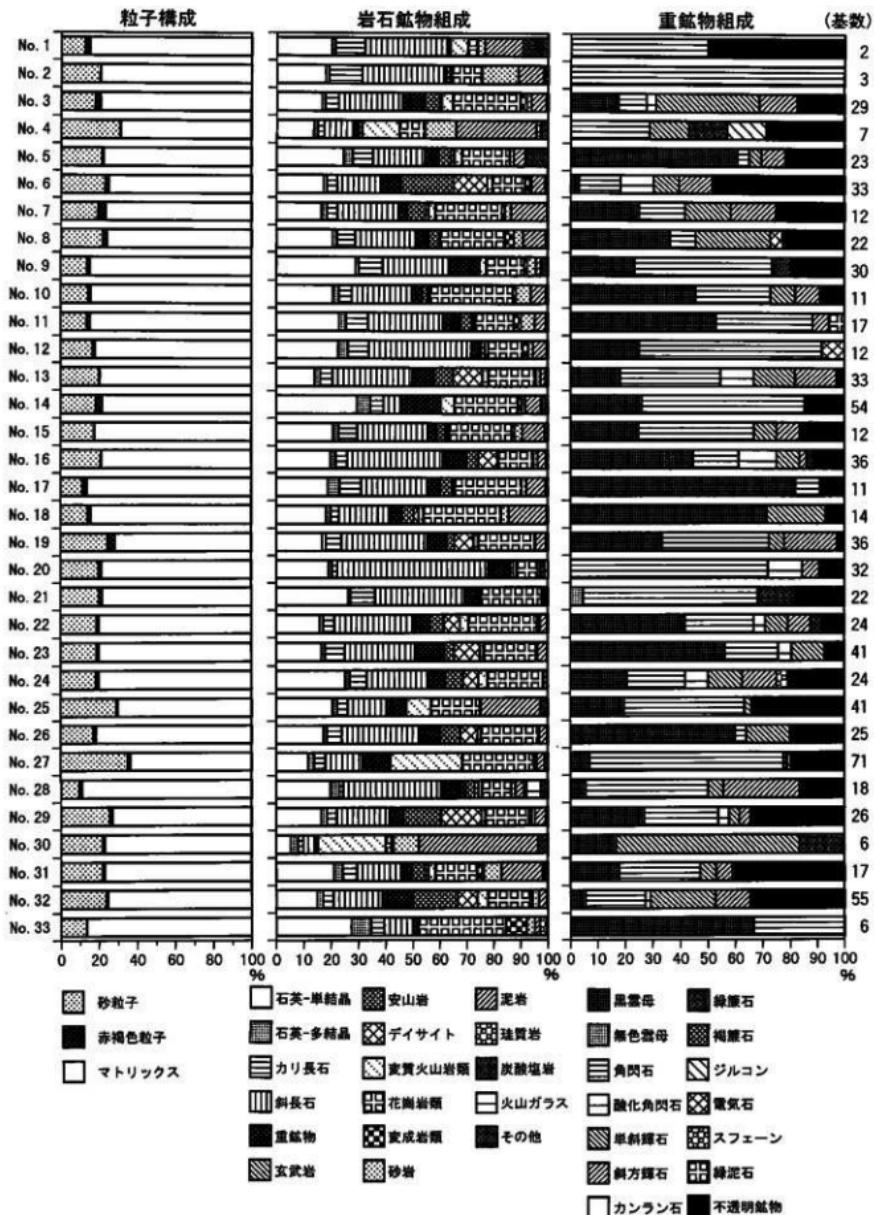
第1図 胎土分析試料

第2表 土器胎土中の岩石鉱物（数字はポイント数を、+は計数以外の検出を示す）

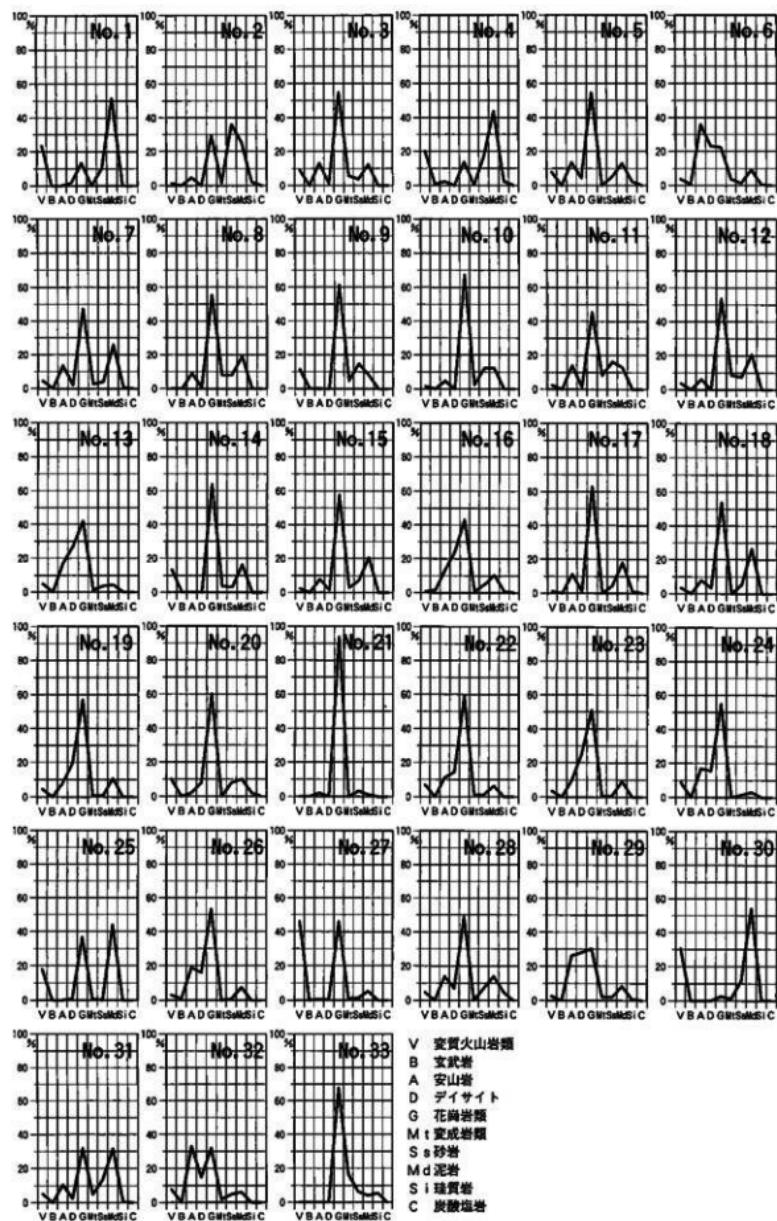
試料番号	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13	No.14	No.15	No.16	No.17	No.18	No.19	No.20	No.21	No.22	No.23	No.24	No.25	No.26	No.27	No.28	No.29	No.30	No.31	No.32	No.33					
石灰岩類晶	50	73	59	84	106	80	63	90	79	59	62	76	56	108	73	83	42	51	62	74	105	59	62	92	113	59	81	38	82	23	92	71	74					
石英閃石																																						
石英多結晶	3	5	4	9	14	5	8	7	3	6	7	12	8	18	7	8	10	5	7	5	3	5	5	6	10	4	15	6	11	12	14	10	19					
カリ長石	27	49	16	15	32	18	15	29	24	14	22	26	18	18	24	17	18	9	28	8	36	16	27	23	22	19	29	3	18	8	23	18	13					
鈣長石	75	123	84	67	82	74	86	97	67	83	75	127	117	24	91	148	55	59	154	220	132	109	77	93	82	98	93	69	99	17	71	85	26					
雲母石																																						
無色雲母																																						
角閃石	1	3	3	2	1	5	2	2	15	3	6	8	12	32	5	6	1	14	23	14	6	8	5	18	1	50	8	7	5	12	2							
矽化角閃石	+																																					
單斜輝石		11	1	1	3	2	6	1	+	5	1	3	3	3	2																							
斜方輝石		4	2	4	2				1	1	5		1	1																								
カシオペ石	+																																					
綠泥石		1	1			2																																
褐葉石	+																																					
ジルコン	+		1	+	+																																	
ツバコ石																																						
透氣石																																						
スファーン																																						
絆泥石																																						
雲母片岩																																						
不透明鉱物	1		5	2	5	16	3	5	6	1			1	8	2	4	1	1	1	3	4	2	3	5	14	5	14	3	9	1	7	19						
玄武岩																																						
安山岩	7	21	9	19	90	27	17			6	12	5	28		11	17	10	12	14	1	2	18	14	23	26	2	6	71		22	77							
デイサイト	1	2			6	58	4	1		1		44		2	30	1	5	35	4	23	36	21	2	22	1	3	76		5	35								
安質火成岩類	16	2	15	2	11	9	9	7	2	3	8	18	3	1	1	5	8	5	11	5	12	52	4	185	2	6	7	8	18									
「緑色火山岩類」		83																																				
花崗岩類	9	44	69	58	77	56	95	105	38	88	39	44	69	87	81	54	56	82	103	30	90	98	73	75	106	73	185	21	82	9	68	75	87					
ヘルツェルフェルス	1	3	1	7	5	14	3	3	6	6	2	3	3	1		1								1	2	3	6	4	9	4	21							
安質岩類		1	6		2		1		1		2	1																										
砂岩	7	54	6	72	7	3	8	15	9	16	14	6	6	4	10	6	4	8	1	4	3	2	1	21	1	5	3	5	41	29	11	6						
泥岩	35	38	20	184	18	23	56	52	36	5	16	11	17	7	22	29	13	16	40	19	5	1	10	13	4	127	10	21	6	22	193	67	14	5				
透質岩	3		10	3	1	1																																
雲母岩																																						
火山ガラス-無色			2	1	1			1																														
火山ガラス-褐色																																						
安質岩	21	3			1	1	3	4	1	1	4	1	1	1	2										5	1	5		2	2								
安質鉱物	2	1	2	14	30	2		1	2	1	1	1	3	5	3	1	1	1	1	3	1	11	3	5	1	14	3	1	1									
その他			1	1																																		
赤褐色粒子	54	13	59	9	19	41	87	44	34	29	38	27	13	69	7	12	47	33	80	34	33	23	33	23	27	32	37	35	27	24	23	4						
マトリックス	1698	1580	1583	1370	1550	1494	1528	1518	1594	1685	1691	1537	1587	1564	1642	1569	1727	1683	1429	1571	1568	1601	1601	1398	1630	1269	1771	1456	1535	1539	1502	1727						
含石	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000	2000					
石英透視光沢	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+				
石英透明白																																						
石英透深																																						
パーサイト	+	+	1	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
マイクロクリリン	+		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
マイクロアゲート																																						
花崗岩含有鉱物	B	H	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	M	M	H	H	B	M	B	B	B	B	B	B	B	B	B				
ミルクタイト																																						
安質火成岩	AD	D	AD	AB	AD	AD	AD	AD	AD	AD	AD	AD	AD	AD	AD	AD	AD	AD	AD	AD	AD	AD	AD	AD	AD	AD	AD	AD	AD	AD	AD	AB	AD	AD				
植物遺体	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		
植物遺体	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		
放射性化石																																						

花崗岩含有鉱物：B 黄色雲母、H 角閃石、M 黑色雲母

安質火山岩類：A 安山岩 B 安山岩 D デイサイト質、複数組成の場合は両者を含む広範囲の組成を示す。



第2図 土器胎土の岩石鉱物組成



第3図 岩石組成折れ線グラフ

第3表 岩石組成折れ線グラフによる土器の分類

分類	折れ線グラフの特徴	試料番号	
V-g群	変質火山岩類の第1ピーク	花崗岩類の第2ピーク	27
A-d群	安山岩の第1ピーク	デイサイトの第2ピーク	6
A-g群		花崗岩類の第2ピーク	32
G群	花崗岩類の第1ピーク	顕著な第1ピーク	21
G-a群		安山岩の第2ピーク	3, 5, 24, 26, 28
G-d群		デイサイトの第2ピーク	13, 16, 19, 22, 23, 29
G-mt群		変成岩類の第2ピーク	33
G-ss群		砂岩の第2ピーク	9, 10, 11
G-md群		泥岩の第2ピーク	7, 8, 12, 14, 15, 17, 18, 20, 31
SS-g群	砂岩の第1ピーク	花崗岩類の第2ピーク	2
MD-v群	泥岩の第1ピーク	変質火山岩類の第2ピーク	1, 4, 30
MD-g群		花崗岩類の第2ピーク	25

総数を基数とし、各岩石の構成比を折れ線グラフに示した（第3図）。折れ線グラフのピークに基づいて土器を便宜的に分類した（第3表）。

折れ線グラフと同様の10種の岩石データを用い、比較のために甲府盆地および八ヶ岳南麓地域の河川砂、並崎市伊藤窪第2遺跡、須玉町塙川遺跡出土のS字型などの分析結果を踏まえクラスター分析を行った（第4図）（河西ほか、1989；河西、1989, 1991, 1992a）。クラスター分析での非類似度は、ユークリッド平方距離を用い、最短距離法によって算出した。第4図のクラスター群の呼称は河川砂の地域的特徴を示すため河西（1992b）と同様にした。

第3表の分類に従って胎土の特徴と推定产地について以下に述べる。なお胎土分析による以下の产地推定においては、村前東A遺跡の位置する御動使川扇状地および同様に緑色の変質火山岩類で特徴づけられる新第三系を後背地質をもつ巨摩山地・御坂山地・甲府市北部の関東山地の一部などの周辺地域を在地的範囲ととらえ、他の異なる地質的特徴を示す地域を产地と推定される土器を搬入土器と呼ぶことにする。

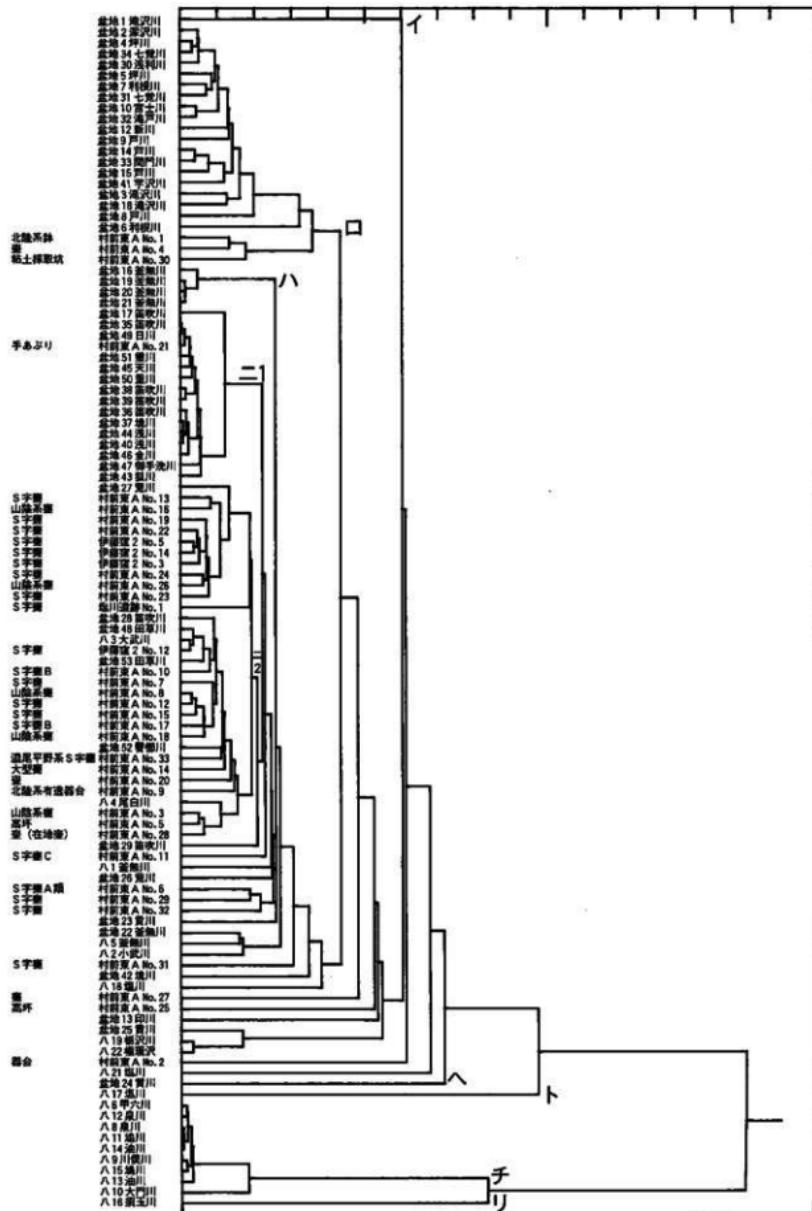
V-g群（No27）

No27は、粒子構成に占める砂の含有率（以下含砂率）が35.0%と全試料中もっとも高率で、赤褐色粒子が1.6%を示す。岩石鉱物組成では変質火山岩類（26.5%）・花崗岩類（25.6%）が極めて多く、石英（13.7%）・斜長石（13.3%）・重鉱物（10.2%）・泥岩などを伴う。重鉱物組成では、角閃石（70%）が主体で不透明鉱物・黒雲母が伴う。第4図では他の河川砂や土器試料と類似性がありみられず単独で存在している。遺跡内の粘土採取坑試料No30との類似性が認められないことから花崗岩類と変質火山岩類が分布する地域からの搬入土器としてとらえられるが、產地候補は示し得ない。

A-d群（No6）・A-g群（No32）

試料No32はS字型である。今回No33とともに土器口縁部の縦断面の薄片製作と観察を試みた（第5図）。第5図1aは、極細粒～極粗粒砂の多様な粒径の砂が多量に含有され、器壁に平行な柳葉状の割れが顕著に発達する。また頸部の屈曲部を中心として同心円状に割れ目が顕著に発達していて、中心に近い小さな同心円状割れ目は外側に対し高角度で斜交している。第5図1bは、第5図1aの柳葉状割れの分布から認められる直線状の特徴（リニアメント）であり、各線の口縁部側の胎土が土器の内側に相対的にずれていることを示す。これらの直線状の特徴は、可塑性をもつ胎土原料に対する製作時の人為作用とそれに反応した胎土側の挙動の痕跡を反映しているものと考えられる。なお口縁部から2番目のリニアメントは、胎土の接合時の境界面を示している可能性が高いと考えられる。

No.6, 32は、含砂率が23.3～23.8%、赤褐色粒子が1.2～2.1%を占める。岩石鉱物組成では、斜長石（15.9～17.9%）・石英（17.1～18.3%）・安山岩（16.2～19.4%）・デイサイト（7.4～12.5%）・花崗岩類（12.0～15.8%）などを主体とし、泥岩を伴う。重鉱物組成は、不透明鉱物（35～49%）・角閃石（15～22%）・单斜輝石（9～24%）・斜方輝石などから構成され、酸化角閃石・黒雲母を伴う。第4図では、No29とともに小クラスターを形成し、直



第4図 山梨県河川砂と土器のクラスター分析樹形図

接的な融合ではないものの荒川・賀川など荒川水系の河川砂と類似する傾向がある。甲府盆地においては花崗岩類・ディサイト・安山岩・酸化角閃石などで特徴づけられる黒富士・茅ヶ岳山麓を流域にもつ荒川・塩川地域などが産地として可能性が高いと推定される。

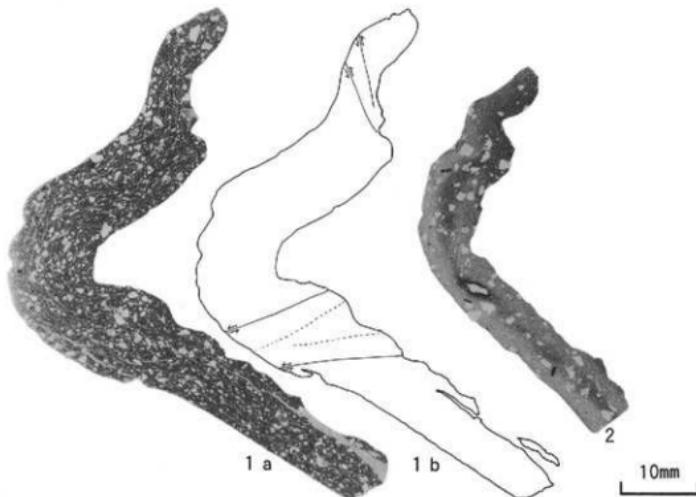
G群 (No21)

No21は、含砂率が20.0%、赤褐色粒子が1.7%である。岩石鉱物組成では石英(27.1%)・斜長石(33.1%)・カリ長石(9.0%)のはか、花崗岩類(22.6%)・重鉱物(5.5%)などから主に構成される。重鉱物組成では、角閃石(64%)が主体をなし、不透明鉱物・緑簾石・無色雲母などを伴う。第4図で笛吹川とその支流の河川砂とともにクラスターIを形成している。明らかに花崗岩類地域からの搬入土器であると考えられる。甲府盆地内であれば、笛吹川流域などが有力である。ただし花崗岩類を構成する鉱物としては、無色雲母が含まれており、黒雲母が認められないことから、甲府盆地以外の花崗岩類に由来する可能性も低くないものと推定される。

G-a群 (Nos.3,5,24,26,28)

Nos.3,5,28は、含砂率が9.6~21.6%、赤褐色粒子が1.0~3.0%を占める。岩石鉱物組成では、斜長石(19.0~35.9%)・石英(17.6~27.8%)・花崗岩類(10.9~24.9%)・安山岩(3.1~5.9%)などを主体とし、泥岩・変質火山岩類などを伴う。重鉱物組成は、黒雲母・角閃石・單斜輝石・斜方輝石・不透明鉱物などから構成されるが試料ごとに比率が異なる。Nos.3,5,28は、第4図において尾白川河川砂とともにクラスターI中の小クラスターを形成している。尾白川を含めた釜無川地域などに産地が推定される。

Nos.24,26は、含砂率が17.2~18.3%、赤褐色粒子が1.4~1.7%を占める。岩石鉱物組成では、斜長石(22.7~28.6%)・石英(18.4~26.8%)・花崗岩類(20.5~21.3%)・安山岩(6.3~7.6%)・ディサイト(5.7~6.4%)などを主体とし、泥岩・変質火山岩類などを伴う。重鉱物組成は試料ごとに異なり、No24が黒雲母・角閃石・酸化角閃石・單斜輝石・斜方輝石・不透明鉱物などから構成されるのに対し、No26は黒雲母が主体で單斜輝石・角閃石・不透明鉱物などを伴う組成を示す。Nos.24, 26は、第4図において、村前東A遺跡Nos.13,16,19,22,23、塩川遺跡No1、伊藤窪第2遺跡Nos.3,5,14、および長瀬橋付近の荒川河川砂とともにクラスターI内の小クラスターを形成している。伊藤窪第2遺跡Nos.3,5,14は、荒川・塩川地域を中心に釜無川を含めた地域に産地が推定されている（河西、1991）。塩川遺跡No1は、花崗岩類とディサイトの存在から在地的と推定されるが、同様な



第5図 S字型の断面写真 (1 : No32、2 : No33)

地質を示す他地域からの搬入の可能性も残されるとされる。これらのことから荒川・塩川地域を中心とする地域が産地として可能性があり、さらに同様な地質を示す他地域からの搬入についても考慮する必要がありそうである。

G-d群 (Nos.13,16,19,22,23,29)

Nos.13,16,19,22,23は、含砂率が18.8~24.6%、赤褐色粒子が0.6~4.0%を占める。岩石鉱物組成では、斜長石(25.8~35.3%)・石英(16.0~21.7%)・花崗岩類(12.9~25.5%)・ディサイト(6.1~11.0%)・安山岩(2.9~7.0%)などを主体とし、泥岩を伴う。重鉱物組成は、黒雲母(18~56%)・角閃石(17~39%)から主として構成され、酸化角閃石・単斜輝石・斜方輝石・不透明鉱物などを伴う。第4図では、村前東A遺跡Nos.24,26、塩川遺跡No1、伊藤窪第2遺跡Nos.3,5,14、および長澤橋付近の荒川河川砂とともにクラスター2内の小クラスターを形成している。Nos.24,26と同様な産地が推定される。

Nos.29は、含砂率が25.5%、赤褐色粒子が1.8%を占める。岩石鉱物組成では、斜長石(19.5%)・石英(18.5%)・花崗岩類(16.1%)・ディサイト(14.9%)・安山岩(13.9%)などを主体とし、泥岩を伴う。重鉱物組成は、不透明鉱物(35%)・角閃石(27%)・黒雲母(27%)から主として構成され、酸化角閃石・単斜輝石・斜方輝石などを伴う。第4図では、Nos.6,32とともに小クラスターを形成し、また直接的な融合ではないものの荒川・貢川など荒川水系の河川砂との類似する傾向がある。甲府盆地において花崗岩類・ディサイト・安山岩・酸化角閃石などで特徴づけられる地域は、黒富士・茅ヶ岳山麓地域が挙げられる。これらを流域にもつ荒川・塩川地域が産地として可能性が高いと推定される。

G-mt群 (No33)

No33は、濃尾平野系S字壇とされる試料で、砂粒子以外のマトリックス部分は極めて細粒緻密な粘土質から構成され、他のS字壇胎土とは明瞭に異なっている。今回土器口縁部の縦断面の薄片製作と観察を試みた(第5図2)。胎土は、粘土分主体の細粒緻密なマトリックスと粗粒~極粗粒砂とからなり、含砂率も低く、断面中央部が帯状に暗色を呈するサンドイッチ構造が認められるが、胎土の収縮による割れは極めて少ない。これらの胎土組織の特徴はNo32とは明らかに異なっていることがわかる。なおNo32で観察されたリニアメントが認めにくいのは胎土の物質的特徴の違いによるものと推定される。粒子構成における含砂率では13.5%を示し、赤褐色粒子が0.2%を占める。岩石鉱物組成では、斜長石(10.4%)・石英(34.6%)・花崗岩類(32.3%)・変成岩類(7.8%)などを主体とし、砂岩・泥岩・珪質岩をわずかに伴う。重鉱物組成は、黒雲母(67%)・角閃石(33%)から構成される。変成岩類の全てが黒雲母ホルンフェルス・白雲母黒雲母ホルンフェルスとからなる。No33は第4図において笛吹川支流の斐櫻川河川砂と直接的に融合するとともに、笛吹川・釜無川河川砂やNos.7,8,9,10,12,14,15,17,18,20などとクラスター2を形成している。甲府盆地で製作されたものであるすると、斐櫻川を中心とした笛吹川流域あるいは釜無川流域に産地が推定される。しかし胎土組織の特徴、および安山岩・ディサイト・単斜輝石・斜方輝石などを伴わないことなど他の甲府盆地内に産地が推定されるS字壇とは明らかに異なる。濃尾平野・伊勢平野で出土するS字壇の重鉱物組成の特徴は、両輝石をほとんど含まず、角閃石・ザクロ石を主体とし黒雲母を伴うことが特徴であるとされ、伊勢平野南部地域で特に雲出川下流域に産地が推定されている(矢作ほか,1997)。No33は、ザクロ石が計数されないが、角閃石・黒雲母を主体とする重鉱物組成を示し濃尾平野のS字壇とも類似性が認められることから、濃尾平野出土S字壇と同様に伊勢平野南部付近に産地が求められる可能性もある。その場合、今回ホルンフェルスとしたものは領家変成岩中の黒雲母・白雲母片岩に相当する可能性があるかもしれない。

G-ss群 (No9,10,11)

Nos.9,10,11は、含砂率が13.6~14.3%を、赤褐色粒子が1.5~1.9%を占める。岩石鉱物組成では、斜長石(22.0~27.7%)・石英(22.7~30.1%)・カリ長石・花崗岩類(14.0~30.8%)・砂岩(3.3~6.0%)などを主体とし、安山岩・泥岩・変質火山岩類を伴う。重鉱物組成は黒雲母(23~53%)・角閃石(27~50%)から主として構成され、単斜輝石・斜方輝石・綠簾石・不透明鉱物などを伴う。第4図では、Nos.9,10クラスター2に属し、No11はク

ラスター1とクラスター2とが融合した直後にこれらと融合する。甲府盆地においては笛吹川・釜無川流域に産地が推定される可能性が高い。

G-md群 (No7,8,12,14,15,17,18,20,31)

Nos.7,8,12,14,15,17,18,20は、含砂率が11.3~21.9%、赤褐色粒子が0.4~4.4%を占める。岩石鉱物組成では、斜長石(6.5~55.7%)・石英(18.4~34.3%)・花崗岩類(7.6~28.9%)・泥岩(1.3~14.1%)などを主体とし、安山岩・砂岩などを伴う。重鉱物組成は試料ごとに異なる。Nos.7,8,15は、黒雲母・角閃石を主体にし、単斜輝石・斜方輝石・不透明鉱物などを伴う。Nos.7,8,15の重鉱物組成は、黒雲母・角閃石・單斜輝石・斜方輝石・不透明鉱物などから構成される。Nos.12,14,17では、黒雲母・角閃石を主体とした組成を示す。No18は黒雲母を主体とし斜方輝石・不透明鉱物からなる。No20は角閃石を主体とし酸化角閃石・単斜輝石・不透明鉱物などからなる。Nos.7,8,12,14,15,17,18,20は、第4図において笛吹川およびその支流の田草川・鬱柳川、あるいは釜無川などの河川砂、伊藤窪第2遺跡No12とともに、クラスター2を形成している。これらの土器は釜無川・笛吹川を中心とした地域に産地が求められる可能性が推定される。

No31は、含砂率が21.9%、赤褐色粒子が1.2%を占める。岩石鉱物組成では、斜長石(16.2%)・石英(24.3%)・カリ長石・泥岩(15.3%)・花崗岩類(15.6%)などを主体とし、砂岩・安山岩を伴う。重鉱物組成は、不透明鉱物(41%)・角閃石(29%)・黒雲母(18%)から主として構成され、単斜輝石・斜方輝石などを伴う。第4図では、他試料との直接的な融合がなく単独で存在している。砂岩・泥岩などからなる堆積岩、花崗岩類および安山岩などを上流にもつ地域に産地が推定されるが、具体的な地域の推定は難しい。

S S-g群 (No2)

No2は、含砂率が20.4%、赤褐色粒子が0.7%を占める。岩石鉱物組成では、斜長石(30.2%)・石英(19.1%)・カリ長石(12.0%)・砂岩(13.3%)・泥岩(9.3%)・花崗岩類(10.8%)などを主体として構成される。重鉱物の含有率は低率で、角閃石のみから構成される。第4図では、他試料との直接的な融合がなく単独で存在している。砂岩・泥岩などからなる堆積岩と花崗岩類とを上流にもつ地域に産地が推定されるが、具体的な地域の推定は難しい。

MD-v群 (No.1,4,30)

No1は、含砂率が12.4%、赤褐色粒子が2.7%である。岩石鉱物組成では石英(21.4%)・斜長石(30.2%)・カリ長石(10.9%)のほか、泥岩(14.1%)・変質火山岩類(6.5%)・花崗岩類(3.6%)・砂岩などが含まれる。重鉱物含有率は低く、角閃石と不透明鉱物とが各1ポイントづつ計数されたにすぎない。第4図でNos.4,30とともに緑色変質火山岩類で特徴づけられる新第三系分布地域河川砂と融合していることから在地的の可能性もある。ただし緑色変質火山岩類がほとんど含まれていないこと、重鉱物組成が異なることなどからNos.4,30とは産地が異なる可能性が高い。

Nos.4,30は、含砂率が21.9~31.1%、赤褐色粒子が0.5~1.4%である。岩石鉱物組成では石英(8.0~15.0%)・斜長石(3.9~10.8%)・カリ長石のほか、泥岩(29.6~44.1%)・変質火山岩類(13.7~24.9%)・花崗岩類(2.1~9.3%)・砂岩(9.4~11.6%)などが含まれる。重鉱物含有率は低く、No4は角閃石・不透明鉱物・単斜輝石・綠簾石・ジルコンが含まれる。No30では単斜輝石が過半数を占め、黒雲母・不透明鉱物を伴う。Nos.4, 30とともに緑色変質した火山岩が多量に含まれている。No30は、本遺跡内に存在する粘土採取坑中の試料であり、第4図においても滝沢川など巨摩山地から流下する小河川砂試料が形成しているクラスターOに融合している。No.30に類似性の高いNo4は在地的土器である可能性が極めて高い。クラスターOに含まれる河川砂の多くは花崗岩類が極めて少ない傾向が強い。No30における花崗岩類の起源は、砂岩中に花崗岩類が含まれていることが観察されたことから新第三系を構成する砂岩中の粒子、あるいは第三系に貫入している花崗岩類小岩体などによるものと推定される。ところがNo4中の花崗岩類の含有率は、新第三系に含まれる花崗岩類粒子だけでは説明できない。御使使川扇状地の東縁を南流する釜無川河川砂には多くの花崗岩類が含まれていることから、No4の産地は、釜無川あるいは笛吹川の堆積物の影響のある沖積地である可能性も推定される。No30を採取した粘土採取坑は、

近世以降のものと考えられ、おそらくは加賀美を中心に大量に生産された瓦原料として使用された可能性がある。加賀美的瓦の分析結果とも類似性が認められる（河西,1994）。

MD-g群（No25）

No25は、含砂率が29.0%、赤褐色粒子が1.2%を占める。岩石鉱物組成では、石英(22.3%)・泥岩(21.9%)・花崗岩類(18.3%)・斜長石(14.2%)・変質火山岩類(9.0%)などを主体として構成される。重鉱物組成では角閃石(44%)・不透明鉱物(34%)・黒雲母(20%)などから主としてなる。第4図では、他試料との直接的な融合がなく単独で存在している。泥岩と花崗岩類とを上流にもつ地域に産地が推定されるが、具体的な地域の推定は難しい。

5. 器種ごとの産地推定

分析試料の中には、北陸系、山陰系、濃尾平野系という器種区分されているものが存在する。濃尾平野系S字壺は前述したので、その他のいくつかの器種についてそれぞれの特徴の概要を記す。

北陸系土器（Nos.1,9）は、含砂率が12.4~13.6%と低い値を示す。岩石鉱物組成は、斜長石・石英・カリ長石・花崗岩類・泥岩・砂岩などから構成され、変質火山岩類以外の火山岩はほとんど含まれていない。重鉱物はNo1が極めて少ない。No9の重鉱物組成は、角閃石がもっとも多く黒雲母・不透明鉱物・緑簾石が伴う。甲府盆地に産地が推定される他のS字壺試料などと比較すると、安山岩・デイサイト・単斜輝石・斜方輝石などが含まれないことで区別される。しかし第4図で示されるように甲府盆地の河川砂との類似性が示されている。これらの北陸系土器の産地が、甲府盆地地域あるいは北陸地域なのかさらに別の地域なのかについては現在のところ限定は難しい。他地域の北陸系土器の分析結果と比較する必要がある。

山陰系壺（Nos.3,8,16,18,26）は、含砂率が14.2~21.9%の値を示す。岩石鉱物組成では、斜長石・石英・カリ長石・花崗岩類・泥岩・安山岩を共通して含むことが特徴であり、その他デイサイト・変質火山岩類・砂岩などを試料によって伴う場合がある。重鉱物組成は、黒雲母・単斜輝石・不透明鉱物などから主として構成され、角閃石が少ないことが特徴であり、斜方輝石・酸化角閃石・緑簾石・電気石など試料によって伴う。岩石鉱物組成では、甲府盆地に産地が推定されるS字壺や在地壺、あるいは甲府盆地の河川砂と類似性が高く、区別が困難であるが、重鉱物組成において角閃石と斜方輝石が少ない点で若干区別される可能性もある。これらの山陰系土器の産地が、甲府盆地地域あるいは山陰地域のかさらに別の地域なのかについては現在のところ限定は難しい。他地域の山陰系土器の分析結果と比較する必要がある。

S字壺A類（No6）は、含砂率が23.3%と比較的高いこと、岩石鉱物組成で安山岩・デイサイトが花崗岩類よりも多い特徴的な組成を示し、重鉱物組成では角閃石・酸化角閃石・単斜輝石・斜方輝石・不透明鉱物・黒雲母からなる。S字壺B類（Nos.10,17）・S字壺C類（No11）は、含砂率が11.3~14.3%と低く、岩石鉱物組成では花崗岩類が多く、安山岩・泥岩・砂岩を伴い、重鉱物組成では黒雲母がもっと多く角閃石がつづくことなどが特徴である。S字壺（Nos.7,12,13,15,19,22,23,24,29,31,32）は、含砂率が16.8~25.5%を示し、岩石鉱物組成では花崗岩類が多く、安山岩・泥岩・砂岩を伴い、ときにデイサイトを伴うものも少なくなく、重鉱物組成では、No12を除くと、黒雲母・角閃石・単斜輝石・斜方輝石・不透明鉱物から主としてなり、多くの試料で酸化角閃石も検出されることが特徴である。S字壺A類No6、S字壺B類No10、S字壺Nos.7,13,15,19,22,23,24,29,31,32の重鉱物組成は、廻間遺跡など濃尾平野出土のS字壺、特にO類とA類とに顕著であるとされる角閃石・黒雲母・ザクロ石からなる重鉱物組成とは明らかに異なる（愛知県埋蔵文化財センター,1990、矢作ほか,1997）。濃尾平野のS字壺の重鉱物組成は、廻間Ⅲ式期にS字壺C類が登場するとS字壺C類の一部の胎土が、濃尾平野でS字壺以前の在地土器に特有の単斜輝石・斜方輝石を主体とする重鉱物組成に変化する現象がみられ、S字壺の胎土の緻密性が崩れ多様化することを示すとされている（赤坂、1990）。S字壺A類No6、S字壺B類No10、S字壺Nos.7,13,15,19,22,23,24,29,31,32の重鉱物組成は、廻間Ⅲ式期S字壺C類の示す単斜輝石・斜方輝石を主体とする重鉱物組成とも異なること、および荒川・塩川・釜無川・笛吹川など

の河川砂組成と類似性が高いことなどから甲府盆地内に産地が存在する可能性が高いと推定される。

考古学的な考察から、甲府盆地出土のS字甕のほとんどが甲府盆地内で生産されたものであると考えられている(小林、1991)。今回の胎土分析結果はこの考え方と一致するものである。小林(1991)は、甲府盆地のS字甕を甲府盆地南部～東部地域と西部～北西部地域の2つの地域に分け、盆地南部～東部地域のS字甕は駿河湾東部地域の影響が、また盆地西部～北西部地域には東山道経由の影響があることを示している。本遺跡を含め従来のS字甕の胎土分析は盆地西部～北西部地域から出土した土器に関して実施されており、盆地西部～北西部地域内の荒川・塩川・釜無川などの流域のほか、甲府盆地南部～東部地域内の笛吹川流域にS字甕産地が推定されたことは興味深い。今後甲府盆地南部～東部地域のS字甕の分析結果と比較することによって、盆地内の生産体制の解明につながる可能性がある。

壺試料No4では、御動使川扇状地かそれに類する地質条件下で土器が生産されてたことが確認された。S字甕の胎土組成にみられるようにほとんどが御動使川扇状地以外の地域に産地が推定されること、No4も釜無川などの堆積物の影響のあるたとえば扇状地縁辺地域に産地が推定されることなどから、御動使川扇状地扇尖部に位置する村前東A遺跡周辺におけるこの時期の土器生産力は低いものであった可能性が高いと考えられる。

注1) ここではデイサイト・流紋岩を含む珪長質火山岩の総称としてデイサイトを使用する。

文 献

赤堀次郎(1990) S字甕の胎土について。「廻間遺跡」、愛知県埋蔵文化財センター、48-49。

河西 学(1989) 甲府盆地における河川堆積物の岩石鉱物組成-土器胎土分析のための基礎データー。「山梨考古学論集Ⅱ」、山梨県考古学協会、505-523。

河西 学(1991) 伊藤窟第2遺跡出土土器の胎土分析。「伊藤窟第2遺跡」、韮崎市教育委員会、22-35。

河西 学(1992a) 塩川遺跡出土土器の胎土分析。「塩川遺跡」、山梨県埋蔵文化財センター発掘調査報告第70集、173-178。

河西 学(1992b) 岩石鉱物組成からみた縄文土器の産地推定-山梨県駒込堂遺跡・郷藏地遺跡・柳坪遺跡の場合-。「帝京大学山梨文化財研究所研究報告」、4、61-90。

河西 学(1994) 甲府城瓦と加賀美瓦-岩石学的胎土分析による比較-。「山梨考古学論集Ⅲ」、山梨県考古学協会、379-398。

河西 学・獅原功一・大村昭三(1989) 八ヶ岳南麓地域とその周辺地域の縄文時代中期末土器群の胎土分析。「帝京大学山梨文化財研究所研究報告」、1、1-64。

小林健二(1991) 甲府盆地におけるS字甕の定着について。古文化談叢、26、151-166。

パリノ・サーヴェイ(1990) 重鉱物胎土分析(甕)。「廻間遺跡」、愛知県埋蔵文化財センター、42-47。

矢作健二・服部俊之・赤堀次郎(1997) 東海地域におけるS字状口縁台付甕の産地について-胎土分析による予察-。「日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集」、126-127。

圖版



I・II区全景

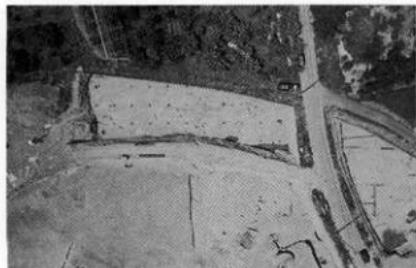


I区全景



II区全景

図版2



I b 区全景



II b 区全景



I b・II b 区全景



III・IV区全景（弥生・古墳時代）



III・IV区全景（平安・中世以降）

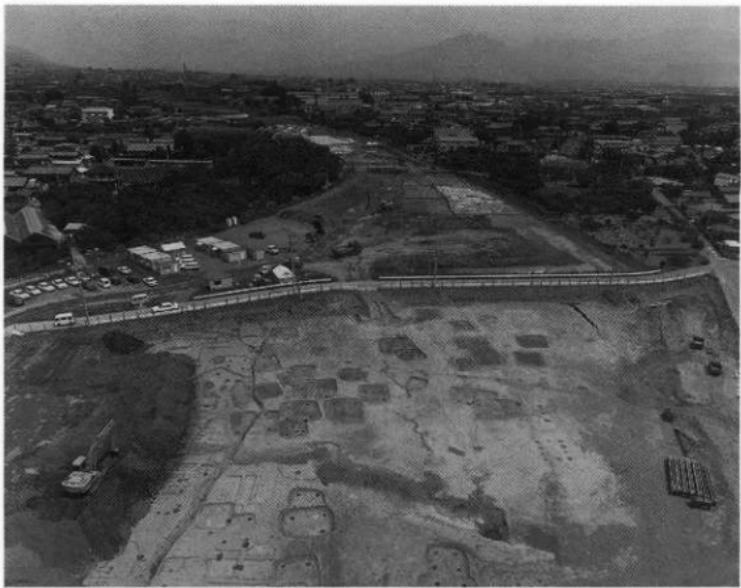


IVa区全景（古墳・平安時代）



IVa区全景（古墳時代）

図版4



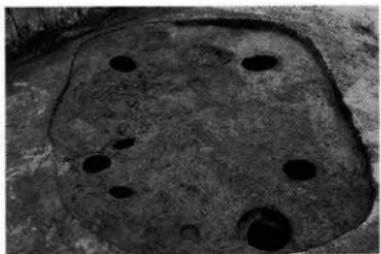
南からⅣa・V区を望む



V区全景



II区1号住遗物出土状况



II区1号住居址



III·IV区水田状遗构



IVa区水田状遗构



IVa区全景



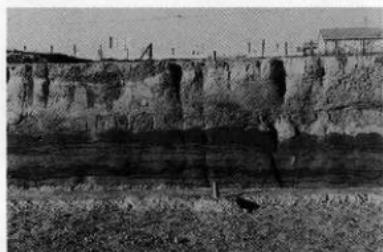
IVa区水田状遗构近景



IVa区水田状造構近景



V区南側



V区03N-15グリッド断面図



V区弥生時代包含層調査風景



I区6号溝近景北から



I区6号溝近景南から



I 区 6 号溝近景



I 区 6 号溝セクションC-D



I 区 6 号溝O1T-14グリッド遺物出土状況



I 区 6 号溝O1T-14グリッド遺物出土状況



I 区 6 号溝O1T-14グリッド遺物出土状況



I 区 6 号溝O1T-14グリッド遺物出土状況



I 区 6 号溝O1T-14グリッド遺物出土状況



I 区 6 号溝O1T-14グリッド遺物出土状況

図版 8



I 区 6号溝01T-14グリッド遺物出土状況



I 区性格不明ピット群・焼土址



I 区性格不明ピット群・焼土址



I 区 2号竪穴状遺構



I b 区16号住居址



I b 区1号土坑



I b 区1号土坑遺物出土状況



I b 区1号土坑遺物出土状況



I b 区 9号溝



II 区 11号住居址



II 区 11号住遺物出土状況



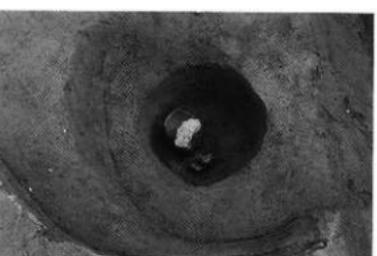
II 区 11号住居址



II 区 13号住居址



II 区 12号住居址



II 区 13号住居内土坑

図版10



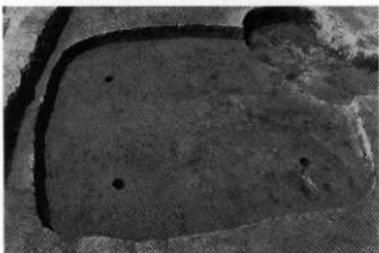
II A区 グリッド試料採取風景



II 区 台風により水没



II b 区 17号住遺物出土状況



II b 区 17号住居址



II b 区 18号住居址



II b 区 19号住居址



II b 区 20号住遺物出土状況



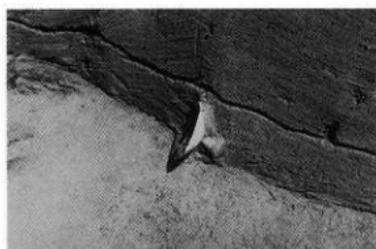
II b 区 21号住遺物出土状況



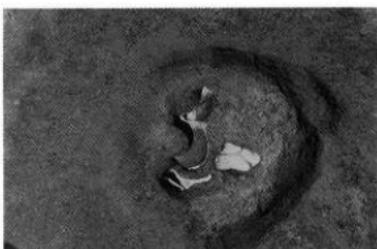
II b区21号住居址



II b区21号住居遺物出土状況



II b区21号住居遺物出土状況



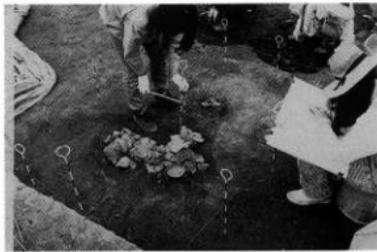
II b区4号土坑遺物出土状況



II b区4号溝



II b区包含腐遺物出土状況



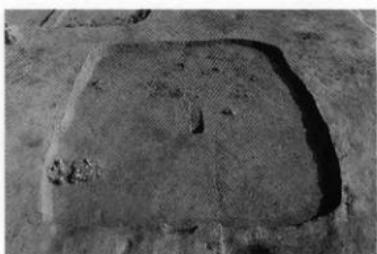
作業風景



III区古墳時代全景



III区13号住居址



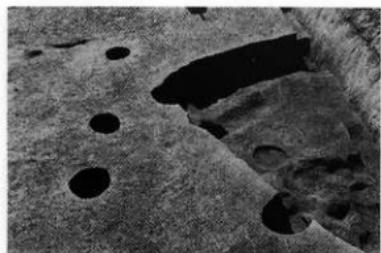
III区14号住居址



III区14号住遗物出土状况



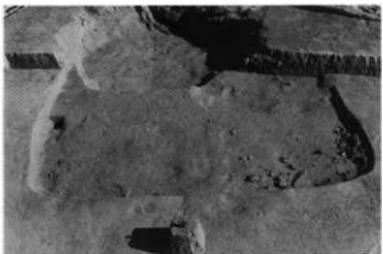
III区15号住居址



III区3号掘立柱建物址



III区17号住居址



III区18号住遗物出土状况



III区18号住遗物出土状况



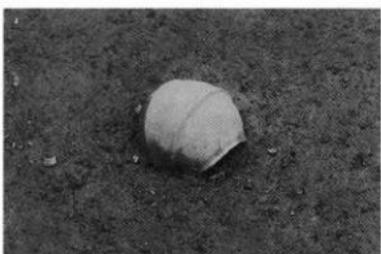
III区18号住居址



III区19号住居址



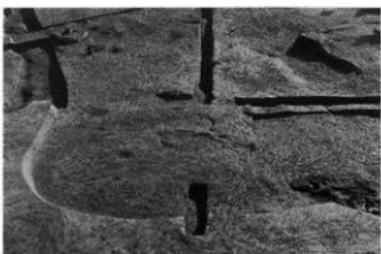
III区22号住居址



III区22号住手焙形土器出土状况

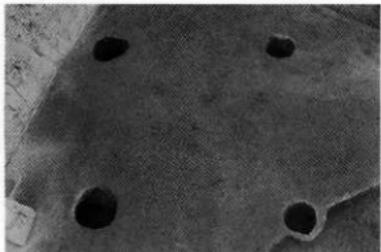


III区23号住居址



III区25号住居址

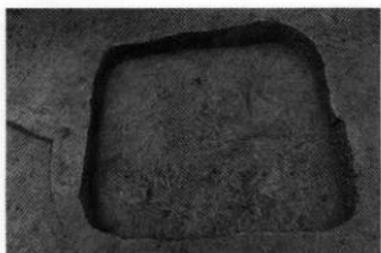
图版14



III区2号掘立柱建物址



IV区古墳時代全景



IV区2号住居址



IV区3号住居址



IV区4·5·6号住居址



IV区7号住遗物出土状况



IV区8号住遗物出土状况



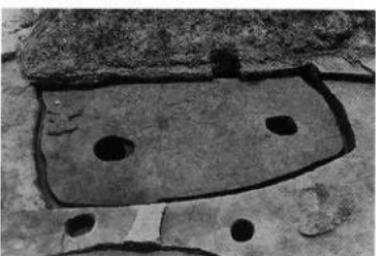
IV区 9号住居址



IV区 10号住居址



IV区 11号住居址 東から



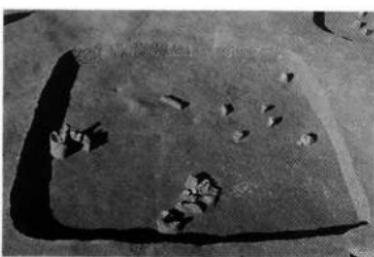
IV区 11号住居址 北から



IV区 12号住居址



IV区 12号住居址 遺物出土状況



IV区 13号住居址



IV区 13号住居址 遺物出土状況

図版16



IV区14号住居址



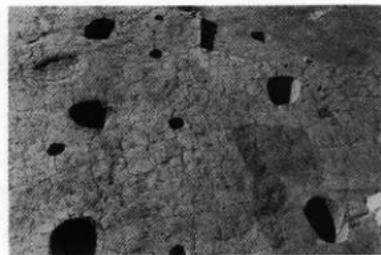
IV区15・16号住居址



IV区17号住居址



IV区2号掘立柱建物址



IV区3号掘立柱建物址



IV区5号溝



III区作業風景



遺跡見学会



IV a区18号住遺物出土状況



IV a区18号住居址調査風景



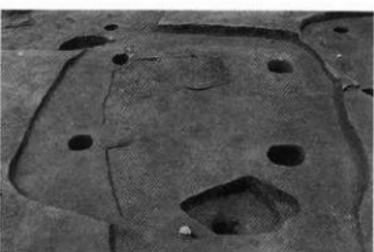
IV a区18号住居址



IV a区24号住居址



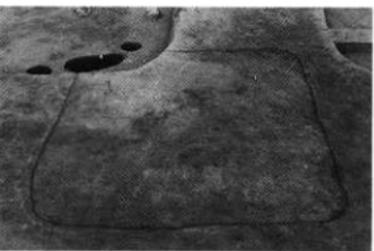
IV a区24号住居内土坑



IV a区25号住居址



IV a区手前から33・27号住居址



IV a区28号住居址



IVa区08大グリッド周辺



遺跡見学会



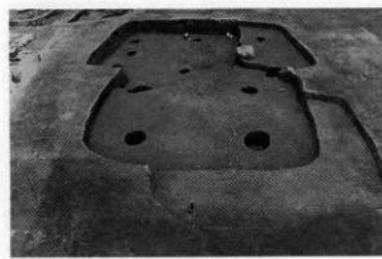
IVa区29号住居址



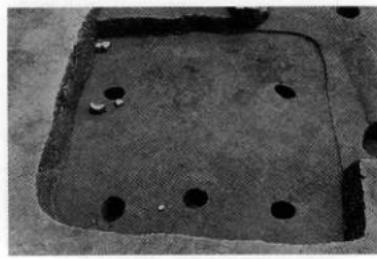
IVa区27号住居址



IVa区34号住居址



IVa区手前から34・35・36・90号住居址



IVa区36号住居址



IV a区41号住居址



IV a区42号住居址



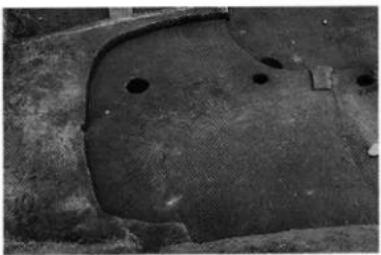
IV a区46号住居址



IV a区46号住柱穴内遺物出土状況



IV a区47号住居址



IV a区50号住居址



IV a区51号住居址



IV a区51号住炉址



IV a区53号住居址



IV a区中央53号·手前56号住居址



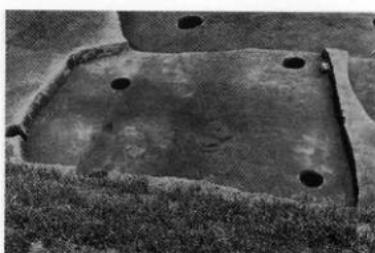
IV a区作業風景



IV a区54号住居址遺物出土状况



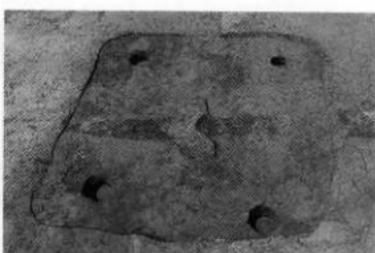
IV a区54号住居址



IV a区56号住居址



IV a区56号住居址



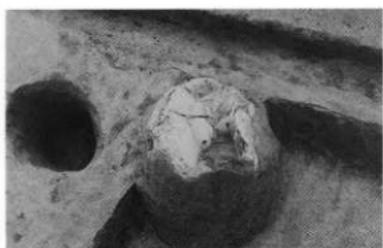
IV a区57号住居址



IV a区58号住遺物出土状況



IV a区58号住遺物出土状況



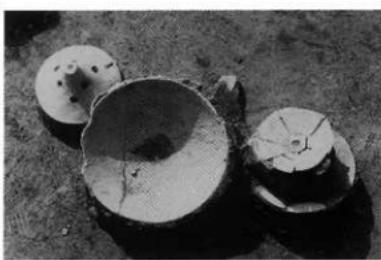
IV a区58号住遺物出土状況



IV a区58号住遺物出土状況



IV a区58号住遺物出土状況



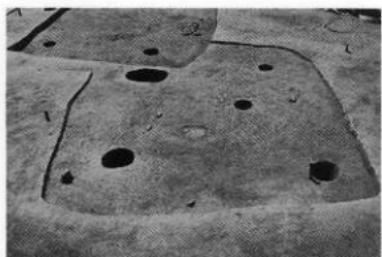
IV a区58号住遺物出土状況



IV a区58号住遺物出土状況



IV a区右から63・62・61号住居址



IV a区61号住居址



IV a区右から63・62号住居址



IV a区66号住居址



IV a区手前から67・68号住居址



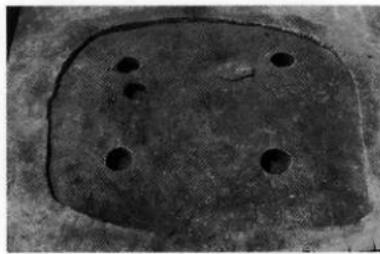
IV a区68号住居址遺物出土状況



IV a区68号住居址遺物出土状況



IV a区69号住居址



IV a区70号住居址



IV a区71号住遺物出土状況



IV a区71号住断面図



IV a区72・73号住遺物出土状況



IV a区手前から72・73号住居址



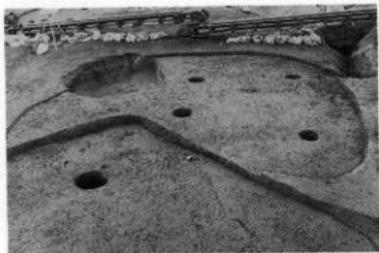
IV a区72号住炉址



IV a区75号住居址



IV a区右から75・77・129号住居址



IV a区手前から75・78号住居址



IV a区81号住居址



IV a区82号住居址



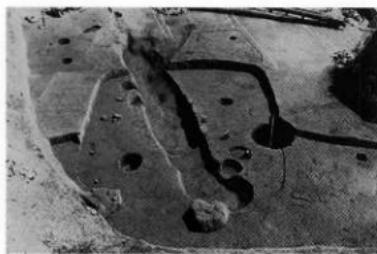
IV a区82号住炉址



IV a区84号住居址



IV a区83号住居址



IV a区83号住居址



IV a区91号住調査風景



IV a区91号住居址



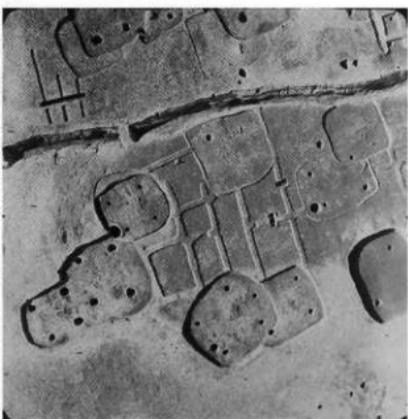
IV a区92号住遗物出土状况



IV a区92号住炉址



IV a区93号住居址



IV a区02大グリッド周辺



IV a区94号住遗物出土状况



IV a区94号住居址



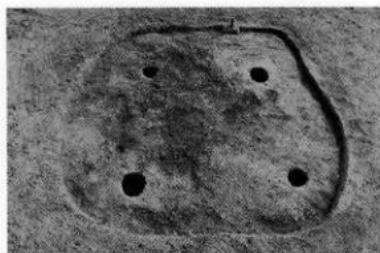
IV a区手前から77・95号住居址



IV a区手前から96・101号住居址



IV a区99号住居址



IV a区102号住居址



IV a区手前から104・98・103号住居址



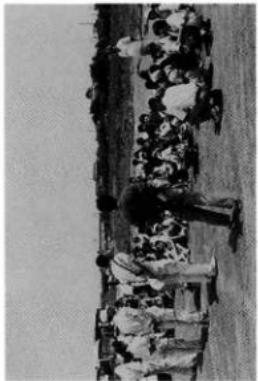
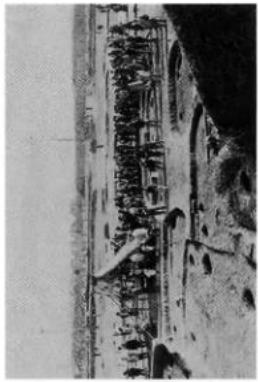
IV a区手前から105・116号住居址



IV a区105号住居遺物出土状況

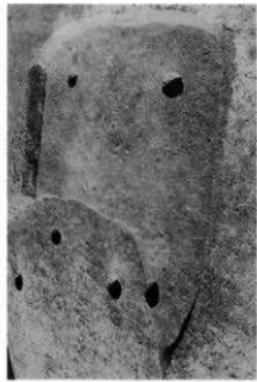


IV a区手前から106・120号住居址



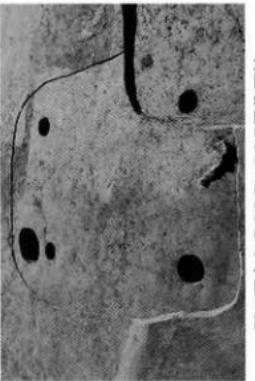
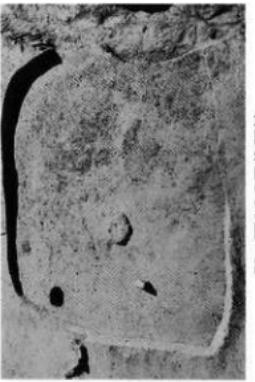
IVa区手前から107・108号住居址

IVa区109号住居址



IVa区右から117・110号住居址

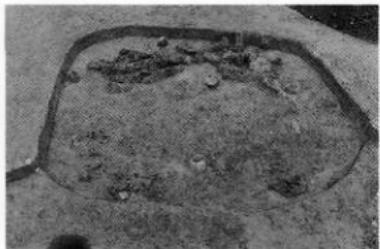
IVa区111号住居址



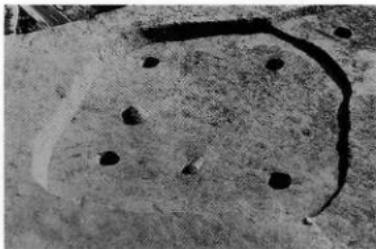
IVa区112号住居址

IVa区右から113・112号住居址

図版28



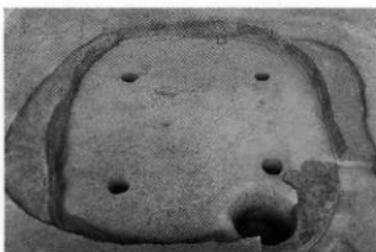
IV a区115号住遺物出土状況



IV a区115号住居址



IV a区117号住居址



IV a区外側100・内側119号住居址



IV a区03大グリッド周辺



IV a区120号住居址



IV a区122号住居址



IV a区123号住居址



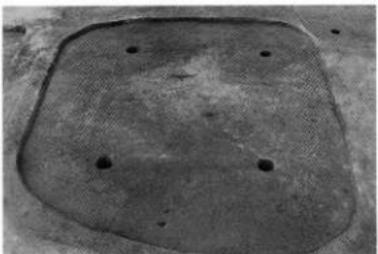
IV a区124号住居址



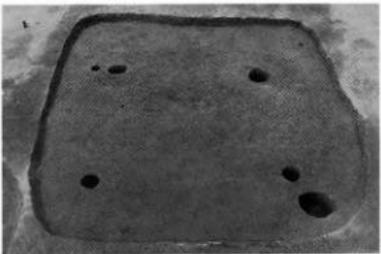
IV a区124号住居址出土状況



IV a区手前から124・126号住居址



IV a区127号住居址



IV a区128号住居址

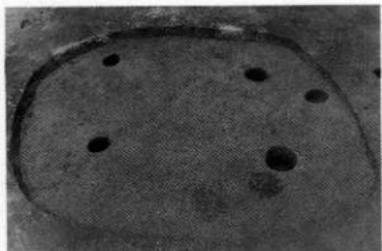


IV a区129号住居址



IV a区131号住居址

図版30



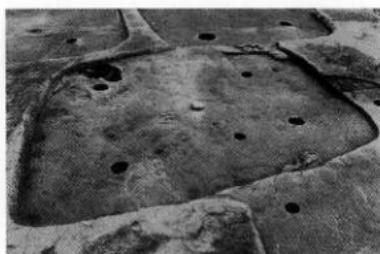
IV a区132号住居址



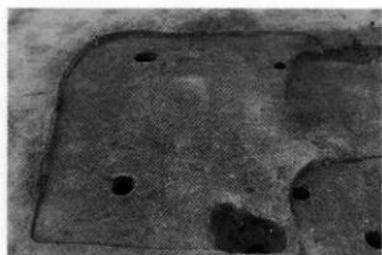
IV a区132号住居址出土状況



IV a区手前から134・135号住居址



IV a区135号住居址



IV a区136号住居址



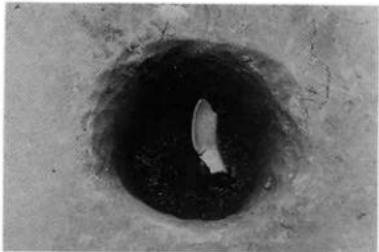
IV a区手前から133・137号住居址



IV a区138号住居址



IV a区139号住居址



IVa区139号住ビット内手焙形土器出土状況



IVa区139号住居内土坑



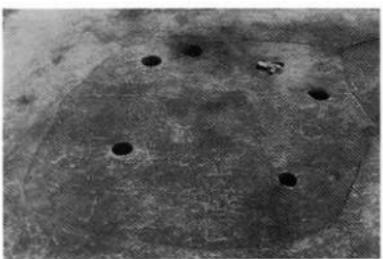
IVa区140号住居址



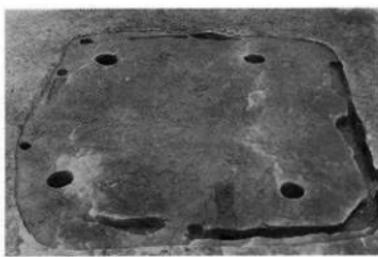
IVa区141号住居址



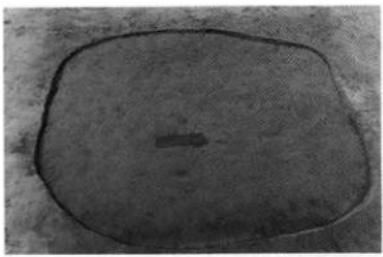
IVa区手前から142・143号住居址



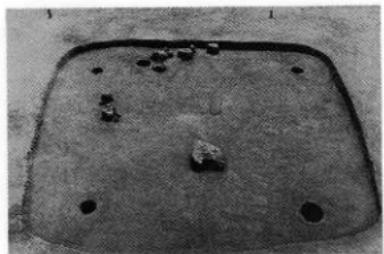
IVa区143号住居址



IVa区144号住居址



IVa区145号住居址



IV a区 146号住居址



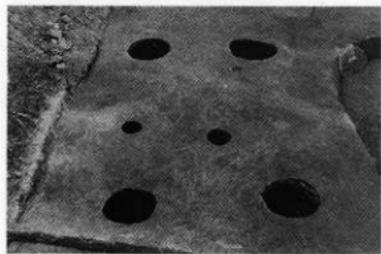
IV a区 146号住遗物出土状况



IV a区 147号住遗物出土状况



IV a区 147号住居址



IV a区 4号掘立柱建物址



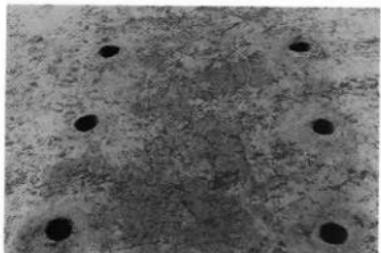
IV a区 7号掘立柱建物址



IV a区 8号掘立柱建物址



IV a区 9号掘立柱建物址



IVa区10号掘立柱建物址



IVa区08C-5 グリッド遺物出土状況



IVa区08C-5 グリッド遺物出土状況



V区153号住居址



V区155号住居址



V区155号住遺物出土状況



V区155号住遺物出土状況



V区156号住居址

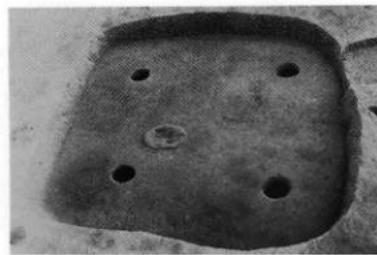
图版34



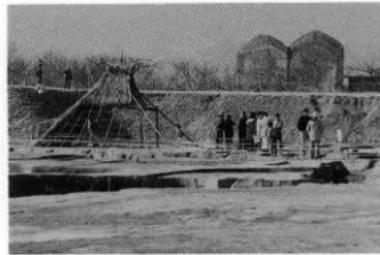
V区156号住居址



V区160号住居址



V区161号住居址



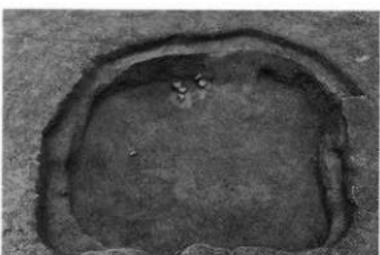
遗迹见学会



V区全景南から



I区3号住居址



I区4号住物出土状况



I区1号配石遗構



I区4号住芋引金出土状况



I区4号住居址



I区5号住居址



I区6号住居址



I区7号住物出土状况



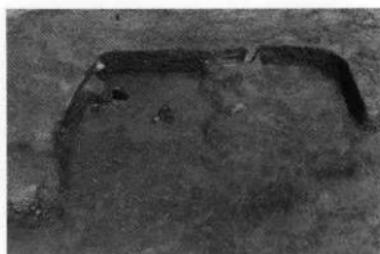
I区7号住遺物出土状況



I区7号住居址



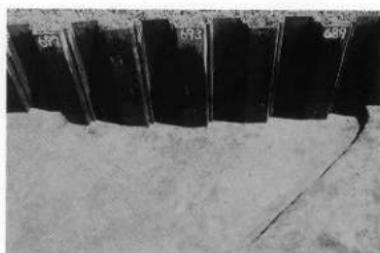
I区8号住居址



I区9号住遺物出土状況



I区10号住居址



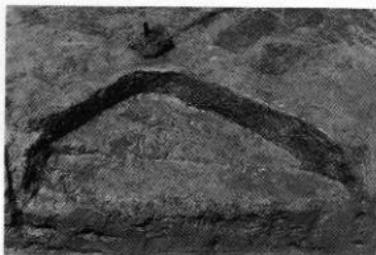
I区11号住居址



I区12号住居址



I区12号住居址



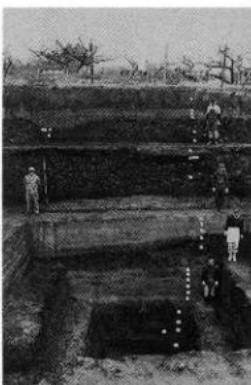
I区13号住居址



I区1・2号溝



I区1号試状造構



I区A地点断面



作業風景



I b区全景

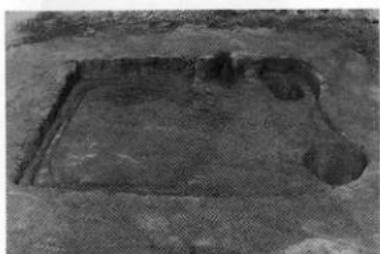
图版38



II区 2号住居址



II区 3号住居址



II区 4号住居址



II区 5号住居址



II区 6号住居址



II区 7号住居址



II区 8号住居址



II区 9号住居址



II区10号住居址



II区Aグリッド断面



II区溝状遺構・性格不明ピット群



II b区作業風景



II b区15号住居址



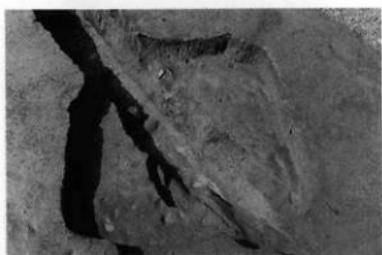
II b区16号住居址



III区 1号住居址



III区 2号住居址



III区 3号住居址



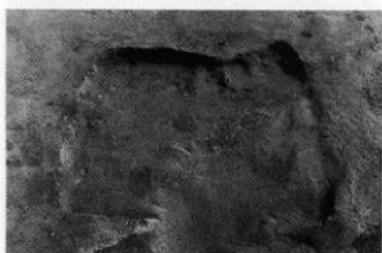
III区 4号住居址



III区 4号住居址



III区 6号住居址



III区 7号住居址



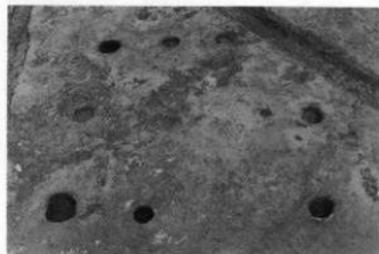
III区 8号住居址



III区手前から11・10号住居址



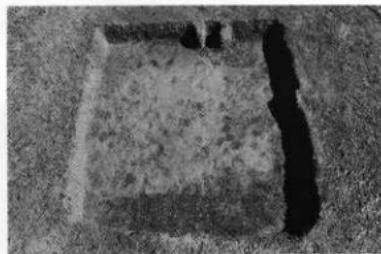
III区12号住居址



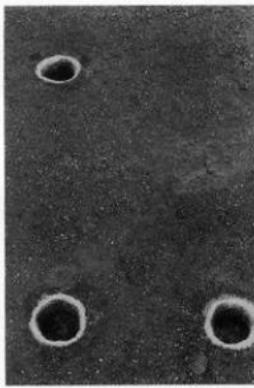
III区1号掘立柱建物址



III区2号竪穴状遺構



IV区1号住居址



IV区1号掘立柱建物址



IV a区20号住居址



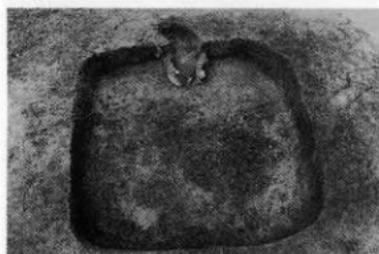
IV a区21号住居址



IV a区22号住居址



IV a区22号住竈



IV a区23号住居址



IV a区23号住竈



IV a区30号住居址



IV a区31号住居址



IV a区32号住居址



IV a区37号住遗物出土状况



IV a区38号住遗物出土状况



IV a区40号住居址



IV a区43号住居址



IV a区48号住居址



IV a区52号住居址

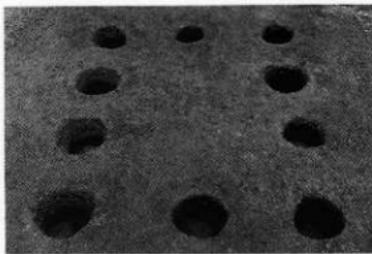


IV a区55号住居址

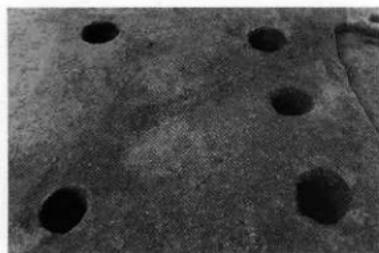
图版44



IV a区59号住居址



IV a区5号掘立建物址



IV a区6号掘立建物址



遗迹见学会



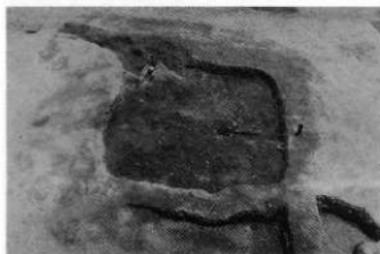
IV a区6号溝



V区148号住居址



V区148号住居



V区149号住居址



V区150号住居址



V区150号住居



V区150号住居

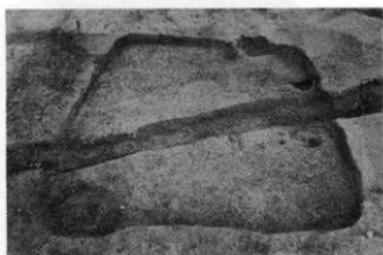
图版46



V区151号住居址



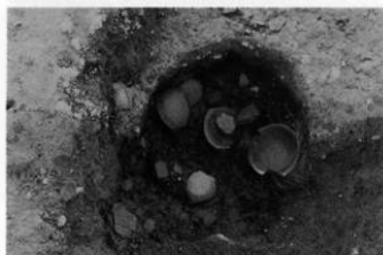
V区151号住居址出土状况



V区152号住居址



V区152号住居址出土状况



V区152号住居内土坑遗物出土状况



V区152号住居址



V区157号住居址



V区158号住居址



V区159号住居址



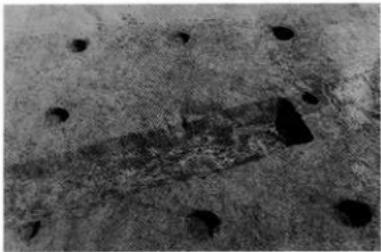
V区159号住遗物出土状况



V区159号住遗物出土状况



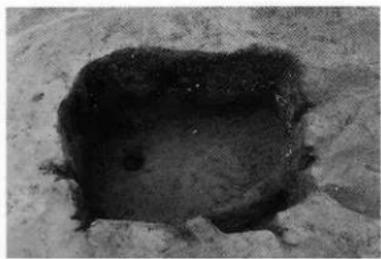
V区162号住居址



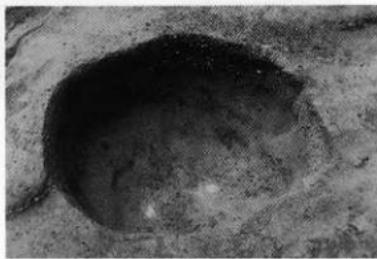
V区11号掘立柱建物址



III区中世以降全景



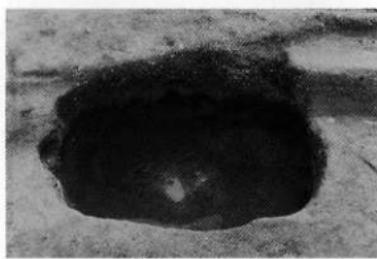
III区1号土坑



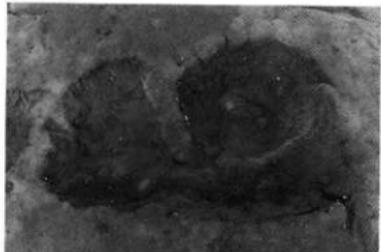
III区3号土坑



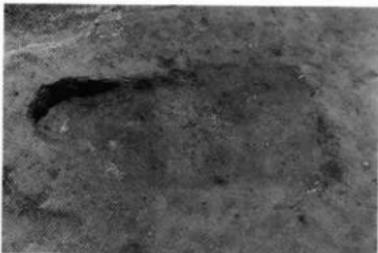
III区4号土坑



III区5号土坑



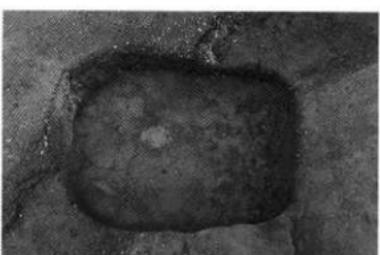
III区手前から8・9号土坑



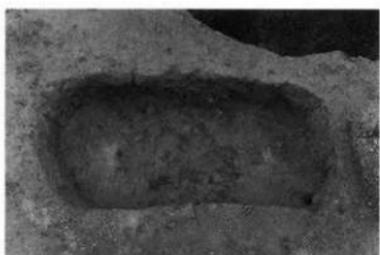
III区11号土坑



III区右から12・13号土坑



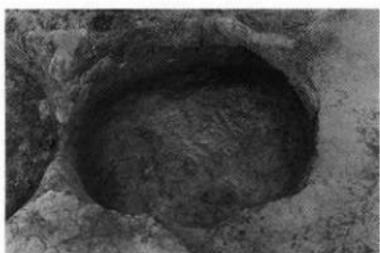
III区14号土坑



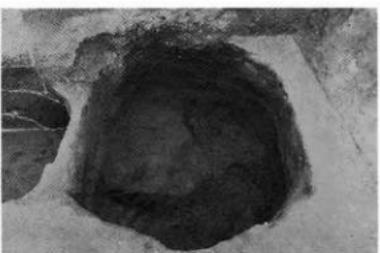
III区15号土坑



III区16号土坑



III区26号土坑



III区28号土坑

IV区1号放大清晰



III区1号放大清晰



作業區





IV区 1号畝状遺構

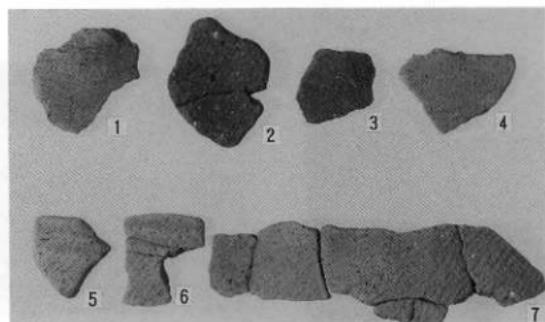


IV区 1号畝状遺構断面



V区 1号畝状遺構

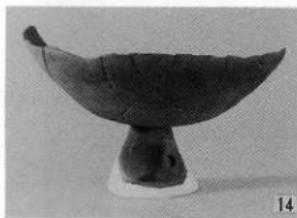
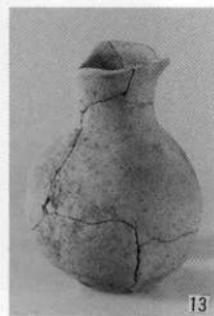
图版52



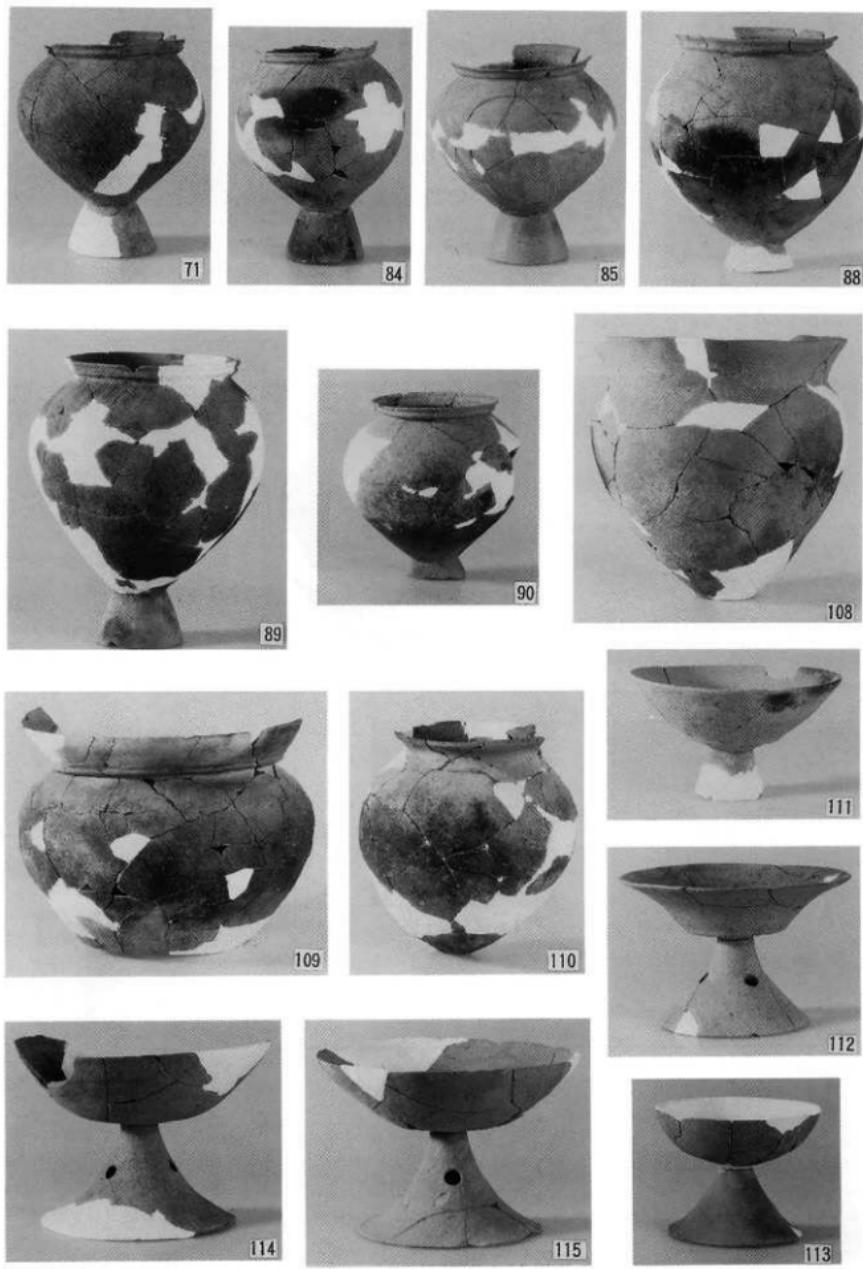
V区弥生時代包含層出土土器



I区2号竪穴状造構



I区6号溝

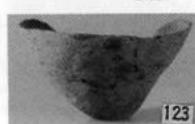


I区6号溝

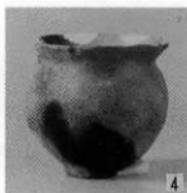
図版54



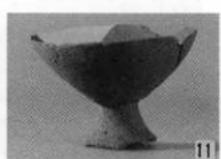
I区6号溝



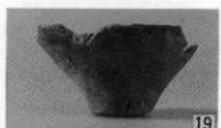
I区グリッド



I b区1号土坑



I b区9号溝



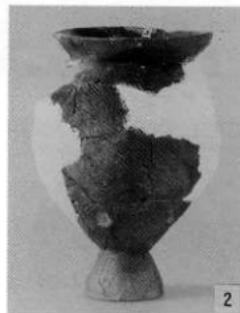
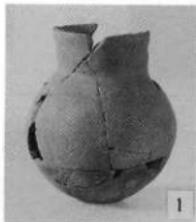
I b区グリッド



II b 区17号住



II b 区18号住



2



3



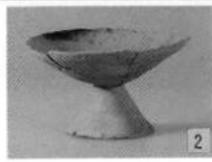
4



6



1



2

II b 区21号住



2



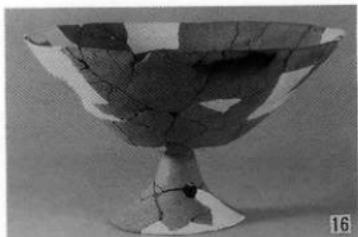
15

II b 区グリッド



5

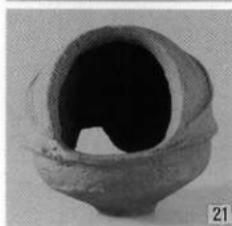
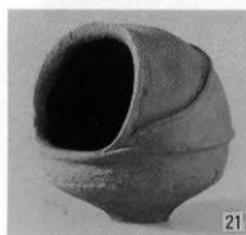
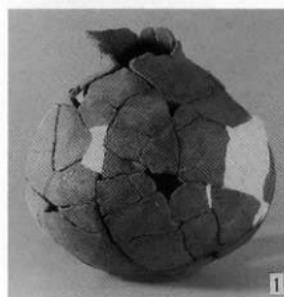
II b 区4号土坑



III区14号住



III区18号住



III区22号住



1



11



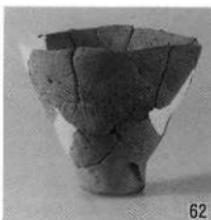
50



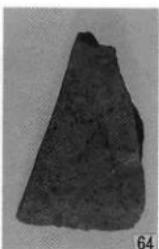
56



59



62



64



1

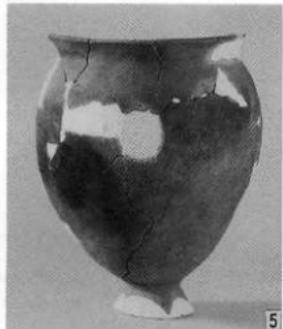


6



1

III区グリッド



5

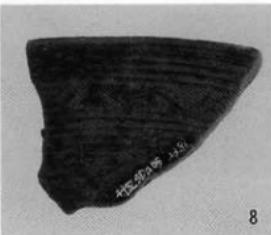
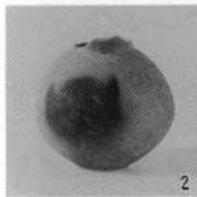
IV区7号住



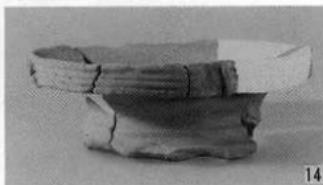
1

IV区11号住

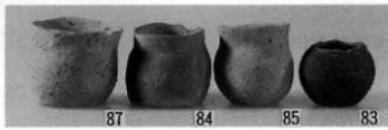
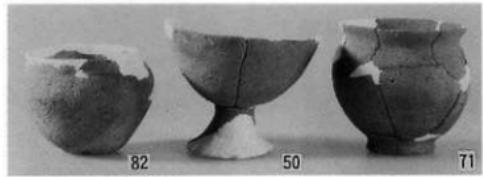
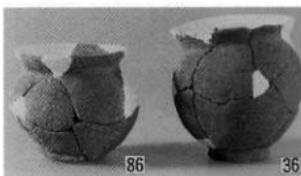
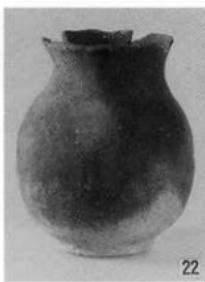
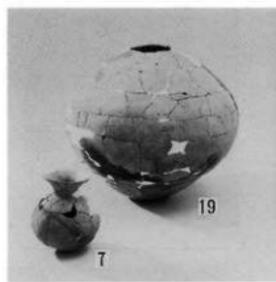
図版58



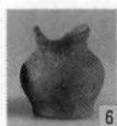
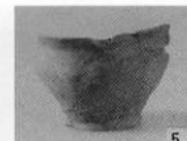
IV区5号溝



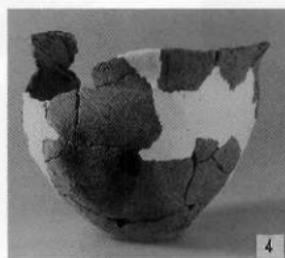
IV区グリッド



IV a区18号住



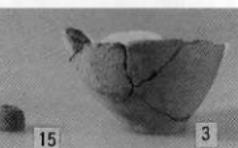
IV a 区24号住



IV a 区25号住

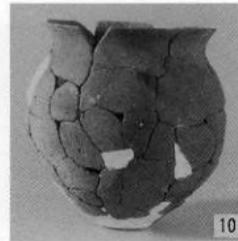
IV a 区33号住

IV a 区34号住



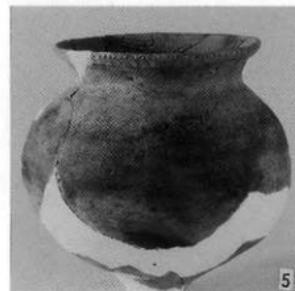
15

3

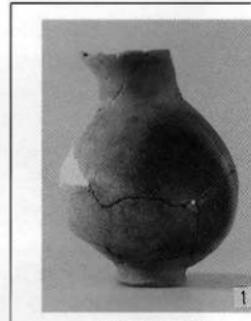


6

10



IV a 区46号住



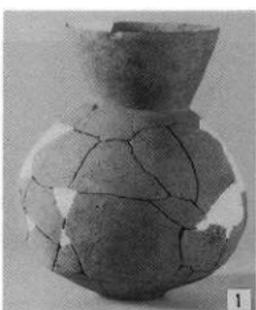
IV a 区54号住

5

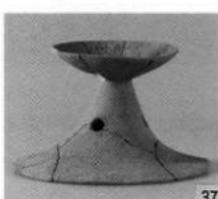
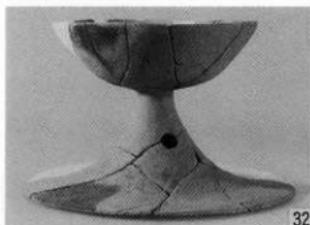
1



IV a 区56号住

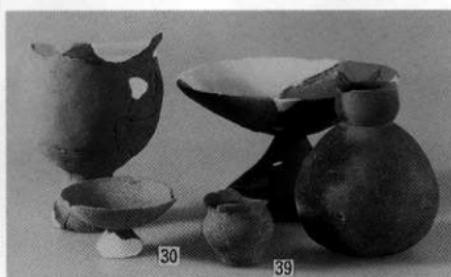
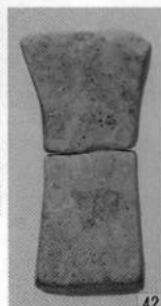
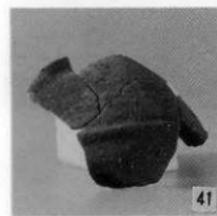
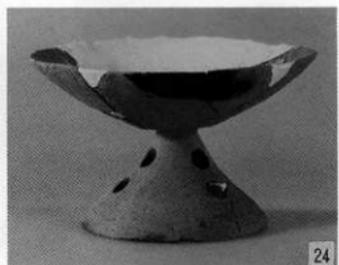
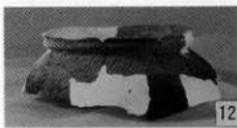
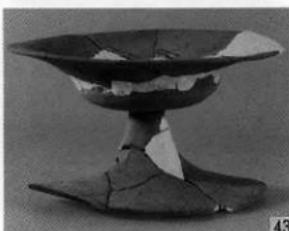
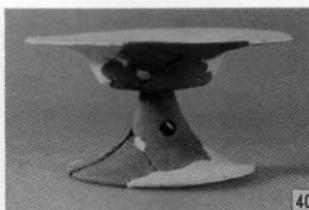
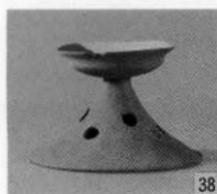


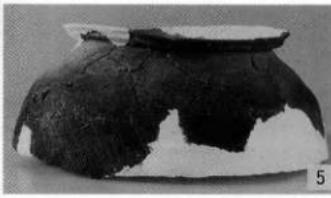
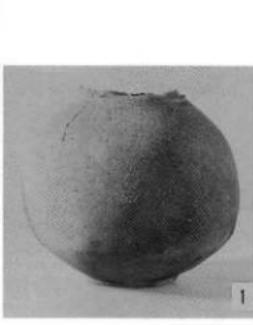
14



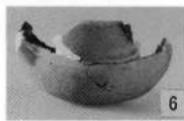
IV a 区58号住

图版62

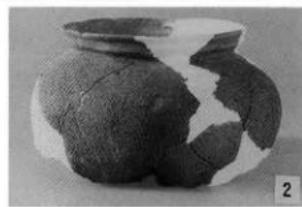




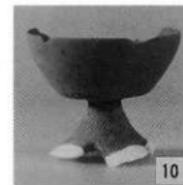
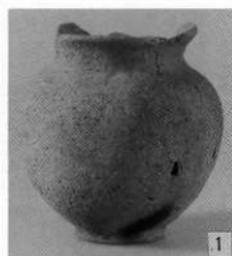
IV a区72号住



IV a区75号住



IV a区83号住



10

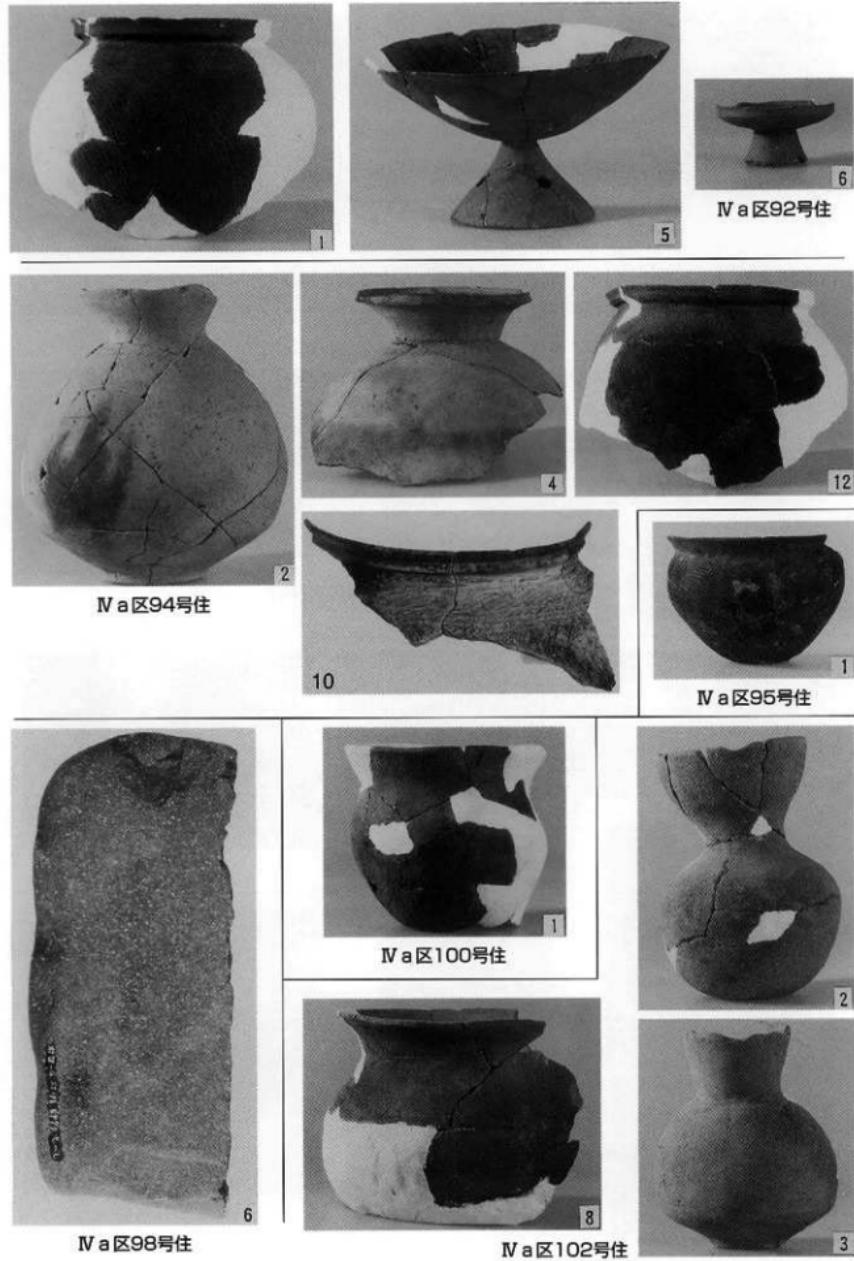


14



IV a区91号住

图版64





IVa区104号住



2



4



IVa区109号住



5

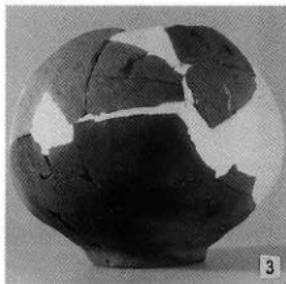


6

IVa区105号住



1



3



1

IVa区112号住



4



5

IVa区106号住

図版66



IVa区115号住



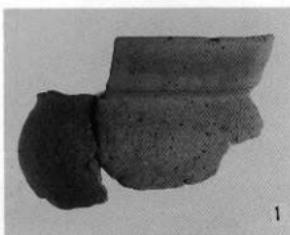
2



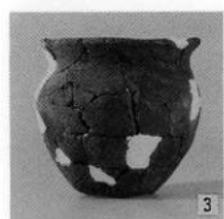
IVa区120号住



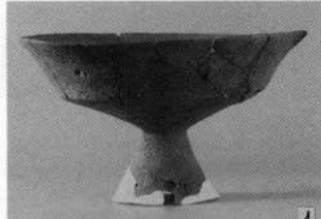
IVa区122号住



IVa区124号住



IVa区127号住



IVa区129号住



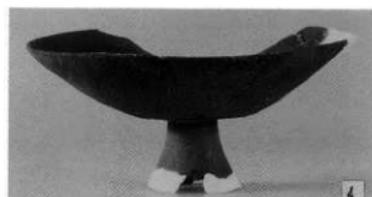
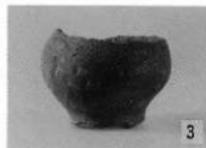
IVa区132号住



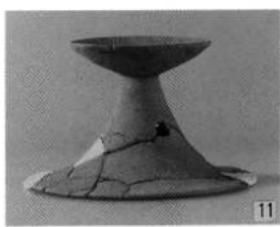
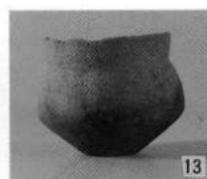
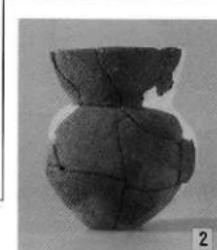
IVa区131号住



IVa区136号住



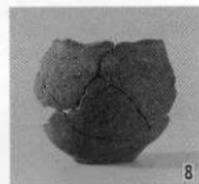
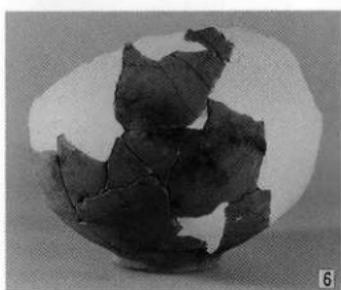
IVa区139号住



IVa区146号住



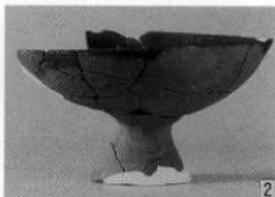
IVa区147号住



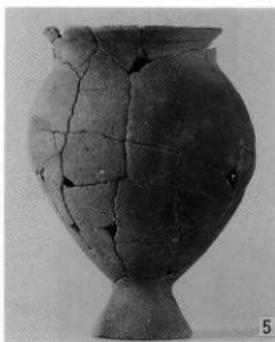
IV a 区焼土址
土器集中出土箇所



IV a 区グリッド



V区153号住



IVa区18号住 IVa区18号住 IVa区18号住 IVa区14号住 IVa区12号住
No.96 No.92 No.91 No.3 No.31

IVa区18号住 IVa区18号住 IVa区18号住 IVa区56号住 IVa区18号住
No.93 No.94 No.95 No.21 No.10

图版70



1



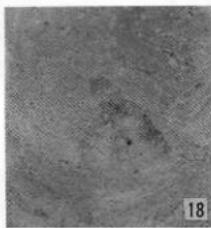
4



23



5



18



19

I区4号住



2



1

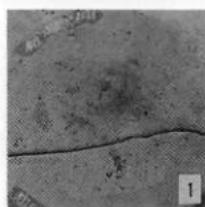


2

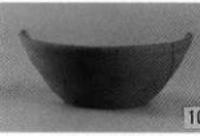


4

I区5号住



I区6号住



10

I区7号住



2



3



5

I区12号住



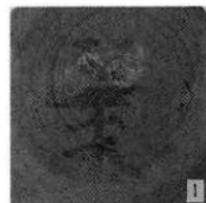
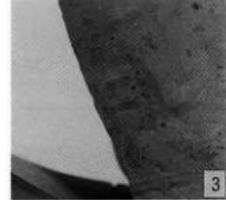
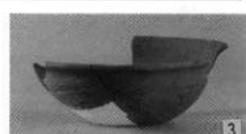
2

II区2号住

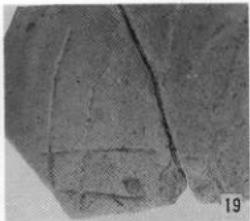
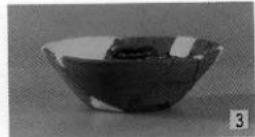


1

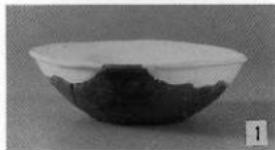
II区4号住



图版72



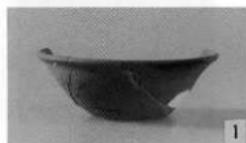
IV a 区20号住



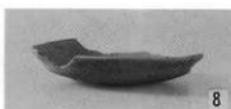
IV a 区21号住



IV a 区23号住



IV a 区31号住



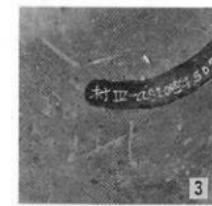
IV a区52号住



IV a区55号住



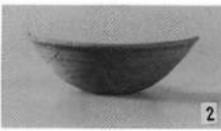
V区148号住



IV a区59号住



V区149号住



10



V区150号住

图版74



V区151号住
No. 1



No. 1



No. 3



No. 4



V区157号住
No. 1



No. 1
No. 3



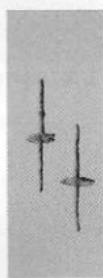
No. 9



V区162号住
No. 1



V区159号住
No. 11



V区151号住
No. 5
IV a 区22号住
No. 24



IV a 区37号住
No. 16
V区152号住
No. 8
I区4号住
No. 33



IV a 区22号住
No. 25
V区154号住
No. 5
V区158号住
No. 4



IV a 区49号住
No. 8
IV a 区37号住
No. 17



V区148号住
No. 8
IV a 区20号住
No. 22
V区152号住
No. 7



II b 区18号溝



III区 8号溝状造構



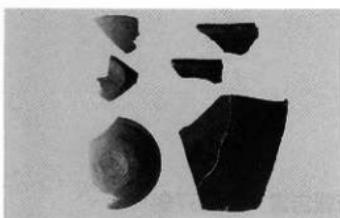
90年度調査 4号住



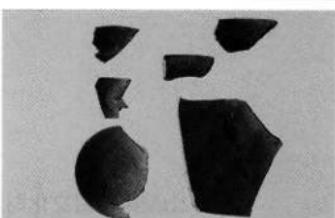
90年度調査グリッド



90年度調査B地区出土土器



90年度調査D区 1号住



90年度調査D区 3号住



90年度調査D区 2号住



90年度調査D区 1グリッド

報告書概要

フリガナ	ムラマエヒガシAイセキ
書名	村前東A遺跡
副題	一般国道52号改築工事および中部横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第157集
編著者名	三田村 美彦
執筆者名	河西 学、鈴木 茂、中山誠二、藤根 久、菱田 量、三田村美彦、吉川純子（五十音順）
発行者	山梨県教育委員会・建設省甲府工事事務所・日本道路公団東京建設局
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター
住所・電話	〒400-1508 山梨県東八代郡中道町下曾根923 TEL 055-266-3016
印刷所	㈱少国民社
印刷日・発行日	平成11年3月19日・平成11年3月29日
所在地	山梨県中巨摩郡御形町十五所・同郡若草町十日市場
地図名・位置・標高	小笠原（2万5千分の1）・北緯35度37分 東経138度29分・約282m
主な時代	弥生時代、古墳時代、平安時代、中近世
主な遺構	弥生時代-堅穴住居址、水田状遺構、溝・古墳時代-堅穴住居址、掘立柱建物址、溝・平安時代-堅穴住居址、掘立柱建物址、溝・中近世-土坑、溝、畝状遺構
主な遺物	弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、鉄器、石器
特殊遺構	古墳時代前期の土師器を多量に出土した溝（I区6号溝）
特殊遺物	手焙形土器
調査期間	平成2年（1990）11月19日～平成8年（1996）12月26日

村前東A遺跡概要

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第157集

1999年3月19日 印刷

1999年3月29日 発行

村前東A遺跡

編集	山梨県埋蔵文化財センター 山梨県東八代郡中道町下曾根923 TEL 055-266-3016
発行	山梨県教育委員会 建設省甲府工事事務所 日本道路公団東京建設局
印刷	㈱少国民社

